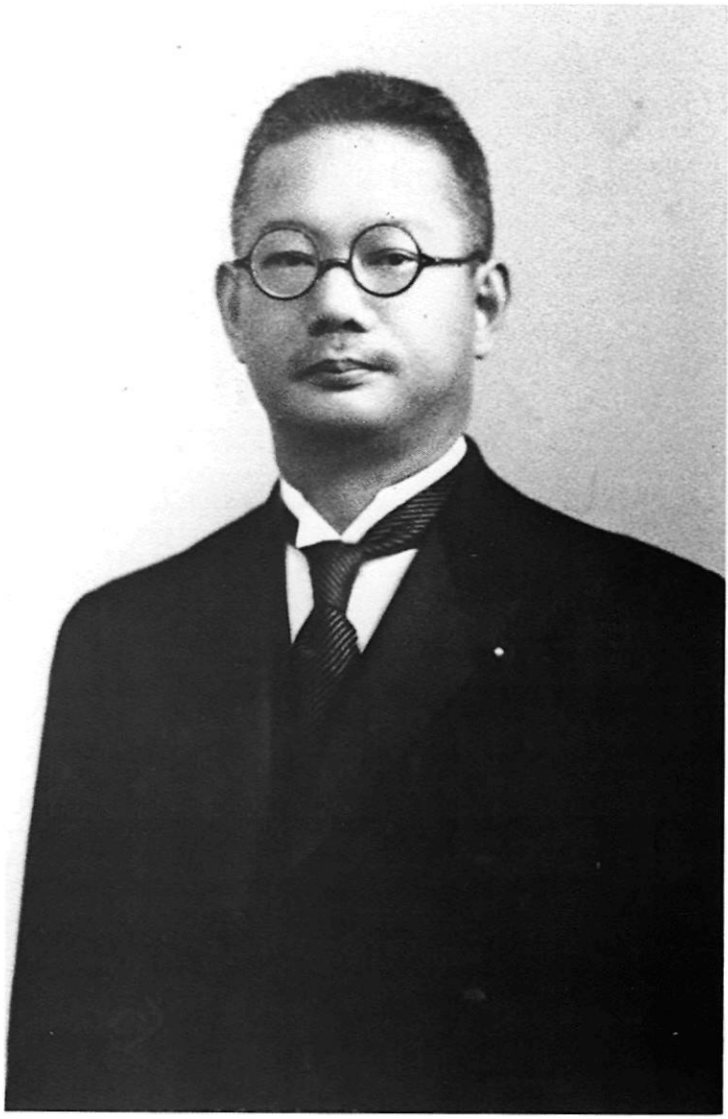
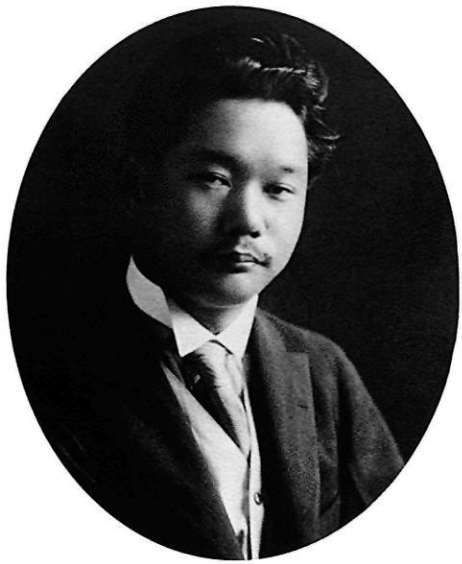
太田耕造全集

第一卷

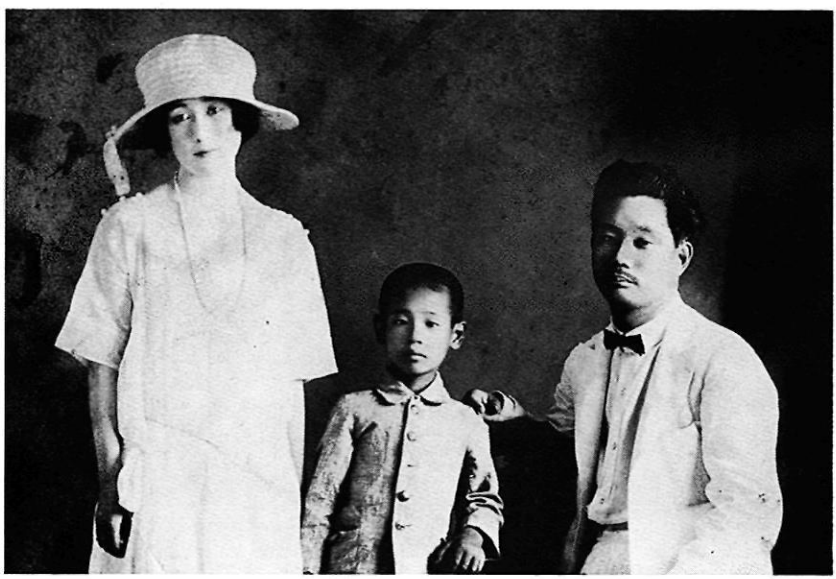
題字は元内閣総理大臣　岸　信介先生



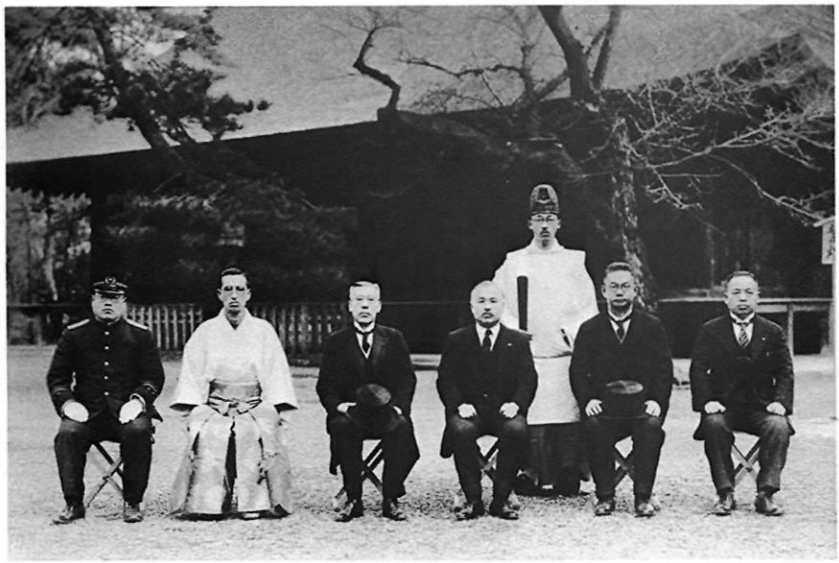
太田耕造先生



若き日の太田先生（大正11年頃）

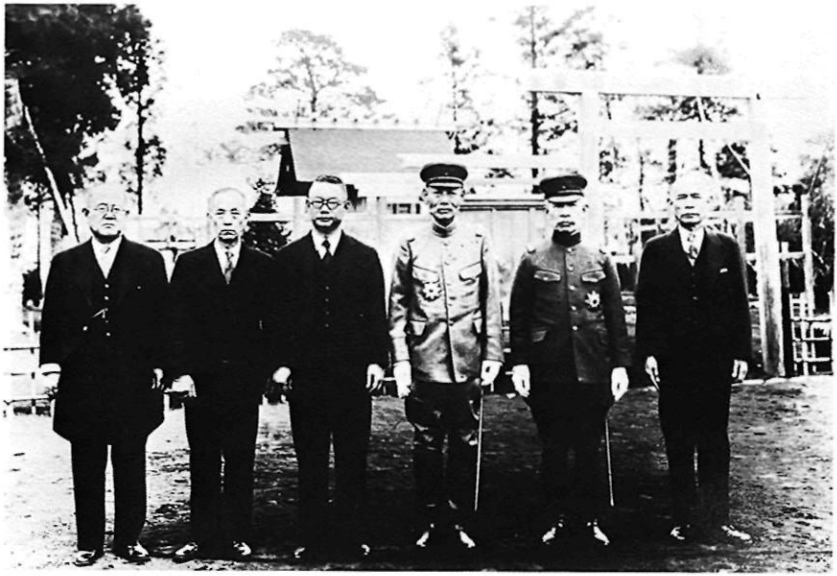


左より先妻つる夫人（昭和11年逝去），甥の太田周一さん，
太田耕造先生（昭和２年頃）



左から３人目平沼騏一郎先生・１人おいて太田先生

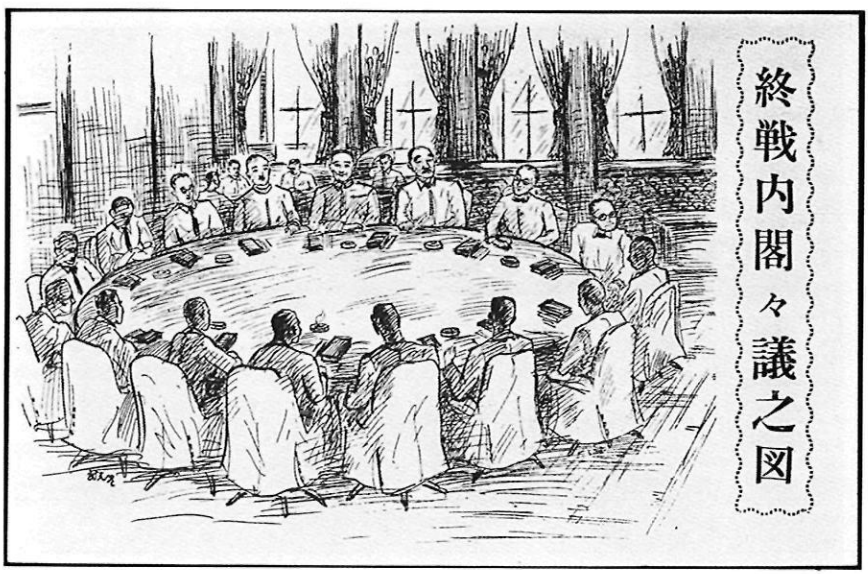
前列左から３人目平沼先生を囲んで・後列左端が太田先生



昭和18年、興亜専門学校の校内の興亜神社前にて
（左から穴水、匝瑳、太田、菊池、荒木、松尾の諸先生）

昭和20年、鈴木貫太郎内閣就任式後の記念撮影
前より二列目右端が太田先生

左から二人目が太田先生・右端荒木貞夫先生



前列中央太田先生を囲んで・左　藤原繁，右　中原稔，
後列左　杉山円太郎，右　平田四郎の諸先生

故郷二本松城趾を訪ねて・後列中央　太田先生，
左　二三子夫人

No. 8

ヲ辞ニ至ス

十二月三十一日(月) 快晴 氣大晦日トナルモ別ニ本年感ナシ
元旦ナリ、本年正月ハ五門町自宅ニテ戦時ヲ難凌ヲ
祝シ聖寿萬歳ヲ祈リ又大東亜ノ聖戦揚揚タル戦勝ヲ期シタリ
ルヲ祝タリ、晋七ノ拙オヲ関ニ又文相トナリ八月十四日迄戦
御苦労後ヲ出席翌十五日休戦陣中夢、紅月
蓋水ノ詩一句 微臣有発後何差トツ松ヲ盛ナリ
十二月三日我軍和兵人トシテ最モ悲シキ十二月十二日海軍
刑務所ヨリテヨリ十九日ノ迄タリ七ツ性癖ニシテ五ノ反
抱シ自己ノ土蓋再ビヲ計ル立ツミナリ、ヲベキ事ヲニシ。
十時半入浴 松任度改ヲトヨ簿也

昭和20年12月31日付の日記（巣鴨日記）

太田耕造全集刊行の辞

亜細亜学園　理事長　五島　昇

太田耕造先生がご逝去されてから、早くもここに一周年を迎えました。先生は「国家百年の大計は教育にあり」との信念のもとに、文部大臣を辞任された後も、亜細亜大学を創設して、自ら教育に当たられたことは周知のとおりであります。特に留学生教育については積極的で、昭和二十九年には、戦後の日本に先鞭をつけるかのようにして、中国人留学生九十六名を迎え入れ、爾来年々交換または派遣留学生制度の拡充を図り、その協定が、西ワシントン大学、香港中文大学、シンガポール大学等、六カ国六大学にまで及んだことは、独り教育面だけにとどまらず、文化交流、国際親善の面でも大いに邦家のために貢献されたわけで、今更ながら畏敬の念を禁じ得ません。

また、先生は戦後間もなく、戦犯容疑で巣鴨拘置所に入所されたが、その間の記録「巣鴨日記」（本全集第一巻に収録）に眼を通せば、敗戦という未曾有の事態に遭遇した直後の混乱した時であったとは云え、先生は常に国体護持と日本の行く末を案じておられたことが行間に溢れており、強く我々の胸を打つものがあります。

本学園としては、その創業の象徴を失いましたが、後任に早川崇新学長を迎え、学園関係者一致団結して、太田先生の確立された建学精神を体し、学園の発展に邁進しておりますのでご照覧いただきたく存じます。

太田先生がご逝去されて、ここに一周年を迎えるにあたり、顕彰事業の一環として『太田耕造全集』（第二巻）を刊行し、先生のご功績を顕彰し遺徳を偲ぶものであります。

昭和五十七年十一月二十六日

（昭和五十八年七月五日、会長に就任）

太田耕造全集序

亜細亜大学
日本経済短期大学　学長　早川崇

亜細亜大学初代学長太田耕造先生は、昭和五十六年十一月二十六日永眠せられた。享年九十一歳であられた。

私は、昭和五十七年四月一日に学長に就任したので、先生の謦咳に接する機会を持てなかったが、先生の高潔なる人格、愛国の至情、教育に対する深い見識については、夙に聞くところであった。縁あって、先生の偉業を引き継ぐことになったが、先生の事蹟の偉大なるに対し、身の引き締まるを覚えるとともに、深甚の敬意を抱くものである。

先生は戦前、平沼騏一郎内閣の書記官長となり、その後貴族院議員、戦中は、鈴木貫太郎内閣いわゆる終戦内閣の文部大臣となり、国事最も多難なる時代にあって重任を果されたが、戦後は、日本復興の基礎となる青年の教育に専念せられたのである。

大学設置当時は「亜細亜」という名称は世間に容れられず、名称の変更を進言した者もあったようだが、太田先生は断乎として信念を貫かれ、十年後には必ずこの名称の価値が再認識されると予言されたそうである。それから二十数年、日本がアジアの一員としての自覚を促されている今日の情況を見る時、正に先生の先見の明を思うのである。

先生が定められた建学精神「自助　協力」についても同様の感懐を覚える。今日ほど自助精神が求められ、真の協力が摸索されている時代はないと言っても過言ではない。

太田先生の文章に接する時、私どもは先生の烈々たる愛国精神、高い志操、広い見識、そして学生に対する慈父のような愛情を感得する。そしてその文章が必ずや現代の指針となることを信ずるのである。

これが『太田耕造全集』全三巻を刊行する所以である。

昭和五十七年十一月二十六日

（昭和五十七年十二月七日ご逝去）

太田耕造全集に寄せて

亜細亜学園　理事長　瀬島龍三

私は、昭和五十八年五月三十日付で図らずも、学校法人亜細亜学園の理事長に就任いたしました。文字どおり「図らずも」ではありましたが、思えば、それを慫慂された五島昇会長については言うまでもなく、亜細亜大学の前身校である興亜専門学校の草創期にご尽力せられた菊池武夫先生、岩田愛之助先生は、昔から存じあげ、尊敬申し上げてきた方々であり、とくに太田耕造先生とは、戦後、一時期ではありましたが、日本の復興のために、共に努力をいたしたこともあり、私が心から尊敬、私淑申し上げていた方であります。こうした方々が、心底日本の将来とアジアの興隆とを念願して育てあげてこられた亜細亜学園であったことを思えば、私のこのたびの理事長就任は深い因縁に包まれてのことであったとも思われます。

一日、私は亜細亜大学を訪ねたことがあります。そして、きれいに整理整頓されている美しいキャンパスと、その中で活気ある生活を送っている学生諸君の姿を垣間見て、ここに太田耕造先生のご教育が生きていることを実感として受けとめることができました。

とくに、先生が亜細亜学園の建学精神として定められた「自助　協力」の精神については、これはただに亜細亜学園の建学精神にとどまることなく、現下日本の、否、全世界が現在もっとも服膺しなければならない喫緊の精神であると思わせられ、先生の卓見に頭の下がる思いがいたしました。自らの力は尽くすことなく、

他に求めることばかり大である思想の横行している今日、この精神ほど顧みられなければならないものはないと確信いたします。この意味において、『太田耕造全集』の刊行はまことに意義深く、これが江湖の人に一人でも多く読まれることを切望する次第であります。

昭和五十八年十一月二十六日

太田耕造全集第一巻刊行に当たって

亜細亜大学
日本経済短期大学　学長　武部　啓

太田耕造先生の九十一年余のご生涯は、若くして祖国を愛し民族を憂うる至情を発露され、やがて国家の枢機に参与して時代の重任を果された政治家として、後年はその志操を次代に伝えるべく、青年を慈しみ学徒を導く教育家として、世の崇敬を集められた。

その高遠な志操達成の決意のほどは、昭和三十年亜細亜大学創設に当たって、次のように表明された。すなわち、建学の精神として「自助　協力」を提唱され、この精神に則って「日本および亜細亜の文化社会の研究と建設的実践に重点を置き、もって亜細亜融合に新機軸を打ち出す人材を育成する」という宣言である。

この教学の理念の実現のために、文字通り総てを注ぎ尽された。そのことは、長らくお住いであったお宅を土地もろとも、「亜細亜融合の実践に活用せよ」と遺言されて、大学に寄贈されたことからも知ることができる。

こうした先生のご精神とご事業を継承するよすがとして、ご生涯の間に書き残されたものを集めて永く後世に伝えることは、先生が挙げて後事を託された我が大学が果すべき当然の責務だと考えた。先生の身近にいたわれわれが、先生の高い志操と深い見識に満ちた文章に接して今更ながら受ける感動を、長い世代に亘って多くの人々に伝えたいと願ったからである。そのために、昭和五十七年に構成された「太田耕造先生

顕彰事業実行委員会」の中に、特に「太田耕造全集編集委員会」が設けられた。

かくして、先生の徳を慕い人格を仰ぐ委員方の誠意と労力によって、政治家として活躍された昭和二十九年までの第一巻、学長として亜細亜大学創設からご逝去までの第二巻、書簡・写真・追悼文・年譜等を載せた第三巻を、逐次刊行する手筈となった。

ここに、この全集発刊に当たって寄せられた各方面のご厚意に深く感謝の意を表するとともに、この全集が世に広く読まれ、日本とアジアの興隆に、また世界の平和と発展に寄与するところ大ならんことを、切に祈念するものである。

昭和五十八年十一月二十六日

太田耕造先生顕彰事業について

太田耕造先生顕彰事業実行委員会　委員長　夜久正雄

太田耕造先生ご逝去ののち、学園をあげての哀惜の情景慕の念が、時の経過とともに高まるにつれ、先生の徳を仰ぎ、その偉業を称えようとする思いも日増しに募ってきたのであります。かくして、昭和五十七年五月、現学長武部啓氏を委員長として全学園から二十名の教職員が選び出され、「太田耕造先生顕彰事業実行委員会」が構成されました。

その委員会は、先生のご遺族、ご友人及び学園理事会のご意向を伺い、また青々会を通して卒業生諸氏と、さらに学友会を通して在学生諸君とも充分に連絡をとりつつ、ありし日の太田先生を偲びながら、次の五つの顕彰事業を企画いたしました。すなわち

(一)太田耕造全集刊行
(二)太田文庫設置
(三)太田先生胸像建立
(四)太田奨学基金設定
(五)太田邸（遺贈）活用

であります。そしてその実行のためにそれぞれの小委員会を設けました。

これらのうち、ご逝去一周年を期して完成したいと鋭意準備を進めたのは、太田耕造全集編集委員会によ

る、全集全三巻のうちの一巻の発刊と、太田先生胸像建立委員会(小委員長鰺坂芳文総務部長)による胸像の建立でありました。幸にも、学園内外の懇篤なご援助を頂き、事業は予定通り進捗し、先生ご逝去一周年に当たる十一月二十六日には、ご霊前に全集の第一巻を先ず捧げることができました。つづいて、十二月十七日、太田耕造先生胸像の除幕式が挙行せられました。いまその胸像は学園の中心にあって日夜学園を照らすが如くであります。

そして、いままたここに、全集第一巻の刊行を見るに至ったのであります。

この機会に、この間各方面から寄せられました数々のご厚意を思いかえし、深くお礼を申し上げたいと存じます。さらに、太田先生と親交殊のほか篤かった元首相岸信介先生には、本全集の題字のご揮毫とともに胸像台座の「太田耕造先生」の揮毫をも頂きました。ここに記して、心から感謝の意を表するものであります。

なおまた、本文の冒頭に特筆すべきことでありますが、昨年の全集第二巻刊行に当たりまして、侍従長入江相政先生に差上げましたところ、かたじけなくも天皇陛下にお目にかけていただけた由の御返事を賜わり、御献上の本は往事をお思い出しになり大変およろこびでございました、とのおたよりをいただきました。第二巻の内容をなす太田先生の教育事業献身のもとが、終戦時の文部大臣としての誓いにあったと信ずるわれわれにとって、こんなうれしいことはなく、先生もあの世でさぞかし感激しておられることと思われて、ありがたい極みでありました。また、亜細亜大学教授五島茂博士にお願いして、皇太子殿下に献上していただきましたところ、侍従の方を通して、お礼のお言葉をいただくことができました。これもまたとりわけ有難いことの極みでありました。その他、学園内外の多くの方々から謝辞と激励とをいただきましたことに対して、重ねてお礼を申上げる次第でございます。

顕彰事業は今後とも相次いで実施され、しかもそのうちには、学園の在る限りは継続されるものもあります。太田先生のご精神を遵守し、そのご遺志を継承するために、学園内外の更なるご支援とご指導を、改めて切にお願い申上げます。

終りに、太田先生顕彰の意のあるところをお汲みとりいただきたく、先生の御生涯を要約した太田先生胸像の碑文を掲げさせていただきます。

昭和五十八年十一月二十六日

碑　文

太田耕造先生は、明治二十二年十二月十五日福島県福島町に太田貞郎・ツタの四男として生まれ、小学校卒業後、福島教会において受洗された。後、牧師を志して聖学院中学校に入学されたが、弁護士を志すに至り、同学院を中退して、正則英語学校、東京中学校、第四高等学校を経て、大正五年東京帝国大学法学部英法科に入学し、在学中、有志と興国同志会を結成し、愛国学生運動を展開された。

卒業後は、国本社の創立に参画し、国本誌等に論陣を張るとともに弁護士ならびに法政大学教授として活躍されたが、昭和十四年、平沼騏一郎氏が内閣総理大臣に就任するや書記官長となり国政に挺身され、内閣桂冠とともに貴族院議員となられた。昭和十六年、本学の前身である興亜専門学校の創設に参画し、理事に就任、昭和二十年、鈴木貫太郎内閣の文部大臣として終戦の処理に当られたが、戦後はA級戦犯容疑によって一年半の間、巣鴨拘置所にあった。

平和条約締結されて追放解除されるや、先生は、後半生を教育事業に献身することを決意して、日本経済短期大学学長・理事長に復帰され、香港より中国人留学生招致の先鞭をつけられるとともに、昭和三十年自助協力を建学精神として亜細亜大学を創立されたのである。爾来二十六年間、一意専心、亜細亜学園の教育と経営に尽瘁され、商学部のみの単科大学から、経営・経済・法三学部三研究科を擁する総合大学への発展を領導せられたのである。

先生は実に亜細亜学園の師父その人で、全学園敬慕の的であられ、且つその名声は内外に高く、昭和四十年には勲一等に叙せられ瑞宝章を受けられた。

昭和五十六年十一月二十六日、遺族ならびに学園関係者の祈りも空しく九十一歳をもって逝去された。その葬儀のこと畏くも上聞に達し銀杯一組を授けられた。先生は逝去されるに先立ち、邸宅を本学園に遺贈することを遺言しておられ、物心すべてを本学園に捧げ尽されたのである。

先生なくなられてより我らは追慕の情堪え難く、先生の偉業を顕彰し、先生の遺徳を日々偲ぶために、ここに銅像を建立し、その由来を記すものである。

昭和五十七年十一月二十六日

学校法人亜細亜学園　理事長　五島　昇
亜細亜大学
日本経済短期大学　学長　早川　崇

太田耕造先生顕彰事業実行委員会　撰文

全集編集の辞並びに第一巻はしがき

(一)

太田耕造先生は、昭和五十六年十一月二十六日に逝去せられた。明けて昭和五十七年五月二十四日、亜細亜大学内に、「太田耕造先生顕彰事業実行委員会」が構成されて、その事業の一環として、太田耕造全集の刊行が決定された。そして六月二日、そのための編集委員会が任命され、第一回目の編集委員会が開催された。その席上で、太田耕造全集編集に当たっての方針が決定された。このことについては、当時、編集委員長であられた夜久正雄教授が「太田耕造全集編集に当たりて」と題して詳細に発表されている。これは既刊の第二巻付録に掲載されているので、それをここに再録させていただき、全集編集の辞にいたしたい。

太田耕造全集編集に当たりて

太田耕造全集編集委員会　委員長　夜久正雄

太田耕造先生顕彰事業実行委員会で、太田先生の「文集」を作ることになって我々が編集委員に委嘱され、編集にかかってみると、先生の発表になられた文章が、莫大な量に上っていることがわかった。

亜細亜大学では、既に、先生御在世中に、先生の御著書ともいうべき『建学精神を語る』（附・「国民よ誇

りと自信を持て――終戦事情を究めて立ちあがれ」）（昭和四十二年初版）『回顧と前進』（昭和四十五年）『自助協力――亜細亜学園学生に与う――学長太田耕造先生講説』（昭和五十六年）の三冊の単行本を刊行していた。これらはいずれも大学関係の発表にかかる文章の集録によるものであるが、戦後ということになると亜細亜大学関係以外にも、「憲法の会」会長として、「明治の会」代表世話人として、「東京福島県人会」会長として、沢山の文章を発表しておられる。また『民主公論』その他に対する御寄稿も多く、御友人同志諸氏の著書に対する序文等、実に多くの御文章のあることがわかってきたのである。

さらに、戦犯容疑で巣鴨の拘置所に拘留されておられた一年八カ月の間には、先生自身が題しておられた「獄中日記」ノート四冊が御遺族のもとに残されていることがわかった。これは前記の「国民よ誇りと自信を持て――終戦事情を究めて立ちあがれ」と共に、現代史に関する重要な証言であって、亜細亜大学関係者のみの知見にとどむべきものではあるまいと思われる。大東亜戦争敗戦の殷鑑としてながく後世に伝えられるべき文献である。さらに、編集にたずさわる若い大学職員が太田先生の御遺邸の書庫から発見した『国本新聞』のバックナンバー（太田先生の編集で、『国本』の別冊のような形の機関誌――大正十三年八月～昭和九年十二月）は、恐らく天下の孤本ともいうべき貴重な文献であろう。これは現代政治思想史の研究に新たな光を投げかけるかも知れない。

右は、太田先生の文集を編纂するに当たって編集者の驚きの一つであった。

もう一つの驚きは、先生の遺された書類の中に、先生の入学式・卒業式の祝辞・訓辞、その他の御講説の、原稿の数々が遺されていたことであった。先生は、学生を前に話をされる時に、まとまった話をされる場合には、必ず原稿を書いておられたのである。しかもその原稿には、添削推敲のあとが歴々と遺っていて、い

かに先生が苦心されたかがわかるのである。

先生は、自らを語ることの極めて稀な、云わば、無口実行家肌の人物と見られているが、一面文章をこれだけ書かれたということは、文章家であり、思想家であったことを証するのである。先生はよく御自分の書いた文章を、古臭いから直してくれ、と言われたが、文章を書くことについての辛さを洩らされたことはなかった。しかも学生の需めに応じて、一つ一つ丁寧に、推敲に推敲を重ねて、書かれたのである。その辺にも偉大な教育者の姿を見ることができる。

かくして、太田先生の文章を網羅するには、とても一冊の書物では間に合わなくなってしまったのである。そこで「文集」を「全集」に改めて、三巻にまとめることとした。

第一巻は、大東亜戦争を中心にして、戦前、戦中、戦後の先生の文集とする。前記「獄中日記」を含む。国本社時代のものからはじめるので、大正十三年頃から昭和二十九年までとなる。

第二巻は、亜細亜大学創設の昭和三十年から、先生のなくなるまでとする。

第三巻は、写真集、書簡集、追悼文集、年譜等とし、なお第一巻第二巻の補遺を加えて一巻とする。

刊行の予定は次の通りである。

太田先生の御命日、昭和五十七年十一月二十六日に第二巻を刊行し、昭和五十八年十一月二十六日に第一巻を刊行し、昭和五十九年十一月二十六日までに第三巻を刊行する。

比較的短時日に出す「全集」であるから遺漏もあり、また編集委員が校務の余力で当たっているので、未熟のところも出てくることと思われるが、先生の御人格をあらわすような立派な全集を作る念願であるので、今後とも大方の御叱正御協力を切にお願いする次第である。

(二)

この編集方針どおり、第二巻は太田先生の一周年の命日である昭和五十七年十一月二十六日に刊行され、ご霊前に捧げることができた。そして今、これまた予定どおり第一巻を二周年の命日である昭和五十八年十一月二十六日に刊行し、ご霊前に捧げようとしている次第である。

その第一巻の「はしがき」をこれから書かなくてはならないのであるが、その前に、ここ一年有余の間の学園内における変遷について報告しておかなければならないと思う。それは本巻の目次を見ていただければお気づきのことと思われるが、太田学長がご逝去のあと、早川崇先生が、昭和五十七年四月一日に学長に就任された。そして、本全集の刊行に大変な熱意を示され、ここに掲載されているように全集刊行のための「序」をよせられたのであった。ところが、それからわずか九箇月足らず、その年の十二月七日、先生は急逝せられた。まったく思いもよらないことであり、全学、呆然たる状態であった。

明けて昭和五十八年二月一日、武部啓教授が学長に就任された。本全集関係に限って言えば、武部教授は「太田耕造先生顕彰事業実行委員会」の委員長であられたので、学長就任に伴い、委員長を辞任せられ、夜久正雄教授がこれに代られることになった。こうして本全集は、あらためて武部啓学長、夜久正雄顕彰事業実行委員会委員長の序文を載くことができた。

そしてまた、最初に刊行された第二巻に、すでに亜細亜学園理事長として序文を戴いた五島昇理事長が、学校法人亜細亜学園会長にご就任になられ、新たに理事長として、今年五月三十日付で、瀬島龍三先生が就任せられ、これまた本全集に寄せて序文を戴くことができた。

このようなわけで、第一巻の冒頭に、昨年第二巻刊行の際に戴くことができた、当時の五島昇理事長、早川崇学長の序文を初めとして、瀬島龍三新理事長、武部啓新学長、夜久正雄新顕彰事業実行委員会委員長の序文を掲載させてもらうことができたわけである。本全集にとっては、多彩な陣容による多くの序文を賜ったことを感謝するとともに厚く御礼申し上げる次第である。

なお、本全集の編集委員長は夜久正雄教授の後に小生が就任した。小生としては、すでに夜久委員長によって敷かれたレールの上を忠実に走る所存であり、あらためて大方諸賢のご協力をお願い申し上げる次第である。

(三)

さて、第一巻について申し上げなければならないことになったが、既刊の全集第二巻は、すでにご承知のとおり、昭和三十年の亜細亜大学創設から亡くなられるまでの先生の文章を収録したものである。当初、「全集」であるからには第一巻から刊行するのが当然であると考えたが、亜大創立以来の先生の文章が比較的によく整備されていたうえ、先生の一周年までに一冊は刊行したいという熱望があったので、まず第二巻を刊行することにしたわけである。したがって、第一巻は当然ながら、昭和二十九年以前ということになった。そして、できることなら、先生の青年期からの文章を年代順に編集したいと考えたのである。

太田先生の胸像の碑文にもある通り、先生は、はじめ牧師を志し、のち弁護士となり、さらに政治家として活躍するようになられたのであるから、私たちは、その間の精神的思想的な開展を是非知りたいと思った。先生の思想の骨格を知るには、言わばこの準備修養時代は、重要な意味をもつものと思われるからである。

しかし今日までのところ、その間の先生の文章は発見することができなかった。したがって、本巻は、先生が、社会的に活躍をはじめられた国本社の創設時期からということになったのである。

先生は、昭和二十年の文部大臣の時期に戦災に遭っておられるので、平沼内閣の書記官長の時代――例の日独伊軍事同盟の可否をめぐる大論争時代――の書類、ならびに、終戦前の政治に関する文書を焼失しておられる。亜細亜大学の学長として、あれだけの大量の文章を遺された先生であるから、右のような国家的重大時期に際しては、沢山の原稿類や覚書などを書かれたにちがいないと思われるが、いまは残っていない。

しかし、と言っては何だが、幸いに、先生の編集された『国本新聞』という国本社の機関新聞が、第一号から最終号まで一号も欠けずに残されていたのである。その『国本新聞』の中「言論」欄は、無署名であるが、恐らく先生の文章であろうと思われるので、これを収録することにした。これによって大正十年国本社創立から昭和十一年国本社解散までの先生の思想活動は如実にうかがうことができよう。

さらに大きな発見は、先生の、巣鴨の拘置所の中での日記――先生御自身「獄中日記」と称せられたものが、御遺族の手に遺されていたことである。御遺族のおゆるしを得てこれを収録することができたことは、先生の真精神を知るうえで、大きな収獲となった。

そこで、本巻の編次は、目次にあるごとく、

国本時代篇（大正十年――昭和十一年）
戦前戦中篇（昭和八年――昭和二十年）
巣鴨日記篇（昭和二十年――昭和二十二年）
戦後の論文篇（昭和二十二年――昭和二十九年）

とし、なお附録的なものとして、国本新聞の言論欄を年代順に並べて附け加えることとしたのである。

大正十年頃から、戦前、戦中、戦後に及ぶ先生の思想活動は、この一巻にこめられているといってよかろう。国本を守る思想の戦いの、硝煙弾雨の中に立ちつづけた先生の勇姿を、これらの文章から学ぶことができるのである。

なお、前述の通り、本巻の欠けた、日独伊同盟可否論争当時の事情ならびに大東亜戦争終戦事情については、第二巻の「国民よ誇りと自信を持て――終戦事情を究めて立ち上れ」ならびに「終戦内閣の思い出」「回顧と前進」（明治百年記念特別連続講演最終回講演）その他「鈴木貫太郎翁の偉大を憶う」「米内大将の政治的功績」に詳しい。本巻とあわせて読んでいただきたい。

なお本巻だけではなく、既刊の第二巻、そしてまた、これから編集をしなければならない第三巻の作成に当って、すでにご協力をいただきつつある方々、また、これからお世話になる方々には、深甚の謝意を申し上げたい。一々お名前をあげることはとても不可能なほど多くの方々のご協力を戴いたので、ここにお名前は記さないが衷心謝意をささげる次第である。

言いわけになるようであるが、編集委員は全員が学務の余暇をさいての仕事であり、しかも、短時日に、これだけ膨大なものをまとめることになったので、多くの間違いや遺漏があることと思われるが、精一杯の努力を傾注したことでもあるので、それに免じてご宥恕を賜り、今後ともご協力、ご叱正下さることを切にお願い申し上げる次第である。

昭和五十八年九月二十日

太田耕造全集編集委員会　委員長　梶村　昇

凡例

一、本書は太田耕造全集の第一巻とし、昭和二十九年までの間に、太田先生が諸雑誌に発表された論文等、および戦犯容疑者として巣鴨に拘留中の日記の全文を年代順に配列した。

一、巻末に『國本新聞』の「言論」（國本新聞の論説に相当する）を資料として掲載したが、これは無記名であって、当時の関係者が殆んど物故されておられる現在、執筆者を確認できない。しかし、『國本新聞』は太田先生が編集・発行の責任者であられたことから、委員会としては全文に目を通した上で、「言論」は太田先生自身が書き下されたものにほぼ間違いないと考えている。

一、集録文は、原文に忠実であることを原則としたが、読解の便宜をはかるため、次の方針で整理した。

(1) 戦前に発表されたものについては、原文通り正漢字・正仮名遣いとしたが、現在使用されている常用漢字のうち、正漢字とあまり画数、字体の変らない字については委員会で許容範囲を設けて、新字体を用いた。これは便宜的なものであり、必ずしも全文に亙って統一されてはいないが、できるだけ同一文章内では統一するように努めた。

(2) 巣鴨日記は、常用漢字・正仮名遣いとし、常用漢字にない字については正漢字を用いた。

(3) 戦後発表された文章は、原文に従って字体・仮名遣いを統一した。

(4) 句読点・改行・字下りなどの扱いは、文意を明確にするため、必要な場合に限って補訂した。

(5) 外国人名・地名等の表記もできるだけ原文に従い、例えば同一文中に一つの地名が、漢字・片仮名両

方の表記があっても、統一することなくそのまま生かした。

(6) 文中の引用文、およびこれに準ずると思われる部分は、その全文を二字下げて表示した。

(7) 原文の仮名遣い、送り仮名、用字、用語の中には、太田先生独特の用法などが混用されている場合があっても、同一文章内での統一にとどめ、原文の味を生かすことに意を用いた。

(8) 新聞・雑誌に掲載された文章で、明らかに校正の誤りと見られる語句、あるいは文意の通じない個所は補訂した。

目次

太田耕造全集刊行の辞……亜細亜学園　会長（前理事長）五島　昇……(9)
太田耕造全集序……亜細亜大学　日本経済短期大学前学長　早川　崇……(10)
太田耕造全集に寄せて……亜細亜学園　理事長　瀬島龍三……(12)
太田耕造全集第一巻刊行に当たって……亜細亜大学　日本経済短期大学　学長　武部　啓……(14)
太田耕造先生顕彰事業について……太田耕造先生顕彰事業実行委員会委員長　夜久正雄……(16)
全集編集の辞並びに第一巻はしがき……太田耕造全集編集委員会委員長　梶村　昇……(20)
凡例……(27)

斯くて此逆境に打克たんか……3
復興劇のシテとワキ……10
國民意識を旗印として……16
深刻なる人種葛藤劇……24
英米への開放戦……32
時潮の急流に棹して……40
獨占打破時代……46

無印象の印象……54
時難にこの剛俠兒を憶ふ……59
新々經濟政策實施後に於ける勞農露國の狀勢……76
國威南京に墜つ……126
「廣田外交」を打診す……147
經濟外交の指針……158
海軍會議の暴風警報……163
巢鴨日記……173
岩田愛之助氏を憶ふ……319
政治の二大分水嶺……321
日本再建の設計図表第一号……326
議会政治の三十八度線……337
予想の予想……348
暴風期に経済危機迫る……351
国家大患時に直言す……364

國本新聞……373
大正十四年……379
大正十五年……395
昭和二年……449
昭和三年……487
昭和四年……533
昭和五年……592
昭和六年……651
昭和七年……713
昭和八年……768
昭和九年……825
あとがき……881

斯くて此逆境に打克たんか

——「國本」第三卷第十號（大正十二年十一月一日）所載——

國難來竟に到る

曾つて上杉博士は華府會議を指して我國難來を絶叫し、國論を騒めて之が對策を明にせんとした。然かも當時我國論は對外問題に殆んど感興の惹かるるものなく、プロ・アングロサクソン政論家の跋扈とブル對プロの常習戲論に心醉して他念なきものを以て充たされてゐた。華府會議が果して國難來たりしや否は甚だ疑問なりしも我國論が華府會議に鋭敏ならず、爲めに我使節をして彌上に對外軟たらしめしは疑ふ方なき事實であつた。筆者は今茲に管々しく既往に遡つて國難來の當否を檢討するの意なし、然かも近年に至り我國論が次第に低下し來り對外問題は姑く措くも國内の重要問題にすら尚對岸の火災視するの風漸く露骨ならんとしつつあり、唯愚劣なる市井の雜事に俗耳を嬉ばしめ、殺伐なる勞資の鬪爭に徒らに衆目を欹たしむるのみ。斯くて渺たる一國際會議も狂瀾の涌起るかに見え國難來を説廻るに到りしも強ち無理のみとは云はれない。憶ふに國難來は他より強ひられて共鳴するものではない。眞に自覺の琴線に觸れて感得するものでなければならぬ。行路難山に非ず河に非ず人情反覆の中に在りとの言をして眞ならしめば所謂國難來の意義も亦人　裡の妙趣に於て決められねばならぬ。何となれば國歩艱難を打開すべきものは物資に非ず法律制度に非ず質實剛健なる國民精神を基調とするからである。

之を這般の大震災に觀る、何人か寔に國難來を否定し得る乎、各人は其頼みとせし一切を喪ひ、安住の處を追はれた。貨財頼むべからず、骨肉朋友竟に離散し行くを避くべからず、生活の不安は思想の動搖を激發せしめ、絶望と倦怠の暗翳は早くも國礎の明日を疑はしむるに至つた。云ふ勿れ之れ帝都、横濱の一局部のみと、百億以上の損害と數十萬の死傷者を出現せしめ、國政主腦官府の數箇所全滅に歸して一時國務の遂行を中絶せしめたるが如き、酷烈暴虐なる敗戰の瘡痍と雖も體驗し得ざる所であらう。若し華府會議が國難來なりしならんか、大震災に於て我國は正に盛衰消長の最尖端に迄歩み寄つたものに相違ない。斯くて國民精神の鮮かなる閃めきが現出しなかつたなら、我國家の健在は永劫に期待されぬであらう。

世界主義の倒壊

這般の大震災が我有史以來空前の大慘害事なりしのみならず我國運の起伏興亡を定むべき分岐點なること何人も疑ひ得ざる所であらう。而して災前と災後に國情に如何程の變化ありしかは識者の檢討した所に相違ない。勿論災後僅に二箇月にして之を能くするは殆んど不可能事ならんも現時の逆境日本を如何に打開すべき乎、新展開の方途如何は國民の均しく熟慮せし所、之が爲め災後國情の變化を究むべきの當然たるべきは何人も疑を容れざる所であらう。

憶ふに災前の我國情は思想的には意氣地なき世界主義の跋扈に甚だしく惱まされてゐた。而して或はプロレツト・カルト或はクラルテ運動といふ舶來思想の俄分限者がつい最近まで大口を叩いて歩き廻つてゐた。然かも所謂我思想家に果して我プロレタリアの文化が創造せられたか、世界人の光明が我が何人の力に依り我社會に示されたか。斯くて我國に流行せし世界主義が其思想的缺陷に搏力出ず、其運動者に人を得ずして竟に失敗に了つたのは寧ろ當然であつたらう。勿論我思想界には所謂新思想は多

數あつた。而して其多數の所謂新思想が殆んど軌を一にして反國家思想で固まり、國權否定、暴力讃美の如きに傾き、新思想の別名は反國家思想なるが如くに思はれたのは甚しき滑稽事であつた。而して萬國の勞働者よ、平和よ、人道よとの快調は巧みに奏でられた。然かもお人好き我新思想家連には白人プロレタリアに反つて頑迷固陋の排他思想濃り、其文化に(文化と稱し得べくば)虚飾不純の感情充つるに氣附かない。平和人道の名は大國が小國を懷柔する奥の手たるの事實を竟に看破出來なかつた。茲に於て我國に流行した所謂新思想は之を束にして世界主義と稱せらるるも愚痴の云はるべき筈がなかつた。然かも此世界主義はウエルスの識見を取り毀ね、ロマン・ロランの勇氣を學び毀ねたものであつた。而して其揚句の果ては這般の大震災に際して慘澹たる思想破産を敢てするに至つた。ジヤン・クリフトフに於て神は云ふ、

神を指して行け。汝死す可きものよ。苦みに行け、汝苦む可きものよ。人は幸福であるために生きてゐるのではない。私の法則を遂行するために生きてゐるのだ。苦め、死ね、しかし在る可きものにならなくてはならぬ——一人の男にならなくてはならぬ

これこそ眞勇主義の本領であらう。然かも我新思想家連は大震災に當つての大混亂中に在りて唯自己幸福の爲めに生きた、——日頃皮肉と嘲笑と罵聲を浴せ掛けてゐた國家の保護を人一倍に受け乍ら——斯くて彼等の醜き形骸は今や明るみの巷に晒け出さるるに至つた。

新展開のパイロツト

更らに後世に傳ふべき噴飯事は所謂我新進學者連に依つて中外に示された。卽ち一は甘粕大尉減刑運動に就き、二は自警團檢擧事件に就ての高見これ。傳ふる所に依れば過日雜誌界の自稱覇者〇〇社は當代に時めく學者、評論家、役人等の所謂新思想家連

を驟めて〇〇〇〇會を作り災後の人氣盛返し策を立てた。然かも來會者孰れも歴々の大家と思ひきや、話柄の低調、識見の盲昧眞に驚くの外なかつた。卽ち出版法第十六條、新聞紙法第二十一條、治安警察法第九條等を楯に取り甘粕大尉減刑運動を峻嚴に取締るべく當局に迫らんとの建議案を持出したもので、彼等日頃の主張たる新聞紙法改正、治警撤廢は殆んど忘れ去り却って同法の有難味を天下に告白した。憶ふに彼等も恐らく惡法も亦法なりとの主張を固守するの勇氣なかるべく惡法は時代の如何を問はず糺彈すべきものなりと主張すべきこそ彼等の面目ではなかつたか。然かも彼等が自ら以て惡法と斷ずるものに降伏し恬として恥ぢず、更に其威力の發動せん事に意氣込むに至つては矛盾撞着呆れ返らざるを得ない。云ふ迄もなく甘粕大尉の處置如何は懸つて國法審判の前に在り、其私心を棄て大事決行の責に任ずるの意氣に感激して減刑の請願を當路に致すは知己の衷情寸毫の違法ある事なし。會々減刑運動者に甘粕大尉を賞恤又は救護するの事項を公言するものありたりとて、これ千慮の一失に過ぎず、所謂新思想家の常套語たる國法の精神解釋、法律の社會化を以てすれば苦もなく決せらるる一事例に過ぎぬであらう。然かも彼等が時に現代法律の不備を鳴らして之が改廢擴張に氣盡の論議を敢てし、時に現代法律に極端なる條文解釋を迫つて平然たること斯の如し、其態度昨非今是、法律を弄び只管時流を追ふ賣文者の賤業と異らない。斯くて我國隨一の公法學者、民法學者、經濟學者而して評論家の僞りなき現實暴露は臆面もなく一堂に展開された。我學界に獨自精神の意氣に燃ゆる學徒なく、論壇に權威なき今更の如く痛感せざるを得ない。更らに自警團檢擧事件に至りても我所謂新思想家の輕擧盲動は斷じて看過するを得ない。自警團の利害得失は今論ずべき限りでないが、當時帝都始め近縣の人心不安は極度に達し、流言蜚語旺に流行して各人自ら生命財産の警備に任ずべきは自然の成行であつた。然かも世態殆

んど平常に復せる今日に及び、諸種罪業事件の摘發せらるるあり、而して其檢擧せらるるもの悉く所謂自警團員たるに至りては甚だ意外の感なきを得ない。自警團員の暴行殺人事件は確かに否定し得ざりし所であらう。然かも我新思想家連が之に對し直ちに刑法第百九十四條乃至百九十九條を擬し所謂法治國民の特權を振り翳して憚らざるが如きは眞に短見淺慮嗤ふに堪へたり、宜しく政府者の謬想と對策に反省を促すと共に我國民の異變事に處するの覺悟に就き到らざりし責任を頒つこそ採るべき道であつたらう。夫子自ら冷忍酷烈にして陽に國權を輕んじ陰に其强行を他に迫つて止まず、義務は之を回避し權利のみ强要せんとするに似たり、其見識に人情の含蓄なく、其論理に齟齬扞格あること決して怪むに足らぬ。斯くて震災に生じた甘粕事件自警團事件に現はれた所謂新思想家の國家及國法觀は根底より其謬見が打破せられ我思想界の潮流は依然として純眞の國家觀に生くべきことが明にせられ力强く中外に垂示せらるるに至つた。災後の逆境日本を新たに展開し行く水先案内者は唯此根本思想のみであらねばならぬ。

火保問題に難關在り

若し刻下の急務たる政策問題に移らんか、茲にも國家對國民の緊切なる接觸點に逢着せざるを得ない。例せば火災保險補償問題の如き銀行預金問題の如き物價調節問題の如き幾多の國家社會政策は國民の直前に展開されて來た。然かも之が一步を誤れば或は官僚國家となり、或は暴民國家となり竟に衰亡を免れ得ぬこと必定であらう。而して從來の我經濟及財政政策は所謂資本主義に煩はされて特權階級保護に厚く、國民主義の實狀の甚だ稀薄なりしは否定することが出來なかつた。實業家と稱せらるるもの多くは政商に非ざれば奸商、虛業に沒頭して鉅富を獲得して恥ぢず、國權も亦彼等の上に彌上に利便を與へし事實も尠くなかつた。斯くて健實なる國運の

進展如何にして策するを得ん。見よ國民の生活悲慘を極め、國政の打開停頓し山雨到らんとして風樓に滿つるの凄氣に閉されしは災前の我國情でなかつたか。而して震災後二日にして山本内閣成り稍人材を驟めて私かに期する所あるものの如くであつたが果して國民の期待裡に逆境日本の新展開を策し得るや否は尚ほ幾分の疑問とせられた。卽ち其當面の問題たる火災保險補償問題に於ても當路者に如何程の成算と決心ありやは疑はざるを得ない。火保問題は法律、德義問題を別にして會社側の實力問題に難關あり、國民は今や保險料を支拂ふも損害補償の方法なきの奇觀に遭遇して多大の混迷に陷つた。然かも政府は火保問題と復興問題との連關を具さに考較せざるべからず、徒らに補償問題に厚くして産業復興策に薄かるべきの矛盾を避くべきは勿論、廣く國民的立場を顧慮して保險政策の確立に努むべきであらう。之が爲め保險業の大合同を策して組織を半官半民と爲し、然る後官民相譲つて保險契約高の支拂率を協定するも一策であらう。

財政策に誤りなきか

銀行預金問題に至りても略其對策に異る所なからう。所謂銀行者の救濟に專念なるの非は三歳の童子も識るに難からず。此國家非常の秋に當りて政策の偏頗は嚴乎として排斥し去らねばならぬが政府に果して其決心があつたらうか。一ケ月に渉りたるモラトリウムの結果は如何、銀行業者の日本銀行に泣き附く機會を與へしに過ぎざるのみ。更らに政府の一億圓保證聲明の如き、日本銀行の最善援助約束の如き孰れも國家對國民の呼吸が直接交通するに於て遺憾事が決して少くなかつた。殊に大震災前後に於ける日本銀行の活動に果して國民經濟の核心を見られたか、日本銀行改造論の起る所以も決して不當でなかつた。斯くて政府自ら國民の爲めに銀行業者を戒め國民の預金保護に萬策を傾けて努力するの外なく、然らば一面に於て經濟界を安定せしめ以て國民

をして愈々勤儉力行せしむべく他面に於て當業者の刷新を見る事は疑なき事實とならう。

物價調節問題に至りても復興資金の大洪水を前にして兌換券の大膨脹を來さざるやは識者の最も深憂せし所、更に外債説の頻りに朝野に唱導せらるるに及むで國民生活苦難の叫びは次第に昂潮せられて來た。通貨激增は驅て物價暴騰を促し轉じて入超となり、借金國となりて國民に獨立不退轉の意氣消磨し、竟に不逞思想の横行するに至るなきやは誰か斷言し得よう。

斯くて逆境に打克たんか

茲に於て大震災後の政費に一大緊縮を斷行し以て通貨の縮小を圖るべきは焦眉の急務となつて來た。然かも之が爲めには國民の思想及び生活の一大轉機を試み勤儉尚武擧國一致して此逆境に打克つの用意がなければならぬ。斯くて現内閣の行はんとする普選卽時斷行は意義誠に深く必ずや活潑なる國民政治の現出せらるるも近日であらう。唯義務教育延長問題を甚だ等閑に附せらるるあり、普選卽行せられて國民の選擧權行使に果して遺憾なきや否に多大の疑問を殘せしは痛恨に堪へなかつた。而して綱紀肅正問題に至りては我國情の最も要望して已み難き所歷代内閣の到底功を收め得ざる難事中の難事であつた。若し現閣僚中に眞に邦家の前途を思念して蹶ちたるものあらんか、先づ此一事に死力を傾けんことこそ將に然るべき所であらう。

「憂き事の尚此上に積れかし、限りある身の力試めさん」とは曾つて神州男兒の痛切なる述懷であつた。近く内外の多難重疊し來りたる新興日本に更に天來の鐵槌の投下せらるるあり、今や眞に逆境日本の國民的大展開を策せざるべからざるの秋は來た。限りある身も之を捧げて限りなき國運に嚮ふ時、千百の逆緣試練も何かせん、切に同憂の識士に愬ふ。

復興劇のシテとワキ

――「國本」第四巻第一號（大正十三年一月一日）所載――

一

這般の大震災は實に我有史以來の大慘害であつた。而して寔にこれ我國難來を絶叫して國民の總覺醒と總動員を促し以て善後策に渾身の力を注ぐに足る大變事であつた。かくて國民は悲業の最後を逐げし幾萬の同胞に對し如何なる感慨を抱きしか。産業及び經濟界は大變調を來し、交通及び輸送機關は能力の大減殺に會ひ、國防及び教育の充實に於て輕からざる缺陷が暴露せらるるに至りしも事實であつた。然かも人若し北海道、臺灣に在り、直接の體驗なきに藉口して帝都の大災厄を以て對岸の火災事視せんか、恐らくは國家百年の後に於て噬臍（ぜいせい）の感なきを得ないであらう。一國首腦部の擾亂は一國全般の死命を掣肘し得べきは近く歐露の革命に於て幾分理解せられたが、我帝都を襲へる大難も別種の意義に於て國民萬人の心を緊き締めたのは疑ふことなき事實であつた。國難は必ずしも對外的に來らない革命來に現はれない。國民の不用意と無氣力とに乘じて國力の漸進的衰弱到り一遽にして自然力の大破壞に當面せしめらるるが如き國難の最も皮肉なるものであらう。國民は鬪ふに敵國なく、爭ふに標的なくして次第に力盡き、精萎えて自ら斃るるのみ。ソドムとゴモラの市民は斯くして麻布を身に纏ひ、灰を頭上に被りて地上より其姿を消し去つた。而して其國家と國民とは竟に其跡を逐ふて死滅の幽谷に陷没し

去つた。筆者は今管々と不吉の言辭を羅列して讀者の不快を招き、我國運の前途に對し一抹の暗翳さへ暗示せしむるの意は寸毫も持たぬ。去り乍ら我國民が帝都復興卽帝國復興の大前提を率直に感得し、剛健質實の精神力を喚起して確的なる歩みを進むるの決意なくんば、國情の現況を如何にして展開するを得ん。而して之が爲め當路者と國民とは死力を傾けて國力の快興に萬策遺憾なきを期せねばならぬ。

二

復興か復舊かとは過般復興審議會に於て爭はれた第一の重大問題であつた。而して論者の言を聞けば復興とは國家百年の大計を立つべきもの、復舊とは先づ災前に復すべきもの、その復興を斥け復舊を力說するは唯財政の按排を顧慮して漸進的施設を試むるにあるものの如し。筆者は今復興と復舊との字義に如何程の差あり、計畫の進展に如何程の差異を來すべきやを問題としない。然かも復興と云ひ復舊といふも之を主張するもの多くは日頃國民生活に甚だ無關心を極むる老人連たり。大鹽中齋にあらざるも民に菜色あるを知らずして飽食暖衣し只管一身の安榮利達に急なるもの災後同胞の如何に不安と悲歎に暮るるやに深憂せしもの、恐らくは曉天の星の如くであつたらう。これ酷評に非ず、所謂大官と政黨の首領連にして果して如何程の奉公を致して危急の難に趣いたか。

政治は斷じて物好きで爲さるべきでない、遊戲で達し得らるべきでない。況んや私利私情を挾むで行はるべきでない。然かも大震災善後策に善處して高等政策を決すべき朝野の政客連にして眞に先憂後樂の境地に立ち此國難に直面せしものありしを聞かない。否彼等に之を期待するが如きは恐らくは始めより甚だ無理であつたらう。彼等の政柄を握らんとするは自己の功名心を滿足せしむる爲めか、自己の私慾を圖らんが爲めであり、斷じて國家心の發露に發足しては居らぬ。その突如として帝國首都を襲へる

國民的一大試鍊に際會しては殆んど爲す所なくして混迷狼狽し、時の經過と共に次第に醜狀百出の百鬼畫行を展開し來りたるは之を語る何よりの事實であらねばならぬ。斯くて彼等に復興か、復舊かの論議を聞くも國民は格別感興の湧くを覺えない。國歩艱難の秋、百の制度濫設、千の雄辯宏辭より一人の至誠漢が捨身の活躍こそ寔に空谷の跫音であらねばならぬ。

三

災後二日にして山本内閣は出現した。然かも加藤内閣の末路は我歴代内閣中最も悲慘を極めたりしもの、顧みれば組閣以來殆んど獨り歩きの叶はざりし畸形兒であつた。内閣に首班たりし加藤大將は華府會議に於て比較的好評を博し、對英米感情に甚だ善く、對政友會折衝に甚だ好く、元老と閥族間に於ても格別の不信は買はなかつた。これ加藤大將の力量手腕の然らしめたるにあらず、德望見識の然らしめたるにもあらずして、全く彼の政策が消極的にして糊塗偸安に出でたる賜物であつた。而して當時政局の極めて微妙に動き、政黨官僚兩乍ら政海の逆風を負うて進退に自由を缺き、彼の元帥病に罹れると相表裏して死の靜かさは政界の表面に漾ふてゐた。斯くて加藤内閣は他力本願で納まり、念佛講中の如く低頭百萬遍にして辛くも波瀾の卷き起るのを喰ひ止めて居た。然かも首相の病床に臥するの日漸く繁く、竟に其起ち能はざるに至るや、早くも不謹愼なる後繼内閣の密謀は當時の某閣僚と友黨の某總務一派等の間に進められた。而して首相やがて逝き、醜惡なる後繼内閣の陰謀も亦紆餘曲折を經て竟に敗れ、無慘なる内閣の殘骸は竟に白日の下に晒さるるに至つた。茲に於て政界の有象無象は狂奔跳梁し到らざるなく、その何人も行詰りたる政局打開に希望なしと見ゆるや、水交社に陣取れる、薩派の巨星山本伯獨り大勢を制し了つた。かくて九月一日の大災危襲來あり、前内閣の斷末魔に於ける大狼狽、大失敗直後

に於て竟に山本内閣の出現を見るに至つた。而して所謂擧國一致内閣を素通りして人材内閣の看板を列べて陣容を整へた。

四

首相山本伯は十年前の返り咲きにして、シーメンス事件に失脚以後、殆んど浮世離れの侘び住であつた。シーメンス事件の回顧を試みんと欲せば薩長勢力の消長を語り、山縣對山本の心事を解剖し、政黨者流の不見識を指摘しなければならぬが今は其餘裕なし。唯山本伯が薩摩人にして金錢慾に甚だ難色あり特に武人にして財を愛し世評の不人氣を招くこと尠からざるに彼の出處進退が大なる損失あるを否定し得ない。然かも彼の思慮甚だ細密事を斷ずるや實に千百工夫の末に於てし、寸毫の遺漏なきを期して居る。唯彼が獨斷專行して憚るなく、意地強きの餘り衆智を集むるに於て遺憾多きは頗る惜まるる所であらう。現に近く彼が組閣前後に於て眞に彼の爲めに献策奔走したるもの某宮内大官を始めとし三四郷黨の實業家連に過ぎず、他は近親と雖も打明け話を爲すが如き到底爲し得る所でなかつた。かくて彼の智見は甚だ偏狹に墮し、自己に透徹して案外の失敗を招くことなきやは彼を圍繞するものの絶えざる不安である。傳ふる所に依れば彼薩派擡頭策に乘じて松公百年後を顧慮し元老たらんとする意あり、近時其行藏に殊更圓滿無碍振りを示し地震内閣の期待に背くこと多き所以も茲にありと。之を前にしてはシーメンス事件に蹉跌したる歴史あり、更らに今震災善後策に於て峻烈に糾彈せらるることあらんか。彼恐らくは自ら編みし平仄を自ら絶ち世の物嗤と自己破滅に了らんかを恐るるの意に充つるものがあらう。殊に彼が内閣政綱を決するに當り所謂五大臣會議を起して防波堤を築きしが如き、法制審議會を巧みに利用して外、國論を察し、内、富豪吏僚の頑固連を懐柔して普選對案を切り抜けんとするが如き志望の決して單純ならざるを語つて遺憾がない。殊に

復興善後策に到りては殆んど主務省大臣に委して敢て容喙せざるものの如く裝ひ、所謂一蓮托生に捉はれざるの餘地を存するの用意は鮮かに看視せられた。斯くて復興劇の立役山本首相の肚裡を察知しては活潑なる意氣を吐いて死中に活路を拓くの飛躍を敢てし得るやは甚だ疑問とせざるを得ない。

五

後藤子は前半生に於て可なり數奇の運命に弄ばれたるに拘はらず、常に洒々落々として屈托せず豪勢なる處世振りを示して四邊を賑やかならしむる所は確かに出色の政治家たるに恥ぢぬ。彼は相馬事件に衝生局長の椅子を棒に振り、臺灣民政長官に甦るや、茲に牢乎なる足溜りを作り、鉅富の財を積みて蹶足を中央政界に展ばし兒玉に善く、桂に好く、寺内に能く其傘下に在りて或は滿鐵總裁、或は遞相、内相、外相と八面玲瓏の多才多能振りを發揮した。然かも彼は粗策空虚にして實行力なく彼一人を抽象して論せば恐らく時代錯誤の妄想家に過ぎぬであらう。加ふるに甚だ移り氣にして昨是、今非、所謂變説革論の如き彼に於ては尋常茶飯事に過ぎぬ。但彼に甚だ多とすべきは所謂調査好なるにあり、宣傳上手なるにあり、以て彼の缺點は巧に覆ひ穩されて失敗なきを得、ビアード博士が米誌『評論の評論』に寄せし所に依れば彼は歐米に於ても得難きステーツマンと見らるるに至つた。憶ふに過去に於ける彼の政治的生涯は前記親分連の引立に依りて飾られしもの、その進退兩乍ら調節せられ、官僚畑の正規的道程を辿らざるを得ざりしも已み難き運命であつた。然るに今や彼の守本尊たる長閥の長老悉く他界し、久しくして解放せられ政局の重職に立ちたるも、閣僚閣外の雰圍氣は昔日の比にあらず、其華やかに切り廻す程愈々危險性の甚だ多きを感得せざるを得ない。殊に彼が山本内閣の傘下に在りて意卽か驕り頻りに他省主管の領域をも侵さんとするが如き、彼の將來の爲め甚だ採らざる所たり、先づ其器に座して然る後其

力を用ふるにあらざれば成敗興亡の逆睹し難きは三尺の童子と雖も指摘するを憚らない。殊に近時彼が所謂新思想團體たる某々と私かに相策應して次代の飛躍に備へんと目論見むの風説頻りに傳はるが如き、過ぎたるは尚及ばざるが如く彼の前途を誤らざれば幸であらう。

六

復興問題に於て後藤子と並び稱せらるるものに伊東伯あり。殆んど政界の實力を掌握せずして尚政界に一勢力を張り劔ケ峰の荒神にも似たる暴威を振ふこと珍らしからざるも見逃し難い事實であらう。彼は人格の偉力なく、學識の權威なく公正の武力がない、然かも專念に他人の言動を注意し沿革傳統の故事に通暁して之を巨細に究め峻敏穎達の能才に任せて論詰緩めざるの鋭鋒に至りては樞密院隨一の代物たるを失はない。曾つて彼の獨壇場が前内閣時代に於て日支郵便協定問題に現はれしは讀者の記憶に新たなる所、所謂二枚舌を捉へて内閣の死命を制せんとし心膽を寒からしめしも、當時の話柄に傳へられた所であつた。而して近く彼は復興審議會に於て後藤子に楯突き復興計畫の根本策に大斧鉞を加へて竟に政府を屈伏せしむるに至りしも世間周知の事實であらう。然かも説を爲すものは彼が何故か復興の聖勅を頻りに説き、特に火保問題に言及して政府に迫ること甚だ急なるあり、復興豫算の財政及産業策に副はざるの過大を責め、私權侵害の不當を鳴らすこと甚だ努めたるを怪む。而して彼が單騎敵壘に肉迫するの意氣に對し殆んど共鳴者なきものの如し。筆者はその何故に彼の論議が直ちに八面攻撃の矢面に晒されしかの巷説に就いて敢て穿鑿を試むの意志はない。また彼對後藤子の戰略に就いて揣摩する遑(いとま)もない。然かも彼また、金錢に淡白ならず、進退兎もすれば迷暗に傾き、政論の甚だ小乘的なるは世評の揚らざる主因であらう。曾つては彼一内閣書記官長として對外折衝に得意の健腕を揮つて國威を揚げ、對内

交渉に閣僚を怖れしめた黄金時代もあつたが今はそれも槿花一朝の夢と化し去つた。

七

復興問題を圍繞せる政客連にして尚一瞥せんとして得ざるものに田農相、田中陸相、及び在野領袖の三四あり、少くも此國時に逢着して夫れ夫れに問題を醸して政界の表裏に大小の波紋を描いた。然かも政界の現況は依然として情僞に充ち譎欺に滿ち、官權と請托と黄金力との放射線の鋭く交叉するを見るのみ。所謂大小の政客連にして自ら覺る所あり、眞に國家の公僕となり、民人相擁して國政の善美を讃嘆する時を實現するのは何時の日か。今は一切の情實を打破し、一切の改善を斷行して驀直に國力充實の一路に進まねばならぬ。而して復興か、復舊かを問はんより興國精神に燃え立つ青年の意氣と健腕に俟つの如何に自然であるかは此秋特に腦裡深く銘記せねばならぬ。

國民意識を旗印として

——「國本」第四卷第三號（大正十三年三月一日）所載——

一

政界の革新と選擧の公平とを表看板として出現した淸浦内閣は未だ其施政方針を發表するに至らずして一月三十一日衆議院を解散した。而して其組閣事情に於て甚だ天下の物議を醸し、所謂特權階級の專横を糾彈するの聲熾烈を極め來りしとは云へ、政爭は一轉して忌むべき騒擾を激成せざれば已まざるの

風潮を示し來りしは我憲政史に於て空前の不祥事と云はねばならぬ。政治は素より國民政治を外にして有るべからず、特權階級者の政權掌握不可になれば、黨人者流の内閣乘取も亦不可なり、純理論に立ちて政局を批判すれば何人が政權を獨占するも之を非とすべく、また何人と雖も政局の大任を受くるに差支はない。故に單に政治の形式に捉はれ所謂憲政常道論を振翳して現下の政局を眺めんか。或は擁憲運動も認め得べく、階級鬪爭觀も多少の意義が生ずるであらう。さり乍ら政局に立つもの悉く特權階級ならざるものなく、勞農露と雖も名を勞働者獨裁に借りて生活、思想の特權階級者等の獨斷專行の政治を行ふに過ぎぬ。已に政局に面するものある以上、國民悉く其の意思を其儘に政治に實現することは有り得べからず、少數者固有の色彩を以て政機の運行を試みんとするは勿論避け難く、所謂特權階級の出現は自然の情勢であらねばならぬ。九百の華族勝つか六千萬の國民克つかと叫びて現内閣倒壞を圖らんとするが如きは政治形式の末節に走るの僻論に過ぎず、更に現内閣が政黨に因緣なきの故を以て憲政常道に背くものと斷ずるが如きは殆んど政治の本旨を識らず恐らくは牢乎として拔くべからざる歐米の先入思想に禍せられた結果であらう。斯くして現下の護憲運動、階級鬪爭激成は論理透徹せず、政略としても亦國情を無視せるの拙策たるを否定し得ない。鹿を逐ふの獵師山を見ず、政爭渦中の大小政客連が政柄を射落さんとするの念甚だ急にして社會擾亂の危機を招きつつあるの愚は今や遺憾なく國民の前に暴露せらるるに至つた。

二

憶ふに清浦内閣の出現は御慶事を迎へ奉り、總選擧を終了せしむる爲めにのみ許さるべき暫定内閣なりとは可なり擴められた宣傳であつた。然かも清浦子が樞府議長の要職を拋ち、七十五の頽齡を顧みずして混濁擾亂の政界に躍り込みし所以のもの、僅々數

ケ月の暫定内閣に首班たらんが爲めなりとは心ある國民の信ぜんとして信じ能はざる所であつた。而して清浦子は世に云ふ所謂後入齋の好々爺にして政界操縦の辛辣味なく、經綸を行ふの才能に乏しきは已に定評あり、子に庶政一新の大願成就を期待し得ざるは國民の萬々知り得た所であつた。さり乍ら子の出現に依る國民は少くも政界の消極的革正は之を冀望した。卽ち貴族院の研究會、衆議院の政友會の專恣横暴は嚴に之を制扼せしむべく、かくて公平なる政治振りを天下に示さんことは國民唯一の所望せし所であつた。組閣の當初子が有松氏を抜きて之に新内閣運命の全權を托せんと欲せしが如き、大に天下の共鳴を得、子も亦心私かに國民の此の期待に副はんことに努むる所であつた、然も子の決心甚だ確かならず、國民の期待は全く裏切られて政治の不平は先ず研究會領袖の二三子との握手に依り展開せらるるに至つた。研究會は貴族院を我物顔に振舞ふボス團體に過ぎず。茲に貴族的氣品なく、國士的節度なく、所謂素町人の如く大勢順應主義を以て充ち、名を求め利を逐ふの徒が相結びたるもの、子が之に降伏し了りし一事に於て竟に醜き政界の不死身と墮し去つた。斯くて組閣後子の進退は全く言ふに忍びず前途愈々窮し來り、唯一の活路たる國民的支持は斷絶せられ、研究會を通じて政友會と結ばんとして失敗し、政友會分裂後は護憲三派の要擊に逢ひ遽々然として議會解散に出で一時を糊塗するに至つた。

三

前述せし如く清浦子出現の使命は公平の政治を布き、以て從來の吏僚政治の弊風を矯め、政黨政治の害毒を斷つに有り、之が爲め分相應の力を致し、努めて國民との接觸を固むるの必要があつた。所謂超然内閣出現の急務は實に今日に於て痛感せられしもの、子が思切つて門戸開放を斷行し、眞に國民政治の實績を擧げんことに心掛けしならば已に何程かの政局打開は策し得られたであらう。然かも事茲に出

でず、超然内閣にして超然内閣の使命に背きたるの結果は低調にして愚劣なる一部貴族と黨人の進言に誤られて竟に折角の解散に大義名分を高唱し得ざるに至り、絶好の機會を空しく逸し去つた。斯くて會議解散後の國情は暗雲更らに濃密を加へ來るべきは察するに難からず、新議會に於て政府軍が眞に戰機を制し得るや否やに至りては更らに寒心に堪へざるものが甚だ多い。試みに解散當時に於ける各派の分野を見んか

政友本黨	一五一
政友會	一二八
憲政會	一〇二
革新倶樂部	四三
庚申倶樂部	二三
純無所屬	一四
缺員	三

の情勢であつた。斯くて政友本黨、政友會、憲政會の三派均勢の次第を促進したり、選擧區の地盤關係に於ては恐らく容易に逆睹し難きものがあらう。而して選擧戰に於て競爭最も熾烈を極むべきは政友本黨對政友會たるべく、鷸蚌の爭ひに漁夫の利を占むべきは或は憲政會であらう。然も新議會に於て假りに憲政會が比較的多數黨を贏ち得たりとせんか、政友會對政友本黨の爭鬪が如何に變轉して行くか、二百八十二名の絶對多數を擁して榮華を夢みし彼等の思想が、勃然として胸中に涌出せざるを誰か斷言し得やう。否これ實に彼等の傳統精神であり、權變譎詐を得意とせる彼等の獨壇場は斯くて築かれて來たものであつた。

四

傳ふるが如くんば政友本黨は三百名の候補者を立てんと意氣込み第一黨の陣容を立て次代内閣の引受に用意怠るなしと、或は然るべき彼等の筋書であらう。然かも現内閣が果して衷心より政友本黨の彭大ならんことを欲し、總選擧に積極的援助を與へて可

なるべきやは甚だ疑問とせねばならぬ。茲に於て所謂中立候補の簇出は必然の勢として出現し、政府筋が陰に陽に之を支持聲援すべきも察するに難くない。何となれば政界の情僞反覆、旦に夕を量り知り難きこと今日より甚だしきはなく、今日甲黨と盟約を固うして明日果して之に裏切られることなきやは斷じて期するを得ないからである。所謂僞黨と心中立して馬鹿を見たるの例は政界の近況に甚だ多く如何に無爲無策の現政府と雖も敢て爲し能はぬ所であらう。況んや政友會及び憲政會の對選擧戰も着々として陣容就り候補者數に於いても政友本黨に劣ることなからんとして苦心し居り、之に革新俱樂部、商工黨、中立及び反政府無所屬等を合せば或は千名の候補者相交錯して全國に火華を散らすことなきを保し難い。假りに候補者千名に達せんか、前回原内閣時代に行はれしものに比し百五十九名多く、三黨殆んど鼎立して虛實の秘策を傾けて逐鹿戰に立てる今日、一歩誤らば恥を次代に殘すは明かである。然らば現閣の對選擧戰略は如何、他なし一切の因緣を斷ち、國民視野の最唯中に於て嚴正取締を斷行し以て窮地に活路打開を試むるの外良途がない。卽ち片々たる小細工を排し、煩悶を脫して赤裸々となり九死に一生を求むるの大覺悟を爲すにあらざれば到底其運命を支持し完うするを得ないであらう。近く鈴木法相は司法官會議に於て選擧取締に就き磊塊を吐いて曰く「事態の重大なるに鑑み最も嚴肅に法律を厲行し非違を糺彈して假借する所なく其の情重き者に對しては之に臨むに體刑を以てし法の威信を示して選擧界の宿弊を一掃しなければならぬ」と寔に善言なるかな、願くは之を實現して現閣の活路を拓け。唯今や政友本黨との惡因緣の成れるを如何せん。

五

筆者は我選擧界の情弊を今更指摘して之が匡正策を語るの意思は寸毫もない。さり乍ら近年選擧費用愈々多額を要し前回の總選擧に島根縣に於て二十餘

萬金を投じて議席を贏ち得たるものありしと傳へられたるが如き極端なるを除くも尚數萬金若しくは十數萬金を拋つにあらざれば當選覺束なきは其實狀である。斯くてマンモニズムと唯物過激思想は先づ立法府より醸成せらるるの奇觀を呈し來りたるは國情の前途の爲め甚だ惜まざるを得ない。若し候補者一人三萬金を拋つとせば千人の立候補者に於て三千萬金は僅々二三箇月にして雲煙霧散し去るべし、而かも候補者中眞に自力に於て戰費負擔に堪を得べきもの恐らくは二割内外であらう。然らば三千萬の巨費は多くは穩密の裡に捻出せられたるもの、之を解剖せば吏僚、政商、黨人の奸計陋策は悉く曝露せらるべきは疑を容れぬ。斯くて議會政治家は多く職業政治家の占むる所となり、議席を持たざれば食ふに由なく、如何にもして戰費調達に狂奔し來るは自然の成行と云はざるを得ない。而して一度議會に出づるや自己及び與黨が負ひし瘡痍を治し、更らに將來の計畫に備へざるべからず、利權爭奪に絡まる政權爭奪の如何に醜惡を極むべきかは想像に餘りある。その絶叫する憲政擁護も、穩健着實も觀じ來らば貉と狸の狎狂言のみ、私利を貫く方便のみ。國民が漸く眞相を看破し來りて議會に厭き、議員を輕んずるに至りしも已み難き情勢であらう。然かも近時の政爭は殆んど徳風地を拂ふの感あり、辛辣陰險、他の骨を啖ひ他の血を啜るも已まざらんとし、内紛愈々繁くして國政益々顧みられず、國民生活の悲慘事、國防、産業、教育、外交の權威なきこと次第に反影せられて來た。斯くて月並の政界革新を説くも時や已に遲く筆者が本誌前號に力説せし憲法の非常斷行を敢てし大權の發動を明かにし以て眞に國民政治を布くに非らざれば國運を伸ばすの途はない。然かもこれ眞の超然内閣にして始めて達し得らるべく、現内閣が之が爲めせめて野に叫ぶヨハネたり、耶蘇出現の先驅たりし役割位は果し得ないであらうか。

六

更らに翻つて黨人心理の推移に察せんが、口に所謂愛黨精神を説くも眞に黨人として恥ぢざるもの今や幾人かある。恐らくは絶無と斷ずるも過言でなからう。政黨存在の是非は暫く措くも少くも我憲政史に於ては舊自由黨時代にありて確かに政黨を以て公黨と爲し、全力を擧げて之が發達に努めたる志士は甚だ多かつた。彼等は黨務に盡すは卽ち國務に盡すものと信じ血と財とを傾けて更らに悔ゆる所がなかつた。往年星亨が山縣と握手するに及び黨人根性次第に露はれ來りたるも尚傳統的の愛黨精神は消ゆることなく、政友會に看板を替へ、伊藤、西園寺を經て原總裁時代に至りても兎に角「黨の爲に」犧牲を拂ふ者に缺くる事がなかつた。然るに今や如何、殘留、脫出兩政友共眞に一人の愛黨家なく、黨中に黨を樹て只管に乾分養成に努めて他念なく、黨は百鬼夜行し奉公の精神、友情の美風は影を潛むるに至つた。彼等口を開けば天下の公黨を叫ぶと雖も肚裡は營利團體に外ならず、議員を買收すること、尚も株式買收の如く多く株式を買收し、自ら會社を乘取り、竟に天下に號令せんことは其詐はらざる心事である。所謂株主の心理は會社の爲めを思はず、また他の株主の利害を顧みず、全く自己の懷勘定のみを打算して動く、その治國平天下の理想を説くも馬耳東風の感あるも頷かるるであらう。かくて現代の政黨は辛うじて私利私情を以て結ばるるのみ。或は憲政を是非し、普選を云爲して虚勢を張るも意氣甚だ揚らず、解散を恐るる虎の如きも勿論當然である。而してこれ獨り新舊政友會のみにあらず、憲政會然り、革新俱樂部然り、無所屬と雖も其例に漏れぬ。斯くの如くんば當路者其人を得て政弊刷新に志し所信に邁進して屈せざらんか、政黨の分解作用は易々たるものがあらう。然かもこれ國民を味方とし、國民意識を旗印として始めて期し得らるるもの畢竟從來の政治組織と衆國主義とを打破し行くの人物にあらざ

れば到底爲し能はぬは明かである。

七

今や清浦内閣は總選擧を前にして奈何の妙策を藏するであらうか。恐らくは無策、大事決行の責任を果し得ないであらう。これ首相其人の性格に想到して爾く推測し得らるるのみならず彼が樞府より出でて臺閣に列したるは、敢て難局收拾に成算ありしに非ず、半ば情實に絆され、半ば功名心に捉へられし結果にして、其畢生の大願成就は元老たるにあり、竟に能く果斷邁往し得ざる所以である。彼が護憲運動に介意せず、階級爭鬪を否定し思想善導に斡旋するは甚だ多とするも肝心の貴族院改革にすら一指を染むる能はずと云ふに至りては新時代の國策樹立に殆んど政治圈外に逐はれたものであらう。而も彼自らは恐らく首相職隱退の時機に誤算なかるべく、次代内閣の何人に移り行くべきかは甚だ興味ある問題となつて來た。或は總選擧に第一黨を占めたるもの、彼の後繼者たるべく、或は護憲三派聯立、或は超然内閣の襲踏、曰く何と觀測は雜多に流布せられつつある。然かもこれ等は悉く基礎脆弱、恐らくは政局を彌が上に紛糾ならしむるの外、何等の取柄はない。筆者はこの國歩艱難の時、國史を鑑み、國民生活の現實に處する政治家の蹶つて政柄を黨人、吏僚の魔手より奪つて眞に國家に捧げ、國運展開の大本に基くべきこそ刻下最大の急務と信じて疑はぬ。

深刻なる人種葛藤劇

——「國本」第四卷第五號（大正十三年五月一日）所載——

一場の夢物語か

米人の所謂「好ましからざる移民」Undesirable Immigrants 日本人を痛烈に排撃したシヨートリツヂ法案は竟に四月十五日、四對七十一の壓倒的大多數を以て米國上院を通過し、茲に日米關係の深刻なる葛藤劇は果然眼前に展開さるるに至つた。筆者は夙に此事あるを看視し、本誌上に屢々之を論じ大方の示教を乞ひ、搗てて、同胞蹶起を促して已まなかつた。殊に華府會議前後、或は我使節を送るに當り、或は彼我折衝の眞最中に於て彼の我を侮るの風漸く太しきものあるを看視し愈々語氣を強め、今にして我國際的地位を確保し、彼の門戸開放、機會均等を逆に人種問題にまで徹せしめざれば到底華府會議の眞骨頂を採り得ざるべきは勿論、日米の紛爭縺れて解き難き所以を繰返した。果せる哉、全米に瀰漫せる今日の排日的雰圍氣はヴエルサイユ會議以後、華府會議を經て次第に濃密を加へ來れるの觀あり、人種平等案に敗れ、山東問題に跪きし後の日米關係は決して昔日の如き情勢を保ち得ざりし事を愈々明かならしむるに至つた。人種平等案は行詰まれる國際政局を打開すべき絶好の題目たりしもの、國際聯盟の如き此鐵則の確立を俟ち始めて運用の妙を發揮せらるるものであつた。或は世界有色人の脈搏を察し、之を聯ねて白人の世界觀、人生觀を革めしむるも一策であつたらう。然かも我使節の腑甲斐なさと、

我國論の不徹底とは折角の妙案をして竟に籔蛇に了らしめ返って強大國の反感を醞醸せしめ、弱小國の輕侮を招くに止めしめた。若し當時我使節にして虐げらるる世界有色人の勃々たる不平を荷擔して熾んなる意氣を吐き以て瓦全より玉碎へと出でたならば少くも今日の如き暴戻なる排日運動を遠慮せしめたであらう。山東問題に於ても亦然らざるを得ない。已にして隣邦支那に乘ぜられ、鼎の輕重を量らるるといふに、今更ら歐米折衝に如何程の苦慮を重むるも幾許の期待を繫ぎ得るかは問はずして明かであつた。然かもこれ悉く解決の根本原理を忘れ、所信斷行の明を缺きし結果に外ならず、我國運の次第に窮迫し來り、今や殆んど進退兩難の瀨戸際まで追詰められ來りし所以も之が爲めのみ。かくて國民は政爭と內訌に沒頭して他を顧みず、思想魔に輾轉し生活苦に懊惱し、國論を收めて窮路を外に拓くが如き昔日一場の夢物語に非らざりしかを疑はしむるに至つた。

排日運動の擴大

想ふに米國の排日運動史を見るに多くは地方的色彩を帶ぶるものを以て充たされて居た。其尤なるものは上院議員インマンの主會し、第一回大會をスタクトン市商業會議所に於て開きし加州排日協會であつたらう。而して其決議せる、一、現在紳士協約の廢止、二、寫眞結婚の廢止、三、日本移民入國拒絕、四、東洋人の市民權を認めざる政策の制定、五、米國出生の兒童と雖も其兩親が共に市民權を有せざる限り米國市民となり能はざるべく憲法第十四條第一節修正等は大體に於て這般上院案の精神となりしものであつた。此他十四郡協會、加州出生人會、羅府排亞協會、雜貨商組合、家具販賣業者運送業協會、造船職工組合、桑港洗濯業組合、婦人俱樂部、聯合商業會議所、軍人團等擧げ來れば際限なき程の諸團體は孰れも加州を中心として排日運動に從事し、絕えず中央政界を動かしつつあることは見逃すべから

ざる事實であつた。更に中央政界に於ては上院議員としてロツヂ、ボラー、シヤーマン、ヒツチコツク、フキラン、スペンサー等あり、孰れもヴエルサイユ會議以來絶えず日本の對外策を攻撃し來りしもの、排日問題に於ても夫々の努力を致したるは讀者も已に知り得た事實であらう。殊に彼等は政界知名の闘士として共和、民主兩黨の代表者たり、今や殆んど相提携して法案通過に贊意を表すると聞かば誰か米國民の對日敵意を疑ひ得るものぞ。かくて問題は正に一轉してジヨンソン、ハースト一味の職業的排日家より、更らに加州、華州等の地方的色彩より全米市民への中に擴げらるるに至つた。

排日回顧史の瞥見

而して之を年代的に眺めんか、始て我移民が米國に渡航せしは一八六九年卽ち明治二年にして、舊幕の雇なりし蘭人スネールが加州ゴールドヒルの金抗採掘の爲め、前後二回に四十人を率ゐて渡米せしを以て濫觴なりと傳へられた。已にして國力の漸く充實し來りたる反影として日清戰役後卽ち明治三十年には實に一萬三千に達し、日露戰役後卽ち明治四十年には八萬九千餘に昇り、次第に對外發展の勢を增大し來り、今や全米同胞は十五萬と稱せらるるまでに至つた。然かも我に確乎たる移民政策なかりし結果は初めより徒らに所謂劣等民のみを送りて彼に排日の口實を作らしめ、自ら改めて更らに同胞進出の方途に出づることを爲さざりし遺憾も決して看過し能はざる所であつた。然かも二十世紀に入るや劈頭桑港に於て排日派市民大會の開かるるあり。排日決議を始めて突き附けて我に挑戰せしを皮切りとし、翌一九〇一年には加州州會にて排日決議を可決し、一九〇六年に至り桑港學務局の提案により日本人兒童の隔離教育問題を惹起し、地方の移民問題は茲に一轉して日米當局の正式交涉に委ねらるるに至つた。而して隔離教育問題は疑もなく我國辱に關する一大事件であつた。さり乍ら我外務當局は遽々然と

して之が對策に心膽を奪はれ、之と交換的に日本移民の直航制限、布哇（ハワイ）轉航の絶對禁止を約し、矢繼早に日本移民の自制を定めたる所謂紳士協約を作り、大和民族の米國發展に躓つ能はざるの致命的大打撃を與へ以て之を國際問題化せしめた事は如何にも短見淺慮の罪を免れざる所であつた。當時の大統領ルーズヴエルトは米國近代の産せし偉大なる現實政治家たりしもの、我は體好く名分を與へられ彼に實果を收められ、天下の物笑となり切つた事も讀者の記憶に尚新たるものがあらう。然かも爾後の排日運動に至りては之を筆にするをさへ恥づべきもの多く、一八一三年五月三日加州議會を通過せしウエツプ案の如き日本人及び日本人の過半數を株主とする會社は加州に土地を所有する事も、之を利用し、移轉し、相續する權利も剝奪せられ、加之その借地權も三箇年に制限さるるに至り、爲めに加州在住の我同胞は永年の勞苦は根柢より破壞せらるるの運命となつた。かくて例の如く彼我政府の交涉に移り、ウキルソンの干涉より、國務卿ブライアンの加州訪問とまで展開せしも、地方分權主義の民主黨政府に於ては殊に意氣揚らず、珍田大使が徒らに我政府の訓電傳達に忙しき間に大勢は竟に如何とも爲し難き程になつた。次いで一九一五年に歸化不能外國人移民禁止を規定せるバーネツト法案の中央議會に出づるあり。一九二〇年に至りては更らに形勢惡化し、加州に於て一般人民投票に依る排日法律を通過し、同胞の借地權を全く否認し、米國出生に依り市民權を獲得したりし子女の後見人たることも禁止せらるるに至つた。かくて翌年は華州州會に於て日本人の土地所有禁止を目的とせし法律案の通過を見、更らに翌一九二三年十一月に至り米國大審院は判決を以て加州及華州の排日土地法を有效と宣し、前年下したる日本人に歸化權無しとの判決に最後の止めを刺すに至つた。而してこれ實に自由平等の權現國が我同胞に加へ來りし效驗顯たかなる宣托でありしとは誰か彼の現實が虛飾多きに驚かざるものがあらう。

此悲憤を如何せん

這般問題となりし米國議會の排日案は上院及下院共に提出せられ倶に注目すべきものありしも、四月十二日下院を通過したジョンソン案は兎も角論議の圏外に逐はれ、世論は主として上院に上程されしリード移民法案に對するショートリッチ修正案に移りて沸騰するに至つた。而してこれ前述せし排日問題は昔日の地方的色彩より轉じて中央政界の政治、外交問題となり來りし結果、政界の有力者就中外交に權威を網羅せる上院の向背に依り大勢を卜するの極めて自然なる爲なること疑を容れぬ。而して今リード原案に就て見るに「次に掲ぐる者は移民にあらず（Non Immigrant）」とし「通商航海條約又は特に移民に關し規定せる條約に依り入國し得るもの」を掲げたるに對しショートリッチ修正案は之を削除し、「現行通商航海條約の規定の下に商業を營む爲めにのみ入國し得るもの」と改めて挿入し、下院のジョンソン案と相呼應せしめんとしたるものであつた。卽ちリード案の紳士協約を廢棄せしめ、我同胞の入國（一年約二三千の呼寄せ渡航者）を絶對に禁止せしめんとするもの、實に其精神であつた。

かくて今や在米同胞は兩親、妻子を迎へんと欲して得べからず、孤獨寂寥の身を異鄕の空に晒さるるの悲運に會ひ、累年の殘虐政策に想到せんか雪上更に霜を加へ來るの感あり、其非人道的、非國際的仕打の餘りに深刻なるに悲憤慷慨も啻ならざるものがあらう。而して若し之が結果我密航者續出し、日米關係の險惡を招來することあらんか、果して誰を咎むべきであらうか。如何に兩國當局に於て外交辭令を弄するも斯くの如き背戻無慘なる排日案は人情と我灼熱せる國民性の前には一片の淡雪にも如かず、虐げられるる者の悲憤の涙は吏僚の生温き折衝を俟たず、職業政治家の惡戲的奸計を破つて無言裡に「重大なる結果」を激成すべきこと必然である。

重大結果到る

然も傳ふる所に依れば米國議會雲行の險惡化は四月十日埴原大使の國務卿に宛てたる抗議中「若し特殊條項を含む法案にして成立を見むか、兩國間の幸福にして相互に有利なる關係に對し重大なる結果（grave consequence）を誘致すべきは本使の感知せざるを得ざる所」とありしを捉へしより始まりしと。凡そ天下に斯くの如き索強附會を敢てし堅白異同の辯を弄し以て自ら眞に國際間に重大なる結果を惹起せしむるボス政治家あり得やうか、恐らく米國ならでは見られぬ所であらう。今日の如き情勢を以てすれば日米關係の「重大」なるは日本人の悉くが抱懷する意見であり、敢て一埴原大使の公文に依り始めて看視するまでもない。現に昨年六月五日東京に於て發表されし日米關係委員會のステートメントには明かに此事に言及し「米國の我同胞に對する待遇は太だ重大を加へ、我國際的關係及幸福を危殆ならしむものある」を指摘した位で（so grave that it may endanger our international relations and welfare）あつた。而して温厚篤實な妥協的實業家として識られたる澁澤子の如きすら、米國近時の暴慢に太しく憤激するに至りしもの、實に其實相を語るものに外ならぬ。然るに驚くべし四月十五日松井外相の發せしステートメントは娓々として弱小國の泣言を並べ「世界中最富裕で且つ安固なる米國は其の洋の東西を問はず、各國民の著しく深甚なる注意を以て羨望する所である。米國民は他國民に對し自由勝手の行動に出でる事も或は寛仁大度の取扱ひを爲し他國民に模範を示す事も或は彼等を怒らせる事も自由であつても少しも拘束せられる事はない眞に羨むべき地位を示して居る」と頻りに追隨の御托を並べ、獨り我國民は笑ふ事も怒ることも出來ぬ附屬國の如き卑下を臆面もなく公表するに至つた。而して翌十六日清浦首相は更らにまたステートメントを發し「吾人の要求は單に體面（nominal prestige）を保持せん

とするに過ぎなかつたのである。（中略）合衆國が移民に關する立法權を行使するの權利は、固より吾人の爭はざる所である。從つて吾人はこれに對し唯反省を求むるに過ぎないのである」と云ひ外相の不德に裏書するに至りしは何たる奇怪事であらう。然かもこれ斷じて國論の眞の脈搏を傳へたものでない。內閣にして國論を察し乍ら之が貫徹に力なきを覺らんか、潔よく總辭職を敢行し以て日米政局に一大轉換を策するの如何に意義深きことでありしか。

米國史は斯くの如し

筆者は今管々しく排日運動の原因を檢討して一々之を駁するの餘裕はない。然れ共之が原因を經濟問題か、人種問題かの二大別に分つを得ば確かに人種問題を以て主因なりと云ふに躊躇しない。在米日本人會の發表せし所に誤なからしめば商業に於て我の受くる賃金は彼れより低きも、農業に於ては白人より高く之が爲め昔日の如く白人の職業を侵奪するが如きは多く認められない。或は生活程度の低調、生産繁殖力の旺盛に依る杞憂、國民性の特質等數へ來れば諸種の理由はあらう。さり乍ら紳士協約の嚴行され來りしに何の憂慮を以て我同胞に此上酷く追求せんとするかは殆んど想像に難き所である。若し夫れ日本人を目して好戰民族となし、民主的政治の行はれざるの故を以て其左證とするが如きは殆んど滑稽に類し、少しく米國政界の實狀に通じ、彼の軍備充實の情勢を看視するものは一笑に値せぬものとするであらう。表看板にデモクラシーを掲ぐるは武斷政治を遂行するの權宜に過ぎず、一部富豪と黨人とが相結びて謀略を廻らすや專制を喜ぶ帝王と雖も到底爲し得ざる壓制を布くもの、米國の實際でないか。然かも米國史の悉くが侵略奪史に外ならざるは筆者が曾つて本誌に於て米國軍備を論じて特筆大書せし所、先づ一八一二年の英米戰爭を始とし、兩回亘りたるフロリダ戰爭、ブラツクホーク戰爭、米墨戰爭、南北戰爭、米西戰爭、比律賓戰爭、北淸事變、

數回に亘りたる墨國侵入、歐洲戰爭等に就て見るも動機純にして名正しきものとして宣傳せらるる一二戰爭に於ても仔細に之を觀察せば、醜惡限りなし。而して彼今や國防の國民化に成功し有事に大動員を行ひ其野望を貫徹せんとするの意圖愈々明かになるに至りしは何を暗示するものであらうか。

對米積極外交に出でよ

かくて理由なき排日問題は一に懸つて人種的僻見に於て勢を得しものであつた。然も人種問題の解決は一朝にして期し得ざるべきも、少くも米國の高調力説せる自由、平等の鐵則に一大轉機を與へしむる「積極外交」を要とすべきは先づ疑なき所であらう。現に排日問題の趨勢を見るも我國は一九〇六年及び一九一三年時代より幾倍の凌辱を受け乍らも我より公式の抗議を出せしもの、一九一三年以後一回も行はれず、僅かに昨年五月埴原大使により致されたる非公式の聲明の出た位が異例であつた。而して國内に在りては權勢の爭奪と利欲の亂鬪に出頭没頭して對外問題の如き何等の感興も惹かざるに運命の斯の如きは寧ろ當然であらう。さり乍ら排日問題の「今日」は排日問題の「昨日」にあらず、國際關係に於て彼の掣肘を受くるに至りて尚覺めざるの同胞ありとせば恐らく現實生活の如何を識らざる不幸漢である。行詰りたる國運を打開し、窮迫せる生活を開展し、更らに虐げらるる有色同胞を解放せしめんが爲めに對米積極外交に出づるの急務は眼前に迫つて來た。

英米への開放戰

——「國本」第四巻第六號（大正十三年六月一日）所載——

一

國本社は前號に於て、「移民問題の重大化」を力說して暴虐無道なる排日案に痛撃を加ふる所ありしに、筆者等の論旨悉く一致して「人種戰」の展開へと辿り來りしは太だ注目すべき所であつた。米國は由來自由平等の卸し國、デモクラシーの專賣國として知られたるに、何ぞ知らん、云ふ所は行ふ所と全く相反し、今や彼の自由平等は白く塗りたる墓に均しく、デモクラシーは暴力政治と何等擇ぶ所なきを天下に暴露するに至つた。然かも彼自らの現實暴露は兎も角、排日案の通過を導火線として彼の世界政策殊に東亞政策は茲に新に一大龜裂を來し、暴威を振ひたりし弗外交の壓力も人種戰激發の意外事を招來しては加何とも施す策も出でざらんとして來た。曾つて自由を叫んで劍戟を乘り躙起せしワシントンの精神は殆ど影を潛め、平等を高調して砲火も辭せざりしリンカーンの氣魄も今は已に忘れられて、自他の區別觀に執着し、支配慾に抑制せられ竟に餓鬼道の阿修羅に墮落し去つた。かくて米國及米人の欲する所は徒らに外的優越感であり、排他支配性であり、唯物覇道觀であり、之が遂行の爲には有らゆる近代的戰術を利用して惜む所がない。さり乍ら世界は米國建國史の燦然たるページに眩惑せられ、中興史の雄渾なる人道的記錄に攪亂せられて、現實を直視せず、その巧者なる宣傳と辛辣なる術策に乘ぜらる

るの迷夢より醒むるを得ない。然かも事實は有らゆる雄辯に優る、今や彼は彼の過去一切の高矜を一掃し去りて國情は賦民階級の跳梁跋扈に依りて全く汚辱せられ、その政治は虚僞と暴威と黄金とが交錯して彩られ、その對外策は極端なる國際非協調主義と化し去るに至つた。

二

米國外交の根軸とする所が世界に於ける原料品の獲得と交通路の掌握であり、爲めに無遠慮なる唯物政策を益々露骨ならしめ、素志貫徹に出でんとすることは世人周知の事實であらう。卽ち彼の對外策は一から十まで弗主義を以て固められ、餘りに人性を無視せる機械觀に出發したものであつた。若し政治に思想を缺き、情操を顧みずして遂行せらるるの可能性あらんか、政治家は悉く金と力の權化に依り代表せられ、その運用は極めて易々たるものである。さり乍ら斯くの如きは痴人の囈語に過ぎず、況んや之を以て傳統主義の精神と興國の意氣に生くる亞細亞人に對するに於て缺くるなきや否やは敢て識者を俟つて斷ずるまでもない。かくて米國はウヰルソンの聰明と偉大を送つて尚大戰後の媾和會議に物質的計算を料るに没頭して各國民の精神力を考覈し、粉爭の根本的解決に善處するの用意を缺いた。而してその斯の如きは米國が人口過剩に苦しむにあらず、原料品の缺乏に脅かさるるにあらず、而して他國に比して販路獲得に急を告げし爲にもあらずして全く果てしなき物慾に急き立てられて理智を覆ひし爲めであつた。その政治原理に恐るべき暗影動き、その政策に不斷の不安を伴ふも不思議はない。斯の如き不自然なる對外策が大資本國の手により憚る所なく續き行はれんか、所謂亞細亞の無産國が相團結して彼に對抗し、一面階級鬪爭の便法を國家間に行ひ、他面虐げらるる人種相連ね開放戰の便法を以て又彼に酬ゆるに至ること必然の趨勢とならう。

三

米國の世界政策を分ちて對歐洲政策、對南米政策、對東洋政策とするを得ば、今や最後の東洋政策こそ最も張目に値するものがあらう。殊に彼が西伯利亞及び支那に對する近時の跳躍の如き誰かその傍若無人の仕打に怒らざるものかある。彼が巴里會議以後、華府會議に至りて對東洋策の漸く露骨を加へ來るあり。太平洋問題解決に藉口して先づ海軍協定に自己の優越を確保し支那人を煽動しては悉く我對支策を挫折せしめ以て兄弟墻に鬩ぐの陋態を企て他面次第に黄金の水を漾はしめて借款問題より入りて支那内政に積極的方策を樹立するの決心を致すまでに漕ぎつけて來た。西比利亞問題亦然り。彼が露國内政の壞亂と凶作の窮狀に乘じて商人的救濟を敢てするや、所期の如く西伯利亞の富源を掌中に收め、北亞に其勢力を固めんとして謀略術策の限りを盡せるは我同胞の忘れんとして忘れ能はざる事實であつた。

筆者は今、米の對東洋政策を一々檢討するの煩を避く。さり乍ら彼らが日本帝國の儼存する限り、固く英國と相提携して略勢力範圍を定め、アングロサクソン・スペリオチーを強調し、アングロサクソン・ドミネーションを實現し、以て東洋諸民族を鐵鎖に繋ぎ虐政と搾取を敢てすることは疑なき所である。而して彼の政策に矛盾あり、他の歷史と精神とを無視して顧みざる所斷じて人心を繋ぎ能はざる所以は已に述べたる所の如し。かくて彼は早くも對歐政策に於て成功し得ざる禍根を作つた。卽ち伊太利はフイウメ問題其他に於て抜くべからざるの反感を藏し、佛蘭西は米國出征軍人の暴慢と婦女に對する凌辱に對し深刻なる憤激を消し行らず、加ふるに媾和外交に當り痛感せる對米不滿も忘れんとして忘れ得ざる銘刻を受けた。而して獨逸に至りては大戰の敗辱一に繋つて米國の參戰に在りしとの痛恨竟に去り難く、英國は俱に經濟戰の敵手、露國は恃み難く、事情斯くの如くして巨財を擁し、鐵腕を揮ふも結果

知るべきのみ。所謂利用すべく、屈すべからずとの國民的信條の歐洲に梱りつつあるは米人自らと雖も覺り得た所であらう。南米政策の不安に至りては敢て縷說を要せず、殆んど悉くが排米主義たり、モンロー主義の如き何人か能く茲に其意義を語り得るものがあらう。墨西哥關係の險惡は更らに云ふを俟たぬ。

四

茲に於て米國は對東洋政策に一轉機を策し、名を收め、實を取るの大計畫を樹て、大戰後は殊に力を用ゐて之が實現に努めて來た。卽ち一面文化及布教政策に意を致すこと舊に倍し、所謂思想宣傳の如き至れり盡せりの感あり、自由國、平等國、民衆國而して富國强兵國、文化國の名を東洋に高からしめしこと太だ偉大なるものがあつた。然かも一面に於ては全くその名聲を裏切り、利權獲得に於て國際協調を破り、官能滿足の爲めに野蠻破戒の暴虐を敢てして悔ゆる所がない。かくて其志す所は、其云ふ所と反し、其教ゆる所は、其行ふ所と容れざることを看破するや、所謂有色人の擡頭となりその醒めんとする精神力に對しては亞細亞の隅々に至るまで共鳴するもの太だ殖えて來た。而して彼等は新時代の文明は區別と支配の白人思想より生れ來るものに非ず、自然と融和の東洋思想に根蒂を据うべきを回顧するに至つた。かくて自由、平等、階級鬪爭、デモクラシーと云ふが如きは白人國自の非違と苦悶より醞醸せられしものか、他國攪亂の雷管として唱導せられしもの、東洋思想に於て夙に齒牙にも掛けざりし異端なりしを痛感した。茲に於て東洋思想の興隆と有色民族の蹶起とは相表裏し、先づ純眞にして果敢なる亞細亞精神の實現を急ぐの風雲次第に濃密を加へ來るに至つた。而して亞細亞諸民族の蹶起が必然に在米一千五百萬の黑人の運命にも何程かの刺戟を與ふべきも素より察するに難くない。

五

更らに英國の東洋政策に想到せんか。また將に破綻百出の兆なきを得ない。彼は曾つて對露政策に苦慮焦心し、その滿洲支那侵略に備へ、波斯印度襲來に意を傾くること尋常ではなかつた。然かも露國の崩壞は兎に角英國の亞細亞政策に一段の安定を與へしめ、亞いで獨逸の敗戰を好機として制海權を確保し屬領國の動搖を防ぎ、經濟界の復活を策し以て東洋政策に不拔の地歩を占めんとした。而して其志望も略達せられた。さり乍ら英國の内政問題は近年漸く惡化し來り、勞働問題（勞働内閣出現の如き殆んどこの核心に觸れず）の險惡化、財政問題の行詰りは他國にも想像し得られざる暗影をも前途に投ずるに拘て加へて植民地の結合兎もすれば弛緩せんとするの狀勢を示し來りしも看過し能はぬ重大事であらう。憶ふに印度、濠洲、南阿、加奈陀、新西蘭等を相連ねて支配し、實に於て打つて一丸たらしむるの方途如何は容易ならざる事業であらねばならぬ。然かも今や英國百年の長計は此大策を實現せねば存立の基礎危しと斷ぜらるるに至り、英國民に之が遂行の意氣と抱負ありやは一大試驗となつて來た。さり乍ら兎も角英國は對外策に命脈を保つもの、近くメソポタミヤ經營に大志を藏し、第二の埃及印度たらしめんとするの意切なるものあり、或は英佛海峽隧道に依り巴里に出て直路君府との汽車連絡を圖り、更に小亞細亞、波斯、印度との連鎖に達成せんか、茲に大英帝國の出現となり竟に西藏を扼し支那を制するに至らんこと保し難い。而かも或はこれ恐らくは一場の空想と斷ずるものがあらう。さり乍ら英國が依然として海上優越策を固守して下らず、巴里會議に臨みて尚海洋自由に極力反對せし所以を察するに、之を以て屬領植民地の統一を圖らんとするや明かである。屬領植民地の統一は卽ち英本國自ら活くる所以、更に之を語らば英國は竟に强大なる帝國主義に依らざれば立ち行かざるを告白するものであ

る。

六

英國の帝國主義は世人周知の事實にして敢て詳說するの要なし。而して其屬領植民地に於て極端なる搾取策を斷行し、無殘なる統治策を强行しつつあるの事實も知れ渡れる事實であらう。しかも埃及に於て回教徒と基督教徒が團結して獨立の第一歩に成功し、今や印度に於て回教徒と佛教徒とが提携して獨立策に血涙を絞りつつあるが如き英帝國の前途に不安の種子たるべきも察するに難くない。さり乍ら彼の政治思想を亦低劣兒戯に類し、之を以て東洋諸民族を支配せんとするも斷じて善くし能はぬであらう。その巧利的常識論は一見温健なるに似て太だ冷酷を極め、打算一點張りの處世觀と、駈引萬能の政策は能く彼の國民性を調和して現時に及びたりしも、意外の過激思想に逢着しては今や容易ならざる不安動搖の危機を招くに至つた。

七

上述し來りたる所に依り英米を中心としての亞細亞が如何に無力、無智なりしかも想像し得られたであらう。然も若し亞細亞諸民族が各自に其道徳的立場を强固にし、智力を研ぎて自然を開拓し得ば白人の專恣横暴を排除するが如きはさして難事でない。今や歐洲の天地は過激享樂思想に依つて振蕩せられ、北米の資本的帝國主義も破綻壞滅の淵に漾ふに至り、假令亞細亞の形勢が武力の高壓と弗外交の急迫に襲はるると雖も我に搏力の稍揚ぐべきものあらんか、彼の勢力を排して奪はれたる亞細亞を我自らに收むることも左程の難事でない。唯亞細亞諸民族中未だ眠より醒めざるものあり醒むるも蹴ち能はざるものありて眞に興國亞細亞の大精神を表現するの鬪士なきを惜むのみ。仍つて差當り我日本が東洋全局の平和維持に對し更らに大決心と大覺悟とを致し、次第に全亞細亞運動の氣勢を擴大し行かねばなら

ぬ。全亞細亞運動は敢て偏狹排他的の亞細亞モンロー主義を意義しない。地理的、民族的、歷史的意義に於て從來の不自然なる對白人關係にその開放戰を布かんとするものに過ぎず、人種的僻見に墮し、生活の糧道を斷つが如き仕打を意味せざること論を俟たぬ。かくて東部西伯利亞の秩序維持の如き正に日本の使命とすべきもの、過激派の跳梁に依り東方の一角に於て秩序を紊し、民人を飢ゑしむるが如き、我の斷じて默視し得ざる所である。之を以て直ちに侵略主義と斷ずるが如き近代政治の如何を解し得ざる痴呆に過ぎず、何等顧慮するを要しない。或はまた支那との折衝に一段の努力を致すことが目下の緊急事であらう。卽ち我國民就中我資本家が腹中を示して彼と語り亞細亞將來の運命を基準として相互扶助の實績を擧ぐべきである。敢て政府の對支策を是非するも今となりては餘りに迂遠の感あり、國家を我衷に藏し各人が一齊に對支策を編み出すにあらざれば日支親善の途も實現し得られない。かくて印度に及び波斯に至り亞細亞人が亞細亞を自由に相交通し、相談笑して憚るなきに至る時代を出現せしめねばならぬ、之が爲め我民族的精神の光芒を放つて、強き暗示を與へねばならぬことが最も急務であらう。

八

さり乍ら全亞細亞運動の前途に幾多の險路あり、峻坂あり、進むに難く、攀るに難く、之が實現は尋常決意の善くする所でない。然かも外に伸びんとするものは先づ內に養ふ所なかるべからず。英米の對外策を打破せんと欲せば善く精神力を計量して政治の本義を誤らぬことに心掛けねばならぬ。或は英國流の議會萬能を謳歌し、或は米國流の民衆政治を讃美し、太だしきは一方に於て閥族政治を夢みるものあり、他方に於て過激共產を策するものあり、かくて破綻百出の政治形式を踏襲し、內紛を繰返して寧日なきに至らば如何にして大望を達成することが出來よう。全亞細亞運動に際し特に此一事を添言するの

要あるを切感する。

時潮の急流に棹して

——「國本」第四巻第七號（大正十三年七月一日）所載——

一

某憂國士の近什に曰く

征清征露氣軒昂　袖手今看米陸梁
萎靡人心誰共振　神州疾漸在膏肓

國情の推移を想起して眞に感慨に堪へぬもの、恐らく彼のみでなからう。今や外、對米移民問題に曾つて識らざる國民的大恥辱を受け、日本永へに獨立國に非ずとさへ切言する同胞の出でしに内、依然として暗愚低劣なる政爭止まず殆んど國務一切の曠廢を顧みぬ。かくて神州の疾漸く膏肓に入り來りしとの悲憤を懇ふ。素より詩人一片の飾字とのみ斷じ得ない。國本社が創刊以來四歲、殆んど每號に亘りて委曲を盡し之を報じ、警世の巨鐘を亂打して或は同胞の視野を國外に轉ぜしめ、或は脚下國内の諸時相に注意を喚起して倶に之が對策を稽へ來りし所以のものも今日の大事到來を憂ひしが爲めに外ならなかつた。

二

人或は時局の急迫を指して早くも日米戰爭を說き、國内の大變事を暗示するも斯くの如きは俄かに賛意すべくもない。さり乍ら日米の事、今や一切論議の餘地なく、唯懸りて我同胞の力と意氣の如何に在り、新局面を打開し行くの途は之に依つてのみ決せられんこと寸毫の疑を容れぬ所となつた。若し我

に國民的窮地を拓くの意氣あり、之を遂行するに備ふる所ありて善く力を收め得んか自ら進むべき活路を發見するに難からぬであらう。筆者は所謂新思想家連の如く移民を以て「關稅無き輸入品」と斷じ去つて平然たる程の糞度胸を有たぬ。從つて移民問題を以て一社會政策に過ぎぬものとして太平樂を極め込む勇氣が出でぬ。若し人間をして一片の肉塊たらしめ、國際間の現狀維持を無理押に取極めて肉塊の按排配合を定めんとせば日米問題の如き何等の憤激なく、何等の面倒なく片付けらるるであらう。かくの如き新人の唯物觀が發して對米問題を論ずるやその歸着點として人口問題に生理學的の解決ありと稱して産兒制限を高唱し、食糧問題に減食法を力說し、エムプロイメントの問題に共産思想を基調としての階級鬪爭を用ふるとありてはその意日本の廢滅を來すべきに在ること疑なし。對米問題の決定に先づ國内の米化主義者を一掃し去るべきの急務の叫ばるる所以である。

三

對米問題の決せらるる所、單に國民の實力問題たるべきは餘りに明白たる事實である。さり乍ら此大事實も國民が殆んど無關心たり、已に精神の緊張味を缺き、國家施設の大策に參加するの大望を忘れて、射利と享樂に耽り、兄弟牆に鬪うて休む時なきに到り、天譴に亞ぐに外侮を受くるも亦また何等かの暗示であらう。然かも國民の實力問題は先づ米、鐵、石油の自給策を確立し、國民精神の精進を圖つて之が運用を誤らざるに在るを以て最上策とすべきである。米の輸入年額約百七十萬石内外に達し鐵の産額また平時需要の半に過ぎざるのみ。石油に至りては年額十九億萬石に過ぎず、米國に及ばざること將に二百三十分の一、若し今日非常に際會せば如何にして能く護國の大任を果し得べきかは蓋し容易ならざるものがあらう。更らに非常時を豫想せば勢ひ所謂四國協約を想はざるべからず。假りに我軍にして長

驅フイリツピンを衝かんとせばその第一條及び第三條に違反して事を擧げしもの、或は英米の聯合軍を相手とせざるべからず。かくて孤立日本の往くべき道は端的に東亞を制し物資の自給策に出て徐ろに實力を以て全亞細亞運動に先達すべき外はあるまい。此國民的意氣と明識なくして徒らに内紛に没頭し安穩に耽ることあらんか、何の日に國運暢達の日が來るであらう。

四

全亞細亞運動が日本の將來を祝福せしめ、亞細亞諸民族をして憤起せしむる大乘教なる事は疑を容れぬ所である。さり乍ら全亞細亞運動は亞細亞諸同胞の抱く、理想の接觸なくして實現さるるものでなく、實力の相交涉することなくして決せらるるものでない。卽ち亞細亞精神と物資の相關關係との調節を期し歐米文明に對し獨自の境地に立脚すべきである。若し日本、支那、印度及び西方亞細亞諸國にして虛飾文明より覺めて本來心を振作し以て活潑なる生活打開に努むるに至らば、恐らくは人類進展の座標に一大創見を齎らすこと明かである。歐米文明が徒らに自他優劣の區別觀に捉へられ、彼我貧富の支配關係に執念し來りたるの結果は極端なる人種嫌厭の感情主義と生活飽和の唯物觀に徹して殘虐狡智の鬪爭哲學を産出した。而して人性をして表裏相撞ち、眞僞相犯すの生活苦を强ふるに至つた。然かもこれ亞細亞精神の絶對に排擊し來りたるもの、之を臆面もなく振り翳して亞細亞將來の運命を掌中に收めんとするが如きは所謂白人流の迷夢に過ぎない。亞細亞諸民族がその共通の感情を激發して蹶起するの日、歐米文明の影漸く淡く、その陷落を告ぐる弔鐘を聞くもの、必ずや思ひを當代に馳すべきは想像に難くならう。而して亞細亞の現狀は云ふに忍びざるものあり、ガンヂーの國産主義、非協調主義、消極的抵抗主義は如何にアングロ・サクソンの奸智冷虐の徹底せるかを語つて餘す所がない。印度人は身に寸鐵

を帶ぶるを得ずして自由戰を敢行せぬばならぬ、聖雄ガンヂーが一身を以て一國とし先づ生活の自給自足に出で、英國官憲に根強き抗爭を續くるの苦衷に對し誰か萬斛の涙を濺がざるものがあらう。支那また然り、支那は今や殆んど英國の傀儡たり、米國の出店たり、その全土に漲る英米の黃金浪に溺るるもの多く、心ならずも排日を叫び一日の窮地を脫せんと噪ぎつつある。さり乍ら支那人は明敏慧智にして英米の禍心を知らざる筈なく、所謂靑年支那建設を思ひ立つ新興勢力が次第に日支聯盟——亞細亞聯盟——に強き共鳴を感受しつつあるは見逃すべからざる近況であらう。唯印度と云ひ支那と云ひ所謂主人持ちにあらざれば姑息持ちの境地にあり、因つて全亞細亞運動の選手日本にして虛名を擁するに過ぎざるに於ては何等の意義なきことを深思すべきである。卽ち日本自ら之が先達たるの用意あり、亞細亞諸國にして之を扶くるあらば茲に始めて全運動の眞骨頂が實現されるであらう

五

全亞細亞運動は日本の强味なくして斷じて實現され得ざること前述の如し、然かも日本の强味を破らんとするものに內に主義者の一味あり、富豪の一派あり、學者の一群ありて勢力侮り難く無辜の民人を煽動し、荼毒し、軟化せしめつつあり、先づ彼等を掃蕩せざれば國民生活の一轉機を策し、國運新振の大事を決行することは出來難い。觀よ日米問題の緊張味を加へ來るも、主義者連は兩國葛藤の緣由を以て資本主義對軍國主義の鬪爭なりと斷じて冷然また暗然たり。その策動するものに至りては之を激發して某重大事決行に備へんとし虎視眈々たるに至る。賣國忘恩奴にあらざれば殺人暴戾漢たり、彼等の跳梁跋扈を嚴封することなくんば何ぞ能く國民的志望を達成し得らるるであらう。富豪の射利保身に徹して眼中國家なきものの多きも太だ遺憾に堪へぬ。國恩に負ふ所最も多く、國恩に背くこと最も多きもの、

富豪に尠くない、米國の資金借入に膝を屈して蹴たち得ざるもの、對米貿易に苦慮狼狽して穩健着實を說き、臥薪嘗膽を語るもの比々然らざるはない。日米事を構ふる素より輕々に決すべからずと雖も、さればとて悉く遠慮と打算とより進退せんとするも亦斷じて避けねばならぬ。意氣なく、理想なき國家生活に甘んずるものあらんか、また何をか云はん。今や日本國家の面目悉く蹂躙し去られたるの秋たり。一身の利害を顧みるに急なるもの、醜き斷末魔の來るなきを誰か豫言し得よう。我學界の低劣無識に至りては殆んど呆るるの外なし。感激なく、明識なく、決斷なく、徒らに日米回顧史を綴り、移民統計表を列べ、思想遊戲戰に耽りて國家指導原理の創作に傾心するの學徒太だ尠きを悲しまざるを得ない。若し時局にして更らに急迫を告ぐるが如きことあらんか、國民精神の流露するところ、國民生活の展開して行くところ、先づ彼等三者の中に大動搖の招徠すべきことは察するに難くない。

六

日本の强味を破らんとするものに尚一大勢力あり。政權爭奪戰に群る不純の政客は正にそれである。かくて彼等の出沒する近時の我政界は眞に暗夜行路を辿るに異ならず、不安百出して殆んど救ふ術もない。吏僚黨人の多くは綱紀を紊し介意する所なく、政柄を中心としての一切の惡德は走馬燈の如く、國民の前に展開されて來た。かくて國民の純眞なるものは政界の情弊打破を絶叫して奮力一掃を企て異常の決心と抱負とを以て之に當らんとするもの出づるに至つた。之を現政局の嚴正批判に於て見るも國民感激の的たる政策と人物なきは其左證であらねばならぬ。加藤子が、犬養、高橋兩氏を抱き込みて組閣せし一事に於て已に現閣の運命は決せられた筈だ。而して國民は端的に加藤子の智力程度を測定し、犬養氏の迷夢未だに覺め難きを嘲り、高橋氏の後入齋振りに今更の如くに呆れ、かくて寄木細工師が打た

んとする狂言を冷かに眺めんとしてゐる。その唯一の在野黨たる本黨と雖も精氣なく、熱情なく、而して謀策なく内紛已まず、更らに幾多の分解作用も出づるであらう。吏僚の巨材に至りては二三數ふるに足るものありと雖も他は多く出世間に墮し去つて國民視野の圏外に出づ、恐らくは國民政治の呼吸すら解し得ざる廢朽者である。政界の現況斯くの如くにして茲に強き政治を期待するも得べからざるは論を俟たぬ。強き政治は國家意識の明徹と國民生活の省察に發し理智と感激との基調に活くべきもの、刻下の日米問題に想到して眞に感慨の切なるものあるを思はざるを得ない。

七

筆者は時局の急迫を視、時潮の動搖常ならざるを察して二三の暗示を陳べ大方の覺悟に問ふた。然かも一切は刻々として進むべきコースを取つて國家及國民生活の正面に蝟集し來りつつあり、之が對策如何は極めて微妙なる然かも重大なる時機を作つて國運を變化せしめてゐる。筆者は徒らに悲憤慷慨して快を貪るを欲しない。さり乍ら天秤の權衡を計ることのみを心掛けて處世術の妙諦とするの興味を更らに欲しない。願くば精神を豪壯にし、國民生活の自足を計り以て時局に善處せんかな。日米問題解決の健鬪は竟に國民各自の肩に在り、若し純眞なる同胞——殊に青年諸君——にして裏に修むる所あり、手に唾して蹶ち相結びて國家の危急に當らんか、政柄を所謂黨人、吏僚の手より收めて國家の大理想を行る難きにあらず、全亞運動の如きかくて力強く實現せらるるであらう。

獨占打破時代

――「國本」第五卷第一號（大正十四年一月一日）所載――

一

今や時代は強く實力競爭の結果に光つて來た。勿論實力の現はるる所、一切の空殼を破碎し、有ゆる虛飾を一掃し去ること敢て今に始まつた事でない。さり乍ら、實力の眞に認められ、その縱橫の勢威を世相に反映し來るに至りしは實に近代の一特色である。之を外交史に眺むるに曾つてウキーン會議に於てもベルリン會議に於ても何國の某伯、何國の某將軍と持て囃されしもののみが堂々として威儀を構へて來り、茲に大袈裟の陣容を立てて相會し折衝せしものであつた。勿論彼等と雖も手腕の卓越を以て一代に鳴り武勳の赫耀を以て一世に謠はれしものであつた。然かも一度築きし其地位も當時の社會は能く之を守りて移るなく、所謂日下開山は永久に金箔附きの强者として取扱はれてゐた。かくて何時しか爵位と地位の物云ふ時代となり、素地の人間は殆んど顧みられず或は幾割かの不利なハンデキヤツプを以て遇せられてゐた。然るに大戰後の講和會議を見るに英のロイド・ジヨージは木强の田舍漢、佛國のクレマンソウは精悍の一老書生、米のウヰルソンは巧智に長けし學究、孰れも力行苦鬪して政界の最高峰に攀ぢ昇り尚其政戰を續け來れる豪者である。勿論彼等は門閥の誇るべきものなく、地位の盤石の如きありしに非ずして唯自力の賴るべきを知つて蹶ちし勇者であつた。故に其會議に臨むや眞に龍攘虎搏の

意氣を漲はしめ、國民環視の裡に獨特の實踐哲學を編み、得意の政治理想を工夫し以て行動の活潑に千鈞の重を加へしむる邊、確かに近代外交史の一偉觀であり、時代色の一縮圖であつた。さり乍ら史を繙きて古今東西變革の跡を觀るに、その風雲に乘じて現はれし人物の多くは、偉大なる經世家であり、眞の實力の所有者であり、講和使節に一時の喝采を博するが如きの類でない、然かも時勢の力が竟に一講和會議にまで反映し來りしことは斷じて看過し能はぬ事實である。

二

我が明治維新は眞の意味に於ける實力が勝利を得し絶好の事例であつた。當時力の所在は諸藩勤王の士の間に在り、彼等の感激と理想と而して實行力とは彼等を打て一丸たらしめ能く國論統一の大道を開くに貢献せしめたるは已に讀者も明識せし所であらう。彼等の實力の前には京都公達の誇りとせし優雅も殆んど滑稽化し、幕末の嚴めしき諸制度と權力者は風前に搖ぐ燈火の運命に置かれてゐた。然かも當時の實力の眞個の表現人物は實に「武村の吉」其人であつた。彼を參議、陸軍大將西鄕隆盛と呼びて何となく移らざる如く、而して後來南洲翁としてのみ彼の面目躍如たる如く、彼と當時の風潮とは斯くの如く醇乎たるものがあつた。彼の偉大はその至純なる感情に宿されてゐたが、維新の大業は實に彼の感激その儘に從つて展開されたかの觀がある。彼の動く所、其儘に彼の力あり、其儘に人心の共鳴を傳ふることを得た。かくて維新の大事に參ずるや彼の官職と俸祿とは始めより殆んど彼と没交涉たり、没交涉と云ふの當らずとせば殆んど迷惑なる引出物であつた。而かも彼の此の心境こそ實に當時澎湃として上下に瀰漫せし改革の大波瀾に外ならなかつた。現代に彼を說く、或は難きを强ふるに似たるも斷じて然らず、實力を以て權力、金力と考ふるもの、如何に多きかに想到して之を語るのみ。若し國情今の如く

にして推移せんか、小人政柄を握り、狂漢暴力を振ひ、而して愚者金力をこれ頼みて世相の表面に跋扈跳梁し來ること愈々太だしからんとするも竟に拒み得ない。かくて所謂國内社會問題の險惡化を招き、國際問題の危機に後手を取ることあらば誰か能くこの國難の急に赴く者があらう。實力者の擡頭時代を持つにあらざれば之が期待は殆んど不可能である。

三

曾つて米國の一平民詩人謠ふて曰く「大統領とブロードウエイの石工との相違は些細な相違である——ただ職務の偶然の相違である」と。さり乍ら職務の相違は卽ち一面に於て能力の相違に外ならぬ。しかも能力の如何に依り、各自その好む所に從て平等の機會獲得に出づることを得る時代こそ實に我等の希求して已まぬものである。而して能力は實力を意味し唯に才能、慧智をのみ指稱せらるるに非ずして圓滿なる人格の動きを示すものに外ならぬこと勿論である。故に若し眞に能力あるものにして一國政局の高位に立たんか、彼は實に偉大なる政治家、熾烈なる愛國者として圓滿なる國民生活の暢達を計るに何人にも劣らぬ筈である。かくて産業、教育、藝術百般のこと自らの能力に因りその生活に平等の機會を求むることを得たならば其處に眞に國民生活の幸福が期待し得らるべきであらう。故に若し現代人の生活に幾多の缺陷あり、延ひて其危機が國家社會に及ぶものありとするも、之が救濟は先づ能力者を擧ぐることを外にして有り得べき筈はない。徒らに危矯の言動を敢てするは的らず、或は朋黨相結び金權者流獨り跋扈するが如き勿論戒むべき所であらねばならぬ。筆者は現代日本の行詰を打開すべきもの、一根本策として内政と外交にこの平易なる旗幟を掲げて國民の總努力を傾くるに在ること緊急事を思はざるを得ない。

四

世相に現はれたる一特色は疑もなく「モノポリの打破」である。昨夏（大正十三年）クリヴラントの大會に於て可決せられたる米國の所謂第三黨（Progressive Political Action）の中心的政綱は實に此雄叫びであつた。彼等は一八七六年の大統領選擧戰當時を回想して中原の鹿を射止めんと欲し會旗の右上隅に數字を以て76を示し皮肉なる廉清氣分を漂はしめ釀造業者ならぬ油田關係者の瀆職事件を剔抉して大に共和民主兩黨の心膽を寒からしめた。而して新たに掲げし諸政綱の全精神は中央政府の力を以て私的モノポリを打破する一句を以て貫徹されてゐるというも敢て過言でない。サミユエル・ゴムパースの率ゐる米國勞働總同盟（A.F.L）がその傳統的信條たる「組合内に政治なし」（No Politics Within the Union）の鐵則を破つて八月一日、アトランチツク・シチーに幹部會を開き大統領候補者ラフオレツト、副大統領候補者ホイーラー支持を取極めたるが如きも畢竟上述の精神に共鳴を感じた結果であつた。然かも第三黨出現の主因として數へらるるものを見るに一、既成政黨の硬化、二、政黨機關の專制、三、農民の困窮等にして、更に其近因としてはワイオーミング州テイー・ポツト・ドーム其他に於ける油田不正拂下事件、ヘンリー・フオードに係る水力電氣事業、空中窒素採取事業拂下等に關し政府當局と政商との間に絡まる疑獄事件摘發に刺戟されしことであつた。既成政黨の硬化に至りては世界的事象たり、彼等が都會勞働者を滿足せしむる能はず、他方農民を信服せしむる能はず況んや無産有識者を收むる能はずして次第に沈滯敗腐の深淵へと落ち行く有樣は傍觀者をして坐ろ悲哀を感ぜしむるものがある。更らに政黨機關の專制に至りては沙汰の限りにして、所謂幹部と稱するボス連の獨斷專恣の甚だしき、到底活潑なる政治運動を行ふに適せず、絶えず進歩派の反感を買ふ所以である。

五

かくて米國に於ける第三黨は獨占打破に依て呱々の聲を擧げた。之を前にして英國勞働黨内閣の出づるあり、更らに之を前にしては伊太利のフアスシスチーの飛躍あり、土耳古國民黨の擡頭あり、その成功は何れも皆清新の意氣を漂はしめて既成勢力の無爲無力に一擊を加へ、かくして竟に獨占打破の大刀を揮ひし結果であつた。勿論彼等の悉くが識者の贊意を買ふに足らざることは明かである。さり乍ら既成勢力より新興勢力への過渡時代に當り多少の變態政治が行はるるも左して不思議でない。若し既成勢力にして絶えず國民生活の脈絡を察して、革新的施設を怠らず、一道の輝く政治意識を失ふことならんか、何故に獨占の陋習に捉へられて恥を國民の前に曝すことを得よう。然かもこれ敢て餘所事に非ず、我政界の近狀は正に歐米の最惡なる場面に髣髴たるものあるを如何せん。卽ち政局の推移は國民環視の前に行はれずして、政黨の幹部數名相寄り、之に貴族院の謀士と稱せらるるものを加へ、更らに財界の黒幕を參ぜしめて私かに廻ぐらさるるものに外ならぬ。故に彼等が鐵道問題を私議し、教育問題を私議し、更らに國防問題を私議するの眞意も之を推察するに難くない。卽ち先づ地方黨勢の消長如何を稽へ、人氣の去就如何を氣にし、而して後實利と駈引に依つて勝を制せんと圖る、これ政治を化して投機たらしむるものに非ずして何ぞ。斯くの如くして質實なる國民生活は如何にして期待し得よう。かくてグレシアムの法則ならざるも惡貨、良貨を驅逐するの皮肉なる光景は現代政治の一事實となつて來た。故に政界の不當なる獨占者を打破し、眞の國民政治を招徠せしむるが爲めに新興勢力の擡頭を促し、之に依つて機會均等の大策を斷行して有能の士を茲に送るべきは當然の歸趨である。所謂新興勢力は眞日本精神の意氣を代表すべき中心勢力たるべきもの、能力者は何人と雖も政局の高所に座してその指導者たる

に於て事缺かぬであらう。而して國民的總緊張裡に政治すべきこの時代は近く必ずや吾人の眼前に展開し來るべきを確信して疑はぬ。

六

更に之を我對外問題に觀る。現代の所謂弱小國に對して國民的交涉を開くべき事に無關心たるは甚だしき謬想である。勿論我國は徒らに他國の內政に干涉すべき謂れなく、或は煽動を事とする勞農露の跡を逐ふが如き不見識をも採らぬ。さり乍ら國際間の微妙なる推移を見て、國民的親善を圖るに誤らざるは唯に日本國民の對世界的抱負たるのみならず、實に我同胞の經濟的危地を脫脚する唯一の活路であらねばならぬ。今や世界は之を經濟的見地より論究せば殆んど英米獨占の姿相に在り、他の弱小國が如何に正當の生活要求を以て之に對するも顧みらるる所なく、依然として詐術と武力とを以て壓服されつつある。これ英米國民の生活欲望の愈々高まり、弱小國民の搾取に依らざれば到底活くる能はざる迄に變化し行きし爲めであらう。さり乍ら英米人の無限の生活欲を滿さんが爲めの現在の對世界的支配關係は竟に破壞せらるべき運命にあることは識者を俟たずして明かである。近く英國は保守黨內閣の出現匆々對世界政策の緊張を來しユニオン・ジヤツクの旗色更らに振ふべきに最善の努力を惜まざるの氣配振りを示すに至つた。シンガポール防備の如き、軍縮會議開催を阻止せんとして國際聯盟理事會を翻弄せし如き、回教宥めの大同團結を策せんとするが如き、埃及問題に鐵血政策を迫りしが如き數へ來らば組閣以後僅々月餘にして彼れが如き積極的方途に出でし所以のもの、實に決心の尋常ならざるを見るに足る。然かも埃及問題の如きは英國の對策が餘りに無殘冷酷を極むるものがあつた。卽ち昨年一月十五日首府カイロに於て獨立以來始めての國會開かれ國王フアツト一世は獨立の主動者首相ザグルル・パシアを從へて臨御せられ擧國狂熱の歡喜に醉ふ一年ならざる

に、會々埃及人のスタツク總督を襲撃するや英國は之に藉口して直ちに武力干渉を敢てし讓るなく竟に其要求の無條件承認を遂行せしことにある。埃及人の希望する所は眞の獨立に外ならざるに其實狀はスーダン併合問題を始めとし交通、國防、外人保護、スエズ運河防備の諸問題等未だ一として自主的行動に出づることを得ない。斯くの如き獨立は獨立の名を辱かしむるもの、彼等が英國の貪欲政策に滿腔の不平を懐へて竟に英人を逐ひ、埃及人の埃及たらしめよと絶叫するに至る、素より同情に堪へぬ理由がある。かくて今や埃及の柱石ザグルル・パシアは英國の爲め國を逐はれて流浪の身となりしも、却つて彼豫ての希望は茲に漸く實現されんとし印度のアリー、阿富汗のヂン、土耳古のケマル・パシヤ、伊領トリポリのフエリツト、佛保護領モロツコのアブデル・カデル等と相策應として排英主義を基調とせる回教徒の大同團結を作らんとする絶好の機會を捉ふるに至つた。想ふに埃及問題の將來は印度と共に英帝國を腦ます癌腫であらう。然かも埃及は兎に角獨立國たり、民人の痛切なる要求は誰に向つて愬へんかは輕々に看過し能はざる機微の問題である。現にシリア、波斯、土耳古は何れも相提携して深甚の情感を埃及に寄せ、或は大義名分を翳して蹶起するあり。或は之を國際聯盟に持ち出さんとするあり、更らに全國教徒に飛檄せんとするありて小國は小國乍らに義憤の情火を燃してゐる。此秋若し日本が敢然として埃及と通商條約を結び先づ經濟問題に於て國民的折衝を試むるの壯擧に出でんか、彼等の歡喜と期待は如何に絶大であらう。然かもこれ俄かに英帝國への挑戰と見るべきに非ず、敢て介意するの意は寸毫も要らぬ。唯我が霞關の吏僚外交家を以てしては能く國際關係の將來を達觀し能はぬを怨むのみ。

七

印度に於ても亦國民運動は次第に熾烈の度を加へ

て來た。スワラジヤ・パーテーの巨頭にして現カルカツタ市長たるダス(A.R.Das)は昨年八月十六日カルカツタ市に於て開催された同派の大會に於て演說して曰く。

吾人は、吾人自身の組織に基く政府を樹立するの權利を要求するもので是卽ちスワラジの觀念の核心を爲すものである。吾人の要求するところは吾人獨得の才能並に氣質に基き、吾人自身の組織に基く政府を樹立するの權利を有することを、一般印度人に依り明確に宣言し、而して其の權利が外國人統治者に由り認識せらるべきことを要求するにある。

と斯くて現政府反抗の氣勢を揚ぐること太だ高きものがあつた。加之同大會の決議せし政綱が純然たる印度精神に漲る色彩を以て染められしことも特筆に値せしものであつた。其一項に曰く、

亞細亞諸國の一致團結、亞細亞文明の發達、並に通商貿易に關する相互補助の目的を以て埃及を包含する亞細亞諸國聯盟の組織

以て彼等の意氣込を推察するに難からざるものがある。彼等が被征服者の境地にあり乍ら、時勢の急潭に乘じて深くも決する所あり。「獨特の才能並に氣質」に醒めて蹶起するに當りては百千の迫害、彈壓何かあるの氣魄想ふべきである。殊に亞細亞聯盟を胸に描いて同志を四疆に求むるの心境を察せば誰か之を一片の夢物語として笑殺し去らるべきものぞ、玆にも亦我が用意周到なる對外策の躍動すべき餘地が多分に伏在することに氣附かるるであらう。

今や時代は獨占打破の聲に充ちて來た。然かも獨占は唯に政界に限らるるにあらずして思想界、經濟界は勿論のこと社會生活の一切を涉りて非難せらるべきである。その特に能力なきものの支配的地位に座して野望を遂ぐるに至りては、斷じて排斥せらるべきである。或は共產協同に名を借りて勞働者專制を強ふるが如きも勿論打破せらるべき運命にある。かくて現代を動かす一大勢力は已に人爲的儀禮を誇

る官場を去り、朋黨的勢威を擅にせる政客を棄て、曲學阿世の學徒、下司怯弱の金權者流を顧みずして純眞なる生活意識より甦らんとしてゐる。而して生活意識の動く所、必ずや團體を作り團體の在る所必ずや機會均等を基調として活くべきは明かなる事實であらう。然かも如何にして機會均等に出づべきかは各國民間に究むべき活問題である。國情の多難を思ひ乍ら大正十四年の新春を迎ふるに當りこの平凡にして、而かも暗示に富む時代色を凝視して活路の一筋を見出さねばならねことを切感する。

無印象の印象

政界の一年を回顧して

――「國本」第五卷第十二號（大正十四年十二月一日）所載――

一

古一念政界退隱の辭に曰く

今回の合同決行に就いて多大の困難あるは明だが、政友會が更始一新して能く革新俱樂部の主張を容認した以上は小異を捨てて大同に就く――自分は犬養翁が理想を正當なる手段に依つて實行せしめんとする時僕はそこに十分の自信がなかつた。アア金か權力か無ければ現代の政治に生きて行く事ができぬ。

これ本年五月二十九日のこと、犬養翁挂冠に殉ぜし時の彼が述壊であつた。彼は政界の人格者、その縦横の智略を以て革新倶樂部に重きを爲し來りしこと周知の事實であつたが竟に志を伸ぶる機會もなく自ら政治的生命を斷ちしこと可惜極みである。氏の政界入は三浦、頭山兩老雄を始めとして幾多有志家の聲援あり、松本樓に於けるその門出の一幕の如き絶好の劇的シーンを展開して多感の江戸ツ子の血を沸かしめしこと今尚記憶に新なる所である。しかるに政界の現實に當面して稽ふるに寔に情僞滿々、政客の進退は悉く金と權力に據る事氏の指摘せし所に相違なく、括淡氏の如きものの其任に非ず、其煩にも堪へ得ざること素より察すべきである。因つて氏の政界退隱は寧ろ既定の事實であつた。何の變哲もなく、何の妙趣もない。さり乍ら氏の去就に何等の意義なしとは斷じ去ることを得ない。國民生活と風馬牛の現代政治に殆んど愛憎なきこと筆者も素より異論はない。所謂政權の爭奪の如き政客自らその墓穴を掘るに急ぐもの、國民が左程の感興も持たぬこと又た怪しむを要しない。卽ち政界のこと一として國民の注目を惹く印象的事績に出づるなく政客は虛僞、國民は倦退、やがて政界破綻の日は來らんとす。政界の隱者古一念が尚その苦衷を吐露せざるを得ざる所以のものを察すべきである。無印象の政界一年を回顧して印象記を筆にする馬鹿氣さよ。

二

本年政界の誇は先づ普通選擧法の成立に指を屈すべきであらう。普選の史的沿革より觀れば明治二十六年第十八議會より提出され前後三十三年に亘つて此處に取扱はれしものであるが、筆者は今更ら普選の長談議を敢てするの意なし。さり乍ら本年三月二十九日普選の下院を通過せし當時を回想して所謂政界の誇に幻滅の悲哀を覺えざるを得ない。想ふに原案は昨年十二月十七日の閣議に於て「納稅資格撤廢、帝國臣民にして滿二十五歲以上の男子、中選擧區」

を骨子として決定せしもの、後樞府、衆議院、貴族院の修正に會ひ更に兩院協議會の折衝に懸り幾度か政局の危機が傳へられ竟に會期延長三回に及びて漸く成立せしものであつた。政府は勿論のこと、各政黨も瘡痍滿身、光輝ある普選も醜惡なる苟合妥協に本來の精神已に去りしこと明である。普選法通過に因り有權者三百萬人より一千四百萬人に擴大せられしとて誇示するが如き政治の墮落のみ。當時政界の如何に虛僞に滿ち居りしかは知る人ぞ知る。普選の如き形式の成功に誇るよりは精神の純なるを尚ぶべきこと多言を要しない。宜なるかな、心ならずも新聞の煽動と一部民衆の策動に乘ぜられたる黨人が今日に至りて苦悶反轉の醜態を曝露せしこと嗤ふべき極みである。かくて普選の動機と其出現の前後を識る者の間に於ては之に依り我國民生活に適應せる政治を布くが如き前途遼遠なるを感得せしめられた。既成政黨の分解崩壞、無産者流の跳梁亂舞而して各種の國家機關の勢力失墜と次第に其因果律を廻轉し來ることに留意せよ。

二

普選と並び稱されしものに貴族院改革問題があつた。貴革は政友會が昨年一月淸浦内閣出現以來その分裂を賭して絶叫せし手前もあり大向の喝采を博して天晴の急進振りを示せし一枚看板である。かくて加藤首相が第四十九議會に於て聲明せし「善處」が如何なる形式に於て實現すべきかは多大の興味を以て迎へられた。而かも第五十議會の末三月二十五日可決せられし正體を見るに殆んど骨拔案に了り、其核心たる互選規則改正に全く手を觸れざることの一事に政府筋の意那邊にありしかを察することができた。政友會の强がり、憲政會の狡がり俱に唾棄すべきの魂膽を藏することは竟に七月に至りて兩者の決裂に依り明にされたが、當時尚兩者間に積極對消極政策の喰違に因る鐵道計畫の紛糾あり。教育費國庫負擔問題の暗鬪ありて駈引政治の如何なるものなる

かを如實に示せしこと丈けは印象に新なる所である。

かくて協調内閣は第五十議會を兎に角切り抜けることを得たが、政友會總裁高橋氏は四月五日隱退の意を表して大に世評を賑はした。而して十四日には長閥の頭目田中勇が第五世總裁として政友會に來り野田氏を高橋氏の後釜に据えて商工大臣たらしめ陣容を立て、面目一新を策せんとした。尚之と前後して革新中正兩倶樂部の政友會と合同するありて黨情大に變調を帶び來るものありしことも稍注目に値せし所である。

四

高橋翁の政友會を退きしは翁心事の動搖が因を爲せしこと勿論であつたが、翁を圍繞せるものの謀策に出でしことは爭はれぬ事實である。翁の如き超然主義者が今日の政黨界に人氣なきことは餘りに明白なる理由を持つ。自らを守らんとするも得可らず、人を仆さんとするも力なきに於て奈何にしてボス政治の先陣に立つて行くべきか、理由に於て相異る所あるも古一念が政治に面倒が出て來り、飽き飽きして退隱せし心事も稍翁と相通ずるものがある。

高橋翁の心事を以て政本合同運動を觀る、また一興なしとせぬ。蓋し政本合同に「あやめ」「さつき」輩が奈何に策動するも其效を奏し得ざることは始めより明である。元來政本の相離るるや一は兩者二三頭目の感情の惡化に出て他は政見の相違に出づ。しかも畢竟するに兩黨幹部連が政治の大局に徹し得ざるの間隙ありしことと、時勢に乘ぜられしことに理由ありしことを否み難い。政治の大局に徹し得ざることの結果は政黨の硬化となり、其分裂を來すこと些の不思議もない。而してこれ同時に時勢の教ふる小黨分立の傾向であることも亦明なる事實であらう。已に政友會の分裂にこの根本的缺陷あり、之を革めずして合同を策せんとするも時や餘りに遲きことを知らねばならぬ。さり乍ら政友會と本黨相結び

て更始一新し以て天下を制せんと欲するの心情は黨外に周旋せる某々氏の盡く雄圖のみでなく、今や兩黨員の均しく希ふ所であらう。然らば其方途奈何、大政友會に甦生し得る唯一の活路を高橋翁去就の跡に求めて得べき暗示の甚だ多きことを覺ゆ。政界の低迷せる謎を解き兼ぬる者にこれ以上を語るも興味なからん。

五

政憲協調の破れしは七月二十九日のこと、爾汝相約してより正に一年二ケ月目である。而して協調破れしの始末は茲に管々しく論ずるの愚を避けたきも黨人心理より之を觀るに政憲孰れも動機不純を極めたるものがあることは爭ふことを得ない。さり乍ら政略の巧拙より論ずれば憲政會の遙かに上手に出て政友會の御大田中總裁に威力なく武藤氏一派の短慮に誤られて方策を敗りしこと直接の責任であつた。而して閣僚に在りても岡崎氏の優柔卑屈、小川氏の無策猪突俱に大勢を有利に導くの力量に缺けしこと亦罪なしとしない。かくて黨内に於て一時内訌の兆ありしが如き思ふだに嗤ふべき次第であつた。黨内智慧者と目せらるる某氏の如きも加藤内閣倒壞後の豫測を全く誤つて大命再降下なきを確信せるが如き、如何に推理力の低劣なりしかを語る一笑話さへ殘せし程であつた。八月四日政本提携の申合を表明せしが如き淺問敷しき猿芝居のみ。政友會のテレ隱し、本黨の無定見俱に恥を知らざるの遁辭に過ぎぬ。斯の如き喜劇に政治を彩るもの奈何にして天下を料理するの意氣あらん。

要するに政界一年は些の感激なく印象附けられしもの更になし。裏の芋畑で巫戯化る狗を見る程のこともない。無印象の印象あるのみ。

時難にこの剛俠兒を憶ふ

河井繼之助の事跡を尋ねて

――「國本」第六卷第七號（大正十五年七月一日）所載――

緒言

五月十七日國本社新潟支部設立式を了りたる日、山川健次郎先生に隨伴して長岡に臻る。戊辰役の戰跡を訪はんが爲めであつた。長岡は會、桑二藩と共に最後まで西軍に抗して運命の悲愴なる行進曲を奏でたる所、而して夙に世運の大勢を觀破して義理を正さんと欲せしも就らず、身は返つて逆賊の汚名を冠せられて四疆に攻略の兵火を受けし所である。七萬四千石の小藩を擧げて悲憤の淚に決死の結束を固めしも之が爲めであつた。かくて一代の快傑河井繼之助蹶つ。眞に天に聳ゆる火の柱、空驅ける電光たり。その大衆を護り乍ら縱橫の奇策を遣るに堅剛の鐵腕を以てせし所は素より我近世史の偉觀であるが、寡勢半歲に亘つて健戰善鬪せし彼の强靭なる半面を偲ぶものは亦彼の衷に躍動せし純眞無虛氣なる半面をも知らねばならぬ。

翌五月十八日早朝、八十二翁小林乙三郎氏の來訪を辱うし回顧六十年の實話を聞くことを得たることは意外の大收穫であつた。翁は戰役に參加せる唯一の健在者にして槍隊先頭として各地に轉戰し驍名を高からしめたるの人、矍鑠壯者を凌ぐ。今や當時の友

藩に入りては家老職たり。出ては猛將軍たりし山川浩氏の令弟健次郎先生の來るを聞き抃舞して迎へ懷舊談に無量の感慨を行る。翁一句、先生一語、大野屋奥座敷兩老對座の一幕は實に感激に充てるシーンであつた。かくて翁の先達に依り長藩苦戰の跡を訪ねて新綠の半日を送つた。

一　大勝か大敗か

米澤藩士小田切成徳の河井繼之助評に曰く

詳其爲人。蓋涉獵萬卷。不區々章句之間者。而甚好古今奏議之文。

特推奬李忠爲第一。又好評論古今之人物天下之風士。一々爲之記號。

其品鑒精細。天地之間。一物不能遁情。而間有不得其情者。則日夜探討。不窮其所以然不止。一日余醉而自外歸。繼之方與同寮。論當世之人物。顧余曰。子以余爲如何人。余答曰。子則先鋒之將也。短刀深入。不大勝則大敗。繼之笑曰。子言中矣。

小田切は古賀茶溪の久敬舍に於て河井と交を結びて彼の表裏長短を識るもの、安政六年其再遊に際して之を語りしものであるが、流石に彼の全面目をハツキリと傳へた。

河井繼之助は陽明を學んで其精髓を體得した人であつた。實學に據り戲論を排し直指人心事物の核心に觸るるを得意とし特に奏議の文を好みて政道の本を正さんと欲せし次第は前記に依るも明であるが、盛徳が醉餘繼之助の人物評を試みて、子は則ち先鋒の將、短刀深入、大勝せざれば大敗せんと斷じたるの名句は特に津々たる興味がある。かくて後年長岡出兵の擧あり。果して繼之助は先鋒の將として短刀深入、大勝を贏ち得ずして大敗し、寮友の觀る所に從はしめたるも皮肉であつた。憶ふに彼の全特色は先鋒の將として常に大勝か大敗かの兩極孰れかを選びし所にあつた。恰かも近代思潮の無感激、無目的の頽廢を打破するに「全か無か」(All or Nothing) の

選擇生活に出づべきの主張に似通ふものがある。正は不正と相容れぬ、善と惡は相鬪ふ、その孰れに據るべきか。正に立ち善に據らば不正と鬪ひ惡を擊つに全力を擧ぐべく之が爲めに一點の空隙あることは許されぬ。かくて人力の一切を傾けて戰の野に出づ、成敗何ぞ論ずるの遑があらう。素より近代思潮に於て正、不正の何たるや、善、惡の何たるやに就ては思想上、經濟上の疑念はある。さり乍ら疑念あるの故を以て自屈なる低徊味に浸つて自己の立場を冒瀆してはならぬ。眞劍の疑念は眞劍の人物に起る。かくて大勝か大敗かの境地を行くものの心事こそ眞に悲痛の極みである。

二　文化文政時代

長岡藩は牧野氏の領せしところ、右馬允忠成が此處に居城を定めし以來二百五十年、忠成の父康成は德川十七將の一人たり。忠成も亦年少より數次の合戰に出陣して武勇の聲高かりし故を以て德川氏の格段なる信任を蒙りたる間柄、竟に越後屈指の要路たる長岡に封ぜらるるに至りしとの事であつた。而して長岡の地、今に氣風剛健にして民心簡朴、遊子をして坐ろに思慕の念禁じ能はざらしむるものあるも因つて來る所三河以來の遺風なるべきか。

繼之助は文政十年、丁亥正月元旦長岡に生れた。當時我國情は漸く多難の時局に入り、外英露の跋扈は目に餘るものあり。文化五年英吉利軍艦が水師提督ドルリーに率ひられて長崎に闖入し掠奪を擅にするや、長崎奉行松平康英は之を捕へんとして果さず憤死したる如き事さへありて宇內騷然、大亂の前兆を何となく暗示さるるの情勢であつた。かくて攘夷論の擡頭となりやがて其白熱化を來すや、文政八年竟に鎖國政策に出て外船の我が近海に到るものを悉く打ち拂ふべしとの攘夷令は發布された。さり乍ら時勢の動きは區々たる政令の能く支ゆる所でない。天保五年水野忠邦老中となり、八年將軍家齊の退隱して家慶の其後を襲ふや、大阪に於ては大鹽平八郎

擧兵の事あり。人心頓に動搖の度を加へ來るに際して矢繼早に高野長英の夢物語、渡邊華山の愼機論等現はれて攘夷の不可なる所以を痛擊して罪を得たるありて天下の形勢は刻々重大化しつつあつた。繼之助はこの雰圍氣に生れ、而して長じたが其少年時代は文字を木村誠一郎に、劍擊を鬼頭六左衞門に、弓を根岸勝之助に而して馬術は三浦治部平に授けられ他日の大成を期して修養せしめられた。

彼の父代右衞門秋紀は勘定奉行を勤め温和風流の人格者繼之助の氣象峻敏にして潤達たるは母貞子刀自に負ふ所多しと傳へられてゐるが、その馬術稽古に際しては一切の方式を無視し馬背に跨るや一鞭奔馳するを快とし三浦氏を怒らしむるを常としたりと云へば、刀自庭訓の並々ならぬものありしことは察するに難からざる所である。

三　江戸遊學に上る

繼之助の江戸遊學に上りしは嘉永五年、二十六歳の春であつた。始め齋藤拙堂の門に入り轉じて古賀茶溪の久敬社に入つたがこれ前者が詩賦文章の雄にして後者の時務眼に一頭地を抜けるに服した故であらう。茶溪常に曰く

今日の兵備は火器を捨てて何に從はむ。今日の理財は貿易を捨てて何に從はむ。環海の邦、船を捨てては一歩も動く能はず、其理は小兒も解し得るに學者の之を解せざるは何事ぞ、火器と貿易と船舶とは今日の急務なり。

以て彼の達識を洞見することが出來る。翌嘉永六年六月には亞米利加水師提督ペルリ浦賀に來りて通商を求むるあり、次いで七月露西亞の使節プチヤーチンは長崎を訪ふて交易を拓き北邊の境界を正さんと提議するありて人心恟々、更に家慶薨じて暗雲の去來頻りなるを思はしめた。かくて繼之助は前年末一旦歸國せしが米艦渡來の事を聞くや慨然として蹶ち再び出府し天下の形勢を審にして竟に一篇の献言を筆にし、藩主忠雅に奉つた。これ世運の動きを照破

して藩政の得失を痛論せしもの、言辭頗る詭激に渉りしものと傳へられてゐる。しかもこの一篇料らずも明主忠雅の認むる所となり昨は部屋住の身、今は評定方隨役目付同格に抜擢されて新知三十石を給さるるに至りしと云へば繼之助の得意思ふべく。後年彼が抜本塞源の大活躍に出でし所以のものも明君の背後地に據りての事、その端緒は實に茲に發せしものであつた。時に繼之助年二十七、かくて白面の讀書生も意氣軒昂、やがて其快腕を實地に試みんとして歸藩の途に就いた。さり乍ら歸藩後の彼は事志と相違して國家老山本勘右衛門との衝突を來し、大目付三間安右衛門との抗爭を起しなかなかに面倒が續いた。しかも此間彼の不退轉の豪氣は遺憾なく發揮せられ新興力の舊弊打破の評判が全藩に擴げらるるに至りしことはせめてもの收穫であつた。かくて運命は彼を驅つて鍛錬の火渦に投じた。來たり、見たり、敗れたりの遺る瀬なさ感慨は純情一徹の壯者をして世路の羊腸屈曲を識らしめたことは察するに難くない。

四　その修養時代

安政四年父代右衛門致仕し彼は家督を相續した。時に歳三十一。やがて外様吟味役となり宮地村に起れる訴訟に明斷を下して大に其才腕を著はしたが區々の訴訟に没頭して功名を收むるは其本意に非ず、遊學の已み難きものあるを以て安政五年十二月二十八日、藩の御用仕舞の日を俟つて之が許可を得卽日出立、再び久敬舍を志して碓嶺の嶮を越えた。

安政五年には老中堀田正睦上京の事あり。當時幕府はハルリスとの條約草案に基きて下田、函館の外に神奈川、兵庫、長崎、新潟を開港せんと欲して之が勅許を得るの底意なりしも朝議は攘夷に傾きて御裁可を得るに由なく老中の苦悶は尋常の比ではなかつた。かくて四月井伊直弼の大老となるや形勢は急轉直下し六月勅許を待たずして假條約を結び次いで蘭、露、英、佛にも及ぼして鎖國の夢を破るに鐵血

の政策を強行した。橋本左内、吉田寅次郎等の罪せられしは翌安政六年にして明治維新前驅の大亂鬪の序幕は露骨に切つて落され、處士縱橫に馳驅し劍擊相搏つの修羅場は漸くに迫つて來た。しかも繼之助はこの時代相を餘所にして研學修養に渾身の精を出してゐた。久敬社に於ける同門の士刈谷無隱氏の談に曰く

河井の平生の擧動を見まするとと、他の學生は御膳の御菜に豆腐を煮るとか豆を煮るとか色々御菜拵へを密に致しますのに河井は三月でも四月でも、ただ先生から宛行はれた澤庵の香物だけで飮食の事に自ら手を出すと云ふことはござりませぬ。其代り、月に一度か二月に一度は食ひたくなると柳橋へ往つて藝者を揚げて飮んで來ました。平生飮んで醉つて歸ると枕ツ引きが好きで屹度やりました。誰にでも三本指で勝つ、四本の指は使つたことがない位だ。それから蠟燭へ火を點けてそれを前に置き人と睨めくらべをするのが好きであつた。是は火を見て瞬きをせぬ人が勝つので百目蠟燭二挺へ火を點けて鼻の先へ突出しても河井は瞬きをせなかつた。處が或人が、河井は其の筈だ、あれは御天道様を見ても瞬きをせぬやつだと言ひました。

サバサバした氣風、精猛の風貌見るが如しである。かくて彼の向上心はいよいよ燃え、當時山田方谷が經濟實用の學を以て天下に鳴り、その松山藩に於ける治績の見るべきものあるを聞くや、更に藩廳の許可を得て中國遊學に上つた。其家嚴に告げたるものに曰く

不肖の私、父母に事るの道をも不辨、恐懼の至りに候得共、せめて立身行道は孝の終りと申教にても相守り度、憤發仕候儀心中御憐察御仁免御許容奉願上候

切々として父母を懷ひ研學の許を乞ふ至情の可憐さよ。かくて彼は中國より九州に轉じて長崎に遊び外邦の情勢を考察精査したが其結果彼の經國策は一

段の雄大さと徹底味を加へし感がある。義兄榊野嘉兵衛に宛たる書翰に

一、天下の形勢は早晩大變動を可不免と被存候。卽今外國の形勢者戰國時代とも可申歟、彼得を出し候俄羅斯などは殊の外勢威と承り候、攘夷などの愚蒙なる申迄も無之海防之事、御大切にも相違無之も朝廷隣國之御交際は一層の大事、此際被爲誤方向候はば皇國之安危に關する義と乍恐奉存候。

一、京都と關東との御間柄も偖々心痛之事に候。薩長之徒其間に在りて私を挾み御離間申上候體に相見え心外に奉存候。關東に被爲置候ても叨りに輕卒之御取扱無之哉と被存、尚更心懸りの次第に候。

一、外國との御交際は必然不免御義と存候。然る上は公卿も覇府も無之、政道御一新上下一統、富國強兵に出精を要する事、第一義なるに何時迄も御治世無移變者と量見候は淺慮無此上慨敷次第に候。

一、何を申上候にも小藩の事力不及候。此上は精々藩政を修め實力を養ひ大勢を豫察して大事を不誤之外他策可無之と奉存候。右の儀は忠治右衛門にも呉々申遣置候。

勢と申者程可恐物無之候。追々外人を眞似て風態制度の一變せん事或者在近歟。文學を支那に學び唐制に倣ひ候を不怪、今日の洋風洋式も十年の後には可至無怪者歟。王道坦々、夷人も仁義之道自ら存じ候。壯士輩呉々も御訓諭之程奉願上候。云々

現代に之を讀む。一々煥發せらるるものあり。彼の卓見明識の程度に驚くべきものがある。しかるに彼のこの卓見明識を以て兇逆の罪に問はれ「固陋頑僻之儀を御採用より遂に不明之域に被爲陷」と一藩に通達せしめられて家名も將に斷絶せられんとした。明治維新史の影に泣くものの爲めに冤を雪ぐべきことの徒事ならざる所以である。

かくて彼は全幅の經綸を祕めて萬延元年江戸に還

り、文久元年長岡に歸つた。萬延元年と云へば井伊大老横死の年、飛雪紛々忽にして櫻田門外を朱に染めし其年であつた。

五　藩政の大改革

長岡藩主牧野忠恭は繼之助歸省の翌年文久二年八月二十四日京都所司代を命ぜられて將軍家目代たる重職に就いた。而して會津藩主松平容保も亦前後して京都守護職を命ぜられて俱に時局收拾に當つたが繼之助は自藩の微力を以てこの要路に立ち紛亂の過中に投ぜらるるの賢策ならざるを察して藩主に建言して所司代職の辭任を力說した。かくて藩主は辭職して江戸に還り後閣老職となりしも亦間もなく之を已めた。

元治元年秋繼之助年三十八、抜かれて郡奉行となり後四年にして累進して家老上席となつたが行くとして可ならざるなき彼の快腕は竟に藩政改革に劃時代的の大英斷を揮ふに至つた。以下之が大略を述べて見よう。

一、水窩地の處分　所謂免稅地の整理にして代官、元締等の請托不正を矯めて年額六千俵の增收を得たと傳へらるるが當時彼が牧民の心得として萩原貞左衞門を誡めたるものに

民を安ずるは恩威にあり、無恩の威と無威の恩は二つながら無益、基本は公と明とにあり。公けなれば人不怨、明かなれば人不欺、此の心を以て善と惡とを見分け賞と罰とを行ふときは何事か無不成。

有才人徳なければ人不服、有徳者も才なければ事不立、老兄は立事の才餘りありて人を服するの徳は御不得手の様被存候間誠を人の腹中に置くの御工夫御油斷無之様偏に所庶幾なり。過言失敬は不私事と御海容被下候

とあるを見れば彼の用意を知ることが出來る。かくて彼は數多の治水工事を完成し、山中騒動と稱する一揆を鎭撫するなど領内の統治改善に面目一新を計つ

た。

二、賄賂の弊を杜絶す　彼の郡奉行となるや代官一同を集めて曰く

各々方は役目とはいひ乍ら日夜領民の爲めに心思を勞せらるる段、繼之助の深く感謝する所なり、自分は今度郡奉行を拜命せるものの初めての役柄とて行届かざる廉多かるべければ今後の事に就ては何呉れとなく助言を與へられたく、自分も亦氣付の點は遠慮なく打ち明かすべし。就ては兼々聞き及べることあり、各々方は様々の名義にて下々よりの贈物を受納せらるる由、種々に取沙汰する者あれども自分には各々方の私欲に出でたる所爲とは思はれざるなり。要するに上よりの御手當不足にて勤向き難澁の爲め心ならずも斯る事に及べる者ならんが、誠に氣の毒千萬の次第なり、不肖ながら繼之助も此の職を奉ずる以上各々方と同心一體ともいふべき身の上なれば斯く打明けて言ふなり、元來如何程の取上げあらば御役向に差支えなきや、今日の處は遠慮なく申出でられよ、何分の盡力に及ぶべし。

一閃直ちに肺肝を衝く。やがて一同が今迄の恩賜にて毫頭差支なき旨の答あるや彼の對策は秋霜の如く、竟に從來の弊風たる賄賂を一掃した。また彼の非凡なる政治振りの躍如たる一例である。

三、奢侈の風を矯正

四、新に寄場を設く　從來の牢獄の外新たに寄場と稱する懲役場を設け博徒の如き領分拂、組拂、村拂等の刑者を收容した。其制は髪を五分刈と爲し、牢服を柿色に定め一見有刑者たるを知らしめたもので日中は夫々の勞役を課して其勞金中より食費を控除し殘餘を積立て放免の日に與えて正業に就くの資たらしめ夜は一堂に集めて心學本を聞かせて修養を説いた。而して彼は一殺萬生の法を立てて逃去者に對しては斬罪に處したが、彼の創めし獄制は今日に於て尚學ぶべきもの多く其勸善懲惡の道を講ずるや現時

の所謂教誡師制度の如き一片の形式を遠く絶せるものであつた。かくて彼は賭博の弊風を痛く慨して「目あかし」に二十五俵、其手下に五、六俵の手當米を給して禁制の勵行を期し時に自ら變裝して領内を巡視して之が徹底を心懸けた。その積年の弊風打破に心膽を碎きたるの並々ならぬ苦心を察すべく、かくて民風一變せしことは勿論であつた。

五、毛見制と稱する納米制度　を改め、信濃川の通船に對する河稅及「株」の特權を廢し、遊廓廢止を斷行し次々の改革に萬難を排して藩制是正の一筋を辿つた。孰れも近代思想の機會均等を實際政治に施したるもので彼は實に虐げられし庶民階級解放の第一線を切りし勇者として不朽に傳へらるべき偉人であつた。

六、財政整理　これ彼の最も留意傾心して事に當りしものの一つであつた。當時藩の財政大に窮乏を告げ居りたる事とて蒲原郡吉田村今井孫兵衛に縋りて百石高の士分に取立を要件として五萬兩の才覺に出でんとせし程であつた。しかも繼之助の當局となるや鋭意諸種の改革に出で着々として財政整理の實效を擧げて長岡落城の砌正金十一萬を數ふに至りしもの先づ彼の努力に歸せねばならぬ。

七、兵制改革　繼之助渾身の精力を傾到せしものは實に兵制の改革であつた。彼は大規模の操練場を設けて佛蘭式の下に精鋭比類なき兵器を以て藩中の壯丁を教練し其成績大に擧り他藩の追隨を許ざるものあるに至つた。さり乍ら兵制の洋式化は當時藩中に於ても大に異論あり特に劍隊、槍隊の如き最後まで頑強に彼に楯を突きて屈するなかりしことは現存者槍隊先頭小林翁が余に親しく語りし所である。しかも繼之助の剛腹なる一身を挺して之が改革の任に當り諸種の規則さへ定めて強行の用意を怠らなかつた。これやがて戊辰役に際して效果大に現はれ流石の西軍をして長藩武備の完璧に舌を捲かしめしもの偶然でない。

八、祿高改正　兵制の改革は必然的に藩士從來の俸

祿に一大變動を來さしめ百人の祿を減じて千人の祿を增す底の外科的大手術の斷行に出でた。かくて慶應四年三月一日藩主忠訓は歸藩卽日老主雪堂（忠恭）と俱に藩士一同を召見して繼之助の祕策の披露をした。當時繼之助は出府して留守であつたが此處にも彼の苦心、彼の用意を想ふべき節がある。さて先づ祿高の減高を見んか、從來の二千石は五百石となり千三百石より千百石までは四百石となりたるが如く、而してその增高を見んか從來の九十七石は百石に、九十石並に二十五人扶持は九十五石となりたるが如くである。以て其改正の激變たるを想像し得べく當時發表されし「御意書取」中に「當今は不容易形勢に至り不堪慨嘆唯々恐入候事に候、此時に當り疎才薄德の我等何を以て奉公致可哉　只管一統の力に依賴し人心一和共に忠勤致し度」云々とあり「添書」には「今般被出候條々御治世以來の重大事件に候得共方今至當の御儀不被爲得止よりの御英斷可奉感佩候」云々とあり物議の計り難きを察して一向に改正斷行の已み難き至情を愬へし事流石に當路者苦哀の存せし所であつた。

以上は河井繼之助の試みた藩政改革の大略であるが其一を擧ぐるも並大低のものでない。內に改革を斷行して力を外に張らんとせしは彼の素願であつたが今や經綸の一端は實現せられ新時代の黎明は力强き希望の光を投げて彼の前途を照し始めた。しかも決死藩政の大改革に當りしこの一代の剛俠兒も時潮の意外なる奔流に捲込まれては情緒の亂るることあるも是非なき次第であつた。

六　長藩苦境に立つ

勢と申者程可恐者無之候とは前揭彼が郷野嘉兵衞に寄せたる感慨であつたが、今や德川十五世二百六十年に亘つて築かれたる大磐石も時代の流には堪へ難くして大動搖を來すに至つた。卽ち慶應三年十月十四日慶喜は大政奉還の奏文を奉つて謹愼の意を表するに至つたがこれ各藩に取つては眞に靑天の霹

蹙、裏面に何等かの事情伏在しての事ならんとは以心傳心に思惟せられし所であつた。兎もあれこの飛報の長岡に傳はるや繼之助は心中大に決する所あり一は徳川氏年來の情誼に酬ひんが爲め、一は天下政情の安定の爲め且つ長藩の無事をも計つて、公武の間に斡旋し以て時難の拾收を試みんと欲して藩主忠訓に進言し積極行動に出でんとした。素より藩論には繼之助のこの献策に大なる異議はあつたが彼は群議を排して自説を通し竟に十一月二十五日には忠訓は繼之助を始め六十餘人を率ひて江戸の藩邸を出發して上洛するの段取となつた。

之より先、十二月八日朝廷に於ては諸侯諸藩士を集めて大改革の善後策を議したるに慶喜は其議に與からず、剩へ翌九日には三條以下の諸卿、長州以下の諸藩主の官位を復したる外薩長兵の九門の固めを命ぜらるる等の事ありしに反し會桑二侯は從來の地位を追はるるに至つた。かくて會桑二藩の憤懣は極致に達し形成日に非にして公武合體の如き竟に行はるるの望もなく、爾來薩長の跋扈は日毎に增長して事態は繼之助の快手を以てするも如何とも收め難きの勢であつた。二十二日繼之助は藩主名代として議定所に出頭し建言書を奉呈せしが中に左の言辭あり、時局に直面せる彼を偲ぶべき資料である。

今日之形勢徒らに攘夷の不出來者分明仕候儀、然らば則ち朝廷にと先後之御命令御通徹と申す御儀にも無之乍恐御反省可被爲在御事と奉存候。總て朝議より出候のみにも有之間敷尊王之名に托し攘夷攻戰を唱へ候輩より多くは此に至り候儀と奉恐察候是等の人民唯今に至り猶唱攘夷候哉、自己の明暗を不省先後之反覆を不恥して猶ほ徳川氏のみに責を歸し候は仁義有道之人々と可申哉。

名を尊王攘夷に托して朋黨比偶を計るものを痛撃して餘すなく、その卓落の言、明澄の論は再唱三唱すべきでないか。さて其後の薩長對會桑の確執は茲に贅言するまでもないが伏見、鳥羽の開戰より白熱

的抗爭となり繼之助が百方奔走して時局の圓滿收拾を計りしも素より小藩を背後地としては竟に策の行ふべき術もなかつた。しかも大勢は動く所に動きて漸く安定の色あり、各藩は略恭順の意を表して敢て反抗せしものとてなかつたが何故か獨り東北藩は朝敵視せられ竟に有栖川熾仁親王を征討總督として東北征討に向はしめらるるに至つた。これ慶應四年一月九日である。かくて事態は刻々として彼の豫想を裏切つて險惡化し來るに及び彼は藩主に歸藩を乞ひ自らは後事に善處せんとした。而して藩主は二月二十日江戸を出發し三月一日歸藩した。

藩主忠訓の歸藩は内藩政を統べ外大勢の傍觀にありて敢て他意なきことは察するに難からざる所であつた。しかも當時長岡藩の向背は西軍に於て大に疑問視せられしものと見え三月十六日高田に招集せしめられた北越十一藩の重臣會議の當夜督府より長岡藩へ布達されし「兼て御沙汰相成候通、兵隊御用候間國力相當の人數早速高田表に可被差出候、同所へ參着の上御指揮之旨可有之事」は果然一藩を窮地に陷らしめた難題であつた。而してこの難題は使節植田十兵衛の拒絶する所となつたが更に一難來つて植田を大に當惑せしめた。卽ち軍資金三萬兩の献納を五日間内に確答すべき強要である。茲に於て彼は卽刻旅裝を整へて歸藩し善後策の協議に出でたが藩論容易に纏まらず結局に於て當時歸藩せし繼之助の意見に從つて之が拒絶に決するに至つた。蓋し繼之助の意中は西軍北下の日に於て自ら使して長藩の微衷を開陳して事を和平裡に決せんとしたるに在りて彼の誠心と彼の意氣とを以てせば亦無理からぬ仕打でもあつたらう。さり乍ら運命は竟に繼之助を去つた。長藩の再度の不順應に對しては西軍をして彈上の反感を招かしめやがて黒田了介、山縣狂介を參謀とする大軍は四月二十一日高田を發して山海兩道より進行しつつあつた。かくて長藩も亦座視するを得ず繼之介の所謂獨立獨行主義に據り領民保護上是非もなく竟に出兵を決し四月二十六日繼之助は總督として

全藩の安危を双肩に荷ふて蹶起した。因つて彼は本陣を攝田屋付近に定めて一切の陣容を整へつつあつたが會々三國嶺に在りし會軍は西軍と交戰して敗れ海道の桑軍も亦利あらず、小千谷、柏崎は西軍の掌中に落ち、小千谷はその本營となつた。已にして西軍は長岡封疆に迫り、會桑二藩は頻りに長藩の蹶起を促せしも繼之助は固く執つて嚴正中立を失はず、かくて外二藩には心事の程を猜せられ内自藩血氣の士の焦慮を買つて今や彼の苦衷は悲痛の最高峰に達した。

さり乍ら竟に骰子の投ぜらるる日は廻つて來た。五月二日繼之助兼ねての志望もあり、黎明を期して挺身小千谷の西軍本陣に至り委曲を盡しての折衝を試みしも總ては水泡に歸し「日本國中協和合力、世界へ無恥之強國」たらしめんが爲めとて少時の猶豫を乞ひし歎願は總督府へ取次がるる由もなく卽座に一蹴された。惟へ、男兒死を以て使して恥かしめらる。西軍の意圖恐らくは長藩に對し挑戰すること豫定の筋書なりと見らるべく、彼が祕策全く敗れたるの身を以て今や砲火に賴るに至る寔に已むを得ざる歸趨でないか。

七　繼之助の死

小千谷談判破裂して長岡藩の開戰に決せしは五月四日であるが已に開戰と極りし以上會桑二藩と共同作戰に出づることは已むを得ざることであらう。而して東西兩軍の兵力を見んか。東軍は約五千、西軍は二萬數千、しかも西軍は後援の斷えざるものあるに拠て加へて海上偉力の侮るべからざるありて戰果は已に戰前に於て分明して居つた。さり乍ら繼之助の志は勝敗の奈何を問ふに非ずして曲直の奈何を明かにするにあつた。故に素より瓦全を恥ぢて玉碎を選むだ。

繼之助慨然として曰く、我藩一意誠意を表す。薩長の鼠輩彼れ何物ぞ、漫りに王師の名を假りて我封土を蹂躙し以て私憤を漏さんとす、今は

是非なし、瓦全は意氣ある男兒の恥づる所、公論を百年の後に俟つて玉碎せんのみ。

これ酒井貞藏氏の筆錄に係るもの、正に繼之助の磊塊であつたらう。かくて第一戰は榎峠の嶮路に於て開かれた。榎峠は長岡を距る南方三里餘にありて前に大信濃川を擁し斷崖屹立小千谷に通ずる唯一の要害で爭奪戰には兩軍共可なりの犧牲を拂つたが特に五月十二日夜霧深き旭山の亂鬪は悲愴を極めしものあり、西軍の驍將時山直八は此一戰に殪れ東軍をして一時大に振はしめしこともあつた。

榎峠は東軍の死守する所、俄に抜くべからざるを察したる西軍は故らに敵の主力を此處に集中せしめ、別に竊かに一軍を河西より迂回せしめ十九日拂曉激流を犯して信濃川を渡河、竟に長岡城を陷れた。卽ち全市は一瞬時にして火海と化しその慘虐無殘は今に傳へて市民の忘るる能はざる處である。かくて形勢の急轉に詮方なく繼之助は敗兵を城東の悠久山に收めて森立峠に據らんとした。悠久山は牧野家中興の英主忠辰を祀るところ、遙かに城樓の燃上を眺むる彼及び將士の感慨や奈何なりしぞ。森立峠は長岡を距る東二里、椽尾に通ずる山道の要地であるが繼之助は諸隊長の意見を採りて兵を椽尾に集めて再擧を計るの賢策なるを察して森下峠を退くに至つた。

之より彼は長岡城の恢復に專念して寸時も已まず竟に今町、中之島を攻略し大黒を襲ふて意氣大に揚り戰鬪五旬日に亘りて城下に迫つて來た。しかし東軍のこの憤發は朝廷を驚かしめ更に中納言西園寺公望を抜いて北陸道總指揮官たらしめ、以て壓力を彌上に重ねしむるに至つた。彼は七月一日本營を柏崎に進め次で長岡に移して大に士氣の鼓舞に努めたが七月十五日には更にまた仁和寺宮嘉彰親王は北越征討總督として柏崎に來るあり、西軍の勢威日に加るに反し東軍は連日の戰鬪に次第に寡勢となり行くのみであつた。かくて東軍の勝味は敵の機先を制して戰を一擧に決すにあるのみ。因つて繼之助は周到の用

意を以て作戰を立て智力、財力、物力の一切を傾けて長岡城の奪還を策した。七月二十四日暮六つ半、竟に進軍の三番太鼓は全軍に鳴り渡り十七小隊六百十二人の勇士は總督河井繼之助を頭目として靜寂の暗を衝いて懷かしき死の長岡城を指して出發した。而してその行程には八町沖の大沼澤あり、連日の豪雨は之を泥海と化せしめ渡渉に大難澁を來し楷子戸板を以て潛行して行きし苦難の如き今に傳へらるる所であるが、全軍の渡渉し了るを俟つて一齊に攻撃に移り奮戰大に努めたる結果竟に長岡城を恢復した。かくて市民の大歡呼裡に夫の感激の都に入ることを得たがその大黒の決戰の如き眞に屍山血河、犧牲の大なりしを想ふべきである。

長岡城の恢復は疾風迅雷、一夜にして決せられたが流石に繼之助の峻敏奇鋒の面目を發揮せし獨壇場であつた。總指揮官西園寺、參謀山縣の纔に身を以て逃れしが如き西軍狼狽振りの奈何を傳へられしも此時であつたが、不幸繼之助自らも重傷を負ふて進退の自由を失ひ全軍の活動意の如くならざるに至つた。繼之助傷つきて後の東軍の形勢は云ふに忍びず、竟に七月二十九日の長城はまた西軍の手に落ちしこと是非なき次第であつた。かくて彼は軍病院たる昌福寺に移り、轉じて見付に逃れ更に八月三日吉ケ平に達し竟に五日會津領只見村に着いたが創傷漸く重く滯留數日、前進して鹽澤村に赴きて館を捐てた。時に慶應四年八月十六日、卽ち荼毘に附して一時若松建福寺に葬つた。

× × ×

五月十八日、小林翁を煩はして榎峠に臻り行々地勢を按じて當年東軍苦戰の跡を偲び轉じて悠久山を訪ひ遙かに八町沖の舊跡をも展望した。悠久山は繼之助が敗兵を收め來りて牧野氏社廟に額づきて熱涙滂沱、誓つて長城の奪還を期せしところ、今や地勢變じて公園となる。余等一行の到りし時會々幼童五六十の來りて新綠の下に嬉々として遊び狎れてゐたが、恐らくは戊辰役勇士の曾孫も交へられてゐた事

であらう。一隈に豐碑あり繼之助を弔ふの長辭を刻す、文は方谷門下の同僚三島毅の選に繼之助の全面目を描くものに庶幾し、銘に曰く

憂國讜議　忠定焉恥　學儒善戰　文成惟似
時乎不幸　遭此亂離　唯護民已　何避躬危　唯
防賊已　何犯王威　礪磊心事　天知地知

然るに之が篆額「故長岡藩總督河井君碑」を筆せしもの當年西軍の參謀黒田了介(後の伯爵黒田清隆)たるを見ては意外の感に打たれざるを得なかつた。素より私情を以て敢て之を云ふのみ、さり乍ら長岡藩中人なきに非ざるべくせめて一代の剛俠兒繼之助をして地下に瞑せしむるに一片の純情を捧ぐべきではなかつたか。他に類例あるを以て辯疏するあらば遺憾である。事大思想の征服にありとせば猶更に悲しまねばならぬ。せめてこの剛俠兒丈けは鄉黨に誇る維新の風雲兒蒼龍窟其儘であらしめたかつた。辭して榮涼寺に到りその墓を訪ふにあはれ墓石は風虐雨打、之を久うして顧みられざるものの如く、忠良院殿賢道義了居士の法名は「先祖累代之墓」の相伴として微かに刻まれしに過ぎざるに復た意外の感に打たれた。憶ふに彼の四十二年の生涯は「全か無か」の選擇的爭奪戰に緊張し切つたものであつた。而して彼自らは正義の全を握り得ずして死の無を甘受した。時難にこの剛俠兒を憶ふ、無感激、無理想の現代の打開に豈徒事ならずとせんや。

(附記)文中援用は今泉鐸次郎氏著『河井繼之助傳』に據る。

新々經濟政策實施後に於ける勞農露國の狀勢

――「國本」第七卷第四號（昭和二年四月一日）所載――

一　前　言

露國革命以來既に九周年、此間共産黨の絶大なる努力は對内的には次第に國内の秩序を恢復して、勞農政權の基礎を固め、破壞せる産業を復興して戰前の狀態に近接せしめ、對外的には、巧妙なる外交的手腕と、惡辣なる赤化宣傳とに依り、着々として勞農政府の國際的地位を向上せしめ、今や米國を除く外列强は正式に勞農政府を承認し、世界の凡ゆる問題に容喙する迄の地位を獲得するに至つた。

然るに西歐資本主義諸國は、其後着々戰後の傷痍より恢復し、政治的にも將又經濟的にも、漸く安定狀態に入りたる結果唯一の希望たる世界革命實現の妄想も遂に幻滅するに至れるを以て、此後は只管國内に於けるソヴエート政權の權威と信用とを固め、且資本主義列國と、經濟的にも政治的にも克く對抗し得るだけの實力を涵養する外途無きに至つた。而て國内復興事業を觀察するに、農業に於ても、工業に於ても、今日迄主として帝政時代より繼承せる技術的基本設備の範圍内に於て進展し來りたる結果、昨今に於ては、舊來の基本設備の使用し得るものは悉く使用に供して殘す所なく、專に今後の發展の爲のみならず、現在の復興狀態を維持せんが爲めにも、全然此等基本資本の恢復に俟たざるべからざるに至り、而も之に要する莫大なる復興資金を缺如せる結果、國民經濟全般に亘り殆んど行詰りの狀態に陷つ

たのである。

斯かる内外の情勢より來る悲況に際し、資本主義諸國の包圍内に於て、よく勞農國家を保持せんが爲めには、一意「富國强兵主義」に依りて局面を打開する外なしとなし、昨春從來の主義主張の大部を放棄し、「社會主義は貧困の上に成長せず、資本の蓄積は罪惡にあらず」と號し、一擧所謂新々經濟政策を採用し、之に依る國民の蓄積を吸收して、將來に於ける發展實力涵養の資に供せんと努力するに至つたのである。而して其結果果して彼等の豫期する方向に進展するや否やは、今後の經過に俟たざれば適確に知るを得ざるも、以下該政策實施以後一年有餘半の業績を略述し、以て將來を判斷するの資に供せん。

二　新々經濟政策採用の原因

（一）

勞農當局は襲に内部よりは軍事共産主義政策の結果として發生せし一般經濟上の破綻並に國内の大饑饉に促され、外部よりは唯一の希望たりし獨逸革命の不成功に關連せる西歐資本主義の復興に促され、所謂一時的「息休め」のため新經濟政策を實施したことは周知の事實である。然れども一九二一年該政策實施後と雖も、共産黨は依然として西歐資本主義諸國が近き將來に崩壞すべきを期待して止まず。此の見地よりして新經濟政策の實施を、主として都市及工業地方の範圍に止め、農村に對しては單に强制徵發を單一農村稅に變更し、且狹範圍の個人商業を許容したるのみで、昨年初頭迄トロツキー派の主張せる對農民政策即ち、農民に對する壓迫の手を緩めざる方針を持續し、依然として軍事共産主義的傾向を有する行政手段を行使し、過重なる累進的課稅を實施し來つたのであつた。

爾來四年、此間農村の狀勢は著しく變化し、加ふるに對内、對外的爾他の原因と相俟つて、到底從來の對農民政策を以てしては、政治的にも、經濟的に

も勞農政權の權威を維持すること能はざるに至り、一昨年春斷然新々經濟政策を採用して、農民に對し政治的にも、經濟的にも、後退讓歩政策を採るの止むなきに至つた。以下其原因に就て述べん。

（二）

第一は農民の政治的積極傾向である。軍事共産主義時代、全然プロレタリアートの犧牲となり、其膏血を搾取せられし農民は、新經濟政策の實施と共に、自己の生産品の一部を商品として市場に提供するの可能を與へられたるを以て、凡ゆる外部的障碍を排除、着々其經濟を回復し、遂に一昨年度に至りては、戰前の七二%を占むるに至つた。

而して農民は經濟的に發展するに從つて、益々勞農政權の彼等に加ふる各種の壓迫と障碍とを感ずること甚だしく、加ふるに過去に於てプロレタリアート政權の爲め蒙りたる過大なる壓迫と犧牲の歷史的記憶は、農民をして、政權に對する極度の不滿と反感とを抱かしむるに至り、此一般的不滿反感は、彼等の政治的覺醒を促し、遂に一昨々秋に於ける全國農村に亘る農民のソヴエート選擧忌避、勞働通信員の暗殺及高架索に於ける農民反亂等の政治的運動を惹起し、更に進んで、都市勞働者の職業同盟に對抗して「農民同盟」を組織し、政治的に共産黨を壓倒せんとする積極的傾向すら示すに至つたのである。茲に於て勞農當局も此政治的傾向を重大視し、之が對策として農民に對する共産主義的强制壓迫手段を解除し、無所屬農民の政權參與を許し、村落に於ける自治權を擴張し、農民と共に政權を維持する手段に出たのである。

（三）

第二は農村に對する階級爭鬪政策の失敗である。

前述の如く、農村經濟の漸進的進展は、一面に於て農民の政治的覺醒を促せしと共に、他面に於て農村に於ける資本主義的階級分裂を促進したのであ

る。蓋し共産黨は其主義上、農村に於ける貧農を自己の味方とし、中農及富農を有産階級として之を壓迫し、或は經濟的に發展せる餘裕ある農民の雇傭勞働者の使用を、資本主義的搾取なりとて之を禁止し或は農民に對し彼等の經濟力の及ばざる耕地を餘力ある農民に賃貸せんとする自然的經濟現象をも阻止する等、凡ゆる手段を以て貧農と有産農との經濟的結合を阻害せしため、能力なき貧農は自から耕作する力なく、さりとて他に雇はれて生活することも出來ず、遂に破産するの止むなきに至つた。他方能力ある者は次第に各種の壓迫を排除して自己經濟を開發する結果、貧富の差は益々大となり、共産黨の目的に正反對なる資本主義的一般傾向を助成するの結果を招來した。而も其結果は、從來扶殖せられたる階級爭鬪の念を捨て、反對に有産農と同一立場を持して、共産黨に反對するの傾向を生じたるのみならず、農村一帶に生じたる失業者の一部は、職を得んがため、續々都市に集中し、都市失業者の數を激增した。之に對し共産黨の採るべき唯一の對策は農村經濟全般、殊に中流以上の農民に對し、今日迄加へたる一切の束縛を解除し、之を自由發展即ち資本主義的發展に委すのみならず、之を積極的に支援し、以て失業農民を收容せしむるより外に途が無かつたのである。是れ新々經濟政策の最初の具體的方策として、農村雇傭勞働並土地賃貸を許した所以である。

（四）

新々經濟政策採用の他面の原因は、國際關係と工業復興資金調達問題とである。

前述の如く、共産黨は、新經濟政策採用後に於ても、近き將來に於て世界革命の勃發を期待して止まざりしが、其後西歐諸國の情勢は、着々戰爭の傷痍より恢復し、實際に安定的狀態に向つて進み來り、唯一の希望たりし世界革命實現の妄想も遂に幻滅するに至つたのである。從て今後長時間に亘つて、資本主義諸國の包圍内に於て、唯一の勞農國家を保護

せんが爲めには一意「富國強兵主義」に依りて局面を打開し、よく彼等に對抗し得るだけの實力を涵養するの外途無きを切實に感ずるに至つた。

抑々共産主義の根本たる正當の分配は、充分なる生産力を有し、充分なる所謂「商品」を有せざる間は、到底實現し得るものでない。過去に於けるが如く、人口の八割を占むる農民の生活狀態を改善せず、單に都市工場の發達に依りて勞農露國を救はんとするは、木に緣りて魚を求むるに等しいことである。

勞農當局も亦此處に着眼し、「我等は僅かに五百萬人を算する勞働階級の間にのみ生産力を增進せしむるも、一億三千乃至一億四千萬の人口を有する国家全體にとりては、單に一部分的發展に過ぎない。全國の勞働能率を增進し、全國に亘りて資本蓄積の實を完全に擧げんが爲めには、工業生産力の增進のみに止らずして、農民の生産力をも增進しなければならぬ」と叫ぶに至つた。蓋し農民が自己の需要を充するに足る範圍内の生産を行ひつつある間は、彼等の生産は國家の爲には空にして、農民が其耕作地より、市場に提供する爲の商品を生産するに至つて、初めて農村經濟は國家經濟の一要素として、價値を生じ來るのである。而して現下此生産力を增進するが爲めの捷徑は、赤貧洗ふが如き貧農を直接援助して生産力を增加せしむべき方法を講ずるよりも、先づ富裕なる農民を援助して、大量生産に從事せしめ、此等に漸次貧農乃至失業者を收容せしめ、次で國家全般の生産力を增加せしむる方法を講ずるより他に方途が無い。

（五）

飜てソヴエート政權に對する經濟的基礎たる露國工業の情勢を觀察するに、革命以來工業の復興、勞働者の生活改善に奮闘した勞農當局は、其努力に依り、最近工業方面に於て幾多の事績を擧げたるは事實なるも、而も其程度たるや、舊帝政時代の遺物たる工場に於て、革命の慘害を免れたる機械を使用し

て、漸く秩序を恢復したるに過ぎない。將來の發展否現狀の維持をなさんがためにも、新工場を建設し、新式機械と生産原料とを購入しなければならぬ。而も之が資金調達のためには、外國資本を利用するか、將亦自給自足の外ない。然るに現在の國際關係は、大體に於て、列强は、勞農露國に對し經濟對鎖の共同戰線を採りつつあるを以て、遽かに露國の希望を充たす能はず、勢ひ立國の根本たる農業の振興に依りて資金を得るより外に方途がない。

抑々露西亞共産黨の指導する所謂プロレタリアート獨裁政權の經濟的基礎の中堅を爲すものは、都市勞働者の從事せる工業である。革命以來總てを犧牲に供して迄も、工業の復興に全力を傾注し、今日に至るも尚農業國たる露國に於て、依然として工業本位の根本方針を捨てざるは之が爲めである。

茲に於て彼等は先づ農民に金を貯蓄せしめ、將來其蓄積を國家の手に吸收し、以て各方面の復興資金に充當し、飽く迄工業本位の國家の基礎を堅めんと決心するに至つた。

（六）

以上略述せる其現象は因となり果となり、遂に勞農當局をして、一昨春一擧に新々經濟政策を斷行せしむるに至つた。爾來二年半、國內の情勢は未だ彼等の希望する方向に進展せず、却て內政上幾多の重要問題を惹起し、殊に彼等の希望する工業の發展は、農業の復興に伴はずして、常に跛行狀態を呈し、「工業品饑饉」の現象は依然として去らず。而も其結果は農村市場を破壞し、穀物買付作業の失敗を誘致し、延ては輸出入計畫に齟齬を來し、國內一般の復興作業を遲滯せしめたるのみならず、結局勞農經濟關係の不均衡は、勞農の政治的阻隔を誘致し、ひて國內に重大なる事態を惹起せんとして居るのである。

從て勞農露國當面の緊急問題は、工業發展の速度を更に增大し、此の勞農經濟上の跛行狀態を速に修正するにあるが、果して工業發展の可能性を有する

や、是れ勞農露國の將來を判斷する爲め極めて重要なる問題である。

三　工業發展の可能性

（一）

最近に於ける勞農露國工業發展の速度を數字を以て示せば凡そ次の如くである。

戰前の生産能力に對する比率

一九二一年　一八・〇%
二一―二二年　二三・〇%
二二―二三年　三一・七%
二三―二四年　四〇・〇%
二四―二五年　七二・〇%

斯くの如く工業が最近非常なる發展を示したるは、全く國内の需要に促されたるものであつて、一般國民經濟及國家企業が漸次戰前の狀態に向て接近するに從ひ、工業品に對する需要は益々激增し、到底現在の工業生産力を以ては此需要を充足し得べからざる狀態にある。斯くて國民經濟の全體に亘つて、工業の發展を要求する事痛切なる今日、工業が果して今後此要求を充足せしめ得る程度に發展し得るかは大なる疑問となつて來た。左に工業發展の可能性を考察せん。

（二）

抑々勞農政府は一九二一年以來舊帝政時代よりの遺産として繼承せる工場其他の技術的設備の範圍内にて復舊策を講じて來た結果、現在既に此等舊工場の技術的設備の使用し得るものは悉く使用に供して殆んど剩すところなく、今後の發展を期せんが爲めには、新に工場其他の設備を增設するより他に途なきは、勞農當局數次の言明に依つて明かである。從て勞農政府にして前述の如く一般國民經濟の要求を充たさんが爲めには、先づ工場設備を增設するを要する。然れども工場設備の擴張增設は短日月に實施

し得らるべき問題でなく、之が爲めには莫大の資金と長年月を要する。今日迄の如く、在來の工場に修理を加へて之を運轉するが如き簡單なものでない。從て今後の工業發展を期する先決問題は、工業設備擴張資金の調達である。而して之を得るの途は、外國よりの信用貸に依るか、緩慢なる國内の經濟的蓄積に依らなければならぬ。而して勞農政府が果して外國より工業資金の信用貸を受くべきや否やは、今後に於ける露國對歐米資本主義諸國との國際關係に俟つべきも、現況よりして當分大なる期待を囑することは出來ない。

然らば第二の方途たる國内蓄積の可能性を觀察するに、財政方面に於ては一九二四年の通貨の整理改革と共に、財政機關は從前に比し著しく堅實性を加へたるは事實である。然れども國民經濟全體としては、從來常に缺損的なりし經濟が、現今漸く收益的傾向を示し、勞農當局の所謂「蓄積の道程」に一歩を踏み出さんとするに至つたに過ぎないから、近き數年間に於て莫大なる工業擴張費を提供し得るが如きは、到底夢想することが出來ないのである。此過渡期に處して工業の發展を幾分なりとも助成し、尠くも戰前の程度に近接せしめんが爲めには、主として生産の技術的手段を擴張し、勞働者の作業能率を增進するより他に途がない。

（三）

然るに勞働者の情況を觀察するに、近時彼等の怠業缺勤は日を追うて甚だしく、其一例を示せば、紡績機械の運轉休止率は三八―四九%に達し、全勞働者の缺勤怠業率は平均一七%に達し、夏季に於ては二七%に達して居る。卽ち夏季に於ては毎日勞働者の四分の一强が缺勤する勘定である。最高經濟會議中央統計局の調査に依れば、重要國營工業に於ける就業勞働者數は一九二四年十月より一九二五年九月迄に三十一萬五千人增加し、更に一九二五年十月より昨年二月迄に十五萬六千人增加し、總數百九十三

萬六千人に達した。然るに其就業率は却つて一昨年度よりも減少する傾向を示すに至つた。本件に關し當局は、勞働市場に於ける資格低下の結果、工業主は年度始めに於て、必要なる勞働者を得んが爲め、資格を選定する餘裕なく勞働者を吸收した。卽ち「質」を吸收せずして「數」を吸收した結果、勞働者は全く無經驗なる生産に從事し、單に作業軍紀を破壞するのみならず、屢々熟練職工に惡影響を及ぼし、其結果一般に怠業率を增加せりと說明し居るも、其根本は勞働者の優遇、特に勞働保險制の結果と思考せられる。卽ち勞働保險制に依り彼等は病氣缺勤せば、所要の保險金を得べきを以て、故意に僞病をなし、醫師を强迫して診斷書を調製せしめて缺勤せる有樣にして、最近當局が缺勤者四百名に就き其家宅に醫師を派遣して調査せる結果を發表せるが、之に依るときは

五五人　宿舍の届出不正の爲め家宅を發見し得ざる者

六二人　家に鍵し外出しある者

一五七人　家内にありて他の仕事をなし居る者

二七人　病氣の程度輕微にして檢査を要する者

九八人　其他の者、卽ち先づ缺勤の理由ある者であると。以て其一端を窺ふ事が出來る。

（四）

茲に於て、彼等は先づ勞働者を激勵し、其生産力の增加を計り且其質を向上せんと欲し、一般に對し嚴重なる訓令を發すると共に、最近勞働法規の改正を審議しつつある。其要點を示せば

一、相當の理由なくして、一ケ月連續三日間怠業缺勤せる者は解雇す。

二、勞働者及事務員にして二ケ月（從來は四ケ月）病氣其他に依り缺勤したる場合は解雇す。

三、前記に依り解雇せられたる者は五ケ月を經過せざれば復職を許さず。

四、從來土曜日曜及祝日の前日は六時間勞働なりしも、今後は土曜日のみとすること。

五、從來五ケ月半以上勤務せる勞働者及事務員は、一ケ年に二週間以上の休暇を與へられしも、今後は十一ケ月以上勤務せる者に對し一ケ年一乃至二週間の休暇を與ふること。

等である。

然れ共既に熟練職工を缺き、職業同盟の勢力增大し、怠慢安逸に傾ける勞働者を驅って、作業能力を增大せんとするも、依って得る所は極めて僅少なるべきは豫察するに難くない。

（五）

更に國民經濟と密接なる關係を有する鐵道輸送に就て觀察するに、勞農政府は一九二二年以來歐洲大戰及革命時代に於て、極度に破壞せられたる鐵道を復舊せんが爲め、「總てを交通機關の復舊のために」との標語の下に、數年間至大の努力を傾注し來りたるも、資金缺乏の關係上、僅かに一部機關車を外國より輸入せし外は悉く在來の設備及材料の範圍内に於て、進展したるのみで、根本的修理並新設及擴張の方面には全然及ばなかつた。斯くして今日に於ては、其使用し得る凡ゆる鐵道設備及材料を悉く使用に供し、辛うじて戰前に對する五〇乃至六〇%の鐵道輸送能力を發揮し得るに至つたが、之と同時に他面に於ては、此等材料及設備の破壞率は時と共に增大し、最近に於ては此が根本的修理及補充を要求すること益々急で、若し今後依然として此方面の要求を充足せざる場合には、現狀維持すらも困難なる狀態に立ち至ったのである。殊に一般國民經濟は既に戰前の七〇乃至八〇%に達しあるを以て、現在の鐵道輸送能力は此等各方面の國民經濟の任務を遺憾なく遂行するが爲め極めて不充分なる狀態にある。

茲に於て勞農當局は一昨年以來五ケ年計畫を以て、鐵道設備及諸材料の復舊事業を企圖せるも、之が實現の爲めには凡そ十五億留の經費を要する故、

今後五ケ年間の鐵道の純益を悉く之に投ずるも、漸く其半を充足し得るに過ぎない。從て勞農露國は鐵道復舊事業の爲め、今後毎年莫大の補助金の支出を餘儀なくせらるるも、而も現在の財政狀態に於て斯くの如き莫大なる支出を許さざるは明かである。加之假令鐵道財政上の範圍内に於て復舊事業を繼續する場合に於ても、復舊事業に當るべき工業殊に主として金屬工業の如きは、一般市場の要求を滿足せしむるに急にして、交通當局の適時に注文せる鐵道材料を其契約期限内に調製する能力を有せざる爲め、鐵道の財力の許す範圍内の復舊事業さへも意の如く實施すること不可能なる狀態にある。從て露國鐵道は、當局が如何に急速なる復舊事業を講ずるも、尠くとも近き將來の四五年間に、飛躍的復舊成績を示し、戰前と同一なる輸送能力を發揮し得るに至るべしとは、到底豫想し難い所である。殊に西伯利鐵道の如き、革命以來全然放置せられ、現在僅かに彌縫的修理に依り、一週二回の歐亞連絡列車を運行せしむるのみにて、而も屢々轉覆、破壞事件を繰返しあるは周知の事實である。從て爾他の狀況を別とし、單に鐵道輸送能力の點よりするも近き一兩年間は、勞農政府が夫の日露戰當時の如く極東に向て大輸送するが如きは、到底豫測し得ざるところである。

（六）

之を要するに一九二一年以來、勞農露國工業は主として帝政時代より繼承せる技術的設備の範圍内に於て、戰前の程度を目標として復舊に努力し來つた結果、現在に於ては稍戰前の程度に近接せるも前述の如く之と同時に、帝政時代より繼承せる基本資本は殆んど剩すところなく使用し盡したるを以て、今後の發展は主として工業の基本設備擴張に俟たなければならない。而も之が爲めには、外國資本の援助なき限り、依然として國内經濟の自力的發展に依るを要するを以て、工業は恐らく今後數年間には到底急速なる發展を見ることが出來ないと思はる。

四　復興資金捻出の可能性

（一）

現在勞農露國の國家經濟は工業、農業其他全般に亘りて其生産手段たる基本資本の改造擴張に俟たざれば、今後の發展を期すること不可能で、而も此等復興に要する資金を缺如せる爲め、國民經濟全般が殆んど行詰り狀態にあり、而も此局面を打開せんが爲めには、唯一の捷徑である外國資本に依るを便とするも、現今は列國の財政封鎖政策に遭遇し、其實現困難なるを以て當分自力的手段に依り國民經濟の行詰り打開策を講ぜざるべからざるに至りたるは既述の如くである。之が爲め勞農政府は、一面に於て農村經濟其他國家經濟の全般に亘りて、從來の共産主義的政策を放棄して、之を或程度迄資本主義的發展に委すると共に、他面に於て國民經濟の此自然的發展に依りて現はるる資本主義的經濟蓄積を、課稅、内債並に其他の金融機關等の手段を以て吸收集積し、斯くして得たる資力を國庫支出及銀行其他の信用手段に依りて工業、農業其他各方面に適宜に配置するより他に途無きに至つたのである。然して此等機關に依り幾許の効果を齎し得るやは、極めて重要なるを以て、左に其概要を觀察せん。

（二）

勞農露國の國家豫算は最近四ケ年間に於て三倍の增加を示した。卽ち

一九二二―二三年度	一、三三六、三〇〇、〇〇〇留
一九二三―二四年度	一、九二一、七〇〇、〇〇〇留
一九二四―二五年度	二、四七八、五〇〇、〇〇〇留
一九二五―二六年度	四、〇三九、〇〇〇、〇〇〇留

革命以來難澁を極めたる勞農豫算も、最近漸く無缺損的となり其堅實性を加へ、從來の如く紙幣の發行に依りて豫算の不足を補塡するを要せざるに至つ

た。一九二二年度に於て豫算の九五%を紙幣の發行に依つて補塡せし時代に比すれば、長足の進歩である。然れども豫算の内容に至りては甚だ疑はしきものありて、現に一昨年度（十月より翌年九月に至る）豫算案の如きは昨年四月漸く決定せる有様にして、而も爾後穀物買付作業の失敗より、輸出入計畫に齟齬を來し、昨年夏全般の支出に對し一割天引を實施したるが如き、又昨年度會計年度の既に四分の一を經過せる昨年末尚未だ年度豫算の決定を見ざりしが如きは其例で、如何に豫算編成基礎の不確實なるかを語る一證である。然して今假りに此等の數字を正確とするも、之と同時に國内各方面よりの要求も益々增大しつつあり、就中重工業、交通機關其他の産業は今後當分莫大の復興補助費を要求すべく、之に加ふるに近來勞農露國の國際關係は、將來帝政時代以上に軍備の充實を計る必要を感じつつあるから、所謂赤色軍國主義實現の爲多大の國防費を要すること明かである。從て將來此等の要求に應ずべき財源の有無に就て觀察するに、現在國民納稅の負擔は最大限度に達しあるを以て、今後は全然國内一般經濟の振興に俟たざれば、課稅に依る國家の收入を增大することが出來ない狀態にある。從て勢ひ課稅以外の國家收入を計らなくてはならない。而して非課稅收入の主要なるものを擧ぐれば林業、漁業、地下富源の開拓、國有地の利用であるが、自然富源の尨大なる露國に於ては、殆んど無限の可能性あるも、資本の缺乏と經營組織の不備とに依り、現在此方面よりの國家收入は、其富源の大なるに比すれば極めて僅少である。卽ち

一九二三―二三年度	四二、〇〇〇、〇〇〇留
一九二三―二四年度	一六六、〇〇〇、〇〇〇留
一九二四―二五年度	二六〇、〇〇〇、〇〇〇留
一九二五―二六年度	三七二、〇〇〇、〇〇〇留

である。然して其成績不良なる主要原因は全く國營企業機關の組織の不完全に依るものなるは、今日

迄勞農當局が屢々漏らせるところである。從て現狀を以て國家收入を增加すること極めて困難なる狀態にあるから、勞農當局は近き將來に於て、自然富源開拓事業の方面に於ても、農村に於けるが如く、共産主義的制度の撤退を餘儀なくせられ、資本主義諸國に於けると同樣なる企業組織及經營方法を採用せざるべからざるに至るものと觀察される。

（三）

一九二三年の幣制改革以來、露國の通貨は漸次安定を加へ、現在約十二億留の通貨を有して居る。而して勞農通貨を維持する最重要手段は、勿論相當なる保證準備金の蓄積にあるが、現在露國國立銀行の準備金は二億四千五百萬と稱せられて居る。之を戰前に比すれば著しく減少せるを以て、勞農當局は近年盛に國內採金業を奬勵し居りて、一昨年度の如きは殆んど戰前に近き一千八百布度の採金量を得たと稱せられて居る。然るに昨年度輸出入計畫の失敗より、前半期に於て著しく輸入超過の傾向顯はるるや、最近二三年間稍安定せる通貨も著しく下落し始め、通貨に對する信用再び薄らがんとした。茲に於て當局は大に狼狽し、極端なる輸入制限を實施すると共に、極度に國內外國正貨の流出を防ぎ、辛うじて之を防止し得たるも、他面に於て輸入制限に依る國民生活に對する壓迫甚だしく、延いて勞農の結合を破壞するの因を誘致するに至つた。

（四）

國民經濟の資本蓄積作用を觀察するに、之を的確に數字を以て立證すべき材料を有せざるも、全般の情勢より推測するときは、國民經濟全般としては未だ蓄積の域に達せざるも、工業、商業、農業其他各方面に於ける資本主義化の傾向は、各方面に於て、部分的に資本主義的蓄積現象を示して居る樣である。此の蓄積を吸引せんが爲め、當局は各種の債券を發行しつつあるが、最近發表する所に依れば、昨

年四月一日には總額五億四千萬留に達し、一昨年四月の二億七千萬留に比し、約九割七分の增額であると稱して居る。尚目的の爲め手段を選ばざる當局は、債券募集の爲め、最近貧乏人が割增金附債券に當り、一擧に十萬留の金持ちになるといふ筋書のフイルムを作製し、大に債券販賣の宣傳に勉めて居る。私有財産を否認した共産政權の治下に於て、此の喜劇フイルムが大喝采を博しあるが如きは一種の皮肉である。

然れ共勞農露國國民收入程度に關し、勞農當局の發表する所に依れば、國民一人一ケ年の平均收入額は

米國　六二六留　佛國　三四九留
英國　四一三留　伊國　一六五留
獨逸　二三三留　露國　五一―六五留

であると。從て此蓄積を基礎として發展すべきクレジツト事業の一般を窺ふことが出來るのであつて、勞農當局が企圖する如く、國民の蓄積に依つて露國の復興を策するも、其進展の程度は極めて微弱にして、近き將來に於て勞農露國が戰前の水準面を越えることは先づ不可能事と觀察せられる。

五　外國貿易と國内商業の不統一

（一）

勞農露國の復興狀態を觀察するに最も便利なるは、絶えず外國貿易の狀況を觀察する事である。蓋しソヴエート制度の獨立を擁護する爲めの對資本主義經濟爭鬪の一樣式として、外國貿易の國有を實施し、恰も一家の主婦の如く其收支を國家の手に於て規正しあると、現在各國は今尚對露貿易に於て信用取引を開始しあらざるを以て、國内必需品を買ふ爲めには、金塊、穀物、木材其他國内生產品の剩餘を外國市場に輸出し、之を外國貨幣に代へ、以て所要の物品を購入するを要する。換言すれば物々交換であり、現金取引であるからである。從て輸出入貿易の一進一退は、國内自力に依る復興の狀態を語つて

居ると、今一は勞農政府の統計なるものは極めて疑はしく、自己の都合に依り始終變更訂正せらるる形跡あるも、外國貿易は所謂外國相手の數字なるを以て、比較的正確なる數字を發表しあるからである。

（二）

最近數年間に於ける勞農露國外國貿易の狀態を、戰前に比較すれば次の如くであつて、彼等が發表する如く、農業、工業其他一般國民經濟が、戰前の狀態に近接せんとしつつある今日、獨り外國貿易が著しく退歩しあるを看取し得るのである。

卽ち一九二〇年より二二年末迄は、主として在來の金貨或は古鐵を投出して、國內必需品を買ひ、以て復興の基礎を造つたのである。次で虎の子視せる金貨も殘り尠なくなりし頃、幸にも新經濟政策の結果顯はれ、殊に二十三年より二十四年に亘りては、農業品と工業品との價格のひらきも尠なくなり、且新經濟政策に依り解放せられたる個人商人の活躍に

年度	輸出	輸入	計	差引
	一、四二一百萬留	一、二二一百萬留	一	一
一九一三—二四年度	三七〇	二四〇	六一〇百萬留	△ 一三〇百萬留
一四—二五年度	三五五	四〇六	七六一	▲ 五一
二五—二六年度	四〇八	四五九	八六七	▲ 四六
二六—二七年度	四九九	四五二	九二四	△ 七四

△は出超　▲は入超

依り、農村と郡市との商業關係も改善せられたる結果、穀物も相當輸出せられ、外國貿易も先づ順調に進んだのであつた。然るに二十四年頃に至ると、個人商人中に多數のブルジヨアを生じ、且つ個人商人が殆んど市場を獨占するに至りたるを以て、當局は此資本主義的傾向に驚き、之を壓迫したる結果、再び農村と都市との商業關係圓滑を缺き、農民は所要の工業品を購入すること能はず、從て穀物の賣惜みをなし、政府の穀物買上作業に頓挫を來たし、漸次入超を來すに至つた。

然るに將來莫大なる復興材料を要すること明かであるが、之が購入の先決問題としては成るべく多量の穀物其他を海外に輸出するにある。之が爲め既述の如く對農民政策を緩和して、富農援助政策を採り、再び個人商人を許容して穀物買付作業を容易にし、且外國貿易獨占に伴ふ幾多の弊害を除き、一昨年以來最大の努力を傾注して、外國貿易の振興を計つた次第であつた。然るに此等の努力否豫想は直ちに蹉跌を生じた。

（三）

新々經濟政策後、勞農當局は昨年度の豫想收穫を過大視し、左記の如き輸出入計畫を樹て、一意穀物買付作業に從事したるところ、事實は豫期に反して、買付意の如くならず、到底豫定量の買付困難を看取したる當局は、昨年初頭に至り輸出入計畫を左の如く縮少するの止むなきに至つた。

	（輸出）	（輸入）
一昨年七月末決定	一、一〇五、一五一、〇〇〇留	一、〇〇九、六七八、〇〇〇留
昨年一月初旬訂正	八一七、四一五、〇〇〇留	八〇二、八九〇、〇〇〇留
昨年一月下旬再訂正	七三〇、〇〇〇、〇〇〇留	六五、〇〇〇、〇〇〇留

本數字を一見するに其額は前述の輸出入總額を超過する事甚しく一の机上の空論に過ぎざるは明かに

して穀物の輸出は非常に少額にして之れがため、國營工業其他一般國民經濟に大なる影響を及ぼし、特に輸入資源に依る製造工場等の如きは、遽かに業務縮少の必要に迫られ、延ては勞働者の解雇となり、國家全般の經濟計畫を縮少するの餘儀なきに至り、新々經濟政策實施後第一に於て既に著しい失態を演ずるの止むなきに至つた。之が爲め國家豫算に迄影響を及ぼし、政府は全國に亘りて財政緊縮の大宣傳を開始して、各省各部の經費節約を強要し、全支出の一割天引を斷行して收支の辻褄を合はすに汲々たる有樣であつた。殊に輸入制限に伴ふ工業品不足の狀は、農村に於ける購買力の增加と相俟ちて、未曾有の工業品饑饉の狀を呈し、殊に庶民の需要最も大なる綿布類の如きは、其の不足最も甚だしく、モスコー市内政府賣店門前の如き、數十人の列をなす者今尚跡を絶たざる有樣である。殊に農村に於ける工業品饑饉と物價騰貴とは一層甚だしく、其結果は農民の不滿を買ひ、餘剩穀物を賣却するも所要且相當の工業品を購入し得ざる彼等は、寧ろ穀物貯藏に依り、貨幣貯蓄に代へんとする傾向を生じ、さなきだに困難なる政府の穀物買付作業を、一層困難ならしめ、此等は因となり果となり、勞農國家財政並國民經濟を脅威するの結果を招來したのである。

（四）

之を要するに、農村に於ける剩餘穀物は、勞農當局唯一の財源であつて、之が買付作業、輸送、輸出を圓滑ならしむることは、勞農露國國家經濟上の最大重要問題である。蓋し農村より穀物を得んが爲めには、農村に對し必需品を廉價に且充分に供給せざるべからず。而して必需品を得んが爲めには、都市勞働者に充分の給養と、之に要する資源を工場に與へざるべからず。而も其資源を充分に得んが爲めには穀物を海外に輸出し、外國より之を得ざるべからず。此農村、工場、外國貿易の三角關係は平凡なるが如きも、此間幾多の矛盾を藏し、實行上極めて困

難であるからである。特に外國市場に於ける價格を基準として買上る國内穀物と、外國より輸入せる工業品價格とは、農村に至るに從ひ値びらきを生ずるは自然なるに、所謂士族の商法たる國營機關の弊害は冗費を增加し、農業品と工業品との價格に益々ひらきを生じ、所謂鋏狀物價の狀態を絶へず現出して居る。殊に勞農露國に於ける一般國民經濟漸く戰前の狀態に近づくに從ひ、工業品に對する需要は急速に激增したるにも拘らず、他方工業生産力は此等の需要を充足するに足らない。而も之と同時に、前述の如く勞農政府は外國貿易獨占權を把握して需要品の不足を自由に輸入せしむる資力無き爲め、同内に於ける工業品饑饉の聲は時と共に增大しつつある。

（五）

對策としては工業品を不足ながらも、廣く一般勞農需要者に、安價に且平等に行渡らしめんが爲め、從來官僚的商事機關たる國家商業機關並コーペラチヤ機關に對する競爭者として一昨年春個人商人を許容せることは周知の事實である。然るに新商業政策に依りて活動を許容せられたる個人商人は再び活動を開始せるも、而も個人的利益を眼目とせる彼等は、當局の豫想を裏切り、單に國家の商業的調節機關として受くる薄利に甘んぜずして、却て工業品の不足に乘じ商品の買占を行ひ、小賣値段を煽り上げ、加ふるに當局は財源の不足を補塡せんが爲めに消費稅を引き上げたる結果、物價騰貴を誘致した。莫斯科に於ける工業品騰貴の情況を示せば次の如くである。

年　月	物價騰貴の指數（%）
一九二五年八　月	三八・二
九　月	四五・二
十　月	五六・五
十一月	六二・一
十二月	六九・二

（六）

要するに農村工場間の連鎖を國營商業及コーペラチヤのみに依れば、所謂士族の商法は需要者に滿足を與ふべき物資を圓滑に供給すること能はざるのみか、經費增大の結果物價騰貴し、所謂コーペラチヤ倉庫には物資堆積しあるも、農民は一物も手にする能はざる結果を招致する。而して個人商人に依らんか、投機的手段のため同じく物價騰貴するのみならず、各所に成金者を簇生する危險がある。此種のヂレンマは革命以來數次繰返されたるところで、今や個人資本を解放して久しからざるに、再び此辛き經驗を嘗むるに至つたのである。然れ共其主因は歸するところ國內需要に對する物資の供給著しく不足して居るに在る。從て勞農政府にして國內需要に應ずる充分なる物資の供給に成功せざる限り、此種のヂレンマは反覆せらるるものと觀察せられねばならぬ。只最も恐るべきは、工業品に對する農民の需要を滿足せしむる事出來ざる結果は、都市と農村との商取引を破壞し、此の經濟上の斷絶は、延いて政治上の斷絶を誘致し、再び勞農の協力を破り、所謂勞農國家の基礎を危くすることである。

六　共産黨の內訌

（一）

新々經濟政策の産んだ勞農露國內政上の重要問題は共産黨の內訌事件である。抑々勞農露國に於ては、共産黨以外の政黨は全然之を認めず、若し共産黨以外に政黨の萌芽を認むるときは、反革命分子として根底より剪除するに毫も假借する所なく、又黨中黨を樹てんとする凡ての現象も、黨の規律、統一を維持する必要上嚴禁するところである。

蓋し勞農露國に於ける共産黨員は、同國に於ける所謂特權階級にして、一億數千萬の舊露國民を敵と

し、被搾取階級とし、此等との絶へざる戰鬪に依り、今日其政權を維持して居るのである。從て此の大衆を相手とする唯一の軍隊たる共産黨が、一致團結を要求するは自然の勢にして、各黨員は嚴肅なる黨規に服し、黨の決定に對し絶對服從の義務を要求せられ、恰も戰場に於ける軍隊の如く、黨指導部の命令指令に依りて、彼等の手足の如く活動する事を要求せられて居る。然れども實際に於ては十月革命前より常に若干の內訌は繰返されたるも、新經濟政策採用後、特にレーニン死去後に於て、黨內に一種の暗流を生じ、時と共に露骨且深刻化するに至り、殊に一昨年末の共産黨大會を期して、遂に破裂暴露するに至つた。

（二）

新經濟政策採用後、勞農露國一般の情勢は、外列強の經濟的封鎖政策依然として變化なく、內經濟上の壓迫は日を逐ふて甚だしく、到底現狀に依りて露國の復興望むべからざるに鑑み、次第に新農民政策を緩和し、貧農援助より中農援助に移らんとするの止むなきに至るや、共産黨の現方針に慊焉たるトロツキーは、一九二四年十月「十月革命の課程」と題する一書を著述し現幹部の方針を批難し、全然反對の意思を發表した。茲に於て、新經濟政策採用以來繼續せられたるトロツキー對幹部派の抗爭は再び猛烈となり、カーメネフ、スターリン等各々自己の意見を公表してトロツキーの意見を駁するあり、一方に於ては農民の現政府に對する反感、工業資本の缺乏に基く經濟的窮境、英露新協商の破棄等は右兩者の論爭を更に助長せしめた。

茲に於て幹部派は全力を盡して反トロツキー宣傳に從事したる結果一九二五年一月十七日共産黨中央委員會議に於てトロツキーに對し左の決議を敢てするに至つた。

一、共産黨員は單に黨の規律に服從するのみならず、レーニン主義に對する一切の反對行動

を全然無條件的に放棄する義務ある旨をトロツキーに警告すること。

二、赤軍の指導者にして、全共産黨の支援なき時は軍紀の弛緩を招來するを以て、斯かる指揮者の在職を許さず、從つて今後トロツキーは革命軍事會議に參與せしむべからず。

三、トロツキーの共産黨中央委員會參與の可否に就ては次回の黨大會に於て決定す。

斯くの如くして、新經濟政策實施以來幹部派に對し絶へず抗爭し來りしトロツキーも遂に失脚するに至り、茲にトロツキー派の飛躍も一段落を告げたる觀ありしも、之れ單にスターリン、トロツキー兩首領の權力爭が、トロツキーの失脚に依りて一段落を告げたので、根本的な諸問題は一も解決せられず、更に第二の内訌事件を惹起せるは後述の如くである。

（三）

第二の重大なる内訌は、一昨年十一月露國共産黨第十四回大會に於て暴露したるモスコー派とレニングラード派との抗爭である。スターリン、ルイコフ、モロトフを中心とする中央委員會多數派と、ジノウイエフ、カーメネフ、サハーロフを中心とするレニングラード派との正面衝突である。

抑々兩派の論爭の中心は對農民政策である。一昨年春採用したる新々經濟政策に對する可否問題である。莫斯科派は現下悲慘なる國民經濟問題を解決し、且露國の復興を行はんが爲めには、人口の八割を占むる農民殊に中農と握手し、彼等の經濟を發達せしめ、之が蓄積を利用して一般復興資金に流用する外途無しとなし、從來の貧農援助政策より、中農援助政策に進んだのである。之に對しレニングラード派は、新經濟政策採用の結果一般經濟は復興したるも、他方資本主義擡頭し、既に都會には到るところネップマン充滿しあるに、更に新々經濟政策採用後に於ては、村落には大農跳梁し、社會主義の實現前途遼遠なるものがある。スターリンは中農との提携を主

張するも、現在露國には中農と稱すべきもの殆んどなく、中農保護は事實大農保護にして、現に農村には社會主義を奉ぜさせる二千二百萬戸の獨立經濟ありとて、農村のブルジヨア化を指摘し、農村に於ては飽く迄貧農を本位とせざるべからずと主張して止まない。

此の兩派の論爭は第十四回大會の第一日より正面衝突をなし、レニングラード派は問題毎に悉く幹部反對の態度を採り、未曾有の混亂中に閉會するの止むなきに至つた。

（四）

本會議に於て反幹部的態度を一層明瞭にした一派が更にある。前者の左傾團體なるに反し、後者は極端なる右傾團體である。本團體は一名バクー反對派と呼ばれ、メドウエデフを中心とし、財政及內外貿易省內に多數の同志を有する。

彼等の主張する所は、現在の勞農露國の經濟政策を否認し、現在の政策を以て露國の復興を望むも所詮實現不可能なるを以て、復興に要する莫大なる資金は宜しく外國資本に仰ぐべし。之が爲には外國資本家に對し無制限に利權を提供せよ。現下露國の經濟狀態より考ふる時は、破壞せられたる工業の復興の爲めに要すべき資本を提供すべき外國資本家に對し、多大の犧牲を拂ふも、之を近き將來に於て露國の工業及農業が當然陷るべき所の破滅に比すれば、極めて微々たるものであると主張し、更に外國貿易の獨占に反對し、露國にして所要の復興材料を得んが爲めには、現在の獨占制度を廢して、關稅制度に改むべしと主張したのである。殊に彼等は第三インターナシヨナルの政策は事實上小ブルジヨアの集團を造りつつある事實を指摘し、更に進んで、共產黨は獨立の政黨として存在の價値なし、宜しく社會民主黨と合併すべしとさへ極論するに至つたのである。

要するに前記二團體は、黨の根本方針たる新經濟

政策を中心として、一は以て黨の墮落を誘致せる原因と稱し、他には斯くの如き中途半端の愚策より寧ろ利權を解放して、國際資本の前に兜を脫げと主張してゐるものの、共産黨の政策に反對し、黨幹部の專横に對する不平の點に於て、兩者共同一の立場にあつたのである。

（五）

以上の狀態に對し、スターリン一派の多數派が反對派を逐次排除し、自己の味方を以て黨の一致團結を求むべく努力するは自然の勢にして、彼等は言論機關獨占の利益を擁して盛に反對派攻擊の宣傳に從事せること茲に約一年徐々にジノウイエフの地盤を切崩し、彼の聲望を失墜せしめ、漸く昨春レニングラードソヴエート會長の要職を奪ひ、更に昨年七月、共産黨中央委員會政治部より彼を放逐し、更にラシエウイチ、カーメネフ等を失脚せしめ、再びスターリン派の勝利に依つて、抗爭の一段落を告ぐるに至つた。然れども、理論と實際との相違より生ずる幾多の矛盾に對する黨員の煩悶、之に起因する各自見解の差異、並に幹部間の軋轢、暗鬪等幾多の原因を包藏する共産黨の內訌は、一トロツキー、一ジノウイエフの失脚を以て其禍根を絶滅せしむること能はざるべく、更に第三、第四の內訌事件を繰返すは明瞭である。

要するに勞農露國に於ける共産黨は、他の文明國の政黨と異なり、一種の思想團體であると同時に同國に於ける政權そのものである。從て政權の鞏固なる基礎は獨り鐵の如き一致團結に依りてのみ維持せらるるのである。黨の結束の弛緩は政權威力の減少を示し、それだけ共産黨否國家の根底を破壞すべき反對黨の擡頭を意味するものである。實に共産黨の動搖は黨の動搖にあらずして、勞農國家の動搖である。而も內訌は日を逐ふて深刻且複雜となり、一步一步勞農政權の基礎を緩め、プロレタリアート獨裁政治の民衆化を強要しつつある。黨の分裂分派は正に時

日の問題なりといふも過言ではない。勞農黨局が將來如何にして此の難關を切抜け得るか、或は若し黨の分裂を來したる場合、勞農政權が如何に移動するやは、殊に興味ある將來の問題である。

七　外資吸收政策の失敗

（一）

勞農政府の對外政策は、謂ふ迄もなく、世界革命を以て根本とし、マルクスの直傳に依る階級鬪爭の觀念を高調して、世界各國の無産階級を叫合し、一擧に社會革命を起さしめんとするにある。從て十月革命と同時に祕密外交文書の公開を主張し、舊債務の破棄を宣言して、世界資本國に向て一樣に宣戰を布告した。爾後世界赤化運動は先づ敗戰國たる獨、墺兩國より始まり、次に戰勝國たる英、佛、伊各國に及び、程度に於てこそ差異あれ、世界各國共其影響を受けざる國無きが如き有樣であつた。茲に於て歐州戰爭末期以來、各種事情の爲め、過激派に對し隱忍自重し來れる列强も、過激派膺懲の爲め、對露武力干涉に決し、一九一八年六月六日英國軍のムルマン上陸を初めとし、各國共反過激派團體を支持して、過激派討伐運動に熱中するに至つた。然るに戰後に於ける社會狀態の不安に乘じ、實施したる共産黨の赤化運動は着々成功すると、列强の對露干涉の不統一、殊に英國の對露二重政策とは相俟ちて、遂に一九二〇年十一月佛國の南露援助打切りを最後とし、茲に列强の對露武力干涉も何等の成功を齎すことなく終結したのである。

次に一九二一年共産黨も漸く國內外戰を終り、愈々建設の第一步、卽ち理想的共産主義政治の第一步に入らんとせし所、茲に豫期せざる一の大難關に遭遇した。卽ち世界革命は勿論、先づ自己の地盤たる露西亞に於て、共産主義理想の實現否其政權を維持せんが爲めにも、現下自己の敵たる資本主義諸國よりの物質的援助を必要とするに至つたことであ

る。共産黨は最近に至り「社會主義、共産主義は貧乏の上に成長せず。資本の蓄積は罪惡にあらず」と宣傳し居るも、事實此事を痛感せるは既に此時期であつたのである。

爾來勞農政府の對外政策は、目的は同一であるも、其實行方法に於て、世界革命と外資吸收策との二に判然區別せられ、其實行機關に於ても、表面上前者は第三インターナシヨナルの業務とし、後者は政府の事業としたのである。

（二）

爾來勞農當局は、外資吸收政策として、列强に對し通商開始、各種利權の提供、或は飢饉救濟援助等凡ゆる手段を以て經濟的接近を試みたるも、各國共戰後の整理時代なると、共産黨の將來とを顧慮し、未だ所望の物資を吸收するを得なかつた。

茲に於て勞農政府は、年來の希望である正式承認を得て、國家の地位を向上し、對外信用を恢復して、徐々に復興資金問題を解決せんと考へ、此方面に對し努力中、好都合にも一九二四年初頭、英國に勞働黨内閣成立の機會を利用し正式承認を得た。次で佛、伊を初め歐洲各國より逐次正式承認を得、東洋方面に於ては、我國を始め、支那の承認を得たのである。殊に英國とは五千萬磅の借款交涉を進め、漸く目的を達せんとしたるに、例のジノウイエフの書翰事件にて、隱謀暴露し、次で勞働黨内閣失脚し、保守黨内閣成立するや、茲に大頓挫を來たし、信用貸を得ざるのみか、正式承認すら取消さるるの非運に逢着したのである。其後歐洲に於て、夫の有名なるロカルノの保障條約（一九二五年十二月一日）成立するや、一層勞農政府の爲め不利の狀勢となり、數年に亘る勞農政府も勞農政府正式承認なる形式上に於て大成功を收めたるも、列强の經濟封鎖政策の共同戰線を突破することを得ず、依然外資吸收は不成功に終つたのである。

（三）

此の數年間の惡戰苦鬪は、知らず識らずの間に、勞農當局をして、國家主義、帝國主義に傾かしめ、對内政策上逐次國家資本主義を採用すると共に、對外的には、從來の列强接近政策を捨て、積極的には國際聯盟に對抗し、消極的には邊境諸國と修交を收め以て孤立を防がんとし、一昨年末以來非侵略條約締結の政策を持するに至つた。

卽ちロカルノ條約が成立せんとするや、一九二三年以來交涉中であつた露獨通商條約を締結し、次で昨年四月獨逸と非侵略條約を締結して保障條約國を脅威した外、八月三十一日には阿富汗と、九月二十八日にはリトアニアと、同樣の非侵略條約を締結した。其他芬蘭、エストニア其他の邊境諸國にも同樣非侵略條約の締結を慫慂中であつて、又露土兩國外相は再びスデツサに會合し、何事かを議したる模樣である。

八　東方被壓迫民族の解放運動

（一）

第三インターナショナル方面の活動を見るに、革命直後に於いては、戰後各國の社會狀態の不安に乘じ、階級鬪爭の觀念を注入し、盛に革命思想を煽り、殊に戰爭末期に於ける獨墺戰線の崩壞運動、獨逸及ブルガリーの革命運動の如き、殊に鮮かなるものあり、爾後各國社會狀態の安定に伴ひ、急速露骨の手段を穩密手段に改め、徐々に根底を固むる爲、不斷の努力を拂つて居る。其の重なる手段は、

1　職業同盟に依る赤化運動
2　コーベラチヤに依る赤化運動
3　農民同盟に依る赤化運動
4　ピオネールに依る赤化運動

等なるも、遠き將來はいざ知らず、現在に於ては彼等の企圖する世界革命が、此等の運動に依つて今直

に成就するものとは觀察し得られない。然れ共一度彼等の東方政策を觀察する時は、西歐に比し著しく急速度を以て進展成功しつつあることを看取するのである。

抑々勞農の世界赤化の標語は二大別せられ、歐洲に對しては、國際的にして、階級戰の惹起を主とし、亞細亞卽ち東方に對しては、民族的にして、帝國主義を排して、被壓迫民族を解放し、以て各民族共和國を造り、次第に勞農聯邦に加入せしめんとするにある。

（二）

抑々十九世紀以來に於ける世界の歷史は、或意味に於て自由主義、社會主義及民族主義の出現及之に反抗する保守主義の爭鬪史であつた。殊に民族主義は國家の統一及植民地發展に多大の影響を及ぼしたのである。前世紀の初葉奈翁の世界統一主義が失敗に終るや、所謂民族主義は歐洲の思想界を風靡し、此民族的自覺は、民族を根據とする國家の發展を主張することとなり、其結果獨逸及伊太利の統一を初めとし、希臘、ルーマニア、セルビヤ等の諸民族國家を生じ、次で各國共國力充實するや列强は其餘力を以て海外發展に意を致し、民族的帝國主義の發現となり、植民政策に熱中する樣になつた。然るに歐洲大戰直後より、此等民族的自覺は、單に世界の强大國のみに局限せられず、弱小國にも及び、强國内に包擁せられある異民族に及び更に植民地の土人迄るるに至つたのである。斯くの如き狀勢に於て、歐洲大戰となり、露國の革命となつたのである。茲に於て共産主義の大理想に立脚したる當時の過激派は、一九一七年十一月二日の宣言に於て、露西亞内各民族の平等及各民族の自決權を認め、各民族は自由に分離して獨立國を建設し得ると宣言した。而して斯くの如く大膽なる行動に出たのは、數箇月後には世界革命が成就すると考へたると、當時全露統一を旗印として各方面に現出したる反過激派團體に對する各

民族の反抗心を增長せしむる爲め、並びに當時芬蘭、波蘭等が獨立して過激派に弓を引きたるを以て、他に波及するを恐れた爲である。

（三）

然るに爾後世界革命は豫定の如く進捗せず、漸く内外戰を終りたる當時、露西亞はその寶庫とも稱すべきウクライナと僅かに同盟約條を結びたるに止まり、其處に何等の中央集權の實も無く、全露の統一もなかつたのである。茲に於て彼等は全露を打つて一丸とし、中央集權を實現するの必要を感じ、其機會を待ちつつありたるところ、恰も我軍が極東より撤退し、浦鹽政府も倒れ、事實上露西亞領土内に反過激派團體が無くなりたるを以て、對日關係上設立した極東共和國を本國に合併すると同時に、ウクライナ、白露及高架索三共和國を以て聯邦を組織し社會主義ソヴエート聯邦と改稱するに至つたのである。

要するに勞農聯邦の國家組織は、一見合衆國又は獨逸の聯邦組織の如くなるも、實は世界最初の異種民族の統治形式であつて、前述せる世界の反動思想である民族自決主義を巧みに利用し、共産主義なる思想に依りて、異種民族の同化を謀る外、現時各列強の植民政策の骨幹を爲す極端なる同化政策を全然放棄し、彼等に民族共和國なる名を與へ、而も其實を收めたる最も巧妙なる異種民族の統治策である。

（四）

然るに彼等は近來此異種民族の形態を利用し、他國領土の侵略を企圖し始めたのである。

此の目的の爲め造られたる共和國は、極東方面に於てはブリヤートモンゴリ共和國、中東に於てはウズベツク、トルクメン兩共和國、近東に於てはモルダビヤ共和國である。斯くの如く邊境に特種の共和國を作つた目的は、國境に接し他國領土内にある同一民族の民族自決、被壓迫民族の解放を高調し、

彼等を逐次赤化し、帝國主義諸國の壓迫より逃れて、勞農聯邦内同一民族共和國に合併せしめ、或は勞農聯邦に合併せしめんとするものにして、夫のブリヤートモンゴリ共和國は同一民族より成立せる外蒙を赤化せんが爲め設けられたるものにして、現に外蒙が赤化し、支那の羈絆を脱し、殆んど勞農聯邦内の一國の觀あるは周知の事實である。又モルダビア共和國の目的はベツサラビア併合にある。抑々ベツサラビアは地味極めて良好なる地方にして、舊露國の寶庫の一と稱せられたる處なるが、革命當時ルーマニアに奪回せられた。之が回復の爲め勞農政府は一時干戈に訴へんとした程であつたが、佛國の背後に活動する今日、武力行使の不利を悟り、同地方に居住するモルダビヤ人を利用し、民族自決の手段に依りて併合せんとし、之が爲め先年ウクライナの一隅に故意にモルダビヤ共和國なる小國を作つたのである。又トルクメン、ウズベツク兩共和國は、從來此地方にありしブハラ、ヒワ兩共和國を主體とし、一昨年編成換したものである。元來ブハラ、ヒワ兩共和國は帝政時代よりの保護國であつて、革命後共和制となりしと雖も、其社會組織は依然としてアフガニスタン、波斯に近似して居つたのである。茲に於て勞農當局は根底よりブハラ、ヒワ兩國を破壞し、此地方一帶に居住せるトルクメン族、ウズベツク族を分離叫合し、新に民族國家を形成せしめ、更に積極的にアフガニスタン及波斯内に居住するトルクメン及ウズベツク族の民族自決、被壓迫民族解放の精神を高唱し、徐々に中東方面に於ける英國勢力を蠶食せんと企圖するに至つたのである。

又極東に於ては外蒙の獨立に成功したる彼等は、更に隣接したる呼倫貝爾及タンヌウリヤンハイの獨立を策し、前者は將に獨立を見んとし、後者は既に昨夏タンヌ共和國と改稱して獨立せしめたるは世間周知の事實である。

九　支那に於ける赤色帝國主義の消長

（一）

支那に於ける赤化運動を觀察するに、一昨年以來反帝國主義を眞向に翳して、支那赤化運動に熱中したる彼等は、支那學生及廣東政府を支持して、反帝國主義をあふると共に、國民軍を援助して舊軍閥を一掃し、日本及英國の支那に於ける勢力を驅逐し、一擧支那の指導者たるの地位を獲得せんと企圖したるも、昨春に於ける國民軍の敗退は亦如何ともなす能はず、爾來隱忍持久半歲、徐ろに廣東政府の赤化に務めたるところ、最近廣東軍の旗色良好となるや、再び積極的行動を開始したる模樣である。

然れども支那に於ける勞農の活動を詳細に觀察するに、一擧支那の赤化を望むこと素よりなるも、之が達成を期し得られざるを覺悟せる彼等は、寧ろ南支那に於ける廣東軍の活動に依りて、世人の耳目を南方に集中せしめ、徐ろに北邊に自己の堅固なる地盤を構成せんと企圖しあるものの如く、外蒙の赤化、タンヌ共和國の成立、東支沿線に於ける活動は、其の一端を示すものである。

抑々勞農政府の對支那政策の癌腫を成すものは東支鐵道である。蓋し東支鐵道は、勞農露國が外國領土に有する唯一の利權、唯一の所謂帝國主義的施設なるを以て、反帝國主義を標語として支那に臨める勞農政府も、事一度東支鐵道に及べば、表裏共帝國主義を發揮せざるを得ない弱點を有する。此の弱點は昨春來の如く、支那に於ける勞農の旗色漸く振はざる時機に於て、一層明瞭に露はるるのである。以下露國革命後東支鐵道を中心とせる露支關係を略述せん。

（二）

露國革命後東支鐵道沿線一帶の秩序紊亂し、殊に

哈爾賓に於ける勞兵會の横暴と、其破壞的行動とは、一般外國人の生命財産を脅威するのみならず、鐵道長官以下職員の生命財産も亦甚だしく危險となれるを以て、當時の鐵道長官ホルワツト將軍は、支那側と協議し、支那軍隊を哈爾賓に招致して、勞兵會に解散を命じ、其の武裝を解除せしめた。當時利權回收熱にうかされて居つた支那側は、之を端緒として、逐次勢に乘じて利權の回收に腐心せるが、其後オムスク政府崩壞し、東支鐵道の歸屬不明となり、且ホルワツトとセミヨノフとの交涉斷絶の機會を利用して、斷然該鐵道沿線の主權行使を宣言し、殊に一九二一年十月露亞銀行との間に露支條約の改訂を終るや、支那は假令臨時的とは謂へ、東支鐵道の完全なる管理權を獲得し、昔日の主客は全然其位置を轉倒するに至つた。

其間支那は更に勢に乘じ、外蒙の自治取消に成功し、更に呼倫貝爾の自治を取消し、完全に支那の主權下に統一するに至つたのである。

此間勞農側は何等支那の行動を掣肘せざるのみか、一九二〇年九月には舊帝政時代に支那と締結せる諸條約の放棄を聲明して、支那の歡心を求めつつあつたのであるが、其後日本軍の浦鹽及北滿より撤退し、續いて勞農側の極東三洲を併合したる事實あり、此頃より彼等の對支態度は一變し、或は白黨討伐に名を藉りて外蒙に出兵し、或は東支沿線に於ける職業組合を使嗾して、赤化宣傳を行ふ等、漸く東支奪回運動に熱中するに至つた。

（三）

此間支那側の態度を見るに、露國革命に乘じ、北滿に於ける露國利權の奪回を行ひたるも、鐵道そのものの經營は依然舊白黨露人に依りて遂行され、一指も染むる能はざると、回收したる利權も守備權、警察權、司法權等重要なるものなりしも、而も此等權利の行使には莫大なる經費を要し、財政窮迫せる支那側の爲め非常なる苦痛なりしを以て、彼等は如

何にもして收入の大なる利權を回收せんと企圖するに至つたのである。茲に於て彼等は年々數百萬圓の收入ある東支鐵道附屬地に着目し、大正十二年七月、當事の鐵道長官たるオストロウーモフ及土地課長ゴンダツチを壓迫し、一擧東支鐵道附屬地の回收、引續き松花江航行權の回收を企てたのであつた。然るに此亂暴なる利權回收は直接沿線地帶に居位する外國人利害に影響するところ大なるものがあつたから、當時各國領事團の抗議に遭ひ、夫の有名なる土地課封印事件を惹起し、結局支那側は虻蜂取らずに終つたのであつた。次で一九二四年五月露支協定成立し、懸案たる外蒙撤兵を聲明すると共に、反對に勞農側は外蒙の赤化を急ぎ、同年末に至る約半歲の間に完全に之を赤化獨立せしめた。亦同年夏第二奉直戰に際し、張作霖が南方に急にして北方を顧るの餘裕なきに乘じ、國境に兵を進めて張作霖を脅威し、同年九月二十日奉露協定を締結して東支經營權を奪回し、公然北滿の牛耳を握るに至つたのである。實に一九二四年後半期に於ける北滿赤化運動は殊に鮮かなるものにして、外蒙を赤化し、東支經營權を奪回し舊利權に殘るは僅かに呼倫貝爾獨立と、東支守備警察權等の奪回のみとなつた。

（四）

茲に於て勞農側は沿線に或は變裝軍人或はゲペウを配置して萬一に備え、殊に鐵道長官イワノフは東支理事會の無能を利用して、事毎に支那側を無視して專斷を極め、一擧白黨を東支鐵道より一掃せんとして、一昨年五月夫の第九十四號命令事件を惹起し、一時支那側と武力衝突を見んとする迄緊張したのであつたが、竟に支那の讓歩に依つて事無きを得た。次で一昨年秋奉國戰開始せらるるや、蒙古方面より馮玉祥と郭松齡を助けて、張作霖を葬らんとせる外、北滿方面に於ては、寃かに呼倫貝爾の獨立運動を策し、又吳督軍部下の出征に際しては、故意に鐵道輸送を拒絶して軍事行動を妨害し、更に張郭戰終了し、

護路軍部隊の哈爾賓歸迎に際しては、賃金問題を口實として、之が輸送を妨害し、遂に昨年一月中旬東支南部線運行停止問題よりイワノフ拘禁事件となり、奉露の關係極めて險惡となつたのである。

然るに勞農側の露骨なる此等赤化運動、殊に武力併用の赤化運動は、一部支那民衆の反露熱を煽り、殊に國民軍の敗退は勞農の對支地盤に動搖を來した。

（五）

此の困難なる時機に於て、勝に乘じたる張作霖が一擧北滿を衝き、勞農の牙城たる東支鐵道を奪回せんか、勞農の對支地盤は根底より破壞せられるのみか、延ては極東三洲の自衛にも影響すべきを慮れたる彼等は、從來の積極的態度を一變し、或時機迄自己唯一の利權たる東支鐵道を擁護するの消極策を採るの止むなきに至つたのである。殊に昨年三月南方戰局一段落を告げたる張作霖が直ちに東支鐵道沿線都市の市會を奪取するや、勞農側の狼狽一方ならず、直ちに問題の中心人物たるイワノフを馘首し、更に交通次官セレピヤンコフを派遣して張作霖を柔げ、奉露會議の再開を以て張の北滿進出を挫いたのであつた。蓋し彼等の眞意は、張作霖の北滿に對する政策を緩和し、徐ろに陣容を立て直すと共に、他方面に於ける支那時局の推移を待つにあつたから、奉露細目協定を締結する眞意は毫もなく、只之に依つて時日の餘裕を得んとするにあつたのである。從てセレピヤンコフは着滿以來盛に奉露、日露の親善を說き、張作霖に接近して、奉露會議の開催に成功するや、彼は目的の一半を達したるを以て、會議半にして直ちに日本に來り、張の背後に活動しありと信ずる日本の態度を緩和するに勉めた。斯くして彼等は奉露會議の開催に依りて、張作霖の銳鋒を挫くと共に、時日の餘裕を得つつ密かに敗退せる國民軍の立直しに着手し、外蒙を通じて之に物質的援助を與へ、只管支那時局の推移を待ちつつあつた。

（六）

奉露會議の開催に依り、一擧北滿を衝くべき好機を失へる奉天側も、時日の經過と共に勞農側の術策を看破し、直ちに奉露會議を打切ると共に、南口に兵を進めて、未だ陳容整はざる國民軍に對し徹底的打擊を與へ、更に北滿に對しては、東支船舶の奪取、教育權の回收を斷行し、一擧彼等の守勢陣地に肉薄した。

當時南支那に於ける廣東軍の狀勢は勞農側の爲め有利に進展しつつありたるも、未だ大局を支配するに至らざりしを以て、彼等は支那側の亂暴なる利權回收に對しても、斷乎たる處置に出ずる能はず、微溫的抗議をなすと共に、奉露會議の開催に依りて事件の解決を慫慂し、且問題の中心人物たるカラハンを招還し、一意張作霖の意を迎ふると共に、新にチヨルヌイフを代理大使として支那に派遣した。

代理大使チヨルヌイフは昨年十月一日哈爾賓に到着するや、直ちに東支督辨干冲漢を訪問して、東支鐵道問題解決の爲め直ちに奉天に於て會議を開催せんことを慫慂した。然るに干督辨は、東支理事會の存する以上、東支問題は理事會に於て決定すべきものなりとて、彼の希望を斥けたるを以て、彼は何等爲すところなく直ちに奉天に赴いた。

爾來彼は奉天に東支勞農側重要人物を招致し、奉天側に對し奉露會議開催を提議したるところ、先ず第一に大使資格問題にて奉天側の反擊に遭ひ、次で奉天側が會議を奉天に於て開催するの意志無きを聲明するや、彼は二旬を無爲に奉天に送りたる後再び悄然と哈爾賓に引返した。

（七）

之より先東支督辨干冲漢と副理事長サブラソフとは東支問題に關して内協議を重ねたる結果、東支預金露支均分保管問題、從業員露支均分問題、局長權限問題等に關し、兩者の意見接近し、會議の前途

も樂觀せられてゐたが、チヨルヌイフ來哈以來兩者の協議に干渉し、單に東支問題のみならず、東支沿線勞農國籍露人の權利、職業組合公認問題等の政治問題を含む廣汎なる會議の開催を提議せる結果、茲に露支の意見甚だしく疎隔し、會議は遽かに停頓するに至つた。

抑々勞農側の眞意は、此際東支問題に就て若干の讓歩を爲すも、多年の懸案たる政治問題を解決せんとする一方、廣汎なる會議の開催に依りて自然に生ずる時日の餘裕を得、此間南支那に於ける時局の進展を利用して、會議の結果を有利に導かんとする魂膽あるものの如く、之に對し支那側は、本會議は奉露協定に基く細目會議なるを以て、東支に關する細目を議するを以て本旨とすべく、彼等の提議せる政治問題は、既に奉露協定に基く支那側主權の發動なるを以て、本會議と何等關係なく、殊に東支問題と交換的に政治問題を解決せんとするが如きは全く無意味なりとの見解を有した。かくて情勢は到底圓滿なる解決を見る能はずと豫期せられたるところ、支那側も勞農側の誠意毫も認むべきものなきを看取し、斷乎たる處置に出るに決し、昨年十一月十八日理事會を開催して、一擧東支問題を解決せんとせしところ、當日此形勢を看取したる勞農側理事は一人も出席せず、チヨルヌイフ亦當日突然哈爾賓出發北京に赴きたるを以て、支那側は止むなく二十二日理事會開催に決し、且當日の理事會の日程は東支問題にして、而も支那側希望の如く解決すべく、若し會議決裂に依つて生ずる結果に對しては、支那側は其責に任ぜざる旨を最後通牒的通告を副理事長サブラソフに交附した。

（八）

茲に於て勞農側理事は大に狼狽し、直ちに本國に請訓を仰ぐと共にサブラソフは自己の立場に窮し辭職を申出た。時日の餘裕を得るを唯一の目的とせる勞農側は、直ちにサブラソフの辭職を許すと共に、

新に共産黨左派の巨頭にして前陸軍次官たるラシエウイチを任命し、彼の着任迄會議の中止を提議した。彼は一昨年來の共産黨内訌事件に關與し、共産黨左派の巨頭として、現幹部派に反對し、先般の共産黨會議に於て總ての要職を免ぜられ、且二箇年間公職に就くを禁ぜられたる人物であるが、惟ふに勞農當局が故意に彼を起用して、副理事長に任命したるは、最近廣東軍の好況に刺戟せられ、東支問題に關しても從來に比し更に積極的態度を取らんとする前提にあらざるか。

之を要するに、本春以來勞農側は自己唯一の帝國主義的施設たる東支鐵道を掩護せんが爲め、凡ゆる手段を以て張作霖を懷柔し、彼の北邊に對する鋭鋒を挫くに汲々とし、他方廣東及國民軍に對し密かに物質的援助を與へ、彼等の活動に依り支那時局の變轉を誘致すべく、只管時日の餘裕を得るに勉めたるものの如くである。若し張作霖其他にして斷乎として北滿を衝くことありしならんか、勞農の支那に於ける根據は、根底より破壞せられたであらう。

（九）

抑々勞農側が北滿特に東支鐵道に對する執着心を大ならしめたのは、極東三洲併合後の事である。其原因は單なる赤化運動のみにあらずして、實に極東三洲の自衞に關する重大原因が胚胎しているのである。周知の如く極東三州は帝政時代より經濟的に獨立し得ない地方であつて、中央國庫より多大の補助を得て漸く維持して居つたのである。然るに現在の露西亞では到底中央より莫大の補助を與ふる餘裕が無い。從て極東三洲の自給自足の爲めには北滿の物資を要する。換言すれば極東三洲と北滿とを合して初めて自給自足の途が確立するのと、今一つは國防上沿海洲を保持する爲めには、地形上北滿を自己の勢力下に置く必要があることを明瞭に認識して來たが爲めである。若し北滿に於ける支那の勢力が鞏固とならば、忽ち沿海洲は勿論とも支那の支配下に入る

ことを深く考ふるに至つた爲めである。

殊に將來極東の配兵を增加變更し、或は西伯利鐵道の輸送力舊に復する時機到來せば兎に角、現在の極東配兵と西伯利鐵道の輸送力に於ては、一張作霖に對抗する武力を整へることすら非常に困難なると、又經濟上に於ても現下自國内の復舊に急にして、他國領土に投資すべき莫大なる資力なきを以て、一張作霖の鐵道敷設其他の經濟的發展にすら對抗する能はざる狀況にある。現に張作霖が洮昂鐵道を敷設するや、彼等の狼狽一方ならず、筆に口に之が反對宣傳を試みたるも、而も實力を以て之を妨害する能はざりしは、當時の事實が之を證明して餘りある。

（一〇）

之に關連して一言すべきことは最近露國に於て、太平洋問題及北滿問題等の研究盛にして、此等に關する論說が頻々として所在の新聞雜誌に掲載せられて居ることである。其要點を簡單に說明すれば、日本が米國と開戰する場合、自國の資源のみにて不充分で、何より先に石油及鐵に不足する。此意味に於て支那は日本の經濟根據地であるから、平戰兩時を通じ、最も確實なる連絡を設定するを要する。殊に日本が支那海及黃海の海上連絡線を敵手に委したる後に於ても、支那大陸との連絡を確保するため、日本海に端を發した連絡線を必要とする。之が爲め

一、釜山—京城—安東—奉天—天津

二、清津—會寧—敦化—吉林—長春—四平街—鄭家屯—白音太來—熱河—北京

の二線を必要とする。然るに地圖を一見して明瞭なるが如く、此鐵道線は其側面卽ち後貝加爾方面に對して薄弱である。若し大平洋戰の場合、露西亞が米國に加擔して、後貝加爾方面より日本軍を攻擊せんか、日本は非常なる脅威を受くるであらう。之が爲めには、露軍の豫想集中地たる後貝加爾と、日本の生命とする鐵道との中間に、日本軍を進出せしむるを要する。而して其唯一の陣地は大興安嶺である。若

し日米戰爭に關連して日露戰爭が起るならば、先づ日本軍は西伯利に於ける露軍の僅少なると、歐露との連絡が唯一の西伯利鐵道に依る弱點を利用し、開戰と同時に、極東に於て可成廣大なる地域を領有することに努め、且過度の兵力分散を避け、樺太、尼港、デカストリ、イマン迄の沿海洲、興安嶺迄の北滿洲を占領するであらう。而して北滿洲に於ける日本軍の配置は、

主力　興安嶺、東支鐵道を中心として全正面

右翼部隊　墨爾根附近

左翼部隊　開魯附近

別動隊　三姓及イマン附近

である。

（一一）

斬くの如き日本軍の配置を一覽すれば、現下滿洲に於ける鐵道建設の軍事的價値及目的が直ちに明瞭となる。卽ち

興安嶺軍補給用　（一）ウスリー線及東支線
（二）四洮線

兵力移動用　熱河－白音太來－洮南－齊々哈爾－墨爾根線
齊々哈爾－墨爾根線

墨爾根部隊　開魯西方部隊　四平街－白音太來－開魯

三姓部隊　寧古塔－三姓線

ウスリー部隊　ウスリー線

といふにある。

要するに彼等が斯くの如く宣傳する目的は、第一對内的に北滿の價値を知らしむるため、第二には現下日本の北滿進出を防止するの實力なきを以て、日本の北滿及南滿に對する施設の眞目的は、對米作戰の準備なることを廣く宣傳し、米國を利用して日本の北滿進出を防止せんとする魂膽らしく考へらる。特に日本軍の興安嶺進出を殊更宣傳するは、前述の

鐵道網が完備する時は、露軍に比し日本軍が速かに興安嶺を占領する公算大となり、然る時は北滿物資は悉く日本軍の利用する所となり、露軍は作戰軍給養のため、悉くの軍需糧秣を歐露より追送するを要し、從て今後西伯利鐵道の輸送力を最大限に增加するも、日本軍に對抗する軍隊を輸送すること能はずと思考したるに因るものの如くである。

一〇 軍備

（一）

最近西歐資本主義諸國が、戰後の傷痍より恢復し、政治的にも經濟的にも、漸く安定狀態に入るや、勞農當局は近き將來に於て、西歐に於ける革命勃發の希望を斷念し、今後は只管國內に於けるソヴエート政權の權威と信用とを固め、且資本主義列國と經濟的に克く對峙し得るだけの實力を涵養せんが爲めに、共產主義的政策を放棄して迄も、一般國民經濟の發展充實を圖ると共に、今後西歐資本主義諸國の政治的並に經濟的實力益々增大すると共に、此等諸國が一致協力して、國家の政治的經濟的根本主義及制度に於て、全然彼等と氷炭相容れざる勞農國家に對して、早晩挑戰し來るべきは必然なりとなし、且現在歐米及日本に於て、表面軍縮を唱へつつ而も事實上戰備を怠らざるを以て、勞農聯邦に於ても、之に對抗して軍備を充實せざるべからずとなし、此方面に於て着々具體的方策を實施しつつある。換言すれば「富國強兵主義」を以て局面を打開せんとし、所謂「赤色軍國主義」を露骨に發揮するに至ったのである。現に彼等が經濟的困窮の際にも拘らず、左記の如く年々異常なる速度を以て軍事費を增加しあるは、此間の消息を如實に語るものである。

年次	軍事費	增加率
一九二三―二四年度	三五〇、〇〇〇、〇〇〇留	一〇〇%
二四―二五年度	四一〇、〇〇〇、〇〇〇留	一一七%
二五―二六年度	六四〇、〇〇〇、〇〇〇留	一七六%

（二）

現在勞農露國は歩兵六十二箇師團、騎兵十三箇師團と獨立旅團七箇總兵力約七十萬（赤軍五十六萬二千、ゲペウ約十五萬（所謂反革命分子鎭壓軍にして我憲兵の如きもの）を有し、其威容の堂々たる、正に世界の一大陸軍國たるの壯觀を呈して居る。蓋し共産黨が今日國内の反革命分子を威壓し、自己の欲する如く專制政治を實施し、國内の秩序を維持しあるは、全く此の赤軍の御蔭なると同時に、前述の如く將來世界革命を指導せんが爲めにも、亦資本主義諸國の包圍内に於て共産政權を保持せんが爲めにも、右手に「劍」左手に「宣傳」、即ち武力を併用したる赤化宣傳ならずば、目的を達成し得ざる事を熟知しある爲である。即ち戰時共産主義時代に過度に膨張し、一時百萬に達したる赤軍を淘汰し、平時編制に復する際には、當時世界の風潮であつた所謂「軍縮」なる標語を利用して巧みに赤軍を整理改編し、既に赤軍の改編も終了し、愈々内容を充實せしむるの時機到來するや、再び世界の風潮たる經濟的國防主義を利用して單に赤軍の内容を充實するのみならず、更に進んで軍隊外の國防機關の組織改善を計り列强の例に倣ひて青少年の軍事教育の振興を策し、國民皆兵の實を擧げんと必死の努力を拂ひつつある。殊に最近に於ては「國民の軍隊化」なる標語を盛に宣傳し、既に鐵道從業員六十八萬人の軍隊化に着手せるが如き、亦半官半民の航空化學協會を設立して資金を徵收し、民間航空のみならず、空軍の擴張に多大の援助を與へ、目下其會員數三百萬に垂んとして居るが如き其一例である。

（三）

尚「國民の軍隊化」の手段として、軍事學術研究會なるものを全國的に擴張し、單に軍隊のみならず、各農村工場等内に其支部を設け、國防思想、軍事に關する一般知識の普及及研究を行ひ、尚體操、射擊

競技等を實施し來りたるが、近年勞農當局は國際關係上軍備擴張の必要を痛感すると共に、同研究會の改造擴張の必要を認め、昨年七月二十七日、其名稱をソヴエート聯邦國防協會と改め、名實共に完備した勞農の國防普及機關として活動を開始する事となつた。左記は同協会が國防準備に關する決議の要旨である。如何に彼等が戰時を顧慮し、國防準備に熱中せるかの一端を窺ふことが出來る。

一、將來に於ける、ソヴエート聯邦と資本主義諸國との武力衝突に際し、後者は兵力に於ても、亦物質的富源及技術上に於ても遙かに前者を凌駕すべし、故に戰時に際してソヴエート聯邦は、國の全力を擧げ且一切の手段を盡して遺憾なきを期せざるべからず。

擧國一致豫め國防に備ふるは戰捷の要訣なり。而して國防の準備は、聯邦の全勞働者が、一齊に且自發的に之に參加することに依て完璧を期し得べし。又國防準備の實現は國家機關、經濟機關、共産黨機關、職業同盟機關並此等各種團體の組織的協同動作に俟つこと大なり。而して國防準備の要は、ソヴエート聯邦の經濟組織を獨立せしめて自給自足を確保し、最大限の人力及物質的資源を戰勝獲得の爲集中するを得しむるに在り。

二、一の社會團體たる國防協會の第一使命は、國民及國民經濟機關を訓練して戰爭に備へしめ、聯邦の國防能力增進に大貢獻を爲さしむるに在り。而して此の使命達成の爲には、過去に於ける戰爭の經驗及諸外國に於ける戰爭準備の現況を理論的に研究せざるべからず。而して此の研究を進捗せしむる根本要件は、文武兩方面に亘り、適當なる研究家を求むるに在り。

三、大會は、國防準備に關する國防協會の全業務は、將來左の如き方針を以て行はるるを要するものと認む。

A　兵員の訓練及組織上に於て

1　將來の戰爭は其規模甚だ大なるが故に、平時

兵力は戰時に於ける大軍の骨幹とならざるべからず。技術的戰鬪手段の發達及之が應用は唯局部内に人力の代用となり、兵員の節約を許すに過ぎず、同時に戰時に於ける技術兵器の製造及其更新作業は、工業の發展を促すこと大なり。以上の點より之を見れば、國防完備策上の根本問題は、實に國民を訓練して直接戰爭及工業戰に堪へ得るの能力を賦與するに在りと謂はざるべからず。

2　戰爭遂行の爲め、國民に軍事訓練を施し、之を適宜に組織する最良の手段として、ソヴエート聯邦の採るべき方法は、赤軍正規軍を設け、又軍隊外の訓練及民兵制度に依て、廣く民兵を採用し、正規軍と民兵とを密接に連繫せしむるに在り。

3　國家總動員を組織する骨幹は、其幹部なり。故に廣く豫備兵員を練成、組織するのみならず、國家總動員に必要なる幹部を、豫め訓練し置くことを忽にすべからず。

4　現代の戰爭は、實に科學と技術との競爭に外ならず。故に、國家の科學的勢力を適時に訓練して、戰爭に備へざるべからず。

5　幹部養成の問題は、單なる士官學校の擴張のみを以て解決し得るものにあらず。故に此問題解決の爲最善なる方法は

（一）召集前の訓練を適切ならしめ。

（二）學生の服役を特別に規定するに在り。

卽ち、中等學校の學生に對し初步軍事教育を施し、高等學校の學生に對して高等軍事豫備教育を施し、又技術高等學校の學生に對しては、教育科目中に於て軍事技術教育を施し、戰時工業に必要なる有資格技術員の養成を行はざるべからず。

6　軍事技術の發達に伴ひ、指揮官に對する要求益々重きを加ふるを以て、在鄕指揮官と軍隊との連絡を密にし、又彼等の能力を完全ならしむることは、重要なる一問題なりとす。

大會は前記各種の問題に稽へ、國民の訓練及組

織上に於ける國防協會の根本的責務は左の諸項に在りと思惟す。

B　民兵制度上に於て

1　民兵服務の全期間に亘り、民兵部隊の各部に就きて、民兵制度の成績を討究すること。

2　各地方、地方毎に區分する制度並民兵部隊補充に關する研究方案作成上、軍當局に援助を與ふること。

3　經濟上の見地よりする民兵制度の研究。

4　軍隊教育を合理的ならしめ、兵員の軍事知識涵養を保障する問題の研究。

5　民兵の野營召集に關する問題、非召集間並隊外に於ける作業に關する問題の研究。

6　入營前の壯丁、及隊外に於て教育を受くる、殘餘の壯丁に對する前項と同樣の問題研究。

C　一般學校に於ける軍事教育及軍事技術員養成上に於て

1　各軍事研究機關の重要なる使命は、廣く此等の理想を宣傳し、軍隊内にも、亦學生、教育者間にも適切なる輿論を喚起するに在り。

2　國防協會各機關は、高等學校技術學校及中等學校に、速に軍事研究會を組織することに特に注意するを要す。

3　戰時に於ける軍事工業に從事する軍事技術員の豫備員養成の爲、各方面の有資格技術者を訓練する問題の研究。

4　高等學校及技術學校の軍事研究機關に對し、其專門技術に應じて、學術研究所を提供すること。

5　有資格技術者及科學者を調査する方法を講ずること。

6　學校の軍事教育及工業上有資格者の幹部たる工場技師に對する軍事教育に關する問題の研究。

7　國内の技術者を、國防上に利用し應用する問題に關する文書を出版すること。

D　在鄉指揮官に對して

1　在鄉指揮官を、廣く國防協會に參加せしむる

こと。

2　在郷指揮官の軍事智識を、新鮮且つ充分ならしむること。

3　在郷者の一部を、學術研究作業に參與せしむること。

4　在郷者を、軍事研究會の指導者として利用し、又民間に軍事智識を普及せしむる爲め利用すること。

5　在郷指揮官に對し、成るべく豊富に典範令及軍事圖書を供給すること。

（四）

現在の赤軍は一九一八年一月十五日附人民委員會の法令を以て編成せられし以來、其時々の要求に應じて發布せられし法令又は決議に基きて現在に至りしもので、未だ義務兵役其他赤軍に關する一般原則を一括せる法令が無かったのであるが、國民皆兵の實を揚ぐる必要上、一昨年赤軍徴兵令を發布した。其要旨は左の如くである。

一、新兵役法に依れば、義務兵役の範圍を單に赤軍勤務者及豫備兵のみならず、徴兵前の準備訓練期も兵役中に編入した。從て義務兵役は未徴兵者の準備的軍事訓練、現役、豫備の三部類に分かれる。

二、體格上軍事勤務に適する者は悉く十九歳より四十歳迄二十一年間兵役義務に服すること。

三、未徴兵者の準備教育は、青少年訓練（十六歳より）に引續き十九歳より三箇年間毎年一箇月宛實施する。

四、現役服務期間は

イ、常備軍にありては全期を五箇年とし、其内兵科に依り二乃至四年連續服務し、殘期は歸休せしむ。其間に於て二箇月以内の復習教育をなす。

ロ、民兵部隊にありては現役と同じく五箇年とし、此内三箇月間連續服務せしめ、殘期は歸休とす。其間兵科により前後通算五乃至八箇月の

復習教育を行ふ。

ハ、常備軍及民兵軍に入營せしむる殘餘の壯丁は、隊外現役兵と稱し、現役間は同じく五箇年として、其間前後通算六箇月の定期召集を行ひ、所在地に於て軍事教育を施す。

ニ、要するに、體格上兵役に適する者は悉く常備、民兵或は隊外現役兵として、軍事教練を受くべく、所謂徹底したる國民皆兵主義を採用せり。

五、豫備兵役

現役終了者を以て充て、第一豫備(三十四歳迄)、第二豫備(四十歳迄)に分つ。

(五)

尚赤軍の裝備及素質に就て、一言せんに、近時赤軍の裝備は著しく良好となり、歩兵聯隊には野砲一中隊、騎馬斥候隊、工兵隊、化學小隊等の特種部隊並重、輕機關銃の多數を有し、歩兵師團には野砲三十六門、重砲十八門を有し、西歐陸軍國の裝備と殆んど甲乙がない。尚特種部隊に就て言へば、現在赤軍は、

裝甲列車	六一
戰車隊	一四(數一七六)
裝甲自動車隊	三四
無線大隊	一四
鐵道聯隊	一三
航空隊	一〇〇中隊(約一、〇〇〇機)

を有して居る。以て赤軍裝備の一端を窺ふことが出來る。

又赤軍は革命後一時軍事智識並軍紀なき一大烏合の衆に過ぎざるの觀ありしも、爾後國内戰及波露戰等に於て實戰の演練を積み、又舊將校を復歸採用して教育を振興し、特に幹部教育に意を用い、參謀、航空、技術、砲兵其他の各大學(修業年限三年)の他、我歩、騎、砲、工學校に相當する各種學校二十七、士官學校に相當する學校八十二の多數を有して居る。兵卒又舊露軍

の如く盲目的服從は之を認むること能はざるも、革命の信念に基く一面の軍紀は之を認めざるを得ず。殊に當局は軍紀の刷新に全幅の努力を傾注して居る。現時赤軍の缺陷は、幹部の素質低下せると、豫備幹部の數極めて僅少なる事である。過般陸軍大臣は「從來吾人は編制改正、軍制改革等の諸問題に捉はれ、充分幹部の戰術教育に力を盡すこと能はざりしを以て、將來此方面に全力を傾注するを要す」と述べたるが如き、其一端を示すものである。要するに借すに若干の時日を以てせんか、國力恢復と相俟つて、内容外觀とも完備せる一大武力を構成し得べく、彼等の主義宣傳に幾許の顧慮を拂ひたる吾人は、更に近き將來に於て、帝政時代以上の武力的脅威を感ずるに至るべきは想像に難くない。

一一　結　言

（一）

之を要するに、勞農露國の現況は、之を表面より觀察するときは、數年に亘る共産黨の努力に依り、革命の瘡痍より癒へ、漸次復興の途上にあり、殊に彼等の發表する數字に依れば、正に戰前の七〇乃至八〇％迄復興し來り、對内的にも對外的にも、ソヴエート政權の權威を向上し、旭日昇天の勢を以て將來の世界革命を準備しつつある如くである。

然れども、之を詳細に觀察するときは、内憂外患交々到り、對内的にも、對外的にも、何等實力の伴ふ積極的政策に出ずる能はず、僅かに彌縫的手段に依りて、内外に對する威信を保ち、自己政權の維持に汲々たる有樣にして、彼等が眞に世界强國の班に列する實力を涵養する迄には、尚幾多の年月を要するものと觀られてゐる。蓋し、既述の如く、各方面に

於ける國民經濟は、基本資本の行詰り時代に遭遇しありて、曾に今後の發展のみならず、現在の復興狀態を維持することすら困難の狀態にある。而して此の行詰り狀態を切抜けんが爲め、唯一の捷徑たる外資の流入及外國の信用貸を得んとすれども、現下資本主義列强の財政的封鎖政策の爲め、之を實現するを得ず、止むを得ず依然として自給自足の手段に依り國內の蓄積資力を吸收し、之を國民經濟の復興資金並に軍備の擴張、充實費に流用せんと努力しあるも、現在に於ける國家の資力蓄積は、極めて緩漫且貧弱なるを以て、單に國家經濟を戰前の狀態迄復興せんが爲めにも、尚幾多の年月を要するものと觀ねばならぬ。而も農業、工業其他凡ゆる經濟方面に於ける蓄積を促進する爲めには、益々主義主張の點に於て讓歩を斷行するの餘儀なきに至るべく、結局資本主義諸國にして現在の對露態度を變ぜざる限り、勞農露國は實際に於て、一層急速に資本主義的方向に向つて進展するものと觀測せられ、其結果は理論と實際との矛盾より生ずる幾多困難なる內政問題を惹起し、國內復興事業に支障を來すべきは豫想するに難からざるところである。

（二）

飜て對外關係を見るに、革命以來惡辣なる赤化宣傳に依り、資本主義を脅威すると共に、一面勉めて彼等との衝突を避け、凡ゆる機會を利用して列强に接近し、勞農國家の地位を向上すると共に、外資を吸收して自國復興の資に供せんと努力せるも未だ列强の對露財政封鎖政策の共同戰線を突破するに至らず。僅かに先般獨逸と三億馬克の借款成立せるも、未だ運用の緒に就かない狀況である。然れども外貨の吸收は、露國を復興するための唯一の捷徑なるを以て、今後と雖も凡ゆる機會を捉へて列强に接近し、表面努めて平和を標榜して守勢を維持し、列强との衝突を避けると共に、對內的には穀物、木材其他輸出の增加に全力を注ぎ、以て世界的經濟體系に漸次

侵入し、資本主義諸國をして、對露經濟關係並に信用關係の復興を餘儀なくせしむるに努め、斯くして所要の復興資金を得、眞に實力を恢復する迄、勉めて消極的、守勢的對列强政策を採るものと觀察せねばならぬ。之を過去及現在に徵するも、勞農露國が、言論の雄を以て列强に對するも、實力を以て主張を貫徹するの意志毫もなきは、さしも難澁なりし北海に於ける英露の漁業問題が、英國驅逐艦一隻の派遣に依りて直ちに解決し、垂涎措く能はざるベツサラビアの恢復を今尚斷行し得ざるが如き、或は東支鐵道を中心とする奉露の角逐の如き、其一端を語るものである。

此點は特に勞農露國と地理的、經濟的に密接の關係を有する吾人の大に顧慮を要するところである。

（三）

然れども、世界革命の成就を唯一の目的とし、之に到る迄の時期を限度として、內一億數千萬の人民に對し、塗炭の苦を甘受せしめ、外世界の無產階級の同情と援助とを受くるの勞農當局にして、單に前述の如き對列强政策のみを採らんか、對內的にも、對外的にも、ソヴエート政權の權威と信用とを失墜し、自己の牙城を葬らるるの危險を藏する。

茲に於て彼等は、列强の壓迫甚しからざる弱點を求め、之に對し赤化宣傳の魔手を延ばし、絶えず國內の人心を他に轉向せしむると共に、世界の無產階級に對し勞農國家の權威を示しつつあるのである。夫の被壓迫民族解放運動並に支那に於ける赤色帝國主義の活躍等は此間の消息を物語るものである。而も彼等の向ふ所に列强の壓迫加はらんか、直ちに方向を轉じて他の弱點に向ふに何等の躊躇も爲さざると同時に、其壓迫無からんか直ちに之を收めて世界革命の一階梯となすこと、外蒙の赤化、タンヌ共和國の獨立等に見るが如くである。

（四）

以上は過渡期に於ける勞農當局の對内外策である。然れども將來勞農當局にして、一方世界人口の三分の二を占むる東洋諸國民間に赤化侵略の鋭鋒を進めて、國内人心を常に外に向はしめつつ、他方國内の政治、經濟上の行詰毎に逐次後退讓歩政策を採りつつある間、並に資本主義列強が現在の對露態度を變更せざる間は、勞農政權は自然富源の尨大なる領土と持久力に富む國民とを利用すべく、假令前述の如き國歩艱難なる狀態にありと雖も次第に國力を恢復し、或時期に至れば、内容外觀共に完備した强大なる國家として活動を開始するに至るものと觀察せねばならぬ。

國威南京に墜つ

勞農ロシアの長江進出を見よ

――「國本」第七卷第五號（昭和二年五月一日）所載――

「世界革命」過程の支那

中國建設歌に曰く

巍々崑崙山　浩々揚子江　錦繡莊嚴我祖邦
文明早發揚　歷史久且長　民族渾厚又純良
前途不可量　國性將日張　貢獻世界有榮光

流石に支那は文章の雄邦である。歌は將に世界思潮の澎湃として押寄せ來る所に乘じて一擧して泰山北海の難を越えんとするヤング・チヤイニーズの飛翔振りを示せしもの、その傳統的才筆と雄辯とを驅つて波瀾萬丈の時局裡に立つ面目は躍如たるものがある。さり乍ら支那時局の實相は浩々揚子江の誇りと渾厚純良の民族たることを裏切つて前途暗憺、榮光光被の到來さへも不可量となつて來た。中國建設は中國革命に出發すべきもの、血の純、氣の剛、獨往自在の心情を抱くもののみが擔當し得るものである。巧言令色以て國家建業の大事に向はんとするが如き運命の窮まる所知るべきのみ。

さて支那時局の動亂化は竟に南京事件となり、我朝野にも憤激の大渦卷を惹起しつつあるが、其眞相は要するに思想戰に假面せる共産派の侵略戰に外ならぬ。共産派の侵略戰は思想戰でない。實勢力の一切

を他國に移して闘ふ近代戦である。その勝利を得るや秩序の根本を覆して自己階級の單一獨裁の政治を強行することに於て寸毫の假借なく、かくて所謂世界革命の一過程としての支那動亂の不祥事を見たるが如き素より當然である。因つて想ふに南京事件は支那に於ける共産派の實相を解剖せざればその實相を摑むに難い。筆者は以下之が現實暴露を試みて問題の中核に進んで行かう。

本年一月二十一日「ブラウダ」所報に依れば一九一二年、レーニン主宰の下に開かれた巴里會議に於て一九一一年の支那政變に關し左記の決議を敢てしたとの事である。

支那民族の革命爭闘が亞細亞民族の解放を歐洲ブルジヨアの支配的地位を破毀する世界的意義あるものなる事を認め支那革命闘士を祝福する。と。

かくてレーニン自らも述べて曰く

四億の支那民族は自由を得て今や政治的に覺醒した。然も歐米先進國が之に大なる注意を拂はないのは彼等は支那を以て獲物の一片と見て居るからである。と。

之を遡つてマルクスに至る。彼は已に一八五〇年長髪賊の叛亂に當つて支那がやがて共和國、自由平等相愛の看板を掲げて歐洲保守主義國の出鼻を挫くべきを豫言したと傳へられたが、其直系の後繼たる第二インターナショナルが對支問題に殆んど無關心なるに反し、第三インターナショナルが特に支那革命に執心せるを誇り、我こそはマルクスの正流なりと得意振ることは支那には誂向きの好宣傳である。而してレーニンの決定した全東洋を含む對支戰略とは次の通りである。

一、無産階級を單一無産黨に組織すること。
二、勞働者、農民及都市貧民階級聯合の組織。
三、民族革命運動を支持すること。
四、民族革命運動の各團體と一時的に聯合すること。
五、民族革命運動の色彩曖昧なるを批判すること。

六、民族革命運動が世界帝國主義と妥協する場合及我等の事業を妨碍する場合に於て之に對抗すること。

七、ソヴエト聯邦を世界革命の中心とすること。

八、運動の目的がソヴエト共和國の創立にあること。

このプログラムを見て國民政府の行ふ所を觀るに一として豫定のコースを辿らざるものはない。民國十三年一月中國國民黨と露國共産黨との不純なる妥協を敢てしたるが如き國民黨は確に上述第四項に當る一時的聯合に利用せられたる引出物に過ぎず、今や正統國民系の志士が異常の逆境に反轉懊惱を重ねつつあるものも全く之が結果に外ならぬ。加之後述する如く新政府の教育、司法其他の機關は悉く共産黨員の掌握する所となり共産黨の單一無産黨以外何物の存在を許さざるが如きロシア政權其儘の制度にして前記の第一項に從ふもの、更に新政府の幹部が事毎にモスコー政府の指揮下に動き自からも之を明言して憚らざるが如き第七、八項に對應して感慨最も深い。かくて支那刻下の流行的勢力たる所謂支那の新興運動の目的は支那本土をしてソヴエトロシア聯邦の一たらしむることに在る。而してこの目的の爲めに一切の手段を盡して妨碍を排撃するに在る。所謂南京事件を機として新政府内に於ける左右兩派の抗爭が鮮明に展開せられたのは這般の消息を雄辯に物語つたものであつた。

支那共産黨の史的考察

推ふに中國共産黨の創設は民國八年北京大學を中心として起つた五四運動に求むべきであらう。當事青年學徒間に社會主義青年團（マルクス主義研究會）の組織就り同志の糾合に出でつつあつたが民國十年モスコーに開催せられた赤色インターナショナル第三回大會に出席し來りたるものの歸國以來、社會主義青年團は中國共産主義青年團（C・Y）と變じ茲に第三インターナショナル支那支部の基礎が出來上つ

た。かくて各地に共産黨の學生會就り之が策源地となつて香港海員ストライキを始め各種の大衆運動に着手し其成功を收めたるに味を得て竟に意想外の大旋風を捲起すに至つたものである。

共産黨の支那進出に一段の地歩を固めたるは國民黨との握手にありしことは勿論である。しかも民國十四年三月孫文逝去後の黨内部は四分五裂の狀態に陷り數派入亂れての抗爭は支那一流の奇觀でもあつたが大勢は共産派の陳獨秀、李石曾對非共産派の馮自由、張繼等の二大潮流に分れ次いで文治派の胡漢民、武人派の許崇智等の派生して相搏つあり、廖仲愷の暗殺事件を轉機として茲に急進派の擡頭となり竟に蔣介石、譚平山の勢を得、蔣を頭目として北伐軍を起すに至つたものである。さて南方革命派の爾後の癌腫は依然として共産、非共産の鬪爭にあるが試みに其組織に就て一瞥せんか、之を三大幹線に分ち得ること飽迄もロシア式である。

一、黨。黨には中央省、特別市、縣、區、分の各黨部に分れ各執行委員監察委員等を設けて各黨部の黨務を署理し且下級黨部を指揮監督す。

二、政府。これ亦中央省、特別市、縣等の政治委員會を主體とし之に各種の機關を隷屬せしめ政治委員は固より各種機關の幹部には悉く黨員を以て充當す。

三、軍。陸、海、空軍及補給諸廠に至るまで悉く總司令たる蔣介石に隷屬するも軍の人事は中央黨部軍人部の管轄する所で軍師團營連には各黨代表を置き總司令部、軍師司令部には政治部を設け團、營、連には政治指導員を附し軍隊を監視し黨と軍隊との分離を豫防し且戰場地帶に於ける統治と宣傳とに任ず。

卽ち國務の實權は之を悉く黨員に收め就中軍の人事行政をも有つが如き意圖の那邊にあるかを察すべきである。

さて支那共産黨の總帥はボローヂンであることは一點疑のない所であるが、ボローヂンは一顧問に非

ずして彼の名に依りて代表せらるる一大組織體で、その牢乎たる勢力の因つて來る所以を知ることが出來る。彼の左右には補佐官以下四十餘人あり、自からは中央黨部執行委員會及政治委員會の牛耳を取つて鄧演達、顧孟餘、李人傑、徐謙等を顧使して隱然天下に號令しつつあり、今や蔣介石を中心とする黃郛、殷汝耕、張群、張靜江等の反共産派の勦滅に盡策努めつつあるは周知の事實となつた。而して之が表面に現はれしは二月十五日に開かれたる中央宣傳會に於ける反共産派に對する排擊的決議である。

かくて共産派は國民黨との妥協以來鋭鋒を收めつつあつたが今や其本來の目的たる無産者の階級革命に還りて三民主義派を逐はんとするに至つた。蔣介石が三民派外交の定石を打つて堂々列强と折衝せんとするに當り漢口、九江の英租界占領事件に次いで南京事件の起るあり、敵は正に本能寺にあること疑を容れぬ。

支那社會機關の黨化

支那に於ける共産黨の策動は已に之を說いた。かくて次いで來るべきものは支那社會機關の共産黨化である。先づ其色彩は教育に反映した。近く擧行された武昌中山大學準備委員就職式に於ける準備委員長の演說に曰く、

中山大學は單に各種の文、法、醫等の各科を改制した丈けではない。革命化の學校を成立せしむることが重要なる意義である。學校教育の目的は官吏を造り、金儲けをする知識階級を造るのではない。所謂革命化、團體化したる教育は人民を指導して活動するのである。モスコーの中山大學は完全に革命的人材を造つてゐる、之れ我等の龜鑑である。と。

中山大學は武昌大學の改制されたものであるが、今やその教育方針は完全に黨化しモスコー式鬪士の養成が主眼となつた。次代の支那は如何に動くかに

就ての一考察ともならう。

司法權の黨化に至りては更に奇怪である。近く開かれた武昌審判廳の徐季龍歡迎會の席上に於ける彼の演說の一節に曰く

予の今回來鄂の目的は護法の爲めではない、毀法の爲めである。何となれば元來惡政府下の法律は反革命的で、特殊階級、資産階級を擁護し、平民無産者を壓迫するものであつた。故に我等にして革命に志すならば先づ反革命的既成法律を破棄せねばならぬ。革命を普遍的ならしむる爲めには司法を革命化することを要する。民國成立前、我等は滿清專制下にあつた爲め司法の獨立を要求したのであつたが今や環境は一變した。司法は黨の下に在りて黨の政策に據らねばならぬ。從來司法官の入黨を許可しなかつたことは明かに黨の偏頗であつて革命を防止するものであつた。若し司法官と黨との間に密接なる聯絡が缺けば黨の主義は分らず、其政策は實行が出來ぬ。黨は農工の利益を擁護せんとするも司法官は之を剝削し、黨は婦女の權利を擁護せんとするも司法官は之を剝削することもあらう。斯くて如何にして以黨治國の目的を達することが出來よう。中國が現在存立し尚將來にも無窮の希望を有するは全く黨が其靈魂を爲すが故である。

司法官と黨との間に關係無いと云ふことは卽ち司法官と國家との間に關係の無いといふことになる。故に我等は司法は獨立することは出來ぬ。司法官は必ず入黨せねばならぬと主張するのである。これ實に予の最近の積極的主張である云々。

流石に革命黨の司法部長丈けに論旨の奇拔奔逸、遠く時流の外あること感服に堪へぬ所である。この流儀を以て司法の黨化を強行して憚らぬ革命政府の意氣は大に多とすべきであらうが、これが刻下の大動亂に被害を受けた列強の交涉相手たることに大な

る不足がある。かくて南京事件の責任がモスコーに移りつつあることは不可動の事實である。

ロシアの支那援助

勞農ロシアの國民軍援助に就ては從來屢々耳にした所であるが當の官憲は勿論之を否定してゐる。昨年二月二十一日勞農官報タス英字版に掲げられたカラハン大使の談に曰く。

國民軍がロシア式武器を育ちロシア人が從軍し居る事實に對しては、ソヴエト政權は如何なる責任をも負はさるるものではない。ソヴエト政府はロシア軍人が奉天、山東軍に傭聘せらるるを禁ずべき權能と手段を有たない様に、國民軍に入る者を如何ともすることが出來ぬ。支那領土内に治外法權を有つことを不合理とする我政府は、假令ロシア商人が武器を賣つたとしても之を取締るべき理由がない云々。

さり乍ら之れ詭辯に非ざれば虚言である。惟ふに勞農ロシアに於ては武器類の取扱は廢銃と雖も絶對に個人に許されてゐない筈である。然るに幾萬を以て算せらるる星型附赤衛軍の新式銃が西伯利を經、蒙古を横斷して張家口に運ばるるの事實は奈何。果せる哉、カラハンの否定辯疏ありしに拘はらず張家口領事にして勞農國營商業局張家口出張所主任であり西北督辯所の財政指導役であるフエシエンコは昨年一月末現在の國民軍所屬赤衛軍派遣軍官及各機關指導員百二十一名の兵科別を發表した。卽ち參謀四、砲兵七、工兵一七、騎兵三三、技術二二、飛行士六なりと。數字に駈引あらんも事實を明にしたるの勇氣は諒すべきであらう。さて勞農政權の國民軍援助は之を二大別して精神的援助と物質的援助となすことが出來る。左に之を細分して見よう。

一、精神的援助　之れ勞農政權の主力を注ぐ所で革命の根本的精神を吹き込む大事な任務である。

(イ)支那留學生の露都差遣。一九二五年四月發行スタテスト所報に依れば露都留學の支那學生は共

産黨大學在學者を除き陸軍アカデミー在學將校が三十一名居る。而して其教授せらるる所は軍事專門的學習の外革命戰術なること勿論で旅費學費萬端勞農政府の負擔なることは言はずもがなである。

（ロ）革命指導者の派遣。革命指導者は共産黨の單なる宣傳者ではない。革命軍人としての精神的訓練者であり、革命的勢力の組織者であり、革命的叛亂の指揮者として恐るべき役割を演ずる者である。

（ハ）軍事的技術教官の派遣。

二、物質的援助

（イ）武器軍需品の供給

（ロ）經濟的援助

所謂國民軍が壓倒的勢を以て北伐を決行し、然かも着々として效を收めし裏面に於て、ロシアの精銳なる武器を有し、ロシアよりの豐富なる財政的援助ありての事たるは天下公知の事實である。一九二五年の夏カラハンはハルビンに於ける干沖漢の歡迎席上傲語して曰く

今や支那は南の端から北の端まで自由獨立の氣が漲つてゐる。南北一體となりて侵略者に當る時支那の解放と獨立とは一擧にして成功する。我ＣＣＣＰのプロレタリヤートは始終一貫最後までの援助に倦むものではない。と。

時や將に北方革命の準備就りて一擧奉天軍を覆滅し、西北革命勢力が廣東軍と相呼應して動き全支那を席捲せんと目論見し秋であり、彼の得意は絶頂に達し期せずして本心を吐露したものであつた。かくて支那に於ける勞農ロシアの援助は事實に於て對支干涉であり列强の跋行的內政不干涉主義の野暮さ加減に皮肉なる微苦笑を漏らしてゐる。不干涉主義敢て不可でない、さり乍ら不干涉の鐵則に縛められて動き得ぬ痴呆漢の運命こそは悲慘である。

南京事件の眞相

支那革命を目標として蹶つた國民政府の正體は大要上述の如くであるが、其北伐軍の勢を得て揚子江岸に達するや諸種の難題を起して國民革命の必ずしも軍閥者流に比し優るものに非らざることを天下に知らしめた。而して其我國に關する限りに於て南京事件は實に看過し難き國辱問題である。以下之が事實を語る。

三月二十三日、在南京山東軍が、同地を放棄するに決して同日夕刻退却を開始するや、直に支那一流の掠奪を行ひ爲に南京城内及下關（南京北方十哩揚子江岸）一帶は非常なる混亂に陷り、我居留民は悉く帝國領事館及日清汽船會社の艀船に避難するの已むなきに至つた。而して翌二十四日朝には已に南軍第二、第六軍所屬の支那兵南京に進入したが在留民はその南軍たるの故を以て安心したるも束の間事實は全く豫想に反し、日、英、米、佛の各領事館を始め外人全部に對し、慘虐なる凌辱と劫掠を加へ始めた。かくて英、米兩國は直に艦砲射擊を開始して陸戰隊の上陸を掩護すると共に居留民の引上げを容易ならしめたが帝國海軍は何故か隱忍自重し戰鬪行爲を採らなかつた。

當日朝八時頃南軍正規兵約三十名の一隊は我領事館附近に現はれ、館内を偵察して、一度引返したる後間もなく約百五十名の一團は驢馬、車等の運搬具を携帶し、便衣隊、勞働者と共に來襲し、我水兵の制止にも拘らず忽ち館内に闖入し一隊は事務室及館員官舍を一隊は領事官邸を襲ひ、病褥に在りし森岡領事を始め、館員、同家族、避難居留民等約百餘名に對し、或は實彈を發射し或は銃劍を擬して脅迫し、或は毆打、刺突、凌辱と暴行の有らん限りを敢てし、婦女子は忍ぶべからざるの侮辱を與へられ且つ館員及避難民の現金時計荷物は勿論身に着けてゐた指環、靴、衣服、足袋を奪ひ床板、便器、空瓶に至るまで剩す處なく掠奪して尚飽かず、病臥の森岡

領事に對しては寢具寢衣まで剝ぎ取り、御眞影を奉安せる金庫を開かしめんとしては各種の脅迫侮辱を加え枕頭に於て二回までも實彈を發射した。而して此間暴動を制止せんとした根本陸軍少佐は門前に於て暴行を受け、更に事務室に於て金庫の鍵を要求せられしに、之を拒絶したる爲め左腹部を銃劍にて刺され、腰部に打撲傷を受け、尚左足關節を捻挫し、同時に木村警察署長亦右腕に貫通重傷を、左胸部に刺傷を受くるに至つた。

かくして南軍部隊の暴行は益々勢を增し遂に自動車庫よりガソリンを持ち出し領事館に放火し、一同を焼殺せんと迫つて來た。因つて一同は今はこれまでと悲慘の決心を爲し、十一時頃館の裏庭に集合したが、會々南軍第二軍黨代表兼第六師政治部主任揚某の來つて暴行兵卒を取り鎭め且謝罪の意を表し、護衛兵を配置するに及んで一同は纔に愁眉を開くことを得た。

以上の椿事に際し、豫め領事館に派遣せられし海軍大尉荒木龜男氏、外兵員十名は、飽くまで武力の行使を避けたる爲めか、幸に慘劇の程度は可及的に小ならしむることを得たが當時支那兵は『日本海軍は駄目だ、戰さが出來ぬか、悔しからう』等の暴言を吐き我が無抵抗に乘じ凌辱至らざるなきの暴狀を敢てしたことは我國民の牢記する所である。

領事館に於けると略同時に、日清汽船會社の艀船に對しても亦、南軍の掠奪團殺到し却奪を恣にしたが之に對しても亦我陸戰隊は隱忍自重を守り通した。かくて勝ち誇つた南軍は竟に我海軍艦船にさへ射擊を加へ、爲に後藤機關兵は流彈に中りて卽死する程の大事を惹き起すに至つた。

我南京領事館に於けるこの慘情は通信杜絶の爲めか軍艦に達しなかつたが、二十五日朝、第二十四驅逐隊司令吉田海軍中佐が杉浦大尉外兵員四名を伴ひ、城内に乘り込むに及び、實狀漸く判明した。かくて前記領事館護衛に任ぜし荒木大尉は情況報告の爲め軍艦天龍にて上海に至り、二十八日荒城第一遣

外艦隊司令官に對し詳細の事情を陳述したる後、翌二十九日朝自決した。この日大尉は心靜かに軍艦旗掲揚の號音を聽取したる後、利根艦長室の椅子に倚り、拳銃を以て左胸心臟部を貫きたるもの「天晴の自決と認む」とは司令官よりの公電にも謳はれしとの事であつた。

今翻つて荒木大尉の心事を察するには、大尉は領事館保護の任を盡し得ず、而も兇暴なる南軍の惡罵凌辱を眞向に受けつつも我國策の爲には無抵抗主義に殉ぜねばならぬと思つたものであらう。かくて事を荒立てては却て同胞に悲慘なる影響の及ばん事を恐れたる大尉は至難の境地に立ち、至難の試練に堪へ、而かも一旦報告を了るや、從容として死に就き以て自己の責任と面目を完うせんとした。武士道の精華尚衰へざるを見るべく大尉の心事を洞察しては熱涙の滂沱として禁じ能はざるものがある。之を聞く大尉の傷幸に輕快に向ふと、切に快癒の速かならんことを祈つて止まぬ。

惟ふに廣東軍は、從來の支那軍と選を異にし、軍紀森嚴、秋毫も他を犯さずと稱せられたる爲め南軍の將に至らんとするや士民は簞食壺漿して之を迎ふと傳へられた。而して此報一度我國に到るや上下また之を盲信し、南軍を目するに完全なる新軍なりと信ずるもの少からざる程であつた。さり乍ら彼の爲す處を見るには蠻行百出、所謂舊式軍と何の擇ぶ處がない。かくて彼等の往く所將來も深憂に堪へぬものがある。

由來我國は絶對不干涉主義を以て支那に臨み、南軍に對しても淺からざるの同情を表して來たものであるが其行ふ所は已に斯くの如し。さらば從來の我對支策の根本思潮に於て誤りなかりしや否や大なる疑問とならう。かくして我國威の保護に依賴して、對外發展の第一線に立ちつつある多數の同胞を見殺にせんか、何の日に我對外發展の實を期し得るか。

國運の開拓者は何處に行く

惟ふに南京事件直接の暴行者が南軍の正規兵なることは輕視し得ぬ所であるが、彼等が斯くの如き得手勝手なる振舞を敢てするに至りし原因は確に近時流行の對外ストライキの戰術に毒せられし結果である。而して支那人一流の雷同性に油と火を以て煽動したるものの罪業を糾彈せねばならぬことは論を俟たぬ。蓋し左記表は之を語る活きた證據である。

總工會（主要工會）等の發表せる宣言及對會社等要求條件一覽表

昭和二年三月二十四日調

工會名	對象團體	發表日	宣言若クハ要求條件
廣東洋務工會	在廣東英佛雇主	民國十三年中旬	六月十九日突發セル沙面爆彈事件ニ發端シ外人ノ沙面出入支那人取締規則十二條ニ關聯シ支那側工人代表ノ要求左ノ如シ 一、新令十二條ヲ永久ニ取消スコト 二、事件解決後全工人ノ復職及理由ナク解雇セサルコト 三、罷工間ノ賃金全額仕拂ノコト 四、沙面ニ於ケル英拂ニ門ノ閉鎖ヲ十二時迄トスルコト 五、支那人ノ勞働時間ヲ短縮制限スルコト
廣東洋務工會	香港（英）政府	民國十四年九月下旬	前記十三年ノ罷工事件ノ餘燼ニ油ヲ注ケルハ十四年春季ニ於ケル上海五三十事件ニシテ廣東方面ニ於テハ排英的思潮ニ伴フ罷工ヲ生シ工會ハ左記要求ヲ爲スニ至レリ。 一、香港罷工工人復工ニ關スル要求。 イ、香港華人ハ集會、結社、言論、出版、罷工、教育、居住ノ絕對自由權ヲ有ス、解散セラレタル工人會ハ須ク之ヲ恢復セシムヘシ。 ロ、香港居民ハ支那人、西洋人ヲ論セス同一ノ待遇ヲ受ケ直ニ華人ノ驅逐出境條例及笞刑、私刑等ノ法律及行爲ヲ取消スヘシ。

廣東洋務工會

香港政府（英）

國民十四年九月下旬

ハ、香港法制局ノ選舉法ハ正ニ之ヲ改修シ以テ華工ノ選舉權及被選舉權ヲ擴大スヘシ。
ニ、正ニ制定セラルヘキ勞働法ハ八時間勞働制トシ賃銀ノ最低限ヲ定メ工會ノ契約權締結ヲ認メテ請負ノ制ヲ廢シ女工童工ノ生活改善、勞働保險ノ制ヲ定ムヘシ之等勞働法ノ制定ハ正ニ工團ノ代表ヲ出席セシムヘシ。
ホ、公私機關ニ論ナク服務員及職工ハ皆一律現業ニ復工シ之ヲ解雇スルヲ得ス且今後政治或ハ經濟的壓迫ヲ爲スコトナシ。
ヘ、公私機關ニ論ナク罷工間工人ノ賃金ヲ仕拂フコト。
ト、罷工ノタメ捕ヘラレタルモノハ釋放シ又毆辱セラレタルモノハ直ニ恢復セシムヘシ。
チ、罷工期間香港政府及家主ニ對シテ家賃不拂ノ爲家具ノ競賣ニ付セラレタルモノニ對シテハ其ノ損害ヲ賠償シ原家屋ニ居住セシムヘシ罷工間ノ家賃ハ之ヲ免スヘシ。
リ、七月一日公布セル新家賃法ハ直ニ取消シ且ツ家賃ハ取消日以降二割五分ヲ減スヘシ。
ヌ、香港在留外人代表ト中國工人代表トヨリ成ル賠償委員會ヲ組織シ香港政府ハ中國工人ニ對シ罷工期間內ノ損失ヲ賠償スルコトヲ擔任スル。
ル、罷工以前ニ於テ香港政府支給ノ支那人ニ對スル證明書及免許狀ハ正ニ繼續有効トス。
チ、凡ソ汽船會社及工場、會社等一切ノ職務ニ對シ華人皆平等享受ノ權アリ。
香港政府ハ中外人ニ論ナク一律平等ニ免許狀ヲ與フヘシ。

二、廣東沙面罷工工人復工ニ關スル要求。
イ、沙面中國人ハ集會、結社、出版、言論、罷工、居住ノ自由權ヲ有ス。
ロ、前記（ホ）ニ同シ。
ハ、沙面華人工人ハ每日八時間作業トシ女工童工待遇ヲ改善スヘシ。
ニ、沙面警察ハ須ク全部華人ヲ使用スヘシ。
ヘ、沙面「バンド」ハ華人ノ通行並ニ坐居自由タルヘシ。
ト、沙面各國代表ト中國工人代表ニヨリテ賠償委員會ヲ組織シ英領事ハ中國洋務工人ノ罷工期間內ニ於ケル損失ヲ賠償スル責ヲ負フ。
チ、沙面工部局カ公布スル華人取締ニ關スル一切ノ苛例ハ之ヲ一律ニ取消スヘシ。

左記十項ハ最近國民黨ノ政綱案ニシテ勞工關係ノ重要案ナリトス。
イ、勞働法ヲ制定シ以テ工人會ノ組織ノ自由罷工ノ自由並ニ傭主ノ過甚ノ剝削ヲ取締リ保護シ特ニ女工童工ノ保護兵廠及其他政府軍用事業並ニ軍事關係交通ニ於テ須ラク勞工條例ヲ定メ以テ國民革命

ニ關スル最近國民黨政綱	華工人	國十五年末	
運動ヲ妨ケサルヲ標準トス。 ロ、工會法ヲ修正シ工會ノ組織ヲ改善シ工會間ノ衝突ヲ除ク。 ハ、勞働時間ヲ制定シ一週五十四時間（一日九時間）ヲ超ユルヲ得ス。 ニ、定例休日ハ工賃ヲ給ス。 ホ、包工制（雇ヒ切リ職工）ヲ廢除ス。 ヘ、勞働保險ヲ制定シ工人失業保護疾病保險及死亡保險機關ヲ設ク。 ト、勞資仲裁會ヲ設ケ以テ庸工間ノ衝突ヲ調和シ努メテ工人ノ正當要求ヲ滿足セシメ特ニ適當ノ工賃ヲ規定スルコト。 チ、工人住居ヲ改良シ其衛生ニ注意ス。 リ、勞工補習學校及工人子弟學校ヲ設立シ以テ工人ノ普通知識技能ヲ增進ス。 ヌ、工人消費合作社ヲ奬勵援助ス。	一般	民國十四年六月中旬	上海紡績工會
五三十事件上海紡績工人會ノ一般紡績會社ニ提出セル要求。 イ、職工ヲ射殺セル發砲者ノ處罰ノ件。 ロ、死傷職工ニ對スル賠償金給與ノ件。 ハ、工會ニ於テ工人ヲ代表スル權アルコトヲ認ムルコト。 ニ、故ナク職工ヲ解雇セサルコト。 ホ、今後外人ニシテ武器ヲ携行シテ工場ニ入ルヲ禁スルコト。 ト、罷工中ノ工賃ヲ平常ノ如ク支給スルコト チ、工賃及賞與金ハ今後大洋勘定トスルコト。	上海紡績會社	同右	上海總工會
二月中旬浙江ノ戰況南軍ニ有利ニ進展スルヤ總工會ハ左ノ宣言傳單ヲ發布セリ而シテ之レ工人ノ最少限度ノ要求ナリト云ヘリ。 一、反帝國主義運動ヲ繼續スヘシ。 二、軍閥ノ暗黑政治ヲ消滅スヘシ。 三、一切ノ反動勢力ヲ排除スヘシ。 四、眞ニ人民ノ利益ヲ保護スル政府ヲ樹立スヘシ。 五、人民ハ集會結社言論出版罷工ノ自由アルヘシ。	一般上海企業團體	民國十六年二月十九日	上海總工會

上海總工會	上海總工會
一般上海企業團體	上海各紡績會社
民國十六年二月十九日	民國十六年三月十四日
六、工會ニ代表ノ資格ヲ與フヘシ。 七、工人ノ工賃ヲ增加シ最低賃銀ヲ規定スヘシ。 八、物價ノ騰貴ヲ制限シ工人ノ生活ヲ保證スヘシ。 九、八時間勞働制ヲ實施セシムヘシ。 十、日曜祭日ニハ休暇ヲ與フヘシ其際ハ平常通リ支給シ休暇ヲ取ラサル時ハ倍額ヲ給スヘシ。 十一、失業ノ工人ニ仕事ヲ與フヘシ傭主ハ罷工ヲ口實ニ工場ヲ閉鎖シ工人ヲ壓迫スルヲ得ス。 十二、工人ヲ打罵シ妄リニ工賃ヲ減スルヲ得ス。 十三、任意ニ工人ヲ解雇スルヲ得ス工人ノ解雇ニハ工會ノ同意ヲ要ス。 十四、作業ノ爲死傷セルモノニ對シ慰藉料ヲ規定スヘシ。 十五、工人疾病ニ罹リタル時ハ工場主ハ責任ヲ以テ醫治セシメ又半額以上ノ工賃ヲ支給スヘシ。 十六、男女工ノ差別待遇ヲ廢シ女工ト幼工ノ待遇ヲ改良スヘシ女工ニハ出產前後六週間休暇ヲ與ヘ其際工賃ハ平常通リ支給シ幼工ハ過重ナル作業ニ當ラシメサルコト。 十七、工場ノ設備ヲ改良スヘシ卽チ窓及便所ヲ增設スルカ如シ。	浙江戰局ノ一段落トモ見ルヘキ上海ノ取得目前ニ迫ルヤ南軍ニ呼應シテ總工會ハ左ノ如キ十七箇條要求ヲ發シタリ其主ナルモノ左ノ如シ。 一、工會ノ代表權ヲ認メ工人俱樂部用ノ建物ヲ提供シ經費每月百弗ヲ支給スルコト。 二、賃金十弗以下ハ三割、二十弗以下ハ二割、二十弗以上ハ一割增給ノコト。 三、每月四日分ヲ賞與金トシ日割ニテ支給スルコト。 四、日曜、記念日、端午、仲秋、元旦ハ各一日舊正月ハ五日間休業シ賃金ハ全額ヲ拂フコト。 五、五三十事件以來ノ解雇者ヲ採用スルコト。 六、故ナク解雇シ又ハ罰金ヲ課セサルコト。 七、疾病者ニハ醫藥費ノ外規定ノ賃金ヲ支給シ公傷ノタメ不具トナレルモノニハ一年ノ賃金ヲ死亡者ニハ五百弗ヲ支給スルコト。 八、一日十時間就業トシ中一時間ハ休息セシムルコト。 九、工人學校、俱樂部、醫院ヲ設立シ費用ヲ出スコト。 十、女工出產ノ場合ハ六十日間結婚ノ時ハ一週間ノ休暇ヲ與ヘ其間規定ノ賃銀ヲ支拂フコト。
右ト同時ニ提出セル要求七箇條左ノ如シ。 一、五三十事件ノ際解雇セル海員ヲ復職セシムルコト。 二、現給十弗以下四割、二十弗以下三割、三十弗以下二割、四十弗以下一・五割 四十一弗以上一割增	
上海各	上海各紡績會社
同	民國十六年三月十四日

海員工會

給ノ事。
三、工會員ノミヲ雇傭シ右ニ關スル協定ニ調印スルコト。
四、勞働時間ヲ八時間トシ時間外及休日勞働ニ對シテハ割增ヲナスコト。
五、故ナク解雇セサルコト、又解雇ニハ工會ノ同意ヲ得ルコト。
六、職務ニヨル死傷ニ對シ慰藉料ヲ支拂フコト。
七、病氣中ノ給料及醫藥料ヲ支拂フコト。
八、外國船員ハ支那船員ヲ虐待セサルコト。

汽船會社

右

民國十六年一月十五日

漢口銀行工會

外國各銀行團

外國及支那銀行ノ支那人店員ヨリ成ル銀行工會ハ左ノ如キ突飛ナル要件ヲ提出セリ對外銀行要求ハ二十二箇條ヨリ成リ大要左ノ如シ。

一、待遇條件

イ、使用中國人ハ行員ト練習生トニ分チ行員ハ六十七兩、練習生ニハ同シ三十兩ヲ給スルコト。

ロ、行員ニハ現給十兩以下ノモノハ右最低額迄、十一兩以上二十五兩迄ノモノハ五十六兩、二十六兩以上四十兩迄ノモノハ五十五兩ヲ更ニ增俸スヘシ。

ハ、練習生ニ對シテハ現給十兩以下ノモノニハ二十兩ヲ、十一兩以上十五兩迄ノモノハ十九兩、三十六兩以上ノモノハ十四兩ヲ更ニ增俸シ高級ニ至ルニ從テ遞下增給ス。

二、行員保護條件

イ、行員ハ行金ヲ私消シ又ハ窃盜セサル限リ解雇スルヲ得ス。

ロ、行員自ラ辭職スルモノニハ在勤一年以上ノ者ハ給料三箇月分ヲ給シ、一年每ニ三箇月分ヲ累加スルコト。

ハ、銀行ハ工會ノ同意ナク閉店スルヲ得ス。

ニ、行員ハ中山服ヲ著用ス銀行ハ每年四季各二著ノ上衣ヲ給スルコト、靴其他ノ附屬品モ亦銀行ヨリ支給ス。

ホ、結婚、父母及妻ノ死ニ會シタル時銀行ハ一箇月以上ノ休暇ヲ與フ。

ヘ、右ノ場合銀行ハ行員ニ二百元ヲ給ス。

ト、給料ノ外每月食費十五元宿料二十元ヲ給スルコト。

チ、二十年以上勤續者ハハ辭職ノ後終身俸給全額ヲ、十年以上二十年以下ノ者ニハ半額ヲ支給スルコト。

リ、妻アルモノハ別ニ妻帶費月二十元ヲ給スルコト。

漢口洋工會ハ民國十五年末成立シ其直後左記十二箇條要求ヲ我總領事館ニ提出シタリ。

漢口洋務工會	在漢邦人雇主	民國十五年十二月十六日

一、本會々員ハ故ナク解雇、毆罵、壓迫、逮捕セラルルコトナシ若シ會員不法行爲アル時ハ本人ヲシテ本會ニ出頭取調ヲ受ケシメ、告發者ニ捏辭アル時ハ其責告發者ニアリ。

二、本會工人ニ對シ月給七元ヲ增給スルコト。

三、每年三週間ノ休暇ヲ與ヘ其賃金ヲ控除ス、休暇セサル者ニハ三週間賃銀ヲ增給ス。

四、二週每ニ一日休暇ヲ與ヘ賃銀ハ控除セス但シ舊來ノ休日ハ此ノ限リニ非ス。

五、各種記念日ニ一日ノ休暇ヲ與ヘ工會ノ義務ニ服スルモノニハ其ノ要求ニヨリ休暇ヲ許シ賃金ヲ控除セサルコト。但每月一回ヲ限度トス。

六、工人病氣ノ際醫藥費ハ雇主ノ負擔ニ歸シ病氣中ノ賃銀ヲ控除セス若シ死亡スル時ハ本會ノ例ニ照シテ撫恤金ヲ支給スルコト。

七、每年端午、中秋二節ニハ慰勞金ヲ給シ舊年末ニハ一箇月分ヲ給ス。

八、本會成立後ニ解雇セラレタル工人ハ均シク原職ニ復セシムルコト。

九、日本商人ノ會社ニ支那人ノ缺員アル時ハ先ツ本會ニ通報紹介スルコト。

十、工人ノ住宅、電燈、水道料ハ均シク雇主ノ負擔トス、

十一、以上ノ條件ニ對シ三日內ニ圓滿解決ノ回答ナキトキハ一律ニ罷工ス。

十二、工人ニ罷工突發スル時ハ罷工期間ノ損失ハ總テ雇主ニ於テ賠償スルコト。

卽ち工會の要求中には、二十年以上勤續者は辭職の後終身俸給全額を支給すべしといふが如き出放題を臆面もなく並べ立ててゐる。しかもこの横車を押すに多數專制の暴擧を以てし、相手構はず結果無視に出でつつあることは勿論である。かくて此風俗を爲して排外的氣勢を根强く煽りしこと疑なく、この暴民的旋風の見舞ふ所彼此相倒るることは識者を俟たずして明であり、上海を立脚地とする我中南支貿易がこの擾亂に依つて根抵より壞滅せられんとしつつあることは否定し難き事實となつて來た。而して我對支貿易にして行詰りたるの最後は、直ちに深刻なる社會問題の誘發を見るに至るべく、對支策の重大性が他の何國より以上に痛感し得らるる所以である。しかも我對支貿易が當路者の絶對不干涉的陶

醉に居る間に於て事態は急轉直下して國民經濟の基調を攪亂し始めて來た。かくてその責何處にあるかを究むるに其外力に因るものの一が勞農共産派にあることが明になつた。

惟ふに南京事件は共産派に依つて豫め書卸されし排日筋書の一序幕である。やがて北上して滿蒙をもその舞臺面に取入るべきは察するに難くない。さり乍ら之を大觀するに今日徒らに共産派を恐れ嫉みて國歩の進退を誤り延ひて對支策の根軸たる對露策及對英米策を誤るが如きあらば、また識者の斷じて與みせざる所である。遮莫今や南京事件に因つて我領事館は支那兵の蹂躙する所となり、我軍隊は異常の恥辱を受け、而して我同胞は忍ぶべからざるの大凌辱に遭つたが、國論沸かず、人心の動かざること今日の如きを見る。或は國民生活の大動脈に管ならぬ故障あるに非ざるかを怪しましむるものがある。在支同胞の悲憤に對して、政府及國民の無感激がその報復を受くべきことは素より覺悟すべきである。

「廣田外交」を打診す

經濟外交の戰陣

——「經濟往來」第八卷第十二號（昭和八年十一月號）所載——

一

「廣田外交の新展望」の出題で一文を求められたが考へて見れば筆者に對する惡戲である。筆者は額面通りの註文には應じ兼ねるが尚多少の嘱望に酬へて見たいと思ふ。

一體「廣田外交」と云はるるが廣田氏自身に於ては素より此名の緣起に就ては、何等關知した事ではない。曾て所謂「幣原外交」と稱せらるるものがあつて此種の接頭外交の濫觴をなしたものと思ふが如何にも小ざかしき僭上感を與へて不愉快至極であつた。尤も幣原外交と云はば今や常識語となつて註釋なしに流通されて頗る便利な場合もある。松岡洋右氏は踔厲風發の辯を驅つて「デフイーチズム」攻撃に當つてゐるが、氏は明に所謂幣原外交を以て之が化身と觀てゐるようだ。兎も角幣原外交の名によつて想起せらるる自由主義外交の指導精神はロンドン會議、滿洲事變以來ハッキリ看取された所で、此名に接した丈けで國民は直ちに其方針が讀めるまでの訓練を受けた。此意味で幣原外交の名の通り相場に從ふのも敢て異議はないであらう。日清役當時に於ける陸奥外相、日露役時代に於ける小村外相はあれ丈

けの大役を果してゐるが當時世間では陸奥外交、小村外交とは云つてゐない。外交は國家獨自の立場で定められたコースを辿るべきもので國家特有の意思、行動の反映でこそあれ、個人癖の傾向が之に織り込まるるなど外交の邪道である。小國のペテン外交なら知らず、堂々たる雄邦に於て何々外交など云はるるに至つては國家の精神的弛緩を自白するものに外ならぬ。茲に於て近時の所謂「廣田外交」の名に就ても同感し得ざるものがある。しかも今や廣田氏に期待されてゐる「廣田外交」の意味は聊か異つて来たようだ。卽ち世間は廣田氏に所謂「廣田外交」の名に於て活躍せんことを期待してゐるのではない。廣田氏によつて我外交を正確に「日本」の外交に復活させて貰ひたい希望を掛けてゐるのだ。日本の經濟力は今や世界の各地に延びて隨所に問題を生むでゐるが、此形勢に對處すべき我外交方針としては個人癖による一時の氣紛れなどの能くし得ざることは明である。日本精神の大流に棹して時潮の動きを達觀するに非ざれば一石と雖も容易に投じ得べきでない。世界は今や新舊勢力の更替期に入つて有史以來の苦悶を續けてゐるが、廣田氏の所謂バランスを破つて進出して來た我國の立場こそは眞に天下滿目の焦點である。若し此間我に於て局面打開の新外交ありとせば夫れは勃々たる日本精神の脈搏を傳ふる其人に依つて行はるべきものであらう。從來の何々外交とは斷じて同一の談でない。

二

「今後の外交は帝國の經濟的對外進出を目標とせねばならぬ。今や日本の商品に對しては海外各地より排斥を受け日本の海外商權は動搖せんとしてゐる。この時に當り我官民は刻苦經營して築きたる地盤を堅持すると共に之が伸張を圖らねばならぬ。今や日本の國際的地位は實に經濟外交の非常時である」とは、去る七月三十一日、非常時外交豫算要求に際し外務省から發表した聲明書の一節である。而

して廣田外相の就任に際して發表されたステートメントに於ても此認識は當然の事實として受取られてゐる。しからば經濟外交を目標として我外交の進路をどう取るかが問題である。而して之に對する筆者の見解は極めて明白である。卽ち經濟外交とあるからは既存の經濟勢力と揣摩するに至ることは必勢であるから、此見地から外交工作を進めて行くことであらう。之を端的に云はば先づイギリスとの對峙問題である。而して對英經濟戰は現に印度を始めとして各地に於て白熱的に展開されてゐるが、之を更に有利に導く爲めに如何にすべきかは次に起るべき我外交當面の重大問題である。此の問題に對しても筆者の見解はまた頗る簡明である。卽ち現在の我外交機關につき明目的を與へ之に向つて統一刷新を試みる事だ。惟ふに我外交機關は其配置を見ても知らるる通り、我切迫せる國民生活と殆んど歿交涉で動いてゐる。更に端的に云はば虛榮外交とも云はるべきものでヴエルサイユ條約の結果に追隨して割出されたものである。故に我外交機關は飽迄歐洲本位に出來て居り、之が爲め無要の負擔煩鎖を加へてゐるのは勿論である。我外交目的に統一意識を缺くに至つたことは偶然でない。我外交が散漫に流れ、緊張を缺くに至るのも因つて來ること深きものあること否定し得ないであらう。故に經濟外交を目標として活潑なる工作に出でんとならば先づ我國に於てもヴエルサイユ精神の精算脫却から掛らねばならぬ。卽ち虛榮外交から我目的外交に還ることである。かくて先づ歐洲に於ける我外交機關の整理から取掛かる必要があらう。差當りオランダ、チエツコ、ルーマニア、ギリシヤ及ラトヴイアの各公使館は廢止して可なり。スペインの如きも革命以來は殆んど我國との交涉もなく之に準じて差支えない。而して以上の各國に對しては必要により隣接駐在使臣を派出せしむれば充分であらう。以上公使館の廢は素より行政整理による底の無意味のものではなく我外交方針の大目的に全能力を集中せしめる爲めの不可缺の準備であ

る。かくて或はこの準備なくして徒らに外交刷新を語ることあるも夫は竟に百年河清を俟つものたることと疑を容れぬ。しかも一方此種の整理を廣く斷行する精神はやがてまた他方に於て經濟外交の開拓に積極的工作を果す精神であること明である。

三

「經濟外交非常時」當面の對象がイギリスであることは何としても明である。しかもイギリスが對峙する我相手國であるからと云つてもイギリスに對しヒステリカルな挑戰を敢てせよと云ふのではない。勿論我國としてはイギリス近來の態度に就ては可なりの申分はある。さり乍らイギリスの對日陣容を見るに明に裡に不安、焦躁の氣流を周溢せしめて居り、往年の堂々たる正攻法を看取することが困難となつた。卽ちイギリス國運の衰頽を語るものでないか。かくて世界の識者は今やイギリスの前途につき略或種の豫想を抱き懷て來るべき大變革期に臨むべき用意に萬策を練つてゐる。しかも好むにせよ、好まざるにせよ、大英帝國の壓力が弛み來るに於ては其統治下にある有色民族の動きが急潮の如く躍り出づること必勢とならう。茲に於て我經濟外交の棄石を打つべき地點は自ら明である筈だ。

之を現時の日英綿業戰に於て深察せよ。さらば我外交の辿るべきコースを容易に自得することが出來ようと思ふ。專門家の計算によれば世界に流通してゐる綿布は五十五億碼内外で、此中イギリスは二十二億碼、日本は二十億碼を占めて世界の綿業を日英兩國で二分してゐるとの事である。しかも我輸出先は印度の三割を始めとし蘭領印度、支那、埃及、海峽植民地其他今や世界各地に及んでいよいよ勢を得つつあるが、イギリス産業界の頽勢を以てしては到底我國との競爭に堪へ得ざるに至つた。茲に於てイギリスは其傳統的自由競爭の精神を自ら裏切り、フエア・プレーの看板を引下げて先づ日印通商條約を廢棄せしめ、更に我國に對し七割五分といふ高率關

税を課せしめて印度に於ける自國産業の保護に腐心するに至つた。かくて此一事已にイギリス本來の自信を傷けたこと多大と云はねばならぬ。イギリスは我國に對し此過大なハンデキヤツプを付するに非ざれば經濟戰に勝算がなくなつたのである。さり乍らイギリスの不當な高率關稅主義は明に歷史の過程を無視し時代の推移に逆行するもので、自ら墓穴に急ぐものでないか。曾てアメリカの獨立はイギリス本國の不當な高率關稅に深き憤を發して決行されたものであつた。而して今や印度民衆の怨も亦イギリス本國の指圖による身勝手な高率關稅主義に對し發してゐる事否定し難き事實である。現に我紡績界は無暴な高率關稅に對し印棉不買を以て應酬したが此結果は果せるかな印度農民の深刻なる經濟不況を招來し印度政情にも大波紋を描かんとしてゐるではないか。かくてイギリスの足許を見て取つた印度民衆の鼻息は荒くなつて來た。印度とランカシアとの協定は印度と日本の協定より遙かに困難となつた。アーメダバツトの當業者が早くもイギリス當業者に對して非妥協的態度を示してゐるなど其一例でないか。而して去月二十六日に終了した英印ボンベイ會議の如き正にイギリスの權威失墜を雄辯に語つてゐる。東インド棉花協會ドンサボイン理事長がイギリスの「只取れ」主義を痛擊し日本の印棉問題を顧みて相互主義を力說してゐる所、イギリスに取つては頗る痛い點であつた。かくてイギリスは經濟方則に於て印度を支配する實力を失つてゐる。今後尚印度に對し無理押しに横車を押すことであらうが、其效果は唯時期の問題であらう。しかもイギリスの紡績界は時代の落後者として明に衰退期にあるに拘はらず、反省は愚かの事、只管政府權力の發動と補助金下附による救濟によつて飽迄非違を遂げんとしてゐる。現に本月三日、我綿業代表がマンチエスターに到着した其夜に於てマンチエスターの綿業協會は緊急會議を開いて次の如き意味で對日策を構した。

四

マンチエスター綿業協會は對日綿業戰に於て敗れたることを率直に自白した。

ランカシヤ綿業は日本綿業に敗れた。このまま放任すればランカシアは崩壞の他なし、しかして日本綿業の優勢なものは殆ど全く値段が法外に安いことに歸するもので圓爲替暴落、工場施設の完全、社會立法の相違、勞銀、勞働時間等勞働條件の相違、日本政府の綿業保護にあり。となし左の對策が提唱されたとの事である。

一、大英帝國内に於けるイギリス製品の優待
二、イギリス品に對するインド關稅の輕減
三、日本品に對し圓暴落に對抗するため附加又はダンピング防止稅を賦課すること
四、イギリス政府は綿業補助金を支出すること

（十月五日東京朝日特電）

卽ちマンチエスター綿業界は自ら敗戰を認めながらも敗戰の理由に就て毫も反省して居らぬこと明である。イギリス紡績界不振の理由に就てはイギリス人自ら最もよく知悉してゐる筈で天下誰をも怨む事が出來ない。イギリス人自身勤勉力行し、研究開拓の勞を惜まざる限り今日の運命は當然のみ。しかるに其云ふ所によれば日本品の競爭に打勝ち得ざるは其罪己れに非ずして他にあるものの如くである。殊に日本政府の綿業保護を指摘して政府補助金のお情けに縋らんとする所など大なる認識不足でないか。我紡績は我政府の補助なしに悠々として世界に濶歩し得る殆んど唯一の存在である。而して此實力あればこそ、敢て印棉不買の巨彈を放ち得たのである。かくしてイギリスは自國産業界の不振によつて自由競爭の敗北を招來するに至りしに拘はらず、尚自國外交獨自の彈力性により此頽勢を回復せんとして有ゆる祕計を廻らしてゐる。例せば目下進行中の日、英、印、三角交涉に於て日印關係の好轉となり自國側に不利なる協定とまで落付くに於て、得意の外交

網を世界に動員して我國に報復すべきをほのめかしてゐる。而して現に我朝野の一部に於ては其傳統的恐英病からイギリスの惧嚇を可なり氣にしてゐる向のあることも事實である。近頃嗤ふべき挿話であるが、實は笑ひ得ぬ悲慘事でもある。茲に於て我にあつても經濟外交の正面を勇敢に切つて出る必要があること明だ。卽ち歐洲で整理した外交機關は之をアジアに集中鼓動せしめ、更に南米に向つて躍進せしむることである。差詰めエジプト、イラク、バクダード等々に有力使節を送つて通商開拓を試むるなど妙案でないか。アフガンに赴くべき人選を嚴にして經濟開拓の活機を大アジアの將來に反映せしむるを得ば一入の快事である。ペルシヤ駐在の使臣をして充分に機能を發揮せしむる必要も痛感する。更に轉じて南米工業に努力することも忘れてはならぬ、現にウルグワイ代理公使は已に着京して日ウ兩國の通商親善につき奔走中である。謎の通商路を有つウ國との握手は決して輕視し得ないであらう。

何れにせよ、我外務省の所謂海外商權確立のためには外交目的はハツキリして來た譯である。

五

我經濟外交の動向に就ては一應之を明にした。次に廣田外相就任後に於ける對米、對露、對支、對聯盟關係に就て一瞥を加へて見よう。

先づ對米關係を觀る。對米關係につき誰しも懸念してゐるのは一九三五年に開催さるべきロンドン海軍條約改訂會議並に一九三六年に滿期となるべきワシントン海軍條約改訂會議に對する對策如何との問題であらう。海軍問題につき詳說することは本稿の問題外であるから差控へたいが兎も角、アメリカ側に於てはロイ・ハワード氏の所謂「一面親善、一面建艦」主義が大勢を支配し建艦熱が大に昂つてゐる事は事實である。現にルーズヴエルト政府は重工業、造船業の勇敢な代辯として産業復興法、公共事業法を動かしてまで海軍擴張を試みてゐること周知の通

りであらう。而して傳へらるる所によれば廣田外相は建艦問題で日米兩國各自が有ゆる際に乘じてフリー・ハンドの主張を貫く場合、兩國の海軍競爭熱をいよいよ刺戟することを憂慮して事前に於て何等かのフオーミユラにより兩國間の親善關係を作らんとしてゐるとの事である。之がため共同宣言か、協定でも試みようとしてゐるのかも知れない。而して遣米親善使節が噂さるるに至つた所以でもあらう。惟ふに廣田外相が支那とアメリカに特使を送つて親善を深め暗雲一掃に出でようとしてゐることは一應無理からぬ所である。しかるにアメリカ側に於て日米兩國間に存在する紛糾の原因と觀てゐるものは悉く國内問題であると斷じてゐる。卽ち今日日米兩國に亙る問題としては一、移民問題、二、滿洲事變問題及び三、海軍問題の三者を出でぬものとしてゐること明である。移民問題は暫く別として滿洲事變に就てはアメリカの態度はスチムソン・ドクトリンで決つてゐる。ルーズヴエルト政府となつて多少色彩の異なつた所もあるが滿洲國不承認其他原則的主張に至つては前政府と些かの改善も加へられてゐない。アメリカは滿洲國問題に就て相當の認識は有つてゐる。故に月並の親善云々を繰返して誤解一掃に努力を拂ふ必要はあるまい。アメリカは滿洲國問題の態度に就ては誤解に非ずして見解の相違であると斷じてゐる。かくて漫然として親善使節を送つて見た所無意味であらう。フランスは埃及に於けるイギリスの特殊地位を承認するに二十年も待たせてゐる。我國としては滿洲國の承認を左程に急いで貰ふ必要は寸毫もない筈だ。否或は不承認主義が結構である場合が多い事をも識るべきであらう。兎に角滿洲事變善後問題につきアメリカの了解を取り急ぐ理由はない、萬事は滿洲國の健全な發達と「時」の解決に委すべきである。海軍問題に就ても前述の如く今日の場合殆んど純然たる内政問題となつてゐる。之を外交問題として捌き得るかは勿論疑問であらう。若し之を石井子の自慢話ではないが親善使節によっ

て何等かの取極めが出來て兩國の好轉を來し得るものと見るが如きことは餘りにもお芽出たき限りである。斯の如き場合日米兩國の海軍計畫が變更し得るかと反問せば勿論否と答へざるを得まい。

惟ふに我國よりアメリカに對し何等の働き掛けに出づる場合に於いては漫然たる親善使節を送る事は却つて有害無益であらう。若し使節を送らば特定の目的を有つ政府當路を送るに非らざれば無意味であるが、之は現時に於て到底行はるるものでない。況んやアメリカは今日例の國民産業回復運動で内亂とも云はるる程の混雜振りで其國運の前途も亦決して樂觀を許さぬ有樣である。此際の親善使節などアメリカの疑惑を招くこと必定、我目的などテンから問題とならぬこと明であらう。結局廣田外相はアメリカの内情を洞察して容易に動くまいと思ふ。

六

最後に對露、對支、對聯盟關係に就いて極めて簡單に觸れて見よう。對露關係は去月二十八日、陸軍當路から發表された聲明により一段と注目されて來た。巷間傳へらるる所謂日露開戰説など輕々に口外し得べきでないが、軍當路としては所謂五ケ年計畫による赤軍の充實につき無關心であり得ないことは勿論であらう。殊にロシアは極東兵備に意を用ふるなど急なるものあり、我軍としては滿洲國が境を接してゐる關係上特に此形勢の推移に應ずべき對策を構ずべきことは決して無理からぬ所である。而して一方北鐵交涉の足取りが遲々として進まざる内幕に立入り種々憶測を逞うして得意氣にデマを飛ばし廻る金棒曳きもあつて日露關係が決して快晴でない事丈けは明であらう。而して廣田外相の意向としては對露問題に就ては一般的方針として先づ兩國紛爭の原因たる個々の問題の解決に當つて見ようとしてゐるようだ。而して廣田氏の此用意は外務當路としては正に常道を行くものであらう。民間五有力者が日露經濟提携を策して政府に進言するとの報が傳へら

るるが如きは消息の一脈相通ずるものではあるまいか。しかし廣田氏の立場としては我國際的環境の將來に就き深刻の考慮を重ねてゐること明であり、此考慮の中に對露關係の活機を捉へんとしてゐることを想察し得る所である。ロシアは今や極東に過大な兵備を擁してゐるが今後果して其内部統制が保ち得るやは疑問であらう。さり乍ら廣田氏はその意中策を遂行するものとしても國境に於ける露滿(日露)兵力のバランスを保つてゐることの絶對必要であることは萬々承知と思ふ。此點に於て内閣の所謂五相會議の成行に就ても陸外兩相間に多分の相似點がある譯だ。

對支關係に就ても廣田外相が使節特派説を描いて居り消息通の間でも問題となつてゐる事は事實である。さり乍ら廣田外相の亞細亞經綸から出發した日支提携説に多大の共鳴を有たることは勿論であるが今日其時機なるや否に就ては別個の問題として疑問がある。現に廣田外相は職を賭して對支折衝に當る重大決意をしたとか、蔣作賓氏に歸任を促して自ら外交折衝に當るとかの報道が傳へられた時など支那には支那一流の觀測が早くも反映して我性急的成功に出づるものとして裏を掻かんとしてゐた有様であつた。所謂對日長期抵抗など囁いてゐる所以であらう。亞細亞の大局から達觀すれば日支相提携して現下の不合理なる國際關係に清算を求むべきことの極めて當然なるべきことは勿論である。而して之が爲め國際生活に於ての長兄たる我國が進むで支那に握手を求むべきことも必要であらう。しかも支那の心眼を開かしめ、其進路を確固として轉向せしむるには先づ支那對列強の關係に就き一大決意を以て深入せねばならぬ。日支親善の口頭禪が粥一杯、棒一喝に及ばざること遙に遠いことは夙に實證されてゐたではないか。列強に遠慮叩頭しながら支那に臨み得ざることは支那國民性のイロハを知らざるも尚斷じ得る所である。

七

對聯盟關係、及一般國際關係に就ては今日以上の急轉惡化を懸念せらるるものとては何一つない。聯盟の對支態度は今や氣抜けたゴム球と異らない。去月二十七日から開かれた總會一般討議に於ても例の顧維鈞と例のマグリアカとアイルランド代表の三人が何やら喋つたが勿論格別の反響を與へてゐない。支那問題は竟に聯盟華やかなりし頃の夢物語としてジュネーブ湖畔から消え去つた。聯盟主催の軍縮會議も本月十六日から一般委員會を開く豫定であるがナチスの躍進を制せんとしてゐるフランスが軍備監督制を持出し形勢は一入と惡化の兆あり、現下の不安なる國際政局に輪を掛けた貌である。而して英米兩國の關係如何と觀れば建艦競爭問題で相互に肚裡に一物を藏してゐる一方兩國多年の癌たる戰債問題は容易に解決し得ざること依然たる有樣だ。イギリスの對米使節フレデリク・リースロス氏は本月二日着米し戰債九割減に就て交涉を開始してゐるがアメリカ側では勿論絶對に應じ得ない形勢である。例のボラー氏の如き逸早くも反對意見を出してゐること近電の傳ふる如くだ。かくて英米關係決して快通せず、各自國內政の深刻なる苦惱を抱いて之が打開に必死の努力を傾けてゐるのが其現狀である。此點我外交は先づ專ら列强の內政問題につき明察を加ふべきであらう。

惟ふに世界の經濟界が所謂ブロック化の大勢を辿つてゐる如く外交も亦此大勢に乘つて動いてゐること明である。國民經濟生活が國家全體主義と不可分の統一關係にあるものと觀る經濟的國家主義が統制經濟の力强きローラーを廻してゐることは已に周知の通りである。しからば外交も亦從來の自由主義外交をハッキリ淸算して國事の急に赴くべきこと論を俟たぬ。一九三五—三六年を目指して用意さるべき我外交方針は之を外にしてあり得べき筈はない。

經濟外交の指針

——「大亞細亞主義」（昭和八年十一月號）所載——

一

「我國が東洋平和の責任者として國際間に當然占むべき地位を確保することは我帝國外交目下の急務である」「日本の現狀を考慮すれば今後の外交は帝國の經濟的對外進出を目標とせねばならぬ」「今や日本の國際的地位は實に經濟外交の非常時である」とは曾つて外交當局談の形式で發表された聯盟脫退後に於ける我外交方針である（本年七月三十一日付聲明）。卽ち此聲明書によれば我外交方針は極めて明白で、何等の註釋辯解なしに世界に通つてよい筈である。此聲明は我外交の目的を語り、範圍を定め、決意を示したもので相當の重要性を帶びたものであつた。勿論事新らしい言分ではないが、卽今の我國際的環境に處すべき對策を出した所に重要價値が認められるべきであらう。かくて我外交は列國との友誼增進に努むべきことは舊來の通りであるが、之と同時に東洋平和の責任者として獨自の地位を占むべきことの急務が確言され、經濟外交の目標と其非常時意識が强調さるるに至つたものである。よつて惟ふに我外交方針は、夙に政府自ら國民に公表して向ふ所を明示したもので今日に於て之を無視、輕視し得ざること勿論である。所謂五相會議での決定事項の如きも此外交方針と抵觸せざるべきや明なるべく、少くも我國民は我對外策の決定せらるるに就ては此認識を以て略見透しをつけてゐる。列國に對する我

外交工作が以上の外交方針から始めらるべきは論を俟たぬ。

一一

經濟的對外進出が我外交の目標となつて來たことは誰しも疑はぬ所である。而して經濟的對外進出と云はば世界經濟の支配勢力に對して或程度の喰込みたることも當然であらう。かくて經濟法則の明示に從つて、勤勉力行し良品を廉價を以て供給せんとする者が、既成勢力の現狀打破に躍進し來ることは必勢となつて來た。我國がインドを始めとしイギリスの勢力圈内に於て白熱的經濟戰を展開し來りたること毫も怪むを要しない。而して經濟戰は勿論武力戰と境を接してゐることも常識である。目下の我經濟戰の如きは正に宣戰なき戰爭とも云はるべきもので、戰時狀態に這入つたものと觀るべきであらう。よつて我外交は平時外交に非ざること勿論であるが、此激流に棹して力漕する當然の外交として、先づ對英經濟戰に漕遇したこと正に天意である。イギリスが永年に亙つて世界經濟の覇權を握り、世界市場を獨占し來りたる事實は、今更絮說を俟たぬが、其亞細亞に關する限りに於ても牢固たる地歩を築き居りたること周知の通りであらう。しかるにイギリス政界に於けるトレード・ユニオンの增大化に從つて、財政の破局を招き、勤勉精神の消耗を來したる結果、先づ其産業界が頓みに衰退期に臨んで來たこと、ジーグフリードを俟つまでもなく明に看視された。しかるにイギリスは依然として贅澤精神に浸つて居り、高き生産コストは之を維持し、生産品は舊態のままで改良もせず、徒らに强權を頼むで海外領地に對し、自國品を高價を以て押賣りしてゐるのである。インド高率關稅問題は其好例であつた。しかもイギリスの衰弱は竟に如何ともなし難く、世界綿業の王座にあつたランカシアは操業五十萬錘の半數をして休業を餘儀なからしむる迄に至つてゐる。遖がに剛腹なジョンブルもランカシヤの綿業は日本綿

業に敗れたりとの告白を敢てせしむるに至りしこと、寔に當然であつた。對印關稅問題で我國に對し、五割のハンデキヤツプを付するに非ざれば、競爭に勝ち得ざること已にイギリスが我敵に非ざることを明證してゐる。イギリスの苦悶想ふべきであらう。

三

我經濟進出は勿論インドに限つた事でない。例せば世界セメント界に君臨してゐたイギリスは此點に於てまた其自信を失つてゐる。卽ちロンドン、リヴアプール、オツクスフオードの各地を目指して、我淺野セメントが出掛けて行く始末である。英領西アフリカは勿論のこと、エヂプトにもパレスタインにも日本品の取引が活潑に行はるる氣配である。其他何、其他何と世界市場の隅々からは櫛の齒を曳くようにイギリス品が驅逐されて、日本品の進出さるる情報が傳へらるるに及んでは、イギリスの神經が掻き紊さるるに至ること同情に堪へぬ。さり乍らイギリスの敗因は上述の如くイギリス國民の頽廢精神が招いた當然の結果である。安價にして良品の周流進出を防ぐことは天に唾するもので、其結果の覩面なるは勿論、正に人力を以て制し得ざること明であらう。果然インドに展開された日英綿業戰はイギリスの胴腹を抉つたメスとなつた。鐘紡社長津田氏の言によれば昨年日本がイギリス・ブロツクから輸入した金額は四億七百萬圓であつて、日本から輸出した金額は三億八千五百萬圓で差引二千二百萬圓の買越となつてゐる勘定である。而して其内主なるものは印度棉花と濠洲羊毛である。しかも一方日印貿易に就て見るに、最近二十年間に日本はインドから二十六億圓の買越しとなつて居るから、年々一億三千萬圓を日本から拂つて居ることになる。しかるに同期間に於ける英印貿易を見るに印度は英國から二十三億圓の買越になつて居るから、結局年々一億千萬圓を印度から英國に支拂つてゐる譯だ。卽ち津田氏の言を其まま借用すれば日本から受取つた年金を其ま

ま印度から英國へ奉納してゐる事となる勘定である。茲に於てインド農民の懐を肥して來た印度棉花が日本に於て全く不買とならば事態はどうなるか。更に英、印兩者の決濟はどうなるか。問題は正に重大と云はねばならぬ。

四

我印棉不買はさなきだに苦境に喘ぐインド民衆、別してインド農民に對し生活の最後の望を斷たしむるものである。贅澤なイギリス勞働者は塵埃の多い印棉使用に反對してゐるから印棉がイギリスに對し多量買付けを期待し得ざることはインド側が夙に知悉してゐる所である。印棉は日本に向はずしては行くべき運命がない筈だ。インドの背後にイギリスあつて途方もなき高率關稅を課してゐるが、尚之に滿足せず、日印通商條約廢棄とまで無理押しに出たことまた周知の通りであらう。茲に於て我紡績界も勘忍袋の緒を切つて最後の切札たる印棉不買を敢行して、印度側の反省を求めたものである。而して之が結果はシムラ會商となつたことも明である。しかるにイギリスの對日經濟戰は反省どころか、いよいよ戰陣を固うして我に對し最後の決戰を迫つて來た。現に我官民がイギリス外交の恠嚇に怯びえて退嬰の色ありありと示して來たこと何よりの證據であらう。イギリスは斷じて兜を脫がぬこと明である。茲に於て我國としては、好むも好まざるも對英經濟戰には必勝を期して爭はねばならぬ。而して對英經濟戰の展開して行く所、インドの運命に至大の影響を來すべきことは素より論を俟たぬ。我經濟外交が意外にも(筆者には當然にも)インド民衆の心眼を開かしむるに至りしことは運命の皮肉なる戲れとも觀られ得よう。しかるに傳へらるる所によれば去る二十三日の澤田、ボーア第三次私的交涉に於ては綿布輸入割當量問題と印棉買付量問題との關聯案を原則として承認したとの事である。問題にして斯く決定した以上兩者數量其他の如き最早末節に過ぎぬ。かく

て我國としてはイギリスを制すべき唯一無二の武器を差出したもので爾後交渉に權威なきこと明である。印棉不買を讓つては我姿は正に丸腰で必然的にインド民衆の輕蔑を招くことも明である。インドは何故に斯くも苦惱を續けて行くのか解し兼ねることにならう。

五

日英綿業戰を語ることは之によつて、我外交を見直さんが爲めである。我當業者が血涙を絞つて自力で築き上げた我國唯一の世界的存在たる紡績業が、亞細亞の地圖を染め直さんとしてゐる事は近來の快事である。しかも非常時の經濟外交によつて我國際的地位を高めんとせば、從來の虛榮外交を淸算すべきこと論を俟たぬ。卽ち外交と云はば歐米外交に限らるる迷執を潔よく打破して掛らねばならぬ。見渡した所我外交機關中舊來の公使館級で整理すべきものは少くも五六はあらうが、之は悉く歐羅巴にあり、之をどしどし整理し主としてアジアに動員集中すべきを計るべきであらう。日英綿業戰で明にされた如くアーメダバツト、デリー、ベンガルの紡績界はランカシアを反映してゐるボムベイ紡績界とは融和し得ざることを明にしてゐる。英印會商には日印會商以上の難關が豫見さるるに至つた。かくて印度の明日が多事多難であることは最早疑問の餘地もないが、此形勢を急速に促進せしめたものは實に我對英經濟戰に外ならぬ。若し我外交方針が經濟的對外進出にありとせば我外交は今や其活躍の絶好期にあるもので、其雄姿を此一戰に現はし來るべきこと素より當然である。對英經濟戰によつて激成されて來たインドの風雲は竟に何處に行くか。經濟戰は今や單なる經濟戰丈けであり得ざることは餘りにも明白であらう。近時傳へらるる支那の親日傾向も眉唾物たることは明であるが、近年の排日貨で其憤工合が左前となつて來たことは、此傾向に大勢を加へて來た事に疑問はない。安價にして良質の日本品を排して、高

價にして不釣合の歐米品を入るるなど支那人の堪ふる所でない。アメリカの大平洋政策、ロシアの五箇年計畫に對しても、また同一視角から眺め得ようと思ふ。我外交は確固として大地に立つ。其辿るべきコースは正に國民の生活線に沿うて前進すべきことは論を俟たぬ。石井子の所謂親善外交、諒解外交の百萬遍を繰返して見た所、我國際的環境の好轉を期し得ざること明である。唯具體的問題のみ問題を解決し得るのである。

海軍會議の暴風警報

―「大亞細亞主義」（昭和九年九月號）所載――

一

來年の海軍會議が決裂であるべきことは先づ決定的と觀てよい。我が主張が英・米の主張と根本的に相容れぬからである。而して我が主張の全貌は未だ明かにされてゐないが、前議會に於ける大角海相の言明、近く發表された岡田首相の談話を文字通りに受取つて所謂比率主義廢棄の一事に就て稽ふるも、海軍會議の運命を斯く斷定し得ると思ふ。況んや七月十六日の海軍首腦會議は將に海軍會議に對し背水の陣を張つたものである。首腦會議で取極められた内容は勿論嚴秘に附せられてゐるが、大體は新聞に報道されたものと大差なかるべく、海軍當路の從來の主張から綜合推察して次の諸項目を出でまいと思ふ。卽ち一、華府、倫敦條約の廢棄通告。二、比率主義の打破。三、國防自主權の確立。四、軍備平等

主義の實現。五、國防安全感の確保。六、高度軍備國の自發的軍縮の協定。七、南洋委任統治領は武力に訴へても堅持すること。八、對滿國策の强化。九、第一、二補充計畫の急速完成等々である。而して首腦會議は是等の諸問題に就て明確な認識を示し、之が貫徹に對し斷乎たる決意を記錄したものでないかと察せらる。しかし是等諸問題は一として實現に至難ならざるはなく、從つて尋常の決意を以て會議に臨み得ざるや論を俟たぬ。況んや前記首腦會議は所謂艦隊派の烈々たる護國精神に刺戟せられて開催されたるものであるから、內容の成否如何が一入の重大性を有つてゐる事は明かである。所謂艦隊派は碎心鏤骨の苦勞を重ね挺身以て國際危機に曝されてゐるものだ。其の自任は卽ち我國家の重きにある。かくて首腦會議の結果が竟に腰碎けともならんか、夫れこそ先づ部內統制に由々敷大事を惹起するに至らんこと必勢とならう。而してこの見透しに於て、我同胞は海軍會議に臨む我が當路の方針に對し無條件の滿足と支持を與へてゐる譯だ。

二

比率主義が不滿足であることは、岡田首相の言明を俟つ迄もない。然して之を規定してゐる華府及び倫敦條約の廢棄通告をなすことは道理上當然である。しかも之が通告時期は本年末を俟つまでもなく、十月の豫備交涉以前に決行して、我が意思表示を明確ならしむることは條約國相互間に便宜であらう。海軍會議は決してビクビクで安全通行を期し得るものでない。宜しく我が掌中の切札を曝け出して堂々と世界に打つて出るべき性質のものだ。我が國情はしかじか、我が輿論は斯くかく、東亞の形勢はかう、歐米の動向はどうと一々指摘して比率主義の矛盾撞着を說破すべきである。卽ち刻下の國際不安と我國力の擔當面から云つて、必敗率を此上ともに强いらるるは斷じて忍び得ざる所以を高調すべきだらう。しかも結局するに問題は自ら明かである。所謂親善

工作の御題目を百萬遍唱へて見ても、文化外交とやらに憂身を却して見ても、國策衝突の暗礁を切り取らぬ限り問題の解消は斷じて期待し得ないからだ。

茲に於て所謂協和外交など、さして利目ありとも思はれない。否ヤンキー氣質から見れば協和外交は却つて日本與し易しと思はしむる事必定でないか。海軍會議の一難點が日米兩國の國策の相違にあることは細説を俟たぬが、しかる以上は率直に此の不動點に觸れずして、何等かの外交好轉を期待するなど乞食根性に墮したものである。しかも國策の矛盾衝突は國力の緩和によつて是非が決せらるる以外は理論鬪爭によつて之をカバーして行く外ない。別してアメリカ國情に向つて比率主義の矛盾を理論鬪爭で展開して行くなど絶妙と思ふ。國家が自由平等なるべき建前に對し比率主義を强制するとは何事か。此點に就てプラット提督の比率主義固執は一個のナンセンスである。彼は曰ふ。華府會議の成功は「國際主義とデモクラシーの雰圍氣」に合致した爲めであると、しかも比率主義の觀念自體が國際主義とデモクラシーの觀念と矛盾しないといふのだ。根本的に云はばアメリカ自身の建國精神に對し知らぬ顔して通るといふのである。どうせ海軍會議が決裂と見透しをつければ女々しき媚態工作は一切せぬが宜しい。寧ろ我が立場を明示して天下晴れての國際舞臺で不敗の理據に立つ理論鬪爭を試むべきだ。かくて我が代表に人宜しきを得れば、或は案外にアメリカ國策の變轉が期待し得るかも知れない。アメリカ國情の打診から斯く觀察し得るのは强ち書生論でない。

三

さて海軍會議に臨んでの我が主張、要求が何であるかは前記の如く未だ明白にされてゐない。しかし乍ら今日明かにされてゐる比率主義の廢棄と雖も兎もすれば英、米との同比率要求と卽斷されて軍擴を聯想され、我が立場に不利なることも懸念さるる譯である。此の點國防平等權(國家平等權)を主張するこ

とのより可なること本多熊太郎氏の卓見に服すべきだ。これは國家の本質論から觀てしかるべきは勿論、獨逸の先例に明示された國防自主權の原則確立から云つて、列國は何等の苦情もない筈だからである。

さて傳へらるる我が主張に對し英、米に於ては早くも強烈な反對論が朝野の有力者の間に揚げられてゐる事周知の通りである。筆者は茲に其の一つの反對意見(實は嫌味であるが)に就き一二の示唆を投げて見やうと思ふ。それは海軍會議の太平洋、別して東亞各地に及ぼす影響奈何との問題である。クリスチアン・サイエンス・モニターの觀る所によれば、日本が海軍會議に提出すべきパリチー要求の根據は次の二目的の孰れかにある。卽ち一は日本の支那に對する威信確立のためか、或は通商問題を政治的讓歩としてかの二者の中其の一であると觀てゐる。モニター紙曰く

前者(威信云々)は全く極東政治に懸るものだ。威信は支那に關する重大事である。日本の新政策は支那に於ける立場を創作するにあるが、此の事たるや少くとも日本が英、米と平等たるべきことを前提とする。故に日本人に取りて打つべき楔は海軍の同率を認識せしむる事だ。かくて始めて支那人は日本の立場が英・米と同列にあることを了解し從つて日本を尊敬するに至るであらう。

プラット提督も亦華府條約に言及して、該條約が「支那及び東洋の事情を安定せしむる事により、亞細亞の荒れ模樣 Storm clouds in Asia」を一掃するに役立つたと絶讃してゐる所から觀て明かなる如く、傳へらるる我が主張が東亞問題に重大關係あることをにらむでゐるやうだ。

四

從來の比率主義が夫れ夫れの國格に對し不自然の差別待遇を強制したるものたる事は云はずもがなであらう。周知の如く華府會議は英、米、日、佛、伊

の各國に對し主力艦の比率を英米五・五、日三、佛伊一・六七、を決定し航空母艦を英、米各十三萬五千噸、日本八萬一千噸、佛伊各六萬噸と制限し了つたのである。而して補助艦制限問題はブリアンに一代の名科白たる「君は海上で魚を釣れ、我は海底で藻草を刈らん」を吐かしめて遖の英米もフランスに顔負けして竟に幕を下ろした曰つきのものだ。かくて名科白によつて難を免がれた潜水艦は勿論のこと巡洋艦、驅逐艦の各補助艦が制限外に置かれた譯である。しかるに倫敦條約は更に此の補助艦に對してさへ制限を加へ以て國防力の自由を全く奪ひ去つた。

かくて比率主義は理由は如何にあれ、實質は確かに國格に優劣を附したもので、獨立國家として忍從に堪へ得ざる恥辱を受けたものたること明かである。華府會議より倫敦會議に至り我國論の沸騰せしこと素より當然で、殊に倫敦會議は、我が政界に一大分水嶺の役割を果して今日に及べる事正に天意の運行を物語つてゐる。よつて比率主義の打破は國格自由の奪還を意味し、國家の復元運動を明示するものだ。日本の再興運動といふも可なり。海軍會議に臨む我が輿論の眞劍さを知るべきであらう。而して、此の眞劍さが東亞に及ぼす影響の深刻たるべきことも素より明かだ。我が主張が支那に對する威信確立といふが如き虚勢のみで、重大決意が明示さるる筈がない。

五

海軍會議に臨む我が態度は之を大觀するに現狀打破である。既存海軍條約を以てしては滿足し得ないといふのが之を物語つてゐる。而して英、米兩國は明白に現行條約の擁護を主張してゐるから立場は正に反對である。ヴエルサイユ條約の廢棄を叫むでゐるドイツの呶呵ではないが、不合理な國際條約の再吟味と清算を試むる事は國際平和を齎らす有力手段であるから何等憚る所がない筈だ。茲に於て、比

率主義の打破が風雲動く東亞地方にも精神的、政治的に一大衝撃を與ふる事は必勢である。かくて結果論から云はば海軍會議の我主張が、支那に對する我威信確立にありと觀るのも一應無理でない。而して會議に於ける我主張の敗れたる場合、若しくは安價な妥協で一時の糊塗が計られた場合を想像しても見よ。先づ海軍首腦會議の所謂我が對滿國策の强化は愚かの事滿洲自體が根底から動搖を免かれざる事も覺悟せねばならぬ。之が覩面の現象は、支那の對日行動に反映し來ることも素よりだ。我の退一歩は彼の進一歩である。しかも殘忍と高慢痴氣の前歩である。其他の東亞の諸情勢も之に準據し、相率ゐて自立の好機を失ひ竟に折角の自覺運動が逆轉して歐米の膝下に再拜するに至ることも豫斷するに難くない。海軍會議に臨む我が主張の勝敗如何が支那を始めとして有色諸民族の興亡史に重大役割を有つてゐる事を識らねばならぬ。我國自らの强化が其のままに轉じて東方の形勢に好轉を反映し來ることは何と見ても否定し得ない。

六

アメリカ官邊筋からの放送によれば、若し海軍會議に於て日本よりの比率增加、若しくは實質的均勢等の要求があれば、竟に會議が決裂となり、太平洋防備制限協定を廢棄し、比律賓、グアム、ハワイは素よりの事アラスカのダツチハーバーを始めとし、アツツ島方面に至るアリユーシヤン群島一帶に亘つての海軍根據地及び連絡設備を完成强化し、以て日本海軍力の增加に對抗するとの事である。かくて現に先般試みられたアラスカ指しての編隊飛行など、想定敵國の何たるやを示したつもりであらう。

更に又ルーズヴエルト大統領のハワイ訪問が單なる保養旅行に非ざるべきは、外國記者團が七月三十一日の岡田首相との會見談で厄鬼となつて之が感想引出しに努めた事によるも察知し得るが、ル氏がヒユーストン號に於て試みた建艦演說の激勵によるも

亦推知し得よう。其他三萬五千噸級の戰艦建造計畫や、今秋再び太平洋に歸還する米艦隊の大演習計畫や、無敵空軍の計畫等々を數へ來らばアメリカの肚裡の那邊にあるや明察するに難くない。殊に傳へらるるアメリカの太平洋航空路の制覇に至りては、東亞の神經を刺戟してゐる事決して少々でない。其の描くところは北太平洋に於けるアラスカの攻勢的姿勢と、南太平洋に於けるアメリカ大陸とハワイを連ねる防備問題で、曾てのリンドバークの訪日飛行の如き、今や何人の眼にも眞相が判明して來た譯である。アラスカ、アリユーシヤン方面に於ける大規模の制空計畫が何を物語るかは云ふ丈野暮だ。他方米、支、濠を連絡する制空覇權確立も意圖されてゐる。而してロシアが是等の制空計畫に無關係を斷じ得ざることも勿論だ。

かくて日本包圍の陣形が海、陸、空の各面から迫つてゐることを否定し得ない。餘りに神經過敏に走る事は大人氣もないが、さりとて此の形勢に對し何時迄もお人好しの他力本願を極め込むのは危險此の上ない。情勢の推移を此のままに放置せんか、大事到來し竟に進退谷(きわま)ることも豫見するに難くない。かくて東亞の全面的崩壞が始まらぬとは誰が保證し得やう。我國の國際的孤立は何としても事實である。先づ此の認識の下に一切の打開策が講ぜらるべきことは明かとなつてゐる。

七

情勢の逼迫斯の如し。しかるに我が當路の情勢打診は例によつて頗る悠長呑氣である。當面せる海軍會議の重大性に就て殆んど認識を缺き、從つて對策明示の勇斷を缺き、國際環境を愈々不利に陷らしめてゐる事遺憾に堪へぬ。例せば過般の倫敦に於ける豫備交涉に於ても明かなる如く、我國は相變らずの自重一點張に終始し、我が在英大使は政府の訓令其のままに海軍會議の場所、時期、議題に限つての折衝を試み、竟に英、米をして日本は海軍會議に熱意な

しとの印象を與へしめたのである。正に愚策の極であつた。英、米豫備交渉は内容に觸れての駈引であり、海軍本會議其のものの開幕を思はしめたものである。フランスと雖も條件を附して堂々たる折衝を重ねた事言を俟たぬ。獨り我國が鐃鉾張つて玄關先の挨拶に止めたなど、野暮を通り越して問題に對する不用意を暴露したのみでなく之が東亞全局に及す影響に就ての認識を缺いた點に多大の遺憾があつた。

かくて海軍會議の專門的見透しに於てすら不安感を與へてゐた。況んや大局への波及につき何程の先見あるかは深憂に堪へぬものがある。近衛公の歸朝報告によれば、アメリカの一部に於ては、滿洲國承認問題と交換的に海軍問題の解決及び太平洋の平和維持問題が考慮されてゐるとの事である。尤も此種の放送は曾つてアメリカ外交政策協會と銘打つたものからも我國に傳へられたものであるが、肚裡は正に我が陸、海軍部間の乖離策を狙つたものか、我輿論攪亂策以外の何物でもない事は明かである筈だ。我國が此の種の安價な宣傳と妥協策に乘ぜられたが最後、我が國際的地位の顚落が意外の邊から餘儀なくさるる事必定である。外交は無闇に孤立を恐るる必要がない。外交孤立の打開策は自ら其の途がある。外交は自ら悔る事が最大の危險事である。惟ふに海軍會議は、我が外交の方向轉換期に絶好の機會を與ふるものだ。英、米との折衝に霞ケ關從來の外交方針が何程の威力があつたかは問はずして明かであらう。海軍會議で土俵入りを濟した我國である。萬變に處する秘策なくして可なるべきか。（八月十二日湘南客舍にて識）

巣鴨日記

ここに掲載する『巣鴨日記』は、太田先生が昭和二十年十二月十二日から昭和二十二年八月三十日まで、GHQ（連合軍最高司令部）による戦犯容疑者として巣鴨拘置所に留置されていた間の記録である。太田先生の逝去後にこの日記の存在がわかり、ご遺族のご好意によって、今回の全集に収録することができたものである。すべて原文通りである。

拘置所では「容疑者」でなく「既決者」の如き待遇であったことや、聖書を読み、御製を繙かれることを毎日の日課としておられたこと、また、当時の世相については「新聞ヲ通シ政界、世相ヲ見ルニ、軽薄言語ニ絶スルモノアリ、此ママニテハ到底収マリソウナク、風楼ニ満ツル感アリ、（後略）」（昭和二十一年四月十九日付）と嘆かれ、日本の前途を絶えず憂慮しておられる。

昭和二十二年八月三十日釈放のことも事前に何の連絡もなかったようで、「九時半頃散歩中途ニテ、米兵、余等十五名呼ビ出シ、廊下ニ整列セシメ本日釈放トナリタルト伝ヘル」とある。九時半に連絡があって、「一時頃帰宅」と記されている。

朝日新聞の昭和二十二年九月二日号は、一面のトップに極東裁判検察当局の発表として、

「A級二十三名を釈放」を次のように報じた。「キーナン首席検事は、今回の釈放は証拠不充分によるものであると前提し、次の如く声明した。これらの容疑者に関する記録や調査を検討した結果、彼らの行為の多くが逮捕、拘置の充分な理由はあったが、さりとて国際裁判にかけるほどの根拠とならなかった」と。

六百二十七日にわたった拘留の、これが結果の言葉であった。この新聞記事の頭に〔AP特約〕というクレジットが付いており、日本の国内ニュースの報道にもアメリカの通信社の配信を仰がなければならなかった敗戦国日本の当時の実状がよく表われている。

編者注

以下御自宅にての日記は、第三巻に掲載。
昭和四十二年十二月三十一日まで。

昭和二十年

十二月十二日（水）快晴

五時半起床　二三子、大嶋昨夜来準備ニ多忙　昨夜ハ知野父娘来宅　天プラ持参ニテ馳走、篤子泊ス。来訪者田辺治通、眞弘、勝田、中井川、犬養、黒田夫人、新之助夫婦、本島夫婦、石川母子、周一、岡安夫婦、矢萩等見送リヲ受ケ、小林行雄、三浦勇助両氏九時四十分、犬養健氏自動車同乗、終戦中央連絡事務所ニ自動車ニテ寄リ　十一時巣鴨着　厳重ナル荷物検査、消毒、診断ノ後、二畳敷　独房密室鍵ツキノ室ニ入ル、四十二号室　已婉然既決囚也。既ニ梨本宮モ入室御見受サル恐懼ノ至リ也、東條元首相以下多数ト一時ニ昼食　各自室帰参ノ節面会、何レモ感慨無量ノ様子ナリ、二時半ヨリ中庭ニテ約一時間散歩、五時半夕食、九時就眠、トランク二個共ニ入室セズ、時計モ腕時計来ラズ、煎餅ブトン上下二枚、タオル、小毛布一枚備付ノミ、持参ノ毛布、ドテラニテ寒ヲ防ギ漸ク臥床スル。丼一ケ、椀一ケ、箸持参シテ食事時間ニ廊下ノ端ノ入口ニ至ル事毎度也。

十二月十三日（木）快晴

五時醒ム、六時米兵戸ヲ叩キ廻ル、七時半朝食寸前炊事当番トシ招集セラレ四王天、古野、小林ト共ニ飯盛、汁ツギ等ニ従事、小生ハオ椀ニ　コーヒー入レ役引受ク、食後廊下掃除、津田信吾等加ハル、其後古野ト洗場ニ赴キ食器　トタン大桶ヲ洗フ。正午昼食、二時頃ヨリ一時間中庭散歩、南次郎大将新ニ入所久振ニテ会談、五時半夕食、八時半就床。午前一時見廻リ米兵ノ点灯ニ醒ム　後ヤヤ眠ラズ。

十二月十四日（金）快晴

三時ヨリ時々醒メ五時飛起キタリ、沈想黙祷久シ、十時半入浴、小林躋造大将同槽也、正午昼食、一時半散歩、夕食後八時半就床。

十二月十五日（土）快晴　寒シ

時計遅レ米兵ノ見廻リノ音ニテ起床、八時眠ル。

十二月十六日（日）晴　寒気身ニ染ム
五時半起床、昼食ノ時、頭上三階ニ木戸、酒井、伍堂、大河内、大達ノ諸氏入所シタルヲ知ル、夕食後、資治通鑑総目序文ヲ読ミ、一時間座禅　八時半就床。
十二月十七日（月）朝ヨリ雨
午後散歩不能ニ気休ム。五時起床。五時半米兵点灯ト共ニ例ニ依リ聖書ヲ読ム、苦難ノ教訓ニ発明セラルル事甚大ナリ。十時半、小林大将ト同槽入浴、一時半室前ノ廊下ヲ三十分散歩シ廻ル　雨天トナラバ、更ニ情ケナシ、外部ヨリノ手紙等禁止トナル、当番等世話人ヨリ話アル。
十二月十八日（火）快晴
朝食　東條大将炊事当番トシテコーヒー差シニ立ツ、正午二三子ニ手紙出ス（第一回）。
十二月十九日（水）快晴
午前我々二階ノ一部部屋替行ハレ大川、土肥原、天羽、笹川他棟ニ移リ、酒井、大河内、伍堂、大嶋大使三階ヨリ下ル、同勢賑カナリ。
十二月二十日（木）快晴
三日程便秘セル故　朝下剤請求ス、朝四五寸程ノ條虫下ル、九時半米医来室下剤ヲ呉レル、直ニ飲ム。十時二十分入浴、正力ト同槽ナリ。夕食後資治通鑑少々読ミ八時就床。
十二月二十一日（金）一昨晩ヨリ月明窓ヨリ入リ朝起楽シ、晴也。
朝行事聖書読ミ、明治天皇御集ヲ繙ク　心持ヨシ。持参の着物類始メテ着ル、午後一時間散歩後下着一切取換タル上　着物ヲ纏フ、暖ク且気持好シ。本日、梨本宮殿下、井野、小林他ノ棟ニ移居。
十二月二十二日（土）
昨夜足袋ニ真綿ヲ入レ就床、入所以来足始メテ暖ク極楽気分ニ浸リ乍ラ夢路ニ入ル。
五時醒メ六時起床、午後散歩時間ニ　我々3B代表上田中将　本日米軍代将ト会談、新聞及家庭ヨリノ来信許可内意ノ旨報告、正ニ当然ノ事ナリ。
十二月二十三日（日）醒ムレバ中庭紛雪白布ヲ敷タル

如シ。

一階青年士官　不相変元気ナ声ニテ体操、3B棟ニ勇気横溢セシム。十時頃ヨリ快晴トナリタルモ日曜ノ故ナルカ午後ノ散歩ハ三十分廊下ヲグルグル廻リトナル。プルンチリ国家論ヲ読ミ見事深長ナリ。

十二月二十四日（月）快晴　風寒シ

昨夜冷込ミ今暁迄便所四回モ起キ安眠出来ザリシ程也。今朝ヨリ聖書ヨハネ伝ニ入ル、「真」ノ偉大サヲツクヅク身ニ徹ス、午後散歩後ヨリ幾分疲労ヲ感ジタル為夜八時前就床。

十二月二十五日（火）快晴

昨夜ヨリ風吹止マズ、本日クリスマス也。

獄裡ノ身、馬槽ノ嬰児ヲ憶フ感慨深シ、今朝ヨハネ伝七章五一、ニコデモノ言ニ当面、来ルベキ断獄理由ニ就キ、発明セラレタル所深甚ナリ。本日週一回ノ手紙差出日ナリ　二三子ニ第二回目ノ手紙認メ米兵ニ托ス。

十二月二十六日（水）晴

陽光微ナリ、午前十時半理髪ヲ求ム　廊下ノ端　食事配給ノ場所ニ、二人ノ職人来リ試ム。

昼食四日振ニテ米食ヲ給ス　皆大ニ元気トナル　午前スリッパ、駒下駄、シヤツ差入アリタリ、二三子ヘノ昨日手紙ト行違トナリ気ノ毒ナリ。

十二月二十七日（木）晴

十時十分久振ニテ入浴、郷古潔氏ト同槽、気分壮快トナル、午後ノ散歩日陽淡ク肌寒ク快適ナラズ。本日、持参ノ硯漸ク入室又配給ノ歯磨粉及歯ブラシモ入室、入所以来半月ニシテ歯磨キ出来ル訳也、持参物竟ニ不許可也。

十二月二十八日（金）夜来小雨霽レテ快晴トナル。

朝ノ室内独体操ヲ試ミタルニ珍ラシク汗バミシ程ニテ暖ク難有次第ナリ。午後ヨリ次第ニ曇リ寒クナル、散歩愉快ナラズ。

十二月二十九日（土）

昨日午前左腕ノ注射（チブス？）大ニ痛ミ　七時半就床セルモ夜中痛ミ　小眠忽チ夢ミル始末、今朝頭痛

甚シク起床匆々ノ聖書及御製ノ朝例ヲ廃止シ、ボンヤリ黙座シテ過ス、小窓ヨリ蒼空ヲ見テ幾分心好シ。午前東條英機、安倍源基、川辺大将三人我々ニ階廊下組ヨリ何処ノ棟ヘカニ移居、追々室ノ名前消エテ歯ノ抜ケタル様淋シクナル。

十二月三十日（日）窓越シニ快晴ヲ偲ブ。

昨夜熟睡気分好シ。

朝使徒行伝ヲ読ミ了ル、平穏ナル本年最後ノ日曜ヲ静ニ過ス。

十二月三十一日（月）快晴　風アリ

愈々大晦日トナル　回顧本年　感実ニ無量ナリ、本年正月ハ左門町自宅ニテ戦時乍ラ雑煮ヲ祝シ聖寿萬歳ヲ祈リ　又戸毎ニハ國旗掲揚シ戦勝之レ期シタルヲ認タリ、四月七日鈴木内閣ニ入リ文相トナリ、八月十四日終戦御前会議ニ出席　翌十五日辞職、渾テ如夢、秋月葦水ノ詩一句、微臣有罪復何嗟トハマタ余ノ獄中感ナリ、十二月三日戦争犯罪人トシテ発表セラレ十二月十二日当巣鴨刑務所ニ至リテヨリ十九日ヲ経タリ　今ハ唯静ニ過去ヲ反省シ自己ノ土台再建ヲ計ル之ノミナリ、云フベキ事更ニナシ。

十時半入浴　松坂広政氏ト同槽也。

昭和二十一年

元旦（火）日本晴　風寒ク我國前途ヲ偲ブ。

六時起床、米兵点灯ヲ俟チ前夜準備セル肌着ト着更フ。室掃除後祷リ、宮城遙拝、堅ク期スル所アリ、啓示ニ浴ス。朝食餅三片、小鯛、煮付ナド正月気分ヲ漂ハセクレル、好意謝ス。九時半我々二階在住及一階青年士官連（三階ハ既判決ラシキ二名程ニテ除外）各自室前ニ出テ　小林踏造大将号令下ニ宮城遙拝及國歌斉唱一回ヲ了シ新年式ヲ挙行。直ニ閉扉トナル。聖書続読及ブルンチリ國家論ヲ耽読、後二三子ヘ手紙ヲ認ム。夜國家主義論稿ヲ認メ静座一時間　九時就眠。

一月二日（水）快晴

ロマ書読了リ本日ヨリ　コリント前書ニ移ル、ポーロ

ノ行状使徒行伝下尾以来躍動機峰鋭キコト比隣ナシ、ロマ書ニ入リ発憤悟得セシメラレタル事多シ。本日終日風ナク気持ヨシ、平穏ナル獄裡正月第二日ヲ過ル。

一月三日（木）快晴続ク　風モナシ

九時五十分入浴、郷古君ト同槽、久振ニテ冷水ニテ顔ヲ洗フ、午後散歩一時間ヲ除キ原稿ヲ認メ通ス、夜ニ入リ雨トナル、雫ト樋ヲ叩ク其音ヲ聞乍ラ九時前就眠。

一月四日（金）夜来ノ雨止ミ晴ナレド寒シ

本日我々ニ階組室替アリ、畑元師、嶋田大将、岡部子爵、村田省蔵、賀屋興宣、鈴木貞一、黒田中将、大河内子爵、岩村通世、古嶋健等何処カノ棟ニ引移リ大ニ寂寥感ズ、代ツテ青年士官ラシキ人々来ル。本日初テ新聞及手紙来ル、二三子ヨリ二通封書（但第一信ナシ）周一ヨリハガキ接手　大ニ喜ブ、何レモ去月二十一日及二十三日付ノモノニテ当方十八日付未ダ落手セザルモノノ如シ。

一月五日（土）快晴　寒シ

新聞ニテ裁判ノ方法原則、新年御詔書、歴史、地理、修身、教授停止命令ナド承知、感慨頗ル深シ。

一月六日（日）曇

午後散歩愉快ナラズ。四日付マ元帥ヨリ発セラレタル日本指導者ノ官公職ヨリノ追放指令ヲ新聞ニテ知ル。

一月七日（月）快晴

気持ヨキ日也、十時入浴、松阪廣政ト同槽、今日ハ髯剃リ刃貸与セズヒゲ顔ヲ其ママニテ自室ニ帰ル。本日資治通鑑漢記以下二十冊及ノート一冊差入呉レル。去月十八日二三子ニ出シタル第一回手紙ハ届カヌモノト見ユ、注文書籍来ラズ。

一月八日（火）朝曇後晴レ

午前マタ二階室替行ハル、隣室四三号小林躋造大将ヲ始メ酒井、有馬両伯、後藤文夫、澤田中将、正力松太郎、青木一男等何処ノ棟カニ移転セシメラル愈寂寥ヲ感ゼシム。

定例日トテ二三子ニ手紙認ム、周一分同封シ差出ス。

一月九日（水）快晴

脚部冷ユ。シモヤケ漸次ヒドクナル。

二三子ヨリ手紙三通、佐藤直行、保男、寺西、大嶋氏トノ寄セ書モ入レタルモノアリ、周一ヨリハガキ二通、大嶋ヨリ及佐藤静子ヨリ各手紙。島根県長細寺照海昭龍ト云フ差出人ヨリ印刷物来ル、二三子ヨリノ手紙ニテ　タツピンク夫人ノ紹介ニテ　ミス・キルバン宣教師来訪ノ趣ナリ。

一月十日（木）晴

夜来ノ強風止マズ、幽窓ノ隙間ヨリ寒風這入リ来リ大ニ悩マス。今朝給水来ラズ洗面セズニ朝食　丼飯ニ　スマシ汁掛タルヲ押込ム　婉然ワン公ニ成リ下レリ。九時四十分入浴　牟田口中将ト同槽セルモ二階我々分五槽内三槽冷水ナリ　熱湯トテ丸裸ノ侭交替ニテ湯槽ニ飛込ム始末ニテ散々ノ体也、夫レデモ獄裡ノ入浴ハ気分変転丈ケニテモ助ケトナル。午後散歩ハ強風砂塵ヲ巻キ空気酷シク　広カラヌ中庭ニ時々佇ミテハ憩フ事多シ。

一月十一日（金）快晴

風已ム、ヨハネ黙示録ヲ読了、新約全書ヲ終ル、一切ノ偉大ハ「大ナル患難ヨリ出デ来レリ」トノ教訓ヲ実物ニテ示シ信仰ヲ以テ処スベキコト縦横ニ説キタルモノト観ゼラル、信仰ハ裸身ヲ以テ尊シ、故ニ全世界ニ貫通シ一切ノ人造権威ハ信仰ニ依リ透視セラル、敗戦日本宜シク裸身出発ノ意気ナカルベカラズ、明朝ヨリ詩篇ニ入ル予定也。午後散歩　我々二階片側宛三十分トナル　更ニ運動不足トナラン。

一月十二日（土）快晴

今朝モ給水止リ洗面含嗽共ニ出来ズニ朝食ヲ喫ス、獄裡ノ姿ナラン。其後依然水ナシ、朝ノ便通終日停滞、其上ニテ読書並食膳ニ向フ、マタ何ゾ嗟ゼンヤ。昨夜シモヤケ痛ミ、且ツ　カユミニテ安眠出来ズ　本日イヨイヨ皮膚剝ゲ難渋トナル。

一月十三日（日）快晴

昨夜隣室ヲ始メ数名新入者来ル、沖縄ヨリ脱出途中

捕ハレタル趣也。本日日曜トテ例ノ如ク米兵少数ヲシク至極呑気平穏ニ過ス。

菊池老将軍、午後ノ運動ノ砌「今日デ三十二日立ツタネー」ト感慨深気ニ話掛ケル、同情ニ不堪。

一月十四日（月）快晴

本日マタ水止マリ起居動物ニ堕ツ。十時半入浴松阪ト同槽ナリ、水ナク湯ハ槽底ニ凝リ、三回目トテ泥水ニ浸ル如シ。今朝着物綿入二、足袋一、タオル一、襦袢一、差入ヲ接手ス。昼食後隣室ノ高橋三吉大将ト廊下ニ出デ話シタトノ廉ニテ米兵閉扉、食器洗ヲ最後ニ廻ス、懲罰ヲ食ツタ訳也。ドロドロノ微温湯ニテ洗フ。

一月十五日（火）快晴　小春日和　好日也

午前又々我々ニ階ノ室替アリ、豊田副武大将、和光君等三四名何処カノ棟ニ移サル。前首相廣田弘毅氏吾室ノ筋向フ室ニ入リ来ル、我々ト同時発表サレタルモ風邪ニテ収容延期中ナリシモノナリ、昼食時顔見合セ一揖　感慨無量ノ思ヲ交ス。二階世話役伍堂卓雄君沖縄人数名衣服ノ心配ヲ談判シタルトノ噂アリ、其為メカ一室監禁、昼食ハ勿論散歩時間モ室外不許可、同情ニ不堪次第ナリ。二三子ニ第五信を認メ差出ス。本日便ヨリ全部片仮名ニセヨトノ命令ナル趣、コレデハ認メ得ラレタモノニ非ズ、数氏ニ差出ス予定分ヲ取止メ其旨二三子ニ申伝ヘシム。

一月十六日（水）平隠ナル日也

午前十時理髪ヲスル、入所以来二度目ナリ。伍堂老人本日モ監禁食事散歩共ニ閉居ノママニテ室外一歩モ許サレズ　余リニ苛酷ヲ極ム。

夕食丼飯例ノ如クナルモ、蛎ト人参煮ツケヲ掛ケタルモノ、外ニ極小ナルモ干柿一連宛添フ、閉扉後静カニ四ツヲ食ヒ　残リ三ツ明朝食後ニト椀内ニ貯フ。

夜窓外寒風荒狂フラシ。

一月十七日（木）晴

今暁三時便所ニ起キル　満月ト覚エタリ、幽窓ヨリ入ル月光清烈凄惨ナリ、萬籟静寂、僅カニ巣鴨駅ヨリ

ノ警笛之ヲ破ル、暫時窓際ニ倚リ感慨ニ耽ル、米兵ノ巡邏ニ依リ惜クモ寝床ニ入ル、深夜邦家ノ前途ヲ思フ、萬感去来ノ禁ジ能ハザルヲ如何セン、好シ日々工夫修養ヲ重ネンノミ。

午前入浴如何ナル訳カ午後トナル、二時入浴高橋三吉大将ト同槽　オ互背中ヲ洗ヒ合ヒテ旧年ノ垢ヲ一洗、湯、水共ニ満々　入所以来始メテノ好入湯トテ気分壮快トナル、午後散歩取止メトナル。伍堂卓雄君夕方拘禁ヲ解カレ食事時廊下ニテ顔ヲ合ハセル。

一月十八日（金）晴　寒シ

昨夜四度便所ニ起キル、月光室内ニ入リ真昼ノ如シ。今朝朝食時ニ南次郎大将蜜柑渡シ役、菊池武夫男ハ菜ヲ飯ノ上ニ盛リ役ニ使役セシメラレ、老軀佇ム姿、気ノ毒ノ極ナリ。

午後二時半ヨリ散歩　曇リ且風アリ砂塵巻キ愉快ナラズ。大嶋ヨリ手紙来ル、元旦ヨリ七日迄ノ台所日記認メアリ、九日差出シタルモ宛名依然元巣鴨拘置所トアリ、二三子ヘノ通信モ知ラヌ様ナリ、去月十八日付第一信未ダニ不着ノ模様ニテ検閲監視厳重ヲ極ムルモノト見ユ。

一月十九日（土）快晴

寒気骨ニ徹シ、読書三十分毎ニ便通ノ始末、已ムナク二畳ニ掛布団ヲ敷キ其上ヲ動物園ノ熊公ヨロシクグルグル廻リニテ漸ク自ラ暖マルコト屢々ナリ。二三子ヨリ第六信トシテ十二日付封書来ル、差入物ナド種々心配シ居ルモ当方ヨリノ手紙ハ未ダ一回モ接手セザル模様ニテ獄内ノ措置不可解千万ナリ。

本日マタマタ我々ニ階室替アリ、南次郎大将、伍堂卓雄、星野直樹、郷古潔ナド何処カノ棟ニ移転セシメラル、愈旧友去リ淋シクナル。

一月二十日（日）晴

今朝一米兵入室英語話セルカト問フ、話セヌト答フ、直ニ去ル。今朝朝礼ニテ詩篇謹読ヲセリ。

明日ヨリ再ビ新約マタイ伝　始ヨリ味読セン、マタ従来特ニ感激シ記シアル処ヲ幾度モ心解シ行ク迄読破且熱祷セン、数日間コリント後書三ノ一三以下、

四ノ七―一八ヲ幾回カ繙キ感銘深シ　更ニ繰返サントス。本日モ亦我々ニ階組ノ室替アリ、西尾寿造大将、大嶋浩大使、四王天中将、津田信吾、古野伊之助等何処カノ棟ニ移居セシメラル。

一月二十一日(月)朝小雨　八時半頃止ミ晴トナル

朝礼　マタイ伝首ヨリ始メ十章迄精読「身ヲ殺シテ霊魂ヲ殺シ得ヌ者共ヲ懼ルナ」至言ナリト感ジタリ。十時半入浴、池崎忠孝ト同槽。明日差出スベキ二三子ヘノ手紙認メ最中ニ、二三子ヨリ新調木綿袋ニ入レ綿入一、真綿及真綿チョッキ、ハンカチ、猿又、ランニング　植村、内村、靖献遺言(何レモ岩波版)兄ノ坐禅読本差入アリ　感謝ニ不堪、内村、植村両書早速読ミ始ム。

一月二十二日(火)今朝五時半醒メタル処、雨声頻リナリシモ、六時半頃止ミ快晴トナル、暖カニテ大ニ助カル。

朝七日付ノ二三子ヨリノ第五信来ル、検閲ノ為ナルベシ後便トナル。昨日認メ置タル二三子ヘノ第六信ヲ差出ス。井田磐楠何処カノ棟ニ移居セシメラル。散歩ノ時、菊池男ト淋シ気ニ語リ合フ。窓越シテ葛生老人、白鳥等の散歩姿を初テ見ル、何処カノ棟ヨリ隣棟ニ移リタルモノナラン。荒木、眞崎、木戸、酒井、相馬モ隣棟ラシ。夕　菊池男モ竟ニ隣棟ニ転居セシメラル、入所以来3B組顔不変四、五名トナリタル訳也、夕食後ノ井持参ノ砌松岡洋右ニ会フ、先刻入所トノ話、ヒゲ顔ヤツレ別人ノ如シ。

一月二十三日(水)快晴

本日モ亦暖ニテ仕合セナリ。午前マタイ伝、プルンチリ國家論、植村正久文集ニテ過ス。

午後二時取調ヲ受ク　本格的取調ラシク米将校一、米婦人速記者一、日系人通訳一ニテ、平沼内閣時代対支方針及大政翼賛会関係ヲ主トシテ聴取、五時ニ至ル。

一月二十四日(木)晴　暖カシ。

十時半入浴、昨日入所シタル仙台俘虜収容所ヨリ来リタル青年下士官ト同槽ス。昨日ノ取調ニテ宗教愛國

会 Religious Patriotic Association ヲ知ラヌカトノ問ニ対シ「知ラヌ」ト答シガ室ニ帰リ来リ考タルニ之ハ文部大臣会長トナル規則ニアル「大日本戦時宗教報國会」ノ誤リニ非ラズヤト思ハレ　其旨書面認メタルモ英文ナラデハ受取ラヌトノ事　止ムナク向側ノ廣田弘毅氏ヲ煩ハシ　之ヲ飜訳シテ貰ヒ米兵ニ托シ昨日取調ベタル判事ニ交付方依頼ス。

一月二十五日（金）午前曇　午後半晴

マルコ伝十一章迄謹読、内村鑑三随筆集ヲ見ル。小林行雄、石井寛二ヨリハガキ、大嶋ヨリ十八日付封書落手、大嶋ノ手紙ニテ入所以来同日初メテ余ノ手紙接手シタル趣判明シタリ、差入物ナド何カト迷惑シタル事同情ニ不堪ル次第トツクヅク感ジタリ。昨夜腕時計壊レ用ヲナサズ、懐中時計ハ狂ヒ今後大ニ困ル事トナリタリ。

今朝検糞ボール箱ニ入レ渡ス。

一月二十六日（土）曇

大ニ冷エル、度々便気ヲ催ス。今朝朝礼マルコ伝ヲ了ル、後内村鑑三随筆集ヲ見ル、大ニ感動ス。破損シタル腕時計胸ニ抱キ居リタル処不思議ニ動キ出シ大ニ助カル、修繕願出ヲ取消ス。昨日来　室ノ入替マタマタ始メ牟田口中将移居セシメラレ俘虜関係青年続々来リ我々二階組殆ンド六四室(?)満員トナル、午後散歩婉然動物園其ママナリ。

一月二十七日（日）朝ヨリ曇　午後ヨリ微雨渇マズ午後散歩外庭ニ出ラレズ、二階組半数ニ分レ廊下三十分グルグル廻ル。日曜トテ静寂　終日聖書ト祈祷ニテ過ス、外読書内村随筆集ノミ、此度ノ試練ツクヅク思深カラシメラレタリ、自身及邦家ノ前途ニツキ神ニ訴フル所アリ　感深シ。

一月二十八日（月）曇

寒風吹キ憂鬱ノ日ナリ、九時半入浴、新来ノ広島ヨリ入所ノ一青年ト同槽ス、聖書謹読ト祈祷トデ過ス、他読書外一切乗気セズ、鬱々トシテ暮シ去レリ。

一月二十九日（火）曇　頗ル寒シ

午後散歩不快、粉雪チラチラ寒風ト共ニ吹キマクル。

定例日トテ二三子ニ第七信認メ大嶋分同封ニテ差出ス。本日モ読書其他気乗セズ聖書少々、色々、思案黙想ニ耽ル。

一月三十日（水）曇　本日モ頗ル寒シ

本日マタ聖書謹読、ヨハネ伝ニ啓発セラル。二時米兵呼ニ来リタル処意外ニモ面会室ニテ二三子来リタルナリ、感深クシテ充分語リ得ザル程ナリ、マ司令部許可ヲ得テ来リタル趣ナリ、家事万端差図ヲスル、案ノ状現在住所気拙キ様ナリ、移転ヲススム、手紙ハ五信一通ノミ受取リタルママナル由第一――四没収セルモノカ、大トランクモ届カヌ趣ナリ、感慨無量ニテ三十分許リニテ別レル。本日入所以来五十日目ナリ、往事如夢。

一月三十一日（木）晴

室内寒気骨ニ徹ス、読書興味失シ、終日沈思黙考、苦慮去来ス。

二月一日（金）朝来雨終日渇マズ

十時入浴進藤一馬ト同槽、猿又、ランニング、ハンカチ抔、大急ギデ洗濯ス。ヨハネ伝一五章以下ヲ読ム、一五章ハ亡母愛誦ノ聖句ナリ、窓外雨声ヲ聞乍ラ往事ヲ追憶、思出已ムナキガ如シ。黙想ニ耽リ読書ヲ廃ス。

午後ヨリミゾレ降リ来リ風モ交ヘ漸次降雪積リ白皚々、当分猫額大ノ散歩外出不能トナラン、コンクリート廊下グルグル三十分廻リ散歩終了ス。

昨夜安藤紀三郎別棟ニ移居セシメラル。

二月二日(土)午前曇　午後ヨリ晴　雪解ケニテ頗ル寒シ

昨日降雪二寸程積リタランカ窓外ノ雪風景索然タリ。深沈、黙想ノ時多シ。

二月三日（日）半晴　風アリ寒シ

午前例ニ依リ独リ礼拝、使徒行伝ニ移リポーロノ回心、発足、所信ヲ見　其篤信ト男性的行動ニ打タルコト深シ、一気ニ二十二章ヲ進ミ且ツ祷リ且ツ思フ、ツクヅク人事通塞ノ偶然ナラザルコトヲ感ズ、邦家ノ前途ニツキ示唆セラレタル事頗ル多シ。

二月四日（月）晴　頗ル寒シ
雪解ケ泥濘ニテ中庭散歩本日モ出来ズ、例ニ依リコンクリート廊下グルグル三十分。
入浴ニ行キシ所熱湯ニテ水一滴モ出ズ　皆身振ヒシ乍ラ室ニ戻ル。昨朝ヨリ代用食ノ処　昼食肉粥ニテ大ニ助カル、食事ニ賤シクナリ吾乍ラ呆レル、境遇ニ打克ツ修行未ダ未ダ。松岡洋右何処カノ棟ニ移居セシメラル　病軀稍々快方ラシキモ住年ノ元気更ニナシ。
二月五日（火）晴
室内寒気骨ニ徹スル思アリ、読書ノ間時々二畳間グルグル廻リ自ラ暖マル。二三子ニ第八信ヲ認メ出ス、佐藤静子ヘ返事同封スル。
二月六日（水）曇　強風吹キ且ツ頗ル寒シ
昨夜便所ニ四回起キル、今朝　朝食久振ニテパン美味ナリ、二三子ヨリ一月二十五日消印ハガキ第八信終戦連絡事務局ヨリ面会紹介アリ、其手続シタル旨記シアリ、大嶋ヨリ二月一日付封書来ル。午後英和・和英両辞典、英文旧新約全書、家庭礼拝暦、ハーゼン欧羅巴歴史二冊　各二三子ヨリ差入ヲ受取ル。
二月七日（木）曇
独礼拝ニ加ヘ昨日差入レノ家庭礼拝暦ヲ加ヘ朝礼愈真剣味出ヅ、九時半入浴太田正孝ト同槽　旧同人二、四名トナリ入浴シ乍ラツクヅク感ジタリ。十一時二十分二三子面会ニ来ル、此度ハ終戦連絡事ム所ヲ通シテノ趣、十一時四十分頃迄家事、弁護ノ事ナド夫々差図スル、南元町ノ現住所公判迄落付ク様　野崎奔走シ呉レタル由多謝、親戚近状等聞ク。正午ヨリ降雪頻リニ積ル。二時半米兵ニ依ル室内一斉検査ヲ行フ　頗ル厳重ナリ。
二月八日（金）晴
起床　窓外白皚々タルヲ見タルモ正午頃迄ニ漸次消エ行ク遖ニ春雪ナリ、外気ニ触レザルコト茲ニ一週間ヲ経タリ、蒼穹ノ下頗ル恋シクナル。本日ヨリ、ハーゼン欧羅巴史ヲ見始ム。夕方前室ノ馬渕大尉別棟ニ移居セシメラル、入所長カラズ一、二回散歩ノ時話ヲ交セシノミナルモ快活純情ノ応召兵ニテ茂原

ニ於ケル降下米兵事件ニ付部下責任ヲ負ヘルモノラシク満腔ノ同情禁ジ能ハザリシ思アリ。本日ノ新聞ニテ山下大将絞首刑確定ノ趣マ元師裁断下ル記事ヲ見ル、新聞記事　対岸火災視スル事軽薄此上ナシ。

二月九日（土）晴　稍風出テ寒シ

本月一日降雪以来中庭散歩中絶ナリシ処本日午後漸ク外気ニ触ルル機会アリ、三十分宵蒼ノ下延ビ延ビシ得タル快ハ此処ナラデハ味ヒ得ザル心情ナルベシト切感ス。

二月十日（日）半晴

心静ニ読書ニ精励、瞑想ニ耽ル。断片的新聞外電ニ依ルモ國際情勢徐々ニ変転、戦争ノ意義ニ付人心ノ変化スル事暗々裡ニ看取セラル、英蘇ノ葛藤、米國内事情ノ転変等刮目事ナルベシ。谷寿夫中将入所ノ事知ル、聞ケバ数日前ノコトナル趣ナルモ、向側ト ノ遮断行ハレ近来頓ニ措置厳重トナリタル為　愈既決囚ノ感アリ、散歩モ時間短縮何モ云フベキ処ナシ、噫！

二月十一日（月）半晴

七時我々棟ニテ紀元節ヲ祝フ、宮城遙拝、君ケ代ノ後、年長者高橋三吉大将ノ発声ニテ聖寿万歳ヲ三唱ス。

元旦モ同ジカリシモ　聖寿万歳ハ流涕止メ得ズ実ニ感慨無量ナリ。十時半入浴、俘虜関係青年ト同槽、夏ノ水ノ如キ微温湯ニテ風邪引キソウナリ　散々ノ始末ニテ室ニ戻ル。

二三子、以寿子、公一、石川養之輔、佐藤直行封書、大石修子ハガキ二枚何レモ先月二十日前後差出ノモノ受取ル。

二月十二日（火）晴　稍風アリ寒シ

通信定例日ナルニ付、二三子ニ手紙認メ周一宛同封シ差出ス。始メテ洗濯物差出スコトノ申出アリタルモ、正体明ナラヌ気セルヲ以テ中止スル。

二月十三日（水）快晴　暖ニシテ頗ル仕合ナリ。

午後三十分ノ中庭散歩ニ充分大気ヲ呼吸シ得タリ、同日入所ノ高橋三吉大将夕方別棟ニ移居セシメラ

ル、愈淋シクナル、殊ニ余ノ四二号室ナルニ高橋ハ四一号室ニテ隣室ナリシ為　感慨殊ニ深シ。

二月十四日（木）快晴

昨夕ヨリ水道止リ、今朝洗面モ出来ズ食器モ再洗不能トナル。昨夜何ノ為カ睡眠出来ズ、反転、便所ニノミ起キ暁ニ至リ小眠スル。入浴延期トナル。読書余リ進マズ種々考ニ耽ル。

午後二時過　米兵呼ビニ来リ赴ケル処　先月二十三日取調ベタル　ヘルリー中尉(Hailley?)　再ビ訊問大要前回ト同様箇所ヲ更ニ聞キ、前回申請ノ文部大臣会長タル規則ノ大日本戦時宗教報國会ニ付特ニ問答ヲ交ハス、奇怪ナルハ五・一五事件、本間弁護ノ件、何トナク疑念霽レヌ模様ナルモ　察スルニ誤解ノ材料ヲ持参セルモノナラント思ハル。尚　平沼氏関係訊問相当急ナリ。四時半頃了リ其侭室替セシメラル、即チ従来ハ3B4－2独居ナリシ処2B2－3八畳六人同居(只今一人欠ケ居レリ)トナリ環境一変セルコトトナリタリ。

二月十五日（金）快晴

従前ノ棟ト異リナカナカ賑カナリ、昨夜安眠出来ズ想念夜中去来ス。

午後二時昨日取調ベタル、ヘルリー中尉三回目ノ取調アリ四時了ル。十分間散歩ニ間ニ合フ、支那事変、統帥権関係、憲法問題等抽象事項ニ付訊問アリタリ、察スルニ平沼氏関係対照ヲ得ン為ナラン、更ニ月曜日続行ノ話ナリ。

二月十六日（土）終日雨

終日ヘルリー中尉ニ提出スベキ釈明補足上申書ノ原稿執筆ニ没頭、同室ノ小林君ニ英文飜訳、小野寺君ニ日本文ノ浄書各手伝依頼、夜十時ニ至リ尚完成セズ大ニ努力ス。午前廊下散歩、午後入浴、此棟ハ前ノ棟ト異ナリ十数名同時ニ浴槽ニ這入レル程ノ大キサニテ気持ヨシ、尚廊下ニ蒸気モ通シ　ナカナカ暖カニテ此点ヨロシ。二三子ヨリ差入来ル　支那基督教ノ研究二冊、内村鑑三全集一冊、植村全集一冊、自由日記一冊、フクチャン二冊及靴下二、カラー二、真

綿在中袋ナリ。

二月十七日（日）曇

終日昨日ニ継ギ原稿執筆及浄書ニ暮ス、午後散歩。

二月十八日（月）晴

取調官ニ提出スベキ「釈明補足申立書」完結、日本文並英文共五項目ニ分ケ陳述シタルモノナリ、午後取調米将校ノ来所ヲ待チ居リシモ逐ニ来ラズ。二三子ヨリ本月十五日付第十信来ル、余ノ第一信ヨリ第四信マデ昨日到着トノ趣、実ニ驚ク許リノ非常識ナ検閲振ナリ、猶第九信ハ未ダニ来ラズ不審ナリ。本日2Bノ発信日ナリ　約ノ如ク小金井以寿子、公一ニ認メ差出ス、自宅以外ニ出シタル手紙ノ最初ナリ、来週ハマタ二三子、第十信ヲ書キ送ラン。本日見タル昨日ノ新聞ニテ預金払出シ制限、新円発行等ノ非常措置ノ記事ヲ見ル　愈々危機対処ノ試金石投ゼラレタル訳ナルモ昨今ノ政界ヲ始メ一般人気、決シテ之ニテ、果シテ乗切得ラルルヤ、夫レニシテモ二三子、以寿子ナド心配シテ居ルコトト察セラルルモ今ハ一切詮術ナシ　万事成行ニ委スル以外方途ナシ。

二月十九日（火）晴

移居後ノ環境読書瞑想ニハ極メテ不適ニテ努力スルモ進境セズ、諸事不快多キモ之レモ修養タルノ恩寵ナラン乎、室内八畳敷五人　室外絶エズ騒々シキコト極リナシ。本日午後二時ヘルリー中尉ヨリ二時間ニ亘リ第四回目ノ取調ヲ受ク、悉ク皆平沼内閣ノ支那事変関係事項ナリ。尚昨日完了セル昨日付「釈明補足申立書」之ニ対スル英文飜訳ヲ添付シテ同中尉ニ手交ス。

二月二十日（水）快晴

午前九時散歩、昨日午後ノ散歩ハ取調ノ為犠牲トナリ青天井ヲ見、気分恢復ス。二三子、以寿子、大嶋いと、佐藤静子各封書来ル、二三子ハ九信ニテ後レテ落手ス、大嶋ノ手紙ニ庭ノ紅梅開花、蕾二ツ押花アリ馥郁タル香ヲ漂ハセ多大ノ慰籍ヲ与ヘラル。フクチャン画本ハ佐藤静子ノ好意ト解ル、可憐感激ニ打タル。

二月二十一日（木）晴
以寿子ヨリ第四信ハガキ来ル、第三信ハ入手セズ、
保男ヨリ封書来ル。
一時半ヘルリー中尉ヨリ第五回目ノ取調ヲ受ク、悉
ク平沼内閣及平沼氏身上ノ事ナリ、平沼氏余程詳細
峻厳ノ取調ヲ受ケ居ルモノト想像セラル、帰室四時
半過ニテ散歩犠牲トナル、運動ナク何トナク身体ノ
調子悪シ、気分モ不振、自ラ憤発ニ努ム、夜食事ハ
同室者ニ協力　蜜柑配給役ヲツトム。
二月二十二日（金）晴
午前九時第一ノ順ニテ散歩、昼食時再ビ蜜柑配給
余ノ為之ガ中止、話ヲシテ呉レル同僚アリ、親切身ニ
染ム、室ノ地位悪キ為ニテ致シ方ナシ。
二月二十三日（土）快晴
午前入浴、久シ振ニテ理髪ヲスル　晴々シタル気分ニ
ナル、前田伊都子ヨリ手紙来ル。
二月二十四日（日）晴　寒シ
昨夕我々ノ室継キニ居ル津田信吾君突如脳溢血ニテ
仆レ身体不自由トナル、同情ニ不堪、悼シキ犠牲ナ
リ　切ニ回復ヲ祈ル而已、午後三時同室木村龍之助
君横浜裁判ノ為ニ同行セシメラル、事情聞キ居ル為
気ノ毒ノ至リニ不堪、世事渾非、復何ヲカ云ハン、噫。
今日日曜日ナル故明日差出スベキ二三子ヘノ第十信
三枚長文手紙ヲ認ム、新通貨ノ件ニテ嘸独リ困却シ
居ルナラン、察スルニ余リアリ事茲ニ至ル人事ノ能
クスル所ニアラザルベシ。
二月二十五日（月）夜来ノ雨　今朝ニ至リ已ミ快晴ト
ナル
千葉姉及周一ヨリハガキ、佐藤直行君ヨリ封書来ル。
津田信吾君進駐軍病院ニ入院ノ趣ナリ。昨日二三子
ニ第十信ヲ認メタルモノヲ差出ス、先週小金井ニ返
事出シタル為メ初メテ通信ヲ欠キ　種々事項ヲ認メ
三枚余ニ及ブ、去ル十七日公表サレタル新通貨ノ件
ニテ嘸困却シ進退ニ窮シ居ルナラント思ハルルモ
歯ヲ喰ヒシバリテモ忍耐スベキコトヲ申送リ　間借
ニテモヨシ至急生活転換スベキ事ヲモ希望シ置キタ

リ。獄舎生活ニテハ何トモ詮術ナシ、任運ノ外途ナシ。

二月二十六日（火）晴

本日久振ニテ読書ノ好機ヲ得タリ、聖書心読ノ後ハーゼン欧洲史以太利統一ヲ読ム、カブールノ苦心、ガルバルヂーノ英雄的心境、マヂニノ理想等　現時我國民的復興ニ示唆スル所頗ル多キモノアルヲ染ミ染ミ感得ス、吾獄中ノ修養未ダ未ダ不足、緊褌一番ノ要切々タルヲ覚ユ、神意並國家ノ愛　吾ニ迫ル。

二月二十七日（水）曇

午前入浴、保男ヨリ長文ノ手紙来ル、精神的教養大ニ進ミタル跡ヲ見、意ヲ強フス、佐藤ト共ニ将来ニ期待スル所不尠ヲ覚ユ。

二月二十八日（木）半晴

本日ヲ以テ二月モ逝カントス、顧ミテ感慨寔ニ深シ、獄裡生活其モノハ異トスルニ足ラザルモ精神的印象ノ深刻ナルコト、恐ラクハ米國側ノ予期ニ反スルモノ想像以上ナルベシ、勝者心理ノ行動コソ神ノミゾ知ル、夫レニシテモ敗者ノ恥辱ヲ醳心マデ徹シタルコト如何トモ仕難シ。

三月一日（金）

朝ヨリミゾレ降リ続キ　何トナク心淋シキ日ナリ、散歩廊下廻リ例ノ如シ、夜例ニ依リ燭光弱キ電灯下、視力弱リタル眼ニテハ何等纏リタル読書モ出来ヌコト乍ラ　今夜ハ特ニ物思ニ沈ミ勝チナル為　同室者ノ為漫談ヲ試ミ九時早寝ス。

三月二日（土）曇

午前入浴、午後二時半廊下グルグル廻リノ散歩、サッパリ張合ナク徒ラニ疲労感ノミ募ル。二三子ヨリ新村出選集一冊及 "Political History of Contemporary Europe" by Seignobos：一冊差入呉レル、前ノ独房ト異リ雑居生活ニテ思フ様読書モ出来ズ、折角ノ好意ニ添フコト至難トナル、前使差入断リノ手紙未着ト見ユ。

三月三日（日）

朝起、白皚々タルヲ見ル、月ハ異ナルモ雛節句、桜

田門外ノ異変ヲ想ウコト切也。流石ニ春雪ナリ午後解ケ始ム、明日差出スベキ二三子ヘノ第十一信ヲ認メ保男及佐藤直行ヘノ返信ヲモ認ム、午後昨日差入レノ新村出選集ヲ読ミ了ル。夜、黙想色々思浮ブ。

三月四日（月）曇午後晴

昨日認メタ二三子ヘノ第十一信ヲ差出ス、愈新通貨流通ト云ウニ嘸困却シ居ルナラント日夜痛心スレ共、今ノ境遇ニ於テ如何トモナシ難ク神慮一任ノ外ナシ、大嶋、寺西ナド抱ヘ果シテ月三百円ニテ支ヘ得ルヤ　歯ヲ喰イシバッテモ我慢スベシト激励ハシタルモノノ誠ニ可愛サウナリ、然レ共、余ハ敗戦ト共ニ私生活一切ノ破滅ヲ覚悟シタルモノ、今更何ノ苦慮カアラン、夫レニシテモ二三子ノ運命気ノ毒ノ至リナリ、同情ニ不堪モ亦詮方ナシ、噫。

三月五日（火）快晴

四、五日振ニテ中庭散歩、外気ニ触レ日光ニ浴シ　ウレシ。二三子ヨリ皇后陛下ヨリ市民ニ御下賜ノ真綿ヲハジメ、藁靴一足、靴下一足、ハンカチ一枚、駒狆マスコットナド詰メタル差入包入手感謝ノ至リ也。

三月六日（水）曇時々微雨

廊下散歩、憂鬱ノ日ナリ、快活ニ努ムレ共気分晴レズ、米兵室内検査アリ　侮辱感去ラントスレ共不能、敗戦悲憤徒ニ募ルノミナリ、胸憶葛藤如何トモ制シ難シ、午前入浴、谷正之一階入口近クノ六人寿司詰ニ収容セラレ居ルヲ夕食事瞥見シタリ。

三月七日（木）曇

依然気分晴レズ憂欝続ク。本日ノ新聞ニテ政府発表、新憲法草案ヲ知ル、呆レ果タルモノナリ、全ク試験台ニサレタルモノニテ　幣原内閣ノ無恥底知レヌ感アリ、将来ノ事愈予知シ得ルニ至リタルモ仮令一時的ニセヨ之レデハ泣クニ泣ケヌ気分ナリ、アメリカノ日本対策案外浅薄ナルコトヲモ暴露シタルモノナリ。英ソ緊迫ノ報道頻々ニテ獄中ノ噂ニテ英ノ対ソ開戦説ナド伝ハリ諸々廊下瞬時ノ話題ヲ賑ハセリ。以テ獄裡気分ヲ可知。

三月八日（金）快晴　昨夜ヨリ強風
小塵舞上リ散歩不快也。前田伊郡子ヨリ手紙来ル。
三月九日（土）快晴　寒シ
午前入浴、午後散歩、幾分気分取戻シタルモ依然読書モ進マズ、深沈黙想モ出来ズ、情ケナキコト極ナシ。
三月十日（日）曇　午後ニ至リ降雪已マズ。
本日ハ思出ノ陸軍記念日ニシテ、昨年本所深川方面大空襲ノアリシ日ナリ、感慨実ニ深シ、殊ニ本日ノ新聞ニテ進駐軍ノ宮城前ニテ分列式挙行ヲ読ミ、胸迫リ独リ泣キ崩ル、決意犇々ト迫リ来ルヲ覚ユ。
二三子ヘノ手紙ヲ認ム、去月中旬以来更ニ便リナシ心痛ニ不堪、察スルニ家事困窮其極ニ達シ事情申出悪キ為ナランカ、萬事一任シタル訳ナル故自由措置スルヤウ又間借生活ニ移ルヤウ意見ヲ述ベ置タリ。
小林行雄、前田伊都子両名ニ対スル手紙モ認メ同封シタリ。
三月十一日（月）快晴
昨日認メタル二三子ヘノ手紙ヲ差出ス。
三月十二日（火）曇
廊下散歩ニテ気晴レズ。入所ノ砌持参セシ三十円中五十銭五円ヲ除キ二十五円ヲ新円ト交替申出中、本日二十円渡セルヲ見ルニ十円軍票二枚ナリ、ツクヅク凝視シテ涙流ルルヲ禁ジ得ズ、正ニアメリカノ属國ト転落セシナリ、這箇軍票ニ對シ起死回生ノ長計ナド考フル丈ケ野暮ナリ、問題ハ遂ニ深刻真剣ナルヲ思ハザルベカラズ、邦家ノ前途ニツキ色々ト苦慮ス。
三月十三日（水）朝降雪　午後晴
午前入浴並廊下散歩。午前八時半所内礼拝堂ニテ始メテノ集会アリ出席、アメリカ従軍牧師ボーンス大尉司会ニテ儀式並説教アリ約一時間ニテ了ル。浮虜収容所関係青年達ト交リ松岡洋右、小林躋造、後藤文夫、岡部長景、星野直樹等四十余名ト同席。
岡安末吉ヨリ慰問ノ手紙来ル。
三月十四日（木）曇　時々晴

廊下散歩ニテ鬱陶シ、毎日心待チ居ルモ二三子ヨリノ音信更ニナシ、マタ面会ニモ来ラズ、家事逼迫カ病臥カ、両三日ヲ経タル上　終戦連絡事務局ヲ通シ確メント決意セリ。

三月十五日（金）晴

三月三日付二三子第十三信及大嶋二月二十五日付手紙受取ル。二三子ヨリ新円生活最低生活ニテドウニカヤレルトノ報告アリ安堵シタリ、大嶋ヨリ庭ノスミレ押花ヲ同封ツクヅク見トレ春気分ヲ偲ビタリ。

三月十六日（土）曇

八時半入浴、第一順トテ清潔気持ヨシ、英米対ソ関係緊迫説ト政治犯罪起訴近シトノ噂散歩ノ際話題ニテ賑フ、獄裡心理ヲ草々ニ味フコトヲ得テ感興深シ。

三月十七日（日）朝ヨリ降雪

流石ニ春雪ナリ、片端ヨリ解ケテ行ク、例ニ依リ廊下散歩ナリ、佐藤直行君静岡ヨリ長文ノ手紙ヲ呉レル、毎々ノ便リ実ニ嬉シ、思想モ漸次進境頼母シ、明日差出スベキ、二三子ヘノ手紙(第十三信)並ニ同封スベキ大嶋及石川牧師ヘノ分モ認ム。

三月十八日（月）曇

頗ル寒シ、廊下散歩継グ。二三子ヨリ前後シテ二月二十三日付第十一信来ル（二月十二日付差出シ手紙ヲ見タル旨アリ）、以寿子ヨリ三月三日付第五信、黒田巌君ヨリ三月三日加古川自宅差出ノ手紙各受取ル。昨日認メ置キタル二三子ヘノ第十三信手紙ヲ差出ス。昼食ノ時左ノ奥歯下ノ金充填損壊、為メニ舌ヲ刺戟シ食事ノ際ハ勿論話モ不自由、痛ムコト甚シ。

三月十九日（火）曇時々晴

依然廊下散歩ナリ、下奥歯鋸ノ如ク尖リ舌ヲ刺戟シ食事談話大ニ難渋トナル、今朝歯治療申出ヲナセルモ遂ニ歯医師来ラズ、苦痛甚ダシ、舌大ニ爛レタルモノト思ハル。読書気分出ズ、黙想ニ耽ルコト多シ。永野前軍令部総長入所シ来ル。

三月二十日（水）曇

夕焼ノ美、幽窓ヨリ眺メ明日ノ春季皇霊祭ノ日本晴ヲ独リ祈ル。八時四十分ボーンス大尉司会ノ第二回

礼拝ニ出席、同氏ノ「誘惑」ニ就テノ説教ヲ聞ク、前回出席者ノ外、梨本宮殿下、廣田元首相ノ顔モ見ユ。一時二十分二三子面会ニ来ル、家事報告ヲ聞ク。親戚ノ援助ハ愈最後トミテ勤倹力行シテ困難ヲ切抜ケル覚悟ヲ聞キ大ニ安堵ス、元気ヲツケ帰ス、弁護ノコトハ林弁護士ニ一任ヲ伝言、萬事運命ニ任スコトヲ懇ロニ諭シタリ。

三月二十一日（木）半晴

不相変廊下散歩ニテ不愉快至極ナリ。朝礼独行後、春季皇霊祭ヲ偲ビ皇國ノ前途ヲ祈念スルヤ切ナリ。午後四時別棟歯科医室ニ至リ治療ヲ受ク、親切ナル米國歯科医ニテセメントヲ詰メ懇ロニ手当シ呉レル、為メニ夕食事楽ニ喫シ得タリ。

三月二十二日（金）快晴

八時半中庭散歩、久シ振ニテ外気ニ触レ壮快ナリ。散歩途中九時米兵呼ニ来リ取調室ニ赴ク。従来ノ調振リト全然異リ二世一人ニテ余ノ愛國事件法廷弁護ノ経過ヲ具ニ訊シ、更ニ大亜細亜協会関係其他愛國団体及愛國運動者トノ関係ニ付二時間半ニ亘リ取調ベタリ、察スルニ余ヲ目シテ極端ナル國家主義容疑者トシ更ニ詳細ナル訊問ヲ行ウ底意ナラン、俯仰天地ニ恥ヂズ何ナリ措置スベシ、無暴ニハ断ジテ屈セザルベシ。朝二三子ヨリフクチャン部隊傑作集、小サナ動物園、伸ビ行ク教会、ポケット英和辞典、静子サン手製雛人形額差入アリタリ、感謝ニ不堪。

三月二十三日（土）雨

僅昨一日限リニテ再ビ廊下散歩ト逆転。八時四十分入浴、大風呂破損ニテ3B時代ノ二人風呂ニ入ル同室小野寺君ト同槽、最初ノ番トテ清潔ニテ気持ヨシ。周一ヨリハガキ来ル、庶務課ヨリ勤労課ニ転勤トナリタル趣認メアリ両親共無事トノ事安心シタリ。岡部長景子爵夫人逝去ノ趣ニテ三鳩疎開先ニ帰リ往復九時間滞在三時間警固付ニテ深夜帰所シタルヲ聞ク、同情ト悲憤ニ不堪。

三月二十四日（日）晴後時々曇

又々廊下散歩、鬱屈タル気分募ル。明日差出スベキ

二三子ヘノ第十四信二枚ヲ認ム、同封スベキ黒田巖及大石静子分モ認メタリ。

三月二十五日（月）晴

二時半撮影セラル、廊下ヲ降リ片隅ニ趣キ椅子ノ前ニ Ota Kozo Sugamo Prison 362 標識ヲブラ下ゲ、其後ニ腰掛ケタルモノ及横顔ノ二枚ヲ取ル、措置萬端既決囚人其ママナリ、極端ナル取扱ニテ憤慨ニ不堪、帰室感慨ニ耽ルコト多シ、恐ラク同僚悉クノ感情ナラン。

昨日認メタル二三子ヘノ第十四信ヲ差出ス。

三月二十六日（火）快晴

十時半中庭ニ出テ散歩、春光ヲ満身ニ浴ビ風モナク近来覚エザル快感ヲ受ク。久シ振ニテ読書ニ精ガ出テ聖書ニ感激モ増ス。

三月二十七日（水）快晴

八時半従軍牧師司会ノ恒例水曜ノ礼拝ニ出席、主任ボーンス牧師代理ノ説教ヲ聞ク。入浴。本日2Bノ室入替アリ同室ノ小野寺昌二君4Bニ転居セリ。同君九大在学中入隊シ六年ヲ経過セル者且数学専攻セル者ナリ、純情其モノ、三十一歳ノ好青年ナリ、何時カ再会ヲ期シ　固キ握手ヲ交シ別レタリ、岩手県前澤町出身ノ由。酒井伯、岡部子、四王天、牟田口、南両中将、大倉邦彦諸氏等トモ移ル。

三月二十八日（木）曇　夕微雨

愈々同室者三人トナル、日大講師中村朋喜君、陸軍通訳小林康男君ナリ、小野寺君去リ淋シキ限リナルモ静座読書ニ恵マレ精進セン、本日モ入替已マズ、鶏舎、豚小舎其ママノ取扱ヒナリ。

三月二十九日（金）曇

午前同室ノ中村君ノ移居、小林君ト二人トナル。然ルニ午後余モ亦二階ヨリ一階ニ移居セシメラル。即2B23ヨリ2A13トナリタルモノナリ。至リタル処六畳室ニ伍堂卓雄老一人居ル、今迄三人ニテ閉口ナリシ処ナリトテ大ニ喜ブ、一階南側ナル同側ニ松井大将、後藤文夫、菊池中将、谷大使、青木一男、郷古潔、鮎川義介、和知中将等多数居ル事、散歩ノ

時解リ大ニ談笑シ乍ラ中庭ヲ廻リ　散ル。

三月三十日（土）晴

午前入浴。入所者一同ニ対シ新約全書寄贈アリタリ、アメリカ製ナルヲ見　其機敏サニ承服シタリ。室替頻々ナルニ鑑ミ読了リタル書籍自宅ニ戻ス為、米軍事務所ニ之ガ申請書ヲ認メ提出ス、送リ還ス書籍ヲ資治通鑑二五冊、通鑑総目々録一冊、新村出選集一冊、伸ビ行ク教会一冊、計二八冊ト定メ風呂敷ニテ包装シ、許可アリ次第手渡ス準備ヲ完了ス。

三月三十一日（日）曇　正午ヨリ強風襲来

一時半中庭散歩ニ出シモ砂塵渦巻キ歩行ニ堪エズ、暫時ニシテ中止シ室内廊下散歩ニ移ル。明朝差出スベキ二三子ヘノ第十五信及同封ノ佐藤静子、石井寛二ニ対スル手紙ヲ認ム。

十二月十二日当巣鴨刑務所ニ収用セラレシヨリ早クモ本日ヲ以テ百十日ヲ経過シタリ、往事渾如夢、感慨無量ノ思ナリ、彼ヲ思ヒ是ヲ偲ビ流涕禁ジ得ズ、茲ニ重大覚悟ヲ極メタリ。本三月三十一日ヲ以テ便箋ニ依ル日記ヲ了ヘ明四月一日ヨリ二三子差入レノ自由日記ニ依リ続行セントス、便箋モ竟ニ尽キタリ。

Red 3B 42 Ota Kozo

I want my short drawers, undershirts, a tooth-brush, a toothpaste and an inkstone, all of which are in my suitcase.

I want also an inkstand which I brought to this prison.

四月一日(月)快晴

起床五時十分　就床九時五十分　朝昨日認メタル二三子ヘノ第十五信及同封ノ佐藤静子、石井寛二ヘノ手紙ヲ集配当番ニ渡ス。

十二月十二日入所以来本日ヲ以テ百十一日ヲ経過シタリ。往事ヲ回顧スレバ渾如夢、感慨無量ナリ。入所以来便箋五十五枚ニ日記ヲ綴リ来リタルモ便箋已ニ尽キタルヲ以テ二三子ヨリ差入レタル此自由日記

ニ依リ本日ヨリ更メテ継続セントス。
昨日ノ強風ニ比シ本日ハ天気晴朗ナリ。午前八時半ノ第一回散歩ニ当ル、稍時間早ク　陽光中庭ノ片隅ニノミ射シ、之ヲ満身ニ浴シ得ザリシモ四月ノ春光感謝シ乍ラ一時間ヲ廻歩ス。
十一時鹿児島出身沖縄ヨリ送還セラレタル馬場ト云フ青年入室ス。伍堂卓雄君ト六畳敷三人満員トナリタル訳ナリ。
起床六時、就床十時ノ定メナルモ朝四時半頃醒ムルコト多ク　千思萬考ニ迫ラルルコト熟睡ヲ阻ム。

四月二日（火）晴

起床五時　就床九時三十分　朝九時二三子ヨリ夏國民服上下、ワイシヤツ一、ランニング一、猿又一、合着シヤツ上下、靴下一、スリツパ一、差入受取ル、感謝不禁。
本日天気快晴ナレドモ午後ニ至リ又々強風トナリ二時半ヨリノ中庭散歩二十分余ニテ休止トナリ廊下散歩ニ移ル。近時政治関係収容者殆ンド取調ナク起訴不起訴決定近キニアルヲ思ハシム、噂紛々何レモ自己ヲ有利ニ解シ度キ心理尤モナルモ左様ニハ行カザル可シ、余ハ何事モ神命ニ俟ツヲ期スルモノ復何ヲカ思ハン。侮辱感ニ耐エ兼ネ非常決意ニ傾クトキ差入物来リ転心スルコト毎々　本日モ亦然ルナリ、未ダ修養不成恥カシキ限リナリ。

四月三日（水）晴後曇

起床五時　就床九時四十分　神武天皇祭ナリ戸毎ニ國旗掲揚アリタルヤ、國敗レテ此祭日ヲ迎フ、誠ニ恐懼至極ナリ。
八時半ヨリノ礼拝迎ニ来ラズ、請求スルモ米兵通ゼズ時間経過シテ欠席シタリ、独リ聖書ヲ繙キ祈祷シ過ス。内村鑑三随筆集ヲ読ミ大ニ感激スル所アリタリ。
散歩十時半。午後一時半入浴シタリ。

四月四日（木）雨午後晴

起床五時十分　就床十時　十時散歩微雨ナリシ為廊下三十分ニテ了ル。

今暁三時半有馬伯神経痛持病発シ頻リニ看守ヲ呼ビ扉ヲ叩クモナカナカ来ラズ　四時頃漸ク話声聞エ来レリ、気ノ毒ノ至ナリ、同君午前中室替セシメラル。

四月五日（金）晴

起床五時　就床十時　公一（三月九日付）孝一（三月四日付）ヨリ各封書、石川牧師（三月六日付）石井寛二（三月九日付）各ハガキ受取ル。

昨日ノ新聞ニテ主要戦犯容疑者起訴本月十五日回付ノ発表アリテ廊下寸時ノ噂高シ、余ハ素ヨリ一切ヲ天父ニ委セルモノ今更何ノ感興モナシ、但シ戦後如斯個人ヲ裁判スルガ如キ、キリスト教文明ノ名ニ於テ頗ル遺憾ニ不堪、聖書ノ教訓ヲ裏切ルコト大ナリト云ハザルヲ得ズ、恐ラクハ徒ラニ怨恨ヲ深ムルノミナラン、前大戦ノ愚ヲ再演シタルモ亦省スル所ナシ、人類進歩ノ前途遠シ。

夕方ニ至リ以寿子（三月十二日六信）周一（三月十日付）各ハガキ来ル、本日ハ音信多ク大ニ嬉シ、反之二三子ヨリハ一向来ラズ検閲ノ為カ。

四月六日（土）曇

起床五時十分　就床九時四十分　午前八時半入浴、朝食便通追カケラレ気忙シキコト極ナシ、午後三時半ヨリ廊下廻リ最中、四時米兵呼ニ来リ取調室ニ赴キシ処　米軍弁護団次席某ト通訳本野居リ日本人弁護士ノ依頼有無ヲ聞キ、其他本月十五日公表サルベキ戦犯公判手続等ヲ話シタル上極東國際軍事裁判所条例和英両文ヲ手交セラレタリ。起訴不起訴未定ナル旨話シアリタルモ察スルニ内々決定シ居リ、予備手続ヲ取リニ来リシナラン。公判ハ素ヨリ覚悟ノ前ナリ、勇シク法延ニ立タンノミ。

四月七日（日）晴

起床五時十分　朝明日差出スベキ二三子ヘ第十六信二枚及同封ノ大石孝一、周一ヘノ返信ヲ認ム、二三子ヘハ愈起訴トナル気配略明トナリタルニ付善後処置ヲ講ズベキコト及覚悟ヲ示シタリ。同情禁ジ得ザレドモ之レ亦已ムナキコトナリ、以後ノ事一切神慮ニアリ苦慮セザルベシ。

本日ハ余ガ鈴木内閣ニ入リタル満一周年ナリト記憶ス、國運激変、世事一変、私事渾如夢、今更何ヲカ嗟ゼン、運ヲ神ニ托スルノミ。

四月八日（月）晴

昨日認メタル二三子へ第十六信及孝一、周一、同封差出ス。

今暁二時ヨリ眠ラレズ竟ニ五時起床、萬感胸ニ迫ル、午前事件書類整理シ、午後ヨリ夜ニ掛ケ聖書読ミ、祈祷シ通シタリ。「我汝ヲ選べリ」神ハ我ニ対シ鉄火ノ試練ヲ更ニ更ニ加ヘ給フコトナラン、好シ我之ニ耐テ正宗ノ名刀トナリ我國ニ尽サン。八時半運動、十時久振ニテ理髪スル。

四月九日（火）晴

二三子（三月十二日付十四信）大嶋いと（三日六日付）大嶋保男（三月十四日付）ヨリ各封書来ル。

昨夜マタ不眠今暁二時間程眠リタルノミ。自宅ニアリテ二三子ト在タル夢ヲ見ル、修養未ダシ。本日食欲モ進マズ前途ノ事去来落ツカズ自ラ呆ルル許ナリ、大ニ卓励奮発ヲ心掛ク。午後二時半散歩。自ラ顧ミテ何故ノ起訴ナルヤ見当モツカズ、竟ニ恥ヲ天下ニ晒シ竟ニ絶命トナル、マタ之レ運命ナルカ。

四月十日（水）曇

今暁モ亦二時半醒メ後眠ラズ千々ニ思ヲ砕ク、敗戦日本ニ殉ズル外ナキモ今後内外痛心ニ不堪、余ハ此ママ恐ラクハ獄死ナラン、法廷ニ立ツ運命ト定マル以上刑期恐ラクハ二十年ヲ下ルマジ、家内親戚気ノ毒ナルモ詮方ナシ、終戦内閣員ナル以上一人位ハ上御一人下同胞ニ対シ受難当然ナリ。来ル十五日恐ラクハ起訴セラルルナラン。四時歯科治療セメントヲ填メテ貰フ。

四月十一日（木）曇

今暁二時醒メ其後眠ラレズ反転苦シム。如何ニ工夫スレ共甲斐ナシ、昨日便通モナキ故今夜下剤ヲ請求服薬ス。九日ヘルリー中尉ニ調書写シヲ請求、本日ハ履歴中田辺治通氏後任トシテ書記官長トナリタル点落シタルニ付訂正文ヲ認メ届ケル。林弁護士ノ来

訪ヲ俟ツモ来ラズ。

四月十二日（金）

今暁モ亦二時半便通後眠ラレズ依然困難ノ時ヲ過ス。今朝ヨハネ黙示録二ノ一〇以下ヲ読ミ深ク感ズル所アリ。最後ノ肚ヲ極メ略落ツク。午後三時神戸ヨリ森野英一ト云フ者入室コレデ六畳敷四人トナル、看守ニ抗議セルモ命令トテ断ル、狭ク身動キモ出来ズ無茶ナリ、抗議竟ニ室ヲ替ヘル。

四月十三日（土）晴

二三子ヨリ第十二信（二月二十七日付）手紙前後シ到着十三信来ラズ。

九時第二世山本及野沢ト云フ者ノ取調ヲ受ク　國本社ノ事ナリ活動思想関係詳細ニ亘リ答弁十一時帰室、近々決定ノ余ニ対スル起訴モ恐ラク國本社関係モ其一部ナラン。昨夜少時眠リタルモ今暁二時マタマタ醒メ後竟ニ眠ラレズ漸ク疲労ヲ感ズ、聖書ヲ読ミ祈祷ヲスレ共兎モスレバ乱レ勝チナリ　試練未ダ未ダ也。

四月十四日（日）曇

二三子ヨリ第十五信（三月十四日付）大嶋いと子ヨリ（三月十四日付）何レモ封書受取ル。

昨夜ハ幾分安ラカニ眠リ得タルモ三時半頃ヨリ眠ラレズ困難スル。明日差出スベキ以寿子及公一ニ対スル長文手紙午前中カカリ認ム、愈何時世間ニ出ラルルヤ測リ不知運命トナリタル故夫レトナク決心ヲ伝ヘタリ。二三子ヨリ手紙ヲ受取リタル故同封スルコトトシ之モ認メタリ。

四月十五日（月）快晴

昨日認メタル以寿子、公一ヘノ手紙及昨日通信アリタルニ付二三子同封手紙ヲ今朝差出ス。

今暁モ眠ラレズ三時ヨリ千思万考ス。二三子ヨリノ手紙ニアリタル詩篇九一ノ七ヲ読ミ返ス。ヨハネ伝一四及一五章ヲ繰返シ読ミ、祈祷ヲ続ケ午前ヲ過ス。本日起訴発表ノ処四五日延期セル事新聞ニテ見ル、四五日後ニ至リ二三子ヲ始メ悲歎嘆キヲ想像シ堪エ難シ、事実ハ神已ニ知リ給フ神ノ導キ俟タンノミ、

一切ハ吾手ヲ離レ居レリ。

四月十六日（火）曇

保男ヨリ封書（三月十二日付）来ル。

今朝四時迄兎モ角眠ル其間便所両回起キル。保男ヨリノ手紙ヲ見テ其度毎ニ心境ノ進ムコトニ大ニ喜ブ「先生どうか明るい希望をお持ちになつて我々のする事を御覧下さい」トアリ其前途ニ多大ノ希望アリ、余ノ犠牲無駄ナラヌヲ知リ勇気百倍法廷ニ立ツコトヲ得ルヲ覚ユ。勝田永吉氏去ル十三日逝去十八日告別式ノ旨新聞ニテ知ル。

四月十七日（水）雨

午前八時半恒例ノ礼拝ニ出席米従軍牧師ノ説教ヲ聞ク。不眠依然続ク。

今ヤ吾一大痛傷ヲ負ハントス、血ヲ流スコトナクシテ罪ノ赦免ナキコトハヘブル書九ノ二二ノ教フル所ナレバ受ケントスル苦難ヲ懼ルル要ナカルベシ、苦悶絶叫シテ死スルコト聖旨ニ叶フナラバ之モ好シ、憂キ事ノ如何ニ山積シ来ルノカ今後ノ針ノ山路ヲ神ニ抱カレテ辿リ上ラン哉。

四月十八日（木）晴　風強シ

十一時二十分、二三子来訪、面会スル、愈起訴内定ノ模様ニ付　篤ト心構ヲ告グ、遺ニ信仰生活ヲ続ケ来タル丈ケニ毅然タル決意ヲ示シタルハ大満足ナリ、本日ノ面会ニテ勇気百倍今夜ヨリ睡眠モ出来ソウ也、家事ヲ聞キ之モ安堵ス、万事神意ニ動ク以外ニ途ナシ。

本日モ亦下剤二丸ヲ貰フ。和知中将午後比嶋ニ護送セラル、同君ト回廊下朝夕接シ得タリ感無限。

四月十九日（金）晴時々曇

昨日二三子来訪ニテ決意ヲ伝ヘ肚ヲ確メタル為気分大ニ快活トナリ昨夜ハ割合ニ安眠出来タリ、新聞ヲ通シ政界、世相ヲ見ルニ軽薄言語ニ絶スルモノアリ、此ママニテハ到底収マリソウナク風楼ニ満ツル感アリ、余ハ蔭外ニ幽囚ノ身、浮雲ノ去来ヲ静観シテ天命ヲ俟タンノミ。

四月二十日（土）晴

河原春作氏ヨリハガキ（三月二十三日付）寺西成勝ヨリ封書。前田いと子ヨリ封書（三月二十五日付）。

前田いと子ヨリノ手紙ノ中ニ桜花ノ押花アリ尚馥郁タル美香ヲ放ツ、同室ノ伍堂卓雄君、馬場青年ニモ真心ヲ頒ツ。同封シテ柏井光蔵氏ノ「アコルの谷を望の門となす」一五頁ノ現代説教集在リ、早速精読大ニ敬服シタリ、何ノ時代モ國家興亡ニハ不変ノ鉄則アリ、神ヲ畏レ信ゼザル不遜心ニ依リ自壊スルモノナリ、再建日本ノ途自ラ明ナラン。

四月二十一日（日）晴

二三子ヘノ第十七信ヲ認ム。

午前明日差出スベキ二三子ヘノ長文手紙ヲ認ム、愈運命モ恐ラクハ明日ナラン、十八日ニ決意ヲ聞キ大ニ安堵セルモ聖書ヲ読ミ感ゼル所ニ基キ更ニ神ヘノ扶助ト平静ニ時期待望方ヲ申送ル、尚千葉、永戸、大石各姉兄ヘノ伝言、周一嫁余ニ関セズ好相手アレバ決メル事ナド申添ヘル。遺言トナルモ悔ユルナシ、充分精神ヲ入レテ認ム、同封スベキ大嶋及寺西ヘモ哀情ヲ認ム。不眠ヤヤ薄ラグ。

四月二十二日（月）

二三子ヘ第十七信差出ス　二三子ヨリ第十六信（三月二十八日付）左藤宜行君ヨリ三月十六日各封書、永野護君ヨリハガキ来ル。

本日起訴ナルト覚悟シ朝来荷物万端片付用意セルモ呼出シニ来ラズ、拍子抜ケシタリ　明日ナランカ、昨夜マタ不眠稍疲労シタリ。

二三子ヨリノ手紙ニ依レバ永戸姉ハ去月十四日疎開先ヨリ帰宅シタルニ依リ二十七日訪問シタル趣、余ノ事已ニ承知シ居レルヲ以テ慰籍シタル旨記シ居レリ。姉ノ心事ヲ察シ涙禁ジ得ザルナリ、何ノ日カ相見ユルヲ得ン、起訴ヲ見バ嘸悲嘆スルコトナラン。

四月二十三日（火）曇

水口準ヨリ封書（四月八日付）周一ヨリハガキ（三月二十四日付）来ル。

新聞ニテ起訴状昨日裁判所ニ寄託トアリタルモ本日亦起訴状来ラズ決意ハシタルモノノ落ツカズ、伍堂

君ヨリ借リタ随筆集ナド見乍ラ日ヲ暮ス。
水口二十五日上京夫レ迄釈放サルルナラン面会楽シムトアリ、意外ニ驚クコトナラン、周一モ可愛サウナリ、余ハ自ラ諦メ居ルモ之ヲ思ヒ断腸ノ感アリ、是非ナシ。

四月二十四日（水）

本日二三子ヨリ大風呂敷一、敷布一、便箋二帖、クラブ歯磨、洋石ケン、各入レ物共差入アリ去ル十八日依頼セルモノ乍早速ニテ感謝ニ不堪。
昨晩ハ左門町自宅戦災ニ罹リシヨリ一周年、明日ハ旧國本社ニテ再ビ戦災ニ遭シヨリ一周年也、自宅ヲ顧ミズ奉公シ尽シ今日ノ境遇ニ陥ル、天命ナラン、何事モ云フベキコトナシ。差入風呂敷ヲ利用シ荷物ヲ一括準備ス。

四月二十五日（木）雨

終日雨止マズ鬱陶シキコト太シ、読書瞑想共ニ適セズ、何スルコトモナク徒費シ申訳ナシ、依然トシテ暁三時頃ヨリ眠ラレズ疲労モ加ヘ来レリ、今後ノ事モ考ヘ大ニ工夫スベキ処ナラン。

四月二十六日（金）曇雨

朝聖書少々読ミ、汚物洗濯ス、孔明伝ヲ読ムモ興味涌カズ、気力不振自ラ不甲斐ナキヲ嗟ズルノミ。
木戸侯自室ノ向側ニ転ジ来ルナドマタマタ移動頻リナリ、起訴気構近キヲ思ハシム、一両日新聞来ラズ、政変其他模様一向ニ不明トナル、呑気ナルモ気ニモカカル次第、未ダ超脱セザル証拠ナリ。

四月二十七日（土）曇

人間ノ試練ハ事実デアル。事実ハ之ヲ解クコト容易デナイ、懊悩顛倒尚難シ、信仰モ事実ニ当面シテ実ニ容易ナラザルコトガ識ラルルノデアル。神ヲ信ズルト称シテ磐若不動ノ信頼ヲ彼ニ置クコト容易デナイ、時ニ動揺スルコト免レナイ、百錬遂行ノ尊キ経験コソ難有ケレ。
大川周明気ガ触レ騒グ、隣室ノ松井大将世話スル。

四月二十八日（日）半晴

二三子ヘ差出スベキ第十八信ヲ認ム、愈起訴モ明日

辺リ発表ナランモ婦人達ノ身ヲ思ヒ可憐ソウナリ、生活モ亦苦シカラン、綿々ノ情ヲ偲ビナガラ筆ヲ走ラス。河原春作、永野護両氏分同封分ヲモ認ム。同室ノ馬場正治青年釈放セラレ欣々トシテ出テ行ク。伍堂貞雄君ト二人ナリ。

四月二十九日（月）

昨日認メ置タル二三子ノ第十八信ヲ今朝差出ス。

今朝八時半我々2A東側ニテ天長節式典ヲ取行フ。宮城遥拝君ケ代合唱松井大将発声ニテ陛下萬歳三唱ニテ閉式、各側々ニテ行ハレタル声モ聞エ来リ敗レタリト雖モ君國ノ意気横溢ヲ偲バシメ近来ノ快事タルヲ感ゼシメタリ。昨夜稍々安眠出来タリ。

四月三十日（火）晴

荒木貞夫、土肥原賢二、橋本欣五郎、畑俊六、平沼騏一郎、廣田弘毅、星野直樹、板垣征四郎、賀屋興宣、木戸幸一、木村兵太郎、小磯國昭、松井石根、松岡洋右、南次郎、武藤章、永野修身、岡敬純、大川周明、大島浩、佐藤賢了、重光葵、嶋田繁太郎、白鳥敏夫、鈴木貞一、東郷茂徳、東条英機、梅津美治郎ノ二十八氏。

昨夕A級戦犯者起訴決定申渡アリ。我々2A廊下ヨリ木戸、嶋田、松井、橋本、大川、訴状受取来ル。

余ハ顧ミテ何等覚ナキモ去ル六日条例交付セラレ秘カニ決スル所アリシモ二十八名中ニ入ラズ今朝新聞ニテ起訴標準ヲ見テ民間側当然ナリト知ル。夫レニシテモ平沼先生起訴セラレ昨日夜巣鴨刑務所入ノコト新聞ニテ知リ感慨禁ジ得ズ暗涙ニ咽ブ。人生行路難ト天命ノ数奇、信仰ノ偉大サツクヅク身ニ徹ス。

五月一日（水）曇時々雨　風強シ

朝八時礼拝堂ニ赴キ米従軍牧師ノ説教ヲ聞ク　木侯老先生昨日中庭散歩姿ヲ見タル者アリ入所サレタル趣ト急ギ私語告グ、昨夜モ先生ノ事偲ビ夢結バレザル事久シ　余リニモ大ナル受難ナリ、但　上御一人ノ為千萬ノ犠牲モ是非ナキ次第、老先生モ亦同感ナラン。

五月二日（木）曇後小雨

昨夜東郷茂徳君余ノ隣室ニ収容サレタル事今朝知リ

無量ノ思ニテ挨拶ヲ交ス、平沼氏ト会ヒタルニ元気ノ様見受ケタリト語ル、同君心臓病ニテ収容猶予ノ処起訴トナリタル為入所トナリタルモノ同情ニ不堪。

一両日天気不定、気分不振、読書思考倶ニ不進惰怠ニテ日ヲ暮シ申訳ナシ。

不眠幾分薄ラグ。

五月三日（金）曇

八時戦犯裁判ノ為我々廊下ニ　居室ノ木戸、東郷、松井、嶋田、橋本出掛ケルトコロヲ食事膳持参ノ砌、黙送スル。平沼先生モ別棟ヨリ合流ノ事ナラン。本日ハ有罪無罪ニ付各訴因ニツキ個々人ニ確ムルコトナラン。各自五時半頃帰リタル模様ナリ。

和知中将昨夜発マニラヨリ帰國証人ラシキ事安心ノ極也。

依然夜熟睡出来ズ、疲労感去ラズ閉口ス。

五月四日（土）半晴

戦犯裁判ニ行ク人々ノ為メ三十分早ク五時半看守起シニ廻ル、今日ハ出廷者早ク帰リ来ル。朝九時入浴、其後久シ振ニテ床屋来リ調髪シ気分好シ。昨夜安眠出来仕合セタリ。

二三子ヨリハ勿論何処ヨリモ一向音信来ラズ、新聞ノ断片記事ヨリ察スルモ食糧事情愈急迫シ来レル事明ナリ、然ルニ社会情勢悪化ノ一途ヲ辿ル、大國民ノ矜失セタルモノノ如シ。

五月五日（日）曇時々微雨

起床五時半　就床十時　午前二三子ヘノ第十九信ヲ認ム、前ニ同封スベキ水口準、周一ノ分ヲモ倶ニ認ム。

本日ハ菖蒲ノ節句ナリ、大平時ナレバ各屋ニ勇シキ鯉幟ヲ五月ノ蒼穹ニ翻シ乍ラ男児ノ意気ヲ示シタルニ、本日恐ラクハ此事ナカラン、敗戦トハ云乍ラ焦土化シタル事ナガラ持可欲シキハ軒昂タル意気地ナリ、何レハ伝統精神ノ興起モアランモ左リトテハ情ケナシ。

五月六日（月）曇

二三子へ第十九信今朝差出ス。
昨日付新聞ヲ見ルニ鳩山追放サレ社会党内閣内定ノ報アリ、政局ノ推移ナド頓ト興味ヲ失ヒドウナルモ風馬牛ノ感アレ共　這箇ノ経緯ヲ察スルニ我國民心理ヲ反映スル事バルカン以下ナルヲ思ハシム、國家的矜持ナク個人的見識ナシ。宗教、思想ノ占ムル権威ヲ憶フコト切也。

五月七日（火）晴
今朝二三子ヨリ史記列伝一、開襟シャツ一、佐藤静子ヨリノ可憐人形一差入届ク。
久シ振ニテ快晴ニ恵マレ気分爽トナル、中庭ノ隅ニ雑草ノ繁茂セルモ斯ノ環境ニハ慰メノ一ナリ。
キリストハ「罪人ヲ招カントシテ来レリ(マルコ二ノ一七)」ト曰ヘリ、獄舎ノ暁ニ憶フ　寔ニ力強キ言ナリト、俗塵裡ノ怱忙生活ニコノ境起ラザランヲ愧ゾ、東洋道徳ノ慎独ヲ更ニ飛躍セルモノキリストノ絶対境ナラン、コノ覚醒、反省ハ苦痛ノ極ナルモ救ハ之ヲ出発トスル事明也。

五月八日（水）朝曇後晴
二三子ヨリ四月四日付第十七信及周一ヨリハガキ来ル
朝八時半例ニ依リ礼拝ニ出席　米従軍牧師ノ説教ヲ聞ク、周一ヨリハガキニ「叔父様は今頃どうして居られるかと色々想像しては遅れる筆を進めて居ます」トアリ余ニ対シ同情禁ジ得ズ悶々ノ情　寂寞ノ感ニ切迫セシメラレツツアルコト看得セラル、太田家一粒種子ナリ、有為ノ男児ニ更ニ気力ヲ添ヘント深ク打タレタリ。

五月九日（木）曇後晴
朝九時両ノ指ノ指紋ヲ取ラル、今朝ヨリ毎朝室内検査アルトノ触レ、一時間程室内外掃除念入レ、此処収容セラレ居ル人物百態、何レモ裸像トテ観ルニ面白シ、シカモ多少トモシツカリト映ズルハ兎ニ角人生観ニ生キルモノタルヲ思ハシム、寸前運命知難キ場所ニ於テ　一別即永別ニテ深刻ナル人生修練場タリ、風袋ナキ生活ニ各人躍如タリ。

五月十日（金）雨
本日入所以来満百五十日目ナリ。
朝自室ノ内外ノ戸其他ニニス塗リヲスル、伍堂老人丹念ニ便所マデ試ム。
本年天候定マラヌ様思ハレ麦其他ノ作柄如何ト心配ニ不堪、人心不調ノ兆ト相俟テ邦家前途寒心ノ至リナリ。勤倹力行ノ風ナク徒ラニ他非摘発ト自我充足ヲ以テ一世ノ雷同ニ出ヅ、真骨ノ勇士神慮ヨリ出ヅル外ナシ。
五月十一日（土）曇夕雨
前田いと子ヨリ三月十七日付、大嶋保男ヨリ四月十九日付封書来ル
総選挙以来一ケ月、幣原内閣辞職以来三週間、或ハ自由党、或ハ社会党、或ハ各派連合内閣ト猫目ノ如ク蝸牛ノ如ク変リ且ツ蠕動ス、病弊一ニシテ足ラザレ共要スルニ此公並ニ那翁ノ所謂抽象架空ノ戯曲例既ニ在リ、之レ危険信号ニシテ國家社会土崩ノ兆ニ外ナラズ政治ハ高キ理想ヲ抱キ足ヲ土ニ即スベキモノ、片々タル流行才子ノ能クスベキモノナランヤ、政治ハ地味ナルベキモノ、派手者ハ破壊者ナリ。
五月十二日（日）曇寒シ
二三子ヘノ第二十信及同封スベキ保男、前田いと子、佐藤静子ヘノ手紙ヲ認ム。
午前ハ右手紙ヲ認メ、聖書ヲ読ミ過ス。
十二月十二日入所シ本日ヲ以テ満五ケ月ヲ経過シ一昨日ヲ以テ満百五十日ヲ送リシ訳ナリ。烏兎怱々白駒隙ヲ行クトノ諺ノ如シ　獄裡深ク自己反省ト信仰復活ノ好機ヲ得タルハセメテノ感謝事ナリ　静ニ世相ノ推移ヲ観テ憶ウ事マタ多シ、神慮ノ深キ測リ難シ。
五月十三日（月）雨　夕ヤヤ晴
起床五時　就床九時四十分　昨日認メタル二三子第二十信外三ニ対スル手紙出ス。
新聞ヲ通シ僅乍ラ想像セラルル内外情報ハ悪化ヲ辿ル一途ノミ、戦ハ一波萬波ヲ呼ブモノ其終末ニ当リ世界例外ナク其禍殃ヲ受ケルコト素ヨリ明ナリ、勝

敗倶ニ悪夢ニ襲ハレタル感深カラン、所謂世界國家ノ理想ハ有史以来論ゼラレタルモ緒ニ就カズ、シカモ今ヤ一國ノミノ繁栄期スルニ由ナキコト自明トナレリ、世界史ヲ転換スヘキ信仰ト科学ノ進路ヲ明示スベキ時期ナリ。

五月十四日（火）晴後曇

起床五時　就床九時五十分　二三子ヨリ四月十二日付第十八信及四月二十一日付第十八信、本多秀次、国恵子各手紙受取ル。

二三子ヨリイザヤ書四〇章――五三章書抜キ贈リ呉レタリ、余ノ運命ニ対シ慰籍ノ為ト想像セラル。古預言者ノ深刻ナル体験ハ神ニ対スル絶対依頼トナリ切々タル文章トナリ表現セラレ居レリ、之ニ接シ天来ノ啓示ヲ受ケルコト偶然ニ非ザル也。千恵子ヨリ八重桜、楓、キスミレノ押モノ同封シ呉レル、厚意多謝、之レモ大ニ慰メ呉レタリ。

五月十五日（水）雨時々晴

二三子及大嶋ヨリ五月一日付手紙来ル但郵便ニアラズ持参シタルモノノ如シ、（二三子ノ第二十信ナリ）。

二三子ヨリノ手紙ニ依レバ起訴氏名発表ニヨリ挨拶来客ノ中余ノ帰宅ヲ早合点シタル仁アリトノ事、厚意多謝ニ余アリ、サレ共今時ノ事猶予想出来ズ、万事ハ神慮ニ託スル外ナキコト依然タリ、人事ハ塞翁ノ馬、禍福ハ糾フ縄ノ如シト云ハルルモ、人生ハ草ノ如ク其栄ハ野ノ花ノ如シ、此期間有為転変、限リナキヲ見ルコト獄舎生活ニ於テ徹シタリ、深刻此上ナシ、神ノ威力ニ打タレタルコト一再ナラザルモノアリ。

今朝如例朝ノ礼拝ニ出席シタリ。

五月十六日（木）晴時々曇

本日ノ新聞ニ依レバ八百ノ示威運動坂下門ヨリ宮内庁ニ到リ　米ヨコセノ要求ヲ陛下直接ニナサントテ赤旗立テ押寄セタリトノ記事アリ、之レ空前ノ現象、時勢ノ急変ヲ見ルベシ、政治力ノ薄弱以テ察スベシ、今ヤ時潮ノ急ニ応ズベキ方途ハ、対策アリ、信念アリ、勇気アル人物ニ依ル強力政治ナラザルベカラズ、

袖手傍観雷同政治ニ救ハザルコト明ナルベシ、今ヤ新手ノ独裁雲現ハル。

五月十七日（金）曇

二三子ヨリ四月三十日付手紙、去ル十五日受取リタル（持参セルモノ）ヨリ後ニ来ル。

二十九日発表ヲ見テ喜テ持参セルモノナルベシ。橋本清之助君ヨリハガキ来ル。

本日午後二時半連合軍総司令部情報部ノリップマン（?）ト云フ米人来リ一時間半ニ亘リ國本社ノ事ニ付詳細聴取シ更ニ来週再訪ノ話ヲ残シ了ル。平沼先生及國本社ノ性格ニ付余程ノ誤解アル様ナリ、従来トテ再三取調アリタルニ更ニ今日ノ事アリタル訳ナリ。

五月十八日（土）雨

二三子ヨリ五月五日付第二十一信（持参セルモノ）、佐藤静子ヨリ五月五日付、佐藤直行君ヨリ五月二日付、保男君ヨリ五月二日付各封書届ク。便リ多ク嬉シ。

朝八時半第一順ニテ入浴シ昨日聴取ノ國本社事情ニ付先方希望事項ヲ希望通リ文書ニテ認メ来週提出ノ準備ヲスル。下剤今日モ貰フ。睡眠充分出来ズ、読書モ進マズ怠ケル時間多ク相済マヌ思ニ不堪。

五月十九日（日）快晴

朝二三子ヘノ第二十一信及本多秀次、千恵子、橋本清之助ヘ同封明日差出スベキ手紙ヲ認ム。午後一時半ヨリ一時間ノ散歩、久振ノ快晴ニ恵マレ仕合セナリ、天候不順ニテ作物気ニナリ人心ノ不安モ思ヒヤラル折、コノ仕合セノ持続ヲ心ニ祈ナガラ中庭ヲ歩ク。五月ノ陽光ヲ浴乍ラ青葉ノ下ヲ馳ケ廻リ度キ気分湧ク、情ケナシ。

五月二十日（月）快晴

昨日認メタル二三子ヘノ第二十一信及同封ノ本多及橋本清之助氏ヘノ手紙差出ス。二三子本日持参ノタオル、手拭各一本、扇子一、封筒受取ル。

午後二時半二三子面会に来ル食糧事情急迫、寺西同居困難トナリ転出方奔走中トノ事、気ノ毒ノ至リニ

不堪、已ムヲ得ザレバ大嶋モ田舎ニ帰ス決心ナリト、文字通リ孤独生活トナラントスル模様ナリ　信仰生活ニテ何事モ更新ヲ語リ合ヒ別ル、感激深キ面会、来月上旬ヲ約ス。

五月二十一日（火）晴

午後二時半ノ散歩、折角ノ快晴ナルモMPノ都合ナラン廊下ニテ気分晴レズ失望ス。

本日ノ新聞ニテ昨日マ司令部情報部員トノ会見ニテ戦犯人ノ私有財産没収決定ヲ明ニシタル旨ノ記載アリタリ、如何ナル意味根拠ナルヤ不明ナルモ事実トスレバ驚クベキ措置ナリ、何レニセヨ身ヲ擲出シタル今日如何ニ料理セラルルモ些ノ屈託ナシ。御勝手ニ。

五月二十二日（水）晴

周一、水口大而各五月五日付ハガキ、石井寛二、同俊男ヨリ何レモハガキ来ル。

八時半恒例米従軍牧師ノ説教ヲ聞ク、ヘブル書二章引用ス。当所収容者ニ対シ昨日新聞掲載ノ如ク財産調用紙二枚ヲ配布シ記入セシム、乍去手許ニ資料ナキ為ニ三子ニ記入スルヤウ認ム。二三子モ独リ当惑シ今後生活極度ニ不安トナランモ所詮ハ是非ナシ、最悪ヲ覚悟スル外ナカラン。

五月二十三日（木）曇　夕大雷雨

昨日吉田新内閣成立ノコト本日新聞ニテ見ル。

政界モ國情ヲ反映シ云フニ忍ビザルモノアリ、其状正ニ五等國以下ト堕シ去レリ、礼ヲ忘レ信ヲ失ヒタル結果ナルベシ。食ナク節ナキニ至レルコト同情禁ジ得ザルモ節ナク食ヲシテ更ニ欠クルニ至ラシムルコト因ノ大ナルモノナシトセズ、日本建直シハ日本ノ面目心ノ取戻シニアリ、政界人ニ面目心ノ反映ナキ限リ寸毫ノ期待スル処ナシ。

五月二十四日（金）曇

午前聖書ト祈祷トニ過シ、午後史記列伝ヲ読ム。支那ハ環境雄大、自然ノ威力モ亦絶大ナル為人物特異者甚ダ多シ而シテ汎有思想行動ハ一応出尽シタルモノノ如シ、人間トシテ複雑多岐玩賞性ニ興味ヲ湧カ

シムルモ絶対性唯一観ニ徹スルニ至ラズ、生活力旺盛ナルモ信頼以テ世界ニ貢献シ得ザル所以ナラン。

五月二十五日（土）終日雨　寒シ

五月八日付以寿子、公一、同封ノ手紙来ル、以寿子会社ヲ十日前突然退キタル趣、公一本月一日ヨリ東大哲学科ニ入リタル旨認メアリタリ。

本日新聞ヲ見ル。陛下、昨日正午終戦以来二回目ノ御放送アリ、家族國家ノ伝統ニテ食糧其他ノ窮況切抜ケルヤウ御諭ノコト拝承感激ニ不堪思ナリ。國民一部ノ歪メラレタル感情ノ如キ速ニ一擲シ　部セ國礎ニ結束シ難境ニ赴クコト何故出来ザルヤ。

五月二十六日（日）雨　午後晴

午前明日差出スベキ二三子ヘノ第二十二信及同封スベキ千葉兄へ、手紙ヲ認ム。兄ヘハ入所以来始テ也、周一ノ嫁ノコト気ニナリ余ニ遠慮スル所ナク良縁アレバ話スヌメル事ヲ切言スル。余ニ遠慮ノコト直覚サレタレバナリ、周一可憐ソウナリ。周一中心ノ事仔細ニ認ム。

五月二十七日（月）曇時々晴

昨日認メ置タル二三子ヘノ二十二信及同封ノ千葉兄ヘノ封書ヲ今朝当番ニ手交差出ス　数日前連合國総司令部ヨリ示威運動ノ暴動化ノ兆ニ付警告ヲ発セラレ次デマタ個人攻撃、感情ニ走ル傾向アルニ対シ新聞編集責任ノ処在ニ付指摘セラレ労働組合ニ動カサルルコトナキヲ戒メラル。コレ程ノ恥辱ナシ。以テ現時流行ノ民主々義ノ何モノナルカヲ知ルヲ得ベシ。アノ対ソ感情ヲ察スベキモ我國民ノ低劣サニ自省ヲ求ムベシ。

五月二十八日（火）曇

富山県ニ住ム久賀子ヨリ本月八日付長文封書来ル、去月二十四日千葉ニ赴キ全家族ト約半月滞在セルコト、周一ノ嫁ヲ世話セル処姉並ニ周一ハ大体賛成ナルモ兄ガ余ニ遠慮シダメニナツタ事ナド認メ居リタリ。周一ノ嫁ノ件ニ就テハ予テ気ニナリ居レルヲ以テ昨日モ千葉兄ニ此事丈ケニ付認メタル処ナリ。周一ノ幸運ヲ特ニ祈ルヤ切ナリ。

五月二十九日（水）晴

八時半米従軍牧師ノ説教ヲ聞ク、壇下花瓶ニ牡丹、あやめ、チューリップナドノ盛花ヲ見テ久シ振ニテ蘇生ノ思ヲナシタリ、獄舎ノ生花ハ特ニナツカシ。午前十時半散歩ニ出シ処本日ヨリコンクリート塀際ニ新ニ鉄条網ヲ廻ラシテ狭ク仕切リタル散歩場ニ変更セシメラレ一同失望スル。遥カ隣棟ノ同様ナル新作場ノ散歩群ノ中ニ平沼先生ノ黒國民服ノ姿ヲ見ル、他所乍ラモ始メテノ対面ナリ。先生気ヅカズ其ママ入所セラル。

五月三十日（木）晴

公一ヨリ去月二十九日ノ消印アルハガキ来ル、去ル二十五日受取リタルヨリ前便ナリ、帝大二十五日合格ノ事及以寿子同日会社ヲ退キタル事ヲ認メ居レリ。

昨夜安眠出来ズ終日頭痛去ラズ読書モ進マズ殆ンド無為ニ過ス、勿体ナキ事ナリ、今夜ハ安眠出来得ルカ我乍ラ情ケナシ。

五月三十一日（金）曇

二三子ヨリ五月十五日（二十二信）及五月十七日（二十三信）同封、大崎いと子ヨリ五月十九日付各封書何レモ持参セルモノ落掌、懇々慰メ呉レタリ、多謝。二三子ヨリ立派ナ旧新約聖書及内村鑑三全集4（旧約研究下）二冊差入呉レル、旧約ナク不自由ナラント面会ノ砌話居リタレバ早速届ケ呉レタルモノナラン。早速二三子ノ好キナ　イザヤ書ヨリ読ミ研究始メン。

午前理髪スル。

六月一日（土）快晴

以寿子ヨリ去月十三日付、寺西ヨリ去月二十一日付各封書、永野護君ヨリ四月二十七日付消印アルハガキ来ル。午前昨日差入レ貰ヒタル二冊ニ拠リイザヤ書味読スル。先ヅ内村全集ニ依リ準備研究ヲ進メツ、探求ニカカル。預言者ノ使命ニ深キ感激ヲ受ケル。國家興亡ノ関頭ニ立チ紀元前七百年ノ活言ニ触レ恐シキ権威ニ打タレタリ、時代ノ大転換ニ処スル途ヲ

確ト握リ得タルヲ神ニ感謝ス。

六月二日（日）晴

午前二三子ヘノ第二十三信及同封スベキ保男、直行及久賀子ヘノ返事ヲ認ム。

午前、午後、夜一部ヲ通ジ　イザヤ書読ム、預言者ノ警世的地位ニ就キ示唆サレタルコト頗ル多シ、一人ノ力世界ヲ動カスコト吾ヲ欺カザルヲ識ル、即チ神命ヲ受クレバナリ、布曝ス野ノ大路ニテ、アハズ王トノ会見ノ一齣ノアタリ　言　胸ヲ刺ス。

六月三日（月）曇

二三子ヘノ二十三信外三同封今朝当番ニ手交ス。

本日午前九時半ヨリ愈A級法廷予定ノ如ク開始、我々2Aヨリ木戸、松井、嶋田、東郷、橋本出掛ケルヲ食器洗ヒノ折目送スル、今後ノ苦労モ思ヒ遣ラレ同情ニ不堪、夫レニシテモ同胞ノ認識浅薄遺憾至極ナリ、軽薄ハ自ラ侮リ他ヨリ蔑メラル、義ハ國ヲ高メ罪ハ民ヲ恥カシムト、至言也。

六月四日（火）終日雨

本日朝ヨリ雨、肌寒ク鬱陶シク、獄舎生活ニ一層ノ沈痛ヲ感ゼシム。朝食粥ト乾玉子甘煮少々ニ珍ラシクモ小枇杷二ケ添ヒテ配分スル、先般ハ両三回苺ニアリツキ今頃贅沢至極ニテ勿体ナキ極ナリト思ヒタルニ食ヒ気ニ楽シミ耽ルトハ情ケナシ、獄裡人鮪ク婉トシテ動物トナル。世間ハ此気候ニテ愈食糧窮迫トナラン。デモ雷同気風一擲シ総力部セ働ク外復興ノ途ナシ。

六月五日（水）曇時々雨

八時半例ニ依リ米牧師ノ朝礼ニ出席説教ヲ聞ク。四日ニ亘リ内村全集ニ依リイザヤ書、エレミヤ書、ダニエル書、ホセア書ヲ研究、預言者ノ偉大サニ深ク打タル、之レ神ニ代リタル偉大サニ外ナラザルベシ。其審判ト悔改ト救拯ニ就キ深刻ナル表現ヲ示シ限リナキ希望ト反省ヲ与フルコト現代ノ箴タルモノ多シ、預言者ハ國家最大ノ宝也。

六月六日（木）時々雨

獄舎生活ハ古来幾多ノ教訓ヲ伝ヘ居ルモ　身親ラス

ルニ及ビ深刻ナル感慨ヲ涌カシムルヲ覚レリ、國家及個人ノ苦悩ヲ犇々ト感ゼラルルモ此感慨ヲ心中ニ深ク刻ムコト肝要ナルベシ、獄舎生活ハ動物生活ニ堕スカ天使生活ニ変ヘラルルカ大切ノ試練場ナリ。真ノ國士ヲ鍛練セラルルモノ此裡幾人アリヤ、選バルル者多カラザルベシ。

六月七日（金）快晴

湯川龍君ヨリ朝比奈知泉文集、ルソー人生哲学及扇子一面差入呉レル、厚意感謝不堪。

人生ハ運命ノ定マレル所アリ、マタ自由ニ変更シ得ル所アリ、人生ノ興味アル所以ナリ、其何レニセヨ謙虚ナル心情ヲ以テ神ノ攝理ヲ識ルヲ以テ第一義トセザルベカラズ、蓋シ人生ニ無益ノ労苦甚ダ多ク為メニ力ヲ徒費スルコト亦多ケレバナリ。

六月八日（土）晴

石川牧師ヨリハガキ来ル。

断片ニテ読ム新聞記事モ同胞相攻ムルノミニテ協力一致以テ難境打開ニ努ムル跡ナシ、或ハ独リ明哲保身ニ汲々タリ、大國民ノ矜持モ有ルナシ、刻下ノ急務ハ生産ト独立精神回復ノ二途ノミ、非武装平和國家ヲ宣言セル國民トシテ此ノ有様ニテハ到底高遠理想実現ノ気力ナキヲ示セルモノナリ、結局宗教家ノ憤起以外ニ途ナカラン。

六月九日（日）曇

午前二三子ヘノ二十四信及同封スベキ石川牧師、湯川龍両氏分認ム。

獄舎生活即監禁生活ノ目的トスル所ハ自由ヲ奪フニアルベシ。乍去自由ハ動物的自由ニ限ラル、故ニ動物生活万能ノ者タリシモノニ対シテハ効果百率タルベシ、精神的自由ハ何物ニモ制限セラルルコトナシ、食生活ノ幸福ヲ念フニ当リ感ズルコト深シ。

六月十日（月）晴時々曇

二三子ヘノ二十四信外同封二通　集配当番ヘ今朝手交ス。

本日室内大掃除ヲスル。畳ヲ挙ゲ殺虫粉ヲ撒キ、便所ヲ劇薬ニテ洗浄シ六畳間ヲ伍堂老人ト二人ニテ大

車輪ニテ清掃スル　疲労スル極ナリ。大工モ窓ニ枠ヲハメ蚊帳取付ケノ準備ヲスル。

六月十一日（火）朝曇後晴

午前公判ニ出席者ヲ悉ク六棟（巣鴨獄ハ六棟迄ナリ）ニ移ス。我2A廊下我並ヨリ松井大将、東郷元外相、向側ヨリ木戸侯、嶋田大将、橋本欣五郎大佐引移ル、平沼先生モ恐ラク引移ラレタルナラン、十三日ヨリ引続、公判準備ノ為ナラン。同情ニ不堪。

六月十二日（水）晴

周一ヨリ五月十二日付及五月十九日付、大石修子ヨリ五月二十二日付、石川養之輔氏ヨリ五月十四日付各ハガキ及大嶋保男ヨリ五月二十日付、佐藤直行ヨリ五月三十日付各封書、前田いと子ヨリ十字架ノ神学叢書二十三「ヨブ」六二頁モノ拝受スル。

昨年十二月十二日入所、満半ケ年ヲ暮シタル訳也。

八時半例ノ如ク朝礼拝ニ出席、菖蒲、ダリヤ、黄菊花瓶ニ慰メラル。二時平沼先生弁護ノ宇佐美六郎氏来訪一時間半先生及國本社ノ件ニ付聴取シ行ク。

六月十三日（木）快晴

本日ノ昼食ハ大馳走出ヅ。即チ黒パンニオレンジママレードヲツケ、引肉ノ甘煮ノ外珍ラシクモ桜桃十粒程宛配布サレタルコト嬉シキ極ナリト思ヒタリ、世間ノ有様ヲ聞クニツケ誠ニ勿体ナク此ママ無為ナルコト堪ラレヌ程ナリ。

六月十四日（金）快晴

一時半二三子面会ニ来ル。

家屋立退トナラザルヤ心配致シ居リタル処先ヅ免レタル模様、親戚一同無事ナル事ヲ聞キ深ク喜ブ。食糧事情愈深刻ナル様子、此処ニ無為三度馳走ニナリ居ル事勿体ナシ。周一ノ嫁ノ事日鉄永野君依頼ノ趣伝達等ヲ話シテ別レル。

ランニング二、猿又二、開襟シヤツ、靴下二、ハンカチ等大量洗濯ス。

六月十五日（土）晴

前田伊都子ヨリハガキ来ル、五月二十六日付消印アリ、二三子工場ニ来リ一泊シタル趣認メアリ。

獄舎生活ハ反省悔改ノ機ヲ与フ。過去ヲ追憶シ万感迫リ深刻堪エ難ク如何トモナシ得ザル事アリ、聖書ニ帰リ、祈祷ヲ捧ゲ漸ク平静ニシテ元気ツケラルルコト多シ。小人ト偉大トノ差ハ罪ト赦免ノ観点ヨリ来ルコトヲ覚リ得タリ、日本建直シノ抱負ヲ履違フ者多キヲ悲シム。

六月十六日（日）晴　夕ヨリ雨

午前明日差出スベキ以寿子、公一ヘノ手紙認ム。

ヨナ書ヲ読ミ大ニ感激ス、神ノ予定、神ノ改悔ノ如キ目下ノ余ニ非常ナル慰安ヲ与フ、人間ハ余リニ自我ニ堕シタリ、其非力ヲ以テ大能ニ反抗シ滅亡トナル事明ナリ、謙虚ト篤信ヲ以テ國家ト自己ヲ破滅ヨリ救ヒ得タルコトニネベノ運命ヲ賭テ知ルヲ得ベシ。真理ハ万世ヲ貫ク。

六月十七日（月）曇

二三子(五、二九)、大嶋いと子(五、二三)、寺西以上持参、大石静子(五、二三)、各封書、石井寛二、水口大而ヨリ各ハガキ来ル（二三子第二十五信ナリ）。

今朝、以寿子、公一ヘノ手紙ヲ当番ニ渡ス。虚偽ナキ生活程強キモノナカルベシ、政治ノ強サ、政治家ノ強味ハ此事ニ尽ク、而シテ真ノ虚偽ナキ生活ハ神トノ交通ニ基ク再建日本政治ノ出発点ナラン。正ニ日本ガ世界ニ呼掛クベキ心意気也。

六月十八日（火）快晴　ムシアツシ

二三子ヨリ六月八日付二十六信及永野護君ヨリ見舞ハガキ来ル。

旧約ヲ読ミ人心ノ素朴ナル、神トノ自由ナル交話ノ如キ誠ニ羨ムベキ極ナルヲ覚ユ、ノアノ子孫アブラハムノ如キ降テ幾多預言者ノ如キ神命ヲ其ママ謹承シ寸毫ノ躊躇疑念ヲ抱クコトナシ、之ヲ思ヒ現代人ノ無力ト不幸ヲ歎ゼザルヲ得ザルナリ、僅カニ苦悩ヲ経テ心境ニ感得セルモノアルヲ悟リ得タリ、信仰ノ威力ハ深刻測リ難シ。

六月十九日（水）曇時々小雨

八時半、朝礼ニ出席、米従軍牧師ノ説教ヲ聞ク、百

合花一対壇上十字架ノ両側ニ供ヘラレ大ニ慰メラレタリ。

昨日新聞ヲ見ル、陛下静岡市中御徒歩ノ姿ヲ拝シ落涙、御胸中察スルモ恐多シ、畏乍ラ一身ヲ捧ゲテノ御巡視ト拝シタリ、興復日本万疑ナシ、シカモ強シ。

六月二十日（木）晴

湯川龍君ヨリ六月六日付持参封書来ル。

去ル十日室内大掃除セル処本日又々行フ、前ニハDDT粉ナリシ処今日ハ石油混合液体ナリ、衛生ト食事ニ注意スル事ハ学ブベキ点ナリ、伍堂老ト大ニ掃除夫トシテ労働スル。ムシ暑ク一時間ノ運動グルグル廻リモ閉口トナル、婉タル犬ノ運動場ナリ。

六月二十一日（金）晴

昼食ニハ米食ニ引肉ト生胡瓜混合アリタルコト嬉シ、生胡瓜シミジミ味フ、夜ハマグロ雑炊ト更ニメロン一片出ヅ。世間ノ事ヲ偲ビ喉ヲ通ラヌ程ナリ。

食事ノ贅沢ヲ愧ズ、之ヲ見ル毎ニ世間ニ出テ、スイトン一杯デ我慢スル同胞ノ列ニ入度ク思フコト切ナリ。精神的苦痛ト肉体的満足ノ皮肉ナ組合セ何ノ示唆ゾ。

六月二十二日（土）晴

永野護君ヨリ慰問ノハガキ（六月十四日付）来ル。

議会二十日開院式挙行セラレ陛下親臨、昨日ヨリ本格的ニ開会セラレタル模様新聞ニテ知ル、劈頭自由社会両党ノ乱闘アリタルラシク、所謂民主議会ノ現実曝露モ醜キ限ナリ、反動ハ自ラ招キツツアルモノト云フベシ。他方國際法廷モ亦証人訊問ノ深刻ナル同胞逐窮場面ヲ示シツツアリ、所謂革命ノ何タルカヲ如実ニ語ル、マタ反動再来カ。

六月二十三日（日）晴　ムシアツシ

午前二三子ノ二十五信及同封ノ永野護、君野三之助、前田伊都子ヘノ手紙ヲ認メ明朝ノ準備ス。

獄舎生活故日曜トテ別ニ変哲ナケレ共、気分何トナク呑気ナルモ可笑シ　白駒隙ヲ行ク言ノ如ク上週ノ過グル共瞬間ナキ、真ニシテ新ナル日本再出発ノ芽栄エアリヤ否ヲ思フ事切ナリ。

六月二十四日（月）晴
前田伊都子ヨリ五月二十三日付封書及同封ノ福田正俊「新生」ヲ受取ル。
理髪スル。昨日認メ置タル二三子ヘノ二部部信外所通ヲ今朝集配当番ニ渡ス。
八時半労頭ノ散歩組ナリシモ一時間ハ辛ク汗ダクダクニテ室ニ戻ル、ムシアツキ日ナリ。昼食鯨雑炊ニテ悪臭鼻ニツキ閉口、贅沢治ラヌ証拠ナラン。夜鮭缶詰ト生胡瓜大ニ楽シミナガラ喫シタリ、余リニ現金自ラ呆レル。
六月二十五日（火）曇
保男ヨリ六月十五日付手紙来ル。
本日気分悪ク、沈痛極リナシ、悲観ノミ先立チ気ヲ取直サントスルモ甲斐ナシ、安眠不足モ其一因ナラン、乍去心ノ静ヲ欠ク事主因ナリ、静ニセバ救ヲ得平穏ニシテ依頼マバ力ヲ得ベシトノイザヤノ箴言ヲ識テ尚此始末ナリ、苦悶足ラヌ証拠ナラン。
六月二十六日（水）晴
岩崎千代子ヨリ六月十三日付手紙来ル。
八時半朝礼拝ニ出席米従軍牧師ノ説教ヲ聞ク、アザミ、アマリリス等花ヲ見テ大ニ慰メラレ帰室。
夕飯、魚飯ニ添ヒ、水密桃最後ノ番トテ特ニ二ツ有ツキ初物珍重賞味、世間ニ対シ誠ニ相済マズ、勿体ナキ極ナリ。手ノ爪ハガラス破片ニテ間ニ合セ居リタルモ足ノ爪ハ三月以来ナリ、熊ノ如シ、本日漸ク鋏ヲ借リテ切ル。
六月二十七日（木）曇
気分悪ク終日碌々無為、少々聖書ヲ読ミ伍堂老人ヨリ借リテ小説ヲ雑読シテ暮ス。
午後体重身長量ル、十六貫トナリ入所以来二貫目ヤセル、又余独リ撮影セシメラル、何ノ為ヤラ。
六月二十八日（金）晴
新聞二日見ズ、娑預ノ事、皆目不明、獄中暦日ナシマタ可ナリ、但雑念依然タリ苦悩依然タリ払拭スルニ難キヲ奈何セン、神命ヲ俟ツ以外ナク無為マタ好シトハ思フモ之レマタナカナカ難キヲ覚ユ、去リ乍

ラ人生畢竟ハ全運命ヲ挙テ神ニ託シ自己ナシニ至ルコト其途ナガラ、少シ宛其心境得道シツツアルヲ思フ。

六月二十九日（土）晴

周一ヨリ本月十一日付ハガキ、水口準ヨリ本月二十一日付封書来ル。

本日マタマタ下剤ヲ貰フ、コノ処便通不良、特ニ水道ノ圧力弱キ為メカ給水悪ク殆ント終日給水ナキコト多シ　従テ排便遠慮スルニ至リ別シテ気分モ悪シ、獄生活当然ノ現象ナランモ当面スレバ愚痴モ出ヅル訳ナリ。

六月三十日（日）快晴

明朝差出スベキ二三子ヘノ第二十六信及同封スベキ大嶋いと、岩崎千代両名ヘノ手紙ヲ認ム。

昼食白パン、ジャム、コーヒーニ珍ラシクモ南瓜甘煮出ヅ、勿論初モノナリ勿体ナク味フ。本日ヲ以テ本年半ヲ送ル、深キ感慨ニ打タレ乍ラ暮ス、運命寸前不明ナルモ歩ム途ハ神ニ託ス　マタ他念ナシ、唯心境冴エザルヲ怨ムノミナリ。

七月一日（月）雨　午後ヤム

朝二三子外二宛手紙ヲ当番ニ渡ス。

昨夜ヨリ降雨、久シ振ノ慈雨、作物ニ大恵ナラン、本年ノ豊作ヲ祈念スルヤ切ナリ。

ダニエル書ヲ繰返シ読ミ大ニ感慨、政治家ノ心意気ニツキ発明、此時代ニ欲シキ人物型ナルヲ切感シタリ。

七月二日（火）朝曇　午後ハレ

周一ヨリ六月二十三日付、水口大而ヨリ各ハガキ、前田伊都子ヨリ「基督教文化」創刊号落手。

二三子ヨリ洋、和各便箋一冊、夏靴下一、タオル一。

小泉八雲珠玉集「日本の面影」一。木綿猿又一、ボイルシャツ上下各一、ボイルズボン長尺一、差入来ル。感謝ニ不堪、只今着用分汚レタル後早速用イン。

七月三日（木）曇時々雨

千葉ノ兄ヨリ六月十八日付封書及下澤秀夫君ヨリ六月二十日付見舞状来ル。

千葉ノ兄ヨリハ五月二十七日付周一ノ嫁ニ就テ自由敏速ニ選定スベキ希望ニ対スル返事ナリ。

八時半例ノ如キ朝礼ニ出席、花ハ、マーガレット、小菊ナド取乱シ生気ナク失望シタリ、本日気分幽鬱、身体ノ調子頗ル悪シ。

七月四日（木）曇時々晴

本日アメリカ独立記念日ノ為ナルカ昼食白パン、引肉乳煮胡瓜入、イチゴジャムノ馳走出ヅ、娑婆ハ饑饉ナリト云フニ此始末ニテ慚愧ノ至リナルモ如何トモシ難キ訳ナリ、朝ノ中　頭上アメリカ飛行機編隊ラシキ爆音頻リナルモ皮肉ナリ、飼養サルル動物是非ナシ、精神飛躍果シテ奈何。

七月五日（金）曇時々雨

気分重ク幽鬱此上ナシ、聖書祈祷等ニ力ナク、希望モナシ、深キ谷底、暗キ地底ニ彷徨ノ思アリ如何トモシ難シ、今夜安眠出来得ルヤ心細キ限ナリ。

七月六日（土）曇時々晴

朝食スイトンノ中ニ茄子四分一片発見、正ニ初モノ他、胡瓜折角ノモノ煮ツケラレ大無シトナルモ好物茄子ニ接シテ嬉シ。生胡瓜、茄子味噌汁恋シクナル、身ヲ似テ敗戦ノ辱シメヲ負フ者ニ取リテハ贅沢ノ言分ナラン、食物ノ事思浮ブ恥カシ餓鬼ニ堕シタルカ。

七月七日（日）曇

朝二三子ヘノ三枚手紙ヲ認ム、去ル十八日以来二十日モ便リナク或ハ病臥シテ居ルニ非ラズヤト懸念シ始ム。

毎払暁醒メ安眠出来ズ疲労感加ハル。

昨日ノ英紙日本タイムスニ平沼先生五日ノ法廷ニ病欠、重体トアリ、痛心訊ネシ処上唇故障大シタ事ナシトノ噂安堵シタリ、持病ノ便秘ノ為ナランカ。

七月八日（月）雨

昨朝認メタル二三子ヘノ長文手紙(二十七信)今朝当番ヘ手交ス。

午後二三子ヨリ持参ニカカル本月二日付二十八信受取ル。病臥ニ非ズヤト心痛シ問合セニ入違ヒニ元気ナル便リニ接シ大ニ安堵シタリ。石井寛二ヨリハガ

キ来ル　次週ニ返事セン　感心ノ至リナリ。
二三子ヨリノ二十七信来ラズ。

七月九日（火）半晴
本夕深刻ニ人生ノ運命観ニツキ示唆ヲ受ケ気力ヲ回復シタルヲ覚ユ、而シテキリストノ予定観ニツキ、深キ啓示ヲ受ケタル感ヲ抱キタリ　信仰絶対ヲ以テ唯一道トスルコトニ帰着ス。神ノ恩恵ト云フコト無上ノ悦タリ、感謝タルベキコトヲ自覚スルコト之ナリ。

七月十日（水）晴
二三子ヨリ六月二十五日付二十七信、大嶋いと子ヨリ持参便六月二十一日付、静岡ヨリノ佐藤直行君六月三十日付各封書落手。
本日恒例ノ米従軍牧師ノ礼拝ナキ為カ、夫レトモ呼出シ忘レタル為カ、時間経過スルモ扉開キニ来ラズ、楽シミノ生花ヲ見ルコトヲ得ズ失望ス。
二三子ノ手紙ヤ周一ノ事気懸トナル、獄舎明ルキ生活トナル様祈リ居ルトノ趣アリタリ。

七月十一日（木）晴
二三子ヨリ夏セビロ一着差入レ呉レル。
十時散歩中看守呼ニ来リ赴タル処、終戦連絡事務局太田公使面会ニ来リ、平沼先生ノ容態ヲ知ラセテ呉レタリ、去ル五日以来法廷病気欠席ノ由新聞ニテ見テ心痛シ居リタル処、便秘ノ為消化器故障ニテ大シタ事ナシトノ事、大ニ安堵三十分余話ヲ交ス。其後藤井吾一郎弁護士面談シ呉レ久シ振ニテ寛ル寛ル快談、通シテ楽シキ一時間ヲ過ス。

七月十二日（金）晴　三時半驟雨大雷鳴
九時突然米看守ノ知ラセニテ米牧師ノ講演ヲ聴ニ行ク、今後水曜ノ恒例礼拝ノ外、金曜ニ講話アル趣ナリ。
十時林逸郎君来訪、二十分程交話、久シ振ニテ快話諸情報ヲモ聴ク。

七月十三日（土）晴
周一ヨリ六月三十日付、石井寛二ヨリ七月七日付ハガキ来ル。

八時肌着類洗濯、八時半先頭入浴贅沢ノ至リナリ、昨日ノ大雷雨ニテ湿気モ去リ快晴、此分ニテ作物ニハ上々ナル天候ト思ハル、何トカシテ稲作豊饒ノ心安定ニ向ハシメタシ。

七月十四日（日）晴

午前明朝差出スベキ二三子ヘノ手紙（二十八信）並ニ同封スベキ周一及石井寛二ヘノ分ヲ認ム。暑気加ハリ午後一時半ヨリノ散歩ニテ汗ダクトナリ室内ニ戻リ裸身トナリ二十分程ウタタ寝スル。厳重看守屡々入室、窓際ノ干物、室内ノ紐類ニ掛クル事一切相成ラヌト云フ、コレデハ洗濯ナド出来ヌ訳ナリ、地蔵ニハ勝テヌ。

七月十五日（月）晴

朝二三子（二十八信）及同封ノ周一及寛二ヘノ手紙当番ヘ手交ス。

二時半、二三子面会ニ来ル、去月十四日来訪ノ砌非常ニ痩セタルヲ見心痛シ居リタル処元気ナ様子ニ接シ大ニ安堵シタリ、家事其他近況ヲ聞キ当方ノ生活ナド語リ満足シテ別ル、来月モ可相成早ク来訪スル筈ナリ。

七月十六日（火）晴　非常ニ暑シ

昨夜久振ニテ安眠出来テ気分モ爽快ナリ、二三子来訪モ手伝フ。

信仰ノ純粋純情人ニ恵マル。コレ所謂学者富者、権力者ナラザルモノニ多シ、キリストノ母マリヤガ如何ニ純情ナリシカハ、ルカ伝一ノ三八ノ伝フ所、マタキリストノ関心事ガ所謂下層人ニアリシヲ見テ覚ルベシ、蓋シ国家興隆ノ鑑トナスベシ。

七月十七日（水）晴

一昨日二三子持参石鹸及歯楊子落手ス。

午後理髪次デ入浴、理想的順序ニ廻リ来リ仕合セタリ。

十五日付ニテ、八月一日以後差入物品ハ本人ノ要求書添付スベキ旨ノ印刷物ノ交付ヲ受ケタリ。

七月十八日（木）晴

二三子ヨリ本月十日付持参便二十九信及以寿子、公

一ヨリ七月一日付封書落手ス。
朝食スイトンニ初物トマト二切添ヒ嬉シ、昼食ソーセージニ生胡瓜アリシモ亦楽シミナガラ味フ、胡瓜煮タルヲ時ニ食シ情ケナキ思アリタル処トテ食気恥カシクモ認ムル気持トナル。
七月十九日（金）晴
夜ヱレミヤ記一章ヲ繰返シ読直シ近時覚エザル感激ヲ受ク、聖召ノ深刻ナル示唆、預言者ノ鋭敏ナル感覚、神ノ特別ナル援助而シテ神人トシテノ強サ悉ク現代学ブベキ教訓ナリ、世界ノ権威、一切ノ人民ヲ挙ゲテ一人ニ当ルヲ得ズ、流行風潮ノ如キ嗤フベキ泡沫ニ非ラズヤ。
七月二十日（土）晴
二三子ヨリ地厚ノ半ズボン、大猿又、牛製地厚白帽子、打扇団子二差入届ク。保男ヨリ封書（七月十一日付）受取ル。
今朝スイトンニ青林檎小二ツ添ヒアリ初物トテ珍重食シタリ、然ルニ昼肉飯ニマタ林檎四ツ、夕食パン、バター、鮭ニマタマタ四ツ添ヒ貰ヒ過ギタル感ヲ抱ク、勿体ナシ。
七月二十一日（日）晴
明日差出スベキ二三子ヘノ手紙（二十九信）及同封スベキ大嶋いと、前田いと両氏ヘノ手紙ヲ認ム。
昼食肉飯ニ西瓜小片出ヅ、之モ初物トテ珍重味フ、無為徒食ノ身恥乍ラモ食ス　大ナル矛盾ナリ。
七月二十二日（月）晴
昨日認メ置タル二三子ヘノ二十九信及大嶋、前田両氏ヘノ同封手紙今朝当番ヘ手交ス。永野護君ヨリハガキ来ル。
最近ノニュース・ウヰーク、ライフ其ノ他米雑誌ヲ見ルニ　米蘇ノ世界政策愈対立シ感情ノ尖鋭化ヲ思ハシムルモノアリ、一方原子問題等ニ現ハレタル人智ノ独善的狂言ハ　竟ニ道徳的破壊ヲ越エテ文字通リ地球自爆サヘ予想セラルルニ至レリ、正ニ信仰復興ヲ絶叫サルベキ危機ナリ。
七月二十三日（火）朝小雨後晴

戦勝戦敗共ニ今ヤ道徳危機ニ直面シ、収拾難ニ陥ラントスルニ至レリ、唯物主義ハ戦争ヲ誘発シ、戦争ノ結果ハ再ビ唯物主義ニ依リ回復ヲ計ラントスルコト愚策ノ極ナリ、唯物主義ハ偶像崇拝ナリ、神ニ対スル冒瀆ノ最大ノモノナリ、人智ノ浅慮竟ニ歴史ニ逆ル。

七月二十四日（水）晴

本日モ恒例朝礼拝ナシ、暑中ニテ休トナリタルモノナラン。

昼食　肉、南瓜、胡瓜ノ混飯ニ珍ラシクモ、マクワ瓜半身添ヒアリ、初物賞味シテ喫ス、娑婆ニテハ到底入手出来ヌ代物ナルベシ　徒食慚愧ノ至リナリ。

七月二十五日（木）曇

國家興亡史ヲ観ルニ夫々原因ヲ探リテ無限ノ教訓ヲ得ルコト言ヲ俟タズ、シカモ前轍ヲ踏ミテ非ヲ繰過スノ愚ヲ敢テスルコト悉ク然ラザルハナシ。歴史ヲ客観視シテ吾裡ニ切感シ得ザルニ因ル、歴史ハ神観アル者ニシテ活眼能ク解スルヲ得ベシ、歴史ノ審判ヲ解セズシテ真相ヲ探リ得ザルヤ明ナルベシ。

七月二十六日（金）曇

二三子ヨリ二十日付三十信及周一ヨリ二十一日付ハガキ来ル。

八時半米従軍牧師ノ説教アリ聞ニ赴ク。

二三子ヨリノ手紙ノ中ニ玉井弥平南方ヨリ帰リ訪問、平原重幸モ同断、田辺治通来訪、竹内病気宜シカラズ、山田朝子遊ニ来ル、信濃町教会新任牧師山谷省吾氏来訪ナド近況詳細アリタリ、留守モナカナカ多忙ヲ極メ居ル模様ナリ皆元気ノ趣大ニ安堵元気ツク。

七月二十七日（土）半晴

最近ノ國際法廷連日ノ如ク我対支政策ノ覇道ト昨日ハ南京虐殺ニ付支那人、米人ノ証言ニテ新聞満載シツツアリ　不快読ムニ堪エヌ思ナリ。憶フニ戦場心理ハ彼我審判ノ常軌ヲ逸スルコト比々然ル所ナラン、戦争ハ神ヲ恐ルル結果真ニ之ヲ厭フ心ニ結束スル非ラザレバ已ム時ナキナラン、平和機構ノ形ヲ百万遍

討議スルモ無駄ナリ。

七月二十八日（日）晴

朝明日差出スベキ二三子ヘノ第三十信及保男、直行両君ヘノ同封手紙ヲ認ム。

近代ハマンネリズムノ僕奴トナレリ　偶像崇拝ナリ、自ラ作リ自ラ恐レ自ラ拝ス　一切ノ文明然リ政治ニ於テ特ニ然リ。キリストハ吾ハ道ナリ、真理ナリ、生命ナリト道破セルコト意義深シ。マンネリズム打破ノ尺度ト権威ヲ有スル者独リ革新児タルヲ得ン。

七月二十九日（月）曇　夕ヨリ微雨

朝二三子ヘノ第三十信及保男、直行両君ヘノ同封当番ヘ渡ス。

箴言ニ「エホバ智慧ヲモテ地ヲサダメ、聡明ヲモテ天ヲ置タマヘリ」（三ノ一九）トアリ天地創造ニ大ナル計画ノアルコトヲ明ニセリ、自カラ看テ聡明トスル者ノ如キハ自然ヲ解セザルハ勿論人生ヲモ解シ得ザルモノナリ、自然ト人生ノ鉄則ト進化ノ方則ヲ知ラズシテ科学芸術哲学政治ヲ云為スル浅薄ヲ反省スベシ。

七月三十日（火）雨時々曇　夕ヨリ晴

書籍資治通鑑二五冊外二包トシテ自宅ニ返却方ジーラーニ依頼ス。

同側ノ谷寿夫中将明日南京ニ護送セラルル趣、例ノ虐殺問題ナラン同情ニ不堪。

一昨日ニッポン・タイムス電報ニ依レバ、ニュールンベルク法廷二十二名被告全部ニ対シ死刑求刑論告アリタル趣、東京裁判モ示唆サル。昨日ヨリパリ平和会議開カル國際政治ノ大見世物ト化ス。

七月三十一日（水）曇時々雨

一人ノ悔改者ニ就テノ、ルカ十五章ノ記事如キ大ナル慰メヲ与フルモノ少シ、マタ放蕩児ノ「我ニ反ケリ」起テ父ノ許ニ往ク時、其父走リ行キ児ノ頸ヲ抱キ接吻シ死ニテ復生キ失セテ復得ラレタル喜ビヲ伝フル辺リ何トモ云ヒ難キ感激ヲ与ヘシム。一人ノエレミヤニ万民万國ノ運命ヲ托シ給ヘル如キ一人ノ力ヲ示セル好範タリ、制度論者ヲ気死セシムベシ。

八月一日（木）半晴　ヤヤ寒シ
朝食粥茄子汁コーヒー珍ラシクモ杏桃五ツ添ヒ呉レル、之モ初物トテ賞味シテ喫ス。昼食パン、チーズ、引肉トメロン一片ツク。夕食ハ葱ト魚ノ雑炊ナリ、本日ハ大ニ美食ニ恵マレタル日ナリ　食事ヲ認メ恥カシキ限ナルモ一興マデ。
谷君今早朝出発ノ趣同室ヨリ聞ク。
八月二日（金）曇
八時半ヨリ三十分米牧師ノ説教ヲ聞ク、オルガン弾キ来ラザル為カ、讃美歌ナク、祈祷ナカリシコト淋シク、権威ナキ集会ナリ。
午後出入口扉及窓ノ真鍮磨キヲ伍堂老人ト命之レ従フテ試ミル。昼食パント引肉ニ水密二ツ有ツキ賞味シ乍ラ平ラグ。
八月三日（土）晴
猫モ狗子モ民主々義ナラデハ夜モ明ケヌ態ニテ流行恐ルベキ風潮ナリ。乍去民主々義ハ主義ニ非ズ精神ノ筈ナリ。主義ト云ハバ無主義ニシテ時代ト場所ニ応ジ適応シテ行クベキモノ之レ即チ民主々義ノ特長ナラン、人格平等、真理追求而シテ其中核ハキリスト精神タルベキモノナリ、之ガ唯形式ニ堕セルモノ今日ノ民主々義ナリ。民主々義ノ徒ラナル押売リハ革命トナル。
八月四日（日）晴
朝ニ三子ヘノ第三十一信及同封スベキ周一ヘノ手紙ヲ認ム。
ダニエル書二章ニ記サレタル、ネブカデネザルノ夢ノ解ハ現代ニ於ケル一大謎デアル。之ヲ迷信トシテ嗤フ者ノ如キ浅薄此上ナキ者デアラウ。世界ノ四分五裂時代ハ来タ、精神ノ統一ニ依ル甦生スベキ希望國ノ出現モ示唆サレテ居ル、眼ヲ四方ニ放テヨ。
八月五日（月）曇時々晴
二三子ヘノ第三十一信及同封周一ヘノ手紙ヲ差出ス。
午前板ノ間ヲ石鹸ニテ磨ク、伍堂君ト同労シ乍ラ自室大事ト辛棒ス。

運動時間毎日ノ如クA級同志私語シ乍ラ無法ノ拘束ニツキ憤慨禁ジ得ザル有様ナリ、之ニテ裁判ノ性質復讐ニアリ其政治的、軍事的性格露骨ナルヲ知ルヲ得ベシ、敗レテハ万事休ス矣、昔ヨリ相場ナルヲ知リ得ベシ、愚痴ニ過ギズ。

八月六日（火）曇

昨日ノニッポン・タイムスヲ読ミタル処ビルマノバーモ不起訴トナリタル記事アリ、流石イギリスノ統治政策ト政治的見識ノ卓抜トヲ採ルモノアルヲ覚エシム。所謂戦犯ナド称シテ自己ノ眼ノ梁木ヲ棚ニ上ゲ他人ノ蔴ヲ指摘スルニ急ナル如キ　独立國民ノ資格ナキコト曝露スルモノニ非ズヤ　自己反省ナキお無智嗤フニ堪ヘザルモノアリ。

八月七日（水）晴

パリ平和会議モ三分ノ二、過半数両主張ノ如キ前哨戦ニテ本会議ニ入ラズ、民主々義会議ノ手続ノ性格ヲ如実ニ示シアルヲ余所ニ見テ中共ノ抗争愈深刻化シツツアリ、延安爆撃ヲ機トシテマーシャル失敗白日ノ下ニ晒サルルニ至レリ、現実政治ノドクトリン政治ヲ遥カニ上廻リテ逆転横転セントス、主義ト制度ノ行詰リハ専制ニ戻ル、唯物驕慢心理ヨリ来ル当然ノ運命ニ非ラズヤ。

八月八日（木）晴

昨朝ヨリ本午前迄給水ナク排便セザリシ処、気分悪ク獄舎生活満喫ス。

午前チーフ　ジエラー来リ荷物ヲ引繰返シ冬物ナド一括、自宅ニ届ケルカ倉庫ニ入レヨト厳シク検分ス、仍テ大風呂敷包トスーツケースヲ空ニシテ倉庫ニ預ケタリ　感慨深ク打タレリ。

八月九日（金）晴　アツシ

午後理髪スル、マタ久シ振ニテ爪ヲ切リ心持ヨシ。

二三子ハ勿論何処カラモ二週間何等便リナク淋シ。

伍堂君ヨリ新刊雑誌借用午後読ミ耽ル、論文多クハ時代便乗物トテ価値ナシ　殊ニ所謂婿者ノ軽薄薄情ナル言説ノ流行厳ニ戒ムベキモノ頗ル多キヲ見ル。

八月十日（土）晴

二三子ヨリ去月、三十日付書留便ニテ三十一信来ル、大嶋及君野ヨリノ手紙同封シアリタリ、書留便ハ速達ナリト伝ヘタルニ依リタルモノナランモ一円三十銭切手貼用サレ居リタルニ驚ク、入所以来世界一変シタルコトヲ知ルベシ。

十一時藤井吾一郎弁護士面会ニ来テ呉レル、厚情多謝。二三子ヘ可成早ク面会ニ来ル様ニ伝言ヲ依頼シタキモ遠慮シタリ。

八月十一日（日）晴

二三子ヘノ第三十二信及同封永野護君ヘノ手紙ヲ認ム。

紛々擾々タル近時ノ新聞雑誌記事ハ愈出デテ愈愚劣ナリ。國古ケレバ伝統ト調節ヲ以テ立ツベキノミ、一知半解ノ流行追随ハ竟ニ自ラ辱カシムルニ至ル。偉大ナル真理ヲ呼吸スルコト、不動ノ地盤ニ立脚スルコトナクシテ栄ユルコト無カルベシ。

八月十二日（月）晴

昨日認メ置キタル二三子ヘノ第三十二信、同封スベキ永野護君ヘノ封書今朝当番ニ渡ス、朝九時散歩中ジェイラー呼出ニヨリ取調室ニ赴キタル処ニ世坂本ト云フ者居リ　余ノ家庭経歴ヨリ始マリ平沼氏関係、國本社及友人諸君数氏ノ人物観ナド尋ネ最後ニ入所感ヲ訊シタリ　十時半帰室ス。

三時二三子面会ニ来ル、元気ナ様子ニテ家事其他話ヲ交ス大ニ安堵元気加ハル。

八月十三日（火）晴

目下開催中ノパリ平和会議ニ於ケル米ソ関係ノ悪化ハ愈露骨トナリソ連ノ出ス難題ニ依リ会議ノ前途モ逆堵シ難キヲ思ハシム。

折角ノ世界連合ニ依ル平和招来モ覚束ナキ感ヲ抱カシムルニ至レリ。米誌ニ現ハレ来ル対ソ論策ノ如何ニ多ク深刻ヲ極メ居ルカハ這裡ノ不安消息ヲ示スモノナラン。両國イデオロギーノ相違トテ融合至難ナリ、我進退ニ関シ示唆スル所多シ。

八月十四日（水）晴

一周年ヲ回顧シ感慨無量、断腸ノ思ニ堪ヘザルナリ、

此日突然ノ御召ニテ閣僚一同平服ノママ十一時御前会議ニ出席、鈴木首相ノ奏上ニテ梅津、豊田両総長、阿南陸相ノ発言ヲ了ヘ、陛下ノ御言葉アリ、國体護持ニ満々タル御自信ヲ吐露シ給ヒ切々タル所信ヲ延ベ給ヒ全員御前ヲモ顧ミズ泣キ俯スニ至レリ、此日此事ハ余ノ決シテ忘レ得ザル事也、決シテ。

八月十五日（木）晴

鈴木内閣辞職一周年ト、陛下ラジオ御放送ヲ回顧涙深シ。

九時、十二日ニ取調ベタル二世坂本再ビ来リ取調ヲスル、本日ハ主トシテ大政翼賛会、翼賛政治会、其他書記官長、貴族院議員、文部大臣就任事情ナドニ関シテナリ、終テ余ヨリ民間情報部ノ取調目的等ニ関シ質問シタリ、十時半帰室スル。十一時室内板ノ間ヲ伍堂老ト石鹸磨キヲスル、命之レ従フノミ。

八時半又拘〇〇（㊟二字不詳）

八月十六日（金）晴

八時半礼拝堂ニ赴キ米牧師ノ説教ヲ聞ク　九時半帰室。

本日珍ラシクモ気分晴朗、朝ヨリ夜マデ通シ聖書ヲ読ミ祈祷ヲナシ非常ニ元気ト希望トニ満ツルヲ感ジタリ　希クハ之ヲ永続センコトヲ。

八月十七日（土）晴　アツシ

保男ヨリ書留封書（八月四日付）唐澤俊樹君（七月二十四日付）石井寛二ヨリ八月四日付各ハガキ来ル。

今後ノ世界ハ如何ニ成行クベキカ、或ハ世界経済ノ安定ガ割合早ク来ルベキヲ語リ或ハ其安定ノ形式ガ英米中心ノ独占資本主義対ソ式ノ共産主義ノ何レカニ帰着スベキカヲ語リ、政治論ニモ此種ノ抽象論流行シ精神ナク気魄ナキ羅列漫談論旺ンナル事恥シキ限リナリ、新日本建設ニ此ノ如キ焼直シ論横行スル間本物出ヅルナシ。

八月十八日（日）

朝二三子ヘノ第三十三信及同封唐澤君及保男ヘノ手紙ヲ認ム。

政界、労働運動、思想界ニ現ハルル同胞ノ姿ハ到底

正祝ニ忍ビザルモノアリ恥ヲ忘レ去リシカヲ怪ムノミ、民主ノ仮面ヲ被リ多数ノ名ヲ悪用シ低劣ナル少数独裁ヲ敢テスルコト漸ク甚シカラントス、ヤガテ國民ノ審判ヲ受ケンコト必勢タラン、浅慮ナルカナ、墓穴ヲ掘ルモノヨ。

八月十九日（月）曇後晴

二三子ヘノ三十三信並同封ノ唐沢君、保男ヘノ封書ヲ今朝集番ニ渡ス。

以寿子、公一ヨリ本月八日付封書来ル、次週ニ返事セン。

サムエル後書十二章及二十四章ヲ読ミ、ダビテノ悔改ニ就キ深キ示唆ヲ受ケタリ。彼ノ権ト智ヲ以テ神ニ対シ土芥ノ如ク嬰児ノ如ク裸身其ママヲ描カレタル所、人事界ノ偉大ナル記録タルヲ切感シタリ、神ノ恩寵ニ感涙禁ジ得ズ。

八月二十日（火）曇後晴

箴言一六ノ一八ニ「驕傲ハ滅亡ニ充チ、誇ル心ハ傾跌ニ充ツ」トアリ千古ノ直言ト云フベシ。ダニエル四章ニ現ハレタル、ネブカデネザル王ノ分別性亡失次デ、ベルテシヤザル王國ノ破滅、使徒行伝一二ノ二〇以下ヘロデ王ノ急死ノ如キ那翁遠征失敗ノ如キ比々然ラザルハナシ。我敗戦主因亦然ラザルナカランヤ、敢テ軍閥ノミナランヤ。ミカ書六ノ八、神ノ要求シ給フ一事深慮敬服スベシ。

八月二十一日（水）晴

二三子ヨリ本月十四日付第三十三信書留便及前田いと子ヨリ本月三日付封書来ル。

二三子ヨリ周一本夕来リ菊野信子トノ婚姻申込ニ付孝一ヨリノ手紙兄宛持参、余ノ意見ヲ求メラレタル趣ニテ姉ノ発意ヲ認メタル孝一手紙同封シ来レリ、周一ハ父母モ異議ナシトノ話ノ由十日程考慮セン。

八月二十二日（木）曇後晴

毎日ノ新聞発表ニ法律及法律要綱ト称スルモノ雨ノ如ク載ゲラレ其悉クハ所謂民主々義、個人主義、自由主義ト銘打ツモノニ変貌シツツアリ。

形式徒ラニ充チ民ノ欲セザルモノヲ強制シツツアル

コト尠シトセザルナリ。其権威ヲ失堕シ反動主義ニ利用セラルルニ至ルコトモ明ナラン、敗戦ニ理性ヲ失ヒシ姿浅間シキコト限ナシ。

八月二十三日（金）晴

永野護君ヨリ本月八日付ハガキ来ル。

八時半如例朝礼拝ニ赴キ米牧師ノ説教ヲ聞ク。本日ノ新聞ニテ昨日米、ユーゴーニ対シ米飛行機撃墜事件ニ付最後通牒ヲ送リシ記事ヲ載ゲタリ。其他支那国共戦愈激化。ソ連主張ノダーダネルス海峡問題米英ノ対立鋭化。エジプト、印度、パレスタインノ対英空気険悪。ポーランドニ対スル英米ノ反民主々義攻撃等依然戦争前夜ニ近シ。愚ナル哉。

八月二十四日（土）十一時半大雨アリ夜マタ来ル

二十二日夜衆院ニテ議長不信任案上程ニテ乱痴疑騒ギ演出、竟ニ社会党ノスロモー引延シ策ニテ流会トナリタル記事ヲ見タリ、所謂民主議会ノ見本ヲ示シタルモノトシテ広告セルモノト謂フベシ。憲法ヲ一夜漬ニテ作ラントスル底ノ奴輩ナリ、自ラノ運命如何ナラント知ラザルコト当然ナラン。

八月二十五日（日）曇時々小雨晴

午前以寿子、公一宛手紙ヲ認ム、二三子ニ対スル周一緑談返事ハ考フル所アリ、来週ニ延ス。日曜トテ格別異ナリタル所ナキモ何トナク身心寛ナルヲ覚ユ、日曜ノ回リ来ル事ノ速ナル驚ク許リナリ　決死ノ修養ヲ期待スルモ日ヲ徒ラニ重ヌルノミニテ進境見ルベキモノナキヲ愧ヅ、更ニ神ノ庇護ヲ求メン哉。

八月二十六日（月）曇時々小雨晴

朝以寿子、公一ヘノ同封手紙当番ニ渡ス、佐藤直行一人ヨリ十五日付手紙来ル。

午後真鍮磨キヲ伍堂老人ト共ニ行フ。

雑草モ虫ノ宿トナリタヨリ朝ニ亘リ心ヲ楽シムル役ナルモ無風流ノ米兵ノ指揮ニテ入所青年ヲ駆リ絶エズ苅取ラシムルコト残念ナリ。時々心細キ哀愁ヲ聞キ初秋ノ感傷ニ打タルヲ覚ユ。

八月二十七日（火）晴

朝ト夕食ニマクワ瓜一ツ宛アリ、ヤヤ熟気味ナルモ

賞味ス。

歴代志略下一六ノ九ヲ見ル「ヱホバは全世界を徧く見そなはし己にむかひて心を全うする者のために力を顯したまふ」トアリ、一二ノ一二ハ「レハベアムその國を固くしその身を強くするに及びてヱホバの律法を棄たり」トアリ、個人及國家ノ深察スベキ千古ノ鉄則ヲ明示セルモノ也。

八月二十八日（水）晴

平沼内閣總辞職満七周年目ナリ、往時ヲ追回シ唯夢ノ如キ感ヲ抱クノミ。平沼氏ハ法廷ニテ審判セラルル身、病気欠席続キニテ嘸無限ノ感慨ニ打タレ居ラルル事ナラン。遮莫、日本ニ「オデデ」ノ如キ預言者アリ（歴代志略下二八章）戦勝軍勢ノ前ニサヘ立フサガリ直言スル勇気アル者一人アレバ此恥辱ハナカリシナラン、敗戦ニ大ナル示唆アリ。

八月二十九日（木）晴

二三子ヨリノ本月八日付三十二信書留便来ル非常ニ遅レタルコト法外ナリ、寛二ヨリ十九日付ハガキ来ル。

本日初物喫ス、昼食イワシ煮付ニ里芋三ツアリシコト及夕食人参ト肉食ニ茄子一切胡瓜二切ノ香物添ヒアリシコト也。

神ノ重大関心事ハ「神ニ栄光ヲ帰セン」事ナリ（ルカ伝一七ノ一八）罪人ノ身ヲ以テ之ガ栄光ノ任ニ当リ得ル事　神人倶ニ至上ノ事ナラズヤ。

八月三十日（金）晴

定例ノ説教休ミナリシヤ、開扉ナク待チボケトナル。キリスト教無限ノ強味タル盤石ノ信仰ハ所謂予定ニ因ル深キ感激ヲ神ニ捧グル所ニアルベシ、テモテ後書一ノ九ノ如キ使徒行伝九ノ六ニ起因スルコト更ニ創世前ニ溯リ得ルコト明ナルベシ、人ハ何人モ信仰ニ依リ此確信ヲ得ベク、此確信ハ更ニ聖別観トナリ神人トナルヲ得ン。

八月三十一日（土）晴

周一ヨリ八月三日付及八月十八日付ハガキ来ル、余ニ同情シ堪エラレザル情ヲ漂ハシ居レリ、落涙セリ。

十時平沼氏弁護人宇佐美氏面会ニ来ル、老先生次週ヨリ出廷ノ趣ナリ。

嗚呼ワレラハ今日奴隷タリ、汝ガ我ラノ先祖ニ与ヘテ其中ノ産出物及其中ノ佳物ヲ食ハセントシ給ヒシ地ニテ我ラハ奴隷トナリ居ルコソハカナケレ。此地ハ汝ガ我ラノ罪ノ故ニヨリ…我ラハ大難ノ中ニアルナリ（ネヘミヤ記九ノ三六、三七）

九月一日（日）晴

今朝明日差出スベキ二三子ヘノ三十四信四枚、周一ヘノ縁談返事等認メ周一分同封ヲモ書ク。

本日ヨリ運動時間午前及午後毎一時間トナリ大ニ助カル、早速九時―十時ト一時―二時両回内庭散歩ス。

本日聖書モ祈祷モ気分乗ラズ吾乍ラ不信疑念ニ呆レルノミ、噫。

九月二日（月）晴

今朝二三子ヘノ第三十四信及周一ヘノ手紙差出ス。

昨日ヨリ運動時間両回トナリタル為調子ヨシ、本日八時―九時及二時―三時迄ナリキ。

「唯貴キハ新ニ造ラルル事ナリ」（ガラテヤ六ノ一五）

目下貴院ニテ審議中ノ憲法草案ヲ見テ明ナル如ク國体ハ変更シタルコト疑ナシ、即チ神武ノ昔ニ溯リテ万事新造サルベク、官僚ノ詭弁ハ去ルコト乍ラ共産党ノ如キ長脛彦ノ徒ナリ、新日本建設ノ精神を求メヨ。

九月三日（火）晴

入所以来本日ヲ以テ二百六十五日ヲ経過セリ、往時ヲ顧ミレバ正ニ夢ナリ、昨日ハ東京湾ニテ降伏調印満一周年ナリ。日本ハ敗レ諸事一新セシメラレ些ノ執着ヲ許サレザルニ至レリ。然ルニ此処ニ一事アリ「總テノ操守ベキ物ヨリマサリテ汝ノ心ヲ守レ、ソハ生命ノ流コレヨリ出レバナリ」（箴言四ノ二三）心コソ絶対不可侵甦生ノ根本ナリ智者稀ナリ。

九月四日（水）曇

二三子ヨリ去月二十三日付三十四信及石川養之輔氏ヨリ十六日付封書来ル。二三子ヨリ周一縁談ノ事更

ニ認メアリ、周一ノ希望ニ依リ本月ノ面会ハ周一ニ譲ル旨アリタリ。

エホバノ救拯ヲ希ミテ静ニ之ヲ待ツハ善シ、人若キ時ニ軛ヲ負フハ善シ。エホバ之ヲ負セタマフナレバ独坐シテ黙スベシ（エレミヤ哀歌三ノ二六、二七）

此境遇真ニ慕フベシ新境打開ハ之ヨリ出ベシ困難ナルモ耐ヘ忍バン哉。

九月五日（木）曇後晴

我ラノ行ヒシ義ノ業ニハ依ラデ、唯ソノ憐憫ニヨリ、更生ノ洗ト我ラノ救主イエス・キリストヲモテ豊ニ注ギ給フ聖霊ニヨル維新トニテ我ラヲ救ヒ給ヘリ（テトス三ノ五、六）

我ラノ救ヒハ國家ノ救ヒナリ、之ヲ自力更生ト称シテ驕慢ニ陥リ天罪降ルコト史実ノ明証スル所ナリ。

神ノ憐憫ト聖霊ノ維新トニ依リ石叫ブニ至ラザレバ大事成就セザルコト明カナリ。

九月六日（金）晴

八時半説教ヲ聞ク二人目ノ牧師ナリシモ来週帰米ノ趣ナリ。

午前理髪スル。

メネ、メネ、テケル、ウパルシン。数ヘラレタリ、数ヘラレタリ、秤ラレタリ、分タレタリ、（ダニエル書五ノ二五以下）

紛々擾々タル内外情勢、観来レバ運命窮マリタルコト斯言尚新タナリヲ覚エ、車ヲ星ニ立懸ケル理想ナキモノ、運命知ルベキノミ。

九月七日（土）晴

岩崎千代子ヨリ本月二日付、大嶋保男ヨリ八月二十九日付、寺西成勝ヨリ本月一日付夫々封書来ル。

「汝等立帰リテ静ニセバ救ヲ得平隠ニシテ依頼マバカヲウベシ」（イザヤ書三〇ノ一五）。平静隠ニシテ神ニ依頼スルコト容易ナルニ似テ平易ナラザルコトツクヅク体験セリ、大事ニ臨ミテ此心境ヲ失ハザルコト百万ノ味方ヨリ偉ナルベシ。

九月八日（日）晴

朝二三子ヘノ第三十五信及同封スベキ岩崎千代子、寺西成勝及石川牧師ヘノ返事ヲ認ム。

人ノ歩ミハエホバニ依リテ定メラル、其行ク途ヲエホバ喜ビ給ヘリ。縦ヒ其人仆ルルコトアリトモ全ク打伏セラルルコトナシ、エホバ彼ガ手ヲ扶ケ支ヘ給ヘバナリ（詩篇三七ノ二三、二四）

人生ノ奥義ヲ示セルモノニテコレ以上ノ教訓ナカルベシ。

九月九日（月）晴

二三子ヘノ第三十五信外同封手紙今朝差出ス　前田いと子ヨリ「雄鶏通信」五月号及八月号寄贈落掌早速読了。マルコ伝一〇ノ四六以下ニ伝ヘラルル盲目ニシテ乞食ナル、バルテマイノ記事ノ如キ感憤セシムルモノ深シ、イエストノ呼吸寸毫ノ間隙ナシ、救拯トハ如斯モノナラント思ハル、赤裸々ノ天地ヲ動カス力タルコトヲ覚リ得ベシ。

九月十日（火）曇

本日二百二十日ナリシモ台風モナク無事過シコト感謝ノ至リナリ。

ルカ伝最後ヲ見タリシ処「遂ニイエス彼ラヲベタニヤニ連レ行キ、手ヲ挙ゲテ之ヲ祝シ給フ。祝スル間ニ、彼ラヲ離レ天ニ挙ラレ給フ。彼ラ之ヲ拝シ大ナル歓喜ヲモテエルサレムニ帰リ、常ニ宮ニ在リテ、神ヲ讃メイタリ」トアリ、其首章処女マリヤニ関スル記事ト照合、ルカ伝ニ無限ノ神力躍如タルヲ見ル。

九月十一日（水）晴

二三子ヨリ去月三十一日付三十五信来ル、決死生活ニ対スル返事、大ニ信仰ヲ力説シアリ大満足ヲ覚エタリ。

ヨハネ伝第一章ノ首節以下十七節ヲ熟読玩味幾度トナク操返シ意義深大ナルニ打タル、キリストヲ識ルコトハ実ニ恩恵ト真理ニ満ツルニ至ルコト天地創成ヲ窮ムル所以ニ出発スル為ナリ感激ノ大文字也。

九月十二日（木）晴

十一時半、二三子面会ニ来ル、大ニ元気ニ見エ安堵

シタリ。更ニ朗報ヲモ齎シ呉レ元気付ケテ帰ル。

昨日ハ三食共西洋梨子出テ特配トモ六ツ有リツキ贅沢ノ程冥加ニ尽ク、本夕食ニハ葡萄二房ヲ貰フ、娑婆ニテハ容易ニ入手サレザル代物ナルベシ、之モ進駐クラシーノオ蔭タルヲ知ルベシ。

九月十三日（金）曇

恒例ノ朝礼ナキ為ナランカ扉開ケニ来ラズ、独リ聖書味読ニ耽ル。

神ノ業ハ其遣シ給ヘル者ヲ信ズル是ナリ（ヨハネ伝六ノ二九）

汝等モシ常ニ我ガ言ニ居ラバ、真ニ我弟子ナリ。マタ真理ヲ知ラン、而シテ真理ハ汝ラニ自由ヲ得サスベシ（同八ノ三一、三二）

人生ノ目的ト力ノ源泉ヲ識ルコトヲ得ベシ。端的明白ナリ。

九月十四日（土）曇夕ヨリ雨

大嶋いと子ヨリ九月二日付、岡安末吉ヨリ八月二十九日付封書来ル

朝布団類日光浴ニスル命令出デ大騒ギデ抱出タルニ直ニ又々仕舞ヘトノ事惨憺タル状況ヲ呈ス。

三時半宇佐美弁護人来訪、平沼氏事件ニ付気付キタル四項目ヲ注意シタリ。

二、返事ハ取調室ニテ会談シタリ、終頃〇〇（㊙二字不詳）ニ赴ク。前回八月三十一日。

九月十五日（日）快晴

午前二三子ヘノ三十六信及同封ノ前田いと子、大嶋いと子、岡安末吉ノ三氏宛手紙ヲ認ム明朝差出分ナリ。

九時ヨリノ散歩、廊下整列中話合ヒタル者アリトノ理由ニテ懲罰ニテ途中ヨリ中止トナル。

九月十六日（月）晴

二三子ヘノ三十六信外同封三通今朝当番ニ手交。

「人、全世界ヲ贏クトモ、己ガ生命ヲ損セバ、何ノ益アラン」（マタイ伝十六ノ二六）。真ニ然リ、而シテ此自明ノ理ヲ忘却軽視シテ世俗ニ狂奔スル者比々然ラザルハナシ。政治外交戦争ト云フガ如キ一朝勢

成ヲ失墜シ、首脳失脚スル等何ノ態ゾ、優者ト雖モ泡沫ノミ、自己永遠ノ生命ヲ計ラズシテ現象ヲ逐フ者ノ末路ハ如何　竟ニ破滅ノミ。

九月十七日（火）晴

従来入浴、水、土両度ナリシ処本日ヨリ火、金ノ両日ト変更セラレ午前八時半第一組トシテ入浴。

午後近衛公手記「平和ヘノ努力」読直シ日米交渉ノ感ヲ深クシタリ、平沼内閣辞職ニ就テノ余トノ会談モ要ヲ尽シ居ルコト回想シ綿々ノ情ヲ新ニシタリ。

本日ノニツポンタイムズニ被告等ノ財産調出ヅ。平沼氏二百万トハ驚ク、旧國本社ノ分ナド含マサレ居ルナラン。

九月十八日（水）雨

九時半廊下、一時半ハ空棟タル3A廊下ニ至リ約三十分無言グルグル廻リ散歩スル、廊下散歩ハ久シ振リナリ。詩篇九ノ二〇ニ曰ク「モロモロノ國民ニ己レ唯人タルコトヲ知ラシメ給ヘ」トアリ、國民タル前ニ人タル自覚即チ神ノ子タル自覚ノ先行スベキモノナルヲ示シタルモノナリ、世界一家ハ此事実ナクシテハ期セラレザルベシ。

九月十九日（木）曇

以寿子、公一ヨリ本日九日付封書、大石修子ヨリ去月十七日付ハガキ来ル。

「ソドム、ゴモラハ十人ノ義人無クシテ亡ビタリ」（創世記一八章）。國家モ個人モ其亡ビルヤ因テ来ル所アルコト勿論ナリ。今ヤ米ソノ言論戦ハ尋常ナラズ、仮令其行ク所竟ニ武力抗争トマデ至ラズトスルモ、内部失患ヲ見ルニ、十人ノ義人ナキコト明ナリ、歴史ハ恐ルベシ。

九月二十日（金）曇時々晴

二三子ヨリ本月十五日付三十六信来ル、周一姉ト共ニ福嶋ニ赴キ菊野ノ信子トノ縁談略決シ十一月挙式トノ事アリ。

「汝ノ独子ヲモ我為ニ惜マザレバ我今汝ガ神ヲ畏ルルヲ知ル」（創世記二二ノ一二）。今朝ノ礼拝暦ノ砌之ヲ読ミマタ新ナル感激ヲ覚エタリ。アブラハムノ

純情羨ムベシ嬰児ノ如ク些ノ痴疑ナキコト遠ニ偉ナリ、信仰トハ如此モノ、神ト語ル至幸ヲ得ル所以ナルベシ。

九月二十一日（土）晴

午後散歩後一寸午睡シタリ、気分回復ヲ待チ余ノ最モ好ム聖書ルカ伝一章ヲ潜心反読マタマタ大ナル感銘ヲ受ケタリ、「ザカリヤノ疑心ニ対スル神意の表示」（二〇セツ）「マリヤニ対スル天啓」（二六セツ以下）「マリヤノ純情」（三八セツ）「エリサベストマリヤノ応対」（三九セツ以下）ナド読ム程ニ考フル程ニ無限ノ教示ヲ与フ、此章ノミニテ幾時間費スモ不足ナリ。

九月二十二日（日）晴

明日差出スベキ二三子ヘノ三十七信及同封ノ大石修子ヘノ封書ヲ認ム。

正午飯ニ茹デ栗七粒貰フ泌々秋ヲ味フ。

九月二十三日（月）雨　冷気加ハル

二三子ヘノ三十七信ヲ集合当番ニ渡ス。

今朝八時及十一時ノ排便ノ折出血ス、多分痔ナラン。

今朝手紙ニ付注意アリ一通限リトノ厳達、仍テ従来ノ如ク一々返事ヲ出スコト不可能トナリ大ニ失望ス、昨日認メタル修子ヘノ分モ取止ム。八時半散歩時間中米看守各室ノ一斉検査ヲ行ヒ主トシテ紐類押収シタル模様ナリ、廊下散歩ト共ニ幽鬱ナリ。

九月二十四日（火）曇

先般日本ヲ訪問シタ米國議院陸軍委員五名ハ帰米シ（二十日華府発）一行中下院議員 Sikes ト云フモノ The seeds of World War III already have been sown. ト語リ沖縄ヲ筆頭ニシテ対ソ基地強化ヲ力説シ、チャーチルハ十八日チューリッヒニテ欧洲不安ヲ指摘"among the victors there is only the silence of despair." ト叫ンデ居ル、The Tragedy of Europe ノ題下ニテ「the approach of some new tyranny or terror」ヲ力説セリ、シカモ之ガ救拯者ヲ機構ニ来ムル愚ヲ覚ラザルナリ。

九月二十五日（水）半晴

今朝肛門ヨリマタマタ出血、但一昨日ヨリ少量ナリ。

昼食ニ甘藷二本貰フ、夕食モ甘藷入レナリ初物トテ珍味ノ思ヒシテ新米ト云ハルル丼押シ戴ク。

九月二十六日（木）快晴

周一ヨリ十五日付、寛二ヨリ十六日付ハガキ来ル。返事ヲ出セナクナリ淋シキ極ナリ。

「彼等ハ己ガ剣ニ依リテ國ヲ得シニ非ズ、自ガ臂ニ依リテ勝ヲ得シニ非ズ、只汝ノ右ノ手汝ノ臂、汝ノ面ノ光ニ依レリ、汝彼ラヲ恵給ヒタレバナリ」（詩篇四四ノ三）。勝敗ノ原因ヲ究メ戦後ノ措置ヲ深察スルニ非ラザレバ勝者敗者倶ニ絶滅センコト必定ナリ、人智ヲ絶スル鉄則ニ従フ以外興國ノ途ナシ。

九月二十七日（金）曇

八時半礼拝ニ出席　新任米従軍牧師三人目ナリ良型牧師ト感ゼラレタリ。親シミヲ覚エタリ。

「汝等我ヲ離ルレバ何事ヲモ為シ能ハズ」（ヨハネ伝一五ノ五）。人ハ独立者ニ非ズ、其驕慢ハ破滅ヲ招クニ至ルコト史跡ノ実証スル所ナリ、強弱ノ顚倒観念ハ人間ノ共通病弊ナリ。

九月二十八日（土）雨

朝排便の折又々少々出血ス、一日中降雨ニテ両回ノ散歩廊下廻リナリ。

汝ラ天地ノ気色ヲ弁フルコトヲ知リテ今ノ時ヲ弁フルコト能ハヌハ何ゾヤ（ルカ伝一二ノ五六）内外情勢ヲ観テ其真相ト帰趨ヲ識ルコト真理ヲ仰グ者ニシテ能クスルヲ得ベシ、信仰ナクシテ時事ヲ正解スルコト不能ナル所以也。

九月二十九日（日）曇

午前二三子ヘノ三十八信ヲ認メ置ク。

ルカ伝一五章ニ記サレタル悔改ムル一人ノ罪人ニ対スル恩恵ノ如キ感激ハ余書ニハ発見出来ザルベシ、蓋シキリスト精神ノ最高峰ニシテ独歩ノ顕示ナリ、此深刻ナル垂訓ヲ骨髄ニ徹シ渇仰禁ジ能ハザル至幸ハ独リ体得ノミ善クスルヲ得ベシ。

九月三十日（月）晴

二三子ヘノ三十八信ヲ今朝差出ス。大石成子ヨリ八月十七日付自筆絵ハギキ「オヂサマ」トノミ認メタルモノ非常ニ遅レ来ル。

「ヱホバヲ懼ルルハ國ノ宝ナリ」(イザヤ書三三ノ六)。國興リ國亡ブ、國家の盛衰ハ所謂富國強兵ニ依リ支配セラルル結果邪道ニ堕スコトニ帰因スルヲ観ルベシ。神ヲ懼ルルコト個人ハ素ヨリ國家興隆ノ根本事ナリ、之レ真理第一ナレバナリ、権力ハ之ヨリ出ヅベキノミ。

十月一日(火)晴

パリサイ人ト取税人トノ立場(ルカ伝十八章)ハ人生ニ深刻ナル示唆ヲ投グルモノナリ「神ヨ罪人ナル我ヲ憫ミ給ヘ」ト絶叫シテ義トセラレタル謙遜ナル取税人コソ偉ナル哉。人ノ偉大ナルハ赦サレタル罪人ノ「モデル」タルニ有リ。其偉大ハ贖罪赦免ヲ透過シ来リタル偉大サニアリ、ポーロ然リ、クロムヱル然リ、此悲痛ナキ人生ハ浅薄タルヲ免レザルナリ。

十月二日(水)晴

二三子ヨリ去月二十三日付三十八信、前田いと子ヨリ二十二日付、佐藤直行ヨリ二十六日付各長文封書来ル、嬉シ。(二三子ヨリ第三十八信不着ナリ)

「是ハパンニ乏シキニ非ズ、水ニ渇クニ非ズ、ヱホバノ言ヲ聴クコトノ饑饉ナリ」(アモス書八ノ一一)。現代日本ノ脳天ヲ打ツ警鐘ナラズヤ、所謂民主政治ニ対スル痛打ニ非ズヤ「汝ラ我ヲ求メヨサラバ生ベシ」(同五ノ四)。唯物的救助策ノ愚策ナル今日尚覚ラザルコト至愚千万也。

十月三日(木)午前雨後曇

午前理髪スル、爪切ル、天気加減ノ故カ幽鬱ナリ。本日ノ新聞ニテ十月一日ニ行ハレタルニュールンベルク判決ヲ知ル　二十一被告中ゲーリング以下十二名絞首刑出ヅ、個人制裁ニ大ナル疑問ヲ抱ク者少カラザルベシ。

十月四日(金)雨時々已ミ曇ル

寛二ヨリ去月二十五日付ハガキ来ル。

八時半恒例ノ礼拝ニ出席ス。

四時又々ジェィラーノ室内臨検アリ玩具箱ヒツクリ返ス程ノ乱暴サナリ例ノ如ク紐類押収ノ為ナリ自殺者警戒ヨリ行フナラン、余ノ処ヨリ今朝返却用其ママノ締メタ洗濯物用短キ紐ヲ持ツテ行キタリ、地頭ニハ叶ハヌ。依然気分悪ク幽鬱ツヅク。

十月五日（土）晴

前田いと子ヨリ二十五日消印アル二十一日付キリスト新聞（二〇号）来ル。

予テ預ケ置タル持参ノ荷物一括返却方請求中ノ処、十時漸ク受取ルヤウトノ事ニテ廊下出入口迄赴キタルニ風呂敷包ヨリ冬物シヤツ類ヲ主トシテ取出シ一衣類ヲ風呂敷代リトシ、シヤツ二枚ヲ紐代リトシ水撒キノ廊下ニ放リ出シアリタリ　呆レ返リタリ言語同断ノ沙汰ナリ。午後ノ散歩ノ砌ドテラ及着物一シヤツニヲ日光ニ乾ス。和服類一切返却セズ留置ク。

十月六日（日）曇

死者ノ為ニ泣クコトナク、マタ之ガ為ニ嗟クコト勿レ、寧ロ擯ヘ移サレシ者ノ為ニイタク嗟クベシ、彼ハ再ビ帰リテ其故園ヲ見ザルベケレバナリ（ヱレミヤ記二二ノ一〇）

之レ人生最極ノ不幸ヲ記スルモノト云フベシ、罪ニ捕ヘラレ自由人トナリ得ザルコト悲劇此上ナシ、再ビ父老ノ故郷ニ帰リ来ルコトナシトハ何タル事ゾヤ敗戦日本ガ再建ヲ期スルニ於テ精神的革新ナクシテ果シ得ザルヲ知ルベシ。

十月七日（月）雨

二三子ヨリ去月十九日付三十七信前後シテ来ル、二三子ヘ三十九信差出ス。

「我ヲ強クシ給フ者ニ依リテ凡テノ事ヲナシ得ルナリ」ピリピ書四ノ一三）。凡テノ事ヲ為シ得ルカトハ非常ノ力ナリ。此ノ非常ノ力ハキリストヨリ来ルト云フ。キリストヲ我心ニ迎ヘテ此力ヲ得ルト伝フ。誠ニ偉大ナル福音ナリ、而シテ事実ノ福音ナリ、余ハ獄中ニ於テ多少ノ実験ヲ恵マレタリ。

十月八日（火）曇

汝ラ各様ノ試錬ニ遭フトキ、只管之ヲ歓喜トセ

ヨ。ソハ汝ラノ信仰ノ験ハ忍耐ヲ生ズルヲ知レバナリ。忍耐ヲシテ全キ活動ヲナサシメヨ。試錬ニ耐フル者ハ幸福ナリ、之ヲ善シトセラルル時ハ、主ノ己レヲ愛スル者ニ、約束シ給ヒシ生命ノ冠晃ヲ受クベケレバナリ(ヤコブ書一ノ二、三、四、一二)

南洲ノ所謂「幾歴幸酸志始堅」モ到達スル所知ルベ試錬ハ人物ヲ作ル、又時勢ヲモ作ル。

十月九日（水）曇

九時半散歩ヨリ帰室、直ニ真鍮磨キヲヤル、伍堂老ト磨粉ヲツケ乍ラ命之レ従フ。

我汝等ノ額ヲ金剛石ノ如クシ、磐ヨリモ堅クセリ（エゼキエル書三ノ九）之レ彼等ノ面ヲ畏ルルナカラシメントシ給フ聖旨ナリ（エレミヤ一ノ八、一七以下)所謂「世ノ友トナルコトハ、神ニ敵スルコトナリ」（ヤコブ四ノ四）

決然タル意気ヲ吐ケ。

十月十日（木）半晴

十時四十分二三子面会に来ル、八、九両月十二日ナリシモ今月ハ早シ、家事其他ニ付交談　元気ニテ嬉シ。

昨日モ今朝モ真鍮ミガキアリシ処更ニマタ九時半布達、伍堂老ト相顧ミ乍ラ磨粉ヲツケ乍ラ服従。

昼食　ウドン、コーヒーニ添ヒ再ビ茹栗ニアリツキ十五粒ヲ味フ武蔵野ノ秋色ヲ座シ偲ブ。

十月十一日（金）晴

二三子ヨリ五日付四十信(三十九信未着)英二ノ同入リ大嶋いとヨリ同日付夫々封書来ル。

昨日昼ニ継キ今夜食パン、肉汁、コーヒーニ添ヒ三度茹栗十八ヲ貫フ、食器洗了ヘ扉閉ヂタル後静ニ喫ス、子供時代ヲ偲ブ。

八時半如例朝礼ニ出席ス。二三子ヨリノ手紙ノ中ニ「僕聞ク、主ヨ語リ給ヘ」（サムエル前三ノ九）ヲ援用種々認メ呉レル。神トノ対話相叶フ程ノ至幸アルナシ。境遇ヲ絶スル境遇ナルベシ。

十月十二日（土）朝曇後雨トナル

十一時伊藤清弁護士来訪三十分四方山ノ話ヲスル。
同君ハ松井大将ノ弁護担当。
午後新刊野村前大使ノ「米國ニ使シテ」ヲ読ム「日米交渉ノ回顧」ノ例題ノ如ク津々タル感興ヲ涌カシム。巻末ノ文献頗ル参考トナル既読近衛公「平和ヘノ努力」トハ異リタル印象ヲ受ク。

十月十三日（日）快晴
久シ振リノ秋晴ニテ碧空片雲ナク気持ヨシ。九時半散歩ヨリ帰室直ニ明朝差出スベキ二三子ヘノ四十信五枚ヲ認ム。
徹臭キドテラヲ日光ニ曝シ水気ヲ持ツシヤツモ乾シ生々シタリ。
午後野村ノ「米國ニ使シテ」残リヲ読ム、感慨無量ナリ。

十月十四日（月）晴
今朝二三子ヘノ第四十信ヲ当番ニ託ス。
八時半散歩ニ出掛ケノ折、布団乾ノ指図アリタルモ日影一時間ニテ入室何ノ効果モナシ、骨折レ損ニテ自失ノ体也。
「汝ノ大庭ニスマフ一日ハ千日ニモ勝レリ（詩篇八四ノ一〇）主ノ御前ニハ一日ハ千年ノ如ク千年ハ一日ノ如シ（ペテロ後書三ノ八）」信仰ハ時間ヲ絶スルヲ識ルベシ。生死怠ルベカラズ。刻々念々神ヲ仰グベシ。

十月十五日（火）雨
終日雨ニ閉サレ何トナク気モ沈ム。
新刊斎藤茂吉著童馬山房夜話。ニューズウイーク、タイム、リーダース・ダイヂエストナド雑読ス。
夜ニ入リテ始メテ心静ニナリ聖書ヲ味読沈潜黙考、祈祷ニ深入スルコトヲ得タリ。

十月十六日（水）快晴
「汝等ノ作為ヲエホバニ託セヨ、サラバ汝ノ謀ルトコロ必ズ成ルベシ」（箴言一六ノ三）。偉業達成ハ必ズ人為作為ヲ絶シ神意ニ依ルモノナルコト史跡の明証スル所ナラン、蓋シ歴山那翁ノ如キハ大河ニ浮ブ葉片ノミ流レテ跡ナシ、平凡ヲ重ネテ偉大ナラシム

ルモノコソ讃仰スベキニ非ズヤ、而シテ之レ箴言ノ教訓ナリ、自己ヲ欺ク偉大ハ邪悪ノミ。

十月十七日（木）曇

一昨日夜ゲーリング服毒自殺昨朝ハ以下十名処刑ニュールンベルク悲劇了ル。

本日ハ神嘗祭ナリ、國旗掲揚モ司令部ノ許可アリテ、行ハレタル旨報ゼラルル如例。日本ハ正ニ亡ビタルニ相違ナシ、之ヲ然ラズト強弁スル政府ノ無恥不埒サ沙汰ノ限ナリ。噫我國ハ亡國トナリタルモノナリ、而シテ今ヤ第二ノ神武ヲ期スルコト國民ノ大志ニ非ズヤ、第二ノ神武ハ魂ノ建國ヲ以テ始マルモノナリ、大國日本ノ抱負有之ヤ否。

十月十八日（金）晴

本朝朝礼ナシ。

「汝等我ヲ求メヨサラバ生クベシ（アモス書五ノ四）」活クル途ハ神ヲ求ムルニアリ。全地球ヲ支配スルモ「生」ト関スルナシ。人其命ヲ失ハバ何ノ益スルアランヤトハ真ナリ、生クルヲ求メズシテ死スルヲ求ムル者何ゾ多キ、比々然ラザルハナシ。生ハ魂ノ人ナリ、従テ不朽ノ人ナリ信ノ人ナリ、一人ノ人ナリ而シテ神ノ人ナリ、國家、社会、世界ト運命ヲ頒ツモノナリ。

十月十九日（土）晴

保男ヨリ本月六日付封書来ル。

朝ウドン、コーヒーニ蜜柑五ツ。夜食諸、蕪入レ肉飯ニマタ蜜柑三出ヅ、蜜柑ハ初物青ケレドモ味佳シ。

「祝ヨワレ新シキ天ト新シキ地トヲ創造ス、人サキノモノヲ記念スルコトナク、之ヲソノ心ニ思出ヅルコトナシ（イザヤ六五ノ一七）」新天新地ハ自己革命ヨリ出発ス、魂ノ革新ハ之ガ先駆者ナリ之ナクシテ「新」ヲ云フ資格ナシ。

十月二十日（日）快晴

昨日ノニツポン・タイムスニ依レバ去ル十六日処刑セラルタル、ゲーリング以下（ゲハ自殺）ニ対シ死体ヲ火葬ニ付シ遺骨ヲ飛行機ニテ空中ヨリ飛バシタリト、ニュールンベルク監獄ノ司令官語レリ、ナチ巡

礼者ヲ恐レタルモノノ如シ、ジヤクソン主任検事ハ裁判ノ原告ハ「文明」ナリト断ジタルガ如斯残酷ナル仕打ハ「文明」当然ノ容認スル所ナリヤ所謂reciprocity文明ハ文明ノ自殺ニ非ラズヤ。

十月二十一日（月）晴

昨朝認メ置タル小金井ヘノ手紙ヲ今朝差出ス。

「汝等若シ一人ノ公義ヲ行ヒ真理ヲ求ムル者ニ逢ハバ我エルサレムヲ赦スベシ」（エレミヤ五ノ一）。天下ノ亡ビントスルヤ一人ノ義人真人ナキコト以テ知ルベシ。而シテ天下ノ興ルベキ運命ハマタ一人ノ義人、真人ニ託サルモノタルコトヲモ知ルコトヲ得ベシ。興亡ハ一人ニアリ、マタ之ガ背後ノ全体ニアリ、天来ノ啓示ニ接シ得ザルモノ何ゾ天下興亡ニ与リ得ルコトヲ得ン。

十月二十二日（火）終日雨

縦ヒカレラ忘ルルコトアリトモ我ハ汝ヲ忘ルルコトナシ。ワレ掌ニ汝ヲ彫刻メリ（イザヤ書四九ノ一五、一六）。信仰ノ強味ハ吾信ズルヨリモ神ニ識ラルルニアリ、雀一羽ダニ神ノ前ニ忘レラルル事ナシ（ルカ伝一二ノ六）

況ンヤ神ニ依頼ム者ニ於テオヤ、而シテ神ニ識ラル途ハ謙遜ニアルベシ、弱キ者ノ強サハ正ニ信仰ノ独壇場タルベキナリ。

十月二十三日（水）午前曇　午後晴

ヨブ記一一ノ一二ニ「虚シキ人ハ悟性ナシ」トアリ、正ニ然リ。悟性ハ「私意ヲハナレ」タル人（芭蕉ノ言ヲ借リテ云フ）ニ於テ得ラルル徳性ナリ、ヨブハ一切ヲ神ニ託シ悟性ニ入リ芭蕉ノ如キ旅ノ修行ニ依リ山野海浜ノ美景ヲ見、自然ト一体トナリ之ヲ得タルナリ。悟性ハ人生ヲ深カラシメ強カラシム。

十月二十四日（木）終日雨

二三子ヨリ九月三十日付第三十九信、十月十四付第四十一信、周一ヨリ十月十一日付、久賀子ヨリ九月二十八日付、石川養之輔氏ヨリ十月十三日付各封書、石井寛二ヨリ十月十一日付ハガキ来ル。

周一ヨリノ手紙ニテ本月十七日福島ニテ菊野信子ト

ノ結婚式挙行ノ趣認メアリタリ。二三子ヨリ祝品遣シタル事報ジ来レリ。

十月二十五日（金）晴

三時上田二郎ト云フ伍長新ニ入室、伍堂老ト三人トナル、愈六畳ノ天下トナル。

八時半恒例朝礼アリ出席ス。八月十九日ノ「ライフ」配布セラレタルニ依リ就テ見ルニ独乙ノマールブルヒ大学ノ現況記事アリ、学生、帰還及傷兵二千ヲ含メテノ三千人始メ教授ノ國家主義旺盛ヲ極メ経済学教授ゲラード・アルブレヒトノ如キ対米非協力者モアリ、兎モ角意気愛スベシ日本愧ヅ。

十月二十六日（土）晴

前田いと子ヨリキリスト新聞（十月五日発行）日本読書新聞（九月十八日発行）及聖書知識（八月号）送付シ来ル。

九時半散歩ヨリ帰室スルヤ真鍮磨キヲヤラセラル。預ケ置タル荷物一括返却方請求シアリシ処又々中味ノ和服一部ヲ室ニ投入シタリ。之レデハ話ニナラヌ故自宅へ送リ届ケル決心シ荷作リシタリ。

十月二十七日（日）晴

午前二三子へノ第四十一信ヲ認メ置ク。

同室者加ハリ2A十三号室ハ特別手狭ニテ六畳三人ハ無理ナリ身動キモ出来ヌ始末トナリタル故荷物整理シ和服ハ、インバネス一、夏服一組ヲ自宅ニ返却スベク明日差出スベキ願書ヲ認メ尚差入要求書ニ下駄、足袋、タオル、史記列伝、碧巌録同封分モ認メタリ。

十月二十八日（月）晴

二三子へノ第四十一信ヲ差出ス、下駄其他差入要求書ヲ同封ス。

昨日荷作リシ置タル自宅ニ届ケル衣類ヲ依頼状ト共ニ用意シ置キ書面ヲ差出シタル処、係ノ米人来リ荷物ヲ持参、自宅ニ届ケテ呉レルトノ事大ニ助カル。

十月二十九日（火）晴

今朝ヨリ急ニ寒クナリシヤツ重着シタリ。朝聖書謹読後島崎藤村ノ『東方ノ門』ヲ読ム、曽テ連載ノ砌

一読ノ記憶アルモ通読シ更ニ感ヲ深フシタリ。時勢ノ変遷ノ描写ニ思迫ルモノアリ。松雲和尚ガ長崎大喜庵辞去間際ノ光景大ニ好シ、四不闘、不与命闘、不与法闘、不興勢闘、不否理闘モ面白シ。

十月三十日（水）晴

福田素顕氏ヨリ十月十五日付見舞ノハガキ来ル。

「汝等何時迄ニノ物ノ問ニ迷フヤ、エホバ若シ神ナラバ之ニ従ヘ、サレドバアル若シ神ナラバ之ニ従ヘ」（列王紀略上一八ノ二一）。エリヤハ四五〇人ノ預言者ニ対シ一人所信ヲ披キテ枉ゲズ擇一ヲ迫ツタ、蓋シ人生行路ニ付纏フ苦悩ハ裁断力ノ欠如ヨリ来ルモノ多イコトデアラウ。エホバ一、信仰一、真理一、以テ裁断力ハ自ラ湧キ来ルコト当然デアル。即チ力ノ源泉デアル、没我ノ結果デアル。

十月三十一日（木）曇　夕ヨリ雨

「霊魂ナキ体ノ死ニタル者ナルガ如ク、行為ナキ信仰モ死ニタルモノナリ」（ヤコブ二ノ二六）。然リ、行為ナキ信仰ト云フモノナシ、信仰即行為ナレバナリ。信仰ハ簡単容易ニシテシカモ左ニ非ズ、神トノ一体ノ故ナレバ独善ハ許サルベキニ非ズ、神ニ識ラルルヲ以テ第一歩トスベシ、コノ自覚容易ナランヤ、茲ニ行為ノ偉大潜ム所以ナリ。

十一月一日（金）今暁マデ雨　朝晴

前田いと子ヨリ雄鶏通信十月号寄贈シ来ル。

十一月ヲ迎フ感激ヲ以テ朝ノ散歩ヲ了ル。

使徒行伝二七章ポーロノアテネ伝道ヲ読ミ現時日本ノ姿ヲ憶フ。所謂新奇ヲ衒ヒ、知ラザル神ノ祭壇ヲ拝スル者何ゾ多キヤ、時代風潮ニ雷同シ脚下顧照スルコトナシ　個人的見識ナク、國家的気慨ナク破壊ト迎合ニ馴キタリ風俗低劣ハ竟ニ英雄待望ヲ出現セズト誰ガ断ズルヤ。

十一月二日（土）曇

水口準君ヨリ去月二十三日付手紙（福井）来ル。

電気争議決裂ノ新聞記事ヲ読ム。國鉄スト以来頻発スル労資闘争ハ敗戦日本最大ノ恥辱ナリ。イギリス労働界ハ遖ニ大人振リヲ示シツツアリ、労働党政府

ノ枢相ハーバート・モリソンノ如キ資源ノ社会化、私的企業ヲ結果ヨリ判断スベキモノトシ、商務院総裁スタッフォード・クリップスノ如キ労働組合ガ労働条件ニ就キ雇主ト争フ時代ハ過ギタリト喝破シタリ、現日本ノ姿情ケナシ。

十一月三日（日）晴

午前二三子ヘノ第四十二信ヲ認メ置ク。

本日ハ明治天皇天長節也。菊花薫ル佳日、終生忘ル能ハザル記憶ヲ留ムルモノ我等明治ニ生ヲ享ケシ者ニ於テ特ニ然リ。而シテ今ヤ此日新憲法ノ記念行事全國的ニ繰広ゲラルル模様、天地顚倒ノ企ナラン。恐ラク時代ハ更ニ再転三転シ来ラン、短見者嗤フベシ。

十一月四日（月）曇　午後ヨリ雨

二三子ヘノ第四十二信ヲ差出ス。

「ワレ汝ノ事ヲ耳ニテ聞キイタリシガ今ハ目ヲモテ汝ヲ見タテマツル」（ヨブ記四二ノ五）。信仰ノ極致、真ニ羨ムベキ境地ナリ。目ヲ以テ神ヲ見ル至幸ヲ許サルル如キ非常ノ事ナリ。勿論所謂「見神」ト云フガ如キ軽薄ニアラズ、苦心惨澹、命ヲ堵シテノ信仰試練ノ結果ヨリ来ルモノナルベシ、ヨブ最後ノ到達点コソ学ブベキ所ナリ。

十一月五日（火）半晴

二三子ヨリ去月二十三日付第四十二信及保男ヨリ十月十五日付各封書来ル。

今朝家庭暦ニテ使徒行伝二六ノ一四、「刺アル策ヲ蹴ルハ難シ」ヲ読ミ世界大勢ガ滔々トシテ此愚ヲ演ジツツアルヲ悲ミ痛嘆久ウシタリ。

真理ハ風潮ニアラズ、数ニアラズ、権力ニアラズ、真理ハ神ニアリ、キリストニ有リ、之ヲ信ズル人ニアルナリ。聴テ現代勢力ガ退潮スル日来ラン時、天意ニ打タルルヲ切感セン。

十一月六日（水）曇　夕ヨリ雨トナル

一号室ノ谷正之君四時頃四棟ニ移居セシメラレタル趣ナリ。

諸々ノ君ニ依頼ムコトナク、人ノ子ニ依頼ム勿

レ、彼等ニ助アルコトナシ。其気息出行ケバ彼土ニ還ル、其日彼ガ諸々ノ企図ハ亡ビン（詩篇一四六ノ三、四）。

一切ノ人ノ助ニ依頼スルコトヲ止ムベシ、無益ナリ、恥辱ナリ、失望ナリ、助ハ神ヨリ出ヅ、之ヲ待ツベキナリ、神助ニ力アリ、其力ハ無限ナリ、牢獄生活ニ之ヲ体験シ、深ク感ジタリ。

十一月七日（木）曇時々微雨

二三子ヨリ去月二十六日付第四十三信、保男持参便

十月三十一日付各封書。

橋本征之助君ヨリ三十日消印アルハガキ、前田いと子ヨリ浅野順一氏説教「然リト否」受取ル。

二三子ヨリノ便リニ新婚ノ周一夫婦二十四日来訪、大石ノ姉ハ新夫婦送リ旁々十九日ヨリ千葉ニ泊リ居リ二三子ニ二十五日ニ千葉ニ大石姉ヲ訪問シタル旨認メアリタル。二十八日米人係ニ託シタル衣類三十一日保男取リニ来リタル趣ナリ。

十一月八日（金）曇

周一ヨリ去月三十一日付封書来ル、婚姻ノ報告ヲ認メアリタリ。

八時半、恒例ノ米従軍牧師ノ礼拝ニ出席。

谷君元ノ室ニ戻リ来ル。

「己ノ心ヲ治ムル者ハ城ヲ攻取ル者ニ愈ル」（箴言一六ノ三二）。儒教的ノ訓戒ナルモ「攻取ル」ニ特異ノ意味アルヲ覚ユ、罪ト戦ヒ流血ニ至ラズト戒メラルルモ這裡ノコトナリ、先ヅ自己革命ガ万事ノ先駆ナルヲ知ルベシ。

十一月九日（土）曇

前田いと子ヨリ去月二十八日付消印ハガキ来ル。

本日風寒ク座ロニ秋ノ寂シサ身ニ泌ム。曇天　幽鬱　光ヲ恋スル思一入迫ル。

本日ヨリ午前十時ヨリ一時間半散歩一回ト変更サセラル。三十分ニテモヨシ午前午後両回希望トノ話寄リ寄リ交サレ居ルモ素ヨリ其詮方ナシ。

十一月十日（日）晴

午前二三子ヘノ第四十三信ヲ認メ置ク。

キリストノ荒野ニテノ試練ハ其悉クガ人生ノ辿ルベキ誘惑ナリ。而シテ之ニ対スル　キリストノ解答ヲ味識セバ以テ人生ヘノ大指針ヲ感得スルコトヲ得ベシ、生活問題、栄達欲、驕慢心ト人心移向ノ道モ斯ノ如シ、而モ人生窮局ノ目的ヲ明示セラルルヲ見ルヲ得ベシ、正ニ人生ノ大切事ナリ。

十一月十一日（月）半晴　夜雨フル

二三子ヘノ第四十三信ヲ今朝集合当番ニ手交ス。

本日ハ前欧洲大戦休戦記念日ナリ、今次休戦ト比較スルニ雰囲気霄壌ノ差アリ、平和気分更ニナク返テ第三次大戦続発ノ不安横溢シツツアルモ皮肉ナリ。フーバー前大統領ハ此次共和党両院議員大勝ヲ以テ「計画経済ノ全体主義的道ニ立ツ左翼逐放ナリ」ト断ジ右党振リヲ示シタリ。アメリカ内部ハ政治経済外交道徳等大変化ヲ示サン、震源ナリ。

十一月十二日（火）曇

十一時二三子面会ニ来ル、元気ナ顔ヲ見テ安堵スル。

前々便ニテ差入ヲ注文シ置タル足袋、下駄、手拭、天桂禅師提唱碧巌録講義及史記列伝第二巻持参シ呉タルモノ夕方入室、早速一部ヲ見ル。大石姉未ダ滞京、留守宅ニハ永戸姉ト共ニ来リ二泊シタル趣ナリ。衣類ハ三十一日当所ニ受取リニ来タリタル由ナリ、其他親戚異状ナキヲ聞キ大ニ喜ブ。

十一月十三日（水）晴

十月廿八日号タイム及十月十四日号ニューズ・ウキークヲ見ル。ニュールンベルク処刑ノ模様ノ凄惨ナルヲ哭シ、米國新聞界ノ判決ニ対スル批評ノ皮肉不満ノ少カラザルヲ知ルヲ得タリ。処刑ノ夜九時最後ノ食事ヨリ始マリ翌午前一時十一分リッペンヨリ始マリ十名絞首ノ光景悲惨ヲ極ム。尚判決批評ハシカゴ・ディリー・トリビューン、ニューヨーク・ディリー・ニューズ、クリーブランド・プレーン・ディリー非難痛烈ヲ極ム。

Chicago Daily Tribune ; It would be no service to the course of Justice to contemplate the.....

十一月十四日（木）曇

本多秀次ヨリ(十一月一日付)封書、石井寛二ヨリ(十月三十日付)ハガキ来ル。

理髪ノ時間ト重リ散歩已メ終日塾居、運動不足シ気分晴レズ。

午後持参品厳重制限布達セラレ余分ノシヤツ及外套其他禁止トナリ少許ヲ残シ自宅ニ返却スルコトトナリ荷造シタリ。

十一月十五日（金）晴

朝八時半米牧師ノ説教ヲ聞ク。夜七時半ニ至リ突然触レ来リ歯ノ一斉検査ヲ行フ。入口ニ米医控ヘ居リ検査票ニ記入、係ニ口伝シ乍ラ点検。マサカ、ゲーリングニ懲リタル故ニモアラザルベシ。

人生ハ畢竟伝道ノ書ノ終句ニアル如ク「神ヲ畏レ其誡命ヲ守ル」ニ尽クベシ。個人然リ國家然リ、栄枯盛衰ノ鉄則ハ案外手近ニアリ之ヲ活用シ得ル者少キヲ憾ムノミ。

十一月十六日（土）晴

「主己ノ者ヲ知リ給フ」(テモテ後書二ノ一九)。キリスト教信仰ノ根拠ナラン。信仰ハ吾レ神ヲ信ズルト云ハンヨリ神吾ヲ知リ給フコトヲ識ルニ依リ享クルモノナルベシ。信仰ノ自立ハ苦痛ナリ。信仰ハ恩恵ナリ、恩寵ナリ、信仰ヲ許サレタル者ハ世界否宇宙ノ運行ニ与ルモノ、自己ヲ世界大ニ拡大シ行クモノナリ、行詰リヲ覚エザルコト其特質也。

十一月十七日（日）雨　寒シ

幕末豊後ノ詩人廣瀬林外ノ詩ニ、「今日学風変、書生半化胡、人倫譏孔孟、兵制笑孫呉、不妨采長技、却憂迷異途、慨然読原道、孰復継前模」トアルヲ識ル、明治維新ニ幾倍スル今日ノ変革期ニ於テ其弊風モ亦幾倍スルモノアリ而シテ動向軌一スルアルモ亦妙ナリ、所謂民主々義ノ履違ノ如キ恥シキ限ナラズヤ、國民的自覚尚低迷甚ダシ。

十一月十八日（月）晴

今朝二三子ヘノ第四十四信差出ス、荷物大制限ノ厳達アリ(十四日)明日アタリ自宅ニ返送スルコトトナルヤモ知レズ、書中ニ品名等認メ置タリ。

「明日ノ事ヲ思ヒ煩フナ、明日ハ明日自ラ思ヒ煩ハン。一日ノ苦労ハ一日ニテ足レリ」（マタイ伝六ノ三四）。今朝読ミテ感概ニ耽リタリ、明日ハ尚余ニアルコトナシ、如何ニ煩ハルルモ意義ナシ謙虚ヲ以テ今日ニ全力ヲ尽スコト本分ナルベシ。

十一月十九日（火）曇

朝八時半日本語ノ説教アリトノ触レニテ行列ヲ作リ礼拝堂ニ赴シ処恒例ノ米牧師ノ英語説教ヲ覚束ナキ二世ノ日本語ノ朗読ニテ鳧トナル。午前入浴ニ付午後散歩アルコトト思ヒシ処遂ニ行ハレズオ流トナル、稍不消化気味ニテ気重シ。一昨日ノニッポンタイムズニテ法廷ニテ米弁護人ヨリ被告ノ所持品制限問題トシタル旨アリ其為カ返却尚行ハレズ。

十一月二十日（水）晴

二三子ヨリ第四十四信（十一月五日付）以寿子ヨリ十一月六日付各封書落手。

「ワガ体ヲ打擲キテ之ヲ服従セシム」（コリント前書九ノ二七）。ポーロノ体験ハ遖ニ深刻ナリ。戦乱、相剋、闘争、悉ク其原因吾衷ニ伏在セルコトヲ悟リ得ベシ。人類進歩ノ方途ヲ政治、外交、文化、経済ト之ヲ外ニ求ムルコト愚ナルコト歴史ノ明証スル所ナリ、知識人ノ案外浅慮ナルコト知ルベキニ非ズヤ。

十一月二十一日（木）晴

大嶋いと子ヨリ本月一日付封書来ル。

昨日ノ新聞ヲ見タル処竹内賀久治氏去ル十八日午後二時四十五分逝去ノ報ヲ知ル。実ニ感慨無量ナリ。余入所前北澤ノ居所ニ訪問セル砌非常ニ衰弱セルヲ見受タルモマタ再会ノ速ナルヲ祈リ別レタリ。交友殆ンド三十年ニ垂ントシ國本社創立時代ヲ回顧スルモ追憶尽ルナシ。噫至誠硬骨ノ國士ヲ失フ。而シテ晩年ノ不遇ヲ察シ暗涙ニ咽ブ、何ノ日カ君ノ志ヲ継ン乎。

十一月二十二日（金）曇　三時ヨリ雨トナル

八時半ヨリ米従軍牧師ノ礼拝説教ヲ聞ク。

マタマタ所持品大制限ノ布達アリ、之ニ依リ眼鏡一、時計禁止、和服二、外套禁止等々囚人ト雖モ行ハレ

ザル如キ酷則ナリ、書籍類モ六冊トナル。因テ書籍始メ荷作シ明朝自宅返却スルコトニ決ス。

十一月二十三日（土）快晴

二三子ヨリ及千葉兄ヨリ封書来ル周一夫婦カラモ。午後三時頃ト覚ユ米看守三人来室、室内大検査、持参品殆ンド全部放リ出シ自宅ニ届ケル様厳重処置惨憺タル様子ナリ、日記其他多ク紛失、散乱手ノ着ケ様ナシ。

十一月二十四日（日）曇

二三子ヘノ長文手紙認ム。昨日ノ嵐ニテ読書用眼鏡取去ラレ大ニ不自由シ閉口、今朝医師ニ事情ヲ愬フレドモナカナカ返却シ呉レズ眼極度ニ疲労ス。夜読書出来ズ、八時早寝ス　廊下両側共、尚検査残リ居ル為カ運動ナシ。

十一月二十五日（月）曇後晴レ

二三子ヘノ手紙差出ス。

九時半頃昨夜軍医将校来室事情聴取ノ結果ニ依リ本部医務室付ラシキ曹長来リ眼鏡持参シ返却サレ大ニ助カル。本日モ向側検査続行運動ナシ、両日ニ亘リ室内蟄居　気鬱ナリ。向側進藤君フンドシ迄取去ラレタリト呟キ居レリ。

十一月二十六日（火）晴

官給(?)ノ汚レタオルヲ入浴ノ砌洗濯　尚自室ニアリテボロボロトナリタル唯一ノ猿又モ洗ヒタリ。

十一月二十七日(水)午前曇　午後雨トナリ夜ニ入テ不已。

同　**二十八日**（木）午前晴　午後曇

十時半散歩ノ砌硝子小片ヲ拾ヒ爪ヲ切ル、不完全也、小片ヲ棄ツ。

同　**二十九日**（金）曇　寒シ

八時半如例米従軍牧師ノ礼拝ニ出席。午前ノ入浴午後トナリ午後運動取止トナル。水戸高校保男ヨリ封書、横手寛二ヨリハガキ来ル、両人共不断便リヲ呉レ感謝ニ不堪。

同　**三十日**（土）曇　本日モ寒シ

二三子ヨリ本月二十一日付第四十六信、周一ヨリ二

十四日付ハガキ来ル。

十二月一日（日）曇

朝二三子ヘノ第四十六信（日記散逸シ仮リニ四十六信トシ以後此順ヨリ引継グ）認ム。

十二月二日（月）終日雨

如何ナル訳カ廊下散歩モナシ。午後三時半米兵五人来リ一応室内検査ヲスル。

昨日認メ置キタル二三子ヘノ第四十六信ヲ今朝差出ス。封中ニ来年度日記要求書ヲ入レル。

十二日三日（火）晴

午前　膳、丼、箸食器一切取上ゲ昼食ヨリ配給場所ヨリ渡スコトニ変更一同呆然トナル　流入物ヲ気ニセル為タラントノ噂ナリ。二三子ヨリ去月二十七日付第四十七信来ル同封本月十五日余ノ誕生日祝ノカード、和歌三首記シタリ多謝。マタ前田いと子ヨリハガキモ来ル。二三子ノ祝意ノ歌二ツ

一、おどろなる棘の道も切拓く強き男の子一人今日生れたり

二、この国に子の行末を祈りつつ乳ふくませし人のしのばる

十二月四日（水）晴

運動時間ナシ、本日マタマタ色々ノ禁止布達書配布セラレ愈生活ノ制限厳重トナル、時計及所持金二十五円返却スルコトトナル、時計ハ毎暁排便ノ時間ヲ計ル必要上一応医師ノ証明ヲ得ル努力セントス　夜原稿認メ明朝交渉セン。手紙類モ所持出来ザルコトトナリ去月二十三日嵐以後大切ニ一括保存セル二三子外書翰書ヲ断腸ノ思ヲ忍ビナガラ暗涙ニ咽ビツツズタズタニ切リ割ク。

十二月五日（木）曇

今朝時計所持許可申請ヲ医師ノ証明必要ニ付医師宛提出スル（便秘ノ理由ヲ付シ）。三時頃米弁護人バーソンス大尉、塩原時三郎、松下三氏面会ニ来ル。思想文教問題等数項目ニ付余ヲ証人トシテ出廷希望ノ趣ナルモ事情聴取ノ結果之ヲ断ハル。唯鈴木内閣最後ノ砌ポツダム宣言受諾当時「戦争犯罪人」ノ意味ガ

所謂A級ヲ含ムモノト考ヘ居ラザル点　即通例ノ戦争犯罪人(國際法上ノ)ト理解シ居ル点ニ付全閣僚同一口供書作製及証人トシテ出廷セザル二条件ノ下ニ口供書ヲ作製シ渡シ一時間余面談スル。

十二月六日（金）晴

八時半米牧師ノ礼拝に出席、所持金二十五円ヲ自宅ニ届ケル手続ヲ了シ受取ヲ呉レル、時計ハ未ダ医師ヨリノ証明来ラズ　仍テ時計ハ夫レマデ保留スルコトトセリ。

十二月七日（土）晴

格別記スルコトナシ、例ニ依リ午前聖書午後史記夜聖書味読シ平静裡ニ暮ス。

十二月八日（日）薄曇　晴レ間ナシ寒シ

朝　二三子ヘノ第四十七信ヲ認ム。

十二月九日（月）

今朝、昨朝認メ置タル二三子ヘノ第四十七信ヲ当番ヘ渡ス。天気好シ　寒気風モ沁ム。

十二月十日（火）曇　本日モ風アリ寒気加ハル午後現在ノ2A一三号ヨリ八号ニ移ル。八号ニハ村田省蔵君ト元通訳ノ和田君居リ八畳三人トテ従来ヨリ広ク明ルク感ジ好シ。従来ノ一三号ハ北ニ面シ蒸気ノ風来ラズ端ナリシモ此度ノ室ハ廊下ノ中央トテ稍暖カシ。伍堂君ハ七号上田君ハ六号ニ各々移リ一三号ハ空室トナル。二三子ノ来訪ヲ心待チニ居リシモ来ラズ、失望ス。

十二月十一日（水）晴

午後理髪スル。静岡高校在学佐藤直行君（静岡市西草深五一、狩野こと方）ヨリ長文ノ手紙来ル(十一月三十日付)種々精神的苦悶ヲ愬来ル　直接返事出セヌコト遺憾至極ナリ。前田いと子ヨリ雑誌「基督教文化」九月号キリスト新聞(十一月二十三日付)日本婦人新聞(十一月二十四日付)日本経済新聞(十一月二十三日付)各送付シ来ル。午後三時半　二三子来訪、内外近況、信仰談ナド三十分元気ヨク交談ス。夕食ヨリ食器更替、従来ノ膳、丼、茶腕ニ代ユルニアルミ製盆一ツ(但大小六ツニ仕切リタルモノ)アル

ミノカップ一ツトナル、清潔ナルモ汁物吸フニ箸ニテハドーニモ詮方ナク奇妙ナ対照ヲ感ジタリ。

十二月十二日（木）午前晴　午後曇

二三子ヨリ第四十七信（十二月三日付）大嶋いとヨリハガキ来ル。

午後ニ至リ我々廊下A級大移動アリ伍堂卓雄、後藤文雄、青木一男、鮎川義介、菊池武夫、向側ニテハ小林躋造、岩村通世、天羽英二ノ諸君2B即チ二階ニ移サル。結局残リタルハ我々東側ノ余、村田省蔵、高橋三吉、谷正之ノ四人トナリ淋シクナリタリ。昨年本月本日当巣鴨拘置所ニ入リテヨリ本日ハ正ニ満一年也　感慨誠ニ深シ、云フ術ナシ。

十二月十三日（金）晴

朝例ニ依リ、米従軍牧師ノ礼拝ニ出席、午前原ト云フ復員兵入室、都合四人トナル。

十二月十四日（土）晴

午前室替トナル、即チ2Aノ8ヨリ2B（二階）9ニ移居セシメラル。正力松太郎君居リシ処ニテ新ニ大倉邦彦君入室、都合三人ニテ八畳占領スルコトニナリタルモノナリ。東側ニテ陽モ当リ好ク、暖房ノ効果モアリ大ニ助カル。之ニテA級ヲ隣室ニ集合セシムル方針ニABC順ニテ同居セシムル方針ナルヲ察知シ得ラレタリ。8室ニハ岡部長景、大達茂雄、太田正孝ナドA組居ル。

「聖書知識」落手　恐ラク前田いと子ヨリノ寄贈ナラン。

十二月十五日（日）曇

朝二三子ヘノ第四十八信ヲ認ム　佐藤君ヘノ返事ヲ織リ込ム。

十二月十六日（月）

午前畳マデ捲上ゲ室内大掃除ヲスル、正力、大倉両君ト大ニ精ヲ出ス、奴隷ナリ。二三子ヨリ第四十九信（十二月十日付）石川養之助氏ヨリ十二月十日付、大嶋保男君ヨリ十二月五日付各封書　周一ヨリ八日付、寛二ヨリ八日付、前田いと子ヨリ各ハガキ来ル。

十二月十七日（火）晴

二三子ヨリ差入レ呉レタル明年ノ「自由日記」落手、六冊制限ノ為手許ニアル「明治詩話」ヲ代替返却シタリ。

十二月十八日（水）晴

米大尉入室、爪切リヲ貸シテ呉レル、鷹ノ爪ヨロシク足爪ヲ切リ気分ヨシ之モ獄中実感ナラデハ曰難シ。

十二月十九日（木）晴

昨日貸出図書ヨリ借リタル "Labor today & tomorrow" by Aaron Levenstein ヲ読ム、アメリカノ戦後変貌ヲ示シ、デモクラシーノ根底ガ大動揺シ居ルコトヲ語リ示唆ヲ与フルコト多大ナリ。

十二月二十日（金）晴

記スルコトナシ。

十二月二十一日（土）晴

午前室内ニ対スル峻烈ナル検査アリ、畳ヲ上ゲ、身体ヲ調ブルナド徹底シタリ　手紙、雑誌、メモナド放リ出シ狼籍ヲ極ム。大嶋保男ヨリ十一日付封書、永野護君ヨリ八日付ハガキ来ル。

十二月二十二日（日）曇　寒シ

朝二三子ヘ第四十九信ヲ認ム、保男君ヘノ長文ノ感想返事伝言ヲ述ブ。

検査アリ厳重ヲ極ム、同室大倉君枕ノスポン紐ヲチギリ取ラレ大ニ憤慨スル。

十二月二十三日（月）晴

珍ラシク十時ヨリ散歩。午後一時半頃面会室ニ引出サレ趣シ処間違ニテ帰室可ナリ手間取ル。本日マタマタ検査アリ書籍類ヲ主トシテ取調ベテ引上グ、面倒ナル手続ヲシテ所持申請中ノ時計イヨイヨ破損、用ヲナサナクナル、自宅ニ返却スル外ナシ　毎暁ノ排便ニ事欠クコトトナリ困却セリシモ已ムナキ乎。二三子ヨリ十五日付（第五十信）サンタクローズモ這入リ居リタリ余ノ誕生日祝詞（大嶋ノモ同封シアリ）及以寿子、公一（八日付）封書来ル。

十二月二十四日（火）晴

去ル二十一日午前四時二十分　西南日本ヲ襲ヒタル

地震ノ詳報伝ヘラレ其被害ノ甚大ナルニ驚ク、日本ノ試練大ナルモ之ヲ乗切レバ民族復興モ大ナラン、精神復興ノ急務ヲ切感シタリ。

十二月二十五日（水）曇　今マデニナキ寒サナリ

午後一時ノ散歩廊下ニ変更　不愉快ナリ。クリスマストテ午前中専念沈潜黙想シテ降誕ヲ偲ブ。

十二月二十六日（木）晴

午前マタマタ室内検査アリ衣服類ヲ取調ベ去リタリ。

十二月二十七日（金）曇　大ニ寒シ

恒例ノ礼拝ナシ、マタ散歩モナシ。午前、午後両回室内検査アリ毎日ノ如ク厳重ナリ　イヨイヨ本モノ囚人扱ノ方針徹底ト思ハル。

大石孝一ヨリ二十四日付封書来ル。

十二月二十八日（土）曇時々晴

記スルコトナシ。

十二月二十九日（日）晴

朝食直後食器洗、内外廊下掃除、窓硝子拭等二時間使役セシメラル。同室ノ正力、大倉ハ勿論隣室ノ太田正孝、岡部長景、大達茂雄、村田省蔵ノ諸君共同ナリ、余リニ重労働ナリトテ不平モ出ヅ。

小金井ノ以寿子ニ明日付手紙ヲ認ム。

十二月三十日（月）晴

去ル二十三日破損セル腕時計ヲ受領証ト引換ニ自宅ニ返却方手続ヲスル。

小金井ヘノ返事ヲ今朝集メ係ニ差出ス。

十二月三十一日（火）曇　寒シ

運動ナシ　愈大晦日ナリ、獄裏ニアルモセメテ新年ヲ迎フル心許リノ作法ト思ヒ午前入浴ノ折　肌着ノランニングト猿又ヲ大急ギニテ洗濯シタリ、何レモ着替ナク乾カズ明朝ノ間ニ合ハザルニ至リシコト遺憾ナリ。憶ヘバ昨年十二月十二日入所以来満一年余ヲ送リ正月ヲ迎フルコト二回、足掛ケ三年ニ垂ントセリ、而シテ此間室替五回ニ及ブ、即チ最初入室3B四二号ヨリ本年二月十四日ニ2B二三号ニ替リ三月二十九日ニ2A一三号ニ降リ伍堂君ト同室シ　次

デ十月十日2A八号ニ転ジ村田省蔵君等ト同居スルコトトナリ更ニ本月十四日ニ至リ二階2B九号ノ現在ニ及ビタル訳ナリ。而シテ所謂A級容疑者ハ谷正之君ヲ除キ全部2B東側ニ隣室ABC順ニ三、四人同室ニテ配置収容セラルルニ至リシモノナリ、シカモ詳細ナル「獄中日記」ガ十一月二十三日ノ室内検査ノ大嵐ニテ紛失シ去リシコト千秋ノ痛恨事ナリ。

國内大変革期ニ当リ入獄ノ運命ニ遭フコト珍シカラズ、況ンヤ敗戦ニ臨ミ勝者ノ匙加減ニテ此悲運ニ投ゼラルルコト是非ナキ次第ト云フベシ。支那流ニ云ハバ「敗軍之将、不可以言勇、亡國之大夫、不可以図存」トデモ云フ所ナラン、況ンヤ日々ノ生活ハ正ニ敗亡ノ囚虜ナリ、一身ノ如何ヲ顧ミルガ如キ到底期スベクモナクマタ其心底寸毫モナシ。但シ敢テ亡國ノ大夫ト云フ如キ袴着タル表現ハ好マザルモ終戦内閣ニアリテ親シク天顔ニ咫尺シ重責ヲ辱ウシタル此身ガ、此國情此民俗ノ悲風惨雨ニ曝シ給フ　大君ヲ偲ビ奉リテハ実ニ断腸ノ思ニ堪ヘザルナリ。今ヤ年正ニ逝カントシテ獄裏独座シテ憶フ、之レ徒手空拳ノ窮措大、素ヨリ頼ムベキモノトテ一モアルナシ、幸ニシテ身心ヲ賭ケテ神ニ祈ルコト之アルヲ知ル、熱祷コソ絶対ノ扶ナレ。

昭和二十二年

一月一日（水）曇　頗ル寒シ

昨日ニ続キ本日モ亦運動ナシ。獄裏ナレ共遺ニ元旦ナリ、朝例ニ依リ看守ノ室内検査アリタルモ差シタル気配モナク直ニ引上ゲ後ハ至ツテ呑気閑寂ナリ。朝食ハ切餅三片（焼タルモノ）海苔一枚、キントン少々、蒲鉾一切レ、人参大根生酢少々及菜汁ニテ正月気分ニ浸リ囚虜乍ラ一系天子及富士山ヲ偲ブニ相応シキ献立ニ接スルヲ得タリ。夜食マタ上等白米飯ニテ頗ル美味、荒巻鮭ト人参、牛蒡、筍ノ煮付ト朝ト同ジク密柑二ツ添ヒアリ純日本食ニテ快適快味蘇生シタリ。

午前聖書味読、夜少々聖書精読　午後"Labor to-

day & tomorrow" by Aaron Levenstein 読残リ及白柳『民族日本歴史』三巻ヲ読ム。

一月二日（木）曇　午後二時頃ヨリ快晴トナル

午前使役アリ正力君ト共ニ廊下中央ニアル鉄格子ニ雑巾掛ヲ行フ。午後一時ヨリ二日越ニテ運動アリタリ。運動ヨリ帰室スルヤ看守来リ靴ノ紐ヲ取外シ集メセシメ持参シ行ク、紐類ニ関スル神経玆ニ至リ徹底シタルモノト云フベシ。

一月三日（金）

朝恒例ノ礼拝ニ出席米従軍牧師ノ説教ヲ聞ク。定例ノ入浴日ナルモ機関ノ故障トノ噂アリ取休ム、寒サノ砌一同失望ノ声満ツ。本日天気快晴ナルモ何故カ隣棟三階即3Cノ廊下ニ至リ一時間廊下廻リトナリ不平ダラダラナリ。

一月四日（土）快晴ナレドモ甚ダ寒シ

本多智恵子ヨリ旧臘十九日付封書、前田いと子ヨリ二十一日付ハガキ来ル。

エホバノ汝ニ要メ給フ事ハ唯正義ヲ行ヒ憐憫ヲ愛シ謙遜リテ汝ノ神ト偕ニ歩ム事ナラズヤ（ミカ書六ノ八）

事ノ全体ノ帰スル所ヲ聴クベシ　云ク神ヲ畏レソノ誡命ヲ守レ是ハ諸ノ人ノ本分タリ（伝道ノ書一二ノ一三）

汝等立カヘリテ静カニセバ救ヲ得平穏ニシテ依頼マバカヲ得ベシ（イザヤ書三〇ノ一五）

一月五日（日）曇　寒シ

明朝差出スベキ二三子ヘノ第五十信ヲ認ム、別ニ記スベキ事ナシ。

手ヲ鋤ニツケテ後、後ヲ顧ミル者ハ、神ノ國ニ適フ者ニアラズ（ルカ伝九ノ六二）

主ナル汝ノ神ヲ拝シ、唯之ニノミ事フベシ（ルカ伝四ノ八）

一月六日（月）晴

朝二三子ヘノ第五十信ヲ当番ニ手交ス。夕食ヨリ箸ヲ廃シスプーンニ代ハル、之ニテ盤ヨリ汁ヲ吸フ犬猫ヨリ免ルルコトヲ得ルニ至レリ。

ヱホバハワガ力、ワガ盾ナリ、ワガ心之ニ依頼ミタレバ我タスケヲ得タリ（詩篇二八ノ七）ヱホバノ使者ハヱホバヲオソルル者ノマハリニ営ヲツラネテ之ヲ援ク。ナンヂラヱホバノ恩恵フカキヲ嘗ヒシレ、ヱホバニ依頼ム者ハ福ヒナリ（詩篇三四ノ七、八）ナンヂノ大庭ニスマフ一日ハ千日ニモマサレリ（詩篇八四ノ一〇）汝等シヅマリテ我ノ神タルヲシレ（詩篇四六ノ一〇）

一月七日（火）曇

旧臘二十七日付大嶋いと子ヨリ越年挨拶ノハガキ及聖書知識十月号来ル。

昼食珍ラシク寿司大切レ四ツ海苔巻ニテカンピョウ、デンブ、玉子、青菜ヲ包ム白米マタ頗ル上等ニテ贅沢至極ナリ。夜食、白甘パン、大ソーセージニ添ヘコーヒー出テ本日味覚極楽ノ感アリタリ。

永野修身氏一昨五日逝去ノ報本日新聞ニテ知ル、今春散歩ヲ共ニシ乍ラ開戦思出ヲ話シタル面影尚眼底ニ残ル、二十八被告中、松岡氏ト二人欠ケタル訳ナリ。

一月八日（水）曇　幽鬱ナリ　寒シ

一時ヨリノ散歩取止メトナリ、チフス、コレラ、発疹チブス、種痘ノ注射ヲ受ク。夜頭痛発熱八時頃早寝ス。

ワレ汝ラニ告グ、友ナルニヨリテハ起チテ与ヘネド、求ノ切ナルニヨリ、起キテ其ノ要スル程ノモノヲ与ヘン。ワレ汝ラニ告グ、求メヨサラバ与ヘラレン。尋ネヨサラバ見出サン。門ヲ叩ケ、サラバ開カレン（ルカ伝一一ノ八、九）

一月九日（木）朝曇後晴

昨日注射ノ為発熱頭痛去ラズ、気分悪シ。

周一ヨリ旧臘二十五日付封書及石井寛二ヨリ二十三日付ハガキ来ル、二三子ヨリ去月二十五日付第五十一信来ル。午前理髪スル。

一月十日（金）晴　二時頃ヨリ曇

朝米従軍牧師ノ説教礼拝ニ出席。

十時頃林弁護人方岩間(?)弁護人来訪、佐郷屋事件始メ取扱事件、思想問題、軍事教練等ニツキ証人出廷方依頼ノ為ナリ、事情ヲ聴クニ余ノ出廷之ニ当ラザルヲ知リ断ハル、明日林君来訪ノ趣ナルモ同ジク断ハル考ナリ。

前田いと子ヨリ一月四日付消印アル新年挨拶ノハガキ来ル。

一月十一日（土）曇　時々微雨

午後一時ヨリノ散歩ハ廊下廻リ、午前十時頃林弁護人、米弁護人ト通訳同行シ来訪、三四十分会談、市谷法廷証人トシテ出廷ノ事断ハル。

二三子ニ三日前来所セルモ事務ノ手違ヨリ十三日月曜ニ来訪ニナリタリト林君ヨリ伝言アリタリ。

本日朝日新聞「声」欄「おほきみ」金田一京助博士御　製　戦ひに破れし後の今もなほ民のより来てこゝに草とる

をちこちの民のまゐ来てうれしくぞ宮居のうちに今日もまた逢ふ

金田一氏作　おほぎみをいたゞきもちてくにたみのふたゝびくにをおこさざらめや

ながきよの夢はやぶれてあたらしきくにのあけゆくまたよからずや

一月十二日（日）曇

二三子ヘノ第五十一信ヲ認ム。

汝ラ「ワレラノ父ニアブラハムアリ」ト心ノウチニ言ハント思フナ。我ナンヂラニ告グ、神ハ此ラノ石ヨリアブラハムノ子ラヲ起シ得給フナリ（マタイ伝三ノ九）

一月十三日（月）曇

今朝昨日認メ置タル二三子ヘノ第五十一信ヲ差出ス。

二時半頃二三子面会ニ来ル、家事近況其他ヲ聞ク、元気ニテ嬉シ。

「僕キク　ヱホバ語リタマヘ」（サムエル前書三ノ一〇）

造ラレタル物ニ一ツトシテ神ノ前ニ顕レヌハナ

シ、万ノ物ハ我ラガ係レル神ノ目ノマヘニ裸ニテ露ルルナリ（ヘブル書　四ノ一三）

一月十四日（火）曇

別ニ記スルコトモナシ。

我ハ復活ナリ、生命ナリ、我ヲ信ズル者ハ死ヌトモ生キン。凡ソ生キテ我ヲ信ズル者ハ、永遠ニ死ナザルベシ。汝コレヲ信ズルカ（ヨハネ伝一一ノ二五）

彼等ハミナ信仰ヲ懐キテ死ニタリ、未ダ約束ノ物ヲ受ケザリシガ、遥ニ之ヲ見テ迎ヘ、地ニテハ旅人マタ寓レル者ナルヲ言ヒアラハセリ。斯ク言フハ、己ガ故郷ヲ求ムルコトヲ表スナリ（ヘブル書一一ノ一三、一四）

一月十五日（水）晴　近来ナキ程ノ好天気也

午前同室ノ正力、大倉両君ト廊下中央ノ鉄格子ノ雑巾掛ノ使役アリタリ命之レ行フノミ。

神ノ仁慈ナンヂヲ悔改ニ導クヲ知ラズシテ、ソノ仁慈ト忍耐ト寛容トノ豊ナルヲ軽ンズルカ（ロマ書　二ノ四）

一月十六日（木）快晴

他ニ記スベキコトモナク無事過ス。

メネ、メネ、テケル、ウパルシン（ダニエル書五ノ二五）

我ラノ事フル我ラノ神我ラヲ救フノ能アリ、彼ソノ火ノ燃ル爐ノ中ト汝ノ手ノ中ヨリ我ラヲ救ヒ出サン（三ノ一七）

今我見ルニ四人ノ者縛メ解テ火ノ中ニ歩ミオリ凡テ何ノ害ヲモ受ズ、マタソノ第四ノ者ノ容ハ神ノ子ノ如シト（三ノ二五）。憐憫ト赦宥ハ主タル我ラノ神ノ裏ニアリ（九ノ九）

一月十七日（金）曇　寒シ

八時半頃如例米従軍牧師ノ礼拝説教ヲ聞ク。

虚シキ人ハ悟性ナシ（ヨブ記一一ノ一二）

彼ワレヲ殺ストモ我ハ彼ニ依頼マン、惟ワレハ吾道ヲ彼ノ前ニ明カニセントス（ヨブ記一三ノ一五）

ナンヂ神ノ御所為ヲ讃嘆フルコトヲ忘レザレ（ヨブ記三六ノ二四）

一月十八日（土）夜来ノ雨止ミ快晴トナル、暖カニテ凌ギヨシ。

何事ヲモ思ヒ煩フナ、タダ事ゴトニ祈ヲナシ、願ヲナシ、感謝シテ汝ラノ求ヲ神ニ告ゲヨ（ピリピ書四ノ六）

我ハ如何ナル状ニ居ルトモ足ルコトヲ学ビタレバナリ、我ハ卑賤ニ居ル道ヲ知リ、富ニ居ル道ヲ知ル、マタ飽クコトニモ、飢ウルコトニモ、富ムコトニモ、乏シキ事ニモ一切ノ秘訣ヲ得タリ、我ヲ強クシ給フキリストニヨリテ凡テノ事ヲナシ得ルナリ（ピリピ四ノ一一―一三）

一月十九日（日）快晴

明日二三始宛ヘノ第五十二信ヲ今朝認メ置ク。四時頃看守二人這入リ来リ室内ノ厳重検査ヲ行フ。畳マデ上ゲサセボケットノ手入レ書籍所持品残ラズ調ブル始末、散々ノ乱雑ナリ。

一月二十日（月）快晴

午後一時ヨリノ散歩ヨリ帰室スルヤ留守中畳二枚持行カレ塵散乱、惨憺タル光景タルヲ呈シ居リタリ、後一時間程シタルニマタマタ室内大掃除ノ有様ニテ畳ハ勿論天井マデ清掃トノ事看守監督トテ正力、大倉両君ト大童ニテ命コレ守ル体為ヨロシキ仕儀ナリ、何事モ世代時節也。今朝、昨朝認メ置タル二三子ヘノ第五十二信ヲ当番ニ手交ス。

一月二十一日（火）晴

午前九時半頃看守入室、壁ノゴミ指摘、マタマタ室内大掃除ヤリ直シ一時間余カカリ漸ク終結、三日ニ亘リ塵ヲ吸フコト万斛ナリ、地頭ノ前、何ヤラ其ママニテ悲惨ト云フモ愚ナ事ト云フベシ。十一時入浴シ甦生ノ思ヲナシタリ。

下村宏君ヨリ慰問ノハガキ来ル「いてふ葉はやちりうせてこもりぬの一とせはいつかゆめとすぎたり」一首認メアリタリ。

一月二十二日（水）快晴

昨日大寒入リト新聞伝フ其為メカ風モ身ニ沁ミ散歩余リ気晴ヤカナラズ。

彼ヲ死人ノ中ヨリ甦ヘラセ給ヒシ神ノ活動ヲ信ズルニヨリテ、彼ト共ニ甦ヘラセラレタリ（コロサイ書二ノ一二）

汝ラハ死ニタル者ニシテ其生命ハキリストト共ニ神ノ中ニ隠レ在レバナリ（コロサイ書三ノ三）

一月二十三日（木）曇

何故カ本日散歩取止メトナル。

若シ人自ラ知レリト思ハバ、知ルベキ程ノ事ヲモ知ラヌナリ。然レドモ人若シ神ヲ愛セバ、其人、神ニ知ラレタルナリ（コリント前書　八ノ二、三）

一月二十四日（金）朝起キテ降雪頻リナルヲ見ル

朝食後直ニ廊下窓雑巾掛ケノ使役アリ大倉君、酒井伯等ト命維レ努ム。

八時半過終リ、直ニ恒例ノ礼拝ニ出席帰室直ニ入浴、雪ノ日トテ特ニ心持好シ。

午後雪止ミタルモ庭ノ散歩ナク廊下ヲ三十分程廻リ歩ク。

一月二十五日（土）曇

アイケルバーカー巡視トカノ触込ミテ特ニ室内整頓ノ厳命アリタルモ例ノ如ク実現セズ、何故カ散歩モナク三十分程ノ廊下散歩モナク終日蟄居。

昨日ヲ以テ市ケ谷裁判検事側証拠提出終了ノ趣本日新聞ニテ知リタリ。

一月二十六日（日）晴

朝、明日差出スベキ二三子ヘノ第五十三信ヲ認メタリ、四日目ニテ外気ニ触レ晴レ晴レシ爽快ヲ覚ユ

我ハ復活ナリ、生命ナリ、我ヲ信ズル者ハ死ヌトモ生キン。凡ソ生キテ我ヲ信ズル者ハ、永遠ニ死ナザルベシ。汝之ヲ信ズルカ（ヨハネ伝　一一ノ二五、二六）

一月二十七日（月）曇午後晴　寒シ

朝、昨日認メ置タル二三子ヘノ第五十三信ヲ集合当番ニ手交ス。

祝ヨモロモロノ國民ハ桶ノヒトシヅクノ如ク、権衡ノチリノ如クニ思ヒ給フ、島々ハ立チノボル塵埃ノ如シ。レバノンハ柴ニ足ラズ、其ノ中ノ獣ハ燔祭ニ足ラズ。ヱホバノ前ニハモロモロノ國民皆無キニヒトシ、ヱホバハ彼等ヲ無キモノノ如ク空シキモノノ如ク思ヒ給フ（イザヤ書四〇ノ一五、一六、一七）

一月二十八日（火）晴

朝室内ガラス拭キ其他ノ命令出デ正力、大倉両君ト努ム。昼食後直チニ同室ノ正力、大倉両君、隣室ノ酒井、笠川、進藤三君ノ六人ニテ廊下ノブラシ掛掃除、廊下中央鉄格子雑巾掛ノ使役アリタリ、今迄最辛ノ労働ナリマタ命維レ従フノミ。

二三子、五十二信いと子同封ノ元旦付封書、岩崎千代子五日付封書落手、本年ニ入リ初メテノ近親ノ便リナリ。

昨日ヨリ旧臘出版ノ白柳秀湖著『新版民族日本歴史』近世編（正力君ニ送リ来リタルモノ借用）ヲ聖書ノ傍読ミ続ク。碧巌録マタ然リ。

一月二十九日（水）快晴　頗ル寒シ

前田いと子ヨリ昨年十二月十四日及十二月二十五日付（クリスマス特輯号）キリスト新聞拝受感謝シ乍ラ読ム。

ワレ父ニ請ハン、父ハ他ニ助主ヲ与ヘテ、永遠ニ汝ラト偕ニ居ラシメ給フベシ。コレハ真理ノ御霊ナリ（ヨハネ伝一四ノ一六、一七）

汝ラ我ヲ選ビシニアラズ、我ナンヂラヲ選べリ（ヨハネ伝一五ノ一六）

一月三十日（木）晴

記スベキコトモナシ

娘ヨ、ナンヂノ信仰ナンヂヲ救ヘリ、安ラカニ往ケ、病イエテ健カニナレ（マルコ伝　五ノ三四）

懼ルナ、唯信ゼヨ（マルコ伝　五ノ三六）

タリタ、クミ（マルコ伝　五ノ四一）

一月三十一日（金）快晴　暖カシ

朝例ニ依リ礼拝ニ出席、入浴後レル。
午後使役二回当テ来ル、一回ハ食事配給場所及浴場ノ清掃、他ハ階段ノ掃除ニテ共ニブラシ雑巾使用ニテ重々労役ニテ疲労シタリ同室隣室総出ナリ。松坂広政君病気(胃腸)ノ処午前三棟ノ一階独房ニ移居セシメラル、寒サ一入ナラン、二、三階ハ入室者アルモ一階ハ唯一人トノ事同情ニ堪ヘズ、暗涙ニ咽ブ。

二月一日（土）快晴
午前風邪予防ノ注射ヲスル。
午後マタマタ紐ノ厳重検査ニ来ル、メリヤスズボン、洋服ズボンヲ締メル為メ着ケタルハンカチーフノ片切レマデ切断シ行キ、吊リ下グルママトナリ用ヲナサズ、残酷ヲ極ムル措置ヲナシタリ。

二月二日（日）快晴
稍強風砂塵捲キ上リ散歩帰室後頭上塵満々。
手紙差出日ハ爾今毎火曜トナリタル旨今朝触レ歩ク。
為シ得バト云フカ、信ズル者ニハ、凡テノ事ナシ得ラルルナリ（マルコ伝九ノ二三）

二月三日（月）晴
手紙差出日月曜日カ火曜日トナリタルヲ以テ明日付手紙ヲ今朝認メ置ク、第五十四信ナリ。

二月四日（火）快晴　暖カシ
今朝二三子ヘノ第五十四信ヲ差出ス。
午前十時半頃2B南側全部ヲ廊下ニ集メ過日来問題トナリ居リタル食事増加願出書提出ニツキ米少佐及大尉ヨリ厳重戒告アリ、呆然タリ。
午前及午後二度ニ亘リ室内紐ノ検査アリ寝衣、メリヤスズボンニ附着セル雫細ノモノマデ切断シ行ク、如此スルコト幾回ナルヲ知ラズ、衣類悉ク使用不能トナル。

二月五日（水）快晴
何ノ故カ運動ナシ。午後マタマタ紐ノ検査ニ来看守入室、身体検査ヲ始メ入念ナリ、毎日トテ紐ト云フ紐ノ形モナシ、洋服後ノビジョウマデ切リ去ル始末ナリ。

夕食カステラパン、牛乳、スープニ添ヒテチョコレートクリーム出デ久シ振ニテ大振舞ニ有ツク、地獄極楽同居ノ感アリ独リ苦笑ス。

二月六日（木）快晴　頗ル寒シ

午前使役アリ廊下各室ノ窓硝子拭キ北側階段維巾掛ヲスル、婉然奴隷ノ有様イヨイヨ深刻ヲ極ム。

鳴呼ワレラハ今日奴隷タリ汝ガ我ラノ先祖ニ与ヘテ其中ノ産出物及其中ノ佳物ヲ食ハセントシ給ヒシ地ニテ我ラハ奴隷トナリ居ルコソハカナケレ。此地ハ汝ガ我ラノ罪ノ故ニヨリテ我ラノ上ニ立テ給ヒシ王等ノ為ニ衆多ノ産物ヲ出スナリ且マタ彼ラハ我ラノ身ヲモ我ラノ家畜ヲモ意ノママニ左右スルコトヲ得レバ我ラハ大難ノ中ニアルナリ（ネヘミヤ記九ノ三六、三七）

二月七日（金）快晴

例ノ如ク朝礼拝ニ出席、外格別記スルコトモナシ。

汝ラ「ワレラノ父ニアブラハムアリ」ト心ノウチニ言ハント思フナ。我ナンヂラニ告グ、神ハ此ラノ石ヨリアブラハムノ子ラヲ起シ得給フナリ（マタイ伝三ノ九）

二月八日（土）快晴

昨夜十時ノ消灯近ク点検呼廻リ来リ且終夜点灯ス、頭上電灯輝キ遂安眠出来ザリシ程ナリ。

「我コノ事ヲナシ得ト信ズルカ」彼等云フ「主ヨ、然リ」（マタイ伝　九ノ二八）

二月九日（日）快晴

昨夜モ亦電灯終夜点シ安眠充分ナラズ、自今毎夜如此、警戒厳重致シ方ナキモ神経病モ出ヅルナラン。大嶋保男ヨリ一月十一日付封書来ル。

身ヲ殺シテ霊魂ヲ殺シ得ヌ者ドモヲ懼ルナ、身ト霊魂トヲゲヘナニテ滅シ得ル者ヲ懼レヨ。二羽ノ雀ハ一銭ニテ売ルニ非ズヤ、然ルニ汝ラノ父ノ許ナクバ、其一羽モ地ニ落ツルコト無カラン（マタイ伝　一〇ノ二八、二九）

二月十日（月）晴時々曇

愈終夜点灯ト解ル、睡眠浅クナリタリ、看守諸事厳

重トナリタルコト目立テ見ユ。

明朝差出スベキ二三子ヘノ第五十五信ヲ認メ置ク。

我等若シ心狂ヘルナラバ、神ノ為ナリ、心慥ナラバ、汝ラノ為ナリ。キリストノ愛ワレラニ迫レリ（コリント後書　五ノ一三、一四）

二月十一日（火）快晴

紀元節ナリ、大内山ト純情國民ノ上ヲ憶フ、萬感胸ヲ打ツ、二三子ヘノ第五十五信ヲ今朝差出ス。

昨夜村田省蔵君盲腸ニテ入院セシ趣、今朝聞キタリ、老齢七十同情ニ不堪。

午前十時半頃入浴直後、二三子面会ニ来ル、至極元気ノ容子ニテ安堵シタリ、四方山ノ話ヲ交シ愉快ノ一時ヲ過シタリ。

二三子ヨリ去月十一日付第五十三信、以寿子ヨリ去月十二日付、周一ヨリ去月二十六日付ハガキ各受取ル。

二月十二日（水）快晴

強風砂塵ヲ巻キ午後ノ散歩埃ヲ浴ビテ帰室、午前理髪スル。

一号室ニアル天羽英二君懲罰ヲ受ケ第四棟独室（？）ニ移居セシメラル、数日前室内紐検査ノ砌応答ニ関シテ惹起セルモノトノ噂ナリ気ノ毒ノ至リナリ。

二月十三日（木）曇

午後濃藍色夏服上下及同色帽子ヲ給セラル胸ニ記名用白色布ヲツケタルモノアリ、純然タル囚人服ナリ、着用シテ見テ自ラ呆然タリ、今後ノ事共想像セラル。

二月十四日（金）曇　寒シ、夜ニ入リテ降雪

朝恒例ノ礼拝ニ出席。

汝ノ剣ヲモトニ収メヨ、凡テ剣ヲトル者ハ剣ニテ亡ブルナリ。我ワガ父ニ請ヒテ十二軍ニ余ル御使ヲ今与ヘラルルコト能ハズト思フカ（マタイ伝　二六ノ五二、五三）

二月十五日（土）曇　雪止ムモ寒気身ニ沁ム

午後二十分程廊下廻リスル。

夜看守入室シ余ノ窓際ノ釘ニ掛ケタルハンカチヲ見ツケ釘ヲ抜キ去ル、乾カス手段奪ハレタリ。

ワガタスケハ天地ヲ作リ給ヘルヱホバヨリ来ル（詩篇　一二一篇二）

ヱホバ城ヲ守リ給フニアラズバ、衛士ノ醒メ居ルハ徒労ナリ。ナンヂラ早ク起キ遅クイ寝テ辛苦ノ糧ヲ食フハムナシキナリ（詩篇　一二七篇ノ一、二）

二月十六日（日）晴　今日モ寒サ酷シ

雪解ケニテ午後二十分程廊下ヲ廻ル、看守ノ時間ヲ間違タルニヤ今朝暗ク起床面喰フ。

汝人ヲ塵ニ帰ラシメテ宣ハク、人ノ子ヨ汝等帰レト。汝ノ目前ニハ千年モ已ニ過ル昨日ノ如ク、マタ夜間ノヒトトキニ同ジ（詩篇　九〇篇ノ三、四）

二月十七日（月）晴

朝明朝差出スベキ二三子ヘノ第五十六信ヲ認メ置ク。

午前廊下各室窓ガラス拭ノ使役アリ神妙ニ努ム。

午後米従軍牧師来室立話ス。

二月十八日（火）曇　寒シ

午後一時ヨリノ散歩取止メ。二時頃十三日ニ渡サレタル囚人服ヲ着用シ室外入口廊下名札前ニ一斉整列セシメ大尉ノ服装検査ヲ受ク、今後時ニ之ヲ行ヒ尚昼間モ夜間ト同ジク呼笛ヲ吹キ検呼スルコトトナリ四時頃之ヲ行フ、今後高橋三吉大将2B世話人トナリタル趣ニテ整列、注意アリタリ、婉トシテ蝋ノ如シ昼ハ夜ト異リ室外整列ナリ、夫レ丈ケ惨澹タリ。

二三子ヨリ五十四信（一月二十一日付）五十五信（一月三十日付）五十六信（二月二日付）周一ヨリ（一月十二日付）佐藤直行君（一月十九日付）ヨリ各封書接受ス。

二三子ヘノ第五十六信ヲ今朝差出ス。

二月十九日（水）快晴　寒冷骨ニ徹ス

午前マタマタ囚人服ノ検閲アリ廊下ニ整列ス。午後一時ヨリノ散歩ニ之ヲ着用セシメラル、夏服ヨリ薄地ノベラベラニテ寒キコト話ニナラズ、何レモ不平ダラダラナリ。

二時半頃帰室スルヤ再ビ廊下ニ整列、検閲ラシク待ツコト小一時間遂ニ何ノ沙汰ナク空シク自室ニ引上グ、運動ヨリ階上帰室ノ砌下駄、靴一切脱セヨトノ命令出デ素足ニテ戻ル、囚虜ト云ヒ度キ処ナルモ犬猫ト堕シタル訳ナリ。

二月二十日（木）晴　今日モ亦寒シ

散歩ナシ。

十時頃MP三人看守一人入室身体検査、布団捲上ゲ、棚衣類捜査シ、一寸ノ紐アレバ用捨ナク寸断シ去リ余スナシ、室内散乱手ノ着ケ様ナシ、猿又ノ紐モ取リ去リメリヤスズボン止メニ作リタルハンカチヲ破リ片レモ悉ク捨テ去リ取リ去ル、目茶苦茶トナリ粘々シタリ。

保男ヨリ水高ヨリノ本月三日付ノ封書入手ス。

二月二十一日（金）快晴

八時半朝礼拝ニ出席、帰室直ニ入浴トナリ気分佳シ。

以寿子（公一分同封）去月二十一日付封書来ル、公一ノ結婚問題ニ付意見ヲ求メアリ次便賛意ヲ認メ送ラン、周一ヨリ十一日付石井寛二ヨリ一日付各ハガキモ接手ス。

二月二十二日（土）晴

九時頃、宇佐見弁護人面会ニ来ル、平沼氏近況、打合セ情報交換ナドミナ余分。帰室スルヤ大倉君、隣室ノ太田正孝君ト風呂場掃除ヲ命ゼラルルママニ努ム。午後四時頃マタマタ大倉君ト廊下南側箒ニテ掃方出動セシメラル、大当リ日ナリ。

昨夜ニ引継キ今朝ハマタ肛門ヨリ出血多量ニテ稍々驚ク。

二月二十三日（日）晴　陽射シ春ラシク、暖カナリ散歩ニ気持好シ。珍ラシク近頃ナキ太平無事ノ一日ナリ。

僕聞クエホバ語リ給ヘ（サムエル前書　三ノ九）

時ニサムエルイスラエルノ全家ニ告ゲテ云ヒケルハ汝ラ若シ一心ヲ以テエホバニ帰リ異ル神トアシタロテヲ汝ラノ中ヨリ棄テ汝ラノ心ヲエホバニ定メ之ニノミ事ヘナバエホバ汝ラヲペリシ

テ人ノ手ヨリ救ヒ出サン（サムエル前書　七ノ三）

二月二十四日（月）晴

本日モ亦暖ク仕合ハセナリ、同室ノ大倉君午後廊下ブラッシュ掛掃除セシメラレタルモ此大役余免ル。福嶋菊野芳子ヨリ本月六日付封書来ル。明朝差出スベキ石川以寿子ヘノ公一婚約賛成ノ返事ヲ今朝認ム。

手ヲ鋤ニツケテノチ、後ヲ顧ミル者ハ、神ノ國ニ適フ者ニ非ズ（ルカ伝　九ノ六二）

二月二十五日（火）晴　暖シ　散歩快適ナリ

昨日認メ置タル以寿子ヘノ手紙今朝差出ス。寝衣及貸付ノタオル洗濯ニ出ス。

一号天羽君十三日間ノ懲罰ヲ了ヘ元ノ一号室ニ戻ル。市ヶ谷東京裁判昨日再開、清瀬弁護人ノ冒頭陳述ヲ行フ。

人ヨリニ非ズ、人ニ由ルニモ非ズ、イエス・キリスト及ビ之ヲ死人ノ中ヨリ甦ヘラセ給ヒシ父ナル神ニ由リテ使徒トナレルパウロ（ガラテヤ書　一ノ一）

二月二十六日（水）曇　時ニ微雨

午後散歩ハ廊下廻リ二、三十分ニ止ム。

ワガ扶クルワガ僕ワガ心ヨロコブワガ撰人ヲミヨ、我ワガ霊ヲ彼ニ与ヘタリ、カレ異邦人ニ道ヲ示スベシ。彼ハ叫ブコトナク声ヲ挙グルコトナク、其ノ声ヲ街頭ニ聞エシメズ。マタ傷メル蘆ヲ折ルコトナク、ホノ暗キ燈火ヲ消スコトナク真理ヲ以テ道ヲ示サン（イザヤ書　四二ノ一、二、三）

二月二十七日（木）曇

夜ニ入リ看守入室、足袋ノコハゼヲ取リ去ル、之デ足袋モ亦用ヲナサズ、紐ト云フ紐、金具ト云フ金具其ノ何タルヲ問ハズ許サヌ方針徹シタリト云フベシ。

二月二十八日（金）晴

八時半頃例ノ如ク礼拝ニ出席。

十時頃医務室ニ引キ出サレX光線ヲ写サル、上半身裸ニテ三十分モ廊下ニ立サレ家畜其ママナリ、帰室直ニ入浴ノ番廻リ来リ漸ク蘇生ス。

二三子ヨリ本月二十日付第五十八信来ル、第五十七信ハ未着ナリ。

三月一日（土）曇　朝飛雪直ニ休ム

中庭散歩ナク二十分程廊下漫歩。

福嶋大石孝一ヨリ去月三日付封書、前田いと子ヨリ十四日消印アルハガキ及十二月号『聖書知識』接受ス。

アア愚ニシテ預言者タチノ語リタル凡テノコトヲ信ズルニ心鈍キ者ヨ。キリストハ必ズ此ラノ苦難ヲ受ケテ、其ノ栄光ニ入ルベキナラズヤ（ルカ伝　二四ノ二五、二六）

三月二日（日）曇　本日モ外気ニ触レズ

廊下二十余分位ノ迂廻。

大嶋いとヨリ去月十八日付ハガキ来ル、保男育英会保証人ノ挨拶ナリ。

人ハ天ヨリ与ヘラレズバ、何ヲモ受クルコト能ハズ（ヨハネ伝　三ノ二七）

三月三日（月）午前晴午後曇

本日ハ雛節句ナリ、桃ハ勿論期待出来ザリシモ桜ニモ背クコトトナラン感無量ナリ。

午前正力君、岡部君、村田君ト廊下中央鉄格子拭掃除ノ使役セシメラル。

マタ室検査ノ触込ミニテ念入リノ掃除ヲ行フ。昼食後例ノ囚人服ニ着換ヘ廊下ニ整列待ツコト二時間余、結局大尉ノ点検アリテ散会一、二、三階総出ニテ其有様寧ロ悲惨ナリ。尚今後寝ルトキ必ズ首ヲ出シ布団ハ胸マデニ止メ首ニ掛ケヌコトトスベシトノ布達アリ、首吊リノ警戒モ至レリ尽セリト云フベシ。

三月四日（火）晴時々曇

一時半散歩最中看守呼出アリ赴シ処二三子ノ面会ナリ、今後毎月四日ニ変更セル趣ナリ、現住居立退方ノ話有之由、出所マデ延期交渉申出ルコト依頼、其他家事上ノ話ヲ聞ク、元気ナ容子ニ接シ大ニ満足ス。

前田いと子ヨリキリスト新聞一月十八日号、二月八日号、二月十五日号、女性新聞一月二十一日号、二月十一日号各五枚ヲ接手ス。

戸外散歩三日間ナク少許ナリシモ気分晴々シク二三子ニ面会シ得タリ。

二三子ヘ第五十七信ヲ差出ス。

三月五日（水）曇

二三子ヨリノ第五十七信（二月十五日付）去月二十八日接手シタル第五十八信ヨリ後レテ届ク。

今朝ヨハネ伝九章ヲ読ミ非常ニ感激此一章味読、沈潜黙想、祈祷シ続ケ進マズ十一時ニ至ル、近来ニナキ至幸ヲ思フ、神ノ恵深キヲ味ヒ知リタリ。

昨日風邪気味ナリシモ本日ニ至リ咽喉痛シ夜ニ入リテ少々発熱セリ。

三月六日（木）晴時ニ曇

如何ナル故カ運動ナシ。

午前マタ、ヨハネ伝九章ヲ読ミ返シ前進セズシテ了ル。

室内検査ノ前触アリ大童ニテ掃除之レ努ム。爪切リ鋏ヲ貸シテ貰ヒ手足ノ爪特ニ鷹ノ如キ足ノ爪ヲ切リ晴々スル。

三月七日（金）曇　午後散歩、強風

石炭カスガ捲キ顔モ黒クナル帰室　早速頭モ、顔モ、足袋モ洗フ。

八時半例ノ如ク礼拝ニ出席。

午後正力君ト廊下ノ鉄格子ヲ雑巾掛ケノ使役ニ出ヅ。

　我ト父トハ一ツナリ（ヨハネ伝　一〇ノ三〇）

三月八日（土）晴

午後正力君ト廊下南側ノ各室ノ戸及硝子窓ノ拭掃除ノ使役ニ駆出サレ神妙ニ努メル、大倉君依然風邪ニテ臥床。

午前九時頃ヨリ例ノ服装及室ノ検査アリ十一時過ニ及ブ、頗ル厳重ナリ。

　我ハ復活ナリ、生命ナリ、我ヲ信ズル者ハ死ヌトモ生キン。凡ソ生キテ我ヲ信ズル者ハ、永遠ニ

死ナザルベシ。汝之ヲ信ズルカ（ヨハネ伝　一一ノ二五、二六）

三月九日（日）曇　稍々寒シ

午後散歩帰室スルヤマタマタ正力君ト駆出サレ廊下鉄格子雑巾掛ケヲ努ム。

ワレハ道ナリ、真理ナリ、生命ナリ（ヨハネ伝　一四ノ六）

三月十日（月）午前快晴　午後曇

八時半頃、河辺大将、黒田中将、長友、児玉、笹川諸君ト外ノ廊下ブラッシュ掃除ノ使役アリ二時間余ニ亘リ重労働ヲ課セラル、従来比類ナキ程ノ酷使振ナリ、婉然奴隷ナリ、家畜ナリ。

前田いと子ヨリ一月二十九日ノ消印アルハガキ来ル。

三月十一日（火）晴

二三子ヘノ第五十八信ヲ出ス。

格別記スルコトモナシ。

汝ラ我ヲ離ルレバ、何事ヲモ為シ能ハズ（ヨハネ伝　一五ノ五）

ナンヂ上ヨリ賜ハラズバ、我ニ対シテ何ノ権威モナシ（ヨハネ伝　一九ノ一一）

三月十二日（水）晴

十一時頃第十一号、第十二号各三人宛六人ノ室替アリ、余ノ室ニハ元捕虜情報局長官田村中将這入リ来ル、結局八畳敷四人トナリタル訳ナリ。

三月十三日（木）晴

午前理髪スル。

二三子ヨリ去月二十七日付第五十九信、黒田厳君ヨリ本月三日付長文手紙、大嶋保男ヨリ水高発去月二十六日付封書、石井寛二ヨリ去月二十二日付ハガキ、前田いと子ヨリ去月二十二日付キリスト新聞ヲ各接手感謝ニ不堪。

三月十四日（金）曇

午後ノ散歩風強ク砂塵揚リ苦力ノ如クナリ帰室ス。

朝恒例ノ礼拝ニ出席。

ナンヂノ銀ハ汝トトモニ亡ブベシ、ナンヂ金ヲ

モテ神ノ賜物ヲ得ント思ヘバナリ。ナンヂハ此ノ事ニ関係ナク干与ナシ（使徒行伝　八ノ二〇、二一）

三月十五日（土）曇

朝田村君ト廊下階段及中央鉄格子ノ雑巾掛ケノ使役ヲ果ス。

九時半頃ヨリ例ニ依リ囚人服着用服装及室内検査ノ点検アリタリ。

三月十六日（日）午前時々アラレ降ル、午後曇　稍々寒シ

散歩ナシ。

午前酒井伯ト廊下各室硝子窓、戸扉ノ雑巾掛ヲ課セラレ努ム。

神其像ノ如クニ人ヲ創造タマヘリ（創世記　一ノ二七）

三月十七日（月）午前晴　午後曇

前田いと子ヨリキリスト新聞、女性新聞各三月一日号拝受。

朝明朝差出スベキ二三子ヘノ第五十九信ヲ認ム。

ナンヂラ何ゾ歎キテ我ガ心ヲ挫クカ、我エルサレムニテ、主イエスノ名ノタメニ、唯ニ縛ラルルノミカハ、死ヌルコトヲモ覚悟セリ（使徒行伝　二一ノ一三）

三月十八日（火）晴

今朝、二三子ヘノ第五十九信ヲ集合当番ニ手交ス。

我ハソノ我ニ語リ給ヒシ如ク必ズ成ルベシト神ヲ信ズ（使徒行伝　二七ノ二五）

三月十九日（水）晴

八時半頃南側全員廊下ニ集合、大尉ヨリ注意アリ、倉庫ニ預ケ置タル品物ハ全部自宅ニ返却スルコトニ決定シタリトノ事ナリ。余ハ風呂敷包トスーツケース預ケ置ケリ果シテ満足ニ保管シアリヤ否疑問ナリ。直チニ運動ナリトノコト、珍ラシクモ午前ノ散歩ナリ風モナク頗ル快適ナリ。

午後一時頃正力君ト廊下各窓拭キノ使役ヲ命ゼラレ神妙ニ果ス。

三月二十日（木）午前晴　午後曇

本日モ亦九時頃散歩トナル、昨日ヨリ従来ノ午後散歩午前ニ変更シタルモノト思ハル。

石川以寿子及公一同封ノ本月五日及八日付封書、佐藤直行君ヨリ本月五日付封書、永野護君ヨリ三月二日付ハガキ来ル、以寿子ヨリノ八日付封書ハ公一ノ縁談ニ対スル賛意返事ニ喜ビノ挨拶認メタリ、大ニ安堵シタリ。

三月二十一日（金）春雨霏々　薄ラ寒シ

朝ノ礼拝ニ出席帰室直ニ入浴、窓外ノ細雨音モナク降リシキルヲ偲ビナガラ静ニ聖書ト祈祷ニ耽ル。

午後同室四人総出ニテ板ノ間洗濯ニ精ヲ出ス。

サレドヱホバヨ汝ハワレラノ父ナリ、ワレラハ泥塊ニシテナンヂハ陶工ナリ、ワレラハ皆ナンヂノ御手ノワザナリ（イザヤ　六四ノ八）

三月二十二日（土）晴　稍風強シ

九時頃土曜恒例トナリタル服装及室内検査アリ、一時間半程モ手間取リ午前ノ散歩ハ午後トナル。

視ヨワレ新シキ天トアタラシキ地トヲ創造ス、人サキノモノヲ記念スルコトナク之ヲソノ心ニ思ヒ出ルコトナシ（イザヤ　六五ノ一七）

三月二十三日（日）晴

本日モ風アリ散歩ニ砂塵ヲ浴ビ帰室スルヤ頭ヲ洗フ。

九時頃田村君ト廊下鉄格子雑巾掛ノ使役アリ了テ青木、天羽両君ヲ加ヘ、廊下掃除ヲ行フ、一時間半ニモ及ビ可ナリ疲労セリ。

我ハ恵マントスル者ヲ恵ミ憐マントスル者ヲ憐ムナリ（出エジプト記　三三ノ一九）

三月二十四日（月）曇

本日ノ散歩午後トナル。午後曾テ撮影シタル正面及横顔ノ二通リノ写真及手紋ヲ貼付タル二通ノ用紙持参シ来リ、之ニ日本字ノ署名ヲ求メラレタリ、同室ノ大倉君亦然リ、愈囚人扱ヒノ記録取リト見ユ。

或ハ世界、或ハ生、或ハ死、或ハ現在ノモノ、或ハ未来ノモノ、皆ナンヂラノ有ナリ。汝等ハ

キリストノ有、キリストハ神ノモノナリ（コリント前書　三ノ二二）

昨日ノ新聞ニテ平井庸吉氏逝去ヲ知ル、入所ノ砌訪問ヲ受ケシ印象新ナリ残念ナリ。

三月二十五日（火）朝微雨後曇、午後晴

千葉信子ヨリ本月十二日付封書来ル。

二月十八日付二三子ヘノ手紙ニテ周一服装等ニ注意セシ事ニ関シテ挨拶ナリ。

午前十時半頃米兵五人入室峻厳乱暴ナル室内検査ヲ行フ、言語ニ絶スル有様ナリ、中折帽ノリボンマデ破リ取リ去ル始末ニテ身体検査ハ愚カノコト記スルニ恥ヅル感ヲ受ク。二三子ヘノ第六十信ヲ認メ出シタリ。

三月二十六日（水）快晴

九時半頃散歩ノ砌布団干ヲ課セラレタルモ型ノ如クニテ日光モ当ラズ、一時間余帰室ニ際シ抱テ戻ル寧ロ滑稽ナリ。

二三子ヨリ本月七日付第六十信及前田いと子ヨリ本月八日付キリスト新聞来ル。

三月二十七日（木）午前晴　午後曇

昨日ヨリ特ニ祈祷ノ時間多シ、前途ニツキ思フコト千々、感深シ。

其証トシテ御霊ヲ賜ヒシ者ハ神ナリ。コノ故ニ我ラハ常ニ心強シ（コリント後書五ノ五、六）

三月二十八日（金）曇　午後時雨

朝ノ礼拝ニ出席シタリ。

エホバノ使者ハエホバヲ恐ルル者ノマハリニ営ヲ連ネテ之ヲ援ク。ナンジラエホバノ思恵深キヲ嘗ヒ知レ（詩篇三四ノ七、八）

三月二十九日（土）晴

九時如例点検ノ旨布達アリタル処掃除終了ノ頃中止トナル、次デ運動　中庭ニ出ヅ。

石川養之輔氏ヨリ封書来ル。

午後ハ日課ノ史記列伝ノ外昨年末刊行ノパールバック著『アジアの友へ』翻訳ヲ読ム、小著ナレ共快読スルニ足ル。

三月三十日（日）曇　午後晴

本日ノ散歩午後トナル、散歩後正力君ト廊下中央鉄格子及両側ノ下雑巾掛ケ使役ヲスル。

我キリストト偕ニ十字架ニツケラレタリ。最早我生クルニアラズ、キリスト我ガ内ニ在リテ生クルナリ（ガラテヤ書　二ノ二〇）

三月三十一日（月）午前曇　午後晴

本日ノ散歩モ午後ナリ。

二三子ヨリ本月十四日付第六十一信接受ス。

ヱホバハ我力我盾ナリ、我心之ニ依頼ミタレバ我扶ケヲ得タリ（詩篇　二八ノ七）

四月一日（火）午前曇　午後晴

去月二十日接受セル以寿子ヨリノ手紙ニ対シ返事ヲ認メ差出ス。

午後散歩少シク汗バム。

数日来ノ苦悩稍氷解、命ヲ賭ケテ神ニ感謝ヲ捧グ。

我ハ恵マントスル者ヲ恵ミ憐マントスル者ヲ憐ムナリ（出エジプト記三三ノ一九）

抑我汝ヲ立テタルハ即チ汝ヲシテ我権能ヲ見サシメ我名ヲ全地ニ伝ヘン為ナリ（出エジプト九ノ十六）

四月二日（水）朝風雨　午後雨已ミ風吹ク

夜食ノ鮫プント鼻ニツキ如何ニモ咽喉ヲ通ラズ其儘棄タリ勿体ナキモ詮方ナシ。

我ニトリテ、生クルハキリストナリ、死ヌルモマタ益ナリ（ピリピ書　一ノ二一）

四月三日（木）快晴

本日ハ神武天皇祭ナリ獄裏ヨリ想像スルニ思ヲ久遠ニ馳スル者トテ僅少ナラン、国旗掲揚ダニ無カラン。

午前理髪スル、獄中ノ既決人ガ、バリカン一ツニテ来リ多ク虎刈姿トナルヲ見我慢ナラズ丸坊主トナル我乍ラ苦笑シ帰室後、便所ノ硝子戸ニシバシ立タズム。

四月四日（金）晴　午後風強シ

朝恒例ノ礼拝ニ出席。

一時半頃二三子面会ニ来ル、頗ル元気ニ見受ケラレ

大ニ安堵シタリ家事其他近況ヲ聞ク。帰室スルヤ運動中ナル為要求シタルモ看守許サズ其儘史記ヲ読耽ル。

四月五日（土）朝曇後晴　暖カシ

九時頃例ノ検閲アル旨触レ廻ル、早速囚人服ニ着換ヘ室ノ大掃除、整頓ニ取掛リ十一時頃漸ク終了、何ノ事無ク、空々寂々ナリ。夜ノ点検何時経ルモ来ラズ十時半過ト思ハルル頃看守来リ眠テモ宣敷ト云フ飽迄囚人待遇ナリ。

夫レ我ラノ福音ノ汝ラニ至リシハ、言ニノミ由ラズ、能力ト聖霊ト大ナル確信トニ由レリ（テサロニケ前書　一ノ五）

信仰ニ基ケル神ノ経綸（テモテ前書　一ノ四）

四月六日（日）快晴

午後二時半頃散歩ヨリ帰室スルヤ看守入室シ所持品検査スル。

手紙類大切ニ保存シ居リタルモノ一切破却セシメラル、愛惜禁ジ得ズ、自ラズタズタニ引裂キ一括シテ棄去リタリ。

四月七日（月）快晴　風モナク暖シ

如何ナル訳カ散歩ナシ。土曜以来新聞モ来ズ暦日ナシ、無事何モ記スルコトナシ。

我等ノ行ヒシ義ノ業ニハヨラデ、唯ソノ憐憫ニヨリ、更生ノ洗ト我等ノ救主イエス・キリストヲモテ豊ニ注ギ給フ聖霊ニ依ル維新トニテ我等ヲ救ヒ給ヘリ（テトス書　三ノ五、六）

四月八日（火）曇

午前大倉君ト廊下各室ノ真鍮磨キノ使役ヲ果ス、正力君ハ入口硝子拭ヲ命ゼラル。上、下メリヤスシャツ、貸与ノ大タオル洗濯ニ出ス。二三子ヘノ第六十一信ヲ今朝差出ス。

汝ラ我ヲ離ルレバ、何事ヲモ為シ能ハズ（ヨハネ伝一五ノ五）

四月九日（水）曇　午後晴

二三子ヨリ去月二十八日付第六十三信（第六十二信未着）、以寿子ヨリ去月三十日付、佐藤直行君ヨリ

二十八日付各封書及橋本清之助君ヨリ去月十九日付ハガキ来ル。

以寿子ヨリノ手紙ニ依レバ去月二十四日ニ公一ノ結納済マセタル趣　嫁サンノ名ハ「アキ」トノ事也。

四月十日（木）半晴

前田いと子ヨリ三月十五日号キリスト新聞及三月十一日号女性新聞送リ来ル。

午後四時頃正力、大倉両君ト廊下中央鉄格子及扉ノ雑巾掛使役ヲ努ム。

四月十一日（金）晴

扉開キニ来ラズ恒例ノ朝礼拝ニ出席叶ハズニ了ル。

二三子ヨリ去月二十一日付第六十二信後レテ接手、周一ヨリ去月十六日付、大嶋保男ヨリ去月十三日付、佐藤静子ヨリ去月二十八日付各長文ノ封書来ル。

二三子ヨリノ手紙ノ中椎君夫人三月九日永眠ノ報、平井先生三月二十日永眠ノ報アリタリ同情ニ不堪。

四月十二日（土）晴　稍々肌寒シ

定例ノ服装及室内検査ナシ。

洗濯物出来シ届ク。

萬ノ物ノ終リ近ヅケリ、然レバ汝ラ心ヲ慥ニシ、慎ミテ祈セヨ（ペテロ前書　四ノ七）

四月十三日（日）晴

天気ハ好シ本日ノ日曜ハ桜花満開ナラン、色々思ニ沈ム、急ニ鉛筆ヲ取リ爪ニテ尖ヲ磨ギ十五日付手紙ヲ認ム、橋本清之助、佐藤直行、静子、保男、周一ノ伝言ヲ夫々記シタルヲ二三子宛五枚第六十二信一気ニ仕上グ。

四月十四日（月）晴　午後風出ヅ

石井寛二ヨリ去月十六日付ハガキ、前田いと子ヨリ三月二十二日号キリスト新聞及三月二十一日号女性新聞来ル。

ワレ汝ノ行為ヲ知ル、汝ハ生クル名アレド死ニタル者ナリ。ナンヂ目ヲ覚シ、殆ンド死ナントスル残ノモノヲ堅ウセヨ（ヨハネ黙示録　三ノ一、二）

四月十五日（火）晴

散歩ナシ。
大嶋いと子ヨリ三月十六日付ハガキ、同保男ヨリ三月二十六日付封書来ル。
今朝二三子ヘノ第六十二信ヲ出ス。
勝チ得テ終ニ至ルマデ我ガ命ゼシコトヲ守ル者ニハ、諸国ノ民ヲ治ムル権威ヲ与ヘン。彼ハ鉄ノ杖ヲモテ之ヲ治メ、土ノ器ヲ砕クガ如クナラン
（ヨハネ黙示録　二ノ二六、二七）
四月十六日（水）晴　午後風強シ
九時半頃室内整頓ノ上例ノ囚人服着用シ所長大佐ノ巡視ヲ受ク。二時半頃沙塵ヲ浴ビ散歩ヨリ帰室スルヤ呼笛ニ応ジ伏セノ稽古セシメラル、下手ナ防空演習ノ感アリ辱シメラルルコト此上ナシ、何ノ目的ヤラ皆目解ラヌ事也。
大嶋保男ヨリ四月四日付封書、前田いと子ヨリ四月八日付消印アルハガキ、石井寛二ヨリ四月六日付ハガキ来ル。
四月十七日（木）晴
同室ノ田村中将、午前六時及十時頃ノ両度突然癪癇ヲ発作シ大騒ギヲ演ジ特ニ第二回目ノ時ハ米兵及医八、九名モ来リ措置セシ始末ナリ。各室ノ便所巻紙ヲ取上ゲ其代リチリ紙若干渡ス、愈以テ囚人待遇ニ徹シ来ル感深シ。
夜十時半頃ト覚エシ時迄起キ居リシモ竟ニ点検来ラズ、其ママ寝ル、不埒也。
昨日ノ新聞ニテ萱野長知君十四日ニ腰越自宅ニテ逝去ヲ知ル。
四月十八日（金）晴　午後沙塵揚ガル
朝礼拝堂ノ前迄行列シタルニ休ミトノ事ニテ空シク帰室。
室ノ窓ガラス覗キ易カラシム為一枚ヲ取損シ行フ。
午後散歩朝ヨリ全身塵ヲ浴ビ不愉快千萬ナリ。
凡テ我愛スル者ハ、我之ヲ戒メ、之ヲ懲ス。コノ故ニ、汝励ミテ悔改メヨ。視ヨ、我戸ノ外ニ立チテ叩ク、人若シ我声ヲ聞キテ戸ヲ開カバ、我其内ニ入リテ彼ト共ニ食シ、彼モ亦我ト共ニ食

センター（ヨハネ黙示録　三ノ一九、二〇）

四月十九日（土）晴

九時例ノ如ク服装室内ノ点検アル旨ノ前触レアリ準備完了スルヤ検査ナシ、直ニ運動トノ事、急ニ準備換シテ珍ラシクモ午前中ニ散歩ニ出ヅ。

午後余ノ座席ノ上ノ窓ガラスマタマタ取外シ行ク。

二三子ヨリ本月十日付第六十四信、水口準ヨリ本月十日付、保男ヨリ本月九日付夫レ夫レ封書来ル。

四月二十日（日）曇　午後風強シ

午前ノ散歩満身沙塵ヲ浴ビ帰室スルヤ頭ヨリ冷水ヲ掛ケ洗フ。

水節約ノ厳達アリ室内ニテノ洗濯禁示サル。

「我此事ヲナシ得ト信ズルカ」彼等云フ「主ヨ、然リ」（マタイ伝　九ノ二八）

四月二十一日（月）曇　午後凄シキ強風トナリ散歩モ半時間位ニテ已ム後雨トナル、夕ニ至リ霽レル。

以寿子、公一同封ノ十五日付手紙来ル。

座席ノ上ノ窓硝子残リノ二枚ヲ取毀シ二段目ノ硝子全部無クナル。

智慧ハ已ガ業ニヨリテ正シトセラル（マタイ伝一一ノ一九）

四月二十二日（火）晴

今朝例ノ如ク聖書ヲ読ム。マタイ伝一七ノ一四以下ニ突当リ信仰ノ解決ニ非常ナル感激ヲ受ク。信仰トハ何ゾ絶対懐疑ナリ。

若シ芥種一粒ホドノ信仰アラバコノ山ニ「此処ヨリ彼処ニ移レ」ト云フトモ移ラン、斯テ汝ラ能ハヌコト無ルベシ（マタイ伝一七ノ二〇）

二三子ヘ第六十三信ヲ今朝差出ス。

四月二十三日（水）曇後晴

午前2B両側布団干シニテ中庭針金ニ掛ケ午後散歩ノ帰リニ持参帰室、余ハ毛布ト掛布団ヲ持出ス、殆ンド日光当ラズ徒ラニ沙塵ヲ浴テ了ル。

若シ汝ラ信仰アリテ疑ハズバ、啻ニ此無花果ノ樹ニアリシ如キコトヲ為シ得ルノミナラズ、此山ニ「移リテ海ニ入レ」ト言フトモ亦成ルベシ。カ

ツ祈ノトキ何ニテモ信ジテ求メバ、悉ク得ベシ（マタイ伝　二一ノ二二、二二）

図書館廻リ来る『America's Stake in Britain's Future by George Soule』ヲ借ル、毎日午後読ムコトトセリ。

四月二十四日（木）晴

数日来、信仰実感迫ル、神ノ憐憫恩寵ノ深刻愈泌ム感激ニ不堪。

斯ク汝ラハ預言者ヲ殺シシ者ノ子タルヲ自ラ證ス。汝ラ己ガ先祖ノ桝目ヲ充セ（マタイ伝　二三ノ三一、三二）

四月二十五日（金）曇後晴

朝礼無キ為カ扉開ケニ来ラズ。

大嶋ヨリ四月十三日付ハガキ来ル。

視ヨ、我ハ世ノ終マデ常ニ汝ラト偕ニ在ルナリ（マタイ伝　二八ノ二〇）

四月二十六日（土）半晴　稍々寒シ

朝、例ノ如ク聖書ヲ読ミ、後五月号リーダース・ダイジェスト及読続ケノ"America's Stake in Britain's Future" by George Soule ヲ耽読色々示唆ヲ受ケタルコト多シ。

誰ニテモ神ノ御意ヲ行フモノハ、是我兄弟、我姉妹、我母ナリ（マルコ伝三ノ三五）

四月二十七日（日）晴　午後風稍強シ

朝聖書読了リタル後、ランニングトボロボロノ猿又、足袋、靴下ヲ洗濯スル、余リ破レ洗濯ニ出セヌ為ナリ、之ヲ終ヘ明後日日付ニテ二三子ヘノ第六十四信ヲ認ム。

ソノ衣ニダニ触ラバ救ハレン。

イエス直チニ能力ノ己ヨリ出デタルヲ自ラ知リ（マルコ伝　五ノ二八、三〇）

四月二十八日（月）終日雨　肌寒シ

九時頃隣室ノ横山君ト向側　級三人トニテ外廊下掃除ヲスル、可ナリノ労働ナリ、横山君帰室後腰痛ミテ横臥、余モ疲労シタリ。午後室ノ前両側廊下廻リノ散歩三十分。

石井寛二ヨリ十八日付ハガキ、前田いと子好意ニ依ル『聖書知識』一月号接手ス。

本日ノ新聞ニテ谷寿夫中将二十六日南京郊外ニテ銃殺ノ刑ニ処セラレタコトヲ知ル同情ニ堪エズ、同君ノ事巣鴨生活ノ一思出トナル。

四月二十九日（火）晴　風強シ

運動ナシ。

今朝二三子ヘノ第六十四信ヲ差出ス。

昨日ノ朝日新聞投書欄ニ石井寛二ノ五月三日新憲法発布当日子供ヘノキャンデー配給ヲ大人ノ酒配給ニ比シ悦ケルコトヲ見、尤ト思ハレタリ。

為シ得バト云フカ、信ズル者ニハ、凡テノ事ナシ得ラルルナリ（マルコ伝　九ノ二三）

四月三十日（水）曇後晴　稍寒シ

午前理髪スル、同ジク既決服役者ナルモ前回ニ比シ技工モ能ク鋏モ使用シ手際ヨシ。夕食ヨリアルミ汁受ケ器ヲアルミ盆ニ添ヘ用フルコトトナレリ、引肉野菜汁早速這入リ途中コボレル気遣ナク具合ヨシ。

二三子ヨリ久シ振ニテ音信来ル即チ四月十八日付第六十四信、千葉信子ヨリ十七日付封書及公一ヨリ二階座敷写生油画ハガキ来ル。二三子ノ手紙ニ孝一ノ音信オ慕詣ノ報告アリタリ（四月十四日付）。

五月一日（木）晴　風強シ

三時頃礼拝堂背後ノライアン牧師室ニ案内サレテ赴シ処、意外ニモ以寿子来訪、牧師ノ面前ニテ三十分余面談スル、〇子サン好意ニ依ル斡旋トノ事ナリ、公一ノ縁談其他ニテ久振ニテ積ル話ヲ交セリ。

五月二日（金）曇　寒シ　夜ニ入テ雨トナル

八時半恒例ノ礼拝ニ出席、ライアン牧師ニ昨日ノ礼ヲ述ブ。何故カ運動ナシ。

君ヨ我等終夜、労シタルニ何ヲモ得ザリキ、然レド御言ニ随ヒテ網ヲ下サン（ルカ伝　五ノ五）

五月三日（土）終日雨　風モ加ハル

廊下廻リモナク昨日来蟄居通シナリ。

新憲法施行記念式典モ降雨ニテ意気揚ラザリシ事ナラン、天意深シ。

汝等ノ信仰何処ニ在ルカ。
我ニ触リシ者アリ、能力ノ我ヨリ出デタルヲ知ル。娘ヨ、汝ノ信仰汝ヲ救ヘリ、安ラカニ往ケ（ルカ伝八ノ二五、四六、四八）

前田いと子ヨリ四月十二日、四月十九日キリスト新聞、四月十一日付女性新聞来ル。

五月四日（日）晴
運動三日目ニテ気分好シ。
昨日ノ区切リ何ノ沙汰ナク過ギ、釈放噂モ立消エ悲観説周流ス。
汝サマザマノ事ニヨリ、思ヒ煩ヒテ心労ス。サレド無クテナラヌモノハ多カラズ、唯一ツノミ、マリヤハ善キ方ヲ選ビタリ。此ハ彼ヨリ奪フベカラザルモノナリ（ルカ伝　一〇ノ四一、四二）

五月五日（月）快晴
朝室内検査アル旨触レ来リ整頓大ニ努メ居タル処之ナシトノ事、例ニ依リ示威ニ了ル。端午ノ節句ナリ、街頭ニ勇シキ鯉織リ蒼穹ニ躍リ居レリヤ否、猫モ杓子モ民主主義デハ厭ニナル、夜食ニメリケン団子ニ餡マブシ少々出ス、御祝ヒノ意？。
一時半頃二三子面会ニ来ル、元気ニテ何ヨリ嬉シ、家事親戚ノ近況ナド聞キ惜クモ別ル。来月ハ大低ニシテ此処金曜面会ハ御免ヲ蒙リ度キモノ也。

五月六日（火）快晴
去ル一日以寿子来訪ノ砌ノ話ヲ中心ニ公一婚約ヲ主トシテ以寿子ニ手紙ヲ差出ス。
午後ノ散歩ハ午前入浴気分其ノママ風ナキ為塵ヲ浴ビズ久シ振爽快ナリ。
人ノナカニ尊バルル者ハ、神ノ前ニ憎マルル者ナリ（ルカ伝　一六ノ一五）

五月七日（水）細雨霏々終日已マズ
午後一時半頃室内検査アリ、シャツヲ脱ギ、畳ヲ上ゲ、所持物物色厳重ナリ囚人何事言フベキ術ナシ。
二時過廊下廻リ例ノ如クコンクリート散歩案外疲労スル。
祝ヨ、神ノ國ハ汝ラノ中ニ在ルナリ（ルカ伝

（一七ノ二一）

五月八日（木）朝細雨後曇

本日ノ新聞ニテ実業家軍監部起訴説出テ散歩時間例ニ依リ流言蜚説出賑フ。

佐藤直行君ヨリ四月二十九日付封書来ル。

アブラハムノ神、イサクノ神、ヤコブノ神。夫レ神ノ前ニハ皆生ケルナリ（ルカ伝　二〇ノ三七、三八）

五月九日（金）晴

八時半、礼拝説教ニ出席、壇上ノ花立ニカーネーション、白百合供ヘアリ、凝祝午ラ大ニ慰メラル。

午後散歩直前使役アリ、正力君ト共ニ廊下中央鉄格子及両側コンクリート雑巾掛ヲ努ム、汗出テ流ル。

周一ヨリ四月二十九日付手紙。前田いと子サンヨリキリスト新聞四月二十六日号、日本婦人新聞四月三十日号、女性新聞五月一日号接手ス。

五月十日（土）晴

九時恒例ノ土曜ノ服装及室内検閲アル旨ノ前触レアリ、八時頃ヨリ十一時頃迄待チ漸ク終ル。結局午前空費、呆然タリ、動物ノ故已ムナシ。

人ハ天ヨリ与ヘラレズバ、何ヲモ受クルコト能ハズ。

其證ヲ受クル者ハ印シテ神ヲ真ナリトス（ヨハネ伝　三ノ二七、三三）

五月十一日（日）曇　午後ヨリ細雨霏々

午後ノ散歩廊下メグリ三十分程ニテ味気ナキ事此上ナシ。

活スモノハ霊ナリ、肉ハ益スル所ナシ、ワガ汝ラニ語リシ言ハ、霊ナリ生命ナリ（ヨハネ伝　六ノ六三）

五月十二日（月）微雨　夕方ヨリ晴トナル

一号室ヨリ五号室マデ室内壁擦リ終日カカリ尚了リニ至ラズ明日ニ繰越ス。

我々九号室ハ明日カ明後日ナラン。相当峻厳振リナルヲ思ハシム、其為メカ廊下散歩取休ム。

水高ヨリノ大嶋保男四月二十七日付封書、石井寛二

ヨリノ四月二十六日付、茨城県那珂郡菅谷町菅谷四、二九二柏村方大石成子ヨリ四月二十九日付（新之助筆）各ハガキ来ル。

五月十三日（火）快晴

壁擦リ逼リ塵埃濛々トシテ室ニ浸入リ来リ不快甚シ。

二三子ヘ第六十五信差出ス。

二三子ヨリ去月二十八日付第六十六信来ル。

凡ソ生キテ我ヲ信ズル者ハ永遠ニ死ナザルベシ。汝之ヲ信ズルカ（ヨハネ伝　一一ノ二六）

右今夜ノ祈祷ニテ深ク打タレタリ。

五月十四日（水）晴後曇

朝八時ヨリ壁擦リ作業ヲ行フ、同室正力、大倉、田村三君ト大童トナリ大ニ努ム、天井ハ老人組ノ手ニ負ヘズC級ヨリ大西大佐・吉井中佐応援ニ来リ二時頃迄カカリ了ル。入所以来第一ノ重労働ニテ五臓マデ壁埃ヲ吸ヒ金網ブラッシユニテ手ニ数ケ所ノ疵ヲ負ヒ奴隷モ及バヌ悲惨事ナリ、散歩ハ勿論取止メトナル。

前田いと子サン好意ニ依ル「聖書知識」二月号、三月号来ル。

五月十五日（木）半晴

本日モ手ノ疵痛ム向側ノ室モ壁擦リ始メ塵埃室内ニ飛込ミ灰神楽ヲ被リタル如シ。

二時半頃散歩ニテ触出シ帰室セシメ明日アイケルバーカー検閲ニ来ルトノ事ニテ予行演習ニ囚人服着用廊下自室前ニ整列、室内整頓セシム。宛然玩具扱ヒニ呆然タリ。

五月十六日（金）晴

八時半礼拝堂ニ赴キ米従軍ライアン牧師ノ説教ヲ聞ク。

昨日来大騒ギシテ準備シ続ケタル室内掃除、服装整頓モ、アバ軍司令官来ラズ検閲ナク他愛ナシ。

五月十七日（土）晴　時々曇

朝土曜日恒例ノ室内及服装点検アル旨通達セラレ大童ノ準備セルモ例ノ如ク音沙汰ナク流レ去ル。

昨夜寝苦シク風邪ヒキ終日咽喉痛ミ気分勝レズ。

ナンヂ我ヲ見シニヨリテ信ジタリ、見ズシテ信ズル者ハ幸福ナリ（ヨハネ伝　二〇ノ二九）

五月十八日（日）微雨　午後曇

運動、廊下散歩モナシ。

三月十九日荷物預所ニ保管シアルモノニ対シテ、自宅ニ返却スベキ旨申渡シタルニ、未ダ届カヌ趣ニ付本日ステック大尉ニ手紙ヲ出シ取調方ヲ要求シタリ。

風邪尚去ラズ依然気分悪シ。

午後太田正孝君ヨリ借リタル東久邇宮著『私ノ記録』三月新刊ヲ読ム、御自分境遇ト臣下個人批評セラレ記サレ居ルコト甚ダ遺憾ト思ハレタリ。

五月十九日（月）晴

朝ヨリ廊下向側壁擦リ作業始マリ、塵埃飛込ミ来リ、咽喉痛ミセキ已マズ閉口ノ極ナリ。

以寿子ヨリ本月九日付、前田いと子ヨリ八日消印アル各封書来ル。

五月二十日（火）快晴

二三子ヘノ第六十六信ヲ差出ス。

寝巻、タオルヲ洗濯ニ出ス。

昨夜セキ頻出時々眠ヲ妨ゲラル。午後快晴散歩ニ適シ気分回復幾分元気トナル。今夜ノ模様ヲ見タル上明日診察ヲ受クルコトトセン。

五月二十一日（水）晴時々曇

咽喉ノ痛ミ及セキ已マズ午前医師ノ診断ヲ受ケ咽喉ニ薬ヲ塗ケテ貰フ。

「ワレ憐マントスル者ヲアハレミ慈悲ヲ施サントスル者ニ慈悲ヲ施スベシ」ト。然レバ欲スル者ニモ由ラズ、走ル者ニモ由ラズ、唯憐ミタマフ神ニ由ルナリ（ロマ書　九ノ一五、一六）

五月二十二日（木）曇　午後驟雨　夕霽

本日モ診断ヲ受ケ咽喉及鼻ニ薬ノ手当シテ貰ヒ、ウガイ薬ヲモ請求シタリ、幾分快クナル午後散歩雨ノ為メカ取止メ。

二三子ヨリ本月三日付封書六十七信及石井寛二ヨリ

五日付、大石修子ヨリ八日付各ハガキ、公一ヨリ三月号リーダース・ダイジェスト来ル。

五月二十三日（金）晴

八時半ライアン従軍牧師ノ説教ヲ聞ク、九時頃帰室直ニ入浴。

午後散歩数日来風邪治リ元気トナル。

二三子ヨリ本月十一日付第六十八信来ル。

洗濯物出来、清潔ノ寝巻ヲ着、風邪モ治リ気持ヨク横臥、直ニ夢中ニ入ルヲ得シ。

五月二十四日（土）晴

八時半頃恒例土曜ノ服装及室内検閲ノ触レ来ル、十時頃終了、世話人高橋三吉君ヨリ一同集合ノ砌スチック大尉二ケ月余ノ休暇ヲ取リ帰米、後任メリー大尉（？）トノ報告アリタリ。

汝等互ニ愛ヲ負フノ外何ヲモ人ニ負フナ（ロマ書　一三ノ八）

今ハ眠ヨリ覚ムベキ時ナリ（同　一三ノ一一）

五月二十五日（日）曇後微雨

散歩ナク天気ノ故カ気分重ク読書モ捗ラズ。

世ハ己ノ智慧ヲモテ神ヲ知ラズ（コリント前書一ノ二一）

五月二十六日（月）微雨

午後廊下廻リ三十分程。

午前聖書コリント前書十五章ヲ読ミ感動久クシタリ。

二三子ヘ明日差出スベキ六十七信ヲ認ム。

我ガ今ノ如クナルハ神ノ恩恵ニ由ルナリ（コリント前書一五ノ一〇）

五月二十七日（火）朝微雨　間モナク晴

今朝昨日認メ置キタル二三子ヘノ第六十七信ヲ集合当番ニ手交ス。

何故カ運動ナシ本日デ三日ニ亘リ蟄居、寸刻モ屋外ニ出タルコトナク気分重シ。

肌シャツ及タオル洗濯ニ出ス。前田いと子ヨリ五月三日及十日付ノ各キリスト新聞、女性新聞五月十一日号来ル。

我等モシ心狂ヘルナラバ、神ノ為ナリ、心慥ナラバ、汝ラノ為ナリ。キリストノ愛ワレラニ迫レリ（コリント後書　五ノ一三、一四）

五月二十八日（水）晴

九時頃米兵入室シ来リ従来布団三枚ナリシ処一枚引上ゲ結局敷フトン一、掛フトン一トナル。煎餅フトン一枚ニテハ今夜ヨリ背骨痛ムナラント贅沢気ニ悩マサル。午後布団干シニテ大混乱、宛然犬小屋宣敷シキ風景ニテ浅間シキ限リナリ。巡回図書車廻リ来リ"Freedom and Responsibility in the American Way of Life": by Carl L. Becker ヲ読ミ始ム、カーネル大学副總長 Geonye H. Sabine ノ序文大ニ興味ヲ惹カル。大嶋保男ヨリ十三日付封書西茨城郡宍戸町字鴻巣春名純子方ニ移ル、前田いと子ヨリ十七日ノキリスト新聞、日本経済新聞来ル。

五月二十九日（木）晴

快晴ナレドモ運動ナシ。

午後正力君ト廊下両側各室ノ真鍮磨キ使役セシメラル。

今我肉体ニ在リテ生クルハ我ヲ愛シテ我ガ為ニ己ガ身ヲ捨テ給ヒシ神ノ子ヲ信ズルニ由リテ生クルナリ（ガラテヤ書　二ノ二〇）

五月三十日（金）快晴

八時半頃例ニ依リ礼拝堂ニ赴キライアン牧師ノ説教ヲ聞ク、壇上ノ生花ダリヤ外数種ニ気ヲ奪ハル。帰室間モナク入浴、気持ヨシ。洗濯ノシャツ、タオル出来入手ス。

汝ラノ衷ニキリストノ形成ルマデハ、我再ビ産ノ苦痛ヲナス（ガラテヤ書　四ノ一九）

五月三十一日（土）晴

天気好キモ運動セシメズ。

午前恒例土曜ノ検閲アル旨通達シ来リ室内総出ニテ大童ノ整理ヲ了シ居レルモマタマタ其ママ流ル。

二三子ヨリ十八日付第六十九信来ル。

神ノ大能ノ勢威ノ活動ニヨリテ信ズル我ラニ対スル能力ノ極メテ大ナルトヲ知ラシメ給ハンコ

トヲ願フ（エベソ書　一ノ一九）

六月一日（日）曇後晴

別ニ記スルコトナシ、一両日信仰後退ノ思アリ一身ヲ賭シテ祈祷スル。

我ヲ強クシ給フ者ニヨリテ、凡テノ事ヲナシ得ルナリ（ピリピ書　四ノ一三）

六月二日（月）曇　夜ニ入リテ雨

昨日片山新内閣成リタル旨新聞ニテ知ル。其新聞会談記事、閣僚顔振レヲ見ルニバルカン以下ナリ敗戦國ノ面目覆フベクモナシ、情ケナキコト此上ナシ。

ソレ神ノ満足レル徳ハ悉ク形体ヲナシテキリストニ宿レリ。汝ラハ彼ニ在リテ満足レルナリ。彼ハ凡テノ政治ト権威トノ首ナリ（コロサイ書　二ノ九、一〇）

六月三日（火）曇

肌寒ク作物ヲ憂フ　散歩ナシ。

小金井ニ返事ヲ認メ差出ス、二三子ヨリ最近消息ナシト手紙来リシ砌ナレドモ明日面会日ナレバ以寿子ヘ送ル。

サレバ他ノ人ノ如ク眠ルベカラズ、目ヲ覚シテ慎ムベシ（テサロニケ前書　五ノ六）

六月四日（水）快晴

朝食前米兵各室ヲ触レ廻リ午後検閲アリ室内外ヨク整頓シ待ツベシトノ事、一時半頃ヨリ例ノ囚人服ニ着換ヘ自室前ノ廊下ニ整列ス。時ニ看守兵大声ニテ入口廊下ヨリ余ヲ呼ブ、共ニ面会所ニ至ル。二三子来リ囚人服ノママ例ノ網窓越ニテ話ヲ交ス。家事近況中マタマタ居室立退ノ話出ヅトアリ、余ノ帰家マデ頼込ム様意見ヲ述ブ、帰室スルヤ恰モ検閲済ノ直後ナリ、数名ノ米将校整列ノ前ヲ通リ敗戦感満喫シタリト話シ居ル処ナリ、左モアリシナラント共鳴シタリ。

周一ヨリ十七日付ハガキ来ル。

六月五日（木）曇時々小雨

本日モ散歩ナシ、三日間モ外気ニ触レズ鬱陶敷キコト限リナシ。午後理髪スル、三階C級青年ノバリカ

ン扱ガ遠カ仕込ミトテ手元危フシ、仍テ前々月ノ如ク円坊主トナルコレモ獄舎生活ノ笑草ナリ。

然レド足ルコトヲ知リテ敬虔ヲ守ル者ハ、大ナル利益ヲ得ルナリ（テモテ前書　六ノ六）

六月六日（金）曇　肌寒シ

恒例ノ礼拝ナシ、運動モナシ。

九時半頃入浴、帰室後足ノ爪ヲ壁ニテ磨ギテ掛リタルモ思フ様行カズ苦心惨憺シテ幾分短カクスル、近頃爪切リ貸サヌ為鷹ノ如クナル。

サレド神ノ据エ給ヘル堅キ基ハ立テリ、之ニ印アリ、記シテ曰ク「主オノレノ者ヲ知リ給フ」（テモテ後書　二ノ一九）

六月七日（土）曇

恒例ノ土曜ノ査閲アル前触アリタルモ遂ニ行ハレズ、逆ニ運動時間ニ肩替トナリ珍ラシクモ午前五日振ニテ外気ニ当ル。

二三子ヨリ五月二十五日付第七十信、大嶋いと子ヨリ五月十五日付各封書、聖書知識四月号来ル。

常ニ学ベドモ真理ヲ知ル知識ニ至ルコト能ハズ。然レド汝ハ学ビテ確信シタル所ニ常ニ居レ（テモテ後書　三ノ七、一四）

六月八日（日）午前曇　午後快晴

午後ノ運動久シ振リノ快晴ニテ気分明朗タリ、午前気向キタルニ依リ明後十日差出スベキ二三子ヘノ第六十八信ヲ認ム。

キリストハ我等ノ為メニ己ヲ与ヘ給ヘリ（テトス書　二ノ一四）

六月九日（月）朝曇　後晴

九時半頃2B東側ニアルA級全部ヲ礼拝堂ニ集メ履歴其他二十二項目ニ亘ル書入レ事項ヲ示シ明後十一日午後マデ出来ノ約ニテ十一時頃帰室、直チニ草稿ニ着手夕方ニ至ル。本日午後ノ運動ナシ。

神ノ言ハ生命アリ、能力アリ、両刃ノ剣ヨリモ利クシテ、精神ト霊魂、関節ト骨髄ヲ透シテ之ヲ割チ、心ノ念ト志望トヲ験スナリ（ヘブル書　四ノ一二）

六月十日（火）曇時々晴

二三子ヘノ第六十八信ヲ今朝当番ニ手交ス。

二三子ヨリ去月三十一日付第七十一信来ル。

スーツケース三十日受取リタル旨認メアリタリ。

今朝六時頃二号室伍堂卓雄老嘔吐発熱、午後遂ニ入院スルニ至レリ、風邪トノ説アルモ不明、老体同情ニ不堪。

我ニ属ケル義人ハ、信仰ニヨリテ活クベシ。モシ退カバ、ワガ心コレヲ喜バジ（ヘブル書　一〇ノ三八）

ワガ子ヨ、主ノ懲戒ヲ軽ンズル勿レ、主ニ戒メラルル時、倦ムナカレ。ソハ主、ソノ愛スル者ヲ懲シメ、凡テ其受ケ給フ子ヲ鞭チ給ヘバナリ（ヘブル書　一二ノ五、六）

六月十一日（水）終日細雨　梅雨期ナリ

午後一時頃一昨日話アリタル書類持参ノ上A級組礼拝堂ニ参集ノ上、係将校ニ提出シタル処二三週間後英文ニ飜訳ノ上署名セシムル旨申渡シタリ、釈放ト思込ミシ処トテ皆呆然タリ、余五枚程認メタリ。

散歩ナシ、気候ノ加減カ頭重ク読書進マズ、陰鬱ナリ。

汝ラノ信仰ノ験ハ、忍耐ヲ生ズルヲ知レバナリ。忍耐ヲシテ全キ活動ヲナサシメヨ（ヤコブ書　一ノ三、四）

六月十二日（木）朝微雨後曇

午前田村君ト廊下中央鉄格子雑巾掛ケノ使役ヲ課セラレ果ス。

午後三日振ニテ外気ニ触レ散歩ノ快ニ浴シ気分晴ニスル。

汝モシ患難ノ日ニ気ヲ挫カバ汝ノ力ハ弱シ（箴言二四ノ一〇）

六月十三日（金）曇時々微雨　夕晴レ

八時半礼拝堂ニ赴キライアン牧師ノ説教ヲ聞ク。

午後珍ラシクモ麦飯出デ甘シ、夕食申訳ノ豆入レ飯ナリシモ好物トテ之モ美味珍重勿体ナシ。

散歩午後廊下廻リ二三十分程ナリ。

汝ラヲ試ミントテ来レル火ノ如キ試煉ヲ異ナル事トシテ怪シマズ、反ツテキリストノ苦難ニ与レバ、与ルホド喜べ（ペテロ前書　四ノ一二、一三）

六月十四日（土）曇　夕方微雨

恒例ノ土曜検閲ナシ、夕食ニ少量汁粉出デ久振リデ賞味スル。

昨夜不祥ノ夢ヲ見、命ヲ賭ケテ祈ルコト久シク午前祈祷ト聖書ニ耽ルコト格別ナリ。

主ノ御前ニハ一日ハ千年ノ如ク、千年ハ一日ノ如シ（ペテロ後書　三ノ八）

人ノ寿命千年ニ倍スルトモ福祉ヲ蒙レルニハアラズ皆一所ニ往クニアラズヤ（伝道之書　六ノ六）

己ノ心ヲ制ヘザル人ハ石垣ナキ壊レタル城ノ如シ（箴言　二五ノ二八）

六月十五日（日）終日雨

幽鬱甚ダシ、読書モ倦ミ昼飯後珍ラシクモ三十分程昼寝スル。

明後日付二三子ヘノ第六十九信感想文ヲ認ム。運動ナシ。

凡ソ神ヨリ生ルル者ハ世ニ勝ツ、世ニ勝ツ勝利ハ我等ノ信仰ナリ（ヨハネ第一書　五ノ四）

我ニハ我ガ子供ノ、真理ニ循ヒテ歩ムコトヲ聞クヨリ大ナル喜悦ハナシ（ヨハネ第三ノ書ノ四）

六月十六日（月）曇　夕方ヨリ細雨

本日モ亦運動ナシ。

前田いと子サンヨリキリスト新聞五月二十四日号及女性新聞六月一日号来ル。

メリヤスシャツ上下及タオル洗濯ニ出ス。靴下ハ自ラ洗濯スル。

ワレ汝ノ行為ヲ知ル、汝ハ生クル名アレド死ニタル者ナリ。ナンヂ目ヲ覚シ、殆ンド死ナントスル残ノモノヲ堅ウセヨ（ヨハネ黙示録三ノ一、二）

六月十七日（火）曇時々微光

一昨日認メ置キシ二三子ヘノ第六十九信ヲ今朝手紙集合当番ニ手交ス。
午後ノ散歩微光乍ラ久シ振ニテ陽射シニ浴シ気持好シ。
午後触レアリ㈠米不足ノ為明日ヨリ十日間程米ナシ、代用食ニスベシ、㈡書籍ヲ図書回覧ニ寄付スベシ、然ラザレバ、聖書、辞典ヲ除キ全部自宅ニ返却スベシトノ事ナリ。六冊制限サヘ苦痛ナリシ処此措置アリ愈囚人生活ニ徹スル訳ナリ、何ヲカ云ハン。書籍米食ノ制限ハ尚可ナリ、シカモ社会ノ窮乏ハ如何程ナラント心暗クナル。

六月十八日（水）午前快晴　午後曇
朝食例ニ依リパンノ外スープ、コーヒー、クリーム。
昼食メリケン団子、魚ノクリーム、甘味ナシ紅茶。
夜白エンドウ豆入飯、引肉蕪子煮、魚入味噌汁。
昨日ノ代用食前触ニ反シ返テ馳走出ヅ。何レモ少量ナルハ是非ナシ。
祝ヨ、ワレ一切ノモノヲ新ニスルナリ。
サレド臆スルモノ、信ゼヌモノ……火ト硫黄トノ燃ユル池ニテ其ノ報ヲ受クベシ（ヨハネ黙示録　二一ノ五、八）

六月十九日（木）午前曇　午後晴
午後ノ運動久シ振ニテ陽光ヲ浴ビ汗バミ気持好シ。
巡回図書ヲ回収シ去リ、所持六冊厳守ノ趣通達シ来ル、仍テ雑誌類其他悉ク差出シタリ。
己ガ審ク審判ニテ己モサバカレ、己ガ量ル量ニテ己モ量ラルベシ（マタイ伝　七ノ二）
我ニ従ヘ、死ニタル者ニ其死ニタル者ヲ葬ラセヨ（マタイ伝　八ノ二二）

六月二十日（金）半晴
朝礼拝堂ニ赴キ、ライアン牧師ノ世界平和思想ニ就テノ説教ヲ聞ク。
書籍回収ノ小車廻リ来ル、余ハ全部自宅返却ノ考ニテ応ゼズ。
風呂場ニテ爪切ヲ借リ足ノ爪ヲ切ル、鷹ヨロシクノ体ナリシ処トテ晴々シタリ。

洗濯物出来返却サル。

人ノ語ル凡テノ虚シキ言ハ審判ノ日ニ糺サルベシ（マタイ伝　一二ノ三六）

六月二十一日（土）曇　温度昇ル　夕雨　後霽

土曜恒例ノ検閲ナシ。

午後散歩汗バム。半裸姿多クナル。

気圧ノ関係カ頭重ク読書モ捗行カズ時々横臥懶怠ニ流ル。

人、全世界ヲ贏クトモ己ガ生命ヲ損セバ、何ノ益アラン（マタイ伝　一六ノ二六）

若シ芥種一粒ホドノ信仰アラバ、コノ山ニ「此処ヨリ彼処ニ移レ」ト言フトモ移ラン、斯テ汝ラ能ハヌコト無ルベシ（マタイ伝　一七ノ二〇）

六月二十二日（土）午前曇　午後晴

数日来ノ鬱々タル気分去リ午前ノ祈祷、聖書、力ヲ得テ爽快ヲ覚エタリ。

内外情勢ニ就キ具体的ニ示唆ヲ受クルコト多シ。

「サラバ誰カ救ハルルコトヲ得ン」。イエス彼ラニ目ヲ注メテ言ヒ給フ「コレハ人ニ能ハネド神ハ凡テノ事ヲナシ得ルナリ」（マタイ伝　一九ノ二五、二六）

六月二十三日（月）曇　時々晴間陽光射ス

以寿子ヨリ去月二十六日付、千葉ノ信子ヨリ去月二十四日付各封書、石井寛二ヨリ去月十九日付ハガキ、前田いと子ヨリ去月二十四日及三十一日付キリスト新聞ヲ各落手ス。

伍堂卓雄老午後退院、元ノ二号室ニ帰リタルヲ夕食時対面シ一言挨拶ヲ交シタリ。

六月二十四日（火）晴　稍風強シ

二三子ヘノ第七十信ヲ今朝当番ニ手交ス、信子ヘノ礼、心得方ノ仁言ヲモ添言ス。

ランニング、ワカメ猿又、薄シャツ、足袋ナド洗濯ス、石鹸大ニ消磨シタリ。

数日来代用食ニ米産ラシキ白インゲン多ク腹ノ調子悪ク本日五回便所ニ赴ク。

ワガ兄弟ナル此等ノイト小キ者ノ一人ニナシ

タルハ、即チ我ニ為シタルナリ（マタイ伝　二五ノ四〇）

六月二十五日（水）快晴

午後散歩漸ク暑ク汗大ニ出ヅ、シャツ一枚トナルモ冬ズボン丈ケ如何トモ致シ方ナク閉口、夜ニ入リ上下シャツ一枚宛トナル。同室田村君横浜裁判ニ証人トシテ趣キシ処夏服ズボン二四、上衣二二、各P大字記シアルモノヲ支給シタリ、我々ニモ此形ヲ近ク仕着セスルラシ、愈本物囚人扱ヒトナラントス。

何故カク臆スルカ、信仰ナキハ何ゾ（マルコ伝四ノ四〇）

懼ルナ、唯信ゼヨ（同　五ノ三六）

六月二十六日（木）晴

前田いと子ヨリ本月十一日付消印アルハガキ来ル。二三子ヨリハ去ル十日ニ去月三十一日付第七十一信来リタルママ本月ニ入リ認メタル分一度モ来ラズ検閲手間取ノ為カト思ハルルモ心淋シ。

為シ得バト云フカ、信ズル者ニハ、凡テノ事ナシ得ラルルナリ。……ワレ信ズ、信仰ナキ我ヲ助ケ給ヘ……コノ類ハ祈ニ由ラザレバ、如何ニストモ出デザルナリ（マルコ伝　九ノ二三、二四、二九）

六月二十七日（金）晴

朝ライアン牧師ノ説教ヲ聞ク。下駄愈煎餅ノ如ク磨リ割レル許リトナリ巳ムナク底破レ腹裂ケタル靴ヲハキトボトボ散歩ニ出ヅ吾乍ラ姿ノ貧相ニ呆レル。

ワガ汝ラニ何ヲ為サンコトヲ望ムカ……ナンヂラハ求ムル所ヲ知ラズ。

ワガ汝ニ何ヲ為サンコトヲ望ムカ……ワガ師ヨ、見エンコトナリ（マルコ伝　一〇ノ三六、三八、五一）

六月二十八日（土）終日細雨已マズ

土曜慣行ノ査閲本日モナシ。

廊下運動モナシ。気幽鬱ニテ昼及夕食後三十分程横臥。

心シテ日ヲ覚シヲレ……コノ故ニ目ヲ覚シヲレ

……目ヲ覚シヲレ（マルコ伝　一三ノ三三、三五、三七）

其後十一弟子ノ食シヲル時ニ、イエス現レテ、己ガ甦ヘリタルヲ見シ者ドモノ言ヲ信ゼザリシニヨリ、其ノ信仰ナキト、其ノ心ノ頑固ナルトヲ責メ給フ（マルコ伝　一六ノ一四）

六月二十九日（日）霧雨終日

本日モ散歩ナシ。

昼食後同室ノ田村君ト廊下中央鉄格子雑巾掛使役ヲセシメラル。

読書捗ドラズ午後『史記列伝』少許ノミ、ブラブラ暮シ恥シキ限ナリ。

……エリヤハ其ノ一人ニスラ遺サレズ、唯シドンナル、サレプタノ一人ノ寡婦ニノミ遣サレタリ。マタ預言者エリシヤノ時、イスラエルノ中ニ多クノ癩病人アリシガ、其ノ一人ダニ潔メラレズ、唯シリヤノナアマンノミ潔メラレタリ（ルカ伝　四ノ二六、二七）

六月三十日（月）曇

散歩ナシ。

大嶋いと子ヨリ十七日消印アルハガキ、石井寛二ヨリ十三日付ハガキ来ル。二三子ヨリ本月ニ入リ認メタル手紙竟ニ来ラズ、不思議ニ堪ヘズ、検閲ノ為カ病気ノ為カ。

本年上半期ヲ了ヘタリ。顧ミレバ諸事如夢亦如流水斯クテ幾時ヲ待タン哉。

……コノ女ノ多クノ罪ハ赦サレタリ。ソノ愛スルコト大ナレバナリ。赦サルルコトノ少キ者ハ、ソノ愛スルコトモマタ少シ（ルカ伝　七ノ四七）

七月一日（火）終日微雨

二三子ヘノ第七十一信ヲ差出ス、二三子ヨリ竟ニ六月ニ入リ認メタル手紙一度モ来ラズシテ了ヘタリ。

廊下散歩モナキコト茲ニ四日間トナリ、依然気分重ク読書少々。

マルタヨ、汝サマザマノ事ニヨリ、思ヒ煩ヒテ

心労ス。サレド無クテナラヌモノハ多カラズ、唯一ツノミ、マリヤハ善キ方ヲ選ビタリ。此ハ彼ヨリ奪フベカラザルモノナリ（ルカ伝　一〇ノ四一、四二）

七月二日（水）曇　午後快晴

午後久シ振ノ快晴トナリ散歩ニ恵マレ愉快ナリ、一同元気ニ話シ乍ラ一時ヲ過ス、五日振ニテ外気ニ触レタル訳ナリ。

千葉、信子ヨリ去月十六日付ハガキ来ル、水口家族二日ニ来リ十三日ニ帰家、姉モ十日間ノ予定ニテ同行セル趣認メアリタリ。

ナンヂラ腰ニ帯シ、燈火ヲトモシテ居レ（ルカ伝　一二ノ三五）

七月三日（木）快晴

午前理髪スル。三階C級未既青年ナルモ今迄ニ比シ格別ノ熟練ヲ積ミタルモノト思ハレタリ、例ノ如ク感謝シテ了ル。

午後二時半頃散歩ノ途中ニテMP、迎ニ来リ面会場所ニ赴キ二三子ト会談ス、去月付通信ナキ折柄元気ノ姿ニ接シ大ニ安堵ス、家事人事ノ近況ヲ聞キ別レル、ミシン復習ニ通ヒ居レル由、経済苦境同情ニ不堪、希望ト激励ヲ与ヘテ帰ラシム。

夜ノ点検竟ニ来ラズ、九時半頃寝ル。

七月四日（金）午前曇　午後晴

朝恒例ノ礼拝ニ出席。

独立祭観兵式ノ為カ快晴ナルモ午後ノ運動ナク室内体操ヲ行ヒ之ニ代フ。

三食共代用食ナルモ昼食ニ南瓜極少ナルモ初物出ヅ、胡瓜ノ香物マタ嬉シ。

往キテカノ狐ニ言ヘ。祝ヨ、ワレ今日明日、悪鬼ヲ逐ヒ出シ、病ヲ医シ、而シテ三日メニ全ウセラレン。サレド今日モ明日モ次ノ日モ我ハ進ミ往クベシ（ルカ伝　一三ノ三二、三三）

七月五日（土）晴　急ニ暑気加ハル。

土曜査閲ナシ今後取止メトナリタルナラン。一時半頃運動ニ出ヅルヤ同室ノ田村君庭内ニテ癲癇発作ヲ

起シ大騒ギトナリ帰室セシム、此為メ同室ノ大倉邦彦十二号室移居セシメラレ、交替ニ同十二号室ノ海軍々医加納君入室、田村君ノ看護ヲ兼ネシムルコトトナレリ、田村君ノ発作ハ四月十七日以来再度ナリ。

アラブハムノ神、イサクノ神、ヤコブノ神（ルカ伝　二〇ノ三七）

七月六日（日）午前曇　午後晴

午後散歩暑クランニングトナル、帰室裸身流汗ヲ拭フ。

ナンゾ死ニシ者ドモノ中ニ生ケル者ヲ尋ヌルカ、彼ハ此処ニ在サズ、甦ヘリ給ヘリ（ルカ伝　二四ノ五、六）

七月七日（月）快晴　頗ル暑シ

午前、明日ニ三子ヘ差出スベキ第七十二信ヲ認ム。

如何ナル訳カ快晴ナルモ運動セシメズ、例ニ依リ室内運動ヲ為シ気晴トスル。

夕珍ラシクモ蝸ノ鳴声ヲ聞ク、瞬時物思ヒニ耽ル。

人ハ天ヨリ与ヘラレズバ、何ヲモ受クルコト能ハズ。我ハキリストニ非ズ（ヨハネ伝　三ノ二七・二八）

……即チ其名ヲ信ゼシ者ニハ、神ノ子トナル権ヲ与ヘ給ヘリ。斯ル人ハ血脈ニヨラズ、肉ノ欲ニヨラズ、人ノ欲ニヨラズ、唯神ニ依リテ生レシナリ（ヨハネ伝　一ノ一二、一三）

七月八日（火）晴　本日モ亦暑シ

今朝三三子ヘノ第七十二信ヲ差出ス。同僚悉ク冬支度ニテ夏支給物尚渡ラズ蒸風呂生活ニテ閉口ノ至リタリ。

最近手紙殆ンド停頓、奇怪千万ナリ。

ワレ真ヲ告グルニ、我ヲ信ゼヌハ何故ゾ。神ヨリ出ヅル者ハ神ノ言ヲキク、汝ラノ聴カヌハ神ヨリ出デヌニ因ル（ヨハネ伝　八ノ四六、四七）

七日九日（水）半晴　強風

朝帰米中ノステック大尉現ハル、検閲監督マタマタ厳重トナランナド噂取リ取リナリ。昼及夜食近頃珍ラシクモ純白米ノ飯出ヅ、世間ニ勿体ナキモ矢張リ

米ノ飯ハ甘イモノナリト沁々思ヒタリ。
午後ノ散歩沙塵ヲ浴ビ室内モ灰色トナル程ニ汚レル。
我々2B廊下用トシテ風呂場隣ニ図書棚ヲ設ケラル、早速出掛ケ古本乍ラ"One World" by Wendell L. Willkie ヲ借リ読ム。

七月十日（水）快晴
散歩ナシ。
満一ヶ月振リニテ二三子ノ手紙来ル、即去月十五日付第七十二信及去月二十九日付第七十四信（第七十三信未着）並ニ大嶋いと子ヨリノ去月二十九日付封書落手ス。
主ヨ然リ、我ナンヂハ世ニ来ルベキキリスト、神ノ子ナリト信ズ（ヨハネ伝　一一ノ二七）

七月十一日（金）快晴
恒例ノ礼拝ナシ。
午前ノ入浴午後トナリ、午後ノ散歩中止トナル。
前田いと子サンヨリ去月二十八日付消印、岡安末吉氏ヨリ去月二十五日付封書来ル。
汝ラ我ヲ離ルレバ、何事ヲモ為シ能ハズ。
汝ラ我ヲ選ビシニ非ズ、我ナンヂラヲ選べリ（ヨハネ伝　一五ノ五、一六）

七月十二日（土）朝微雨　後曇
朝室内検査アル旨看守ノ前触レアリ、整頓シ居タルモ遂ニ其事ナシ。
朝食事ニシャツ着用不可ト看守怒鳴リ上着着用出直ス騒ギ一同其ノ非常識ニ呆レル、冬仕事ニテ如何仕様モナシ。
ナンヂ我ヲ見シニヨリテ信ジタリ、見ズシテ信ズル者ハ幸福ナリ（ヨハネ伝　二〇ノ二九）

七月十三日（日）曇
珍ラシクモ散歩十時頃ニ始マル、但三十分位ニテ了ル。
午後明後十五日付二三子ヘノ第七十三信ヲ五枚認メ置ク。
然レバイスラエルノ全家ハ確ト知ルベキナリ。

汝ラガ十字架ニ釘ケシ此イエスヲ、神ハ立テテ主トナシ、キリストトナシ給ヘリ（使徒行伝二ノ三六）

七日十四日（月）晴

午後室内ヲ片附ケ布団其他廊下ニ出シ畳ヲ上ゲDDT油製ヲ大量ニ噴出、駆虫作業ヲ行フ。

神ニ聴クヨリモ汝ラニ聴クハ、神ノ御前ニ正シキカ、汝ラ之ヲ審ケ。我ラハ見シコト聴キシコトヲ語ラザルヲ得ズ（使徒行伝　四ノ一九、二〇）

七月十五日（火）快晴

第七十三信差出ス。

朝食恒例ノパンニ茄子汁添ヒアリ、茄子小片二ツ浮ビ居ル、初物トテ嬉シ。

午後一時半ト覚シキ時青天霹靂ノ命アリ、私物一切ヲ貸与ノ合切袋ニ入レ、布団類ヲ外廊下ニ運ベトノ事也。何ノ事ヤラ薩張リ解セズ、件ノ如ク成シ了レバ2B全員外廊下ニ整列セシメラレ、全裸素足トナラシメ佇シメラルルコト小一時余、漸ク移動セシム。至レバ階下即チ2Aノ九号ニテ人員モ元ノママニテ正力、田村、加納、四人一室ナリ。室ハ徹臭ク掃除モ録ニ出来居ラズ、雑巾モナク閉口至極ナリ、勇ヲ鼓シテ整頓、呆然タリ。夜食後一冊ノ書籍モナク、靴モナク、給与ノ徹生ヒタル鞄ノ如キ古靴、P大字ヲスタンプシタル上下二着ノ古服、ランニング二、猿又三、掛ケフトン一、毛布一製給セラレタルノミ、即チ読書モ叶ハズ、少時祈祷ノ後ランニング一枚ヲ着用、薄毛布ヲ被リ寝ニ就ク、宛然既決囚ノ取扱ヒニテ辱シメヲ受クルコト遺憾ナリ。

二三子ヨリ第七十三信（遅着）以寿子ヨリ去月二十六日（?）保男ヨリ（十六日?）各封書、前田いと子ヨリキリスト新聞二、少年タイムス（?）落手セルモ精読出来ズ其ママ袋ニ入レル始末情ケナシ。

勿論運動ナシ。

七月十六日（水）快晴

2Aノ九号徹生キ室ニテ早起、直ニ大ニ水ヲ飲ミ排

便、気持好シ。
昨日ノ大嵐ニテ一冊ノ書籍モナク午前ハ祈祷、冥想、横臥ニテ暮ス。
非難ニ内省カ、午後合切袋ヲ返シ米看守立会ノ下ニ検査、漸ク聖書、日記、英和、和英辞典各四冊所持ノ許可ヲ得、再ビ袋ヲ渡ス、外私物一切認メズ、愈長期試練決心ヲ強メシム、誓テ大難ヲ突破セン哉。
四時頃チブス外ニ注射及種痘アリ。
運動ナシ。

七月十七日（木）快晴　午後風強シ
午後炎天強風沙塵ノ散歩ニ職工服ノ残リ帽持参セシ処廊下ニテ使用禁止ノ申渡ヲ受ケ、Pスタンプノ囚人服ニダブダブノ古靴ヲ着ケノソノソ歩キ廻ル姿ハ、人間群トモ思ハレズ悲惨其モノナリ、三本ノ注射、種痘ノ影響マタ甚大、弱リタル者多シ。
唯聖霊何レノ町ニテモ我ニ証シテ繰継ト患難ト我ヲ待テリト告ゲ給フ。然レド我吾走ルベキ道程ト主イエスヨリ承ケシ職、即チ神ノ恵ノ福音ヲ証スル事トヲ果サン為ニハ固ヨリ生命ヲモ重ンゼザルナリ（使徒行伝　二〇ノ二三、二四）

七月十八日（金）快晴
朝恒例ノ礼拝ニ出席。
午前入浴午後ニナリ、午後散歩取已メトナル。本日ノニッポンタイムスニ米ノ提案ニ係ル十一ケ國ヨリ成ル対日講和予備会議来月十九日開催ノ趣出デ獄裡色々ノ希望噂ナド出ヅ。遖ガ夫レラシキ風景也。
前田いと子サンヨリキリスト新聞六月七日号女性新聞六月十一日号来ル。
刺アル策ヲ蹴ルハ難シ。
吾ハ天ヨリノ顕示ニ背カズシテ……（使徒行伝　二六ノ一四、一九）

七月十九日（土）晴
一時半頃触レ廻リ来ル、明日アイケルバーカー新聞記者一行来ル、仍テ事前ノ予行検閲ヲスル、室内清掃、P服着用室ノ前ニ整列スベシト型ノ如ク果ス、何事モ時世致シ方ナシ。運動為メニ取止メ。

患難ハ忍耐ヲ生ジ、忍耐ハ練達ヲ生ジ、練達ハ希望ヲ生ズト知レバナリ。希望ハ恥ヲ来ラセズ、我ラニ賜ヒタル聖霊ニヨリテ神ノ愛、ワレラノ心ニ注ゲバナリ（ロマ書　五ノ三、四、五）

七月二十日（日）午前曇　午後晴

朝八時頃検閲準備ノ布達アリタルモグズグズシテ片付カズ、結局十一時過ギ数名、我々整列ノ後側ヲ通過シ免トナル、昨日来大騒ギシテ此始末呆然タリ。三日目ニテ散歩、貸与職工帽今日ハ被レト云フ何ガ何ヤラ支離滅裂ナリ。

ソレ罪ノ払フ価ハ死ナリ、然レド神ノ賜物ハ我ラノ主キリスト・イエスニアリテ受クル永遠ノ生命ナリ（ロマ書　六ノ二三）

七月二十一日（月）晴

運動午前行ハル。明朝差出スベキ二三子ヘノ第七十四信ヲ認メル。

前田いと子サンヨリ六月十四日付キリスト新聞、六月二十二日付日本経済新聞、六月二十三日付社会新聞来ル。

然レバ欲スル者ニモ由ナラズ、走ル者ニモ由ラズ、唯憐ミ給フ神ニ由ルナリ（ロマ書　一〇ノ一八）

サレド我イフ、彼ラ聞エザリシカ、然ラズ「其声ハ全地ニユキワタリ、其ノ言ハ世界ノ極ニマデ及ベリ」（ロマ書　一〇ノ一八）

七月二十二日（火）晴

午前散歩午後入浴スル。貸与物毛靴下二、ランニング、猿又、タオルヲ洗濯ニ出ス。二三子ヘ第七十四信ヲ差出ス。十五日事件ニ依リ自宅返却品ヲ認メタリ。石川養之輔牧師ヨリノ七月七日付封書ヲ拝受ス。

我ハ努メテ他人ノ置エタル基礎ノ上ニ建テジトテ未ダキリストノ御名ノ称ヘラレヌ所ニノミ福音ヲ宣伝ヘタリ（ロマ書　一五ノ二〇）

七月二十三日（水）晴

本日モ散歩午前行フ、今後午前ニ変更トナリタルモノカ。午後一時半頃ステック大尉来リ我々A級全部

フトン干ノ後中庭ニテ自由休憩許可ストノ話、先般来余リ丁寧トナリ無気味ナリトノ話交サレタリ、二時間余木影ニテ休ミ帰室ス。

二三子ヨリ第七十五信（七月六日付）、周一ヨリ七月六日付各封書、前田いと子サン好意ニ依ル聖書知識六月号、キリスト新聞七月五日号、女性新聞七月一日号拝受ス。

七月二十四日（木）晴

午前散歩、午後昨日ノ如ク我々A級ノミ中庭ニ出テ二時間余休憩ス、仄聞スルニ市ケ谷二十五人組ガ午前午後両回戸外休憩シ居レル為同一ニ拘留セシメタルナリト、或ハ然ラン、何レニセヨ大助リナリ、但シC級連中ニ対シ気ノ毒ノ至リデ不堪思ニ満ツ。

汝ラノ身ハ其内ニアル、神ヨリ受ケタル聖霊ノ宮ニシテ汝ラハ己ノ者ニ非ザルヲ知ラヌカ。汝ラハ価ヲモテ買ハレタル者ナリ、然ラバ其身ヲモテ神ノ栄光ヲ顕セ（コリント前書　六ノ一九、二〇）

七月二十五日（金）朝曇後晴　暑気甚シ

朝礼拝ニ出席、午前礼拝ヨリ帰室スルヤ九時頃其ママ散歩ニ合流ス、午後入浴。

小金井ヨリ五月号リーダース・ダイジェスト送リ来ル。

汝ノ播ク所ノモノ先ヅ死ナズバ生キズ。又其ノ播ク所ノモノハ後ニ成ルベキ体ヲ播クニ非ズ、麦ニテモ他ノ穀ニテモ唯種粒ノミ（コリント前書　一五ノ三六、三七）

七月二十六日（土）朝曇後晴

九時頃ヨリ約二時間散歩、午後一時半頃ヨリマタ二時間余A級ノミ中庭ニ出ス、今後何時マデカ例トナルモノト思ハル、占領方針ノ変更ト想像サル、特ニA級者トシテ兎モアレ楽トナリ助カル。

石井寛二ヨリ七月八日付ハガキ来ル。

我等若シ心狂ヘルナラバ神ノ為ナリ、心慥ナラバ汝等ノ為ナリ。キリストノ愛我等ニ迫レリ。（コリント後書　五ノ一三、一四）

七月二十七日（日）晴　暑気甚ダシ

九時頃ヨリ散歩、午後ノ休憩本日ハ取止メタリ。

我ラ思フニ、一人スベテノ人ニ代リテ死ニタレバ、凡テノ人已ニ死ニタルナリ。ソノ凡テノ人ニ代リテ死ニ給ヒシハ、生ケル人ノ最早己ノ為ニ生キズ、己ニ代リテ死ニテ甦ヘリ給ヒシ者ノ為ニ生キン為ナリ（コリント後書　五ノ一四、一五）

七月二十八日（月）晴

午前九時頃ヨリ散歩、午後ハ一時頃ヨリ中庭ニ出ヅ、午前フトンヲ干シ午後入レル、本日暑気甚シクウダル様ナリ。

我キリストト偕ニ十字架ニツケラレタリ。最早ワレ生クルニ非ズ、キリスト我ガ内ニ在リテ生クルナリ。今ワレ肉体ニ在リテ生クルハ我ヲ愛シテ我ガタメニ己ガ身ヲ捨テ給ヒシ神ノ子ヲ信ズルニ由リテ生クルナリ（ガラテヤ書　二ノ二〇）

七月二十九日（火）朝曇後晴

九時半頃入浴、湯ハ少シ　水ハナシ、近頃不快ノ一事ナリ、午後一時半頃散歩、途中A級ノミ残リ猶一時間程中庭ニテ休ム。

小金井ニ久シ振ニテ返事ヲ差出ス、去月三日以来ナリ。

キリスト・イエス自ラ其隅ノ首石タリ。オノオノ建造物、彼ニ在リテ建テ合セラレ、弥増ニ聖ナル宮、主ノウチニ成ルナリ。汝等モキリストニ在リテ共ニ建テラレ、御霊ニヨリテ神ノ御住トナルナリ（エペソ書　二ノ二〇）

七月三十日（水）曇時々晴

午前散歩、午後特別休憩ナシ。

十五日自宅返却シタル持参物ニ対シ二十六日付書面ニテ終戦連絡巣鴨分室ヨリ二十五日留守宅ニ渡済ノ通知来ル、初メテノ試ミナリ。

本月八日付大石修子ヨリ自作画ノハガキ来ル。前田いと子ヨリ七月十二日付キリスト新聞、七月十一日

付女性新聞、六月二十九日日本経済新聞来ル。
　我ヲ強クシ給フ者ニヨリテ、凡テノ事ヲナシ得ルナリ（ピリピ書　四ノ一三）
七月三十一日（木）暁珍シク小雨アリ、晴
散歩両回例ノ如シ。
昨日図書室ヨリ借リ受ケシ“Better Foremanship”ヲ読ミ始ム Selected & prepared by the Editorial Staff, U. S. Armed Forces Institute, for the use of Personnels of Army-Navy-Marine-Coast Guard 三二六頁小冊子ナルモナカナカ気ノ利タルモノニテ戦時産業ノ周到ナル準備敬服シタリ。
大石孝一ヨリ七月二十一日付、菊野芳子ヨリ七月十五日付、佐藤直行ヨリ七月五日付各封書ヲ拝受シタリ。
八月一日（金）晴
朝八時半頃ライアン布教師ノ説教ヲ聞ク。午前入浴ナク、午後入浴トナリ午後ノ散歩、休憩ナシ、石鹸二週間欠乏聊モノ足ナシ。
大石成子ヨリ自作画ハガキ来ル。
午後正力君ニ来リタル、リーダース・ダイジエスト八月号ヲ読ム。
　患難ニ遭フコトノ我ラニ定リタルハ、汝等自ラ知ル所ナリ（テサロニケ前書　三ノ三）
八月二日（土）晴　暑気甚シ
朝九時頃一時間半位、午後ハ一時半頃ヨリ三時間位中庭ニテ休憩シ殆ンド日中日光浴、背ハ勿論ノコト、土人ノ如クナル。
　彼ハ己ヲ与ヘテ凡テノ人ノ贖価トナリ給ヘリ（モテモ前書　二ノ六）
八月三日（日）晴　大ニ暑シ
午前及午後両回一時間半位外気ニ触レル。終日水ヲ飲ミ文字通リ水腹トナル。明日二三子来訪日ナルモ気分快ク明後五日付二三子宛第七十五信ヲ認メ置ク。
　主汝ニ凡テノ事ニ就キテ悟ヲ賜ハン。
　然レド神ノ言ハ繋ガレタルニ非ズ。
主己ノ者ヲ知リ給フ。

汝ハ学ビテ確信シタル所ニ常ニ居レ。

今ヨリノチ義ノ冠ヲ吾為ニ備ハレリ（テモテ後書二ノ七、九、一九、三ノ一四、四ノ八）

八月四日（月）晴

八時半頃ヨリ一時間散歩。一時半頃ヨリ中庭ニ出テ休憩中三時頃、二三子面会ニ来ル、頗ル元気ニテ家事近況其他快活ニ話シ帰ヘル、大ニ安堵シタリ。市ケ谷法廷六週間ノ準備休暇ヲ了ヘ本日ヨリ再開、愈太平洋段階ニ入ル。

キリストハ我等ノ為ニ己ヲ与ヘ給ヘリ（テトス書　二ノ一四）

八月五日（火）

今朝二三子ヘノ第七十五信ヲ差出ス。

午後二時半頃入浴、石鹸ナク、湯モ少ク水モ出デズ折角ノ楽シミモ後気分悪ク帰室後水ニテ身体ヲ拭ク。

近来ニナキ暑サニテ午後ハ昼寝シタリ、加納君ニ差入タル短歌雑誌三冊乱読シタリ無意味ニ暮シタリ。

モシ始ノ確信ヲ終リマデ堅ク保タバ、我ラハキリストニ与カル者トナルナリ（ヘブル書　三ノ一四）

八月六日（水）終日曇

十時頃散歩我々A級ヲBC級ヨリ分離シ中庭ニ出シメ午後一時半頃再ビ中庭散歩ニ出ヅ。曇天気圧ノ為メカ頭痛気分ニテ読書進マズ怠ケル。

ナンヂラ神ノ御意ヲ行ヒテ約束ノモノヲ受ケン為ニ必要ナルハ忍耐ナリ（ヘブル書　一〇ノ三六）

八月七日（木）朝曇後雨

九時半散歩ニ出シモ十分程経テ小雨降リ帰室、後已マズ、久シ振ノ降雨ニテ温度急ニ下リ凌ギヨシ。心静ニ祈祷、聖書、耽ルコトヲ得タリ。

昨六日アットリー首相英経済非常対策ヲ議会ニ発表、内外ノ異常ノ関心ヲ集メタリ。

震ハレヌ物ノ存ラン為メニ震ハルル物、即チ造ラレタル物ノ取リ除カルルコトヲ表スナリ（ヘ

ブル書　一二ノ二七）

八月八日（金）晴

朝礼拝説教ヲ聞ク、午前散歩、午後入浴、A級組、中庭休憩例ノ如シ。

以寿子、公一同封ノ八月二日付手紙、公一ヨリ七月号リーダース・ダイジエスト、前田いと子ヨリ七月二十六日付キリスト新聞、八月一日付女性新聞来ル。

以寿子ヨリノ手紙中猪股正資ト云フ人同居シ居ルトノ趣認メアリタリ。

霊魂ナキ体ノ死ニタル者ナルガ如ク、行為ナキ信仰モ死ニタルモノナリ（ヤコブ書　二ノ二六）

八月九日（土）午前稍曇後晴

九時頃散歩、午後ノ休憩散歩ハナシ。

二三子ヨリ七月十七日付第七十六信、周一ヨリ七月二十二日付封書、信子ヨリ二十三日付ハガキ落手ス。

午後小林大将ヨリ最近ノタイムス、加藤君ヨリカトリック新聞ナド借リテ読ム。

モロモロノ心労ヲ神ニ委ネヨ、神ナンヂラノ為ニ慮バカリ給ヘバナリ、慎ミテ目ヲ覚シ居レ（ペテロ前書　五ノ七、八）

八月十日（日）晴　頗ル暑シ

十時半頃三十分余散歩、午後恒例トナリシ中庭ヘノ外出取止ム。

午前明後十二日付二三子ヘ差出スベキ第七十六信ヲ認メ置ク、周一及前田いと子ヘノ伝言特ニ周一ニ長文ノ返事経済問題ニ付書キ七枚トナル。

汝ラ此言ヲ暗キ処ニ輝ク灯火トシテ、夜明ケ、明星ノ汝ラノ心ノ中ニ出ルマデ顧ミルハ善シ（ペテロ後書　一ノ一九）

八月十一日（月）晴

午後ハ軍参謀長来ルトノ理由ニテ室内整頓仕事着用室内整列スベシト触レ来ル。午前予習、午後実行、結局日中碌々為スコトモナク暮シタリ。午前三十余分散歩シタリ。

二三子ヨリ七月二十八日付第七十八信（七十七信未着）及岩崎千代子ヨリ八月四日付消印アル封書来ル。

世ニ勝ツ勝利ハ我ラノ信仰ナリ（ヨハネ第一書五ノ四）

八月十二日（火）晴

今朝二三子ヘノ第七十六信ヲ差出ス。

午前入浴セルモ不相変石鹸ナク気分悪シ。午後散歩寸前ヨリ腹痛甚シク帰室後已マズ、夕食ホンノ口ダケ付残シタルモ夜ニ入リ愈甚シク非常特別診察ヲ受ケタリ、軍医大尉来リ診断、場合ニ依リ再診スルトノ事ナルモ漸次頭痛トナリ九時頃ヨリ稍平常トナル。

石井寛二ヨリ八月二日付ハガキ来ル。

八月十三日（水）晴

早起疲労残ルモ本復トナル。

午前散歩取止メ室内ニ蟄居。午後中庭ニ出ヅ、木蔭ニテ休憩　気分幾分軽クナル。昼、夜食近来珍ラシク白米飯出テ食欲出テ全部平グル。

本日モ殆ンド横臥シ暮ス。

去月二十四日付以寿子、公一同封ノ手紙。保男ヨリ去月二十七日付長文ノ手紙。

前田いと子ヨリ七月十九日付キリスト新聞、七月二十一日付女性新聞、七月二十六日付日本経済新聞来ル。

八月十四日（木）晴

午前九時半頃布団毛布中庭ニ乾ス、其ママ散歩。午後一時半頃再ビA級ノミ休憩三時半頃之ヲ取入レル。

ポツダム宣言受諾満二年ナリ、当時御前会議ヲ追想シ感慨無量云フベキ術ナシ、内外情勢マタ一変シタリ、悉ク摂理ノ鴻大恐ルルノ外ナシ。降伏記念ノ為カ否カハ知ラザルモ夕食白飯、精肉ノ外特ニジャム付バター添タル上等パン一片出ヅ、廊下大評判ナリ。

二三子ヨリ遅着ノ第七十七信（七月二十四日付）大嶋いとヨリ七月二十五日付手紙、前田いと子好意ノ聖書知識七月号落手ス。

八月十五日（金）晴

朝礼拝堂前マデ行列シ赴シモ休ニテ空シク引上グ。

午前散歩、午後入浴粘土ノ如キ石鹸ヲ呉レノビタ頭

髪ヲ洗シモ碌ニ汗流スニ至ラズ水洗シテ帰室。

人ノ生クルハパンノミニ由ルニアラズ、神ノ口ヨリ出ヅル凡テノ言ニ由ル。

主ナル汝ノ神ヲ試ムベカラズ。

主ナル汝ノ神ヲ拝シ、唯之ニノミ事ヘ奉ルベシ

（マタイ伝　四ノ四、七、一〇）

八月十六日（土）晴

午前二時間余中庭ニテA級ノミ散歩、午後散歩ナシ。千葉姉ヨリ八月二日付消印アルハガキ永野護君ヨリ七月三十日付ハガキ来ル。

主人云フ「否恐ラクハ毒麦ヲ抜キ集メントテ麦ヲモ共ニ抜カン。両ナガラ収穫マデ育ツニ任セヨ。収穫ノトキ我刈ル者ニマズ毒麦ヲ抜キ集メテ、焚ク為メニ之ヲ束ネ、麦ハ集メテ我ガ倉ニ納レヨ」ト云ハン（マタイ伝　一三ノ二九、三〇）

八月十七日（日）朝曇後晴

午前散歩一時間余、午後中庭休憩ナシ。明後日小金井ニ返事差出ス考ニテ之ヲ認メ置ク。昼食後一時間余昼寝スル。

夜七時前後ト覚シキ時突如大旋風起リ室内沙塵充満、幾度カ掃除スルモ去ラズ大ニ閉口シタリ。

「我ハアブラハムノ神、イサクノ神、ヤコブノ神ナリ」ト言ヒ給ヘルコトヲ未ダ読マヌカ。神ハ死ニタル者ノ神ニアラズ、生ケル者ノ神ナリ

（マタイ伝　二二ノ三二）

八月十八日（月）晴

午前午後散歩休憩例ノ如シ。

石川以寿子ヨリ本月七日付、石川養之輔氏ヨリ本月九日付、信州野尻湖カラ前田いと子ヨリ本月十一日付消印アル各ハガキ来ル、前田サン好意ニ依ル聖書知識八月号落手ス。

祝ヨ、我ハ世ノ終マデ常ニ汝ラト偕ニ在ルナリ

（マタイ伝　二八ノ二〇）

八月十九日（火）晴

午前散歩、午後入浴。

小金井ヘ今朝返事ヲ差出ス。

二三子ヨリ本月十日付第七十九信、周一ヨリモ十日付封書来ル。
午後加納君処ヘ近着雑誌中央公論、新潮ナド寝乍ラ漫読シ暮ス。
「ソノ衣ニダニ触ラバ救ハレン」ト自ラ謂ヘリ。「娘ヨ、汝ノ信仰汝ヲ救ヘリ、安ラカニ往ケ、病イエテ健カニナレ」（マルコ伝　五ノ二八、三四）

八月二十日（水）晴
午前、午後両回例ノ如ク中庭ニ出ヅ。
廊下図書棚ヨリ "Everyday Economics' A Case and Problem Book" by R.M.Rutledge associate professor of economics, Utah Agricultural College ヲ午後ヨリ読ミ始ム、アメリカ式興味本位実際化解説トシテ面白キ様ナリ。
コノ寡婦ハ其乏シキ中ヨリ、凡テノ所有、即チ己ガ生命ノ料ヲ悉ク投ゲ入レタレバナリ（マルコ伝　一二ノ四四）

八月二十一日（木）晴
午前散歩ノ砌布団、毛布ヲ干シ、午後休憩了テ取入ル、風出テ徒ニ沙塵ヲ浴ビルノミ。昼食塩鯨岩片ノ如ク、夕食塩鰊腐臭芬々両々相俟テ飲水鯨ノ如ク腹ダブダブナリ。
汝ノ信仰イヅコニ在ルカ（ルカ伝　八ノ二五）

八月二十二日（金）晴
礼拝ナシ。午前散歩、午後入浴後中庭休憩例ノ如シ。
主人僕ニ言フ、「道ヤ籬ノ辺ニユキ人々ヲ強ヒテ連レ来リ我ガ家ニ充タシメヨ、ワレ汝ラニ告グ、カノ招キオキタル者ノウチ一人ダニ我ガ夕餐ヲ味ヒ得ル者ナシ」（ルカ伝

八月二十三日（土）晴
午前、午後ノ散歩、休憩例ノ如シ。
本日降雨アル予報ナリシモ例ニ依リ的ラズ旱天続ニテ作物モ思ヒヤラレル。敗戦ニテ気象モ変調、予報モ怠業。
シモン、視ヨサタン汝ラヲ麦ノ如ク篩ハントテ

乞ヒ得タリ。然レド我汝ノ為ニ其信仰ノ失セヌヤウ祈リタリ（ルカ伝　二二ノ三一・三二）

八月二十四日（日）晴

午前理髪スル、約二ケ月余延ビ放題ニテ宛然牢名主ノ風貌ナリシ処トテ坊主頭トナリ生々シタリ、向側ノ中君器用ニバリカン、鋏ニテ調整シ呉レタリ。理髪後中庭ニ散歩ニ出タル第二ブロック一、二、三階全員三百余名モゾロゾロ来リ庭ニ溢レ蕪俟濛々タリ、間モナク2A我々ノミ三、四ブロック間ノ中庭ニ分離散歩トナリ楽トナル。

朝パンノ外コーヒー、イチゴジャム、粉玉子焼肉汁少々ナレ共好食。昼食ニビスケット一、珍ラシクモドロップ二ケ付キ近来ノ食極楽出現シタリ。

八月二十五日（月）晴時々曇

午前散歩、午後休憩例ノ如シ、下駄鼻緒切レタルモ修理ノ方法ナク已ムナク猿又ノ紐ヲ捩取リ応急　防ス、取換方請求セン。

我ハ我父ノ許ニテ見シコトヲ語リ、汝ラハ又汝ラノ父ヨリ聞キシコトヲ行フ（ヨハネ伝　八ノ三八）

八月二十六日（火）晴　暑サ甚シ。

今朝二三子ヘノ第七十七信ヲ差出ス。保男、直行、永野三君ヘノ伝言ヲ織込ム。

午前散歩大ニ汗出テ寧ロ苦熱ナリ。

午後入浴湯槽底衝キ水モ止リ折角ノ楽シミ幻滅ヲ感ジ帰室ス。

二三子ヨリ本月十九日付第八〇信来ル。

前田いと子ヨリキリスト新聞八月二日号、八月九日号、女性新聞八月一日号来ル。

ワレ汝ニ、若シ信ゼバ神ノ栄光ヲ見ント言ヒシニアラズヤ（ヨハネ伝　一一ノ四〇）

八月二十七日（水）午前晴午後小雨　夕涼然タル急雨

午前散歩午後雨ノ為休憩ナシ。

午後突然看守入室検査、主トシテ手紙破棄シ布団其他調ベテ引上グ、毎々乍ラ手紙ニ愛着禁ジ得ズ、保存シ置クコト久シク一括引裂キ棄去ルコト限リナク

淋シサヲ覚ユ。
周一ヨリ手紙来ル、十二日福島ニ墓参ニ赴キ十六日帰宅シタル旨十六日付認メタルモノ信子ハ十日後ルコトモ書添ヘアリ。切々タル気分可憐感ニ打タレタリ、此手紙モ嵐ニテ引裂キタリ。

八月二十八日（木）朝大雨　後小雨　時々曇

昨日ヨリ降出セル雨、久シ振ニテ作物復活セルナラント感謝シ乍ラ幾度カ窓外ヲ眺メタリ。昼食後二、三十分廊下廻リ歩キヲスル。

土浦市真鍋ニ帰郷セル本間憲一郎君ヨリ本月十七日付消印アル見舞ノハガキ来ル。

我ハ葡萄ノ樹、汝等ハ枝ナリ。
汝等我ヲ離ルレバ、何事ヲモ為シ能ハズ。
汝等若シ我ニ居リ、我言汝等ニ居ラバ、何ニテモ望ニ随ヒテ求メヨ、然ラバ成ラン（ヨハネ伝一五ノ五、七）

八月二十九日（金）晴

本日モ礼拝ナシ。
午前散歩、午後入浴ノ後A級ノミ中庭ニ出テ休憩。
小金井ノ公一ヨリ四月号ダイジエスト来ル。

若シ其企図其所作、人ヨリ出デタランニハ自ラ壊レン。若シ神ヨリ出デタランニハ彼等ヲ壊ルコト能ハズ、恐ラクハ汝等神ニ敵スル者トナラン（使徒行伝　五ノ三八、三九）

八月三十日（土）晴　午後一時雨後快晴　夜月明

九府半頃整歩中途ニテ米兵余等十五名呼ビ出シ廊下ニ整列セシメ、本日釈放トナリタルト伝ヘル。帰室荷物其他大急ギニテ片付ケ十時半頃玄関側ニテ服装着換ヘ所長以下ト挨拶ヲ済シ終連事務所ニ少憩シ岡部、鮎川ト自動車ニ同乗シ一時頃帰宅。君野ノ篤子来リ居リ青木重臣君ノ一家夜任地ニ帰ルトノ話ニ付連絡シ貰ヒタリ、間モナク青木君来訪快晴、夜ハ佐藤直行、静子来訪、十一時就寝。

出所者鮎川、井田、菊池、小林順一郎、小林躋造、酒井、岡部、大倉、正力、進藤、村田、真崎、大達、松阪、余ト合セ十五名ナリ。

岩田愛之助氏を憶ふ

本学の前身である興亜専門学校の設立発起人は、岩田愛之助常任理事、太田耕造理事、松尾忠二郎理事の三名であった。その内のお一人である岩田愛之助先生は昭和二十五年三月十五日逝去された。太田先生は岩田先生一周忌に発刊された文集(『雲のかなたに』昭和二十六年三月)の巻頭に本編の序に代へてと題して次の一文を執筆された。

一

一方の人物と云はれる程の人は其の精神の生長力に目立つた特長を有つものであるが、就中神佛歸依の一筋の信仰に生きて行く人の精神の生長力には無窮の發展力があるやうに思はれる。私の識る岩田愛之助氏は其の精神力が刻々に生長發展しつつあつたやうで其の有様は實に素晴らしいものがあり、昨日までの氏を知つてゐた人でも今日の氏の眞價を評し得たかは疑問であつた。相貌を觀ても解るやうに氏はついに佛のやうな人格を築いて他界し去つたのである。

二

岩田氏六十年の經歷は國家民人の安危を荷つて活躍した波瀾重疊の記錄であるが玆には之に觸れな

い。喬木風強しで、遖の氏も其の生涯の中で隨分と思はぬ災厄に惱まされた事がある。其の一例に某事件があつた。その事件と云ふのは、氏の勢威と活動を封殺し去らんとして謀られた狡計であつた。これから一段と躍進を期待されてゐた時に籔から棒に現はれた不淨事件に捲き込まれたので氏の受けた打擊は想像し得ない程であつたと思ふ。判決に依つて寃は雪がれたが之が爲め氏は在獄一年に及んでゐる。本編は氏が悲境のドン底にあつて認めた夫人宛の獄中便りを集めたもので環境と心境から見て文字通りの氏の裸像姿である。氏の一周年忌に當り夫人が之を上梓された所以のものは別にその私情を超えた大いなる悲願があつての事と思はれる。

私は精神滿腹の岩田氏の烈しかつた公的活動を識つてゐる。しかし氏の眞面目は寧ろ稀に見る氏の濃やかな人間味にあつたやうに思ふ。あの拔群の總帥的器局の因つて來るところも成る程と讀める氣がする。本編は斯うした重點を好く傳へてゐる。

三

本編は尺牘であり、短編であり、何の變哲奇拔さもない。しかし之を味讀して滋味津々、法然上人の一枚起請文を想起せしむるものがある。親鸞上人は「我はただ如來の御代官を申しつるばかりなり」と說き所謂弟子に對しても御同朋御同行と呼び謙讓の極致を示してゐるが氏も亦氏の所謂門下生に對し全く同一轍に出てゐる事が本編に明示されてゐる。氏は編中で「人間は幾くら偉がつて見ても神の前にはトルにも足らぬ虫ケラだ」とも記してゐる。氏は南無阿彌陀佛の絶對他力宗で自己を零と觀、佛を絶對と信じ其の信心力で人生觀を立てたやうである。聖書にも「神を知る人は力ありて事をなさん」と記してある。岩田氏の養ふ所如何に深かりしかを憶ふべきであらう。

政治の二大分水嶺

太田先生は、永年にわたつて『民主公論』の誌上に「四谷左門」の筆名で数多くの鋭い文明批評を書かれた。――『民主公論』第三巻第三号（昭和二十七年三月十日）所載――

日本は今や待望の自主独立の好機到來を転換期として戦国乱離の世代へと逆行せんとしてゐるかに見ゆ。悲しむべき兇兆であるが其主因は政界の腐敗と無能さにある。歴史は国家、社会の大変革の来らんとする先駆的現象として先づ政界の腐敗、無能の流行あることを示してゐる。フランス革命然り、ロシア革命然り、ドイツ革命然り、革命の理論的必然性は此意味で肯定さるべきものでマルクス亜流の革命理論の如きは敢て専売特許に値しない。別して敗戦ともなれば国家権力は無力化し、国民精神は壊乱し、伝統破壊と享楽思想が一世を風靡して唯物虚無主義が大勢となること通例である。しかも暗黒の大勢窮して黎明の光茫出づ、若し日本が自主独立の絶好の転換期を控へて大に民心を振作して臥薪嘗胆前轍を戒めて雄略大計の遂行に出づるならば茲に民族的若返りとなつて躍進日本の大道が拓けること必定であらう。しかるに日本の指導勢力たる政界の現状は奈何、所謂政治家の気局狭小にして識見乏しく、加ふるに愛国的情熱に欠く。国運果して何処に行くか。観よ国民に独立的気魂なく、良民は道塗に窮迫し、内外よりの重圧は日毎に加重せらる。而してこの形勢を前にして今や局面打開の希望あるなし、希望な

し、次で至るべきは知るべきのみ。

日本政界の現況は第一次大戦後のワイマール時代と一脈相通ずるものがある。当時敗戦ドイツの主導的政治勢力は国際協力を看板とした外交官出身一味を首領とする所謂民主勢力の占むる所であつた。しかも其所謂戦後政治家の脈搏は疲弊憊敗せる国民生活の脈搏と相通ぜず、戦後経営に抜本的計画を有せず民心を鼓動せしむる情感を示さず、茲に国民政治は其軌道を脱して極端派の乗ずる所となつた。共産党のテロ政治が跋扈し先ず地方政治は崩壊の危機に頻し、中央政府の権威また地に堕ちんとするに至つた。かくて竟にヒトラーの反共独裁政治の昇揚となつたこと周知の如し。而して其主因を観るにワイマール政治の政治的無能と政治的腐敗が民心を離反せしめ、所謂強力政治に名を就さしめたること疑ふべくもない。歴史の主潮は之を無視し得ない。若し政治の常道を期し、国家の大局を正さんとせば爲政家は深察三省すべきであらう。今や我国情は内憂外患に満ち国歩は千仞の絶壁に臨んでゐる。而して民人は絶壁上に滄浪蹣跚の姿である。筆者は国情の赴くところを観て敢て政界の自戒反省を切望する。しかも政界の現勢は政界の自戒が容易に期し得ないことを示してゐる。仍て政界の二大分水嶺を指呼して国民的進発の合図としやう。荒天の政界を乗切つた日本丸から雄峯富士を仰ぐべし。

一、憲法改正問題

日本憲法制定の経緯に就てはアメリカ政府からの公刊書がある。「日本の政治的再生」と題するものである。之に依ると日本憲法制定の主役はホイットニー氏で、氏の下でケーヂス、ローウキル、ヒユツセイの三氏が当つたようである。筆者は日本憲法自体に就ての本質的批判は差控へて置く。しかしながら現に刻下の政界に核心的問題を提出してゐる首相の法律的地位と政治的権能に関し憲法の規定は捕捉し難い点があるのを看過し得ない。

吉田内閣は組閣満三年になるが吉田首相は国務大臣を任命罷免すること風車の回転を見せるが如し。憲法第六十八条の首相の国務大臣に対する活殺権は必ずしも不可でない。之はアメリカ大統領の地位を真似た烏政治であるが夫れでも政治責任を明確ならしむる点から見て一応の理由がある。現にアメリカ憲法唯一の解釈書と謂はるる「フイデラリスト」の中でアレキサンダー・ハミルトンの如きは大統領に行政的独裁権を与ふる利点を主張して憚らない。憲法第六十六条は内閣は行政権の行使について国会に対し連帯して責任を負ふ事を規定してゐる。曾てチャーチルは第一次大戦当時海相としてダーダネル策戦を試みて失敗し議会の攻撃を受くるや首相アスキスはチャーチルを弁護し責任は内閣全体にある(Cabinet as a whole)と公言して切り抜けた事がある。内閣の連帯性は英憲法の建前で、大統領責任制はアメリカ憲法の眼目である。今議会で論議された日米行政協定成立の経緯に就て観るも現行憲法に規定されてゐる内閣の国会に対する連帯責任制が果して憲法の所謂首相の独裁的地位と両立し得るや多大の疑問が生れて来た。旧憲法第五十五条の所謂「国務各大臣」の責任規定がより多く民主的で国務大臣の政治的良心を強く発揮し得るのでないかとさへ思はれる。若しアメリカ流に徹して国務大臣制を廃止して各省行政長官専任制に切り換え首相の独裁権を行使して広く人材を簡抜し議会は各行政長官の証言を求むる事とし能率第一主義に改正したら更に妙趣であらう。斯くしたら政党の大臣病患者を追放し、首相の責任回避症を根絶し、議員の素質改良に役立たしむることも出来る。憲法改正問題を示唆したホンの一例に過ぎない。

二、再軍備問題

この問題も憲法改正問題と直結してゐる。憲法第九条の規定に就ての所謂字句解釈や抽象的戯論の如きは今日となつて三文の価値がない。世界は今や国

民の運命を賭けての生死的場面である。場面に地位されてゐる大小の国は夫れ夫れ米ソの二大国に整理された両陣営の孰れにか傾かざるを得ない実情にある。中立論と平和論を唱ふることは素より可なり。しかしながら中立と平和が脅威裡にあり更に蹂躙さるるに及んでなほ敢然として反抗するだけの用意と決意なくして之を唱へることなど正にピエロの悲劇であらう。ソ聯邦の対外策を観るに一九三九年の独ソ同盟以来に就て回顧するもマキアヴエリ外交どころの段でなく其権変譎詐振りに徹してゐる事は史上其比を見ない。バルト三国とポーランドの大部分を併呑しルーマニア、ブルガリア、ハンガリー、ポーランド、チエコ、アルバニアを共産化し其勢力圏内に収めたが其鋭鋒を今や全アジアに向けつつあること周知の如し。併呑の最後手段は武力侵略で共産主義はこの侵略戦に用ゐらるる近代兵器に過ぎない。スターリンはレーニンと倶にクラウゼウイツの大の崇拝家で「征服者といふものはいつでも平和愛好家である」との言を拳々服膺し身を以て斯語の現示に努めてゐる。而して中立と平和論は世界の運命に繋がるものであるから他国の中立侵犯と平和攪乱に対しても黙視し得ない筈である。しかも朝鮮事件に就て中立論者、平和論者が対ソ抗議を敢てしたか。身を以て南鮮救援軍に投じたものがあるか。

日本は所謂西欧勢力に投じ別してアメリカとは事実上の軍事協定までも結んでゐる。今日の国際情勢に於て自国の防衛を自ら期し得ないとあつては国家意思の否定とならう。現に昨年十月十七日ヴエンソン案で有名なアメリカ民主党の有力者カール・ヴエンソン氏は自国の防衛を自ら欲せざる国家に対しアメリカ兵を派遣することに反対し、日本に対して再軍備を要求し之が為めの憲法改正を提案してゐる。アメリカの現況では国家安全相互保障法に依る軍事援助を外にして一般の財政援助を与ふるは困難である。所謂外資導入の如きも国家の安全あつての事で国民の愛国心が自国防衛に結晶さるる事が先決事で

あらう。アメリカ前大統領フーヴア氏は旧臘ニューヨークに於る第九回青年大会に出席して所信を述べ、ナショナリズムは愛国主義なりと断じ、この思想の赴くところ有ゆる自由、改革、進歩而して世界平和への希望あるべしと結んでゐる。いづれの国も世界の現実に眼を覆ふてその国民の生活設計は有り得ない。今やソ聯は原爆を所有し、中共の共産革命を成就して世界の均衡勢力を破り実力を以てアメリカの政策に対決しつつある。而して世界の最終的運命は敗戦国の日、独両国が米、ソ両国陣営の孰れに投じて其潜在武力を発揮するかに繋がつてゐる。即ち米、ソ両国が日、独両国の誘致に払ふ代償の如何に高価なるかを想察し得よう。しかも世上の所謂再軍備論と云へば経済問題一点張で云為し、師団及海上兵力の計算にのみ没頭し十年一日の如き旧式編成観に立脚してゐる。史を按ずるにドイツ最強の編成軍はナポレオンに敗れ去つたドイツ軍隊の死灰の中から飛立つた。ドイツ軍隊は抜本的の改革を敢てしたが其改革は少壮気鋭の数名の士官の策定によつて決せられた。現代戦の性格から判断して綜合政治の最高度の認識と活用なくして勝算を樹て得ないこと勿論である。貧乏国にも貧乏国に恵まれた天地がある。旧態依然たる政治的巧智と豆大的駈引とを一排して国家百年の為め潔よくルビコンを渡るべし。

政界の分水嶺を予想さるる問題は外に二三あるが割愛する。若し日本の政界が其独自性を回復して負托の重きに任ずるの意気あらば決意を新にして衆智を集め以て日本憲法の全面的再検討と日本的軍備の創成に向つて急行すべきであらう。此の当面する二大公案を打出すには必然的に政界の創意性と純白性の裏付けが要望せらるる事は明かである。日本憲法の再検討は日本民族の見識と血涙を以て書き下すべし。日本軍備の創成は日本民族の運命感を喚起して端的に同胞に絶叫して達せらるべし。政界は虚心坦懐に之に応じ得るや、否。

率直に語らば政界の現況は野郎自大で極東の片隅

での田舎芝居の興行である。気宇高朗にして手腕卓犖の賞すべき風格がない。この現況を世界政局に反映しては国民生活の活路を発見し得るなど期待すべくもない。国内政治は国際政治に通ず、而して国際政治は国際協力に値する道義的、経済的、軍事的勢力を反映して軽重上下しつつあること論を俟たぬ。

日本再建の設計図表第一号

――「民主公論」第三巻第八号（昭和二十七年八月十日）所載――

一

イギリスの有力紙マンチェスター・ガーデアンは六月十六日、日本の当面せる諸問題に言及した揚句日本に政治的指導者なきことにその解決難があると論断してゐる。正に其ものズバリである。カーライルは歴史は英雄の伝記なりと喝破したが、見渡すところ再建日本の新歴史の書下ろしに一役買つて出ようとする好漢はなささうである。国家の指導者は国民精神の体表者であつて彼にやどる国家の精魂が縦横に躍動するところ、民心を束ねて之を鼓舞激励せしめ以て国家の難境を拓く途を創作してゐること特に変革期に見らるる史上の偉観である。歴史家バークマンはイギリスの生んだ大宰相ビットを評して「英国が人と成つて顕はれし者」England incarnate と云つた。至言である。さらば日本の指導者は日本国の化身なるべし、日本精神の具表たるべし。片々たる政治駈引と野郎自大の道化劇が日本の政治正面

に次々と登場し横行してゐる現況を見ては日本の危機が那辺にあるかを速断し得よう。時代は戦国乱離を反映し日本国家と国民の運命は正に断崖絶壁の突端に臨んでゐる。世相の何処の面を寸断して見ても危機切迫其ものだ。而して危機切迫は危機切迫感が国民の共感を得られない所にその深刻さ重大性が潜んでゐる。今や当今の所謂政治家群は無能に非らざれば卑劣、刻下の重大時局に故意に眼を被うて自ら恥ぢざるものの如くである。彼等から救国済民の経綸を聴き果断決行を期待すること絶望となつてきた。所謂民主政治と議会主義とは彼等の責任回避の別名となつてゐる。

二

史を按ずるに東西古今を通じ最も卓絶したる政治家の一人はギリシヤのペリクレスであつた。彼は治績四十余年、所謂民主政治の代表的チヤンピオンであつたが其政治は一人政治で独断専行、責任を一身に負つてギリシヤの黄金時代を出現せしめた事周知の通りである。彼の面目とその政治的光芒はプルタークの英雄伝中にあつても燦然たる異彩を放つてゐる。而してギリシヤの繁栄と国威は彼を頂点として次第に没落崩壊の一途を辿つて来た。即ち所謂民主政治の徹底的普及はギリシヤ政治を凡愚と腐敗と無能に陥らしめ竟に内憂外患に堪へ得ずして其地位を新興勢力に譲つてゐる。この国家興亡史の教訓は有史以来繰返された事実でギボンのローマ史は之を語ること精緻を極めてゐる。この大著を精読したものは国家及国民を支配しつつある鉄則の厳粛さに無限の感慨を禁じ得ないであらう。

さて日本の当面しつつある困難に就て稽ふるに先づ日本再建を不可能にしている根本原因の有ることを認むべきである。即ち日本の統一神経は敗戦と共に寸断せしめられてその神経は今や明に分裂症に罹つてゐることである。神経分裂症の特長は部分神経の跋扈であり、その刹那主義、感能崇拝の勝利であ

らう。これで全身衰弱を来たさぬとは寧ろ不思議である。個々別々の栄養注射の如きは返つて部分神経を刺戟して安楽死の早期招来を促すのみ。問題は日本の統一神経の急速回復を計ることにある。百の設計千の立案があらうとも国家意思の分裂があつては之が実現は百害あつて一利なく、国家としての再建計画を期することは出来得ない。これでは部分神経の勝手な運動から来る内部崩壊で全身が不随となること必定だ。即ち之を端的に云へば其救治策として政治機構の抜本的改革を断行することにあるがそれには中央機構の強化を計ることが先決である。日本の置かれてゐる内外の環境から判断して日本再建は従来のジグザグコースを廃棄して直線コースを選ぶべき必要あり、しかも最短時間で最大能率を発揮せねばならぬ情勢だ。今こそ全日本の全神経を統一して日本国民の創意と決意とに依る再建計画を誰憚ることなく内外に明示すべき秋が来たのである。

三

中央機構強化の必要理由左の如し。

〈治安維持に就て〉

イ　国内治安に就て

平和条約発効後の国内治安が急速に悪化して来た事実に対し之が対策如何は独立日本の当面してゐる最大最重の問題である。所謂治安擾乱を企図する大規模にして深刻なる破壊勢力に対しては特別の対策が必要であるが実のところ政府当局が自信喪失してゐること明である。共産勢力が国歩困難にして民人に対し更に忍従耐乏を期待せらるる時に際し、衆徒を煽動して一流の革命戦を展開してゐる事は天人倶に許し得ない反逆と断じ得よう。共産革命はロシアに移植されて以来暴力革命一辺倒に堕し、理想の片鱗もなく、方法の鮮味もなし。唯千変一律の戦術に拠る権力奪取業者の暴力至上主義に操られてその命維れ従ふ吸血児の跳梁に委せられてゐる。マルキシ

ズムはロシアに婿入りして其性格を一変した。マルキシズムは本来の公式理論を泥土に一擲してロシア本来の膨脹政策、侵略方針に屈服し去つたこと近く一九四七年以来の近隣併呑政策を正視しても明であらう。ラトビア、エストニア、リスアニアを始めポーランド、ルーマニア、ブルガリア、ハンガリー、チエツコ、アルバニアを掌中に入れ更に朝鮮、支那を跳躍台としてアジアの武力征服を推進してゐる。之をベテル・スミスの表現を借りて評せばロシアの対外政策は「大ロシア的イムペリアリズムとコムミユニスト・イデオロギーとの結婚で出来た所産」である。現にロシアではペーターとイワン（Ivan the strict と改称している）を民族的英雄と定めて祭り上げレーニンとスターリンの守護神として崇拝してゐること雄弁に之を物語つてゐる。所謂共産革命とはかうした性格のもので、其指揮命令は細大となくモスコーの総本山から現実具体に統一的に流されてゐる。而してこの暴力革命に対し「やつさ、もつさ」の議会遊戯で漸く出来上つたのが例の「破防法」だ。正に横綱と三河万歳の相撲勝負を見てゐるやうでピエロの悲劇である。しかも事務屋は事務屋で火災ビンが爆発物であるかどうかなどで長時間かかつて討論して決めるといふ始末だ。何処までお目出度く出来上つた国民なのか。警察は警察でやれ国警だ、やれ自警だ、やれ予備隊だと縄張り争いを首相官邸まで持出しての大評定なのである。気の利いた共産党員は縄張りのボーダー・ラインに集合してデモと暴行を存分にやつてゐる。かうまで馬鹿にされ、テスト・ケースの百万遍を試みられても日本の神経は其ままで有る。吉田首相は議会戦術でも無識無能である。議会での治安責任討論で何故大声叱咤して責任の所在を明にしないのか。法制上治安維持の最高且つ実際責任者は公安委員会である。この委員会は占領政策の遺児で女牧師とか、営利会社社長とか、弁護士とか、医師とかで構成せられてゐる五人乃至三人の委員であるが、この連中が国警長官とか警視総監と

かの馘首をも行ひ得る権限を有つてゐる。ワンマンは大臣の首をチヨン切ること大根か菜つ葉を切る程の造作もない地位にあるが、治安第一線の警察官の首一つ切る権限は有たぬ訳である。政治責任は法制的根拠なきものに取つて逃げ口上を陳列する以外の何物でもない。借問す、中央機構を強化し、警察法上の所謂所管とか経費とかの用語で胡麻化すことを止めて首相に名実倶に国内治安の責任を荷はしむる以外に治安の根本対策ありや。吉田内閣は姑息弥縫の修正「破防法」類似の児戯案に血道を上げて苦悩煩悶を重ねて来たが無識に非ざれば怯惰である。何ぞ首を掛けて堂々難境の先陣に立たぬのか。

四

〈治安維持の次題〉

口　警察予備隊

に就て語る。警察予備隊が国防軍であることはアメリカ側の発案で創成された経緯から観て駄言の要がない。吉田首相は今尚警察予備隊は軍隊に非ず、再軍備の意なしと繰返し公言し続けて居るが内外情勢の激変に風馬牛の観がある。政治の妙趣は現象の流動性を巧に摑むことだ。政治家は自らの屈托性を深く恥じねばならぬ。仮りに占領時代に振出された政治手形が強制的に通用せしめられた事情を諒察し得るにせよ、占領の終了後は自主的に決済対処すべきこと当然である。占領遺物は一切を挙げて徹底的再検討すべし。何となれば占領政策は被占領國の自主権回復によつて消滅し其効果は当時の占領国との関係に就て観るも全く一新するからである。占領政策を後生大事に護持し続けることが当時の占領国の歓心をも護持し得て何かにつけ今後も便利を得んなどの安易感を抱く者あらば天下の痴呆漢であらう。占領ボケで世界の物笑ひと軽侮を招く許りでなく、最も醜劣な乞食根性を自白したものである。占領政策終焉し、自主権回復した其日の午前零時には旭日の昇天を迎ふべき万端の準備が完成し居るべき筈であ

つた。かくてこそ自主日本は世界の敬畏を収め再建日本への期待百パーセントを乗せて発足し得たことであらう。

而して再建日本の第一の重大問題は何と云つても国防問題であつた。

日本は自主権を回復し、自立経済を計画し独自外交を推進しようとしてゐる。しかるに自国の安全は内外からの恐怖に晒され、戦国無頼の世相裡にあつて他力本願のお情けに縋つて行かうとしてゐるのである。これで内外からの侮辱を招かざれば摩訶不思議であらう。国防危くして何の政治か、経済か、外交か。即ち今流行の「平和論」や「交易万能論」の如き共産党一流の深刻な反問苦肉策の演出宣伝にあらざれば人気往来で稼ぐ便乗インテリの無恥流行的露出症に過ぎない。若し自国の国防を自ら放棄して自国の繁栄と福利をのみ意図する自己的政策に徹せんか所謂国際的義務を拒否し、世界国家への進路をも閉すこととなるは明である。世界の進運は世界の相対的歩調を調整せずして其健全なる前進を期し得ない。国防の血税的責務と経済的負担を好まざるは独り日本国民のみでない。然も敢て国防の充実戦化を計らざるを得ない所に現実世界の厳しさがある。国民生活の現実的事実を断ち切つて独善的抽象論を強制し以て新時代の創造を唱ふるが如きは正に時代錯倒であらう。国防は武力万能思想から生るるものでない。外力からの強制に対し自らを守るためである。信仰にせよ、思想にせよ、況んや政治、経済にせよ、外力からの強制に屈服することは自己喪失となる。宜しく国防の精神、組織、運用を正解して世界平和の実現に主役を果すべし。自国を自ら守り得ずして世界平和を説くは痴人夢を語るものである。自国を自らの手で守り得る者にして始めて、好く世界平和の方途を講じ得る。

五

日本の国防軍は粗末微弱である。素より其装備、

訓練から観て爾く断言し得るが夫れより遙かに粗末微弱なるは国防精神にあり、国防精神の欠陥から来る致命的原因にある。国防は階級的、特殊的、外力的影響を排撃して其純潔、精強を期する事が出来る。国防は国民各自のものである。因つて国家、社会の興亡は其国民の国防観如何に依り卜し得ること史跡の明証する所で国防を軽視した国民は外力侵略の好餌となつてゐる。又国防を濫用した国民は自己崩壊の動因を自ら作つてゐる。国家民人の勃興するや例外なく国民軍（National Army）による国民生活の緊張を計つてゐること四千年来の鉄則だ。国民軍の目的とするところは国民一人一人の生活感情に直結する防衛力であつて其創作と発達如何によつて国家民人の運命が決せられてゐた。よつて之が構成は体格、教養共に国家の優秀分子を以て充たさるべきで其素質の低下はやがて防衛力の腐朽弱化を来し、竟に国家の没落譜を奏でることになる。世界の進化は国防力の進化に見られてゐる。国防力の相対的、調整的段階に達して国防力の本質的変化を来し始めて其存在理由が論議さるべきであらう。現段階に於て直ちに之が否認は即ち戦争挑発を招くのみである。寧ろ国防力の質的向上を計つて徐ろに其存在理由を解消することの賢明なるに若かぬ。敗戦日本は少くとも自己の体験と国民史の明示する所により従来の国防観の迷夢を打破し以て動揺せる世界に安定勢力たる実勢を明示すべきであらう。

警察予備隊は国防軍である。之を作つて魂を入れぬのは吉田首相の責任でないか。而して之を為し得ないのは吉田首相の国防観が旧態依然でその迷夢から脱し得ないからである。今や真に内外非常時たり、吉田首相は自ら国防軍の首長となり、国民に赤心を吐露して世界最良、最強の防衛モデルを創作する壮図あるべきだ。吉田首相は之がために単乗飛行機を駆て北海道から九州にかけて週末遊説に出掛くべし。かくて日本民族の眠れる理想と渇ける血脈は勃々として生動し来ること明であらう。戦後国防軍

を目して往年軍部の復活と嫉視せらるるを恐れて左顧右眄するとは余りにも醜し。吉田首相は絶対多数党の総帥にして議会政治の代表たり、而して最強政府のワンマンたり。国防軍を思ふがままに改編鍛錬して国民の国防軍たらしめ得るではないか。而して時に世界平和への向上軍たるの使命を果さしめては如何。警察予備隊は日陰者的軍隊にして加ふるに傭兵的臭味あり、此処に国防担当の気魄なく所謂下士官以下六万九千名の四割二分の脱落者が出たことも当然である。首相其人に重責あること論を俟たぬ。人或は口を開けば曰く国防充実に伴ふ予算なしと。国防充実を予算に籍口して之を排拒し去らんとすること已に新国防の意義を識らざるものである。誠に古人の箴言の如く民人を挙げて城塞となし、一国を一丸として内に不敗の地位を築くことに成功せば近代戦の挑発に対しても応接の道あること必定だ。科学と創意工夫は意思の所産である。貧乏国が立上る原理は計量器からは出て来ない。

六

中央機構強化の必要性は国民経済の確立と繁栄を招来する上にも亦緊急事となつてゐる。我戦後経済の乱雑無軌道振りに就ては今更ら絮説（じょせつ）の要を見ない。領域の四割五分を失ひ有形無形の莫大な資産を失ひ、四つの島嶼に八千五百万の人口を抱いて、芋洗ひ其のままの惨状を極めてゐること我現実の姿である。所謂戦後勢力者とは戦時物資の闇処分にあらざれば旧勢力追放による空白占有で擡頭したる者、所謂戦後派の成功、失敗ともに之を大観すれば国民相剋の修羅場裡に登場去来した者の夢物語である。国民相剋して国家心は消耗し、吸血的外商が之に乗ずるあつて衰弱し切つた我経済界の動脈は更に枯渇に瀕してゐる。アメリカの援助と所謂特需景気とによつてどうやら呼吸して来た我経済界も今はむかし淡雪の如し。醒め来れば我経済界は外力の桎梏下にあつて身動きも出来ぬ境地にある。独自の経済活

動なくして独自の政治活動もあり得ない。昨年の対米輸出三億ドルに対し輸入十一億ドルであるから差引八億ドルの穴が出来てゐる。而して此穴埋めはパンパンの稼ぎ高二億ドルをも含めて何やかで兎に角辻褄を合せてゐるが相手方からスイツチ一つ捻ねられたら八千万国民の喉首は締められやう。政府筋の経済復興策は外資導入とか、輸出振興とか云はれて例によつて例の如しであるが、外資導入は勿論、輸出振興も現実問題としては空手形の濫発だ。

外資導入が我国情の下で安々と行はるるとは容易に想像し得ない。結局のところ所謂政治借款の内容を帯び、竟に政府及び国民を拘束して禍根を胎すことにならざれば幸である。外資導入は対等の商業的条件で行はるべし。日本を未開発地域と見立てての政治取引では御免を蒙る。所謂大日本から所謂小日本に顚落した経済界の近時の動向を観るに手放しの自由主義経済を以て見送り得ざること明である。

七

戦後経済の呼吸困難は主として海外輸出市場への進出不自由から来てゐる。大東亜戦争勃発の動因は列国の日本経済に対するボイコツトから惹起した。近く前大統領フーヴアーも四月十日之を卒直に認めてゐる。彼の言を援用すれば一九四〇―四一年の聯合国の日貨排斥問題が竟にパール・ハーヴアー攻撃を挑発せしめたものである。殊に一九四一年七月二十五日の全面的対日経済断交の結果は全く日本経済を麻痺せしめた。即ち日本は巨大な失業群と窮乏に悩まさるるに至つた。かくて数ケ月後日本のパール・ハーヴァー攻撃となつたものであると。史実は寔に明白である。

しかるに日本のこの開戦動機が日本の前途を包む入道雲となつて再現しつつあることは深く戒しめ且つ悲しまざるを得ない。六月十二日のワシントンポストは其社説に於て日本経済の前途を悲観し若し各

国が日本商品の海外輸出を拒まば結局日本経済は絶望とならうと警告してゐる。即ちポスト紙は対米輸出に一役を買つてゐるマグロの高率関税を援用し、スターリング地域に於てはマライに於ける日本の保険会社及び東南アジアに於ける投資制限を指摘し日貨排斥の同一動機に就て切言した。

米国に於ける関税引上げはミシン、玩具、メタル製品、繊維類、自転車其他にも及ぶ傾向がある。更にまた日本よりの輸入品に対する割当制に就ても政府当路の研究が進められてゐる報告も伝はつてゐる。イギリスでは凡有ゆる輸入品目に就て許可制が布かれてゐるが政界及び貿易業者側ではアメリカと歩調を合せて関税引上げの世論が高まつて来た。其他シンガポール、香港、濠洲、新西蘭、東及西アフリカ、南阿聯邦など高関税、輸入半減、許可制、四月以降輸入禁止など日本製品に対する圧迫の目に余るものが続出してゐる。伝えらるる東南アジアの市場開拓や開発計画なども紙上案に了はらざれば幸である。現に先般来朝のマクドナルト高等弁務官の対日計画の敬遠方針談なども這裡の消息を反映したものであつた。

八

独り経済政策に限らないが戦後政策の致命的欠陥は国家的計画性が見られない事である。其日其時の場当りで、風の吹くまま、浪の動くままといふ日和見政策で通されて来た。デモクラシーの履違ひに雷同して上下相率ゐて秩序紊乱の競争に走つてゐる一方、一知半解の自由主義思想の強制的流行に便乗して激動期の経済復興対策に逆行しつつあること深憂に堪へない。国家的計画性とは所謂計画経済の事でない、況んや独裁政治から来る統制経済の事でもない。国家は国家非常時を認識して国民の協力を求め以て国家総力を効果的に発揮すべき方針を明示すべしといふにある。試みに現時の所謂自由主義貿易の在り方を観よ、而して其一例たる渺たるカラチの経

済地点に駐在する我商社代表者連の醜悪なる注文取り競争戦の内幕を覗け。相手方から買値を無惨に叩かれた上に面目は蹂躙され、喰はへて振らるるの恥辱を甘受してゐる始末でないか。国家は国家将来の経済発展のため情報、勧告、判断、協力に就て独自の行動を取るべきで、之がため所謂干渉政策の批評を気兼ねすべき寸毫の理由がない。敗戦後の政治及経済の根本的建直しは国家の計画的推進力あつて始めて急速に且つ効果的に期待し得ること東西古今其軌を一にしてゐる。最近の情報に依れば九月にロンドンで開かれる世界綿製品会議に於て議決せらるる協定にはアメリカは加はらぬとのことである。今や世界の繊維業界は深刻の不景気に襲はれつつあり、而して現時の経済戦に於て日本は其生産費を切下げて世界市場の一半を支配せんとしつつありと観測し一九三〇年代に七十八ケ国が日本品に対し抑圧手段に出でたることを想起せよと絶叫して日本業界を威嚇しつつあるではないか。かくて我七百万錘の紡錘機は半身不随となり、昨年の十億六千万ヤードの輸出品も一場の夢と化しつつある。繊維業界の不況は東西両陣営の対立激化による市場の狭小化とパキスタン、ラテンアメリカ、南阿、印度ネシア、濠洲諸国に於ける新興業界の躍進振りに有ることも見逃し得ない原因であらう。此情勢を観て輸入綿を以て加工輸出するが如き従来の方針其まゝの踏襲は断然一新すべきもので或は自国産の鉱物資源を以て之に代へ、或は其品質をも特選して新機軸で打出したる新精級品を以て対抗すべきである。しかもこれら抜本溯源的の所謂敵前展開が日本の置かれてゐる苦境を前にして果して自由主義経済理論を以て可能なりや否。経済政策はその一例に過ぎない。

九

中央機構強化の緊急必要性は以上を以て足れりとしない。教育の根本的改革に於て最強最大の理由があるが今は之を割愛する。ベヴアンを指導者とする

イギリス労働党左派の起草にかかるイギリス労働党の外交政策は九月或は十月に開かるべき年次大会に附議せらるる筈であるが、中共及びドイツ問題に就てアツトリー首領を辟易せしむる程の急進意見なるに拘はらず、イギリス聯邦との紐帯強化を第一としてゐることは頗る奇烈であるが其意図するところはイギリスの自主性回復にある。ドル外交からの解放にある。近く占領政策から解放されたボン政府と雖も六月二十五日中共政府との間に於て一億五千万ドルの通商協定を結んでゐる。吉田政府のビクビク振りと比較して変通自在の活計観るべきでないか。

敗戦日本は偉大な指導者を要す。しかも指導者を待望して荏苒日を送るべきでない。宜しく竿頭一歩を進めて中央機構の強化を計り先ず混乱政治の区画整理を断行すべきである。

議会政治の三十八度線

独立日本に暴風警報殺到す

――『民主公論』第四巻第三号（昭和二十八年三月十日）所載――

一

日本の議会政治は将に危地に臨まんとしてゐる。之を自覚せざるものは議会人自らと所謂ジャーナリズムと所謂一知半解の知識人のみで純情素朴の同胞は内外から響き来る政界への警鐘乱打に彌上にも不

安感を深めてゐる。議会政治は刻々と迫り来る経済危機と思想混乱に対し無感覚であり無方策である。同胞は血の一滴を絞りつづけて国家再建への納税義務を果してゐるが議会政治は勝手放題に予算の濫費分捕を繰返して憚る所もない。現に前議会の幕切れに暴行された九十余日開期延長決議の如き正に傍若無人の極端の仕打で、其心事は民主政治を裏切る所の段ではなく、正に封建独裁の代官制に於ても見られざる悪政治の露呈であつた。爾俸爾祿（なんぢのほうなんぢのろく）、民膏民脂（たみのあぶらたみのあぶら）である。議員の収得は民人血涙の結晶である。金一銭と雖も押し戴いて政治担当費に充つべきで理義に徹せざるは金一銭と雖も受けざること代表人の作法心得であらう。現に開会中の国会には、国家の深刻なる苦悩を反映せる予算及法律案は山積してゐる。しかも議員の心事一端は斯の如し。果して能く真剣を帯びて国家民人の難局に立ち向ひ得るや頗る疑問である。議場でのだらしない騒劇や小股抄ひ、揚足取り戦術などで時間を空費するなど例によって例の如く、徒らに職者の擯斥を招くのみ。其何処に真剣勝負の気魂を看取し得るか。国民生活は今や文字通りに血みどろの苦闘である。国家再建への途は余りにも峻嶮である。政界の先達は宜しく先憂後楽の道標を背負つて荊棘を切拓くべし。彼等が率先躬行の実証を示す事なくば竟に国政不振、民心萎縮を来し議会政治は自ら軌道を外ずして墓穴を掘ること必定であらう。日本の議会政治は世界政局の展望から眺めて田舎の道化劇だ。演出もさる事ながら、筋もなく、張りもなく万事に時間と金銭とエネルギーの空費である。内外情勢の急潮に翻弄されて辿り着く我議会政治の港は何処なのか。

二

独立日本の政策決定の基調は世界の情勢の把握から始められるべきだ。ソ聯圏、西欧圏及び所謂第三勢力圏の動向を見極め、之が対策を樹立すべき事が

先決である。

ソ聯圏は欧州に於てはスエーデンからトルコ国境に及び、バルチック、東独、ポーランド、チェッコ、洪、墺国の一部、ブルガリア、ルーマニア諸国が之に属し、中、近東から、アジアの各要地も其影響下にあり、蒙古、満州、北鮮を掌中に収め支那大陸を結んでその世界制覇の計画は着々として実現しつつある。而してソ聯圏とは名目上の諸勢力で、実勢力は勿論ロシア一国で其支配下にある各国に自由意思がある訳でない。ロシアの世界制服はアメリカの世界制服と略時を同うして二百年の歴史を有し、一は東から西に他は西から東に延びながら膨脹し来つた事に相違があるのみ。しかもロシアの世界制服政策が最近急激に成功して来た主因は所謂ヤルタ協定にあつた。ヤルタ協定により英米ソの所謂一流政治家は世界勢力範囲を定めて世界分割計画に出て三国の協力によつて所謂世界平和を維持せんとしたものである。かくて実行されたものは日独両国の完全武装解除であり、三国の経済的競争者であつた日独両国に対しての潜在的工業力さへも含めての全破壊であり、更にドイツの分割、朝鮮の三十八度線での両断、ロシアをして極東への進出を許可せしめた事であつた。しかしながら斯の如き野郎自大の計画が其ままに実行されて長く破綻せざる理由はない。果然ヤルタ協定の内在的失患は即刻発露し竟に今日見るが如き世界不安の病原となつた事運命の皮肉な悪戯とも云はんか。即ち日独両国の完全破壊特に其軍事力の壊滅により世界は恐るべき空白地帯の出現を感得したのである。而して此空白地帯を目指してロシアの世界制服政策が絶好の進出機会を作つた事は周知の通りである。

三

ロシアの膨脹政策を見るに其目的達成のためには一切を犠牲にして憚る所がない。現にロシア革命の動力たりし共産主義の如き今や完全にロシア膨脹政

策の重宝至便のお先棒と化し現代知識人に其勢子役を果さしめてゐる事マルクス主義の名に於て黙認し得ない所であらう。曽てトロッキーを屠つて其世界革命理論を粉砕し、ブハーリンを逐つてブハーリン・テーゼを抹殺したる事など雄弁に之を物語つてゐる。ロシアは既に一九二〇年代に於てドイツの非合法軍隊のライヒスウェアと秘密軍事協定を結んでゐるが之が後に至つてナチの擡頭を助け所謂ワイマール共和政府の顚覆の因を作つた事も明である。更に一九二二年のラッパロ条約は素より、一九三九年のヒットラーとの独ソ条約に至りては其目的が一に其領土膨脹政策にありし事、余りにも露骨でしかも権変譎詐寔に端睨すべからざるものがあつたので竟にヒットラー政府との激突となつたことは尚記憶に新なる所であらう。ロシアの膨脹政策は帝政時代から不変不動で終局に於て寸毫の協調的余地なき事は周知の通りであるが特に革命戦術に至り新機軸を打出して来た観がある。而して現代ロシアの主要政策を見るに

(イ) 今日の場合アメリカとの軍事的対決を避けながら所謂「冷戦」の激化に努める

(ロ) 朝鮮戦争を無限に続けてアメリカ軍に対しての出血作戦を強行する一方アメリカと連合軍との間に作戦上其他に間隙を生ぜしむる

(ハ) 東欧、ロシア及び支那を横切りドイツのエルベ河から印度国境に及ぶ尨大の「ロシア帝国」を更に拡大強化せんとして時を稼いでゐる

(ニ) 西欧諸国に対し所謂協調宥和政策を示してアメリカとの意見分裂を計つてゐる

(ホ) 政治的戦争危機説を流布しアメリカをして自国及び連合国に対する軍事費の増大を計らしむると同時にアメリカ経済の破局を策してゐる

(ヘ) 西欧諸国の統一結合を妨害し戦時ともなれば後方から北大西洋同盟軍を突刺す計画の下に強力なる共産主義者の第五列運動を展開する

(ト) 西欧諸国の再軍備を挫折せしめ且つ反米主義を

煽り立てる為「平和運動」の促進に対し更に努力を傾ける

以上其骨子であらう。かくて昨秋のスターリン声明で評判となつたロシアは資本主義に対し攻撃する計画はないが資本主義諸国間の戦争は不可避であるとのロシア一流の喧伝効果も見られて来た訳である。しかもロシアが敢へて即今アメリカに対し全面戦争に出ない理由は次の理由からであらう。

(イ) アメリカの原子兵器に対抗する確信が出来てゐない事

(ロ) アメリカの工業力の優勢に対しロシアの損耗作戦により果して勝利を収め得るやに就て疑問のある事

(ハ) ロシアの内部構造に弱点のある事

(ニ) 戦争ともなれば所謂反動勢力の爆発を見る危険がある事

スターリンは一九四六年にロシアと西欧との間の発火は一九六〇年から一九六五年に亘る期間の前にはないと指摘した。本心から戦争の時期如何を語る馬鹿もあるまいが兎も角ロシアとしては戦争不可避の判断下に一切の総力を挙げて万全の準備に忙殺されてゐる事は疑問の余地なく、国際情勢の甘夢を描いて独り陶睡してゐる野放図は日本政界ならでは見られない。

四

日本の占領統治が惨酷無情を極め、史上空前の現象を招来したものであつたことは今や明証されて來た。占領軍の目的と権限に就てはヘーグ陸戦条約規定三款に明記されてゐる如く国際法上一定の限度がある。しかるに前後七年間に及んだ「軍事占領」は全く国際法規に違反し日本全領土を占領し、其一切の統治権を掌握し、一時的にせよ日本をして「征服による併合」と異る所なき滅亡状態に陥らしめた。当時の所謂軍事占領は其内容を見て明なる如く軍事的独裁政治であつたので日本の政治、法律、経済、教育、

社会、文化の凡有る部面に干渉し、武力を背景として一流の日本革命を強行したのである。ガンサーの表現を借りて云はばこのやうな実験は「ただにアメリカの歴史に於てのみでなく、如何なる国の歴史に於ても前例のない全くユニークなものである」。聯合国最高司令官が其名に於て発した所謂降伏文書と称するものは日本国政府、軍隊に対しては勿論のこと一般私人に対してさへも直接拘束力を有たしめたもので正に特筆大書すべき現象であつた。一般命令、指令、覚書、総司令部覚書、セクション・メモと云つた形式で伝達されてゐたが其他文書に根拠なく口頭で発せられた所謂命令に至つては沙汰の限りといふべく極言すれば日本人の箸の上げ下げにまでその独裁政治が浸透せしめられた訳である。しかも独立一年を迎ふる今日に於ても尚占領政策の遺物を其まゝに温存せしめて、日本再建の設計図表を作り出さんとするなど阿呆の極みでその事自身が矛盾撞着だ。日本政治の沈滞無気力は占領政策再検討に眼識を欠き、勇気を失つた所に主因がある。日本憲法を始め凡百の法律制度は所謂「改正」に非ずして日本人自らの手で「創作」すべき代物である。死灰から飛立つた不死鳥に旧夢を偲ぶべき恋情はない筈だ。宜しく新生日本の理想と器量を盛つた憲法を新作すべし。教育、産業、経済、文化に民族的脈搏を打出すべし。今や政治的には講和条約、日米安保条約、行政協定といふ三大条約により軍事植民地、政治的属邦化の傾向の濃化が伝へられてゐるが、日本の権威のためにも、平和安全のためにも先づ自主独立の精神発揚が先決である。日本の議会政治は涌き立つ民族精神の潮頭に乗つて力漕し得るや否、刻下に迫つてきた一大試金石となつてゐる。

五

所謂第三勢力圏の問題に就て我言論界の認識は未熟である。アジアに於てもインド及びインドネシア諸国間に唱導せられてゐる中立論がある。米ソ両国

の紛争に捲き込まれたくないといふ衷情に対しては同情を禁じ得ないが歴史は平和や中立の単なる抽象理論を繰返してゐる丈けでは返つて逆行錯倒の悲劇を生んで来た事を教へてゐる。平和や中立を意図してゐる所謂第三勢力は夫れ自身之を維持する威力なくては期待し得ない事天下周知の事実である。左派社会党の鈴木委員長はラングーンに於けるアジア会議に臨むに際し「朝鮮を非武装し、アメリカもソ連も日本も中共も決して非武装の中立を犯さない」といふ建前で朝鮮問題を解決したらどうかといふことを提案すると語つてゐる(一月七日読売新聞)。また事実提案したやうであるがさう問屋が卸せば甚だ結構である。しかしながら朝鮮問題はどうして起つたのか。前述した如く朝鮮の分割には米、ソ両国が責任がある。北鮮を使嗾して南下せしめた責任はソ連にある。中共もソ連に荷担して責任を分つてゐる。所謂大国の既定方針から始められた朝鮮戦争が一片の政商的提案で解決出来るなど夢みる甘味など微塵もありやう筈はない。現に前以て中共を打診した結果作製されたインドの解決案が国連に提案されるやソ聯外相は膠もなく一蹴し去つたではないか。曾つてチエッコの一流政治家として知られてゐたベネシユ及びマサリックはロシアとの親善関係と所謂中立政策の維持遂行に懸命の努力を傾けた。しかしながらスターリンは共産勢力を煽動してチエッコ政府を顛滅し、斯の二大政治家は悲惨なる終焉を遂げたこと正に前轍の戒となすべきであらう。膨脹政策遂行の前には所謂中立などあり得ない。仮りに武力侵略を一時差控へて見ても武力侵略の前衛勢力たる第五列部隊を使嗾する者がある限り中立は脆くも崩壊し去ること明である。武力侵略を以て其背後から怒濤の如く押し寄せて来ることロシアの公式政策である。外電の伝へた所に依れば、若し米ソ戦が行はれた場合背後から西欧軍を裏切らしむる第五列は欧州に於て二百五十万養はれてゐるとの事である。トレーズの不在中の事実上のフランス共産党の首領の地位に

あるデユクロスは這裡の消息を漏して「無条件、完全服従」をロシアに尽すべきことを誓つてゐる。彼が昨年十一月フランス共産党中央委員会機関誌たるカシ・ド・コムミュニズムに発表した所によれば、フランス共産党はアメリカ嫌悪、大西洋同盟の転覆、西欧をして道徳的、物質的非武装たらしむるなど各種運動を目的とした広大なる国民戦線を結成すべき事のモスコーからの新指令を実行しつつあるとの事である。更に彼の語る所に依れば共産主義者の根本的課業は非武装、安全、民族独立、平和確保を看板とした有ゆる階級の連合を組織せねばならぬといふ。

六

以上の世界情勢から判断して我進路は自ら明であらう。独立とは他力に依らずして生活する事である。必要あれば他力と協力し得る意思と実力を明示する事である。しかるに我政界を支配してゐる大勢は卑屈な安易感と打算主義で、結局のところ国民の安楽死を待望してゐる様なものだ。政治家には真勇が要る。真勇は現実を直視する事から真価が発揮さるるものである。ビスマークの言によれば政治家の警戒線は抽象論と書物智識を振り廻す所にある。抽象論と書物智識は何人も放言し得るが政治の実体を益するには三文の価値もない。昨年十月下旬ローマのミランで開かれた欧州社会主義者の社会主義インターナショナル第二回大会は六千二百万の代表者を送つて国際政局の検討を試みた。其決議した骨子を見れば如何に現実政治に徹してゐるかが判明し得よう。即ち再武装支持、欧州統一、共産主義が更に拡大するのを防ぐためのダム建設を目的とする諸施設を促進する決議など強力なる反共意思を表明してゐる。民主的社会主義は其性格が民主的である許りでなく、其目的を遂行する方法は革命より寧ろ進化を俟ち、人間の基本的権利と権威を尊重する事に特色がある。共産主義は労働階級は流血と暴力に依らざれ

ば解放出来ぬと断じてゐるが民主的社会主義者は社会主義世界といふものは改革により達成せられ、産業及び共有施設の国有化はその終局目的への一歩であると主張してゐる。我議会勢力の構成政党である我社会党に就て見るも其国際世界観と対策表明が欧州社会党との間に格段の開きがある。共産主義の浸透に先づ死力を傾けて闘争する事が社会主義者に課せられた任務の第一である筈だ。暴力革命は向ソ一辺倒が強要せられて労働階級を含めての国民の奴隷化となる。社会主義者がその主張のイロハに頬被りし之を素通りして社会主義的スローガンの百万遍を呼号して見た所で所詮は空念仏に了ること必定であらう。

七

我政界の当面する最大課題は所謂再軍備問題である。之に関連して憲法第九条の取扱が問題となつてゐる。現実問題としての再軍備問題は戦争嫌悪思想と平和礼讃思想との外に財政負担が之に堪へられないういふ反対理由があるが朝鮮及び中共は戦場で鉄火の試練を受けてゐるので意気頗る旺盛である。朝鮮及び中共から見た丸腰日本の空白姿は侵入への絶好の好餌と機会とを与へるものであらう。日本の社会はパチンコと映画とお酒落で彩られ、日本の思想は向ソ一辺倒と向米一辺倒のカクテル調で浪々蹒々日本の政治は往来商買の糶売りに堕してゐる。これで自壊作用が起らざるか、外力の誘惑を招かざれば魔訶不思議である。筆者は自ら気取つて野に叫ぶ予言者を以て任ずる者でないが内外からの重圧を感ずること深刻で座視し得ないから敢て切言してゐるのだ。本稿執筆時に明にされてゐる明年度の防衛費は予算の一九・五パーセントで国民総所得の三・四パーセントである。而して西欧諸国に於ては少くも平均国民所得の一〇パーセント以上を負担してゐる。国防費の予算に対する比率は本年度アメリカ五七・七パーセント（明年度は国防安全費として七

三・〇パーセント)、イギリス一九五一年度三一・〇パーセント、フランス本年度二六・三パーセント、イタリー一九五一年度二一・六パーセント、西独昨年度三七・九パーセントとなつてゐる。この場合数字の比較は数字の取り方如何で相違も出来て夫れ自身絶対の権威あるとも思はれないが各国ともに自国国防の充実強化に異常の犠牲を払つてゐる事実は之を見逃し得ない。日本は戦後アメリカから経済援助を七千億円受けてゐる。加へて賠償支払は一兆億円にも達しよう。イギリスを始めとするブロック経済化の傾向はますます日本経済の海外発展を阻止し、独乙を先頭とする市場獲得の活発現象は世界随所に見られるに至つた。しかも我生産設備は時代後れの旧型で、所謂労働攻勢は底なしの激化振りである。日本経済はやがて窒息し竟に破局にまで追込まるる危機が到来しようとしてゐる。其期待さるる活路は僅かに朝鮮戦争による特需と所謂防衛生産計画と朝鮮復興に要する注文であるがいづれも対米依存が主たるものである。日本の独立は経済、財政に関する限り未だ独立の実証なくて今日のところ活殺の鍵はアメリカの握る所である。しかも経済独立は勤倹力行創意工夫の結果達成し得らるるものだが、アメリカからの経済独立は何を措いても防衛問題の解決が第一であらう。日本人自らの力による国防完成への努力はアメリカ軍の撤退を意味し、やがてアメリカとの対等に於て経済交渉に入る端緒を作る。前述の如くヤルタ協定の結果はアメリカをして勝利者の悲哀を満喫せしめたがアメリカの対ソ戦略の研究は必然的に極東に於ける日本の戦略的方針に追随せしめられて来た。日清、日露の両戦役の研究から出発したアメリカの新政策は朝鮮戦争の見透しと価値判断に対し卓抜の見識を示すこと必勢であらう。アイゼンハワー新政権の極東政策を全体的に揣摩する事は未だ早急ではあるが、其動向を推察することは決して難くない。即ち日本強化策が其基調である事だ。日本強化は日本防衛力の充実であるが其責任を日本

人自身に取らしむるのがアメリカの主眼であらう。

八

一九五二―五三年度に於ける日本防衛の予算総額は千八百二十三億円である。而して此総額の中で安保条約でアメリカとの共同負担の日本分担金は六百五十億円で、予備費(安保費)は五百六十億円、外に隊費七十三億円となつてゐる。しかるに目下問題となつてゐる一九五三―五四年度編成予算に於て上記の分担金は六百二十億円に減殺せられ、予備費は全く削除される傾向のやうである。其他新予算に於て全局的に所謂防衛費削減の公算が多い事は向井蔵相の口吻から看取されてゐる。

保安隊が軍隊であるかを論ずる程馬鹿気た問答はない。之は憲法の条章に引掛つた愚論で夫れこそ「筋」が通らぬ話である。「日本憲法」は所謂「マッカーサー憲法」で終戦直後の占領政策から割出された日本滅亡を狙つた記念的所産であつた。識者は現行の所謂直訳憲法を読む度毎に深刻の痛恨と最大の侮辱を回顧してどうしても親近感を抱き得ない。この憲法の第九条に日本ストリップ規定があるのに不思議はないがさりとて之を金科玉条と礼拝して珍重するのも時代錯倒であらう。保安隊が出来て千八百億円の国費を支出してゐるものを得体の知れぬ混血児祝して精神魂魄を吹込まぬままに養育してゐる事は如何にも悲惨なる国家の姿である。国政の根本事たる自国防衛の一事に於て明察と勇断を欠いてゐては余は押して知るべきのみ。日本の真の独立と真の平和は日本人の自尊心を外にして希求し得ない。

予想の予想

――「天地人」第六号（昭和二十八年十月二十五日発行）所載――

一

一九一四年七月二十八日、ボスニアの首都サラエボで墺太利の皇太子が暗殺されたことが発火点となつて、第一次世界大戦が誘発されたことは周知の通りである。丁度この日から五日後、正確にいへば一九一四年八月二日の日曜日に当るが、当時「カルメン・シルヴァ」のペンネームで知られていたルーマニア女王が、カルパチア山脈にある夏の別荘にルーマニア一流の法律家にして政治家であつたタケ・ヨネスクを招いて、戦局の終末観を聞いたことがある。彼は即座にかう答へた。いま開始されたばかりの戦争のこととて戦争の結果がどうなるべきかその悉くに就ては人間の身で何とも預言は出来ないが、次の四つの事実の到来は必勢であると。その一は数世紀間未だ見られなかつた程の諸民族間の憎悪の復活が現はれる。その二は極左勢力への傾斜が来る。その三はイギリスのやうな世襲的大統領型のものは別として王位は崩落する。その四はアメリカの精神的主導権の掌握が五十年早く来る。大要以上の予想であつたが、第一次世界大戦の結果も第二次世界大戦の結果も、大局観に於てこの予想のレールに乗つて急行した観がある。

また予想はその潜在意義を転回、拡大せしめて更に世界の現勢に対しての新展開を予想せしめてゐる。

二

タケ・ヨネスクの予想の根拠は独占的勢力の勢力維持といふことは至難のことで勢力の更替は単に時間の問題であるが、戦争といふものはその勢力の急速更替を促す動因となるものであるとの見解に立つたものと思はれる。常識観であるが時局判断の基本観でもある。今日の世界勢力はいはば米・ソの二大勢力であり、この二大勢力はまた世界を二大組織に両断してゐる観がある。

この現象は一九四五年以来顕著であるが、今日となつてはこの二大勢力の分化作用が起つてゐる。即ち六月十七日及び十八日の両日は、ソ・米両国の権威失墜を如実に示した災厄日で、前日には東ドイツの騒擾があり、翌日には李承晩の捕虜釈放があつて倶に世界の変局を示唆したものである。世界は幽鬱な所謂「冷戦型」の進行に背を反けて来たが、昨今の情勢は之が局面打破に立つ新勢力が世界の各地に観らるる有様である。米・ソの運命的対決の極まるところ、何とかしてこの冷戦の始末を附けねばならぬ破目となつたが、この始末は必ずしも熱戦とは限つてゐない。ここに二大勢力の格別の苦悶と以外国の複雑な動きがあつた訳だ。

今までのところ米・ソ二大勢力の対抗戦術は、主として自他経済力に対する馳駆駈引にあつたが、皮肉にもこの戦術にも限界点が来たやうである。米の外交方針の主軸たる欧州防衛体制の一つを見ても、独・仏関係は決して好転せざるのみか、問題の軍事・経済の主客顚倒はここにも反映し、この上の防衛強化を強行すれば反米感情を更に煽る結果となるので、結局のところ経済援助の独走となりさうである。かくてタフト一流の孤立主義復帰への郷愁の回顧さるることとなつた訳である。東独の騒擾もソ聯の誘つて来た共産主義経済政策が破綻したことが主因で、東独民の反抗が「自然発生的」と謂はるる所以であらう。エコノミストは「プロレタリヤがプロレ

タリヤの独裁に対する反抗」であると道破してゐる。

三

米・ソの二大勢力に対峙するイギリスの苦悩も深刻である。二つの世界大戦で疲労し切つたこととてその復興を計ることは至難であらうが、其の民族的野望は消耗した訳ではない。最近保守党所属の三十二歳の一下院議員は、初代エリザベス時代の夢を二代エリザベスの当代に再現しようとして果敢な運動に乗出してゐる。彼の計画はイギリスの資源と技術を動員しコンモンウエルスの純一と繁栄を促進するにある。かくて英聯邦の商工業を拡張し、相互間の新知識、新技術、新関係の発展のために百万ポンドを募集せんとしてゐるが、既に其の四分一の申込を受けてゐるとのことである。英は仏と倶に其の背後地を殆んど喪失し、其の経済呼吸は容易でない。しかも其の窮状打開を一種のブロック経済に求めようとしてゐるところに、所謂逆コースであつてもこれに抗し得ない現実的非劇を孕んでゐる。

政治的預言とか、外交的予想を語ることは危険を伴ふもので、政治の実際に当るものの戒心事である。しかし治乱興亡の史跡を辿つて見れば自得し得べきところあり、勢力の消長、運命の帰趨に就て探り得るところあることも明かである。

暴風期に経済危機迫る

政治家に明智勇断なし

――『民主公論』第五巻第四号（昭和二十九年四月十日）所載――

一

清期の詩人趙甌北の句に「国家不幸詩家幸。賦到滄桑句自工」といふのがある。天下大平時には詩思の観るべきもの少いが、擾乱時ともなれば詩意の傑れたものが多く出ることは確である。杜甫の「国破山河在」の名句が猶ほ人々の胸奥を強打しつつある所以でもあらう。日本の敗戦によつて文人の詩嚢が肥え、名作が現はれたかどうかは知らないが、亡国滄桑の変に際会して凄愴悲惨の話題が山積充満して現に盡きざることは事実である。回顧するに終戦八年、この間為政家の治績を検討して見て興国済民の経綸があつたかを疑はざるを得ない。興国済民の経綸の根本をなすものは民心に希望を与へ之を振作せしむることだ。イギリスの諺に「鉄道を建設せよ、鉄道は国家を建設しよう」とある。今日の表現でいへば鉄道建設は民心振作といふことである。国家の進展に筋道を拓くことである。この筋道を通つて万百の方策が誘発鼓動され、而して驀進さるることを意味してゐる。計画とか、組織とか、運動とかいはれてゐるが机上作文と頭脳反芻丈けで興国の大業が成就した史実はない。政治は複雑多岐の国民感情を

簡明直截に惕達表現せしむる所に妙趣がある。所謂進歩的知識人とかいはるる一群自作の迷路的政治構造論の如きは閑人の閑談議で一顧の価値もない、論より証拠を見よ、現代政治の腐敗と無能と而して無責任とは政治機構の魔術的複雑さに基因してゐることと公知の通りである。アメリカでも持余してゐる複雑政治更に輪を掛けたものが占領政治であつたが之を後生大事に守り通さうとしてゐること世界政治史の悲劇であらう。民心の振作は政治機構の構造的巧智からは期せられない。政治家の政治的良智良能が民心に滲透して期せらるるものである。所謂民主政治は高度の指導者政治で、アメリカ政治を観てもリーダーシップを除外しては説明し得ない。指導者政治とは民心を身に反映した政治で独裁政治ではないが責任政治である。政治的責任を紛淆せしむる指導者政治は独裁政治である。

二

豊後の詩人広瀬林外は明治維新の混乱期に際会して左の如き愛国詩を作つてゐる。

今日学風変　書生半化胡
人倫譏孔孟　兵制笑孫呉
不妨采長技　却憂迷異途
慨然読原道　孰復継前模

之をチヨン髷亜流の慷慨独善観と笑殺しては不可ない。明治維新の混乱は現代相の縮刷版で、今日之を追想し感得する所太だ多い。「上からは明治だなどといふけれど治まる明と下からは読む」とは当時の流行諷刺であつたが現代政治を観て民心の帰向に対する時この陰語の如く非常の不安を感ぜざるを得ない。アメリカ製憲法は明文で国会を国権の最高機関であると祭り上げたがその国会は国政審議の無能と疑獄事件の続出で今や其権威は失墜し去り、国家の基本法たる憲法自体の妖怪性を晒してゐる。これで

民主政治を誇り、議会政治を語り、政党政治を守らんとした所で大勢の決するところ竟に現代政治の防波提を支へ得るかは疑問であらう。広瀬林外の表現を借りていへば今日の学風は滔々としてアチラ流に堕し、且つ戯論の細微を誇つてゐるが現実の情勢は眼を覆ふて民心を麻痺せしめ之に乗じて自己勢力の維持にこれ汲々力むるものである。之を称して胡に化す、即ち奴隷化といふものである。孔孟は古臭いとばかり排斥し去つたのは好いとしても其空隙を塡めたものは放縦、反抗、虚無、無秩序とあつては笑ふもの却て嗤けられるものとなるのではないか。焉んぞ知らん新時代の葬送曲を奏でるものこそは新時代人夫人自らであることを。現代の流行語たる軍備反対、平和憲法擁護、局外中立論の如きも窮まるところ国家、民族を挙げて外力に屈従せしむるもので自由、独立、平和を抹殺するものに外ならぬ。無防備、中立、平和といふことは道徳最高の所産であるが、現代日本を支配している廃頽、虚無、便乗思想と、強食弱肉主義と我利我利亡者の跋扈を責めることなくして一足飛びに天上的ユトピアを説く如きは徒らに安易を逐ふて移るもので偽善も甚しい。平和憲法擁護、再軍備反対を怒号する一切の宗教及び思想団体、文化人連盟、徒食遊惰群など顧みて自らの矛盾撞着を恥づべきだ。バイブルは自己の眼にある棟梁を棚上げして他人の眼にある藁を咎めるものの愚かさを説いてゐるが正に亡国的悲劇現象を抉つたものである。これは国家興亡史の一頁でも繙いたものなら解し得らるる国家の盛衰原理を識らぬもので世界政治の埒外で野郎自大を極め込んでゐる姿でもある。林外の詩想は現代に生々脈打つてゐる。

三

日本政界の致命的欠陥は政治家に理想なく、抱負なく、従つて迫力なき所にある。堕落の原因は理想が低いからである。抱負がないからである。迫力は暴力の別名となつてゐるからである。個人然り、国

政また然り。政界のリーダーが低理想、無抱負、無気力では民心を振ひ立たしむることなど出来た話でない。今や政界は深刻の経済危機を前にして空前の苦悩に陥つてゐる。国運はその分岐点に差しかかつて来た。一歩誤れば文字通り千仞の断崖につき落されようとしてゐる。同胞死活の瀬戸際である。一切の雑音、一切の抽象戯論を排して、祖国復興の大道に結束して一路前進せねばならぬ時代である。而して今見渡したところこの国民的結束と前進を阻む勢力の中心をなしてゐるものに人民戦線的存在たる総評がある。共産勢力が中核で、之を囲繞する労働団体主脳と一連の迎合煽動文化人が主役をなしてゐるが善良なる大衆がその勢子役に駆使せられてゐることと迷惑至極といふべきだ。試みに一月二十一日から開かれた社会党左派大会に現はれた所謂総評主流の綱領論議を見る。その権力構造と闘争目標に就ていへば宛然たるロシアの代弁で日本労働者の独立と自主性従つて日本労働者の経済的維持向上に専念すべき筈の心得を忘れ日本労働者に対する親切感など微塵も認め得ない。即ち敗戦日本を支配する最高の権力はアメリカの帝国主義の手中にあり、日本は完全にその帝国主義的支配に隷属を余儀なくされてをり、従つて闘争目標はアメリカ独占資本であるといふのがその主張である。またその所謂革命方式に就て見るに「平和革命を基調とする歴史的革命方式」といひ、完全な議会方式を排除し、強固な権力基礎を大衆の中に組織的に培養し、用意するといふのがその主張である。コンナ幼稚にしてヒガンだ理論闘争が臆面もなく労働組合の代表によつて白日下に展開されてゐることは情けなくも哀れな話で世界労働界の水準に及ばざること長程万里の差がある。太平洋戦争の主たる相手はアメリカであつた。アメリカの対日占領政策が苛酷で同胞相喰むやうに出来てゐる深刻なる国家解体計画であつたことは今更論ずるまでもない。而して戦勝国が戦敗国に臨む態度は昔から常法があるので驚くに及ばない。問題は如何にし

て敗戦の恥辱と創痍から急速に立直るかであらう。闘争目標はアメリカの独占資本か、日本の独占資本かといふ如きアカデミックな所にあるのではない。若し敗戦日本を支配する最高権力がアメリカの帝国主義の手中にありとせば其鉄鎖を断ち切る唯一の方法は闘争目標を一変して先づ国内に巣喰つてゐる腐敗怠惰煽動分子を一掃することに重点を置き以て労資共通して八時間作業方式を逐放すべきであらう。勤倹力行の国内体制を作つて自主独立の経済体制を実現せしむることが敗戦日本の活路である。議会方式を排して権力主義に徹せんとする如きはロシアの後塵を拝して強制労働に移行せしむる前触れだ。

四

日本の政治家が無学無能にして卑劣臆病なること恐らく世界随一であらう。経済危機が迫り、外字新聞は筆を揃へて日本経済の破局を指摘して警鐘乱打を続けてゐる情勢に対して相も変らぬ経済援助の百万遍を繰り返して恥ぢぬ為体（ていたらく）は乞食根性も髄心に染みたものと見える。経済危機を促進して国内撹乱を起し、内外相応じて所謂プロレタリヤ独裁を実現せしめんとする野望群に対して一戦も交へ得ざる政治家など世界の何処を見渡しても見当らない。政戦とは選挙戦の別名でない。否政戦は今日こそ国民の前に展開さるべきで、政治家は自ら国民生活の奥深く這入つて日本の危機と其再建策に就て心血を絞つて語るべきである。犬の遠吠え如き散発弾で勝を制し得ないことは論を俟たぬ。伝へらるる所に依れば共産党の機関紙アカハタは三日一回の発刊から飛躍して三月一日から日刊に改めるとの事である。而して合法、非合法を通じて千五百の刊行物が全国に流布されつつあるやうで、この外、所謂各細胞では各々独立の出版物を印刷配布してゐるといはれてゐる。合法出版物の中でアカハタは十四万、平和婦人新聞四万、日本労働者、世界の友各三万、前衛、新世界各二万で、非合法出版物の中では平和と独立のため

に(四頁ターブロイト型)六万、国民評論七千、建設者二万一千、中核二千五百、警官の友四千、人民の兵士四千と称されてゐる。回覧式に読まれてゐるので其勢力範囲は想像外であるが、人心にアピールする巧妙なる戦術と権力獲得に入念の意図のあることは刊行物の題号を見た丈けでも明察し得よう。いふまでもなく共産党は世界共通色で統一強化されつつあるもので、その一切の活動と目的とは中心のモスコーで絞られてゐる。モスコーの意図は共産党を使嗾して世界支配を達成することにあつて、この世界支配政策はロシア帝制以来の一貫政策でもあり之が実現に当つては手段方法を択ばないことはマルクスが一八七六年に喝破してゐるので周知の通りである。恫喝可なり、買収可なり、巧言令色また可なり、而して其心底が酷薄残忍を極める鉄血政策の強行にあることバルト三国の併合、バルカン諸邦の隷属化によつて、既に実証されてゐる。最近我国への武器密輸入の激増が伝へられ官憲の取締また頗る緩漫の情報が伝へられてゐるが、我が今の政情不安と表裏して慄然たるものがある。而して一月二十五日から開かれたベルリン会議はロシアの世界支配政策が依然たることを更めて確認せしめたことに一つの収獲があつた。

五

日本の政界別して保守政党が再軍備を遠慮すると腫物に触る如き態度にあることは世界政局観に現はれてゐる一つの不思議現象である。イギリスでは一昨年九月三日マーギートで開かれた労働組合大会で賃金釘づけと共に軍備支持を決議してゐるがこの組合方針は今日尚変つてゐない。また略時を同うしてイタリーのミラノで開かれた欧洲の六千二百万人の社会党員の代表者会議でも軍備賛成の意見を採択してゐる。イギリス外交の根本政策が国防充実によつて国際協調を計ることにあることは昔に変らざる基調である。昨年九月二十五日国際連盟の総会でイ

ギリス代表ロイド国務相はロシア外交の所謂平和攻勢に言及して上述の基本政策を繰返し内外に公言してゐる。彼は国防を放棄し、国防力を弱むる如きことは自由諸国に取り愚かなことであると断じ、軍事同盟はロシアの軍事力の増大化のある限り当然である。我等は弱者の立場から協調に出ようとは思つてゐない。イギリス政府は国防力を維持しながらその全使命を果さんとしてゐるとも演説した。ベルリン会議に臨んだイーデン外相もこの基本外交を祖述して出発してゐる。アメリカのダレス長官の態度また然りで、彼がアチソン前長官に比し、旗鼓鮮明に「力による平和外交」を打出してゐるところにに彼一流の特色が見られてゐる。ベルリン会議が力を背後にした虚々実々の駈引と宣伝戦に終始したことは見逃がせぬ事実であつた。一月三十日、ニューヨーク・タイムス記者ザルツベルガーのベルリンからの観測によればロシアの意図は西欧ブロックを打破し、モスコーの指揮下に欧洲連合を作り、之にフランスもドイツも入れ、結局に於てイギリスも押入れて仕舞ふことにあるものと見立ててゐる。このため排米感情を煽る一方分割支配政策をも取入れた巧妙なもので経済、貿易の好餌と攪乱策の併用の各個撃破に出てゐる事実をも伝へてゐる。西欧諸国が容易に軍備充実政策を放棄し得ざる所以である。軍備の些少の空白状態があれば直ちに外力による攪乱作用が起こされる事実は大戦終局以来世界の随所に見られたものである。国防問題が政治の重要課題であることは欧米国民が深刻に教へられてゐる実物教訓で政治家はこの現実に立つて政策遂行に努めてゐるに過ぎない。労働党と組合首脳と雖も国民のこの関心事に逆行し得ないこと勿論である。

六

二月十日イギリス下院ではイギリスにあるアメリカ基地の問題で討議が行はれたがチャーチル首相は労働党議員が提出したアメリカ基地が存在する限り

イギリスの危険が去らないとの質問に対しアメリカの空軍基地は世界平和と安全に必要な期間継続すると答弁してゐる。学働党内閣の国防大臣であつたシエンウキルは党の公式意見として労働党時代に取極めたアメリカ軍基地を撤退せしむる考へのないことを表明してチャーチル首相の意見に同意した。また労働党内閣の軍部大臣であつたヘンダーソンもアメリカの協力がなかつたならばイギリスはその国防建設にヨリ多くの人と金と物とを費したであらうと回顧してゐる。遂にイギリス政界であつて朝野倶にその基本政策に対し現実的で、協調的で真に羨しき限りである。西ドイツに就て見るに占領軍費の形式を借りてはゐるものの予算の三分一を割いて国防費を賄つてゐる。その欧洲軍の成立に異常の努力を払つてゐることも周知の通りである。昨年七月二十四日のマンチェスター・ガーデン紙は「アメリカによつて強要された」日本憲法の「戦争の放棄」規定を揶揄して其平和主義はガンヂーも及ばぬ程の絶対的なものであると嘲つてゐる (Even Mr. Gandhi could hardly have wanted pacifism to be more categorical)。世界一流の自由主義の代表紙からかくまで皮肉られても尚「平和憲法」擁護にしがみつき全国遊説まで行ふ執念さに対してホトホト敬服の次第と申す外なし。やれ大砲かバターか、やれアメリカ基地反対、やれMSA排撃、やれ何々と結構づくしのスローガンであるが残念ながら悉く現実遊離の作文調である。日本経済が再軍備の重荷を負ふことは容易でないが再軍備なくして経済の発展が期せられぬ事も現実であらう。経済の発展は安全保障なくして期せられない。しかも自国の安全保障を他国に依頼して自国の経済発展のみを策し得るなど痴人の夢であらう。集団的安全保障といつても軍備のない義務のない保障条約の成立するなど想像もされない話である。良薬は口に苦い。政治家は国民に媚を売るばかりが能でない。国家百年のため、子孫の長計のため肝膽を砕いて政治の活計を策すべきである。軍備は

辛い。辛いが已むを得ない施策である。日本の政治家の中からこの難題の解決者が出ないとは不幸の極みである。

七

ヒリッピンの前駐米大使ロムロは一月三十日、ニューヨークでの一午餐会席上で演説して日本が戦時中に残した「アジア人のアジア」の思想が今尚ほ生きてゐるといつて注意を惹いた。彼に従へばこの日本の意図は革命アジアで、太平洋に国する諸国の中には今日尚この夢を持ち続けてゐる。即ちインド、インドネシア、マライ、ビルマ、等々であるとの事で、大戦後この日本の革命思想はネールによつて取り上げられてゐると断じてゐる。今の我国に取り多少面映ゆい点もあるが、第二次世界大戦によつてアジア各地に独立の潮が擡頭し世界政局に新生面を打出したことは事実である。戦前のことは暫く問はぬが戦後日本が理想を失つてその進路に迷ひ竟に立往生の姿にあることは否めぬ事実であらう。このことは卑近の例であるが韓国の日本侮辱によく現はれてゐる。李大統領の対日無礼は耳にタコの出る程聞かされてゐるので別に気にも留めないが一月十六日の記者会見では日本に支配さるるよりは共産主義者に同調すると叫び、一月三十日には日本の極東侵略の脅威を力説し、日本の野心は放棄されたのではなく、延ばしてゐるのだと盲断してアメリカの対日援助を非難してゐる。而して二月四日に至り日本から輸入さるる一切の書籍を禁じ、従来新聞に掲載されてゐた日本の商業広告をも取締ると公文声明を発してゐる。かくて韓国の対日暴威は果てしないやうだが因つて来る原因は彼に非ずして寧ろ我に在る。即ち我に独立アジアの雄魂に通ずる理想と気魄なく之を遂行する実力涵養を怠つてやるそと主因であらう。昨年九月初旬金日成北鮮首相の一行がモスコーに赴き、アメリカの対韓援助に対抗し竟に十九日に至りソ聯との間に北鮮援助協定を結んでゐる。かくて南

北の対立激化は一段と深刻となつたがこの傾向は爾来緩和の兆が見られてゐない。共産勢力の滲透作戦で南鮮の受ける影響は想像に難くない。また印度支那のフランス戦線は寧ろ敗戦色を激化し、ラオスの首都ルアンプラバンの運命戦を境界としてビルマ、タイの動揺も免れず、アジアの再革命は随所に展開されつつある。独り日本の政治家のみ井底の蛙たり、識見なく、膽略なく、窩肉群が相競つて党争に没頭して大戦唯一の産児の陣痛期にあるアジアの胎動に不感症を示してゐる。日本現在の八方塞がりの一因は日本政治家の無精、不見識から招来された。今更の如く慌て出して日本の経済危機打開の途を東南アジアの開発に求めるなど騒ぎ立てた所で泥縄以上の何物でもない。

八

目下国会で審議中の二十九年度予算案は総額九千九百九十五億八千八百万円となつてゐる。政府は一兆円を越えない緊急予算といふ事で自画自讃のやうであるが、往年街頭に見られたバナナ商人其ままの口調で小刻みに刻み辻褄だけを合せた観がある。二十八年度に比べると五百六十億円の減少であるが財政投資を加へると総予算総計は一兆二千四百億となり敗戦日本の予算としては膨張過大である。然し問題は寧ろ計数の如何でなく財政方針の根本観念と之を遂行し得る政治力に繋つてゐる。財政方針は本年に予想さるる経済危機別してインフレーションの進行に対し統一ある計画性を明示してゐない点に多大の不安がある。現に思惑輸入に対し之を阻止し得ない。労働組合が始めてゐる政治闘争に便乗されてゐるベース・アップのストライキ流行に対し無策である。国民の渦巻く消費購買に対し具体的抑制策を取つてゐない。電気料金、鉄道運賃を始め間接税の高率化に至る一連の値上げ、課税増は政府の誇称する緊縮、建全財政に対し真向からブチ毀すものであるが我不関焉の態度である。吉田首相は勿論のこ

と小笠原蔵相も亦国政の長期計画は樹立出来ないと国会で答弁してゐるが、こんなその日暮しの政策で耐乏生活を国民に求めるなど不埒千万だ。国民は政府から得た財政及び経済報告の実相に基き何年辛棒すれば、かうなるとの説明を受けて始めて政府の耐乏方針に協力し得るのである。徒らに口頭禅の百万遍を繰返されて見たところで先行きの不明な耐乏など実行されたものでない。計画なく、統一なき財政方針などそれ自身ナンセンスである。インフレーションの温床にはその日暮しの政策が絶好だ。後述するが、一月八日からシドニーで開かれた英聯邦蔵相会議は八日間の討議を了へて十五日に閉会したが、其討議々題は既に一九五二年十二月に起草されて居り、其原案方針に基いてイギリス本国を始めとして経済復興に懸命の努力を払つて来たものである。日本の政治家が如何に懶怠で、無責任であるかを深刻に考ふべき秋である。これで日本経済の危機克服など到底期待し得ない。

九

日本経済の不建全に就ては外国筋から痛撃し尽されてゐるから茲に詳述しない。其中でも最も我国で注目を惹いた民間報導の一つは昨年十二月五日のビズネス・ウヰーク誌であつたが、他の新聞雑誌も大低は大同小異の観察で日本人は少くとも三年以来途方もない贅沢生活の連続で暮し、敗戦日本の経済は立ち上がる機会を逸しつつあり、今や経済破綻の寸前にあるといふのである。反駁の余地がない。日本は主として外国貿易によつて国民生活を維持してゐるので、外国貿易での競争に堪へ得ない条件下にあつては自ら首縊る外に途がないだらう。而して外国筋で考へられてゐる窮路打開策も略一到する。即ち均衡財政（インフレ抑制政策を意味して樹てられたるもの）賃金釘づけ、公私購売力の思切つた削減の三つに要約されるやうだ。ことはインフレ対策の普遍的なもので何人も異論ないが、さて之が効果を

挙げることは容易でない。しかもこの種の施策が結実せざる限り生産コストの引下げなど実現し得ない。従つて外国市場での競争で優位となることは覚束ない。我国に於ては昨年十月ころから日本銀行の金融操作によつてインフレ進行に対処し来つてゐるが、其結果に就ては勿論限界点がある訳だ。インフレ対策の根本的解決は強靱な政治力なくして期せられない。今日の場合保守勢力の連合によつて経済危機を救ふことが第一の急務であるが、刻下の政界の情勢から判断して急速に望むことは困難であらう。次に予想せらるるインフレ対策は巷間伝へらるる一兆予算の編成がアメリカの示唆によるものであるとの噂とは別に現実に締結せらるるMSAの受入れ態勢を機会に我政府に対してアメリカの有効手段が加へらるることである。最後に考へらるる最悪の手段は日本の財政が壁に頭打ちの状勢になつた時である。昨年の我貿易勘定によれば輸入は輸出の二倍にも達し、赤字は九億四千五百万ドルに上り、前々年に比し五億一千万ドルの増加を示してゐる。この趨勢では所謂九億ドルと呼称されて来た外貨手持ちは四、五億ドルに下り貿易操作にも困難となり、否応なしに極端な輸入制限と消費規正の手段が取らるることにならう。而してこの段階に来た場合、今日日本の置かれてゐる政治状勢とその客観的緊迫感から、正常的、改善的方法で目的を達し得るか頗る疑問である。

一〇

以上日本の当面する経済危機に就て之を妨害してゐる幾つかの癌種を明示した。要するに我政治家の眼光豆大にして、膽略なく、智能なく、加ふるに人格低劣、敗戦日本をして再起せしむる情熱を欠き自ら世界に雄飛する膂力なき所に国情の沈滞内紛の主因がある訳だ。前述したイギリス聯邦蔵相会議でのバトラー蔵相の意気込みを見て他山の石我玉を磨くべしとの感を深くしたるは独り筆者のみであるま

い。彼は云ふ我々は自らの足で立ち、自らの手で独立の宣言に署名すると。また曰くシドニー会談のキーノートは堅確の発展、互の信頼、而して不断の用意であると。彼はこの決意の下に施政二年にして経済危機を克服して情勢を変ぜしめ以て経済建直しを実現し往年の英帝国の隆盛を夢見る如き気構へにある。彼は自国民の勤勉努力と独自の貿易政策で難境打開に向つてゐる。之を自力主義（セルフ・レライアンス）と称して政策の基調とした。また別に世界貿易の不況に処すべき決意表明として不断の準備（プレペアドネス）を力説してゐる。かくて彼はコンモンウエルスを通じて最高の生産と貿易の最大の水準を目標として結束を固めつつあるが彼の胸中を察するに新時代に適応する新ブロック経済によつて二大戦で受けた創痍から回復しようとしてゐるかに見える。我当路者は未だにアメリカの経済援助に未練を残しＭＳＡ交渉に際しても軽侮を受けて尚醒めざる為体であるが、イギリスに於ては已にチャーチルの所謂「援助より貿易」主義に切替へたるは勿論アメリカの不況対策にも万全の準備を果してゐることシドニー会議にも明かに看取することを得た。アメリカに於ては一月七日のアイゼンハワー大統領の教書に見らるる如く「より強きアメリカ」建設のため必死の努力を傾けて居り、其危惧さるる経済不況、景気後退のためにも所謂「経済的準備」に万端の配慮を重ねてゐる。先般公表されたランドール勧告を俟つまでもなく贈与的援助など容易に期待し得ないこと明である。乞食根性は個人も国家も侮辱を受けるばかりでなく、竟に運命死に了ること東西古今の史跡から見ても疑問の余地がない。カーライルは他人から侮辱されないために経済独立の必要を力説してゐる。国家の経済独立が必然的に国防独立を伴ふこと国際情勢を観れば明白である。国民は些の偏見なく、些の主観なく世界潮流の動向を明断して潔く之と対決すべし。これ唯一の活計活路である。

国家大患時に直言す

――『民主公論』第五巻第九号（昭和二十九年九月十日）所載――

一

松陰門下の逸材久坂玄瑞は「解腕痴言」に斯う云つてゐる。

蝮虻一螫手壮士疾解腕と漢人の言ひたりしは実に千古の確言とも謂べく、掛る英断なくては其毒肢体に蔓延して永き久き齢を保たむ男も忽に斃るるに至らむ、豈口惜きことならずや、然はあれどそれは一身のことのみにあるべけれ、天下国家の大患は同日の談にはあるまじく候云々。

蝮が手を螫したら速刻に腕を切り落す丈けの英断あるのが壮士である。懦夫は愚図々々して決心がつかず、兎角する間に毒が全身に蔓延して斃ると云ふのである。バイブルも亦別の角度から這裡の消息を平明に道破してゐる。

若し右の目汝を躓かせば抉り出して棄てよ、五体の一つ亡びて全身ゲヘナ(地獄)に投げ入れられぬは益なり、若し右の手汝を躓かせば切りて棄てよ、五体の一つ亡びて全身ゲヘナに往かぬは益なり。

信仰の勇士の鍛錬振りを教へてゐる。今や天下の形勢、国家の命脈が重大事に際会してゐることは周知の通りである。しかるに天下国家の大患時を前にして「解腕」の英断に当るべき壮士なきことやがては天下国家を亡滅の悲運に陥らしむこと必定だ。

国家の興亡には夫れ夫れの鉄則厳存す、若し其鉄則に背くものがあれば疾くに「解腕」の挙に出て以て国家大患の匡救に赴くべく、断じて狐疑逡巡を許さない。禍根切開の事一日後れば、悔を千歳に胎すこと明である。回顧すれば終戦以来十年を閲したが施政百般の事悉く姑息瀰縫、一日の安を貪つて来たこと如何にも残念であつた。

二

近着の一外国誌はトインビーの時代観を載せてゐる。彼に従へば現代は有史以来の大革命期にある。即ち西欧の世界支配と中産階級に対する労働者の反抗を挙げ西欧的割居主義に対する革命的顚覆に言及し、共産主義の政治的魅力たる「土民」解放を力説したものである。現代が有史以来の革命期にあることはトインビーの見解通りであらう。しかしこれは第一次世界戦の特質であつた国際的虚無主義の齎らした当然の結果である。国際的虚無主義は暴力主義に通じてゐる。これは第二次世界戦が多分にイデオロギー的であつて単なる民族的戦争でなかつたのに比し歴史に格別の変化を与へたものである。第一次世界大戦によつて欧州の世界支配の動力たりしその経済的優位が失はれたが第二次戦を迎ふるに最後の止めを刺したものに過ぎなかつた。第一次戦でロシアの敗戦あり、茲に共産主義のロシア乗取となりその大国的背後勢力に拠つてイデオロギーの世界的強行を敢てすることが出来た訳である。またドイツの敗戦あり茲にナチズムもドイツの大国的背後勢力を駆つて全体主義による世界支配に乗出した訳である。第一次世界戦に至る百年は平和時代が続行し、戦争はあつても地方的であり、短期であり、従つて経済的繁栄も維持し得たが、第一次戦により西欧の相貌は一変し所謂西欧的自由主義が次第に褪色して暴力主義が擡頭し来り竟に第二次戦を迎ふるに至り情勢は更に悪化した。かくて現代の所謂有史以来の大革命は其由来を虚無暴力主義に探ることが出来る。而

して之と正面から対決し得るものが大革命期の波濤を乗切り得る訳である。

三

虚無、暴力主義は畢竟唯物万能主義、経済至上主義文明の所産である。而して現代世界に於けるこの勢力の二大代表はソ聯及びアメリカであるがアメリカは西欧勢力を相続代表して世界を二分し冷戦に臨んでゐる。ソ連及びアメリカの世界観、従つてその世界政策に就ては根本的に対立してゐるが、拠つて立つ思想的立場に至つては共通で、その共通点で深刻に相反撥し合つてゐるのが実情である。

アメリカは其誇つてゐるアメリカ流の生活様式(American way of life)を無限に拡大しようとしてゐる。其根底をなすものはアメリカの繁栄(Prosperity)であり、また其根底をなす生産力の向上(Productivity)といふことである。即ち現代アメリカはアメリカの繁栄あつての事で、アメリカの経済的繁栄なくしてアメリカの権威は失墜して了ふだらう。茲に於て生産力の向上といふことはアメリカ式生活様式の絶対要件で、経済至上主義文明が産まれる所以である。諺に神は統計表を好み給はないと謂はれてゐるが、現代アメリカの一特質は人間の精神力でさへ統計表で示してゐることだ。即ち現代アメリカの最高表徴は実に生産力で、経済的価値なきものの一切は生産力に随伴する肯腸的存在に過ぎない。ソ聯に至つてはアメリカが経済的生産力を最高表徴としてゐるのに対し更に徹底した唯物万能で、生産力を神格視して之に絶対性を与へ以て人間の奴隷化を強行してゐる。而して之を合法化するために発明されたのが所謂唯物史観、弁証法的唯物主義で夙にこの方式はソ連の国家哲学として公認されてゐる。現に去る八月十二日の午後北京訪問の途次モスコーを訪問したイギリスのアトリー使節団の一行はモスコー大学を見学したが一行の質問に対し学長たるボフチエンコ教授は、学生に対し唯物弁証法史の

強制講義を行つてゐる旨を語つた程である。此事はアトリー前首相に深刻な印象を与へたものの如くAP電報によれば彼は中共に向け出発に際し、ロシア指導者に対し自由に対する西欧的解釈を説いてゐる。彼曰く東(ロシアを指す)の自由は選択せねばならぬ自由で西の自由は選択の自由であると。遖に巧妙の表現で其辺で見られる毫碌首相の放言とは霄壌の差である。

四

ソ聯及びアメリカの唯物万能主義、経済至上主義文明が行詰りを来し、竟に本来の内在的虚無主義が急に擡頭し、暴力主義が激化して世界支配戦の勝利を目指して有ゆる手段を以て自己運命の行詰りの打開に乗出して来たこと周知の通りである。世界の顔色はソ連対アメリカの冷戦に対しての態度如何を中心に種々相を呈してゐるが日本に関する限りに於て国家再建途上に於て先づ障害となるべき根本思想の除去に努むべきこと肝要である。天下国家の事は単なる富国強兵的安易思想を以て満足すべからざることは歴史の明証する所である。富国強兵的思想は曽て我国にも流行して一時の即興的人気を収めたが、軈て其低思想は国家活動を低下せしめて濱武的好戦型に堕せしめたこと否定し得ない事実であつた。現在のソ聯及びアメリカの動向は表現の巧智はあつてもその国家活動の現実から観て、低思想の旧態依然たる富国強兵策を一歩も出て居ないことに対し深き軽蔑の感を抱かしむるものがある。ソ聯の共産主義、アメリカの自由主義が倶に国際政局に於てその侵略戦に対しての勢子的演技を果してゐる事実に対しては何人も否定し得まい。国際政局の現実の相貌は日本の所謂智識人が観る如く爾く甘くない。主義の遊戯に耽らしむることは無邪気の読書先生を誑かす絶好の戦術であつたことは夙に戦国策一流の喝破した所であるが、現代に於て新版戦国策を語つても格別の創作味を出し得ないことは必定だ。日本再建は少

くとも一九五〇年二月に締結された中、ソ両国の対日軍事同盟の実体把握程度の認識から出発すべきであらう。若し同年六月に開始された朝鮮侵略戦が成功したら一九五二年までに日本侵略戦開始の予定表は其まま実現したかも知れない。日本の再建には先づ再建思想が要る。即ち正義至上に徹することである。正義は正義を擁護するため一切を犠牲として顧みぬ所に本性がある。国家の命脈はこの正義観あつて維持せらるべし。

独立の意義は茲にある。独立侵犯者と思想的共鳴あつて独立を語るなど大凡無意味の呆言だ。

五

日本政治の基本的原理は名分を正す一点に要約し得よう。正義は目的である。名は本体であるから其名が正しければ運用に於て誤りがない。西諺に「物を称ぶに其正名を以てすべし」(Call thing by their true names) とあるが同意義である。総理大臣、大学教授、大富豪と雖も、偽善者は偽善家と称すべし、変節者は変節者と呼ぶべしとの意味である。カーライルに従へば大臣など云はれる連中は「階上から通行人の群中に蜜柑の皮片を投げて当つた者」だとのことである。彼一流の表現であるが大臣は何人もなり得るがこれは其人の本質的なものと無関係である事を喝破したものであらう。日本の現代政治が低劣無能なることは世界随一である。而して総理大臣の暴言虚喝に対し正面切つて之を糺し得る者一人もない一事は正に日本の恥辱と云はんより一大悲劇である。筆者は日本の内治外交の萎微不振の実情を観て深憂禁じ得ないが茲に之を詳説するを恥づ。現代日本は敗戦によつて創痍満身で意気未だに消沈、何の日か軒昂なる日本の姿に復し得るのか疑問である。唯見る日本政界の最高峰にある者は宛として征夷大将軍たり、何人も其非違を匡し得ざることの実相である。かくて所謂民主政治の運命は知るべきのみ。惟ふに時弊百般の本は思想沽渇して流風にこれ随ふ

自屈怯懦漢の横行跋扈に委せられてゐることにある。日本の明日また推して知るべきのみ。「解腕痴言」の主人を憶ふこと格別に深きものがある。

（八月二十日識）

國本新聞

『國本新聞』は、大正期のナショナリズムに支えられ、発行されてきた新聞である。発刊に際しての社告でも「わが國本新聞の出現するは止むに止まれぬ心から起ったもの」で、新聞の経営、理想的編集の実を挙げるのは容易でないから暫らくは「月刊」で甘んずる、と述べている。「止むに止まれぬ心」とは、近時「新聞紙の多くが、最高の任務を忘れ、煽動と享樂氣分に堕し社會に媚びんとして居る」ことの結果、「新聞が國家及社會を利せずしてこれに害毒を與へている」ことに対する憂慮である。

第一号は、大正十四年五月二五日に発行された。発行人、編集人、印刷人は、新進気鋭の論客として注目されていた三十七歳の太田耕造先生であった。以来、この『國本新聞』を舞台に太田先生の活動が展開される。この年には、普通選挙法（二十五歳以上の男子に選挙権）の公布、東京放送局JOAK本放送の開始があり、翌年には大正天皇が崩御され激動の昭和史の幕あけを迎える。

ここに紹介する『國本新聞』の資料は、太田先生邸の蔵書整理中に発見されたもので、創刊号（大正十四年五月十五日付）から二百二十三号（昭和九年十二月二十日付）までの新聞がきれいに製本されていた。『國本新聞』がいつまで発行されていたのか不明であるが、いずれにせよ、第一号から二百二十三号までの十年間の責任者が太田先生であり、先生が心

血を注いでこの任に当たられたことだけは間違いがない。

今回掲載する『國本新聞』資料は、同新聞の「社論」「論壇」の文章で、太田耕造先生の署名はないが、同新聞発行の最高責任者であったことや、太田先生の永年の友人である中谷武世氏(元衆議院議員・日本アラブ協会会長)の御意見もあり、なお文体、用語法などから見て、編集委員会で太田先生の書かれたものと判断して差しつかえないものだけを収録した。

國本新聞目次

大正十四年 …… 379

奉祝を了へて／日本精神甦れ／黨禍／政黨の幕府化／貴族院健在なりや／指導的意氣を缺く／隣邦紊る／皇孫の御生誕／年將に逝かんとす

大正十五年 …… 395

興國の意氣／走馬燈の政局に面して／銀座事件に就て／政客のメンタル・テスト／思想の行動化／世相はかく語る／反勞農の世界聯盟／驅逐艦『藤』砲撃せらる／虚榮時代／黄金狂時代／權威地に墮つ／支那の政變を觀て／世相は花に背く／ジヨンブルの葛藤劇／政治戯論を戒む／政界苦悶の徴象／現代日本の急務／現代生活の解放／滿蒙の不安／研究か宣傳

か／難境に陷る／關稅會議の打切／國家完成への途／識者蹶たざるか／フランスの悲劇／アジア會議了る／物情騷然たり／近來の快事／氣力萎へたるか／リヴエラの氣焰／普選の序幕開く／オイケン逝く／學生の檢擧／大學の教育紊る／政局の暗轉／黨禍と赤禍／政治は虛僞か／御平癒を祈願す

昭和二年 …… 449

對支策の觀點／投機的政爭／嗚呼、御大喪儀／外交二難到る／政界の流行語／現實曝露の悲哀／對支策變換の機／對支策の更新期／政治の正義化／政治戰線の擴大化／政黨のトリツク／黨人の所作二つ／誘發か自發か／假面行者の政治／他力本願の時代色／佛か鬼か／英國勞働界の近況／普選の試練奈何／ロシアの日本か／政治戰線への方向轉換／昭和二年を送る

昭和三年 …… 487

昭和戊辰を迎ふ／政界の展望臺より／統一か分裂か／大學の名の爲めに惜む七生社と新人會の鬪爭／政戰の彼方へ／政黨者流の胸奥に潛む議會中心主義を難ず／議會中心政治を難ず(再論)／非常時に力を缺く／勞農獨裁政治撥かる／支那動亂擴大し意外の重大事惹起せん／治安維持の重大性／思想善導の重點／日本の歐米撤退／時代は斯く動く／分裂途上の苦惱／階級鬪爭の轉機／黨國主義の前途／肅みて御卽位の盛儀を祝し奉る／「祖上」の共産

黨／昭和三年を送る

昭和四年 …… 533
迎春の辞に代て／支那を戒む／建國祭の意義／思想的に議會を觀る／狂騒の社會相を觀る／支那の新形勢を觀る／我勞働運動界の歸趨／國家の目的觀／所謂無産黨の新進出／學生騒擾事件の一斷面／マツクの新内閣就る／食膳に政治の動を見る／日本精神の颱風化／東海より冷風を送る／國家の諧調を聽く／快漢スノーデン／失業の氾濫至る／國是を明識せよ／政治の『標準尺度』／知識階級の顚落／共産黨の墓標立つ／日本の獨立性／政治行動と經濟運動／歳末回顧二題

昭和五年 …… 592
昭和第五年／ロンドン會議開かる／政界の動きを見る／黨か人か／天地霄壤の差／財界苦惱募る／國運岐路に立つ／國事の商法支配／失業對策の一針／軍部は宛ひ扶持か／補弱心理の一觀測／軍縮と減税の交錯／マツク内閣の一年／教育界に騒音滿つ／經濟の領域を越ゆ／經濟苦でどうなるか／支那共産軍の形勢／政治の純眞性／獨逸フアシスト意氣揚る／ニュース價値の下落／支那時局の小康／政治の思想的動き／治安能力／日露戰の跡を辿る／日本の明魂に聽く

昭和六年 …… 651
政治形式の修正期／乾燥文學の打診／現代政治の指標仆る／國防危地に立つ／議會制度の危機／アメリカの危機／ジヤーナリズムの苦悶／獨裁制冤に泣く／自國意識なき一群／教育の異端相／政黨に秋風立つ／國家的誘惑相を觀る／核心を認識せよ／金融のマルヌ大戰／共産運動の增上慢／打算政治の一象徵／問題化せる現役軍人の政治論／共産黨公判に裁判の權威墮つ／誰か難局に立つ／暴風警報至る／世界の重壓を排す／聯盟政治家の苦悶／フアツシヨ運動起る／多難の一年を送る

昭和七年 …… 713
昭和七年を迎ふ／社會教育の權威／興味なき選擧戰／聯盟外交の駈引／國際軍國主義を排す／臨時議會を觀る／上海會議の波動／學生運動深化す／聯盟側兜を脫ぐ／日本は自信に充つ／世界的不況深化す／農村運動の一斷面／國家意思の强化／近時の世相を觀る／非常時政界の姿相／時難に偉人を憶ふ／內閣意識の明徵／承認の世界的意義／時難は外か內か／兩極の陣營激化せん／政策萬能を排す／非常時の誘惑／猫眼の壽府特電／日本包圍網の擴大

昭和八年 …… 768
新春を迎へて／何故の思想激化か／獨往の一筋道／形式政治の轉向期／思想戰卽政治戰／

歐洲政局の戲曲／非常政局の認識／反社會性の波動／停戰の先決問題／國家の自力更生／學界の感傷主義／轉向か戰術か／村芝居の道化劇／實踐教育の偉力／時代の一奇觀／國威維持重し／政界の中央突破／教員の赤化運動／會津戊辰戰史を讀む／政策の自己發見／アメリカの對日皮肉策／時勢觀の相違／支那崩壞の序曲か／開拓心の打診

昭和九年 …… 825

時艱に希望映ゆ／ロシア外交躍る／現代の一病相／政界の明日奈何／道德政治の權威／内政と外交不振／老宰相の壯心／日本體協の態度、スポーツ精神に背く／時代の支配力／天意と人意／外交多難を加ふ／伊獨首相の會談／政治行脚の一過程／唯物日本觀を嗤ふ／國際情勢の新認識／唯物國家觀の一例／罷業の時代色／ロシア外交の地位／アメリカの布陣／内觀の急務／一落伍者の悲哀／親切なき政治／歷史の一轉機／條約廢棄の一石

奉祝を了へて

——大正十四年五月十五日第一號掲載——

兩陛下大婚二十五年の式典恙なく了りて國民の希望は茲に一段の光彩を放つに至つた。皇室の御繁榮は日本帝國隆昌の主因にして國民の道徳的力點と經濟的活路との繋がるところ、實に我等日常生活に於ける唯一の核心、動因であること些かの疑ひなき所である。かくて我等は爾今一君萬民の傳統的旗幟を更に鮮明ならしめて道徳的帝國の完成に努むべきは勿論のこと之が爲めに拂ふべき犧牲の尚尠からざるを當然に覺悟せねばならぬ。時代相に映ずる内外の諸事象は何れも重大事にして之が對策を誤らんか、我、人倶に倒れざるを得ない。此秋、皇室の萬歳に會ふ、國民は新に結束を強くして多難なる國情をも喜び迎ふるの用意あるべきことを信じて疑はぬ。奉祝の至情を述べ、次代への決意を語ること斯の如きのみ。

政機闇に動く

田中男の政友會入りは端なくも政界に一大波紋を起さしめた。彼はもと長閥の寵兒、元帥を夢みし時こそ尚多少の同情を贏ち得たれ、政黨の首領とは似もつかぬ轉身振りであつた。勿論貴革と普選を賣物とせし政友會が彼を迎へしこと已に國民を愚弄せしものであり、其禍心を察せずしてはこの筋書は解き難き謀略である。憲政會が大に之を警戒し始めしもの強ち理由なきことでない。然も苦節三十年と稱せられし犬養氏が革新倶樂部を無理に纏めて身賣り中正倶樂部亦肝煎始め馳せ參じて其大を扶くるに至り

ては波動の次第に擴大し行くこと察するに難くない。筆者は今田中男入黨の動機、犬養氏の心事如何を檢討して之に鞭打つの勇氣はない。さり乍ら金力と權勢欲と無氣力が相交錯して我國政治家の出處進退を誤らしめ國威を内外に失墜せしむるを視る時實に堪え難き悲痛事であらねばならぬ。かくて現代政治は四五の政治家の不純なる駈引を以て勝手に彩らる澁渋たる力を缺き、創造的才分を缺き而して國家的情熱を缺くこと始めより怪しむを要しない。國民は政界の此情弊を打破し、陰謀は竟に公明に克つべからず、其器に非ざるもの其位に在るべからずとの大則確立に努むべきこと刻下の緊急事である。政友會は極端なる機會主義に墮し、憲政會は極端なる實利主義に落ち、而して政友本黨は極端なる無抵抗主義に生く。悉く政局の重荷を托するに足らぬ既成勢力たるを天日の下に曝露せし今日、この國政の頽勢を救ふべきものを純眞なる國民の中に求むべきそとは寧ろ當然である。

日本精神甦れ

特に近時の大學教育に就て

――大正十四年六月十五日第二號掲載――

十數年前歐米大學に流行せし大學擴張運動（ユニバーシチー　エクステンシヨン　ワーク）及び大學殖民運動（ユニバーシチー　セツルメント　ワーク）が近年我國大學に於ても次第に勢ひを得つつあるこ

とは稍注目すべき現象である。前者は云はば大學の通俗巡回講演で普選實施を前にしてのこの企ては必ずや急速に傳波せらるるであろう。教授及び學生の一團が全國に遊説し純眞の立場より各專門的解説を試み以て國民に知徳の開發を促し社會諸事相に對しては嚴正批評を下さしむるの素地を示すべきもの、彼等より外に適役はない。而して後者に至りては自ら社會の下層に殖民し所謂細民階級の間に伍して一切の相談相手となるもの其心情より察せば實に神の如き境地に在るものと云はねばならぬ。かくて學生達は學窓より現實社會に入るも身心の修養を體得して居る以上濫りに世間を撞つ波浪に動されない。毅然として自己の識見に居り、正道に驀進して敢て悔ひざるの用意はこの青年時代に芽生えせるもの多きこと廣く認められし所であつた。

思ふに我國近時の大學教育は學生をして研究心に徹せしむる能はず、さればとて正義心にも殉ぜしむる能はずして絶えず岐路に迷はしめて居る。さり乍ら今やこの低迷微温を極むる教育界にも大荒れの警報は來た。國情何とはなしに重苦しく、海の彼方より吹く風は何事かを豫感せしむるものの如くである。この秋身を挺して苦難の第一線へと躍り立つ若者の準備如何を思へ。大學擴張運動素より可なり、さり乍ら其説く力點は我國家、國本の根幹を指して茲に深く強く觸れねば國家今や危しの思ひがする。因つて彼等は國家あり、然る後に生活の實相あるを語らねばならぬ。理性のメスを磨き、火を熾ならしめば必ずや論旨茲に到るであろう。大學殖民運動また大いに善し、現代に流行する泡沫的不平を一掃し更に所謂金權者の横暴をも戒めんには官許、公設一切の方法は殆ど行詰つて來た。これを力強く打開して善惡の區別を明らかにし、强弱の差等を考察して些の不安なからしむることを期す、その縦横の精神的飛躍は青年時代の收獲より出づるものの强烈なるものに如かぬ。然も今の大學教育よりこの精神力出づべきか。大學は思想的三越でない、舶來の流行思想

をそれから夫れと仕入るるもそれだけでは誇り得るものでない。大學はまた移民會社でない、徒に學生を社會のドン底生活に送り出せしとてそれだけで何の誇りであらう。端的に云ふ大學の活くる道は唯一筋に創造力の開拓へと進む事にある。創造力は長き歴史的展開より來るべきもの、之を輕視して其存在の理由と意義を缺く。大學に日本精神甦れ。

黨禍

——大正十四年七月十五日第三號掲載——

日本は黨人と赤化人と新聞とに苦しんでゐる。此三者が今の儘で其勢力を張るなら日本の將來に安心はをけぬ。吾人は之を日本の三禍と云ひたい。三禍に付いて書いて見たいが紙幅が足らぬから今は黨禍に付き一言するに留むる。黨禍は黨派心と國家心との距離から來る禍である。憲政會が天下を取れば政友會が反對する、政憲が聯合すれば本黨が攻撃する、夫れが國家心から出發してゐるなら結構であるが、黨派心から出てゐるから困る。甲黨の始めた仕事は國家の爲めに必要であっても、乙派は之れを壞さんとする。乙派の任命した官吏は甲黨の天下では戯る黨派が二つあれば國家が二つに割かれ、三つあれば三つに裂かれたと同樣である。黨派黨派が分れ分れに暮してゐるのなら部分神輕的ではあるが不統一と云ふだけで禍害は甚だしくはないが、夫れが仇同志であるから仕末が惡い。甲が作った仕事は乙が壞し

乙の建設は丙が廢棄する。建設しては破壞し建設しては破壞するから結果はゼロとなる。國家の力が伸張する道理はない。夫れに選擧に腐心する結果政權に有付くとすぐ選擧費の出所を索捜する。事業を創めたり廢止したりするのは此邊の用途を辨ずる爲であつて國家のお爲は第二義である。黨派心と國家心との間には何んと甚だしき距離があるではないか。斯くして何が出て來るかと云へば、正義の没落が其結果である。私我心を以て國務に臨むから、公正人が官場に居れば必ず其要求を退けるであらふ。公正人は黨人の邪魔物となる老朽若朽の名に於て幾多の公正人が其犧牲となるであらふ。一黨の天下が他黨の天下となるときには大臣が代る計りではない、一切の官吏が殆ど交代する。官場の統一は付き、黨人に花は咲くかも知れぬが公正なる官吏が堪らぬ。就中地方官の如きは氣の毒である。選擧のときに我黨を援助せぬと云ふて其黨派の爲めに戞られる。夫れかと云ふて其黨派に援助すれば反對黨に戞られる。長官に氣兼ねし黨人に氣兼ねし四方八方に氣を兼ね、宴會と出迎へと送別とに没頭してゐるのが地方官の現狀である。夫れだから無爲が彼等の安全地帶となる譯である。氣慨あるもの官場を去り無能と私我人のみが居殘るのは自然の理數である。何んと歎かわしき次第ではないか。然るに之を以つて飽き足らず軍務大臣を文官制にせよとか、知事の公選論が黨人の間に唱導せられてゐる。陸海軍大臣を文官制にして政黨人を大臣に載くことにしたなら軍人にも憲政、政友、本黨抔の黨派が出來て軍隊が統一を失ひ統帥大權の圓滿を害するに至るべきである。のみならず軍人としての矜りがある。純白無垢の軍人をして文官の下風に立たせたくない。斯る軍人の自負心が案外士氣に關係するのである。若し夫知事公選論に至りては任命大權の干犯である。吾々國民は斷じて黨禍の擴張に贊成してはならぬ。

政黨の幕府化

——大正十四年八月十五日第四號掲載——

徳川幕府倒れて五十年、今又政黨の幕府化を見んとしてゐる。國民が之れを重大視せぬのは立憲政治と云ふ意味を履き違へてゐるからである。立憲政治とは憲法の精神に從ふて行ふ政治を云ふのであつて政黨政治抔を云ふことは勿論ない。何國の憲法でも憲法の生れ出た唯一の理由は三權分立である。國家の或る一機關が立法司法行政の三權を合有して居ては勢ひ兼併の弊害を生るから、其勢力の兼併を避け三權をして各々別々の機關をして擔當せしめ、政府は行政權、議會は立法權、又裁判所をして司法權を行わしめ兩々相對して相犯さず、相補相制して善政に到らしむること之れ憲法の大精神である。立法府に列する議員の集團が政府の實權を掌握することは此三權分立の大精神に反すること疑ひを容れぬ。日本の政治をして憲法精神と離れ行かしめんとする者は英國崇拜者である。英國の政黨政治の如きは違憲の甚だしきものであつて政治形式として少しも模範とするに足るものではない。併し英國に於ては主權が議會に存するのであるから、議會專制は主權の所在と一致して居るから憲法精神に反するの政治ではあるが、英國精神に反するの政治とはならぬ。併し日本は君主國體であつて主權が君主に存するのである、議會は協賛機關たるに過ぎない。かかる決議機關を構成する人々が多數集合したからと云ふても協賛人が化して主權者と成る譯はない。勿論政府提出の議案に對しては贊否の自由を有するから自己の

否とする議案には協賛を與へざるの權能を有するけれども、天皇の任命せる大臣を信任せぬと云ふ決議をなすことは能きぬ、之は天皇の任命大權に干犯するからである。又政府を倒すが爲に政府案に反對することも出來ぬ、何となれば之は權利の亂用であつて權能の行使とはならぬからだ。桂内閣、清浦内閣に對する護憲運動は任命大權に對する干犯であつて日本憲法の精神に反するのみならず日本精神に反する甚だしきものである。彼を捕へて白晝護憲運動なりと放言するを許容するが如きは日本國民の恥辱である。日本憲法の大精神としては超然内閣こそ最も應はしい政府組織である。立法府の構成人が其權限を越えて行政府までに手を伸ばすことを何を以て立憲政治と云はん。又政黨の幕府化を辯護する爲めに稍もすれば累を皇室に及ぼすべからずと云ふ者があるが、國民は憲法の精神化こそ希望すれ政黨政治には信用を措かぬのである。某政黨の領袖は總理大臣の公選論を臆面もなく主張して居る、之れは日本憲法を知らざるのみならず日本精神をも知らざるものである。我々國民はかかる大違憲論に對しては徹底的に其非違を正さなくてはならぬ。今や司法大臣も政黨出身者より取りて疑はなくなり、又進んで陸海軍大臣の政黨化を試みんとして居る。斯の如きは國を擧げて政黨の目的物となさんとするものである。日本の公正人は政黨專制の矯正に全努力を拂ふべきである。

貴族院健在なりや

——大正十四年九月十五日第五號掲載——

法令の大不備と政府の大過失とに依つて始められた多額納税議員の選擧戰は斯界空前の暗闘を交へ、我憲政史上に未曾有の汚點を刻して終結を告げた。戰後五日、國民の記憶尚新たなるの今日に於て少しく之を語るも徒事ならざるものがあらう。思ふに多議戰を冒瀆せしものの巨魁は政府者、次は貴族富豪の徒、次は有資格者及國民である。政府が多議戰に高を括りて粗雜散漫なる法令を出して頻りに資格者の變動を招來せしめたることは見逃し難き一大罪過であつた。而して強辨竟に其過を改むるの勇氣なくして押通せしこと亦見苦しき痴態である。かくて多議戰は政府の貴族院操縱策として勝手に目論まれしものであつた。貴族富豪の一部にありても多議戰を以て私事として怪しむなきの風あり、其一勝一敗は懸つて自己得失の如何にのみあるかの思ひあらしめた。かくて所謂特權階級と稱せらるるもの往々にして徒黨を作りて私利を壟斷せんとす。因つてその狙ふ所若し貴族院の多數黨を贏ち得るにありとせんか、恐るべきもの之より太しきものはない。

多議戰有資格者が擴大せられ政治の公平を幾分にても天下に示すことを得たることは政府に於て得々として聲明せし所であつた。さり乍ら十五名より百名、二百名と增加せし有資格者がその權利行使に當り奈何に善處せしかは大なる疑問である。金有るもの返つて金に迷ふの實感を深からしめしことなきか、多議戰の視野更に展開せられて傷くもの更に多

し、戰ふものの一大悲哀にあらずして何ぞ。かくて國民が多議戰を見ること冷淡を極めしものあるに至りしことは特筆せねばならぬ所である。

しかも多議戰の冒瀆者は何人にあれ、結果は明かに我憲政の特絶せる二院制度を破壞せんとするの暴擧に出でた。政府者自ら黨勢擴張を念として之が明黨化に全力を傾け、研究會、交友俱樂部、同成會曰く何と稱する貴族院の集團は各自の爭覇心理より好むで其渦中に入りて狂奔陰謀に日も足らざるの陋態を敢てした。貴族院に覇を唱ふるものは政柄の一半を握るものとでも心得てか、相爭つて頭數の羅致に努む。この間殆ど國家心の流露を見ることなし、これ果して國民の欣懷事であるか。

『憲法義解』に曰く

貴族院ニシテ其ノ職ヲ得ルトキハ政權ノ平衡ヲ保チ政黨ノ偏張ヲ制シ横議ノ傾勢ヲ撓ヘ憲法ノ鞏固ヲ扶ケ上下調和ノ機關トナリ國福、民慶ヲ永久ニ維持スルニ於テ其ノ效果ヲ收ムルコト多キニ居ラムトス

斯て茲に勳勞、學識、富豪の士を集めて國民の愼重練熟耐久の氣風を代表せしむること其存在の一大權威であつた。然るに今や貴族院化して政黨たらんとす、次で來るべきは貴族院廢止、貴族富豪の剿滅、國家大變革の聲ではないか。貴族院の政黨化は貴族院自身の問題でない、國家浮沈の一大問題である。貴族院健在なりや、顧みて國家の重に痛感して蹶つべき秋である。

指導的意氣を缺く

政局の前途奈何

——大正十四年十月十五日第六號掲載——

政治季節の近づくに連れて政界は頓に色めき渡つて來た。別して本年は政機の廻轉如何に依りては解散避け難きの兆歴然たり、而して一度解散の行はるるや政界の分野遽に逆賭すべからざるの恐れありて今や大小の政客が虚實の秘策を傾けて政局に善處せんとして苦悶しつつあるのさまは餘所の目にも氣の毒の至りに堪え得ざる程になつて來た。若し解散ともならば總選擧は勿論普通選擧制に據つて行はるべく黨人勝手の胸算用が那邊まで有利に數へらるるやは大なる謎であらう。憶ふに政黨政治は今が行詰りの絶頂である。而も彼らが積年朋黨比周を敢てして國民政治を布くの用意なかりし結果は覿面に應報の天罰が來た。而して其現れが皮肉にも黨員各自の心鏡に寫つて來たのも不思議と云はねばならぬ。

卽ち黨人にして政黨の不安を說くもの次第に多く如にして舊實の政治を布くべきかに想到して去就に迷ふもの、尠からざるが如きその顯著なる事例であらう。政黨が普選を前にして反轉苦惱を重ぬるが如き身の程を知らぬ結果に外ならぬこと勿論であるが、若し彼等が虚心坦懷にして我が普選の精神に徹することを得んか味方を何人に求むべきか、政綱を如何に定むべきかに戸迷ひする筈はない。換言すれば甦生政

黨の面目を出すに窮しない筈である。

即ち國民中最も至純にして勤勉なるものの大衆を容れて味方としその全生活の第一線たるべきものを掲げて政綱を決すべきである。かくて政綱は全國民の支持を受けて其生命を長からしむることを得る。さりながら之を現時の政黨に求むるも得べからざることは素より明かであらう。茲に於て無産政黨出現の大勢を激成せしめ、國家主義思想代表者の躍進を促さしめて彼等の牙城は日夜に追ひ詰められて來たること亦已むを得ざる運命であった。而して政黨の現狀は事實に於て破綻百出、内地に人心を收むるの聲望を缺き、外交に國家の抱負を示すの識見なきこと甲乙皆然らざるはない。しかも今や國家多難の時、先づ政治の建直しを斷行するに非ざれば千百の言議を盡すも甲斐なきこと素より明かである。而して政治の建直しは國民精神の振作に俟つものあること勿論ではあるが識者の指導的意氣に據ることの大なることは否定し得ない。明治維新は明治三傑を始めとして幾多の指導者を持つてゐた。而して大小の識者夫れ夫れに國民指導の任に當り以て大業成就に努めたものである。さりながら見渡す所今や朝に大經綸を布くの政客なく、野に大理想を説くの識者甚だ尠し。更にまた國民の志望次第に低落し行かんとすることは見逃し難い事實である。政界の雲行き蔭に籠りて晴れやらぬこと近來の如き奇現象を見ること少きに想到して、之を語る同憂諸氏の蹶起を促すを得ば單り筆者の仕合せのみでない。

隣邦案る

國家意識の試金石

――大正十四年十一月十五日第七號掲載――

昨年十一月北京に起つたクーデターは支那近來の政界に多分の劇的場面を展開した好個の筋書であつた。茲に馮、張相約して時局收拾の任に當り段氏を推戴して中華民國臨時執政に就任せしめたること尚記憶に新たなる所である。然るに此事ありて未だ一周年、盟約を弊履の如く棄て去りしのみならず兩氏戈を秉つて雌雄を決せんとするが如き有爲轉變の餘りに甚だしきに呆然たらざるを得ない。素より兩氏の相結ぶや一時の權宜に出でしものがあつたらう。其本來の傾向に於て寧ろ相排擊し合ふこと當然であつたかも知れぬ。さり乍ら兩氏を躓たしめたる所以のものは彼をして自由に其手腕を揮はしめて新支那建立の大業を達成せしめんことに在りしこと疑ひなき所である。尠くも爾く解するの兩氏の爲めに得策であつた。かくて段内閣の産婆役たる馮、張兩氏が誕生一周年に過ぎざる孩兒を見殺しにして顧みざるが如き如何に支那一流の政客氣質に捉へらるるとは云ひ斷じて加擔し得ざる背信行爲である。今や支那全土には澎湃たる愛國運動の次第に勢ひを得つつあるに朋黨の私鬪暗擊に國力を鎖耗し去ること實に遺憾に堪えぬ。支那は一面に於て不純なる外力の支持を斷ち、他面に於て國家創作の工夫を凝して精進す

るに非ざれば歩一歩奈落の深淵へと急ぐこと明かであるが、支那の識者中此大勢を見て大衆を指導し行くに快心の境地を見出すものもあらう。かくて馮、張兩氏の如き素より其現實性に裏切られ行く敗殘者に非ざれば幸のみ。而して之を我對支策の動きより見るに兎に角關稅會議を機縁として支那大衆の希望に幾何の滿足を與へんとせしは爭ひなき事實であつた。我當路者が對支外交に相當の新味を見せて兩國々民を直接に結ばしめんとせしことは之を諒とすべきである。しかも對支外交のこの傾向は必然に支那形勢の推移如何に對しては積極的行動を取らしむるの餘儀なきに立至らしめんこと是非もない。卽ち關稅會議を前にして國情に紊れんとせし如き日支兩國民の本意たらざること少しく事情通たらば直に諒解し得る所である。かくて兩國民中至純なる國家思思に於て相許すものの通路には自由なる東洋精神の交流あり、經濟生活に於てまた滿々たる天地の拓け得ること期して待つべきである。一時的にせよ隣邦時局の急迫を告げ來るにつけても先づ我國民の國家意識を鋭く而して正しくせねばならぬ。

皇孫の御生誕

——大正十四年十二月十五日第八號掲載——

本月六日皇孫內新王殿下御生誕、同十二日照宮成子內新王殿下と御命名あらせられしことは天下の一大慶事。別して我國民は狂喜せん許りの至情を捧げて祝ひ奉りし所であつた。申すも畏き事乍ら皇家の

御繁榮は國家の大慶即ち國民安固の懸る所である。別語之を云へば皇室は國民生活の中心に在すことに外ならぬ。かくて我國民が皇室の御繁榮を喜び希ふの情切なるものあるは天眞の至純なるものに出で寸毫の虚飾あることなし。之を今次の御慶事に就て見るも御成婚以來兩殿下の御動靜を具に拜承せる我國民がその日常生活に於て爾來奈何に希望と歡喜に充つるものありしか、恐らくは想像に飾りある所であつた。かくて竟に御姙娠の吉報あり御生誕の慶事傳へらるるに及びその至情が次第に昂騰し來りたるの跡は歷々として看取することが出來た。憶ふに我皇室の嚴存夫れ自體已に我が對世界的使命の何たるやを遺憾なく語るものがあらう。世界唯一の君主國の眞面目を知らんとせば日本を措いて他に求むるべからざることまた餘りに明白なる事實である。而も我皇室のこの獨自性はやがて世界の道義的大改造を迫ることとなるべきは殆ど疑ひを容れぬ。素より事を國内に求めて不滿の種子を擧ぐるに決して躊躇はしない。さり乍ら道德に立脚せる政治——德治に據りて一切を總攬し給ふことは歷朝相傳へて嚴守せらるる信條であり、その萬古不易の理勢たるべきことまた寔に明かである。已に上にこの大本の確乎不拔なるあり、時に權勢を擅にして聖明を蔽ふものあるも暗雲次第に去つて光明の遍照を仰ぎ見るべきは言ふを俟たぬ。所謂一君萬民の道德的意義ある所以である。今や世相は經濟問題に動機せる各種の悲劇に彩らるる半面に於て之を蹂躙して憚らざる國際戰の露骨なる飛躍を皮肉にも示してゐる。而して其因つて來る所悉く民主、自由、共産國の唯物思想なるも注目すべき所である。日東帝國の萬歲に際會して蒼生の至情を述ぶること斯の如し、國民的歡喜と自覺を彌上に促すことを得ば幸之に過ぎぬ。

年將に逝かんとす

——大正十四年十二月十五日第八號掲載——

大正十四年將に逝かんとす、多少の感慨なきを得ぬ。回顧一年、今その二三を語らんか、國民的理想の現るることなかりしことは痛恨事の一に數へねばならぬ、内治は素よりの事、外交に於てはその最も甚だしきものがあつた。内に意氣の旺なるものあらば力自ら外に現るるは言を俟たぬ。卽ち外交の振はざるは、民心の大缺陷を曝露せしものと云ふべく、斯くて國民經濟の大策を建つるの用意を缺き、王道を世界に布くの勇斷を缺きしことの大なりしことを惜まざるを得ない。而してこれ一に我國民的理想の低劣化に因ること疑ひを容れぬ所である。國民的理想の低劣は一轉せば國民的無理想の餓鬼道に陷る、僅に一葦帶水のみ。國家危地に臨むも、民心壞亂の瀬戸際に迷惑するも關する所なし、其甚だしきに至りて外力に據つて國礎を紊さんとするものさへ頻出せる程である。しかも民心湧かず國論動くなし。かくて果して國家ありやを疑はざるを得ない。憶ふに理想なき所に感激なく、感激なき所に生活なし。而して我等の生活が國家生活たることに重大の意義を持つべきは特記せねばならぬ所であらう。新興勢力の擡頭を稍鮮かに看取し得られしことは快心事の一として推すことが出來る。その勢力の何たるかに至りては各人各樣の見解もあらう。さり乍ら彼等の中朧氣乍らに辿るべき道程を辿り來るに及むで自らの力の案外に強きことに驚きしものも尠くなかつた。所謂舊き神々が死して新らしき時代が新らしき人々

に依つて建立されんとしつつある生々の意氣に感得せしめられる。卽ち時代は正しく一轉して正眞正銘の力競べの世界に移つたのである。かくて有ゆる分野は惜しげもなく劃されんとしつつある。赤と白、賢と愚、人と猿、而して國家と非國家との區別の如き其尤なるものであらう。而して區別は必然に競爭を伴ふことも明かである。我等は人を驅つて動物たらしめ、國家を敗つて修羅場たらしむることに斷乎として抗爭することを宣明する。新興勢力の戰術は奈何にあれこの大題目に基礎附けられるべきは勿論である。新興勢力は奇道を以て舊弊とし覇者を以て古風とすべきこと亦素より明かである。一年を回顧して述懷を披瀝して同志の明鑑を俟つ。多幸なる越年を祈り併せて諸氏從來の御援助に對し深厚の謝意を表する。

興國の意氣

——大正十五年一月二十五日第九號掲載——

一

國家民人の心機一轉を憶ふ、寔に新歳は之が絶好の機會である。民人今の如く倦めば世相の險惡化は竟に免るべからず、やがて不測の禍災の招來することも明かである。

さりながら人若し時に奮撥して更始一新を期するあらば多く年頭を選ぶべく、かくて精進の意氣を負ふて立つあらんか國内に鬱屈せる決気を一掃するに充分である。しかも爲政家にして民心の動きを察して施設を誤る事なく、國民また多難事に處するの用意ありたきことは勿論である。

二

端的に言はんに我國は内に政治の刷新を斷行して力を外に向くるに非ざれば生くるの途がない。素より政治とは國家施設の一部を指して言ふのではない。一國風教の立直しより出發して國家の全民人を如何にして生かしむべきかの方策を決定することを意味してゐる。しかも我政治の實際を觀るに理想を缺き、操志を缺き、而して力を缺くこと何人も疑はぬ所であらう。かくて民心の動搖となり社會の不安となることは已み難き情勢である。現代に政治の無力の叫ばるる所以のもの一に現實政治自らの招きし罪に外ならぬ。而して政治の無力は人心を離散せし

め竟に同胞相鬩ふの慘事を呈せしめ、やがて國力の消耗を來さしむること古今其軌を一にす。國力足らざるに力を外に用ゐんとするが如き素より痴人の夢に過ぎぬ。

三

政治の刷新は思想及生活の刷新に外ならぬこと勿論であるが之が爲めに拂はるべき犧牲の大なるべきことは素より覺悟せねばならぬ。而して犧牲は我國に在りては一死以て君恩に報ずべきことに於てその絶對性を持ちまた平等性を持つて居る。其根本思想に於て不拔の信念あり、因つて隨所新境を拓くに不斷の力のありしことは何人も疑はぬ所であつた。然るに今やこの絶對性と平等性の稍搖らぐものあり。所謂特權階級と稱するものの中にありても思想及生活の著しく主我的なるものあり。其の非國家的行動に於て所謂左傾危矯の徒と別して異ることなきに及むで兩者鬪爭の深刻化は牢乎として抜くべからざるものとなつて來た。かくて國内に何の政治刷新が可能やう。國本社同人が深憂禁じ能はずして蹶ちし一理由も茲にある。

四

力を外に向けざるを得ざる所以のものは我國民生活の打開策に備ふること及び我世界的使命の遂行に外ならぬ。前者にありては主力を對支外交に注ぐことに於て當面の關心事がある。さり乍ら方今の對支外交に我國民生活の脈絡を傳ふべき實意なきことは已に識者の痛感せし所であつた。現に過般の滿洲動亂に之を見るも顧議の拙策に傷きし同胞の可なり多かりしことは知る人ぞ識る。更に國論の冷淡また沙汰の限りであつた。かくて我國民の生活苦は果しなく續くべきか、想ひ茲に到る毎に慄然として怖れ戰かざるを得ない。已に衣食足らず奈何にして東方精神の選手として泰西に見ゆることを得やう。歲革まると倶に上下能く一新して興國の意氣に生きねばな

らぬ。

走馬燈の政局に面して

加藤首相の死を悼む

——大正十五年二月十一日第十號掲載——

加藤高明氏の薨去は政界の小黨分裂的傾向に更に大なる加速度を與へた。曩に原敬氏逝きて之が先驅を示したりしに今また此巨星殞ちて政情何となく安定を缺くの思ひあり、因つて政客の苟合離散の漸く太しきを加へ來りしこと是非なき次第である。加藤氏は所謂金佛首相の異名に依り知らるるが如く無愛想の鐵腸漢にして常世の才子には適さぬ所が多かつた。さり乍ら私人として稀に見る忠節の臣であり高名を後世に傳ふるに於て決して恥かしからぬ偉材であつた。而して氏の此の風格は苦節十年の憲政會に反映して能く永き逆境に堪ふることを得しめ今や竟に志を天下に布くの好時を招來せしむることを得たることは確に特筆せらるべき所であらう。

憶ふに政界の無力墮落の甚だしきこと今日に於て窮まれりと云うも敢て過言ではあるまい。政策に經綸を缺き、治國平天下の心意氣を忘れて只管に自己頭上の利害安逸に狂奔する政客連の多きことはその功み難き實相である。かして政界は現時の如き行詰り

に逐はれて來たること明かであるが之が打開策としては差當り政界先覺者の指導的精神の强靭性に求むることは確かに其一方途であらう。而して憲政會は加藤氏の性格其ものの如き確實さを以てヒタ押しに今日の地位にまで漕ぎつけ來りしものの此亡き後に於て如何に變轉し行くべきかは興味ある問題となつた。轉じて之を三政黨の首領に就て云ふも若槻、田中、床次三氏の如き夫々の特質を持つて新局面の展開を策せんとしつつあることは察するに難くない。さり乍ら時代は已に躍進急奔して既成勢力に立つ月並的指導者の指導外に到りしことをも看取せねばならぬ。識者は政界の分解作用の眞因を洞觀し得べく政治の更生的方面の那邊にあるかを感得した事であらう。

銀座事件に就て

爲政者の三省四考を求む

——大正十五年二月十一日第十號掲載——

黒色青年聯盟の銀座荒しは各方面に可なり强きシヨツクを與へた。而して一味の已に檢擧せられ、當局また將來の取締に一層の留意を拂ふべきことを言明したる今日取立てて論議するの煩を避けたきも之を機として近時頓に著るしくなつて來た直接行動的社會相の傾向に就て二三の感想を語ることも從事な

らざるものがあらう。

一、現時の社會制度に就て呪ふものの尠からざることは事實であるが、其憤懣の情を奈何に能く導くべきかは刻下の緊急事である。局面打開者中動機の至純なるものは素より僚友として能く其の不純なるものは嚴罰以て臨むべきである。

二、右の心持は問題に當面して誰しも用意せねばならぬ根本思想であるがさて國民は互の襟度を大にして輕擧盲動者の場當り騒ぎを葬り去るの了見が必要である。市井の一雜事に神經をピク付かせるが如き國運隆昌を期するものの斷じて採らざる所である。

三、現代が寔に容易ならぬ形勢にあることは明かであるが之を乘り切るには是非一君萬民の政治思想に徹せねばならぬ。跛行的經濟現象の如き破壞的復仇行動の如き孰れも儼乎として矯ざるべからざるもの、之を矯むるにまた決して甲乙なきを期せねばならぬ。政治は互に知り合ふ事に於て完きを得るものである。切に同胞の、特に爲政者の自覺と蹶起に俟つもの多し。

政客のメンタル・テスト

先憂後樂の逆轉

――大正十五年二月二十日第十一號掲載――

三、腕がある、讀み書きは出來るが操行零のものがある。また入學難に這入るべき手合であるが政界にはこの點が頗る寛大なることは不思議な現象である。政客といふものが政治道徳ヌキにパスして行かるる所は豪い。

四、試驗場は黄臭紛々、あれではテストの爲しやうもない。

かくて政客は天からゼロ、現代政治の權威なき所以も明かであらう。曾て我先覺者は先憂後樂を以て政治家の心掛けを語り且現に之を實行したものだ。而して其治績は大に見るべきものがあつた。しかも今の政客の心理は先樂後憂でないか。これでは奈何にして民人の信望を繋ぐことを得やう。已に民人の信望なし。政治の行詰りを來し、政客が束となつて檀の浦に追ひ捲くらるることは明かである。

惟ふに我國は今や國民生活の危機に臨むでゐる。正直なる者、勤勉なる者が一椀の食にさへ事缺くに至つては國情の安からざることに無理はない。茲に於て國民生活を基調とするの大乘的政治の實現を圖るべきの急務は來た。國民は張膽明目先づ政客のメンタル・テストに取り掛らねばならぬ。

一中學校の入學試驗にさへ心理考察が重大視せら

るる今日、一國の政治を議すべき天下の選良にこの共なきは大きな矛盾である。而してこれは以下の理由から起つた疑問に因る。

一、政客に甚だしき常識の缺格者があることは事實のやうだ。某政黨の某々領袖の如き英國のゼノアを論じ、ブライト、ゴブデンを一人の名前と信じて天下の失笑を招いたが、此種の無識は寧ろ愛すべき方であらう。昨今の議會の模様では其智的態度は腕白小僧以下である。

二、現代の政客には品好きユーモアがない、親しみのある無邪氣さがない。あれで能くも議會入りが出來たものと思ふ。察するは議會はグレシアス方則の行はるる所、之が小學校でもあれば感化院向きの多いこと請合である。

思想の行動化

青年學徒に與ふ

――大正十五年二月二十日第十一號掲載――

近頃流行語の一に思想の行動化がある。所謂新人と稱するものの好み唱ふる所であるが正體を窮むれば枯尾花の如く何の變哲もない。

若し文字通りに之を聞けば至極同感、陽明學徒たりし我が大鹽中齋の如きは思想の行動化を勇敢に示せし第一人者であつたらう。しかし近時の流行語は

「思想」に新味を附けしものの如く思想即破壊の感あること看過し難き事實である。かくて傳統破壊、制度破壊而して道徳破壊の如き所謂思想の行動化の狙ひ所であるかも知らぬが、何ぞその淺薄不識の甚だしき。

思想の行動化を唱ふるものの中、青年學徒の尠からざることは痛嘆に堪えぬ所である。社會科學研究會に屬する學生にして罪を國法に得て前途を誤るが如き千秋の恨事であつた。思想の行動化は觀念の遊戯でない。故に机上より街頭に一足飛びには許されぬ。更にまた思想の行動化は日常の茶飯事でもある。殊更に之が力説に出づる所に何等かの不純さが窺はるるとも云はれやう。今や現代人は平凡に倦き新奇に走り、新奇に戰きて平凡に歸り左顧右眄寔に安住の地なき有様である。而して其一例に思想の行動化が出でた。國民は能く思想と文字の假面を剝ぎ取つて其實相に徹するの修養に努めねばならぬ。

世相はかく語る

國家興隆の基礎奈何

——大正十五年三月十日第十二號掲載——

國家興隆の基礎は國民の政治意識の明覺と宗教的情感の清冽にある。かくて一は先ず國民の經濟生活

の開明を促し併存し併進して始めて國礎をして益強靭ならしむることが出來る。然るに近時の我政界の模様を觀るに國家興隆と似もつかぬ現象が頻頻として傳へらるることは遺憾に堪えぬ。或は公明ならざる妥協政治、或は醜惡極まりなき摘發沙汰など政客の志望豆大にして心事の陋劣なる殆ど筆にするも忍びざる所である。しかも政治の墮落は必然に民心の險惡を招く。政治を私議し、政權を飜弄して顧みざるの結果は貧乏不平の徒堂に充ちて國情の何となく安定を缺くに至るべきは自然の勢ひであらう。而してこの勢ひの一度決して所謂既成勢力の堤に迫り來らんか、時已に遲く大小の政客の運命の如き素より知るべきのみ。惟ふに今や朋黨政治の現實曝露は遺憾なく展開せられ我國民本來の政治意識たる一君萬民の大乘政治に還るべきの秋は來た。國民は道義の利刃を擬して躍つの用意あらねばならぬ。我國民の宗教的情感の鈍りしことも亦久しきことである。今は一切の宗教は其權威なく殆どその存在理由さへも疑はるるものあるに至つた。近く本願寺問題の紛爭事あり、年若き法主を中心として恩愛と因襲に絡まる大悲劇が傳へらるるが如き何たる幻滅であらう。さり乍ら一本願寺問題は我宗教界の一傾向を物語りたるまでに過ぎぬ。末法の世に誰か之を罪ありとして糾彈し得るものやある。我國民の宗教的情感の清冽なりしことは之を遡りて古代に求め得べく有史以後もその美風は隨時隨所に看取することが出來た。圓滿無碍一切の小乘心より脫脚して復烈々たる國民指導の意氣を吐け。

反勞農の世界聯盟

我國民の蹶起に待つ

——大正十五年三月十日第十二號掲載——

反勞農の世界聯盟就るのは報道は國本新聞が第一に我國民に傳へし所であった。所謂世界主義と銘打つて諸種の惡策を廻らすものの尠からざることは夙に知れ渡つた所であるが、之に對峙して國民主義の大同團結を計りしものの勢未だ揚がらざりしことは一大遺憾事であった。國民主義の大同團結は素より眞の世界主義とは逆行するものではない。否眞の世界主義は眞の國民主義より發足せらるべきものであらう。さり乍ら現代の所謂世界主義は道德破壞の魔手が働くことを看過するを得ない。而して其最も著るしきものに勞農共産派の策動あることも事實である。惟ふに我國民主義が儼乎として道德に立脚して動かざることは建國以來の傳統にして之が擴充こそ我世界的使命に外ならぬ。然るに若しこの我使命と相容れざるもの、特にその反道德性の明かなるものあらんか、竟に之と正面衝突は免れ難きものがあらう。國民主義はシヨービニスムでなく、素よりジンゴイズムでもない。否斯くの如きは已に前世紀の怪物、から徒なる排他陷穽は到底現代の人心を捉へ得ざることは明かである。混亂の世界に芽生えんとする國民主義の力はやがて國民の去來起滅を決すべき嚴正批判であらうが、かくて亦國民主義は國民道德

の發揚となるその世界聯盟を策して蹶たんとするもの意氣を見よ。

驅逐艦『藤』砲撃せらる

國民軍の不埒に備ふる途奈何

――大正十五年三月二十日第十三號掲載――

支那の近情を觀るに國民軍の横暴跋扈は目に餘るものがある。而も事の支那内政に關する限りに於ては之を語るを暫く差控へたきも、其の人氣取りと毒計に動機する對外策が漸く露骨となり不遜暴戻を極むるものあるに至っては敢て一言せざるを得ない。その我國に加へし侮辱を擧ぐるも近く楊村に於ける駐支陸軍に對する不祥事ありしに今また塘沽に於て我驅逐艦「藤」を砲撃するの奇怪事ありて事態は頗る重大を極め寛仁大度の我國民も今は竟に黙するを得ざる程の憤怒を覺えて來た。憶ふに今次の事端は義和團事件最終議定書第八條並に第九條の明文を破りたる背信行爲に發せられた。卽ち上記の國際條約に依り支那は北京より海口に至る交通の自由を保證し爲めに大沽砲臺の武裝嚴禁の筈なりし所、國民軍は砲臺を占領して之に砲列を布き且つ白河水道に水雷を敷設するの暴擧を敢てしこと正に之が實證である。かくて列國の商船は溯航の危險に暴露せらるるに至り北京外交團は我然色めき渡り本月十五日を期

して障碍除去を條件として共同警告を發するに至つた。而して之より先我海軍は白河航行の安全維持の爲四隻の驅逐艦を溯航せしむることとなり、有田總領事と國民軍總司令鹿鐘麟氏との間には充分の打合せさへも了せし程の用意を怠らなかつた。然も彼は突如として這般の不埒を加ふ、我國人たらざるも誰か憤激を禁じ得ざるものあらんや。加之彼の罪は尚重し卽ち其非を悔いざるのみか、返つて我の非を數へて逆襲し來る。何たる極惡非道であらう。我有力識者間に於て相當の決意を以て彼に臨まんとするは寔に無理からぬ所である。我對支外交は特に不徹底に終ること從來の例であるが此度の事も或は其轍を踏むに至るかも知れぬ。而して十八日正午を限りたる我最後的通牒は奈何、或は其落ちは加害者の處罰、責任者の謝罪、損害賠償、將來の保障と精々注文を附けることでもあらうか。さり乍ら行詰りの對支策には何等の權威なきこと知るべきのみ。支那國民軍の不遜に米露の背後地に據ること多きの事實に鑑みても對策に一轉機を編み出さねばならぬ秋である。砲後の人日本人立たざるか。

虛榮時代

——大正十五年三月十日第十三號掲載——

世界は虛榮時代に這入つた。經濟的、思想的虛榮病患者の此處彼處に累々として道塗に横はるを見よ。而も一度此病に罹るや容易に治り難く、傳染力の猛烈なることは恐るべきものがある。その經濟的虛榮に都會病患者の如きあり。生活の倦怠と刻々の刺戟の交錯に逐はれて竟に獨自天眞の個性を失ひ模倣と不安の裡に一生を終らんとするものの如き比々然らざるはない。かくて物慾の極りなき世界に在りて不斷の懊惱に反轉して悶くものの心事は貧富無差別に表現されてゐる。更に思想的虛榮病患者に所謂主義者の一團がある。共産主義者の如き其一例であらう。事の大小となくモスコーよりの訓令を受け乍ら自國へは反逆を企む、しかも反逆自らを以て自國人への快味を誇るが如きその表徴は疑ふべくもなくこれが眞正患者たることを語つている。思ふに虛榮は國家を傾け、個人を倒す大難たることは古來より頻りに戒められし所であった。しかも今や斯病蔓延、特に青年を襲ふことの甚だしきものあるは寒心に堪えぬ。虛榮一轉せば自暴自棄、之を救ふべきものの責任は何であらうか。

黄金狂時代

剛俠漢よ出でよ

――大正十五年四月十日第十四號掲載――

議會に於ける議員の狂舞痴態の實相は之を筆にするさへ潔しとせざる所であつた。況んや之を批評是非するが如き已に根氣もなく興味もない。逝くものは夫れ斯の如くにして自己の運命を刻み虐むて自らの姿を失せるのであらうが、而もこれ大日本帝國の縮圖に現れたる運命劇と思へば外は春乍らも哀情何となく淋しさに堪えぬものがある。憶ふに政治が現實の力に左右せらるる以上、欲するも欲せざるも國民各自が其直接の影響を受くべきことは論ずるまでもない。而して現代政治が政黨は卽ち代議士の寄合せ世帶なることの現實の事實に對しては何人も否定し得ない所であらう。かくして一面に於ては現代政治の果てしなき横暴が現れ、他面に於ては現代政治に對する根強き不滿が漲り渡つて來た。所謂既成勢力打破の叫びが特種の人と制度とに對して向けらるる所以のもの其心情の程は察すべきである。しかも政治の破綻は國民生活の破綻と全く無關係ではない。所謂政治家と稱するものが一國の政治を餌食にして私利を計り、順逆を顚倒して更に恥なきの體たらくは政治の狂騒化を惹起せしめたが、卽ちこれ國民生活への大暴風來を豫感せしむるものでもある。かくて政治紊れて民心頓に不安を加ふべきは明かで

あるが、其根源奈何を究むるに極端なる現實主義の勝利にあることを忘れてはならぬ。而して議會に於ける醜狀は此主義より選ばれたる闘者の競爭のみ。憶ふに現實主義尤もなるものに黄金萬能の姿がある。制度を黄化し而して人を黄化し世界一切を其支配下に收めんとすること正に其誇りである。かくて現代は黄金狂の跳梁跋扈する所たらんかを疑はしむるに至つた。富むで驕らず、貧して屈せざる剛俠漢の出でずんば一切の革新は不能のみ。

權威地に墮つ

大逆事件に絡む怪事件

——大正十五年四月十日第十四號掲載——

一世を聳動せしめた大逆犯人朴準植並金子文子に對し去る五日畏くも減刑の恩命を下されたことは聖旨の如何に御仁慈鴻大無邊なるかに我等國民は恐懼感激するのほかない。

然るに茲に某大新聞が右事件に絡みて勢力擴張を企らみ、畏れ多くも豫め恩赦を私議冒瀆して憚る所なく竟に大勢を作つて當路に迫るに至つた一事は近來の大奇怪事として我等は默過するに忍びない。而も國民の之を視ること冷炭を極むるものあるは更に大奇怪事とせねばならぬ。政府者の態度の不明不斷

なるに至りては實に言語に絶するものあり。何の顔ありて補弼の責に任じ、民政の重職に座することを得るか、深く痛撃せざるを得ない。政治の基調とする所は王道の坦々たるを行くに在り。天空海濶些かの屈託なく、些かの凝滞なきを期するより外に良途がない。夫の小智小策を弄して一時を糊塗して得々たるが如き國家百年の計の前には無用有害の事のみ、断じて採るべからざるものたるや論を俟たぬ。而して近時政界の憂患を觀るに國家百年の計を謬る禍根の頻々として傳へらるるに之が徹底的芟除を試みざること痛恨に堪えざる所である。所謂泥試合と稱せらるるものの如き之が好例であらう。政治の黄金化を默過しては奈何にして國家の綱紀を維持して行くことが得やう。しかも禍根のヨリ大なるものに俗論への迎合がある。新聞の虚勢に戰き其宣傳に乘ぜらるるが如き正に政治の大墮落である。某新聞の大膽不遜なる投機的記事は正に國家の根幹に斧鉞を加へんとするもの、之を默認して可なりとせば由々敷新例を出すことを測り知るべからざるものがあらう。憶ふに問題に直面して靜思すれば之れ當路者、識者の權威地に墮ちたるの兆である。噫かくて尚國民の健在を疑はざるを得ない。

支那の政變を觀て

日支の活路奈何

——大正十五年四月二十日第十五號掲載——

支那國民軍の傍若無人の振舞に就ては本誌前號に於ても痛撃をせし所、而して其後の行動を觀るにその狂暴は極に達し竟に段祺瑞氏を襲ふて北京に、クーデターを布くに至りしこと傍觀者をさへ憤激禁じ能はざらしむるものがあつた。憶ふに支那の兵亂は其動機する所古來より殆ど一定し二、三武將の野望に出づるに非ざれば外力の使嗾に因ること明かである。謂ふところの國民軍に至りても國家建直しの意氣を看取するに難く多くは輕擧して外力に乘ぜらるるの徒を以て充つることは多言するまでもない。卽ち徒に時流を趁ふものの相寄つて之が先達を爲して内外勢力の合縱連衡を策するものに過ぎぬ。奈何にして「國民軍」の名に相應はしきものと云ふことを得やう。かくて其進退は朝令暮改、昨は某外力と提携して共産過激の大旆を掲げて天晴の新興力を示すかと思へば今は某々武將に加擔して反動的毒刃を揮ふに躊躇する所がない。その節度なく儀禮なきことを咎むるが如き寧ろ野暮の極であるかも知れぬ。さり乍ら國民軍の跳梁跋扈は素より我に於て無關心ではあるが、その支那政情に與ふる影響の一轉して我特殊地位に及ぶべきものの奈何に至りては默視すべからざるものがある。しかも近く其勢力は北京に於

て急轉直下し復容易に蹴ち能はざるに至りしことはせめてもの幸福であった。惟ふに支那に於ては經濟回收を看板とするものの窮極に於て人心を收攬すべきことは論を俟たぬ所であるが、之が爲めにも日支經濟提携の實績を示さねばならぬことは明かである。しかも最も緊接せる兩國間には現に踰ゆべからざる各種の溝糟あり、之を無視して架空の戯論と狂騒に日を暮すが如き竟に彼此運命の窮まる所は知るべきのみ。支那近時の動亂を目して年中行事の一たるものとするも此間時代色の推移は見逃し難きものがある。彼に戒むべきものを以てまた我自らの反省とすべきものあることは勿論である。

世相は花に背く

この民心の動きを觀よ

——大正十五年四月二十日第十五號掲載——

春爛漫の今時、花に背きて人生を破り傷つくるもの多きことは本年が別して目立つて來たやうである。夏に涼風あり、秋に月あり、冬に雪あるが如く春に花あることは何んの不思議はない。さり乍ら春は一年を通じて最も華やかなる節季なるだけに人生の閙に歩くものの氣魂を撹亂すべきことの多きを否定し得ないであらう。春は花、その行樂に寸陰を惜で大自然との融合に快味滿喫を心掛けしことは日本

精神の誇りであつた。堤あり、一株の櫻花あらば薄暮莫蓙を布きて酒を呼び、友を招き、名吟を口すさびて浮世一切の勞苦を慰せしが如き更に一段の妙趣でもあつた。さり乍ら今や傳統を洗ふ時勢の波浪は高くして竟に我國民のこの風流心をも奪はんとするに至つた。村落には小作爭議の頻發あり、都會には勞働問題の白兵戰絶えず、而して這裡に幾多の哀話涙記の宿ることも素より多言するまでもない。かくて今は如實に花より團子の問題が深刻に迫つて來た。所謂無産階級が相結束して蹶ち政治經濟、社會の建直しに精進せんとするが如きその心事の程は察するに難からざるものがある。日本は日本人の日本、勞資兩乍ら兩極に走つては實相に遠ざかること明かであるが識者は特に留意して民心の動きを觀て上乘の對策を講ぜねばならぬ。世相は今や花に背いて移る。

ジヨンブルの葛藤劇

英國の炭抗罷業を觀る

——大正十五年五月十日第十六號掲載——

近く決行された英國の炭抗罷業は大戰以後に涌いた世界的興味の尤なるものである。其思想的背景が縱横に雄飛せる點に於て、政治的謀略が巧妙に廻らされし點に於て、而して其規模の雄大にして陣容の

堂々たる點に於て、世界は其波動に多大の影響を受くべきことは察するに難くない。憶ふに今回の罷業が勃發すべき事は夙に識者の間に豫斷せられし所であり、之が對策に於ても理論及實際に亘りて諸種の研究は討議されて居つた。昨年七月の罷業が政府の賃金總額に對する補助金支出てふ一時的窮策に依つて收められしもの、素より暗流は依然として前途に現れてゐた。かくて坑夫側は賃金の現狀維持を力說し、坑主側は利潤なき事實を楯として之と抗爭して下らず、政府はこの上の補助金交附に出づる能はざるを理由とし三角關係は夫々の破綻を來せしことは其實相である。而して罷業の趨勢は今日までの所坑主側に有利に展開し行かんとするの傾向あることは特に注目すべき現象であらう。炭業の世界的不振を最も痛感せる英國が更に獨逸炭に壓倒さるるに於て坑夫側の獨善的要求が貫徹し得らるるや否やは問はずして明である。英國は實利打算を以て鳴るもの、窮りなき鬪爭を以て國內の同胞互に斃るるが如き超人的勘定は到底解し能はぬ所である。其對外策として傳へらるる三C政策(カイロ、ケープ、カルカッタ)は傳へらるるジョンブルの三C質、卽ち鬪爭(contest)商議(conference)妥協(conciliation)から出づるものかも知れぬ。然らば罷業の終末が如何に片附けらるべくも知るべきのみ、かくて罷業當事者が外來の援助を一蹴して揉み合ふ眞最中に於て我國の某勞働團體が猪口才にも激勵の電報を打ちし一幕の如きは滑稽でもあり、悲慘でもある一揷話といわねばならぬ。

政治戯論を戒む

政治の蒙昧時代より脱せよ

——大正十五年五月十日第十六號掲載——

戯論は何事に就ても戒むべきものであるが、それが政治及社會問題に關する限りに於ては特に強く排撃せねばならぬ。政治は窮極に於て一國の傳統に立ち、民心の動きを察して各人の生活を向上按排せしむべきものであることは明かであるがかくて現實に生き理想に進むものをして生甲斐あらしむるに至ることは多言を要しない。しかも我國に於ては政治の本義は祭祀に在り、精神の純乎たるものに出で乍らしかも近代思想の大衆的氣運に一歩を進めつつあることは古來よりも國民的確信であつた。因つて思ふに現代政治の批判はこの立國の精神に據つて曲直を定むべく、外來の抽象的戯論に據つて政治の是非を云爲するが如きは愚痴の至りに堪えぬ。我政治は我國土の大地に芽生え立つもの、之が批判の的たるものは飽迄も國民生活の核心に觸るるものでなければならぬ。かくて一面に於て我現代政治には幾多の缺陷あることも解る。しかも如何にして之を匡救すべきかに至りては格別の名案も出でぬのが時代の悲哀でないか。政客は國民を悦服せしむるの政見に事缺き、政論家は空談漫論果しもない。さらば政治の蒙昧時代は遂に取り去ることが不可能でないかを怪しまざるを得ない。社會問題に就ても略同様の傾向を

指摘することが出來やう。今や世界は何れも自國民の生活問題に就て深刻なる苦惱を重ねて居るが之が解決に就ては一筋に國民精神の所産に俟つの外良途なきを自覺しつつある。國家及國民生活の改善を念とするの時、その最も實施し易き徑を選ぶことを忘れてはならぬ。

政界苦悶の徵象

既成勢力の用意奈何

——大正十五年五月二十日第十七號掲載——

既成勢力打破の叫びは大衆の耳朶に入り易い。而して其痛快味に陶醉し、熱狂し、亂舞し易きことは敢て多血の青年に限つてゐない。巷に不平を喞つもの、多くは激越なる局面打開を望みて已まず、之が爲めに一切の既成勢力の顚覆を造次にも忘るる時がない。かくて都會に充つる不安の空氣は路次の隅々より聞こゆる不滿の小爆音を合して何事かの暗示を語るようにも思はれてならぬ。更に村落の荒み、さびれ行く姿を觀よ。茲にも人心の不安さが犇々と迫つて來てゐるのが明かに看取することが出來やう。既成勢力打破の叫びは此社會時相の動搖に投合して巧に擧げられた烽火であることは事實である。而してこの叫びの矢面に立つものは所謂資本家と所謂政治家の一味であることも疑ひなき事實である。既成

政治家の尠からざる數が厚顔無恥にして無識無能なる正體は近時に至りて遺憾なく曝露されたが、この上とも所謂政治家の跳梁跋扈が許さるべきや否は國民精神の意氣に懸る重大事となつて來た。憶ふに政治は國民精神の活潑自在なる表現であるべき筈なるに拘らず、徒なる現狀維持に執着して新興力の一切を排撃し去るは已に大なる矛盾である。

かくて政治の沈滯來り、政治家の機會主義化するに至ること實に已み難き情勢であらう。政界の現況は苟合妥協、糊と鋏の膏藥張りに憂き身を窶す意氣地なさであるが、この豆大の志望を以て澎湃たる既成勢力打破の波浪を乘り切ることの不可能なるは識者を俟たずして明かである。既成勢力打破の叫びに不純なるものの頗る多きことは否定し得ないが、現代政治の無力不識の招ける一現象と思へば深刻に反省すべき何事かの存在することも強ち否定し得ない。既成勢力打破は夫れ自身格別の新味なきも現代時相の險惡化に照應して衷に寒心に堪えぬものがある。進んで新興力を取入るる能はず退いて城砦を守り能はざるものは政界苦悶の在る所であらう。

現代日本の急務

國際的虚榮を棄てよ

——大正十五年五月二十日第十七號掲載——

現代日本の急務は日本自身の内容の充實である。時難に際會しては國際的虚榮の如きカナグリ棄て、只管に自國の進路に驀進すべき筈である。これやがて我國民を彌上に仕合せならしめ、世界をして純眞の平和に導く最善の方途となるべきものであらう。しかも現代日本の病弊はこの見易き道理に目を蔽ふて進退を誤ることにある。我外交が歐米追隨の事大思想に墮せし所以も之が爲であつた。我内治が形式主義に落ちしも之が爲めであつた。我藝術が模倣の域を脱し得ざるも之が爲めであつた。日本が自らの姿を顧みるの時、世界に處するの道は自らに展開せらるる筈でないか。しかも世界の皮想を見て我姿如何を見ざるものの多くは冠履顚倒、得々として尚その非を覺らざるが如き嗤ふべき極みである。かの唯物的國際主義の一切の運動はこの事例であらう。唯物的國際主義運動は國家主義に反對し乍ら事實に於て國家間の強食弱肉を敢行して恥る所がない。かくて人類の平和といふが如きは鬼面人を誑かすの類である。記憶せよ英國の炭坑ストライキの終熄は英國人の常識の勝利であるとボールドウキンは云つた。而して本文記者もかくあるべきを豫想して前號の論壇に痛言した次第であつた。日本は今や一切の精力を

集約して自國精進への鍛練に耐へねばならぬ時代である。

現代生活の解放

日本精神に還れ

——大正十五年六月十日第十八號掲載——

國家興隆の前には國民的理想の躍如たる微像（ビジョン）あり、指導的意氣の潑溂たる交流あるべきことは曾て本誌に於て痛論せし所であつた。米國今日の盛況あるは諸種の外的理由あること勿論であるが、近くルーズヴエルトの如き巨人の出て、國運を善導せし事のありしことは之を忘れてはならぬ。米國の世界參戰は當初に於て何人も豫期せざりし所、しかも竟に國論を纏めて決戰に出でし動機に至りては彼及び其同志の崇高なる精神的閃きを無視することを得ない。傳ふる所に依れば彼の解せし犧牲とは財力の提供に非ず、物資の供給に非ず、血と肉夫れ自身の捧げなりとの事であつた。かくて彼は其愛兒を佛戰線に於て死なしめて悔ゆるなく米國の唯物的參戰に絶對的反對を敢てせし所以のものを雄辯に物語つた。しかも彼逝きて米國の進退は事毎に打算に出て清新にして剛健たる米國魂の表現は姿を没したるの恨みがある。

米國の現勢は力其ものであろう。さり乍ら今日の

米國はル氏の所謂犠牲の意義を忘却して近代思潮の頽瀾の浸潤するに委してゐる。而して所有することを知つて創造することを知らぬ有様となつた。しかも世界は米國のこの缺陥の歸結を解いてゐるであらうか。思ふに我國情は古來より國民の奉公心に依つて特色附けられてゐた。而して我が奉公心は一君を中心として萬民輻睦を重ね道念の燃ゆるが如きものがあつた。謂ふところのル氏の犠牲の如きも寔にかくして我が國民道徳の表標たりしものであつた。しかも近時の我世相の動きを觀る。果して何處に興國的意氣の發揚があるであらうか。

勞資の鬪爭はある、政治の暗遷はある、教育の行詰りはある、而して一の國民的理想がない、血と肉を賭て蹶つ指導者がない。日本精神の簡素雄渾に還つて唯物生活の屈托より脱脚せねばならぬ時代が來たのではあるまいか。

滿蒙の不安

先人流血の地危し

——大正十五年六月十日第十八號掲載——

奉天票の釣瓶落しの暴落は深刻なる國際的謀計に出づるものであることは明かであるが、今や形勢は次第に惡化し、滿州に於ける秩序が根底より動搖せんとしつつある事實を示し來るに際して我が國民の

特段なる注意を喚起せねばならぬ。事の起りは素より赤露南下策の雄圖に出でしことであつて、事情は將に日露戰前の夫を想起せしむるものあることも牢記せねばならぬ。滿州が我國防の第一線にして且經濟的大動脈たるの事實は今更贅言を要せぬ所であるが、之が不安に對して我國論が更に沸き立たざるとは何故であらう。近く軍縮會議の開かれて席上に於て徵兵制度撤廢の討議せらるべき噂ありと傳へらるるや我某大新聞は逸早くも之か可能の對策を構ずべきを論じて識者の失笑を招いた事實がある。國情全く相違して資力豐ならざる我現勢を以て猶歐米に追隨して志願兵制度を採用すべしとするか、端的に結論せばこれ將に國家破壞に出で國民離散に導くものである。滿蒙は我先人が流血の犧牲を以て地位の確保を圖りたるもの、後人は其足跡を履むで更に一飛躍を試むべきではないか。大戰後の世界は槌音響々、各國は復興途上に勇姿を競ふて寸毫の隙もない。我國民が一滿蒙に力及ばずして敗衂するが如きあらば運命の窮まる所知るべきであろう。

研究か宣傳か

自由擁護聯盟に就て

――大正十五年六月二十日第十九號掲載――

自由か死かと叫んで蹶つたパトリツク・ヘンリーの名は米國史を不朽に飾つてゐる。自由の擁護するものあらば死を以て當るべく素より何等の屈托躊躇あつてはならぬ。さり乍ら死は已み難き情感を理義の明なるものに動機するに非ざればさう易々に決せられるべきものでない。眞に自由の蹂躙せらるるあらば眦を決して蹶たざるべからず。その之なきは自由擁護に不純あるか、もともと擁護に値せざる自由であるか二者孰れかである。かくて駈引きと虚勢と宣傳と雷同に因る自由擁護者の無力不識振りの凄まじきことは沙汰の限りである。

先程帝大其他に於て自由擁護聯盟と稱する急造團體の現はれ今また須叟にして頓死したとの報道が傳へられたが、其の主張は文相が學問の自由研究を禁壓せんとするの内訓を發せしは怪しからぬといふにあった。而して此主張が地方にまで傳染し人騒がせを敢てしたといふことも報ぜられたが、大凡近來の馬鹿氣たることの中で夫程の秀逸はあるまい。今時大學内での自由研究を禁壓する程の猪突漢は鐵鞋で捜し廻つても見當らぬ。況んや當の文相は力説して事實を無根を斷じて居るに於てをや。然らばこれ現代の我學界が如何にセンチメンタルに陷り研究に不

忠であるかを語るものでないか。研究は一心不亂であるべき筈だ、創造心が先驅であるべき筈だ。而して研究者の心境は殉教者の夫のやうであるべき筈だ。何の暇あつてか一吏僚の風聲鶴涙に驚くの愚をなし得んや。研究の井を掘下ぐる所、眞理の力強き至上命令は聞えて來る、自由か死かと。しかも研究のこの表現は社會の各般にも共通である。今日の學問は研究より吹聽が先に立つ。吹聽は宣傳だ。宣傳は時に研究精神と逆行して社會のケレン師たることが稀でない。事の聊か些末に岐るの嫌ひはあるが學界の將來を惟ひ敢て一言せし次第である。

難境に陷る

國本明識の急務

――大正十五年六月二十日第十九號掲載――

今や小作爭議の全國的動きが傳へらるるやうである。而して都會に於てはストライキの瀕發に大小の工場は警戒の眼を光らして來たやうである。日本の經濟的地位も漸く世界の波に洗はるるの思ひあり、生活苦の呻きは地底の響きにも交錯して聞ゆるまでに至つた。さらば日本の前途奈何を深慮する者に取りてはこの形勢は容易ならざるの氣運である。

日本は曾て大小の内憂外患に打克て來た。試練は

素より其望むところ、敢て辭すべきものでない。さりながら内憂外患も自と時代色の相違はある。現代日本のこの難境を如何に乘切るべきかは日本人に初めて投ぜられたる命題である。而して之が解決には前人未發の工夫と犧牲を必要とすべきことも明かであらう。我等はまづ當面の難境に直面して思ふに

一、一君萬民の傳統心に反する諸種の幕府的中間勢力を一掃して國民經濟の建直しに出でねばならぬ。

二、大改革には大準備が必要である。之が爲めには能力による機會均等を主張するものであるが、まず精神的團結を計つた上で左右の交流を自在ならしめねばならぬ。

かくて一切の改革原理としては國本を闡明し其逆抗者に對しては國民擧つて善導するの責めを負はねばならぬ。國民が國本の何たるかに就て明識を持たなければならぬ一理由は此處にも在る。

關稅會議の打切

我活路封ぜらるる

——大正十五年七月十日第二十號掲載——

八ケ月の歳月と幾多の波亂を盈ませた支那の關稅會議は竟に本月三日の關係列國全權會議に於て打切

られて了つた。尤も其理由とする所に據れば支那の全權が外國全權と諸種の問題の討議を再開し得るに至れば遲滯なく會議を進行するといひ打切りに非ざるを強辯してゐるものの其經過を觀れば會議の再會は容易に實現し得ないことは明かである。惟ふに支那關稅會議が英國に引張り廻されて二分五厘五毛の附加稅實施に極限されて差等稅率問題、自主權問題などには觸れ得なかつたのは敢て怪しむを要しない所である。しかも我國が意氣旺なる掛聲で立上り乍ら相も變らぬ堂摺外交に墮して相手國たる支那の泡沫的觀心を買ひ得たるに止まり、孤立外交に今更の驚きを感じたるが如き何たる不甲斐なきことであつたらう。筆者は素より霞關外交のアラを拾つて一時の快を貪るものではないが、對支外交に一轉機を劃すべきが好機會のムザムザ葬り去られしを見ては多大の感慨なきを得ない。殊に

一、支那正式政府の出現なきに藉口にして會議を打切るが如きは理由にならぬ。支那とは何ぞやとは當のワシントン會議以來の命題であり。開催にこの事が解らぬ筈はない。

二、列國の對支利害の複雜は云ふまでもないが一英國の氣儘隨意に決せらるる内面的理由に至りては我國民の大に反省すべきものがある。

かくて支那に於ては英を中心とし米佛を道連れとした無理が通り支那民衆を背後地として蹶つた我が道理が引込められた譯である。事は正しく國際正義の蹂躙であり我經濟的活路を封ぜんとする歐米汗橘の暴露ではないか。我國民意識が常に對支問題に試驗せらるるを想ふて遺憾に堪えぬ。

國家完成への途

再び現狀打破に就て

——大正十五年七月十日第二十號掲載——

現狀打破の叫びは朝野に充つ、素より動機の不純なるもの、痛く排撃すべきは云ふまでもないが中に爲政家の猛省すべきものあることも忘れてはならぬ。公憤の已み難きものあり、私憤の抑へ難きものありて次第に氣勢を激發し行く様は歴々として指呼し得るまでになつたが、對策の姑息因質なる竟に窮極の如何をさへ排念さるるに至つた。公憤の已み難きものに政治の不謹愼あり、教育の無理想あり、上流者の傍若無人等ありて何れも反社會性の毒素を無遠慮に撒きつつあるの實狀は覆ひ難き所であらう。私憤の抑へ難きものに官權の專横あり、多數者の狂暴あり亦反國家性の火焔を煽りつつあることも事實である。かくて或は政治革命を叫び或は社會革命を目論むに至るの情感には隣れむべき動因のあることも知らねばならぬ。さり乍ら國家内に故障あるの故を以て國家を呪咀するは私憤の陋なるもの、敢て是非すべき暇もないが、國家内の一故障と雖も之が矯正には總國民の總努力を必要とすべきことを論を俟たぬ。惟ふに眞の現狀打破は徒なる破壞に非ずして建國理想への精進であり祖國愛への序曲である。我等は都鄙の隅々より揚がるこの叫びを淨化して大日本帝國の完成を期するの寛仁と大望を有たねばならぬ。

識者蹶たざるか

この不祥事を奈何

――大正十五年七月二十日第二十一號掲載――

政治の要締は一國風教の維持振作にあることは事新らしく述ぶるまでもない。しかも風教の維持振作は竟に國民生活の埒外に出づる能はざることも明かである。生活に醒むるものが聽て風教を念として蹶(た)ち道義に精進するに至るべきは自然の動向ではあるが、逆に風教のみ強ひらるるも國民の實生活に觸れざる限りに於ては寸毫の價値なく、時に有害の時相を呈し來ることさへあるは否定し難き所である。かくて生活破壞者の多くが權力者への反抗に出づるが如きことあるは爲政者の三思すべき所であらう。惟ふに近時頓に我國民の政治的誇りを裏切りたるもの に松島事件の如き政界の大なる瀆職的傾向の頻發と長野暴動事件の如き民心の直接行動的傾向の流行がある。素より政界に珍しき事でなく、著者も今更敢て政論を試むるの程の勇氣はないが、この二傾向の裡には見逃しき國家的不祥事の伏在が看取せらるに及びては竟に黙視するを得ない。

政界の瀆職事件に連座して大政黨の總裁の取調べらるくありて天下の視線を惹いたが更に首相其人の身邊にも亦取調の手が延びんとするの噂も傳はつて來た。因つて稽ふるに之れ一國風教の興亡に繋がる一大問題に相違なく、政界に之を指彈し是正すべき

資格者なき今日に於て識者の蹶つて警世の巨鐘の打つべきことは當然である。直接行動の非なる所以に至りても一點の疑ひがない。事茲に出でしは指導者を缺きし爲めなること察するに難くないが、一國綱紀の維持が今日の政界に求め得られざる以上また識者の猛起を待つべきは言ふを俟たぬ。

昔は東湖が苟も大義を明にして人心を正さば皇道奚ぞ興起せざるを患へんと叫びて識者の重責を力說したが現代に採りても箴言である。邦家の興隆は識者の奮發奈何に在る。

フランスの悲劇

獨裁政治を弔す

——大正十五年七月二十日第二十一號掲載——

フランスのブリアン内閣はまた没落した。而して原因は其多難なる財政建直しの爲めに藏相カイヨーに獨裁權を與へんとして得なかつたことに禍されたものであつた。著者はフランス内閣の頻々たる更迭に對し深甚なる同情を禁じ能はざるものであるが顧みて學ぶべきことの尠からざるを痛感する。

惟ふに現代に完全なる獨裁政治を布くものにロシアとイタリーの二國があるが、倶に隆々たる國家建立の途上を辿り來つて今や悔り難きの實力を備ふるに至つた。而して事實は左傾、右傾と云ふが如き呑

氣なる遊戯を遠く絶して只管に國家の膨張進展に腐心してゐる。かくて之が爲めに企てらるる諸種の新手段の如きは素より深く問ふを要しない。さり乍ら獨裁政治を布くに至りし經路は悲しむべき、憐むべき政情にあることを忘れてはならぬ。ロシアの獨裁は暴政の次に來り、イタリーの獨裁は暴民の後より出でたることも事實である。今やフランスの苦悶あり、イギリスに於てすら過般のストライキにこの懊惱ありて政局不安の行詰りに外道の獨裁を叫ばれしは周知の所であらう。日本政治は素より金と力の獨裁政治を排して德治の親政に浴して來た。しかも同胞にして兎もすれば獨裁政治の痛快味を叫ぶものあるに至りし世相に對しては大に遺憾事とせざるを得ない。

アジア會議了る

その成果と將來

——大正十五年八月十日第二十二號掲載——

八月一日より三日間長崎市に於て開かれたアジア聯盟會議は兎も角も一應の成功を以て了つた。素より白人優越の世界の現狀ありてアジア人の擡頭を期する此種目的の會議がさう樂々と成果を收めんとするが如きは至難事であるが、此度の催しは實に一石を投じて白人世界に涌き立つ波紋の動きを觀測し併

せてアジア民族相互の襟度と決意を示したもので、此點に於て幾多の苦き役割を果した。勿論アジア會議に就ては諸種の異議はある。卽ち

一、人種的鬪爭を挑發するの結果となる。

二、アジア聯盟の如き本質的に無意義であり且つ實行も不可能である。

三、日本は勿論のことアジア民族の爲めにもアジア會議の形式に於ては眞の幸福を齎すことを得ない。

以上は筆者の耳にせる反對說である。勿論一々に道理があり無下に一蹴し難き事情の下に立論されたものもある。さり乍ら現代の白人文明は其基調として弱小民族よりの極端なる搾取から成つてゐること は爭なき事實である。其贅澤なる生活は何處より來るか、しかも今や彼等には些かの反省もされざるのみか、愈排他、殘忍享樂の度を加へて來た。かくて彼等の常に叫ぶ世界の現狀維持は弱小民族を極りなく失望せしめてゐる。この際アジアの自主的運動の起ることは當然でありまた同情に値するものがあると云はねばならぬ。さり乍らアジア會議の如き其動機は純潔にして相當の實力ありての上ならでは返つて藪蛇に了るなきを保し難い。次回に於て深思熟慮能く識者の指導を乞ふて萬策に遺漏なきを期せねばならぬ。

物情騒然たり

今日の世相を觀る

——大正十五年八月十日第二十二號掲載——

近來の世相を觀て物情騒然と云はば聊か大袈裟の傳ひはあるが稍之に酷似するものがある。政道廢れ、人心倦むも何人が如何にして此頽瀾を既倒に回さんかは全く見當が付かぬ始末となつた。筆者は徒に燕趙悲歌の士を氣取つて一時の快を貪るものではないが、その僞りなき實感は竟に斯の如きのみ。さらば國事に無關心たるべきか、世相と風馬牛たるべきか、斷じて然るを得ない。この風光明眉にして人心簡朴、而して忠節萬邦に冠たる帝國の搖らぐということは夢想だに思ひ能はぬ、否依然として大磐石に立つことは寸毫の疑ひなき所であるが、今日の形勢は其儘に明日の夫れと斷じ去ることも聊か樂觀に過ぎたものであらう。因つて惟ふに帝國をして其本來の面目に還さんには軀々たる小者小策の能くする所ではない。國家の高所には必ずや大義を明にし人心を正すに足る底の人物を求めて得なければならぬ。而も之が爲めには先ず識者の指導者的精神が全國に揚げられねばならぬこと勿論である。太平洋上波浪高き所を乘切る日本丸の水先案内は如何なる人たるべきかは問はずして明であらう。今やこの國家非常時に逢つて尚黄金第一を信條とし、權勢第一を玉條とし朋黨比周恠ゆるを知らざるの徒あるが如き痛憤に堪え

ぬ。「時」は恐るべき「運命」は皮肉である。現代に時めく所謂「成功者」を遺棄して次代に輝く大人格を思う時は迫つて來た。

近來の快事

老漢ク翁の獅子吼

――大正十五年八月二十日第二十三號掲載――

虎（タイガー）のクレマンソーはその永き沈黙生活を破つて對米戰時債務問題に就て快絶の咆哮を試みた。本月八月巴里發電報はその要旨を傳へて曰く

フランス對英米戰時債務償還問題は實に將來の文明を脅かすものである。余は問題の解決に對して商賣づくの方法によらずして他に適當な方法を考究する餘地なきや否やを貴下に問はんとするものである。アメリカはフランスに對して頼りに債務の償還を求めらるるがこちらの財布の空の事はよく御承知の筈である。

相手は勿論米國大統領クーリツヂであるがこの公開狀に現はれたク翁の悲壯なる心意氣は翁がヴルサイユ會議當時の立役者たりし丈けに感慨無量の響きを以て讀まされた。米國の世界參戰の動機と其の後の行動に就ては深く問ふ勿れ、尠くも其世界に聲明せし所に據れば商賣づくならざりし事丈けは事實で

あらう。而して交戰各國が謂ふところの大義名分に據つて蹶起せし以上その後始末を附くるに於ても友情を披瀝し合ふべしとの言にも一應の理屈はある。かくてク翁の對米抗議に深甚の同情なきを得ない。

さり乍ら世界大戰はもと列強の爭覇戰に過ぎぬ。始めより文明を脅かし、財布を叩かしめねば已まぬものであつた。ク翁の切言はさる事乍らこの事實は竟に如何とも施す術もなく、從つてアメリカの債權はローラーの如くフランスの全土を倦くし立つるであらう。しかもフランスには尚祖國愛に燃立つク翁の如きあり。老來意氣いよいよ軒昂、弗(ドル)外交を正面に廻して齒切れよき啖呵を吐くところ近來の痛快事たるに恥ぢぬ。意思の在る所窮路通ず。フランス近時の政界を觀て漫ろ欣懷の懷に堪えぬ。

氣力萎へたるか

現代人への苦言

——大正十五年八月二十日第二十三號掲載——

現代人は無感激の中に生き、無節度の裡に過ぎ、而して無制裁の儘に移りつつある。かくてグレシアムの法則ではないが良貨は惡貨に驅逐せらるる如く識者は次第に其姿を社會より消え去らしめてゐる。因つて之を悲觀的に云へばこの先がどうなるかの問題が起る譯である。勿論吾意を强ふするものの尚幾

多數へることも出來やう。而して國家社會のことも
そう輕々には豫斷し得ないことも確である。さり乍
ら近時の世相に寫る雜多の事例がますます深刻に人
心に喰入る不安さを齎し來りつつあることを示すこ
と丈けは否定し得ない所であらう。爲政家の權威な
きこと今日の如きはなく綱紀弛廢して不祥事の頻々
として傳へらるるが如きこれ何の兆であらうか。勿
論爲政家の不德は國民にも罪がある。自ら罪なき者
彼を打つべしで現代政治を彈劾し得るものの果して
幾人あるかは疑問であらう。しかも我の一退は彼の
一進を意味す。日本帝國をして泰山の安きに置かん
とならば各人が淸淨潔齋、進んで寸毫の邪心をも容
れぬ用意を爲すことが肝要である。而して後に總國
民の總向上、總進展を圖るべきである。かくて生産
を旺ならしめ、科學を興し勃々たる氣力を漂はしめ
て世界文運の進步に貢獻するの實を示さねばなら
ぬ。現代人は其上層におるものは餘りに無感激であ
り、下層者は無節度であり、而して中流者には强き
制裁力がない。各人は時に神武肇國の大精神に觸れ
て氣宇の豪宕海濶なるを養ふべきの必要がある。

リヴエラの氣焰

舊式議會を弔す

——大正十五年九月十日第二十四號掲載——

マドリツド四日發電報はスペイン首相プリモ・デ・リヴエラの全國に渉る宣言書の要旨を傳へてゐる。曰く

從來行はれ來つた舊式議會制度は既にスペインのみならず諸外國に於ても失敗に終つた事は明白な事實である。故にスペインは將來全国民の總ゆる階級の利益を正當に代表せしめ得るが如き最高國民議會を召集すべきである。實にかくの如き組織に據らなければ國内の總ゆる陰謀を根絶して國家百年の大計を樹つることは所詮不可能である。

彼はレーニン、ムツソーリニに次いでの歐洲に於ける獨裁者であつて、その治績は未だ見るべきものなしとするも兎も角かの國力を以て英佛外交を向ふに廻して痛快なる啖呵の一つも吐くことを敢てし得る程の氣力は出來たやうである。

さて彼の宣言書は現代政治に対する大なる抗議とも見るべきものであらう。彼の所謂「舊式議會制度」は今や破綻百出の爲體（ていたらく）である。その權威は已に地に墜ち民心は夙に去つた。歐洲に於て然るが如く我國に於ても亦然りであるが、議會あるが故に國民生活に大なる恥辱あるかの觀なき得ない。かくて獨裁政

治流行の傾向を激成せしめたことは疑なき所である。さりながら獨裁政治また大なる缺陷あることは本紙に於て屢指摘せし通りであつて、現代政治の行詰りに對しては別に制度上の新味とてなさそうである。若し強いて云はば、議會に三權分立の嚴格なる實現を試みるの外なしと云ふべきであらう。しかも制度として行詰りたる現代政治は人に依つてその機能の昂進展開が期し得らるることは疑ひのない所である。リヴエラの云ふ所は彼に依つて始めて新しきものとなる。

普選の序幕開く

濱松市會の新形勢

——大正十五年九月十日第二十四號掲載——

去る三日、我國最初の普選が濱松市に於て執行されたが、流石に期待に添ふた收穫を収めて一般に先幸を祝福されたやうである。先づ其概況を觀るに新有權者數は從來の四倍に擴張されたが割に無効票がなく各人が能く選擧權の行使に努めしとのことは特筆すべき所であつた。而して其得票は天野氏の五百三十三票を最上位とし以下百九十一票を以て當選圏内に入りしものまでを算し三十六名の定員を得たが其勢力の推移を稽ふるに多大の興味なきを得ない。即ち再選十三名に對し新選二十三名を出した譯である

が中四名は勞働階級を背景として蹶ちしものか、尠くもその同情的手段に訴へしものなりしことに於て大に世の注目を惹いたものであつた。濱松市は近く我産業界に類例稀なる日本樂器のストライキを目睹して思想的、經濟的に大試練を經たる所であるが今や市政の運用に關しこの新勢力の出て、その進退如何は各方面に重大の影響を及ぼすこととなつた次第である。惟ふに今後共普選の結果に就ては續々と舊新一轉の現象が現るることであらうが、人物の低劣にあつてはならぬこと勿論である。殊に特權階級の專擅跋扈は勞資兩つ乍ら斷じて排すべきであつて媚を孰れに沽るも嚴乎として戒むべく、我が普選にして一君萬民の國本に合せざる限りは竟に發達の餘地なきこと寸毫の疑ひを容れぬ。

オイケン逝く

我學界に思ひ及ぶ

——大正十五年九月二十日第二十五號掲載——

熱と力の哲人ルドルフ・オイケン逝く。全世界は爲めに暗の扉に閉ざされたかの感なきを得ない。

彼は一八四六年一月ドイツのハンノーフエルの小市アウルツヒに生れ、長じてギエチンゲン大學に學び、一八七一年の秋バーゼル大學の哲學教授に任ぜられ、後三年を經てエナ大學に聘せられたが茲に終

焉の地を定むるに至つた。エナ大學は建築家フイツシエルの手に就り新獨逸精神の面目を表現せるものとして傳へらるるもの、澄澈として抑へ難き新理想主義の精魂を此處に說く彼の偉大さには實に相應はしきものであつた。惟ふに彼の哲學は人生的、歷史的閃きに充ちてゐた。これ彼の哲學がまた生活の哲學であつた所以でもある。彼は遊離の思辨と論理を排して實生活の價値と意義とを力強く叫むだ。かくて現代の科學的文明の所産たる人格無視の勞働より人生の破綻を救つてくれた。彼は勿論人格を力說した。さり乍ら彼はカントの如く余は孤獨である、自由である、余自らの王であると稱して高踏自適した獨善的三昧に耽る消極的人格を排した。しかも彼の積極的人生觀は人格を方便視して各人の激烈の活動にのみ逐ひ行るものでない、從つて疲勞と不平に啣つて反社會性に走るものをも戒めてゐる。彼曰く

個人は其氣分に於ては無限のものを動かし、有ゆる世界以上に自由に飛揚するにせよ、其勞作は狹く限られて居る

かくて彼の卓越せる人生觀、社會觀、國家觀が築かれて來た。片々たるマルキスト、騷々しきコンミユニスト輩の尚跋扈する我學界は彼の死に三省せよ。

學生の檢擧

憂ふべき學界

――大正十五年九月二十日第二十五號掲載――

本月十五日掲載解禁となつた大學生の檢擧事件は學界近來の一大痛恨事として明るみへ晒け出されたものである。新聞紙の傳ふる所に依れば、收容され し學生は三十八名に達し、悉く最高學府出身者に非ざれば其在學者であり、尚秀才揃ひの模様でもあつて一入の遺憾事であつた。事は學生等が昨年七月以降社會科學研究に名を藉りて各種の勞働爭議に活動せんとせしことに、漸く官憲の注目する所となりて端を發したるものの如く、其後各種の不穩的言動に出でたる外勞農ロシヤ金屬工組合代表レプセの來朝せるや勞働服に變裝して之に近づかんとせしが如き、學生自らの破戒を敢てする者さへ出でし程であつた。學生の此種の社會運動が果して是なりや否やは素より多言するまでもない。さりながら學生をして遂に刑餘の人たらしむる至りし所以のものを窮むるに寔に感慨の切なるものがある。卽ち之も結果より眺むるに學生はパンを求めんとして石を與へられたものであり、其責任は結局指導者其人なきの致す所であつた。殊に學窓に教授するもの、權威なきこと今日の如くならんか如何にして學生の不滿を充たしめ、其精進を計ることを得やう。被疑學生の中或は其非を悔いしものがあらう。さりながら第二のレ

ーニン、トロツキーたるに至るなきかも誰か保證し得るか。官民有識の士は之が責任を痛感して其前後策に深甚の考慮を盡し將來の大計に就ても根本的所置を期せねばならぬ。

大學教育案る

其對策は奈何

——大正十五年十月二十日第二十七號掲載——

大學學生に關はる不祥事件に就ては前號に於ても聊か論議して識者の注意を喚起した次第であるが、さて將來の對策如何に至りては世上未だ名案も無ささうである。惟ふに大學教育の國家生活に重大事なる所以は今更多言を俟たぬ所であるが、我国に於ては從來より比較的に輕視せられて社會一般は勿論教育者自らに在りても大學の使命に關しては自覺せし所頗る淺薄であつた。大學は學問の研究を專らにして之が徹底を期する事に於て自主獨往の境地に置かることは勿論であるが研究にも自ら常識あり、學者にも自らに風格あるべきことは本來の立場より稽ふるも當然である。しかも研究は夫れ自身に於て研究者の人格を反映し其所産は如實に其價値を語つてゐる。かくて大學教育の現狀如何を見るに教授に其人を缺くの結果は遺憾事の尠からざるに呆然たるものがある。殊に官立大學の法科教授中に於ては公然

と國體呪咀を叫ぶものさへ出づるありて、身は國家の祿を喰み乍らしかも大學の牙城に據りて之を敢てするが如き主張の是非は兎に角、其卑屈撞着の態度は殆ど笑ふにも堪えぬ次第である。かくて學問の研究というも嗚呼がましく、之に毒せらるる青年學徒の不幸は思ふだに戰慄の極みである。今や大學教育は眞の研究心に不足し其權威は地に墜ちんとしつつある。豈一文相の干渉を俟つの要あらんや。

政局の暗轉

政治家に寄語す

——大正十五年二月二十日第二十七號掲載——

この頃の政局は暗轉また暗轉些かの明るさもなく況んや幕切れの寬潤さも覺えられぬ程の始末、これで大國の政治的氣分は全く封ぜられた形である。筆者は今更に何々問題といふが如きを是非して政局批判を敢てする程の勇氣はない。さり乍ら政治は天下の公機、何人の生活にも觸れ何人の意見をも求めて得らるべき筈のものである。殊に我建國精神の髓心より推すも一天の下萬民均しく喜憂を頒ち、有司は進退を明かにして其賞罰を待つこと古來よりの美風であつた。かくて近代の政治形式を取入れたるも精神は依然として先人の遺鉢を享け國力の不足は民心の和を以て當り、誓つて萬乘の君に酬ひ奉らんとす

るは心ある同胞の夢寐にも忘れ得ぬ念慮であつた。しかも政局の現狀斯の如く、其推移の跡を見るに云ふに忍びざるものあり。何處に日本精神の敬虔あるか、何處に日本魂の剛俠あるかと反問したい。政治は男兒の本懐事。而して責を取つては一死以て君民に謝すべき處に其全面目がある。暮夜窃に不淨地に出入しては天下の公機を私議し、情實請托に事寄せては一時の康安を圖るが如き、かくて世界進運の潮流を乘切る程の意氣が涌き來る筈はない。寄語す。世に政治家と稱する朝野の諸豪諸君に一片の丹心あらば秋の一夜を燈下に親しむで國家興亡史の教ゆる所に聞け。而して次に日本建國の大古に遡りて自己反省の深刻を期せよ、片々たる術策政治の如何に哀れむべきかに就て悟得する所があらう。

黨禍と赤禍

政黨の惱み深し

——大正十五十一月二十日第二十九號掲載——

エンゲルスに從へば從來の社會は階級對立の範圍内に動いてゐたものであるから、隨つて國家を必要とした。國家とは要するに夫々の時代に於ける搾取階級がその外部的生産條件を維持し、特に又被搾取階級をば當時存在せる生産方式に依つて與へられたる壓制の下に、例えば奴隷制度の如きものに對し强

制的に抑留せんが爲の一機關であると主張して居る。つまりマルクス流の見解に依れば國家は階級支配に缺くべからざるの道具であり、從つて階級の差別が撤去された曉に於ては國家は消滅することになると論ずるのである。而して階級の差別とは勿論經濟的の搾取對被搾取關係といふが如き唯物史論に根據せらるるもので、人間を驅つて全く經濟的理詰めに逐ひ詰めやうとするものである。その國家理論の如き獨斷と迷想にとらはるること怪しむを要しない。

然るに茲に我國に於ても政黨政治の破綻が來た。而して其原因を探るにまた唯物史論に毒せらるるの次第が明らかに看取される。其好例として松島事件が現れた。若槻氏は云ふ、政策を外にし國民生活に關係なき告訴事件の如きものにては進退するの意なしと。田中氏は云ふ、箕浦氏の告訴に對しては是非曲直は國民も正當なる判斷をなす事と信ずるから政黨としては暫らく事相が明確となるまでその成行を注意してをればよいと。床次氏は朴烈問題を糺彈すること愈急にして松島事件に就ては觸るるを避くるが如きの態度である。三黨首それぞれに語るに落ち、醜き五臟六腑を晒け出して遺憾がない。若槻氏は恐らくは國家及國民の精神生活に就て殆ど無關心である。田中氏は次期の政權獲得を夢みて隱着の床を離れ得ないのであらう。而して床次氏に至りては影漸く薄し、孰れも國政の重責を託さるるの人物でない。その思想的構成に於て大いに缺くる所あり、所信に間隙あり、從つて勇氣に缺くる所あり、其不足する所が一々に曝露し來ること流石に爭はれぬものがある。かくて政黨政治はボス政治である、ボス政治は金權政治である。情實精托の政治である、親分子分の政治である、機會主義の政治である、之を要するに唯物史論と異る所なき政治である。而して之が憲政の常道論で通り、近代政治の現實は斯の如く、かくて遂に各黨各様に内紛に惱み、外力に怖え寸進尺退して次第に其勢ひを國民の間に失墜しつつあるこ

と素より當然のことと云はねばならぬ。因つて惟ふに政治政黨が今日の如くにして尚其地位に居らんか、識者は黨禍の竟に赤禍に劣らざるに至らんことを憂ふることであらう。其政治思想が權力と金力關係以外に出でざるに於てはマルクス流の階級支配に墮し反國家思想を激成せしむること論を俟たぬ。茲に於て國民の政治意識を、思想的に大轉廻をせねばならぬ時期に到來した。卽ち一切の既成勢力と既成人に對して考一考を廻らすべきの秋に突き當つた譯である。我等は政界の溷濁時代に日本精神の大乘的意義に徹して國家の道德的權威と民生の安住的地位の確立の爲めに躰つの用意を忘れてはならぬ。これ我等同人の擧國的思想運動を叫ぶ所以でもある。

政治は虛僞か

時局漸く重大化

——大正十五年十二月十日第三十號掲載——

政治家の現實曝露は今が絶頂に達したかの觀がある。憲政布かれて四十年、朝野政治家の不信にして侮蔑を受けしこと今日の如き甚だしきは未だ見ざる所である。かくて國民は政治家に失望しその政治に不滿を起して事態の漸く重大化を呼びつつあるは識者の均しく深憂禁じ能はぬ所となつて來た。政治家

に嚴格なる道學先生たれと強ふるの意思はないが、さりとて譎作權變繩抜けの名人たるが如き型のものたるべからざることも勿論である。更にまた情實精托を以て地位を贏ち得たるもの、無爲無能にして天下の公器を紊すものの如きものをして政治の局面に立たしめ得ざることも明かである。現代世相の多難多事を切り抜けん程の政治家の見當らぬとは眞か。

政治家に對する不信が轉て政治に對する不信となり千百の不祥事を湧かしむるの次第は上述の通りであるが、政治そのものまでが捲き添ひを喰つて怨府の的たるに至ることは大いに戒めねばならぬ。我國にありては政治の目的は確乎として定まるものあり、一君の德治下に萬民其居に安んじ眞に機會均等の生き榮えあるの鄕土たらしむるにあつた。卽ち德政下に國民の精進奮發を期するにあり、何人と雖も忠誠の精神と、能力の充實あらば其欲する所に在るべく、些かの不平あるべからざるものであつた。かくて日本の大乘的政治は幾多の故障を排して見事に傳統し來たつたものであるが、今や其姿相は果して何の態ぞ。政治家の政略家と墮したるままに政治は政略と汚されたかの觀がある。政略は虛僞に外ならぬ。虛僞は暗黑であり亡滅であることは素より明かである。政治を虛より奪ひ、亡滅より還さしむることは方今の最大急務である。

御平癒を祈願す

歳末の辞

——大正十五年十二月二十日第三十一號掲載——

赤子赤心の迸り

大正十五年も餘すところ十日に過ぎず、人事世態の繁忙も年中行事の一として家庭と街頭を賑はすべきが通例である。さり乍ら本年の歳末は人心も何となく沈み行くが如き思ひあり、街路の氣配も暮らしき趣がなく憂愁の空低うして陽春を迎ふるの喜びが見當らぬ。これ何の爲めぞ。畏くも至上陛下の御惱重らせられ、別して昨今は御容體御大切に陷らせ給ふの悲報が全國に響き渡りたるの結果である。實に勿體なくも痛ましき限りである。陛下の御乾徳は今更之を云はぬ。而して近く御不例に際しての御近親の御手厚き御看護に對しても唯涙を以て仰ぎ見るのみである、また何をか云わん。今や陛下の赤子はその持てる唯一の赤心を傾けて地に伏し天に禱り、身を以て只管に御回復を待つ。今は天佑の特段の加護を求むるの外はない。

政界の回顧一年

政界の回顧は事毎に不快の種ならざるはない。今更何々問題を云々、何々事件を擡ぎ出す丈が野暮である。宜しく小束に束ねて我等の闘心事外に放り出

すべきで、この年の瀬には餘りに迷惑なる遺失物でもあらう。さり乍ら我等の之を餘儀なく語る所以のものは政治の一新を希ふ爲めに外ならぬ。某々政黨が泥まみれになりての煩轉振りや、土龍もどきの陰謀沙汰や、更に某々政黨の起誓文取替せの滑稽事など續々と展開されたが、皆既成政黨没落の前藝であり彼等が現代日本の大事を擔當するの力量なく誠意なき事實を端的に曝露せしものである。斯て既成政黨の現實曝露は明みへ晒け出されたが之に代るべき清新にして力ある政治は未だ現れて來ない。而も之が前驅者として政界の迷信打破が來なければならぬ。例せば憲政常道論の如き、多數萬能思想の如きその一事に膠着して移るを知らざれば政治の形式に捉はれたる時代錯誤の外道に墮し去るの外はない。憲政の常道を踏みて秕政のドン底に落つるは餘りに馬鹿げたことである。多數の味方に同情して少數の餌食となるも餘りに智慧が無さすぎる。これ政治の彈力性と道徳性を顧みざるの罪でこの迷盲を破り始めて政治の一新が期することが出來る。

國本運動の將來

國本運動の建前は素より思想運動である。同志の精神的團結を計り大日本帝國をして永久に盤石の堅固に居らしめんことを期することがその念願たるは多言の要はない。しかも同志の精神的團結には自らに生活交渉の流動あることは勿論で各々國本を根幹として枝葉相扶けて繁茂すべきことは必然の姿相である。各地の同志が思想運動としての國本運動の行動化に出て、その表現として純の純乎たる生活を展開し行かんとしつつあることは快絶至極の事である。國家の純眞の姿相が個人の裏に躍如たり。この個人の結合を以てまた國家を作らば可なり。事の茲に到らざる限り我等の運動は已む時がない。今や百弊上下に充滿して不平反抗の叫びも強調されて來た。同志と倶に國家の情勢を凝視めて國歩の健在を護らねばならぬ。大正十五年を送るに當り同志の自

愛を祈ること切也。

對支策の觀點

國是の光彩を放て

——昭和二年一月二十日第三十三號掲載——

今や支那の形勢の重大さは嵐の前の靜けさである。其内外を被ふ雰圍氣を察するに近年になき異變を豫想せしむるものあり。對支策の觀測は容易ならざる不安性を暗示して來た。惟ふに支那現時の内亂は其質より觀て從來のそれに一進展を劃したものであり、南方側が孫文よりロシアに走り其思想、戰備を借りて支那全土を蓆捲せんと試みて可なりの效を收めたるが如き確に新機軸を出したものである。而して今や南方の新人聯は實力の意外に張りたるを頼みて勢附き氣驕りて傍若無人の振舞を敢てして憚らぬ始末であるが、之が原因は素よりロシア側の支援と軍閥本來の弊政の反動等を擧ぐることが出來る。さり乍ら主因は確に列國の對支策の停頓と分裂に求めねばならぬ。而して列國の意見の相違は所謂支那の大勢に順應して行くに就ての觀點を異にせるより起るもので、やがて時局の危機を盈ましむるものに外ならぬ。茲に於て我對策を如何に決すべきかとの問題は極めて重大なる影響を與ふることとなる。しかも之を決せんとせば日本の支那に對する特殊關係を顧慮することが第一の急務である。卽ち協調協力同情素より可なりであるが我國家の存立と相容れざる事象に對しては確乎たる信念の發動を期して掛ら

なければならぬ。今は片々たる小策と御氣嫌取りでは渡れぬ時代である。希はくは對支策に國是の堂々たる光彩を放たしめよ。

投機的政爭

昭和新政に恥なきか

——昭和二年一月二十日第三十三號掲載——

昭和劈頭の政界は識者の豫想を裏切つて無識と無茶の表徴を曝露して新政には似もつかぬ逆行振りを示した。世は諒闇の裡にありて謹愼を事とすべきの時たるは勿論であるが、一面に於て昭和時代の一新的氣力と明識は我を俟つ、之に應ずべき國民的抱負の看取さるべきは當然であらう。而して其徴象は先づ政治に表明さるべきことも明かである。然るに改元第一の帝國議會に現れた三相の施政方針の演説を聞き、野黨の之に對する戰術振りを見、二三押問答の跡を探ぬるに悉く政治の小乘的外道に墮し一として經世家の經世的面影がない。首相の逃避的なる外相の事務的なる、而して藏相の矛盾撞着に滿ちたる所見が之を語つて遺憾がない。しかも政本兩黨の起しめたる代表的人物の肉迫に至りては更に低調にして不徳、國民の聞かんとして聞き得ざる政界の大動脈の健否如何には些の觸るる所がない。朴烈問題も可、

綱紀問題も亦、而して不景氣問題も可也、さり乍ら黨人の中誰が之が徹底的糾彈を爲し得る資格ありや。問題は夙に斯の如き所謂小兒病患者聯の發作的領域を越えて居る。卽ち國民生活の悶きと政治の交渉を如何にすべきかに在る、此處に政治の眞劍味がある、此處に政治の普遍化がある。現代政治の投機的諸政爭を一蹴して政治の權威を確立せしめねば國家の生存と面目が立たぬ。

嗚呼、御大喪儀

——昭和二年二月十日第三十四號掲載——

叡聖文武、御盛德東西に儔なく、明治大帝の遺緒を繼がせ給ふて、大正の御代に君臨在しませられし人皇百二十三代大正天皇の六龍に御して白雲の鄕に神さり給ひしより四十又五日、二月七日を以て御大喪儀を行はせ給ふ。嗚呼悲しい哉。此日大空愁色に閉されて天日暗く悲風弔旗を搖がして轉た人を傷ましむ。夜六時　靈轜殯宮を出で、鹵簿肅々新宿御苑の祭場殿に到り給ふ。沿道の臣子數十万流涕嗚咽して奉送しまつる。儀仗、參列、凡そ其御葬列里餘。供奉の文武百官、大八州の本土はもとより、北は樺太より南は臺灣、西は朝鮮に至る新領の民、皆總代を派して敬弔の誠を致し、締盟の列國亦哀悼を寄せて使節大官を大儀に列せしめ、內外萬邦の民悉く敬弔す。古式に則り壯嚴なる祭事終て後午前零時二十五分靈柩は御苑假驛より靈柩車に奉乘して轔轆の響も哀しく帝都を去り淺川に向ひ給ひ、翌午前二時四十

五分多摩御陵祭場殿に至り、徹宵御斂葬の儀式を行はせらる。

まことに御登遐このかた悲泣の涙にくれし七千万の赤子は、更に久遠の御訣れに悲痛愈々極つて天地に慟哭すれども、英靈復た回り給ふに由なし。嗚呼哀しい哉。

しかれども飜て恭く惟みるに　陛下在位十五年、内治外交大に擧つて國聯益進み文化も亦大に振興して國力の愈々發達したる、その御偉業實に赫々として六州に光被す。

かくて英靈長へに去り給へども御盛徳は萬代に生く。おもふに多摩の御陵は往古より由緒深く帝都にもほど遠からねば、天無窮の皇運と共に永く護國の鎮たらせ給はん。ああ偉なる哉。

外交二難到る

日本の進路奈何

——昭和二年二月二十日第三十五號掲載——

政局の暗轉私議が頻りに行はれていよいよその行詰りのドン底を曝露し來りたるけふこの頃、對支問題は一段と重大性を加へ、新に軍縮會議の提唱が北米の一角から飛來した。耳ありて聞ゆる者は聞くを得べし、邦家の昨今は眞に重大事殺到して國民の耳朶を打つ警鐘の尋常ならざることを。古往今來内紛

繁くして運命の傾くこと個人と國家とを問はず軌を一にし、其窮まる所竟に外交の一擊に復蹴ち能はざるに至ること比々然らざるはない。而して内紛は射利荒淫に發せざるなく、方今流行の政界泥試合の如きまた他因を求むるの要がない。或は内紛を糊塗するに「暗和」苟合を以てし衆目を僞瞞するが如き一段と心事の卑劣を語るものである。さて對支問題の其後の發展は日本の進路に容易ならぬ溝渠を作つた。英國は上海に據つて日本の對支貿易に怪異の眼光を放ちつつある。シンガポール問題を現實に役立たしむるの用意は看取されて來た。かくて所謂我が不干渉主義が名を收めて實を捨てしことの僅少ならざるの次第は漸く知れ渡りつつある。不干渉主義が今時特に高唱されねばならぬとは何たる時代錯誤であらう。補助艦艇制限問題にありては佛は國際協調主義より伊は國家の面目より一應は兒事に蹴散らした。蓋し國情眞に已むを得ざる結果である。我國に於ても主義としては格別實行に至りては坦々として決し去り難きこと勿論である。人或は太平洋の天氣清朗を說いてその波浪高きを忘る。さり乍らこれ机上觀測の過誤に出でしこと勿論であるが、かくて亞細亞の雄邦日本丸の航海は天候次第で進退せねばならぬものか。我等は雄邦の地位と氣力と理想の爲めに軍縮問題の眞髓に徹するの覺悟が要る。

政界の流行語

昭和一新を策せよ

――昭和二年二月二十日第三十五號掲載――

政界の流行題目は嘘の効用である。流石に今日の政界は國民生活とは別天地だけありて常識では皆目判斷がつかぬ。常識の教ふる所に據れば政治程公明にして解り易いものはない。個人の臺所が直に政治に反映し吉兆寒暑の問題が其儘に政治に表現されるものと思はれてゐた。卽ち政治は有りのままの國民生活であり、其飾りなき要求を示すものであると思はれてゐた。而して個人に個性ある如く國家にも個性あり、卽ち國體の反照が政治にハツキリと看取さるべきことは勿論であると思はれてゐた。然るに事實は之を裏切ること前述の如く、現代政治が我國體と逆行するも甚だしきことは以て他言を俟たぬ所であらう。我國體より觀たる政治思想は一君萬民の基調に立ち、國民各自の間にありては素より一如平等徹底せる機會均等である。かくて各人の生活は悉く一君に直流直行して諸種の幕府的專權の介在を許さざるものが其建前である。而して斯くせしむることが政治家の使命であらねばならぬ。現代政治の實相を觀て國體の確乎たる精神を振起すべきの急務は愈痛感せしめられて來た。國本に不拔に培へとの御聖旨にも想到して昭和新政に國民懸命の忠誠を捧げねばならぬ。

現實曝露の悲哀

政界の昨今を觀る

——昭和二年三月十日第三十六號掲載——

政治の倫理化は唱へられた。さり乍ら見せつけらるるものは倫理の假面化のみ。議會の民衆化は叫ばれた。さり乍ら謂ふところの『民衆』の暴力化を咎むるの聲は揚げられぬ。かくて政治の公明は幾度か繰返されたが政治は次第に暗黒となり、政界の興味を唆る題目は政策の戰ひに非ずして利益と政柄の取引に在るに至つた。而して之を矯めんとして政治の倫理化が唱へられたが、倫理なき政治の眼前に行はるる悲慘事に對し空念佛百萬遍なるも到底之を改め得ざるは明かである。倫理化は政治に始められるべきに非ず、寧ろ經濟に現さるべきであらう。政治は倫理以上であるべきである。國民生活そのものであり、我等の生命の遍照であり我等の理想が巨火をなして不斷に燒え立つそのものである。故に政治の墮落は我等の生活の墮落である、暗黒である。敢て政治の倫理化を唱へらるるが如き已に自らの生活を裏切られたるもの、かくて生活の謹直向上を志すものに取りて政治の墮落に無關心なるを得ざるは寔に已むを得ざる所である。而して政治の實相に就て觀るに醜聞百出殆ど耳を掩ふに堪え難きもののみである。卽ち今日の議會は國家を對象として行はるる賭博場であるまいか。一法律案の動く裏には巨額のテラ錢が

授取さるるの噂あり。用心棒は用意せられ、親分子分相結びて議會に虚々實々の秘策を廻らすの狀は婉然これ昔乍らの丁半沙汰である。かくて議會政治はボス政治であり特權者流の勝手放題に委すの外なきに至った。しかも我等の傳統的精神と今の心情とを以て何故にボス政治に反抗せざるか、またこの反抗に卑怯なるか。

政治に無關心なるは亡國民の特質である。しかも政治に關心すべしと云ふは政治に奔走すべしとの事に非ざることは云ふまでもない。政治を生活化して寸毫の惡政をも忍び能はざらしむるを云ふのである。特に我國にありては政は正にして虚飾を排すべきことを以て第一とすべきは祭祀の心事と異る所がない。政治の溷濁は正に神靈への冒瀆として我身の如何なる悲運不幸に逢ふも些かの文句はない筈である。かくて政治の没義道は必然に經濟生活の不衡平と不穩狀と表裏して人心の深刻なる葛藤を招來せしむるに至つた。而して政治が經濟の邪路に踏込む事に於て由々敷大事が惹起される。所謂議會の多數横暴の如きも議會自らが其職能を奪ふものに非ずして何ぞ。議會は政治の標的を實現して國民經濟の倫理的基調の徹底を圖る事が使命である。而して一々の施設は之が發現である筈である。しかも事は全く之に反して議會をして多數を擁して私利私慾の代辯たらしむるが如き、明かに議會否認の告白を裏書するものとなるではないか。議會有りて議會なきに均しきことは悲しき國家現象である。

對支策變換の機

全支那に不安漲る

——昭和二年四月十日第三十八號掲載——

一

殺人劍か、活人劍か、日本の對支策は今や十字路の尖端まで追詰られて此上の逡巡躊躇は許されぬ破目となつて來た。所謂對支不干涉主義の在銘活人劍は我國策遂行の俎上に横へらるること久しく、板前の器用なる評判も案外に高かつたものである。さり乍ら今や暴露されたその腕前は評判程ではなく出來上つた膳立は田舍料理の雜炊か闇夜汁である。萬人向は其特色でもあらうが竟に一時の腹塞ぎに過ぎぬ。趣好の美、工夫の妙、而して親切の粋を缺くことに於て永く人心を繋ぐことが出來なかつたことは勿論である。

二

三月二十四日の南京事件は所謂不干涉主義の不徹底が招いた罪であつた。幣原外相は議會に於て「我國民及國家の權利利益を擁護せんが爲めには陸海軍に於ても、外交の方面に於ても充分なる準備がある」と斷じて軒昂の意氣を示したが、南京に於ける帝國領事館があれ程迄に蹂躙され、多數同胞があれ程迄の凌辱を受け乍ら恬として恥なき有樣である。今更

不干渉主義などといふ野暮はあるべからず。之を語るさへ恥かしき次第でないか。而もその不干渉主義の實質を檢討するに主義とは名ばかりで實は無爲無策の別名なるを發見した。卽ち名を流行語に借りて絶對的不動主義に籠らんとするものである。我國民及國家の權利利益の蹂躙ありて一兵の能く動き得ざるなどが之を語る何よりの證左でないか。

三

對支干渉の殺人劍を抜くべきか否は素より重大問題である。さり乍ら支那刻下の時局は日本の獨り能く秋波を彼に送つて功を收むべき程の安呑でない。英米は已に腹に一物を藏して機會を覗ひつつありロシアの放火隊は轉々として工會と學生に油を注ぎ廻つてゐる。此間我國は獨り不干渉主義に據るといふ、流石に外交の條文化を遺憾なく發揮したるものである。殺人劍は容易に抜けない。さり乍ら殺人劍の活人劍であり、活人劍の返つて殺人劍となることのあるは敢て珍しい事ではない。筆者は活人劍の無慈悲外交に呆れ返つたので殺人劍の大悲外交に移るの用意あらんことを希ふの情に堪えぬ。さて對支政策の變換には國論の緊張と統一とが表現されねばならぬが今日の日本に果してこの用意があるか。更に想ふ、對米政策の確立にもあること勿論であるが今日の日本に果して之が對策の持合せがあるであらうか。今や對外策の確立とその遂行力とは一に思想の動きと大衆の結束力に因つて定められることは列強の例外なき所である。外交難の到來に特に之を明記して同胞の奮發興起を希求して已まぬ次第である。時や再び揚子江沿岸に怪火を呼ぶの叫び高く、北京は素より北滿一帶も鬼氣人を襲ふの凄慘が漂つて來た。大日本の興亡は國民自らの決意如何に懸るのみ。

對支策の更新期

新内閣の使命に就て

——昭和二年四月二十日第三十九號掲載——

隣邦その後の時局はいよいよ變轉出没し混亂々離の實相は遺憾なく暴露されてゐる。しかも南北ともに其の鋭鋒を次第に我が國に向け來りつつあることは特に注目すべき時相である。而して從來の我對支不干渉主義が行き詰つて局面打開を迫らるるの際、若槻内閣の更迭せしことは内外の停頓せる空氣を拂拭するに絶好の機會であらう。對支策の更新は強ちジンゴイズムを豫想するに當らない。否今時この舊套を着て世界の變局に立たんとする没義漢のあり得やう筈もあるまい。對支策の更新は我國民の飾りなき感情を流露せしめ、我國民の生活意識をハツキリと反映せしむることに出發せねばならぬ。而してこの見やすき事實を隱蔽して一時を糊塗し來りたるものが所謂我不干渉主義の別名であつた。かくて不干渉主義の現實暴露が來り長江に於ける我同胞が粒々三十年に亘つて築き上げた地盤は根底より顚覆せられ、同胞は編笠一蓋に杖一つにて逐はるるも天下一人として顧みるものさへなき有様である。これ果して我等の忍ぶべき所であらうか。英國の如き已に其駐支軍隊の增大を計り且つ長期に亘つて徹退せざるの用意就り事功を將來に收めんとして異常の決意を示して居る。しかも事案をして此盤に推移せしめん

か、我對支策が七轉八倒の苦しき運命に見舞はるることは明かとなつて來た。再び言ふ、對支策の更新はジンゴ連の尻馬に乘つて來るべきものにあらざること勿論であるが、我國民の心からの叫びを遮斷するものであつてはならぬことも勿論である。外交は内治の姿相其儘の表現たることを忘れてはならぬ。新内閣の重要使命の一は對支策にこの國民色を鮮明に打出すべきことにある。

政治の正義化

政界の現狀何の體ぞ

――昭和二年四月二十日第三十九號掲載――

政治の正なるべきは今更論ずるまでもない。正は不正と絶對に相容れざることも論ずるまでもない。而して正の本領は簡明純潔、低回味なく、不正との妥協性なき所にある。かくて政治の普遍色が鮮明せられ、其悠久性が保たるるものである。しかもこの明かなる道理が迂遠として斥けられて實際政治家の一顧だに値せられざるは國家生活の悲劇を暴露したものでないか。政治家は良心の敏感さが一倍と必要である、否この一事が政治家としての第一資格であらう。これなくして權變術策の雄に居るを以て政道練達の士たりと目さるるが如き天下の顚倒事これより甚だしきはない。かくて國民は政治家の傀儡とな

り、政商の餌食となり失望と不平のドン底生活に逐(お)い行(や)らることとなる。而して其結果の如何は語るまでもあるまい。これ一國政治の常道を歩むものの姿相であらうか。

政治は之を内にして民心の歸嚮を誤らざらしむるに在り、之を外にしては一國の面目を表現するものである。しかも之が爲めには政治の正義化と政治家の剛健心の表現がなければならぬ。國民は政界の迷信、過信、盲信をカナグリ棄てて日本獨自の政治意識に還らなければ國家危きことを心から覺悟すべきである。

政治戰線の擴大化

昨今の政界を觀る

——昭和二年五月十日第四十號掲載——

一

近時特に目立つて來た社會現象の一は無産大衆の政治戰線への目醒ましき進出振である。かくして既成政黨の陣容は大に亂れ始めたが、同時に巧妙なるその局面展開運動を機として最も惡辣なる手段が大衆を目掛けて策動し出して來たことに留意せねばならぬ。而して之が實例は近く財界の大激動と其對策

振りに看取されたが、大衆はその淺間しき心情に對し限りなき憎しみを感じこそすれ、寸毫の同情をも佛つてゐない。しかも他面に於て無産大衆を好餌として政治的社會的大賭博を企むものに所謂無政黨がある。先づ無産大衆を政治戰線の尖頭に立たしめて功利を一手に收めんと窃心して居る有様は他目にも明かであるが其熟れにせよ、純情無垢なる勤勞多數人を騙つて奈落のドン底生活に突落さねば已まぬものであることに甲乙がない。

二

既成政黨の行詰りは今更多言するまでもなき明白の事實である。政黨人が無識無能の身を以て飽くなきの慾望を政權と利權に掛けて憚らざるの態度は憎むも尚餘りあり。眼中自己身邊の利害ありて國家公益を顧みるなきの實狀は如何にも默視し得ない所でないか。所謂財界の大激動が奈何にして勃發せしかは管々しく語るにも及ばぬ所であるが、政黨者流が尠くも之を鎭靜せしむるの誠意を缺きし事文は事實である。否我國朝が大國民の襟度を缺きて流言蜚語に迷ひ周章狼狽措く所を知らざりしが如き、確に恥を天下に暴露したものであつたが、夫れにも增して咎むべきは政黨者流の背信的行爲であつた。著者は某々政黨が故意に財界攪亂を企てたとは容易に信じたくない。さり乍ら總ての政黨が聲明書一片さへ出さず、財界安定に努むるの赤心なかりしは事實である。

三

近頃某政黨が樞府彈劾を敢てし以て大向の人氣を收めんと焦慮したることも注目の的となつたが大凡そ我政界に斯くの如き途法もなき暴擧を爲した事がない。樞府の嚴存は憲法の明記する所に據り、其職能も亦官制の定規する所に懸り、且つ明治大帝以來功臣を擧げて重く茲に用ゐさせ給ひしものたることは國民の明識する所である。而して樞府は諮詢府と

して獨自在の判斷を以て奉答し一切の外力に煩はさるるなきを其特色とした。しかも某政黨は樞府のこの建前を非なりとしたが其の注文は要するに樞府與黨たらしむるにある。其の不當は勿論であるが、かくて舶來の憲政の常道といふが如き政界の迷語はいよいよ馬脚を露はしたことになる。

四

勞農黨と日勞黨とが議會の卽時解散と對支絶對非干涉の二問題に就て近く共同の聲明書を發してゐるが、之に依ると「民衆の代表者は議會に一人もゐないから「議會を卽時に解散し、直に民意を代表した議會に直すべきことを要求する」との事である。其お目出度き理論は措いて問はざるも、この程度のドクマを押立て、大衆運動の陣列を布くの度胸振りには流石に敬服の至りである。かくて無產政黨の名の下に無產大衆の被搾取が來りつつある。

要するに政界の現狀は百鬼晝行の姿其儘である。國民は方今の國情を如實に觀じてその心鏡に破魔弓をハツキリと打出せねばならぬ。政治戰線の擴大化は兎もすれば國民の純情を迷はしむるからである。

政黨のトリツク

廢墟の政界を眺めて

——昭和二年五月二十日第四十一號掲載——

一

爾俸爾祿　民膏民脂
下民易虐　上天難欺

辭は廢墟の二本松城に立つ巨碑に刻せるもの、藩需岩井田昨非の吐きし磊塊である。碑は風虐雨打煙星霜を經、今や春草繁る城跡の中に頂立して淋しくも旅客の愁情を唆つて居る。

惟ふに近代の政治は餘りに多く民人の犠牲を希求して居るのではないか。假令政治の形式は官僚より政黨へ移り來りたるとは云ひ、この犠牲は少しも輕減されては居らぬ。否民人の負擔はいよいよ增し、果てしなき忍從の苦難が年毎に加へらるるの始末となつて來たことは事實である。これ果して政治の進歩であらうか。

二

この俸、この祿、民の膏、民の脂とは善くも道破し盡したるの箴言である。勿體なさに涙なくして讀み能はぬ切言である。しかも近代政治の施設の跡にこの實感を物語つた何物が發見されたであらうか。官吏にこの迫つた感激が躍動して居るならば國政は

今少し革つてゐる筈である。政治家にこの反省の眞劍さがあつたならば國運は今少し暢達して居る筈である。國民をリードすべき立役が自ら飽食暖衣して民人の苦勞に對して風馬牛であつてはどうして善政が來やう。政治には金が要る、民人の脂が要る。否自らの生活にも金が要る、脂が要る。しかも他人の犧牲なくして湧き來るは一錢の金も一滴の脂もない。この自覺なくして各人の生活にどうして政治の滿足さが反映さるべきであらう。辭は素より當路者の放埒を戒めたものではあるが、近代政治に對する頂門の一針として何人も服さねばならぬものであることは論を俟たぬ。

三

今や政界は政治の常道で持切つて政黨が時めく時代である。之を民政黨の創立趣意書に依つて現はせば「普選に依り全國民の要求を帝國議會に集注し君主統治の下、政治上に徹底せる議會中心主義を確立せん」とする時代である。しかも政黨のトリツクは茲にあることを明識せねばならぬ。君主統治の下、政治上に徹底せる議會中心主義を確立せんとは鬼面人を欺くものではないか。彼等の政治思想は要するにデモクラシー謳歌である。英國流の政治を行(や)らうとするにある。君主をして政治に觸れさせ奉らざるやうにすべしとするにある。かくて名を民政に借り、議會に借り、多數に借りて實は民人を虐げ、豫算と請託運動に依つて搾取を敢てしやうとするにある。心事の陰險陋劣は論外とせねばならぬ。しかもこの黨略政治は政友會と雖も行ふ所で罪過は素より彼此同罪である。かくて近代政治が外面如菩薩で容易に民を虐げ得べきことは這般の政變前後に於ける財界救濟のお題目でも解つたが、この故にこの心をも欺き得やうとは斷じて考へられぬ。政治の荒廢墮落はやがて民族の上に立てらるる墓標となる。

黨人の所作二つ

中間勢力を一排せよ

――昭和二年六月十日第四十二號掲載――

一

政黨の政綱、宣言は萬能膏で世人は素より黨人自らにありても萬々承知で之を捏ねあぐるものである。因つて責任藥を銘打つて販賣さるるは表面のこと、實は世間を欺く勝手放題の誇大廣告に過ぎぬ。しかも政黨の誇大廣告は之を取締る機關なく、世人も亦慢性的に不信を措きて格別氣にも留めぬ程度の代物である。一々吟味して神經を尖らすが如き寧ろ天下の物笑ひであらう。

二

茲に立憲民政黨と名乘つて本月一日結黨式を擧げた政黨がある。憲政會と政友本黨との合作であることは云ふまでもなく、新政黨に似もつかぬ内容を有つことに於て已に天下の信任を裏切つたことも事實である。而して其宣言、政綱を見るに廣告の意匠と用語に一段の苦心を拂つて流行兒の氣褄を惹かんとせし苦心の跡は流石に之を看取するに充分であつた。さり乍ら看板に詐あること舊苔の依然たるものありて裏に新味の誇りなどは少しの持合せもない。

しかも舊苔の依然たるは恕すべからざるは反逆思想の露骨なる表現である。かくて現代政治の取引は世人に不信の不安を強ふるの外尚不忠の不安をも忍ばしめんとして居る、何の公黨であらう。敢て政治の取引といふは黨情の如實なる姿相に卽して語りしものに外ならぬ。

三

民政黨政綱の一に曰く

國民の總意を帝國議會に反映し、天皇統治の下議會中心政治を徹底せしむべし

思想は斷じて日本に芽えせしむべからざる底のものである。國民の總意などと今更獨逸流の物眞似も可笑しいが、總意の反映を議會に求むることは更に珍妙でないか。しかも滑稽と皮肉で濟まされぬ。天皇統治の下議會中心政治を徹底せしめよとならば竟に日本は英國の足跡を辿つて國體の懷滅を招かねばならぬ。斯の如き政綱が何の怪しみを受けずして素通りさるる現代日本の社會は並大抵の健康狀態ではない。徹生えた言ではあるが君臨して政治せずといふ英國皇帝の偶像を日比谷に打建てやうとは正氣の沙汰とも思はれぬ。偶像破壞運動は政治界にも强く叫ばれねばならぬ。

四

民政黨のデモクラツト臭を排擊して假借せざる筆者は、政友會の非道酷烈に對しても看過することが出來ぬ。特に近時頻々として報ぜらる、官吏更迭の如き玉石混淆して一刀兩斷し去りしもの尠からず、爲めに綱紀漸く弛み一葉落ちて天下の秋を卜せんとする者さへ出づるに至つた。人事を勝手些末にして政治の效績を云爲するが如の理非の顚倒事之れより甚だしきはない。政友會がこの遺傳的發作症より解放されざる以上は對支策の金看板と雖も大なる不安と不足がある。

政治は國民の傳統的精神によつて生くるものであ

る。この秋國民は一切の中間的勢力を透見して「まつりごと」の髄心を疑視せねばならぬ。

誘發か自發か

二高事件の一觀點

——昭和二年六月二十日第四十三號掲載——

一

學生の本分は研學第一で、之が爲めには渾身の精力を傾倒すべく他事は磊々落々、些の屈托あるべからざる筈である。素より世相は百態千姿、時に若人の心胸を攪き紊すこともあらうし、反抗の氣勢抑へ難きこともあらう。さり乍ら事は多く屑々些末のもの、かくて研學の誇りを傷くる狂騒事に加擔するが如きに至らば寧ろ廢學するに若かぬ。奈何にして眞理把持の大業に情進することが出來よう。

二

研學は人生の最大事である。殊に之を壯年時代に努めて效果最も大其旺盛の氣力と體力と而して強靭の記憶力とを以て學界の奥深く進み行く姿相は獨り時代の寵兒にして爲し得る所であらう。磐根錯節とは此時代の意氣である。天馬空を行くの想像は此時代の飛躍に看取される。しかも之れ若き學徒の誇り

得べき特權ではないか。かくて研學に洗心力行して日々之れ好日を重ね行くことに於て眞人の建設が歩一歩と築かるるものである。之を思はずして早くも混迷の社會戰線に進出するが如き、研學の冒瀆之に過ぎたるものはない。學識に獨創の閃きなく、操守に氣餒に讀書人の權威を裏切つて行くものの簇出するも決して偶然でない。

三

研學に没頭することは讀書の虫となることでない。没常識家となることでない。或はまた無力無爲、當世に用なきの徒を作り出すことでもない。否全く之に反して人道の勇者、國家の柱石たるの用意を充しむるに在る。かくて學徒の本分は夫れ自らに於て獨往自在、他の片々たる紛糺事に感觸するの寸暇もなき次第である。研學に從事して却つて世事に用なきに至るが如き末だ研學の精神を把握せざるもの、宜しく瀆學の罪と罰との應報に服すべきであらう。さて近時傳ふる所に依れば二高學生の校長排斥事件がある。面して其爆發して徒黨を結び、校外と策應して公然街道運動にまで進出したるは沙汰の限りと云はねばならぬ。而して其動機また必ずしも純眞ならざるものありと云はるるに及むでは殊更に嚴飭を加ふるの必要もあらう。惟ふに現代の時弊には多數を頼むで野望を逐げんとする卑劣柔弱の種々相がハツキリと映じて居る。而して學生騒擾事件の如きも其一例となつて來た。筆者は學界の權威の爲めに悲しみの情に堪えぬものである。

四

權力に對するに多數力を以てすることは夫れ自身に於て非難さるる事柄でないか。殊に之が盲昧を打破して所信を表現すべきことは當代に於て學徒の双肩に荷はさる責務である。しかるに學徒自ら時代思潮のこの濁流に投身して悔いざるが如き何たる不見識であらう。學徒の蹶起は誘發さるるに非ずして自

發に因らねばならぬ。而して自發は求めて容易に得べきものでない。知らず二高事件に自發のこの意氣あるか。しかも學生事件は往々にして當路者に一半の責任の免れ得ざることがある。罪なきもの先づ彼を毆つべきは素よりのことである。

假面行者の政治

かくて國基搖がん

——昭和二年七月十日第四十四號掲載——

一

英雄政治は現代人に嫌はれて居る。哲人政治は當世に容れられない。現代は大衆政治と銘打つた凡化教に歸依し、當世に流行するものは右廻左轉の妙法に通達せる假面行者である。かくて國民的理想の具現たるべき政治は低調淺劣に墮し弱國亂離の凶相は隨所に指呼さるるまでに至つた。國家の隆替は偶然に非ず。人生の得失豈徒事ならんや。近時の世相に映ずる政治の墮落が甕て國民生活を脅かし再轉して國家の根基を搖るがすに至るなきやは深憂に堪へぬ所である。失業に泣き、窮乏に追はれ、働けども、働けども食し得ぬ者の酷たらしさに對しては人生の試練と得失を語るさへ餘りに無慘であるまいか。

二

田中内閣は成立已に三ケ月を閲したが、明識を缺き殊に勇斷を缺き國民をして其の施政に大なる不安を感ぜしめて來た。對支外交の如き、財界對策の如き、政柄を托せらるるの用意なかりしことが曝露されたものである。對支外交の基本は國際信義の實現と日支經濟の交易協力に盡きて居る。かくて滿蒙問題の決着點が不動となり、居留民保護も生きて來ることにならう。かの若槻内閣が對支不干涉の自己催眠に掛りて丸木の一本橋まで來り餘病にて頓死したるが如き寧ろ天命であつた。しかも現内閣が前内閣との異つた意味での自己催眠に罹り對支策のこの基調に一指も染むるの勇氣なきは奈何。財界對策に至りても亦同じ。苛くも政治家が當路に立たば責任を廻避して何か出來ようか。最善を得ずんば次善を取れ、取つて以て退轉逡巡する勿れ。一斷よく群議を一排して立つの慨なき者は政治家の第一資格に缺けて居ること論を俟たぬ。

三

さて近代の内閣は多く凡愚政治の好タイプであつた。素より筆者は現代の日本に英雄政治、哲人政治が行はるべきものとは信じない。否將來と雖も其實現は不可能であると信じて居る。さり乍ら英雄政治、哲人政治と云はば直に國體破壞の專制政治と斷じて一途に排擊し去るが如きも未だ其眞骨頂を解し得ざるものである。筆者は現代政治に政治原理なく政治理想なきを悲しむものであるが、かくて現代政治家が制度と形式に隱れて公益を犯すに至れる事實に對して國民は深刻の反省あるべき筈である。筆者の私見に依れば英雄政治は先憂後樂を信條として行はるるもの、また治國平天下の髓心を現はすものである。而して英雄の心事はまた國民の心事で、國民的アスピレーションに生くるものにして英雄たり得るものである。其器に非ずして天下の廣居に在ることは現

代生活の罪科であることを知らねばならぬ。

他力本願の時代色

社會相に危機盈つ

——昭和二年七月二十日第四十五號掲載——

一

現代は他力本願の時代である。而してまた自己の無過失となし責任を社會に轉嫁せんとして理論鬪爭を敢てするの時代である。かくて前者の時代色は政治、經濟、外交、教育等に反映して國民の意氣已に衰へたりとの實感を與へしめ、後者の時代色は社會問題の上に其の暗影を投げて國家の綱紀を搖るがせんとするかの深憂を涌しめて來た。徒なる他力本願は勤勞主義を裏切るもので國民をして狡智と投機心の增長を齎す外に何一つ役立つものでない。他力本願は自力の上に立つて始めて靈驗の顯たかなものであるが、自力は力行奮發が動因となつて光彩を放つことは更に多言を要しない。

二

之を現代の政治に見よ、中央も他方も獨往自在の政治行動などは到底見られない。一活動には必ず補

助金の下附が先驅せられ權力者の後援が希求されて居る。先づ自ら國家を荷ふて立つの用意あるべき筈の政治家が先づ國家を搾取して寄食せんとの心掛けが看取さるるとは惡むべく、情なき次第である。經濟また然り。外交に於て殊に然り。政府の一張一弛に據つてのみ在外勢力の一進一退が決せらるるが如き何たる不甲斐なき現象であらう。かの對支外交失敗の跡を觀よ、政府者の罪は素より輕少ではない。さり乍ら國民が從來餘りに多く政府に賴り過ぎて自己の勢力を自ら不拔に培ふ事を忘れて居た罪も決して輕くない。

國家を自己の裏に發見して獨力以て牢乎たる地歩を築き上ぐるの快は到底他力万能者の夢想だに爲し難き所である。對支幾億の投資、在支幾十萬の同胞の據點が一革命戰に依つて奪還せらるるとは信じられないが、事實爾く觀ぜらるる所に國民全體として反省すべき缺陷がある。

三

無過失責任賠償に關する理論的根據に就ては之れを肯定するに吝ではない。さり乍ら其の思想的構成に於て多く之が逆用せられて國會不安の素因を激成しつつあることも認めねばならぬ。殊に之が傾向は勞使問題に現はれ自己を無過失と斷じて失意、不始末の罪を只管に他に嫁し憚るなきが如き勞資兩つ乍ら頻々として行ふ所である。社會連帶は素より免れぬ所であらうが、罪を相手と社會にのみ歸せしめて其滿足を得られざるに及むで秩序破壞に出づるものは決して尠くない。かくて勞働者は大衆力を以て直接行動に出て、資本家は金權を以て對抗し、其の慾求の充たさるるまで爭して已まぬ。而して被害者は常に社會であり、兩者戰はざるも之が被害を受け、兩者相搏つては被害は更に深刻を加へて來る。個人の卑劣と社會の迷惑が嵩じ來る時兩者運命の窮まる所奈何であらうか。自力なき他力本願は日本精神の

傳統と絶對に相容れぬことは云はずもがな、この奴隷根性の跋扈に對しては各人の罪は決して輕からざるものがある。

佛か鬼か

普選と其精神に就て

——昭和二年九月十日第四十八號掲載——

一

普選に因る第一回の總選擧は府縣會議員の選擧戰を前驅として目睫の間に迫つて來た。政友、民政の對策は云はずもがな、所謂無産黨の面々までが鳴物入り宣傳振りの鮮かな手管を見せ始めたものも特に目立つ相應しい現象である。近代政治の誇りとせらるる「大衆向」の背景と照明を以て政治舞臺を飾ることに抜け目がない連中とて選擧戰に一段の工夫を凝らすことに不思議もないが、さて其意圖は那邊にあるか。

彼等の對照視せらるる國民は開眼張膽、自國と自己の前に深刻の反省を重ねて政局轉換のこの扉を開かねばならぬ。出て來るものは佛か鬼か。正に國民的運命の岐路である。

二

我國に於ける普選の實施は之を端的に云はば一君萬民の國體精神に基礎附けらるるものたること明かである。形式を歐米に採りたるは便宜上に出でたるのみ、其精神は純乎として日本的であり一君を廻りて萬民均しく參政の誠を表明することに外ならぬ。その未だ普選に至らざりしは國民的智能の不同調に歸因したるもの、今や教育普及して國政補弼の能力ある者僻鄙に充つるに及び其本來心に還つて政治の水平を期せんとすること當然の歸趨である。各人をして其居に安んぜしめ、其能力を自由に伸ばしむる國家の面目は日本に於て實現し得べく、かくて國家は最高の道徳であり、或は道徳以上の實在とも謂はれ得るものとならう。我國に於ける普選の意義はこの國體精神の宣揚擴充の徹底を表現したるもので、之が運用を誤るに於ては日本精神の死滅を招きやがて國民生活を破壞し去るべきも明かである。

三

惟ふに現實の選擧戰には地盤と金とが最も意張つて通つて居る。而も選擧戰にこの位不合理なものはない。選擧に於ては候補者の人格と識見と力量とを自由に簡抜すべく、之が爲めに選擧人は自己の教養と判斷を試むべき絶好の機會である。選擧に地盤を云爲せらるるが如きは選擧人の無識を曝露せるもので、被選擧人に對する選擧人の信任如何の表明は地盤で押潰さるる程の不自由なものでない。選擧は國民的淨化運動、向上作用である。一選擧毎に一向上の自覺が漲つてこそ其意義も出づれ、然らざるに於ては選擧は野心家の亂舞場となつて百害續出竟に選擧なきに若かぬ狀態となること明かである。而も地盤は選擧戰の裏切者に乘ぜらるるの危險が最も多いことに注意せねばならぬ。金力を痛く排擊せねばならぬことは特記するまでもない。選擧戰に於ける金力の跋扈が虚無狂暴の亂世と皮一枚の境であること

も云はずもがなであらう。今や各政黨は盛澤山の政策を並べ威勢のいいスローガンを羅列して府縣會議戰の最後のゴールに入らんとして居る。而して之が勝敗奈何は來年の國會戰にも多大の影響あらんとのことである。筆者は國家の名の前に普選精神の躍動を期待して之を觀察しやう。

英國勞働界の近況

我勞資の反省を求む

——昭和二年九月二十日第四十九號掲載——

一

本月七日發倫敦特電はエヂンバラに開會中の英國勞働組合大會の情報を傳へて居る。曰く

本日三百七十四萬六千票に對する十四萬八千票の壓倒的多數を以て、少數急進勞働者と關係ある總ての機關を一掃することを可決した。之は共産主義者に對する決定的打擊であるが、この少數急進勞働者の運動は世界の勞働組合に共産主義を宣傳する爲めに組織されたモスコーの赤色インターナショナルの出店である。勞働組合總會の幹事サイトリン氏は右決定の必要を力說したる後、此少數急進勞働者はモスコーから給料を貰つて居る代理人であると喝破した。全國

炭坑夫組合會長ハーバート・スミス氏は右決議に對し坑夫組合内に反對論者があつたが票決に際し熱烈な雄辯を揮つて共産主義者を完肩なきまでに攻撃し遂に坑夫組合代表をして賛成投票せしめた。本日の投票は實に英國勞働組合主義の平和的發展への新紀元を畫するものであると解されてる。

更に英國勞働運動界に其人ありと謠はるるヒツクス氏の如きも口を極めて勞資協調を力説し世人を驚かしたが、これ果して何を語るものであらうか。

二

英國の勞働界はゼネラル・ストライキの慘苦を後にして一年有餘の默考を重ねた。而して結果は竟に昨年九月二十九日リバプールに於ける第二十五回勞働黨總會席上でマクドマルト氏の爲した聲明の「憲法上及國會上の手段に依る社會改革」の眞理を確めたものであつた。かの「少數急進勞働者の運動」に依つて勞働者の向上を期せんとするが如きは到底思ひも寄らぬことである。彼等にありては唯破壞と私慾とが運動の全目的であることが明かにされた今日、英國の勞働組合が之を痛く排撃したるは當然のことで、英國の勞働者達が勞働者本來の利益に還元したる時、勞資の眞の協調以外に自らの進路なきを感得したること敢て怪しとしない。かくて彼等は英國民祖國愛が決して衰へざる所以を天下に知らしめたものである。

三

之を我國狀に就て稽ふるに勞資乖離の傾向が日毎に烈しく、近時東京及大阪に於て共産派指揮の下にゼネラル・ストライキを企てて未然に發覺せられたるが如き其一例である。其他長野、千葉等々、物情漸く騒然たるが如き有樣である。而して爭議の目的、原因に就て種々擧ぐることも得やうが、之れが究局に於て勞資兩つ乍ら傷つき仆るることは云はずして

明かである。英國は素より戰後の歐洲諸國が其一時的内紛鬪爭症より醒めて結束協調の時代に入り來りたる昨今に於て日本、支那の東亞に於て頻々たるストライキ騷ぎを見んとは情なき次第である。尤も近く我國に於ても北海勞働俱樂部の如き「吾々勞働者の幸福は民衆を基調とした勞資協調主義に依つてこそ得られるのである」と叫び八月一日組織された千葉縣銚子の山サ勞働組合の如き「勞資の互惠の精神に立脚し事業の發展を策し以て勞働條件の改善を計るを以て目的とす」の如きものが現れて來たことは意を強ふするに足るものがある。時勢の動きを見よ、勞資兩つ乍らの深刻なる反省を求むる次第である。

普選の試練奈何

その二三の感想に就て

——昭和二年十月十日第五十號掲載——

一

普選の皮切り、府縣會議員選擧戰は大體に於て終了し、今や其正體を俎上に載せて正評の審判を待つものの如くである。筆者は前々號に於て普選の意義を闡明し聊か同胞の反省を求めて置いたから更に之を繰返すことの愚を敢てしない。しかも現實に普選の蓋が開かれて中から飛出した雜多の佛頂、鬼面を

見るに及むで多少の感慨なきを得ない。以下思い附いたままを語る。

一

普選の結果を見て驚かされたことは既成政黨の統制が意外に弱く而して紊れて居た事である。素より之は敢て今日殊新しく指摘するまでもない現象となつてゐた。だが之れ程までに甚だしきものとはこれまた誰も知らなかつた事である。例せば各地方の支部に於て黨員が自己本位に立脚して數と質とを無視した候補者を立てたものが頗る多かつた。しかし黨幹部は地方は素より中央に於ても之を調節按排する力量がない。而して朝野兩黨共その成敗の責を官憲に轉嫁して恥ずる所がない。これ果して何を語るものであるか。政黨の幹部は今や殆ど悉くが瘡痍滿身、之を他より眺むれば其節度に服するが如き片腹痛き次第である。大中小の幹部相曳いて暗に動く、名々勝手に行動するも之を制禦し得る者なきこと蓋し當然であらう。かくて政友會は敗れた。而して民政黨の稍勝ち得たるは政友會の他力本願に對する國民の反動を收めたるに過ぎない。倶に其將來は不安である。投票數の採點競爭にのみ没頭して自らの運命を知らざるは昨今流行の政客心理でないか。

二

普選來を以て議會政治萬能と盲斷したる者がある。殊に在野黨が公然之を力說して次の政權は當然我黨に歸着するものの如く吹聽して巧妙なる選擧干渉を敢てしたが、不埒至極の思想と云はねばならぬ。政黨政治は議會政治ではあらう。さり乍ら「議會政治に徹せ」んか、竟に大權私議となり、大權干犯となり、大日本帝國立國の大本を紊すこととなるは多言するを要しない。選擧は素より斯の如き不逞思想を前驅としたるものではない。否一君萬民の國體精神に出でて君德民性の融合をいよいよ圓滿に完成せしめんとして許された制度である。しかも彼に走り

此を忘る、政黨者流の奸言邪說に多少とも動かさるるの現象を見んとは意外の不仕合せであつた。國民は能く政治の此迷信を破却して日本精神に因る政治の大を計らねばならぬ。

所謂無産政黨の擡頭に就ても一言したい。政治を擴大せしむることと、政治を低下せしむることを混同してはならぬ。普選に於て其政治戰線に此分界が亂れたるが最後亡國である。無産黨自らも、一般有權者もこの限界を越えたることなきか。普選第一の試練は兎も角も去つた。之が將來に就て更に深刻の反省と冥想を續けやうではないか。

ロシアの日本か

民心の弛緩を奈何せん

——昭和二年十一月二十日第五十三號掲載——

一

ロシア十月革命十周年記念祭と稱するものが去る七日に擧行され、我國に於ける一味に於ても之を機會に陰謀やら、陽謀やらが隨所に試みられたやうである。筆者は所謂左翼小兒病的な諸徴象に就て一々批判し居る程の餘裕を有たぬが、當日東京帝國大學内に開かれた革命記念講演會丈けは默殺し兼ねる筋

合があるので遅蒔き乍ら之を中心として近時の思想問題に就て一瞥を敢てしやう。蓋し我同胞の中に「ロシアの日本」を語るの徒あり、人々の之を識るも敢て怪しまざるの風あるを觀て容易ならざるの危機を看取したるが爲めである。

二

試みに「我等農民、勞働者の友邦であるロシア革命十周年記念に關する指令」と稱するものを讀むに、聞き棄てならぬ數節の不穩文がある。其中に次の一例がある。

日本は世界最大の帝国主義であり、殊に直接に支那革命の彈壓の衝に當り東亞に於ける反動の支柱である。陰險を極めたる對支干渉、第一次第二次出兵、滿蒙侵略、これ支那革命彈壓のためになされつつあるものである。我々はこれに對して強く反對し來つた。今後更に執拗に果敢我專制政府の軍國主義的帝國主義的政策と戰はんとしつつある(中略)かかる情勢に於てロシア革命十周年記念祭は來る。單なる分散的な研究會、座談會に止まつてはならぬことは勿論、進んで之を我が專制政府の軍國主義的、帝國主義的政策に對する一大反對運動の一樞機とせねばならぬ。

事實を斯うも顚倒し、理論を斯うも虐待して煽動一點張りに出た所は每々乍らの戰法であるが、我最高學府までがこの手管に乘ぜらるるとはその權威の衰へたる宣なるかなである。

三

十一月七日帝大に開かれた一味學徒の演說會は婉然たる革命國の出現であつた。名を學苑の自由に借りて前記の如き國體破壞の實行運動に相呼應せしもの、散會後百數十名一團となつて革命歌を高唱し乍ら本富士署に押寄せたるが如きは昭代の一大不祥事として斷じて看過し難き暴狀であつた。筆者は若き

學徒の前途の爲め深く其輕擧を悲しむと共に背後者の徹底的掃蕩の爲め朝野の勇斷を希求して已まぬ。事情右の如き次第で、不祥の言ではあるが日本のロシア化を策するものあること丈けは今や明言さるる迄に至つた。而して我等は此事實の前にして何を覺悟すべきであらうか。先づ失はれんとする日本精神は生活其ものとは離れて存在しなかつたが、今や生活は精神抜きで勝手氣儘に營まれたるが爲め其行詰りが來り其破綻が來たものである。日本精神の革新に人手を煩はさざるの傳統に立つ、而して斯くすることが効果的にも最も役立つものであつたが今や此第一義に躓くものさへ出づるに至る。痛恨之に過ぎたるものはない。日本勃興は日本精神の回顧から始められた如く國歩の今後の指針も亦此鐵則の變ぜらるる理由は毫も認め得ない。同志よ蹶(た)て。

政治戰線への方向轉換

所謂無産黨の大會を觀る

——昭和二年十二月十日第五十四號掲載——

一

所謂無産黨の年次大會は日勞黨を魁として去月末から各黨取り取りに開かれたが其收獲は見るべきものなく、何れも形式巧に取繕つて閉會したやうである。

さて各黨共通の主題にして世間的に最も興味あつた討議は所謂無産戰線の統一であつたが、これは目下の狀勢に於ては殆ど不可能事たることは始めから解り切つたことであつた。さり乍らこの主題があれ程までに世間の興味を惹いたのは我國に於ける所謂無産黨の運動が著しく現實的に傾いて來た證據で、各黨の從來の不明と不德とをハツキリ暴露したものであつた。

二

勞農黨の左翼福本イズムと稱するものが近くロシアの機關紙プラヴダに依つてロシアの黨幹部に容られざりし旨の發表があつたので俄然我國に於ても勢力の失墜を見た。福本派が理論鬪爭で押通しインテリゲンチアの人氣を煽つた結果は御本國でのトロツキーの運命を辿るものに似通ふものがあつたが、御本尊モスコーでの現實資本主義への逆轉ある以上、外國の奴隷達の方向轉換など眼中にないこと勿論である。

かくて一時羽振りのよかつた理論鬪爭派が没落して灰色勢力の擡頭しかかつたのは何を語るものであるか。卽ち經濟戲論の行詰つて政治戰線への視野が開け掛けたことで、この現象は人性の不可抗的發展過程に降伏した何よりの證據である。勿論この場合政治戰線が日本に於ける傳統に立つものであることは絮說を俟たぬ。

三

惟ふに現代政治に其雄を競ふものは政友會、民政黨であるが兩つ乍ら形骸に生き精神は已に死んで居る。而して國民の何人と雖も其施設に呆れざるものはなく、其心底に憤らざるものはない。しかも一方新興勢力と稱せらるる所謂無産黨の行動を觀るにこれまた或は既成勢力と撰ぶ所なく、其心事の低劣陰險なること寧ろ彼に比し數段の落差がある。或は狂騒抗爭を能事了れりとするものあり、他の衝動に乘

ぜらるることは其普通の表現である。かくて所謂無産黨の現況が未だ人心を繋ぐ域に達して居らぬことは事實であるが、其轉身術に深き反省を重ねて來たことも看視することが出來るやうになつた。卽ち從來の如く自己階級のみの經濟戰線に於ては運命の堂々廻りを試むるに過ぎず窮極に於て自己を活かす所以に非ざるを感得するに至つたものである。茲に於て狹き經濟戰線より廣き政治戰線への進出となつた次第であるが、この進出こそ人性の自然に還元したもので實質に於ては正に時代相の一大轉換である。

さて政治は大衆全局の安居を計るもので一階級、一黨派の利害の爲めに全局の破綻を來す行動の如き素より許さるる道理がない。新時代の新政治創作の爲めに先づ力强き日本精神の復興を希求して已まぬ次第である。

昭和二年を送る

二三の内政外交を顧みて

——昭和二年十二月二十日第五十五號掲載——

一

諒闇の年、昭和二年も餘す所十日にして逝かんとして居る。回顧するに多少の感慨なきを得ないが、今は唯思い出づるままに其二三に就て語る。

内政に於ては先づ政治と經濟を觀る。四月十九日、

田中男に大命降下して政友會内閣就りたることは兎に角政界での特筆事であつた。茲に兎に角と云つたのは其内閣が自力で産まれたのではなく、他力でしかも偶然の廻り合はせで授けられた爲めであるが、何にせよ現にあるが如き政黨内閣が出來た譯である。さて若槻氏を領袖とせる憲政會内閣が銀行問題に躓きて樞密院に止めを刺さるるや黨内に於ては早くも樞府に向つて怨聲を發するものあり、現に臨時議會に於ては樞府不信任を決議せし程であつた。さり乍ら現代に在りては政黨内閣が朋黨比周、類を以て集まるスポイルド・システムであることは今や何人も疑ふものがない。かくて政黨政治は事實に於て人心に背かれて居るが、ただ之に代るべきものが未だに現れざるが爲に其生命が僅に保たれてゐるのみである。因つて惟ふに政黨政治の弊風を矯めんとする眞の力に對しては、國民は虚心坦懐に之を迎ふべく、所謂憲政の常道などと云ふ囚はれたる思想に煩はされてならぬことは勿論である。

二

經濟界が本年に入り過速度的な不景気に見舞はれて來たことも見逃せぬ事實であつた。殊に二月十四日東京廣部銀行の取付を切つ掛けとして、三月十四日には片岡藏相の放言を機として渡邊銀行の仆るるありて、竟に慘膽たるパニツクの襲來となりたることは世人の尚記憶に新なる所であらう。しかもこの恐慌來に流言蜚語は雲の如く湧き人心を彌上に不安ならしめ信用取引の殆ど影を潛めしむるに至りしことは遺憾に堪えぬ次第であつた。これ卽ち物偏重に墮した國會の現實曝露を如實に語りしもの、到底大國民の襟度でない。自己を信じ、自國を信ずるものに取りては唯物思想程下らぬものはない。唯物思想は我等の精神を冒瀆するのみならず、物をも奪い去ることの活きた教訓であつた。

三

眼を轉じて海の外を觀る。英露の國交斷絶が先づありありと浮んで來る。卽ちボールドウヰンが帝國議會に之を聲明しロシアの赤化陰謀を痛擊したことであつたが、其直接の證據はアルコスハウスの捜索に因り赤化不隱文書を押收せしことにあつた。惟ふにロシアの一枚看板は赤化戰術であり、現に三月六日張作霖が北京に於て同樣の方法を以て入手したものに驚くべき謀略計劃の廻らされて居たことも明かにされたが、かくてロシアとの眞の國交が保てぬこと英國のみではあるまい。國交は條約尊重に出發すること勿論であるが條約は信義に基礎附けらるること亦明かである。しかも今の勞農ロシアに之を認め得るであらうか。六月二十日よりジユネーブに開かれたる軍縮會議はアメリカの不用意と我儘とが主因で裂した。支那にありては三月二十四日南京事件勃發し其の他續々として虐殺、凌辱、掠奪が行はれたが、對支不干涉とかの御蔭で何をされても見て見ぬ振りをすることになつた。かくて弗外交の跋扈時代となり、所謂被壓迫民族亂離の時代となつた。しかもこの狂亂を如何にして旣倒にかへすべきか。來るべき年に於て一段の努力と工夫を凝らしたきものである。

昭和戊辰を迎ふ

難局の當面に恐れざれ

——昭和三年一月十日第五十六號掲載——

昭和第三年の新春を迎へて若き聖天子の萬歳と古き我帝國の彌榮を祝し得ることは此上なき仕合事である。而して我等が生を日本に享け、現代に享けたることのこの仕合せを染み染みと感得せしめらるること恐らくは今日が絶好機會かも知れぬ。

勿論日本も現狀は多難多事、國民總努力の時である。さり乍ら國民は難局の當面には恐れてゐない。否その正體を凝視めて之が排撃の方法に就て深き省察を重ねつつあることをも看取することが出來る。日本が其進路を世界思潮の眞只中に取りつつあるの時に於て天氣晴朗にして波低きをのみ得ざるや素より覺悟の前である。明治時代に發航し、大正時代に漸く進み、昭和時代に大海の沖合さして行かんとす。日本の世界的試練時代が昭和の御代に於て實現さるることは疑ひなき所である。さて日本の世界的地位が如何に定められるるかは俄に豫斷し難い所であるが、日本の生存と使命とが是非ともその優位にあるを要し、之が爲めには國民の結束力の强固なるべきことの必要なること丈けは明かなる事實である。因つて惟ふに現時の難局は日本の進展に連れて來れるもの、中には前代に於ては見る能はざりしものもある。而して之に對しては現代人の力能の現さるべ

きことあるも明かである。かくて我等に世界的地位の自覺が湧き難局打開の勇氣も出づる次第であるが、國民の決意は果して奈何であらうか。

新年は志を立つるに好適の機會である。殊に本年は明治戊辰を去る六十一年、其鬱勃たる進取の氣運は狂亂を乘切り、荊棘を拓くに充分で、恰も昭和戊辰の歳首を迎ふるに當りて別して感慨も深きものがある。ともに牢乎たる決意を致して奉公の實を表明せんことを誓はんかな。

政界の展望臺より

この一誓願斷を奨む

——昭和三年一月十日第五十六號掲載——

現代は用語とスローガンに誑かさるるの感がある。例せば「田中反動内閣」といふが如き「無産政黨」「搾取」といふが如き、而して「何々をブツ倒せ」「何々に反抗しろ」といふが如き類である。現内閣が反動か否かは何の標準で決めらるるかは知らぬが、苟くも政治を語るの常識あらば政策の個々に就て自らの定見を示したる上に於て痛撃を試むべきである。無産黨と一概に片附けても其意味を爲さない。搾取を大衆よりするもの、國家並に公共團體よりするものが今日の運動家に可なり多いことも否定出來ぬ。彼

を仆せとか、彼に反抗しろとか徒に煽動するに至りては眞人間を騙つて狂人たらしむると同様、人生の折角の發達を裏切る反逆者である。さて本年の政界の展望は如何。當面せる議會が解散か否かに就ては朝野何人も豫斷し難い所であらうが、兎に角普選に據る總選擧が行はれ政界の分野をしてヨリ明かならしむること丈は事實である。普選は政治のよりよき生活化ではあるが低劣化でない以上生活の僞りなき反映を政治面に期待すべきことは當然であらう。しかも我々の生活は用語とスローガンに依つて引摺り廻さるる程の情なき境地に在るのか。否本人の生活意識は日本人の創作にかかるもの、今や我生活を把握せんとするものは一切の假面を脫したる日本其ものの姿に在る。さり乍ら日本の姿は今如何の有樣であらうか。深夜之を想ふて眠り安からざるもの必ずや少くあるまい。因つて想ふに現代政治の現狀の如き正に我生活の恥辱に外ならぬ。之を此儘に放置した場合に滅落の一途を辿るのみである。我生活は日本の姿をハツキリと復活せしめ外道政治の大掃除を斷行せねばならぬ。これ本年に於て心掛くべき大任務であるまいか。

統一か分裂か

併せて秩父宮御婚儀内定を祝す

——昭和三年一月二十日第五十七號掲載——

一

分裂か統一かの問題は昨今の流行語である。政界でも、文壇でもその凡有社會種は夫々の反問の姿をこの命題に借りて上下左右に渦巻いてゐる。さり乍ら命題は敢て昨今の發明ではない。從つて外裝は如何にあらうと姿は依然として舊の如くである。因果相搏ち、前後相反するが如きこともあるも之を窮むれば姿に映ずる光彩の變化に過ぎない。深く稽へて却つて脚下に躓き仆るるの愚はお互に避けたきものである。

二

先づ政界を一瞥しよう。所謂既成政黨が惡業を盡して今や崩壞の急坂を辿りつつあることは事實の明示する處であるが、其苦悶の相を結束力の微弱に現してゐることは何人も認むる所である。政友會然り、民政黨然りで今や彼等の生活は蟬蠕動物其ままで中樞神經の見るべきものなく、胴體手足のどの部分を切り取つても差支のないやうに出來てゐる。これ今日の政黨が別名政權獲得株式會社とも云はるる所以で、株主は一株を有つも株主に相違なく相應に愚圖

れるといふものである。かれ是、觀じ來れば其命脈の盡るは寔に當然で、識者は已に政黨を弔して次代の用意を圖つている。

三

個人生活に就ても略同樣に語ることが出來よう。父子、夫婦の乖離々散の如き家庭悲劇の多くが頑なる統一主義か、紊らなる分裂主義に禍さるることの如何に多きかは餘りに明かなる事實である。而して文壇の流行兒は好むで之が現實曝露を敢てし、現代の文明街は魔手を伸べ迷網を張つて之が題材を供給するに吸々たるの有樣である。かくて世相は次第に赤化亂倫の畜生道へと墮し去らんとしてゐるかに見える。

さらば奈何にして此種の苦悶より脫れ得ようか、現代人が深き眠りより醒むべきの工夫は奈何。

四

統一と分裂は或意味に於て全體と個體との關係である。さり乍ら別の意味に於ては建設と破壞との關係でもある。前者の意味に於ては兩者は連關無二の間に立ち、其一を擧げて他を貶することが出來ぬ。故に統一と分裂は觀點の如何、態用の如何に在りて其關係は立派に倫理的の姿を取るものである。しかるに後者の意味に於ては兩者は枘鑿相容れぬ間柄にありて順逆正否の問題は自ら定まるの感があり、其差は天地霄壤も啻ならざるものがあつて兩者に倫理的定規を當嵌める何物もない。しかも昨今流行語の意義が後者に出づること多きことを誰か否定し得よう。

五

統一は金力、權力、智力のみからは來らない。血と徳から生れ出づるものである。かくて日本國家の

統一は皇室ありてのこと、しかも皇室なくしては國民生活なき所以が痛感さるる次第である。因つて金力に徹し、權力を冒し、智力を弄ぶものが國家の統一を破り國民生活を亂すものたることは明かで、血脈を同じふし、德力に結ばるる我同胞中に此種の異端邪宗者あるに於ては國家自ら深く恥ぢねばならぬ。我建國は統一に發し、我勃興は統一に就り、今や我進展を統一に據らねばならぬ實證が示されつつある。惟ふに統一は中心ありてのこと、而して皇室こそ之が標的で在すことは申すも畏き限りである。時恰も秩父宮殿下御慶事御内定の報に接して喜びに堪へぬ。拙文を記して奉祝の微意を表したる所以である。

大學の名の爲めに惜む七生社と新人會の鬪爭

此機會に大學の淨化を期せ

——昭和三年二月十日第五十八號掲載——

東京帝大内に於ける七生社對新人會の衝突は近來での一大事件である。一大事件と敢て斷じたる所以のものは七生社側の一學生が新人會側の一學生に對し暴行したるに端を發して學内の二潮流が沸騰し餘勢を世上に迸むるに至つた爲めのみではない。大學の名の爲めに惜む所ありしが爲めである。新人會が

今や我國無産黨の極左翼に位して居る勞農黨の出店であり、實際運動の有力なる陣營であることは隱れもなき事實である。而してこれが近例は昨年十一月七日學内に擧行された「ロシア革命十周年記念講演會」を動因として遺憾なく曝露せられ、更にまたまた最近は檢閲制度改正期成同盟の街頭運動にヨリ明かにせられたが、誰一人としてロシアの使徒たるを高々と誇る斯の大學生一派に對しては異議を挾むものさへ出なかつた。否當時或る方面に於ては大なる異議の起りしことは事實であつたが學問の獨立、研究の自由の名に怖けて手出もなり兼ねた様子であつた。さり乍ら鬱憤は竟に學内よりしかも學生側より曝發された。卽ち之が直接の動因は本年一月四日に開催された辯論部大會に於て左傾派辯士に對しては無條件の大喝采を送り、公正の意見を吐いた辯士は劣發の大妨害を加へらるるの光景を呈し婉然過激派大會其ままの情勢を呈し、次いで一月二十四日には再び同一趣旨の示威講演會が同じく學内に開かれたことに在る。茲に於て國家主義に結ばれた七生社の憤起となり折衝數次の問七生社同人が新人會一味の僚友を傷害したる爲め竟に告訴沙汰にまで至つたものである。

表面の事實は大略以上の如きものであるが、之に對する教授會其他の態度こそ奇怪千萬に堪へぬものがある。學問の獨立、研究の自由は獨り大學の專賣でもなければ、この種の獨り合點が其ままに通る時代でもない。しかも若し眞に之れが徹底を期せんとならば大學自ら思想の確立を志し、行動の限界を律すべきではないか。帝國大學がロシア革命を禮贊し、神國日本を呪咀するものの爲めにも尚開放され之が爲め學問の獨立、研究の自由までが保證せられるべきものとしたならば大學の存在は國家の自殺と少しも變らぬことになる。學生側が若き純情の一徹から蹶起して新人會に當りし心持は悲壯の極で、この點は何と辯疎しても大學の面目丸潰れである。殊に上記の如き經緯から惹起された腕力沙汰に國權の裁斷

を乞ふたといふに至つては、大學及大學生が求めて國家の干渉を哀願したることに外ならぬ。大學の名の爲めに惜むこと斯の如し。

政戰の彼方へ

魔手はどう動くか

——昭和三年二月二十日第五十九號掲載——

一

國會普選最初の總決算は本日を以て締切られた譯であるが、本紙が同志諸氏の手許に達した頃には政黨の分野も略明瞭になつた後であらう。現代政治が一大スヒンクスであり、現代の政黨が時人を誑かすカムフラージユであることは前號に於ても略記した次第であるが、政戰一ケ月、この事實は遺憾なく曝露せられて有産と無産、舊と新との別なく政黨が國民の信任に値せざることの明かなる印象を殘して普選開幕第一の暗轉を了へたものである。

二

政戰の明るく、正しく行はるべきものであることは言ふを俟たぬ所であるが、政戰に托して國情の壞亂を策するものの出現に對しては政戰を中止しても

其絶滅を期せねばならなかったことは勿論である。これ政戰開始に當りて眞先に心得ねばならぬ規則で之を守らねば競爭資格もない譯である。しかも現に見るが如き選擧戰に於てはこの幾十かの無資格者が勝手に飛込むで無茶苦茶の割込競爭にでたのであるが、しかも其言分は政戰のフエーア・プレーで行かうといふのである。天下未だ斯の如く人を喰つた、惡むべきの徒輩はない。かくて彼等の口癖にいふ所謂裏切者とは彼等自らのことで、國恩の下に在り乍ら國家叛逆を敢てしようとするのである。或はまた國家否認、國權蔑視、而してロシア萬歲の信者が選擧干涉を云々して國權の發動を絶叫し、國務大臣數名を告發しようと騷ぎ立てる有樣である。其思想的矛盾撞着は兎に角として心事の陰險陋劣は到底日本人の傳統心の許さざる所で、其一事を以て見るもフエーア・プレーなどと云ふ資格のなきこと萬々明かなる次第である。

二

所謂無産者の生活保證や資本家の横暴に就ては別に取るべき方途もあらう。が眼前の感情に制せられて奇矯過激に走り竟に國家の壞亂を招き兄弟倶に倒れ、他力の干涉壓迫を求むるに至るが如きこととともならば萬事休矣である。しかもこれ決して杞人の憂ひでなく大戰後の世界相を識るものに取つては油斷のならぬ禍根で、筆者の之を痛論する所以のものも已み難き至情に驅られたからである。殊に選擧政戰の大勢より見て人物本位より黨本位に移ることが普選に於ては免れ難き實狀である以上、選擧人も被選擧人も政戰の彼方に眼を放つて先づこの再吟味から取り掛からねばならぬ。近く京大の某教授は勞農黨の某黨主を應援して物議を醸してゐるが、某身分と地位より稽ふるも不埒至極である。勞農黨の本領はモスコーの家來として忠實に盡する在り、共産主義に徹するに在る。而して之を扶ける者に日本國家の

高位を享け、高錄を喰むの徒が堂々として政戰々線の第一線に立つということを見るに至つては官憲の襟度海の如く、神の如きものあるに敬服せざるを得ない。既成政黨の醜き政戰を痛撃したる筆者は政戰の彼方に動くヨリ恐るべき魔手の謀略を默視するに忍びず一言したる次第である。警戒は寧ろ總選擧の後に於て一倍と必要にならう。

政黨者流の胸奥に潛む議會中心主義を難ず

時勢の此急迫を見よ

——昭和三年三月十日第六十號掲載——

一

二月十九日鈴木内相の發した聲明書が議會政治を否認するものなりとの逆宣傳を喰つて思想界、政治界に時ならぬ大旋風を捲き起してゐることは見逃せぬ現象となつた。問題の聲明書に曰く

我憲法上内閣の組織は畏くも大權發動に職由して政黨員數の多寡を以て直に内閣が生れるといふが如き他外國の例と照比するを許されない。

又曰く

議會中心主義などといふ思想は民主々義の潮流に棹さした英米流のものであつて我國體とは相

容れない。

といふのがその中核のやうである。しかも筆者が茲に之を援用したるは之を以て問題の對照とするの意に非ずして未知の同志の爲めに特に揚げたるものに過ぎぬ。黨人鈴木氏の政治的場合如何の如き素より關知せざる所である。

二

さて問題の議會中心主義の意義如何に就ては、之が政綱を掲げてゐる肝心の民政黨側から未だ（本稿締切まで）何等の釋明が發せられて居ないし、假りに之が釋明あつたにしても孰れも政界泥試合の飛沫なること必定、斷じて正しき判斷が期待し得ぬこと明かである。

而も之を端的に云はば議會中心主義が主權無視の政治である事は事實である。これ獨り憲法の明示する所に止まらず、政治の實際より斷じて爾く言明して些の憚もない。殊に政黨の現狀見るが如くんば朋黨比周、唯これ射利、唯これ權勢而して國家を食物にし國民を泥塗にして飽く所を知らぬ有樣である。かくて今日の政友會あり、今日の民政黨がある。彼等朝に立てば請托を容れ權柄を弄して恥づるなく彼等野に在らば煽動奸惡以て民人を驅つて政權奪取の手兵たらしめて居る。其表看板たる政綱政策の如きペテランに非ざれば庸劣時人の心胸を拓く何物の用意なきことは寧ろ當然であらう。茲に於て政友民政兩乍ら國民の前に過去罪業のバランス・シートを作つて信用破産の清算に取掛つてゐる最中である。しかもこの手合がその斷末魔に頭數の多寡のみを算段して再び政機を闇に動かさんとしての公然の亂痴氣騒ぎである。其心事の醜怪偕越惡みても餘りあるものと云はぬばならぬ。

三

議會中心主義と云はば議會萬能主義と解することが常識に適してゐる。而も議會萬能主義は明かに我

國體に背き、我感情に悖り、我生活に逆流する不逞思想であること言を俟たぬ。議會萬能は議員萬能であり其領袖萬能であるかも知れぬが斷じて君主萬能でない、否國民萬能でもない。議會萬能は之を西洋流に云はば人民政治卽ち民政政治に適するものであらうが、それさへ實狀は人民政治とは似もつかぬボス政治に墮して居る。況んや之を以て君主政治に結ばしめんとするが如き鬼面人を欺く底のもので、到底正氣の沙汰でない。

惟ふに日本精神に發足し一君萬民、人皆其居に安んずるを以て德としたるものである。政は正、中點を皇室に載きて國民均しく其周圍を繞りて皇化に浴し來りたるもの實に古來より我政治の特質であつた。而して議會制度の布かれしは之が特質の普及徹底に在らざりしこと明かである。蓋し議會制度は歐洲に生れ歐洲に長じたるもの、其發達史は國王及特權階級に對する人民の鬪爭記錄であり竟に主權を議會に移し以て權勢の完全なる牙城としたるものが實に之が實相である。因つて我國に於て議會中心主義に徹せんとならば國體の變更を要望することとなるべく、これ寔に容易ならざる不逞事である。

四

殊に政爭に皇室を云爲して渡り合ふことは臣子の分として嚴に避けねばならぬ。この意味に於ても筆者は現時の政界に多大の不滿を禁じ能はぬものであるが政爭は政策の是非に就て見らるべきものと思ひきや、今や爭ひの苛烈深刻其度を越えて竟に國體の根基に就てまで魔手を伸べて來た。以て時勢の急迫を察知すべく一步誤らば國運の向ふ所逆睹し難きの感を抱かしむるに至つた。

かくて官僚幕府を仆したるも束の間、今や世は政黨幕府の桎梏に對し堪へ難きの憤懣の情を漲らせて來たが此際殊に主權の自由なる御發動を希ふて拔本塞源的の日本本來の正しき政治に還りたきものである。しかも之が方途は外なし英米流の議會中心主義

より解放さるることが一切の先決問題である。國民は虚心坦快、政治の實相に徹して心深く期する所なければならぬ。敢て同憂の士の結束蹶起に俟つ。

議會中心政治を難ず（再論）

同志よりの質疑に答へて

――昭和三年三月二十日第六十一號掲載――

一

筆者は前號の言論欄に於て朋黨政治を責めて問題の所謂議會中心政治を難ずるの一文を公にした。然るに各地の同志より共鳴の意を寄せ來るもの尠からず反響の意外に多かりしことを知つて今更の如く拙文を恥ぢ且つ大方の同情に感激した次第である。惟ふにこれ今日の緊切問題に觸れたることに歸因した

る勿論ではあるが、同士諸氏の國體に就ての眞劍味が躍動しつつある證左で邦家の爲め欣懷に堪へぬ。寔に國政のこと現に見るが如きに於ては拱手傍觀し能はぬこと論を俟たぬ。但筆者の不德なる二三同志よりの質疑に接したるものあるを以て此機會に於て、之が釋明を兼ね問題の再吟味を試むることとした。

二

先ず國本社が問題の渦中に投ぜんとするものに非ざるなきかに就ての懸念があつた。國本社は素より思想運動を以て本格とし國本に不抜に培はんとするもの驅々たる政爭如何の如き問ふ所でない。唯國家ありての思想運動である以上、國家の根本に觸るる問題は之を看過し去ることが出來ぬこと勿論である。問題の天皇中心政治か議會中心政治かの論議の如き其對象が政黨と政黨人に非ざることは前號所說に明かにした通りであるが此機會に於ても特に再記する。所謂議會中心政治が結局に於て民主政治たることを痛論したるは思想的根基に立ちてのことたる勿論である。

三

次に若し本問題が國體法に觸るる重大問題ならば何故斯界權威の蹶起なきやとの反問であつた。筆者は同志の心事に對し限りなき同情と敬意を拘き乍らこの反問を受けた。有體に云はば筆者が本問題に對する態度は憲法擁護運動論者である。今や我光輝ある欽定憲法を死滅に導くの癖論が横行の時代であるからである。因つて問題の起るや某々公法學者四五の門を叩いて其憤起を促したがその得たるものは失望に過ぎなかつた。某大家曰く問題は自明の理、敢て今更之を叫ぶの要なしと。更に某教授曰くこれ政黨者流の泥試合に過ぎず、其飛沫を浴びるの愚を敢てせずと、某博士曰く民政黨の綱領は正に我國體觀念と全く反す之が理由を以て民政黨を解散せしむべし、但し予の名を以て之を公表するを許せと、概ね如斯ものであつた。夫れぞれに道理あり、同情を持ち得ること勿論であるがまた夫れぞれに卑怯あり氣兼あり、不親切あり其本分に背くことの非難をも免れ得ない。かくて最適任の權威者が動かない以上思想團體が其獨自の途に驀進すること眞に已むを得ない成行である。

四

第三に政爭に天皇を云爲するは極めて不穩當であるとの注意があつた。筆者も全然同感でこれまた前號に於て特に之を力說して置いた通りである。さり乍らこれには世上幾分の誤解もあるやうである。卽ち天皇が政爭に超越在らせらるるは勿論であるが、この故に天皇が政治に深入あらせらるるを是非するが如き寸毫の理由がない。否かく大權の自由の發動を是非するが如きことは夫れ自體國體破壞の重大事て、之を知らば蹴たざるものなかるべく、筆者は之が宣揚の爲めの微弱なる一先驅者の役割を果すものに過ぎない。天皇臣民間に周流貫通する情感が父子の如きものあり、御親政のままに民心一途に出づるやう努むるは補弼者の責任である。然るに今や朋黨比周、政治を私したる結果治道大に紊れ其收拾するに難きに及むで實に朋黨政治に徹すべき議會中心政治に赴かんとするを聞く。果して忍び得べきか。雲上に藉口して御親政の實を仰ぎ得ざらしめんとするが如き妄執の太しきものである。所見の一端を述べて同志への答へとする。筆者の意を諒せらるれば幸甚である。

非常時に力を缺く

國政を國家人に托せ

――昭和三年四月十日第六十二號掲載――

一

力の缺乏と感受性の不足とは現代不安の二大癌種である。而うして力の缺乏は私心の跳梁から來り感受性の不足も亦私心の妄執から來ることは疑ふべくもない。かくて現代不安が其行詰りのドン底に近づくかの豫感を抱かしむるに至り世相に映ずる種々象は一として急迫險惡を告げざるものなきを思はしめて來た。卽ち現代人がその精神生活の方向轉換を斷行して如何にして力を修養すべきか、如何にして感受性を育成すべきかの工夫を廻らすことの肝要事が切感さるるに至つた譯である。力なきところ人類生活の墮落が來り、感受性の足らざるところ世相不安の釀醸さるべきは古今東西の史實が雄辯に語る鐵則であるが今や現代の我國會には竟にこの缺乏と不足が來た。識者の深憂禁じ能はぬ所以のもの蓋し茲にあることであらう。

二

政界の無氣力、無定見の甚だしきは言はずもがなである。政友民政兩つ乍ら大政の重任に堪え得ざるは明白々、今や事務の荒廢は殆ど云ふに忍びざるも

のあり、善政の發見、所信の斷行の如きに至つては思ひも及ばぬ次第となつた。卽ち方今に時めく政黨人の力なきを責むるが如き野暮の骨頂であり、其の感受性なきを笑ふが如きも亦迂濶である。彼等が其の私心私情を以て醜爭に没頭する限り到底力の偉大性を發揮することが出來ぬ。況んや天下の不平を察して之が抜本的對策を施す底の活機を提へ得ざること當然である。權力に隱れ金力に縋り而して宣傳に乘じて漸く力を誇示する政客が如何に多きかを惟つて見よ。畢竟自己に確乎たる政治原理を缺くものの悲哀に外ならぬ。かくて今や其器に非ずして其位に在るものの清算さるべき時代である。國政が眞の國家人に托されねばならぬ時が來た譯である。

三

共産派の國體破壞謀略に就ては何れ近く其深刻なる場面の展開さるるを俟つて論評を試みやう。而して其稍穩健分子とさへ認められる民主々義運動に就ても之が論難は他日に讓らう。さり乍ら兎に角彼等が既に形式を政黨に採つて實際政治に進出したる以上行動の限界に於て自ら定まる所あるべきは明かである。しかるに實相は大に反し議會行動は其表看板に過ぎず、其眞意は階級的獨裁制にありて民衆の直接行動訓練の爲めに有らゆる術策を弄しつつあることは疑ふべくもない。卽ち今日の所謂無産黨と稱せらるるものの中には政黨のあることは明かであり、民衆を泥土にして自らの樓閣を築かんとしつつあるを看破せねばならぬ。かくて無産黨が既成政黨より區別せらるるはその惡魔的分量如何が問題とせらるるまでである。

惟ふに今や國家非常の時である。國民自らが力の具現者となつて非常時に處するの道を講ぜざれば難局打開の方途がない。それ自身に於て權威を有つ。

勞農獨裁政治撥かる

特權者も亦反省せよ

——昭和三年四月二十日第六十三號掲載——

一

日本共産黨の陰謀事件を契機として勞農黨外二團體が解散せられたことは青天の霹靂の如く國民の耳朶を打つた。我國勞働運動界の左翼三團體がその宣言及綱領を自ら蹂躙し且つ全無産大衆を僞瞞してゐた事實が曝露された譯で國民の深刻なる怨みを買つたことは蔽ふべからざるの事實である。卽ち三團體の中樞機關が我國體を根本的に變革し勞農階級の獨裁政治を布かんと企圖したるが如きは正直なる勤勞者の夢想だにせざりし所、その心事の陰險苛烈なるに對し無辜の同胞が限りなき憤りを發せしことも寔に同情に堪へぬ次第であつた。日本共産黨の名は素より公許さるべきものに非ず、從つて其潛行的活動に對しては廣く知れ渡つてゐなかつたが勞農黨一味に至りては公然の結社を得て思ふがままの跳梁を試みてゐた。しかも勞農黨一味は其の機關紙を始め雜多の文書に於て勞農ロシア禮拜を敢てして憚るなく我國體呪咀を繰返し來りたることは周知の事實であつた。因つて思ふに日本共産黨及勞農黨一味は別名にして別異に非ず、互に交流して有無相通ずるものあること明かである。當路者が片々たる形式論を排

擊して利刃一閃問題の核心に迫りしことは近來の大出來と云はねばならぬ。

二

共産主義が現代の凡ゆる視點より論ずると一顧に値せざる程の代物であることは少しも世相に觸れたるものの容易に語り得る所である。今日共産主義に走るものは野望家、戯論家、不平家、薄志弱行家の徒に多く何れも人性の反逆者に非ざれば勤勉事に當るを欲せざるものであるが、此事實は共産主義自らの清算に依つて雄辯に決せられて居る。共産主義政府の下に於ては力一杯働くことは馬鹿氣たことである。貯金は罪惡となる、而して理論鬪爭で分裂すること、理論鬪爭を禁斷さるることの自由が同時に生命を賭してのみ與へらるると云ふに至つては隨分人を喰つた代物でないか。共産主義は非望を抱いて當世に賭博を張らうとする者には好箇の囮であらう。有産、有閑の讀書生にも安直なる感情の滿足は得られよう。不平家の殉教的反抗の對象と映ずるかも知れぬ。さり乍ら確かりと大地を踏むで流汗鍛練する者に取りては共産主義は惡むべき阿片である。眞に腦漿を絞り、骨力を勞する者に取りては阿片の臭さえ俄慢がならぬ。生活戰線の眞の勇者であれば怒る時に興奮劑は要らぬ。憩ふ時に痲醉劑を用としない。怒るや眞に已むを得ざる時に於てし、憩ふやまた無碍圓滿自ら養神の途に入る。而してこの心卽ち本來日本人の面目であり發して國體精華の宣揚となること古來誤らざるの姿であつた。共産主義の如き日本人の心情に適せず、その存在は斷じて許さざる所である。

三

陰謀の内容がやや抽象的に公表されたる爲めか兎もすれば國論の中に一昧の怪雲の去來を見んとするは遺憾に堪へぬ。事態の頗る重大にして恐懼の限りなる次第は田中首相をして「身も心も打戰きて九腸寸斷の想ひに堪へ」ざらしめた一事に依つても知ら

る所である。兇徒の心事に對しては一點同情の餘地もなく何故に力を勞農ロシアの擁護に致して革命遂行に出たのか、目的は素より惡逆なるも其手段に於てまた唾棄すべきの卑劣さである。既に其信念に純眞を缺く、革命遂行者の毒杯見るが如きものあるではないか。

さて之を聞く、共産黨事件の發表に依り我國上層階級の狼狽は意外に甚だしきものありと。或は然るべきことの事實であるかも知れぬ。惟ふに狼狽は概ね教養なき者の常套事、斷じて大國民の採らざる所である。しかも教養は理解である我國の上層階級に於て先づ自國を理解し而して時潮の流れを理解することなくば共産黨事件に度膽を抜かれたることは寧ろ當然であらう。理解なき所力を缺き力なき所生活破綻が來る。かくして招き得たる打算と享樂の幻滅が國家力の衰弱と表裏して來ること明かである。所謂特權者が深刻の反省を敢てすべき時而して問題を正視して眞劍の生活を創めねばならぬ時である。

支那動亂擴大し意外の重大事惹起せん

泥土の我政爭を戒む

——昭和三年六月十日第六十六號掲載——

一

隣邦支那の動亂は漸く擴大し深刻化して來たるものの如く事態は表面の推移のみに依りて輕々に豫斷し難き有樣である。素より支那の内紛は年中行事であり大觀するにその國民生活には然したる變哲もなささうであるが近年の内紛には支那を囮としたる國際的謀計が織込まれてゐる丈けに之が成行に就ては特異の留意と決心とが用意されねばならなくなった。此視點より論ずれば對支絶對不干渉主義や、日本の既得權放棄論の如きは其動機の奈何は兎も角として一顧の値なき程の迂説僻論に過ぎぬ。今更支那とは何ぞやとの命題を解くまでもないが中央政權の確立なく部分神經の持主たる社會的國家を相手として隣邦に地を占むる我國民の夢圓かなり得るや否は問はずして明かである。昨日は東、今日は西と風のまにまに靡くものの爲めには絶對干渉主義と示ふが如きは支那自らを殺し、日本も亦傷つき而して某々第三國をのみ肥すべき毒語に過ぎぬ。況んや我既得權放棄の如き全く日本爆破に外ならぬ代物である。近時我讀書人に此種の迷語を聞くこと頻りなるに及むで敢て其不心得を戒むる次第である。

二

さて我對支那は其基調とするところ極東の平和維持にありて終始一貫して渝る事がない。かの軍閥の某々を推し、南北の某々を擡ぐが如き將に對支策の邪道に墮せしもの、時の政府者流が時あつて此邪道に陷りしことあるも國民の支援を得ざりしもこと當然であつた。卽ち對支策は對人策に非ずして對天策より來るべきものである。支那人の智辨計策は世界に冠たるもの、彼に倚り彼に據つて我の地歩を築かんとするが如き迂愚の極致であらう。かくて對支策は從來の人中心の浮動外交より脫脚して理中心の不動外交に移らねばならぬ。しかも極東平和を攪亂するものに某國の赤化策あり、某國の弗外交あり、某國の巧利主義ありて何れも支那に喰入つて其爪牙を磨きつつある。此秋に於て支那某々要人、某々頭目の一起一滅に喜憂して對策を二三にするが如き徒に彼の嘲笑を買ふことに外ならぬ。若かず我不拔の對策に據つて端的に支那の外來勢力に對峙せんには、この用意とこの決意なくして對支策を定めんとするも所詮は骨折損である。

三

近年我國威の支那に失墜せること驚くべき程に至り、朝に彼に低頭し夕に彼に退歩して竟に恥なき有樣となつた。之を敢て云ふも素より筆者はジンゴ連の片棒舁つぎでなく、好戰者流の煽動に力むるものではない。さり乍ら支那が國際信義を無視し、條約を反古にして顧みざるも列強が之が對策に就て足並の揃はざるが如き現代の大恥辱でないか。しかも其の被害の最大にして不斷の見舞を受くるものは我國である。卽ち我國は怪奇なる打倒帝國主義運動の目標とせられる、一方に於て支那に關する限りに於ては國際間のアウトローに置かれて居る譯である。所謂我國の國際主義者が歐米の輸出向人道論に陶醉して居る間にこの不條理なる魔手が張られてゐる譯で

ある。一切の對支新論が眉唾ものたる所以は實に茲にある。さて支那は今後ますます亂れやう。而して殊に滿洲に於て其禍因は一倍と深刻となるの兆は瀝々として指呼さるる有樣となつた。就中ロシアの圖南策は舊帝政時代に輪を懸けた程の辣手である。如何にして善後策に出づべきか。我等は我對支策遂行の爲めに先づ泥土の如き政界の醜爭に見切を附けねばならぬ。隣邦の火災に當るべき筒先の水勢が斯うも四分五裂しては餘りに微弱である。切に同志の一考を求める所以である。

治安維持の重大性

文教當路健在か

——昭和三年六月二十日第六十七號掲載——

一

治安維持に關する緊急勅令問題を契機として復また思想取締是非の論議が喧騒されて來た。而して問題の中點は依然として

一、思想は思想を以て對すべく權力を以て臨むべからずとし

二、刑罰の重加を以て必ずしも目的を達すべからずとし、殊に

三、議會の承認を得ざる緊急勅令を以て重大な

る法律制定に出づるの不可なること

などが數へられてゐるようである。其他政治論や法律形式論や立法技術論など織込まれて可也問題は複雜多岐に亘つて居るが詮ずる所末節細端を是非するもので國家の現狀に徹せざるの結果か、國家覆滅の逆心に發しての事か、兎に角議論しても明徹を缺き假面ならでは通り切れぬ底のものが尠くない。

二

思想の取締といふことは思想が單純に思想である限りに於ては勿論至難のことである。此場合思想對思想の問題が至當であり濫りに權力作用に依つて思想の撲滅などが期待さるるものではない。さり乍ら現代の流行語である所謂マルキシズムの如き夫れが學内に於て表現せらるる限りに就て觀るも思想の領域を超えたる宣傳と其戰術の修得に外ならぬものである。卽ちマルキシズムを以て天から絶對的眞理なりと盲斷してかかり如何に有効に巧妙に之が徹底を計り得るかの研究と方法に腐心するのが其實相である。かくて自らは假面思想の鐵扉内に在りて毒計惡策を廻らして無辜の民人を陷れ會々之が取締の爲めの權力の侵入に對しては思想對思想の呼聲を大にして世間を釣るに日もこれ足らぬ有樣である。所謂共産黨事件に曝露された學徒の行動を觀るに如何に輕薄で卑劣であつたかは思ひ半に過ぎるものがあつた。而して共産黨事件に依つて國家破壞の不逞事の實行が策されたる事が明かにされたる今日に於て之が主目的たる取締規定が設けらるることに異議はあるまい。其制定手續に於て遺憾あるの故を以て國民は低劣なる政爭事と混看してはならぬこと勿論である。

三

さて國家が其生存を脅かすものの爲めに適當にして有効の手段に出づることは已むを得ざる所で其手段の如何なるものであるかに就ては國情の實際を觀て

決せられねばならぬ。しかも最近時の共産黨事件、某々重大事件の如き國體の根本的變革を企圖する者の出でて國民精神を呪咀攪亂し國民の共同生活を破壞するの實行手段を取るに至つては事態の急迫知るべきである。之に對し國權の異常なる發動を見るに至ることも忍ばねばならぬ。序を以て文教當路者に反省を促したかは近時の學生運動を如何に觀るかに就ての問題である。所謂社會科學の系統に屬する者の中には多分に不純分子を混合してゐることは事實である。さり乍ら其或者は殉教者の情熱に驅られて上長者や國權に反抗するものもあることを知らねばならぬ。卽ち誤られたる先入思想に陶醉して上氣したる者の存在は事實であり之に對し學界は素より文教當路者は多大の責任を負はねばならぬといふことである。歷代文相の地位が伴食視され、教育者が無能視されて來たる結果が現代をしてこの危地に陷らしめたことも最有力なる原因であらう。問題は國家及國民生活の生存に觸るる重大事で危機は脚下に在る。各人は一切の私心を拋つて時局の重大性に善處せねばならぬ。

思想善導の重點

形式に墮する勿れ要は『人』『心』の問題

——昭和三年七月二十日第六十九號掲載——

政府は思想國民就中中學生の思想問題並に思想的犯罪に對する對策として、治安維持の緊急勅令を公布する外、全國主要市の各檢事局には思想專任の檢事を配置し、又警保局では、犯罪搜査の警察を全國に張り廻し、其他教育上の施設としては、各學生間の思想系統に對して監視監督の眼を睜き、一方精神科學、宗教、東洋文化の普及、高調によつて所謂思想善導に努力しやうとしてゐる。何れも相當多額の經費を必要とすることである思想國難の聲喧しい時に、政府の對策としては、或は此邊のところかもしれぬが、何となく物足りない。物足りないといふのは、手段、方法が行亘らぬといふのではなく、芯に力がないといふことである。形だけは出來てゐても、魂が入らぬといふ感じである。何故か。

之に對して、新聞紙其他にあらわれたる所謂輿論と致すべきものの論調を見るに、政府の對策に對し、謂はば消極的の抗議とも見らるべきものが三つばかり數へられる。卽ち一、思想的犯罪に對し嚴罰を以て臨むは却つて、民情を激發する結果を招くものである。二、思想善導はいいが、今日の如き政治家、宗教家である限り、何處がよく思想善導の資格があるか。三、思想を克服するには思想を以てせよ、といふ

のである。理屈の上では一應尤もな點もあるがいかにも時務に昏い。

さて第一の嚴罰論であるが、國體を危くする犯罪に對して今回の緊急命令が果して嚴罰に過ぐるかどうかは別問題として、元來刑罰權の行使は、その運用の如何によつて、よい結果ともなれば、又時としてわるい結果を招くこともあらう。原法相の言葉が觸れてゐる通り、嚴罰は嚴罰其ものが目的ではなく、それが有てる威容が効果であり目的である。もし其威容によつて、刑罰が實際に適用さるる場合を奪ひ去つたならば刑罰の目的は目的以上に遂行されたものである、嚴罰の存在は、嚴罰の法規を缺くがために嚴に値する犯罪が、其ままに見逃さるる危險を取除くのであるが、それ以上に、嚴罰は嚴罰に値する犯罪の防止に役立たせることが第一義である。

第二の思想善導の「人」の問題であるが、これは或は輿論の言ふところが正しいかもしれぬ。今日の政治家の爲すことは、いかにも感心しない。誰しも恐らく政治家自身とても之を否認出來ないであらう。彼等に對してこそ思想善導の必要があると國民は言ふかもしれぬ。しかしそれが爲めに、思想善導といふ標語までも一緒に心中さしてはならぬ。今日の我國の國民、殊に青年學生達に對しては、たしかに偉れたる指導者を必要とする。又彼等の方でも、恐らくその人を待ち望でゐるであらう。が將來は將來だ。今日かりに大部分の政治家、宗教家等に多くを望めないとしても、最善に非ずんば次善だ。むやみに、その人を以てその言を捨ててはならぬ。少くも「思想善導」の標語の高調は、偉れたる指導者の出現を豫言する。新人達は笑ふかもしれぬが、國民の此謙虛の心持が偉人を生むのだ。思想が思想を導くのではない、人が人を率ゆるのである。

最後に、思想對思想の問題、これは理論的には正しいが、少し迂遠だ。今日、思想問題といふも嚴密には社會問題であり、生活問題でもあるのだ。思想を以てするよりも政策を以てすべきであり、そして

政策の核心を民族の傳統精神におくべきである。從つて問題は誠意と信仰である。思想對思想といふ如き理論鬪爭ではキリがない。といつて、思想對思想を否認するわけではない。第二義でいいのだ。政策とは社會政策である。そしてその神的臺石を据ゑるのは教育の力だ。民族の傳統精神の發揚がそれである。

右、輿論の三つの抗議について一言したわけだが、さればとて、政府のやり口に一々贊成する次第ではない。嚴罰もいい、檢擧もいい、思想善導もいいが大凡そ、思想問題といふものは「金」でなくて「人」だ。「人」「心」とにかかつてゐるのである。「金」の政治にかけては甲羅を經た今の政治家も「人」と「心」の政治となると或は手を焼くことはないか。此不安が取除かれぬ限り、魂が入らぬ。責任者に魂が入らず、輿論が無責任であるとすれば、心ある國民は何れに適歸するのか。

日本の歐米撤退

二問題の鏡に映じて

——昭和三年八月十日第七十號掲載——

一

日本よ東洋に還れとは從來も屢々呼ばれた所であるが今やその必然性はいよいよ明白となって來た。謂ふところの意義は日本の歐米撤退と云つてもよい。日本が世界戰後餘りに歐米に出張つて行つた爲めに兎もすれば歸途が忘れ勝ちになつてゐることを戒めた言葉であらう。惟ふに世界の五大強國、三大海軍國の美名許りでは切破詰つて居る人口問題の解決が付かぬ。食糧と原料を容易に手に入れんとする爲には現在の國際關係に對し或る程度の現狀打破を敎てせねばならねが列強の對日態度は決して好調でないことは事實である。而して一面に於ける日本の形骸的歐米進出が他面に於て東洋に於ける自主的立場を著しく不利ならしめたことも事實であつた。日本の歐米附合が餘りに高き看板料であつたことは今日に於て篤と反省せしめられて居る。

二

其一例は我對支策に現はれて居る。殊にいろいろの意味から近時の好話柄となつて居る滿蒙の特殊性に關する問題の如きその好例であらう。滿蒙の特殊

性に就いては三次に亘る日英同盟にも明記されて居り、一九一二年六月に出來た六國借款團にも一九一七年十一月の石井ランシング協約にも一九一五年十月に出來た四國借款團等にもザラに此名前を見出すことが出來る。さり乍ら滿蒙の特殊性に就ては中味が次第に減殺されて來たことは事實である。日本の滿蒙經營二十年、今實力の視點に立ちて正視せば容易ならぬ時代たるを思わしめて居る。しかも之が原因如何。日本が國際的虛榮心に煽られて滿蒙特殊性の現實を發見し得なかつたのが主因であつたらう。特殊性は概念ではない空手形の文句ではない、具體的現實的のものである。日本が滿蒙の大地に確乎として腰を据ゑぬ限り列强協調の如き後から後からと崩れるに相違ない。

三

日本が東洋に還るべきことの急務は日本精神の反省にも必然的に來て居る。日本は東洋に於ける先覺として輕かざる幾多の使命を有つこと今更多言を俟たぬ。しかも大戰後の思想界に現はれた日本の姿相は必ずしも本來日本の心持好きものではなかつた。プロレタリアートの獨裁を夢みて外國史を其まま日本史に織込まんとしたるが如き沒道不逞漢も出た。レーニン自らの述懷と云はるる『ボリシエビキ、ボリシエビキと云ふが所謂ボリシエビキ百人の中で六十人は馬鹿であり三十九人はニセ物である』といふ尠くとも三十九人のニセ物に可なり致されたことも事實である、さり乍ら日本は竟に日本である。其本來の姿に還つて自らを凝視た時、歐米に時を得顏に振る舞ふ階級獨裁や唯物思想が我國存在の基礎的精神と相容れぬことを感得するに至りしことも當然である。

曾てエマーソンは那翁が道德なくして成し得る凡ての事業を爲した。而して彼の失敗は宇宙の理法に悖れる必然の結果であるとの意を傳へたことがある。歐米輸入の流行的新思想が道德破壞に出づる一

事に於て已に我國に榮えざる理由がある。日本主義者渾身の勇氣を束ねて先ず脚下地均しの勞役に出でよ。

時代は斯く動く

思想の政治的解決

——昭和三年八月二十日第七十一號掲載——

一

ニュースの夏枯れ時に突如として新黨計劃の雷鳴が轟き渡つて政界の鬱積せる妖雲を動かせしことは近來の珍現象である。政界の現狀が觀るが如くにして醜汚極まりなき姿相を現はして居る間は思想善導の力なき説教の百萬遍が繰返さるるも詮なき業であるとの議論もある。さり乍ら今や識者は所謂政界の動き以外に新勢力と新題目の動きを凝視めて之れが當然に政界の分野をも作つて澄渕たる指導精神たらんとするに非ざるかに氣附いて來たやうである。卽ち舊式政治の神々が死むで新時代の政治が復活せんとする豫告である。

二

筆者は今更興味薄き政論を捉へ來つて彼れ是れ云ふ

の勇氣はない。而して之を語ることも亦本紙の欲せざる所である。しかも雷鳴に感電せる爲を以て暫らく國家の脈博を計らんか、明かに二つの問題に故障が在ることが指示された。一は對支時局の重大化であり、他は思想問題の切迫せる事實である。前者に於て日本の對外的危機來り後者に於て日本の對内的危機迫ることを知らせたことは餘所目にも疑ふことの出來ぬ仕業であらう。而も對支時局の重大化に就ては茲に之を語り得ざるを遺憾とするが思想問題の切迫に就ての述懐を語るに就て自ら之を了得されることを得れば仕合せである。さて今日の思想問題と稱せらるるもの、主潮の中に恐るべきカムフラージュのあることは筆者が一再ならず指摘した通りである。しかも今日の政界に於て其取扱はるる諸題目と之が對策の熱心さを觀るに国家興亡の中點が何處にありやの問題の如き殆ど無關心で看過されて居る様子である。其故意に出づる爲か將また無識に因る所にあるかは別として現實は正に斯の如し。黨利黨略に没頭せるものが國家生存の脈搏を察し得ざること或は已むなき次第かも知れぬ。

三

惟ふに現代日本の急務は所謂思想問題と稱するものの假面を剥いで之が政治的解決を計る所に在る。非日本的行動に出發せるものの何なりやに無關心であり、況んや之が正體を看破し得ざる程のものが日本の政治家であるがかくて政治が次第に低調無力に墮しつつあることは當然である。例せば近く暴露せる東京を中心とし近縣一圓を暗黒化せんと企圖せる一味事件に對し政界に於ては何等の問題とさへなつてゐないとは大々的奇怪事でないか。之も思想問題の片割れとでも思はれた故であらう。今日の問題たる思想問題は正眞正銘の政治問題であり就中最重最要の國家死活の問題である。しかも今日の政治家に取りては其罪業を購へ、其行詰つて來た局面打開に出ずるには之が取扱奈何に依つては對策の最適のもの

となり得るが國民は現代の政客に之を期待し得るや否や。

思想の現實性、思想の行動化の問題が幾多の微妙なる波動を國家の諸機能の上に働き掛けて居ることは事實である。而して現代の政治家に之が具體的對策と定見を見出だし得ぬことも事實である。低迷せる政客は思想問題と銘打つて實は國家破壞に從事する者に對し何を爲すべきかに窮している。日本主義戰線の次第に擴大して行く今日、考慮さるべき一公安である。

分裂途上の苦惱

政界にこの傳統斷つ

——昭和三年九月十日第七十二號掲載——

一

政界劇の幕切れには必ずや二三の念佛語が流行するやうである曾ては「肝膽相照」の「情意投合」のと御托を宣して政黨が閥族への降參に苦しき辯明を敢てしたことがあり、近くは政黨同志の間に於て「深甚の考慮」を残して狎合劇を了た事もある。更に前議會に於ては「合流」の噴飯語が流行となり語格もそれ相應に下落しつつあるを思はしめて來た。然るに最近床次氏の新黨組織の擧傳はるや片や「大義名分」の迷

語が飛出し、片や「情誼」論が呼ばるるに次いで今次の民政黨の内訌沙汰に於ては「不平組」の「愛黨精神」が何處からか放送されて來た。由來政界の事は譎百萬遍、朝に夕を計り難き始末であるが近來の爲體に至りては正視に堪へぬものがある。

二

有體に云へば現代政界の苦惱は各黨ともに分裂の不安と悲哀を滿喫せしめらるるの豫感にある。否その二三の表徴は已に白日の下に曝露された通りであるがこの傾向は多々倍々其テンポを急がせて行くことにならう。而してこの急速な足取りに對しては最早姑息な暗轉位では公衆の眼を欺くことが出來ない。況んや自他を誑かす聲明や隱語の道化役が當世に蔑視せらるるに至りしこと當然である。

さて政界の小黨分裂的傾向は其主因は黨主其人の役過重にもあらうが政界に於ける政治原理の缺如より來る所が多い。この事實に就ては筆者は本欄に於て屢々論及した通りであるが敢て政界の爲めのみと云はず國家の一大不幸事であることを確信する。政治原理は之を端的に云はば日本精神と其適用に求むべきであるが現代政治に之を語るも殆ど絶望であるかも知れぬ。

三

日本精神は潔癖と稱せらるる程の純潔さに在る。卽ち汚惡に對する明確の認識と之に對する絶對的非妥協に在る。而して日本古代史を繙くまでもなく我先哲は綿々として之が眞性を傳へて來た。謂ふところの日本精神の一斷面は國體意識と相表裏すべきもの、一君を繞る全同胞の運命と其歸趨の判斷は一に茲にあつた。因つて朋黨閥族政治の流弊を見るに至るや其革新は常に王政維新を標識となし之と相容れざる一切の邪惡汚塊に對しては寸毫も讓る所がなかつた。大化革新然り、明治維新然りである。しかも日本精神のこの傳統は政治の不斷の活力素であり起

死回生の注射液でもあるが現代の政界人を見渡した所之が體得者果して幾人あるか。

今や帝都にありては大疑獄が簇出してゐる。而して射利の前には公共を泥土にして顧みるなく敵黨と雖も密議通謀して恥なきの有様が展開されている。而して政界の地方的一単位にして已に然り、相倚りて政黨を作るも其集合離散が一に『利』にありて『義』に非ざること知るべきである。分裂結構、崩壊も亦自然の勢ひの赴くところは寔に已むを得まい。我等は日本精神を回顧して現代政治を觀るに悲痛感の遣瀬なき思ひに堪へぬ。

階級闘爭の轉機

教育の使命重大

——昭和三年九月二十日第七十三號掲載——

一

階級闘爭は近來の流行語、今や假令ローズ物に墮した嫌ひがあるにしても尚青年の間に一大御幣たるの有難味と勢力を有つてゐることは事實である。而して階級闘爭の狙ひどころは極端にして残虐なる現狀打破であり之が爲めには一切の傳統破壞に出でつつあることも事實である。しかも謂ふところの階級

を以て封建制度の遺弊なりと斷じて之と果敢の闘爭を繰返して最後の勝利を獲得せんとすること正に其公言する所である。さり乍ら階級闘爭業者の實相が案外に喰はせ物であり、大衆を餌食として野望達成の時代向手管であることが内外に曝露されたことは今や識者間に於ては何人も疑ひなき所となつた。かくて今日の問題としては所謂階級闘爭の窮策を一蹴して如何に階級意識の新天地開拓に出づべきかに在る。

二

曾て我国に於ては士農工商の區別があつた。常識的に云はば確に封建制の下にあつた階級對立の社會相である。さり乍ら士農工商の區別は別に道徳的規準の存するありて嚴格なる社會的制裁の『士』階級に強行されたことは其特長と云はれて居る。卽ち其社會的優位は道徳的保證と並立されたもので武士特權の維持には是非世人の儀表に出づべきの徳望あるか、少くも世人に指彈せられざる程の非難なき思想と行爲を必要とされたものである。素より之が例外のありしことは事實であるが武士階級が道徳維持に對し他階級に比し特別の期待を有たれたることは事實であり時代の大勢でもあつた。さて封建制が倒れて四民平等の時代來り、更に經濟關係の所産たる『特權階級』の出現を見るに至るやこの階級意識は一變して唯物思想に其調せる階級闘爭觀となり再轉して道徳破壞の普遍化となるに至つた。かくて道徳維持の中心階級たる士階級の没落するや一般風教も亦次第に低落し來りたるの感なきを得ない有様となつた。

三

しかも、我國に於ける國民兵制の布かれたる精神は武士精神の國家的徹底であり道徳標準の總体的向上でもあつた。因つて階級解放の必然的使命は全國民一律に對し道徳維持の責任を負はしむるに至りた

るもので之に反したる者に強き社會的制裁の加へらるべきも當然となった。かくて教育は先ず之が爲め其使命とする道徳的威力を鼓吹すべきであつた。而して教育ある者の間に於て反道徳的行爲ある者の存在を許さざるに非ざれば教育の普及は甲斐なき事であつた。殊に大學教育の目的の茲に在るべきは大學令自らの明示せるところ、しかも、反國思想、反道徳行爲を敢てし、憚るなきの徒の大學より續出するを見ること今日の如き甚だしきはない。高等教育府を出でたるものの間に於ける共産黨事件、疑獄事件等の頻發する如き寔に教育の權威なきことを語つて遺憾がない。

惟ふに今や階級闘爭を以てマルクス亞流の夫の如きを以て臨むべき時代は去つた。先ず道徳の利刃に掛けて貧富を横斷し道徳か反道徳かの現實に就て階級附くべきの急務が迫つて來たやうである。

黨國主義の前途

日本主義者の警戒事

——昭和三年十月十日第七十四號掲載——

一

去月二十日のローマ發電は同日開かれたフアシスト黨最高評議會の決議を報じて前代未聞の專制政治の出現と銘打つた激情的なニュースを知らせて來た。因つて我言論界に於ても御多聞に漏れず皮肉と非難の交響樂が騒々しきまでに演ぜられたがさて之が實相は奈何。先づ試みに決議の内容として傳へられるものを左に掲ぐ。

一、フアシスト最高評議會は政府の最高機關とす。

その機能は評議的性質のものではあるがフアシスト政治のあらゆる活動を統轄することをもつて職分とする

二、フアシスト最高評議會は法律解釋上の諸問題に關する最高の上告法廷たるべきこと

三、フアシスト最高評議會は政府の諮詢に對し意見を開陳すること

四、政府の首腦者はフアシスト黨最高評議會長を兼ねその會員は上下兩院議長、内閣諸大臣、フアシスト黨領袖、内閣書記官長、内務、外務および勞働各省次官、フアシスト義勇軍參謀總長、フアシスト黨幹事長および副幹事長、勞働、農業および

産業組合長および主要消費組合長等より成るものとす

五、フアシスト最高評議會員は評議會の同意を經ずして捕縛又は裁判に付せられることなし

六、フアシスト最高評議會は下院議員名簿を審査し内閣員およびフアシスト黨幹部の任免を司る

七、フアシスト最高評議會は憲法に關する諸問題卽ち皇位繼承。皇帝の權力、上下兩院の構成および性質、政府首腦者の權能、政府とカトリツク教會との關係および國土變更等に關する國際條約等に關聯する諸法案につき諮詢を受くるものとす

八、フアシスト最高評議會は閣員およびその他大官の任命に際しその候補者を皇帝に推薦する事を得、然してフアシスト黨幹事長は閣議に列席する事を得

九、フアシスト最高評議會は秘密に會議を行ひその會員は公費の支給を受けないが評議會の事業に關する費用負擔の義務もない

以上の決議は同夜半まで六時間にわたる會議において可決されたものでそれと同時にムツソリーニ萬歲が叫ばれた。

二

イタリーはロシアと列むで黨國主義に據り單一政黨の獨裁を以て通つている。而して國粹主義の鏘々たる選手として國際的政局に縱橫無碍の進退振りを示して居ることは世界の偉觀でもある。かくて世界思潮の大勢に逆行するものとの非難を受け乍らもイタリーの國運暢達に渾身の努力を傾けつつ驀進するフアシストの意氣を多とせられて來た。しかもフアシストの意氣の昂じて竟に上記の決議を見るに至りしこと果して事實なりとせば其前途知るべきのみである。國粹主義が權宜主義に墮して獨自の傳統を忘るる時、名ありて實の已に去りたる時である。好漢ムツソリーニが志す大イタリー建設にこの見易き道理を無視することの有り得べからざるや萬々、若し

彼が國粋主義のこの邪道に陷つたが最後、フアシストの鐵壁も竟に支え難きものとならう。筆者はフアシストの片棒舁ぎではないが世界の國粋主義運動の爲め敢て一言した次第である。

三

さて黨國主義の代表的國家たる伊露兩國の前途奈何に就ては多大の疑問あり、其極端なる專制的傾向に對しては亦極端の悲觀說が行はれてゐることも事實である。而も黨國主義の因つて來る所に相當の理由あり、伊、露兩國の腐敗政治の淸算の結果竟にこの奇現象を生じたること已むを得ざる自然であつた。但しロシアが階級獨裁を標榜しつつ他國侵略に深刻の毒計を廻らすことの不遜事に對しては斷乎として排擊抗爭せねばならぬことは勿論である。

惟ふに我思潮界には自由主義の周流橫溢見逃し難く兎もすれば之が大勢を支配せんとするかに危まれてゐる。しかも自由主義の政界進出は苛辣なる政界の黑手組退治には殆ど無力である。否左手自由主義の燭臺を乘り乍ら右手泥試合の殘滓に觸るることその當世客氣質となつた。かくて國家の强健を希ふものの眞情は一國政治原理の究明と之が實現に相應はしき力强き政治家の現れんことに在る、而して之が爲めには一ありて二なき黨派の現出するも已むなきこととして眞劍政治の施行せらるることに就て相當の同情あるに至りたることも事實である。さり乍ら徒なる黨派立國の猥かに贊同し得ざる論なきところ、而も今やこの黨國主義の痴夢を語るものに左傾あり、右傾あり。而して政黨者流あること明かであり恐るべき禍心を藏しての上たること亦明かであらう。日本主義者が戰線を一にして進むべき秋たるを痛感せしめらるる時代となつた。

肅みて御卽位の盛儀を祝し奉る

——昭和三年十一月十日第七十六號掲載——

維時昭和三年十一月十日佳辰、允文允武なる天皇陛下には、常典に遵ひ、舊都に於て、卽位の大禮を昭擧し、以て登極の大儀を皇祖の神靈に親告し、億兆に宣示し給ふ。其禮や雍々穆々、其樂や雝々喈々、神人冥合し、上下交孚す。宰相恭しく壽詞を敷奏し、群臣嘉賓萬歳を萬呼すれば、頌聲四方に作り、祥氣宇内に洋溢す。寔に歡天喜地、曠古の盛儀、一代の偉觀たり。

伏して惟みるに、皇祖遠く天統を垂れ、皇宗丕に天業を恢弘し、爾來、列聖相承け、鴻基を祇紹し給ふこと一百二十四代、天壤無窮の神勅炳乎として天日の懸るが如く、世々光明、奪けず崩れず、寶祚愈隆に、皇謨益張り、聖德回はず、民風淳に、皇化四海に洽治し、國光宇内に顯揚す。國體の崇嚴にして國運の悠久なること、萬邦の儀表にして、治道の典範たり。

今上天皇陛下、神統を承けて、亶に聰く亶に明に仁德日に新に月に躋る。乃ち茲に、宸極に光登して天下に君臨し給ふ。昭々たる神佑聖躬に在り、以て、祖宗の遺烈に對揚して宏猷を開張し、蒼生を撫育して皇澤邊陬に霑洽するを得ん。

惟ふに、皇國が、卓然として獨り蒼古の大道を踏み、萬世の常經に則り、萬世一系の聖天子を上に奉戴し、無窮の休明を保持して、東洋の一角に屹立蟠居する所以のもの豈に偶然なりとせんや。寔に道義立國と世界遍照とは、我建國の大精神にして、又皇

國の世界的使命たり。窃に世界の推移を觀るに、方今聊か世變に遭ひ、道心微に、人心險しく、肆に天緒を墮し、舊章を敗り、動もすれば危敖の言説を長生し、躁狂の風潮を滋釀し、而も天下靡然として之を宗とし、萬物漸く其性を失はんとするの兆なきにあらず。是れ豈に皇國が、惟神の大道を天下に行ふて、世界遍照の大義に邁進すべきの一時にあらずや。而も今幸に、陛下登極の鴻儀に會ひ、斯道の玄旨燦然として中外に煥發し、萬邦瞠目して之を瞻仰す。書に曰く、一人の元良なる萬邦以て貞しと。庶幾くは、宸極を望み、曦光を仰ぎ、華を咀ひ英を含み、以て多方の國之に則らば、天下其正を得、万邦孚を作し、昏蝕其光を復し、千景萬象倶に新なるをいたさん、肅みて大禮を頌し、聖壽の萬歳を賀し奉る。

『俎上』の共産黨

下剋上の現代相を觀る

――昭和三年十二月十日第七十八號掲載――

一

各地に於ける共産黨事件の公判は次々に報道され て居るが隨所に一味の苦々しき狂暴振りが演ぜられて居ることは見逃し難き現象である。彼等は一様にブルジヨア國家の裁判を受けぬとか差別待遇を止め

ろとか聞くに堪へぬ雑多の暴言を吐いて裁判の秩序破壊に出でつつあるが其目的と動機の如何を見極むると其戰術振りが餘りに見え透きて馬鹿氣て居る。しかも之れに對する國法の不備と國論の冷淡さにも寒心に堪へぬものがあり之が善後策に就て今や識者間に深刻の考慮を促しつつあることも隠れもなき事實となった。

一一

共産黨が國家の根本的覆滅を企圖して一切の手段に出づる以上國家はその自衛上適當にして有効の對策に出づることは已むを得ざる所である。殊に共産黨の正體が白日の下に曝露せられて其の反道徳性、反國家性の確固として認められたる今日、之が對策に就て兎角の逡巡躊躇は全く禁物となつた。況んや今日この頃尚之がための理論闘爭に耽といふが如き聲を聞くに至りては正に大勢逆行の好見本であらねばならぬ。共産黨運動が國家乘取りの政治運動に外ならざることを明識せる以上、國家の自由なる意思發動を期待することは素より當然のことである。

一二

惟ふに我國法に於ては法廷侮辱罪に相應するものなく法廷に於ける彼等のバルチザン式跳梁跋扈に對しては單に對症的、消極的懲戒を加ふるの外他に其途がない。かくて將來に於ける國法の維持如何の問題が起つて來た。素より事は單に法律、制度のみに懸るものでもあるまいが共産事件に當面した國民の義憤が公判廷に於て堪へ難き程までに昂騰したことは事實である。國家の權力をして正當に然も強力に動かさしむることは現下の一大急務であらねばならぬ。

共産黨事件善後策に對して國論の涌かざることも遺憾に堪へぬ。さり乍ら國論の沸騰せざるにも諸種の理由あり、國民の愛國心に觸れざる、否之と逆行せる金權者流ありてその專恣横暴を敢てすること其

一であらう。政治家の凡劣、銅臭に堪へぬこと其二であらう。識者の無力また其罪輕からざるものがある。かくて日本國家は其生命を斷つ匕首を咽喉に擬せらるるも瞋怒すること能はず、素より隣邦支那の一乳臭兒の翻弄に會ふも咎むる能はざるまでの無感覺に墮した。これ果して日本本來の姿相であらうか。

共産黨事件は我國史を汚辱せし一大事實である。しかも此事實に對し朝野の反省は尚大いに不足し、之が抜本的對策を構ずるは何の日たるかを憂いしめて居る。殊に近時學生間に傳播し來れる下剋上の暴擧的一揆運動の如き裏面に共産派のありて指揮すること殆ど疑ひなき事實である。明治維新を去る六十餘年、國運次第に昂潮し來りたるを思はしむる今日に於て此の不祥事を視る、時相の寔に容易ならざるを察すべきで、今や斷然として斃たねばならぬことを切感する。

昭和三年を送る

二三の歳末感に就て

——昭和三年十二月二十日第七十九號掲載——

一

歳を迎ふることを得て歡喜充滿の姿であつた。秩父宮殿下の御成婚に次いで御大典の盛儀を擧行せられ國礎の彌上の磐石を築かれしことは國民の感激に堪へ

一君萬民の雄邦日本は昭和三年に於て皇室の萬々

ぬ所であり、國運の前途に對し赫耀不抜の希望を垂示されたものであつた。惟ふに我皇室對國民の關係は近く御大典に渙發された詔勅に於ても拜察し得らるる如く義理純情の敬愛すべきものであり、その姿相其ままに日本國家を作つたものである。卽ち道義立國の唱へらるる所以で一君を繞りて萬民其能を致し敢て不平なからしむることが其目的である。かくて我國運展開の心棒たる皇室の御繁榮は何を措いても先ず祝禱せねばならぬ事である。而して本年を回顧して想ひ茲に到る時實に云へ知れぬ喜びの情感に打たるる。

二

さり乍ら現代日本の實相が國體の此嚴存に對し裏切つて居ることは悲痛なる現象である。例せば政界に於ける破廉恥沙汰の如き其一である。社會運動に於ける卑劣なる破壞作用の如き其二である。極端なる西洋中毒の瀰漫し來れるが如き其三である。而して其一を以て推するも現下の國情に容易ならざる危機を孕むでゐることが看取さる。しかも之が相交錯し各社會層に滲透して行く大勢を看よ、誰か能く國運の前途に對し無關心であり得よう。昭和三年の年の瀬に臨むで國家の下底を急ぐ暗流の二三に就ての感想を語る寔に餘儀なき次第である。

三

本年二月二十日、普選第一回の總選擧は行はれた。しかも結果は世間周知の如く政界をしていよいよ低劣無力ならしめたが其當然の現象としては黃金專制の露骨なる振舞が許さるるまでに至つた。かくて一國の選良と稱せられるものにして『鐘詰』めせらるるもの出で『鐘切』らるるもの出て、身賣り、身受けに憂身を窶すものありといふ始末にて黃金の支配下に政界は無殘なる人身賣買の市場と化した。而してこれ實に僞らざる政治の現實曝露であつた。しかも政治季節の近づき來る昨今に於て更にまた徹底せる

政治の取引化が行はるべきの風説が立つて居る。かくして政治卽政權爭奪となり政治本來の使命は反つて遺棄されてゐる現代政治が國民呪咀の的たらんとするに至りたることも一理がある。

四

三月十五日に決行された共産黨檢擧事件も本年に於て特筆さるべきものの一つであつた。惟ふに日本に血を享けしものが祖國をロシアに採り之に對して防衞すべきを叫びて逆しまに自國瓦破に懸命の努力を拂ふものの出でしが如き未曾有の不祥事であつた。かくて舊勞農黨一派に對し其結社を禁ぜられたが爾後共産派の潛行的劃策は微に入り細を穿ち戰術を一轉しては巧に當路者の眼を掠めて野望達成に一段の進出を見せて來たやうである。しかも彼等に對する國民の自警策に何があつたらうか。

西洋中毒の深刻化せるものに思想的奴隷あり、享樂主義者ありて夫れぞれに羽振りを利かせて天晴の近代學を誇つて來た。さり乍ら彼等の誇りは敗北者の誇りに外ならぬ。國家をして竟に起ち能はざらしむるのみである。惟ふに國家百般の施設は唯國力の眞の强味に俟たねばならぬ、小細工や御世辭を以て糊塗して行ける程度の事務はない筈である。送歲に當り國力充實の方途に就いて腹からの覺悟が欲しきものである。

迎春の辞に代て

日本精神の復活運動

——昭和四年一月十日第八十號掲載——

一

『元日や一系の天子富士の山』とは日本國民の心胸を打つ新年感そのものを表現した最高詩であらう。大鹽中齋は曾て其新年偶感に於て一身の飽食暖衣を恥ぢて民の菜色あるに慨然として嗟嘆した。今日は素より國歩いよいよ艱難、而して内外ますます多事を加へて來たること言ふを俟たぬ。さり乍ら乾坤一擲、春廻り來らば國民の胸奥に多少の餘裕を生じ來ること明かで此機會に於て先づ一系の天子を戴く仕合せ犇々(ひしひし)と感じ入ることは我等獨自の濶達なる心境の始めて能くし得る所であらう。而して此廣濶の襟度こそ日本國民の強味を語るものであり、國家創作に就ての眞精神でもある。

二

惟ふに近代國家の悩みは内外に動く覆面的所作の餘りに多い所にある。例せば政黨的横暴の極端に走り來りたる事象の如き、社會運動の狂化作用の如き、文藝及思潮傾向の醉歩沙汰の如き其中核を摘發し來らば意外のカラクリのあることに氣附かるるものがあらう。しかもこれ等を一貫して流るる欺瞞作用は

「大衆」と稱せらるるヴエールにある。大衆を背後地として而して大衆の名に於て雜多の自己滿足を飽喫しつつあることは現代的成功者の常套手段である。素より大衆的存在を無視しての國家の相關作用の意義なき事は勿論であるが大衆と大衆本位の何たるやに就ては深き明察が拂はれねばならぬ時代である。所謂數本位の政黨政治の本質に就ては歐米に於ては疑念いよいよ深刻し來りルートの所謂「見えざる政府」と稱せらるる親分政治が次第に跋扈し來りつつあるが如き其好例である。結局に於て現代政治は大衆を喰物にして肥り行く有樣を如實に示して居るものに過ぎぬ。社會運動其他に於て亦略其感を均しふすることが出來やう。所謂勞働ブローカーの暴れ廻りたる跡に取殘されたる可憐なる勞働者達の生活を視よ。所謂流行文筆家と稱せらるるものの正體を檢討せよ。誰か大衆時代の情なき實相に慟哭し得ざるものがあらう。

三

國家の活動に就ては時に誤りあることは素より否定は出來ぬ。さり乍ら國家には自らの道あり國民をして誤らざらしむる用意あることは堅く信賴して可なるものがある。殊に日本道に於て我等は之を明識するがさて之が實現を如何にすべきであらうか。日本國家は今や日本精神に則つて蹶つべき瀨戸際にある、而して之が爲めには各人に日本精神の一大復活運動が叫ばれねばならぬ時代ともなつてゐる。社會政策が天下り的御用政策より脫して社會結合を根基として一大躍進を志して來たやうに各人の國家意識も亦其本質的意義に觸れて來なければならぬ時である。而して國家の使命とする所が單に迎合主義や機會主義以外に崇高なる何物かの在ることに氣附かねばならぬ。國家の徒なる紛飾や虛榮を計るものは亦國家暴破の共犯である。

日本に於ては一系の天子を深く強く思慕し奉る所

より一切の革新が涌き起ること疑ひを容れぬ。

支那を戒む

我議會亦反省せよ

――昭和四年一月二十日第八十一號掲載――

一

普選最初の本格的議會は茲數日の中に活動の舞臺に入ることにならう。而して此處に論議され、曝露さるる政治の姿相は敏感に中外に電送せらるることであらう。しかも豫想せらるる問題の種々相に就て國民は如何程の關心を持つてゐるか。政戰が政策と政綱を中心として堂々として行はるべきに實相は之を裏切つて賣收、恫喝、情實に依つて結果せらるる始末で近代政治の誇は皮肉にもその殘骸を晒して居る有樣である。かくて國民の政治的興味は減殺さるる一方に於て外道政治の跋扈はいよいよ增長して行く許りで、之が反映は現に議會政治に於て見らるる通りである。

筆者は同志と共に政治の墮落を嘆き其更正を希ふの至情抑へ難く此機會に於て國民的決意を促したき念慮に堪へぬ。

二

さて支那問題の近況は云ふに忍びざるものあり、國威の失墜したること殆ど未曾有の現象であらう。筆者は茲に對支政論を是非するの自由は持たぬが一兩日來の漢口暴狀に就て稽ふるも最早日本人としての最後の勘忍が迫つて來たようである。罪なき我同胞達が有ゆる凌辱に遭ひたる果が糧道を斷たるまでに至つた。而して之が覺醒支那の對日示威運動といふのである。支那當路者が打倒日本帝國主義とか打倒田中内閣とかいふ自作のスローガンに自ら上気して日本と日本國民に挑戰し來る非禮に對しては、嚇怒して面責せねばならぬ理由がある。日本帝國主義は斷じて侵略主義でない。田中内閣に秕政あるも支那人より打倒せらるべき謂はれはない、殊に日本の部分的勢力を排除せば日本の全體的死命を制せんものと盲斷して小細工怠りなき有様であるがさりとは餘りにも短見である。日本の何人もが日本帝國主義ならざるものはない、蓋し之日本の王道的生命であるからである。而してまた内閣の幾更迭を見ることもあるも、對支策に就て相手より兎角の注文を受くまで至らぬこと勿論である。かくて支那が日本を敵に廻して來ることともならば如何。問題はかかつて支那側今後の出様にあらう。

三

筆者は當面せる議會に於て對支問題の論議を進める前にせめて各黨各人をして對支策に就ての我國民的決意を表明せしめたく思ふものである。支那當路者が只管日本の政情偵察に專念して政府と而して政黨を見て日本人を見ず竟に其對日策に滑稽なる悲哀を重ねて居ること遺憾に堪へぬ。かくて日本人の對支觀は強ち議會政治を通じてのみ正確に測定されて居らぬ。否方今の政黨と議會の活動の如き日本人の政治觀と背馳すること大、茲に國策の萬全を期することは素より不可能であらう。

惟ふに日支交渉の惡化は日支兩國機關の重大なる觀點の誤差より來て居る。卽ち彼に在りては自己一流の訓政政治に出發した見方に崇られて日本政府と政黨の集合離散のみを見て日本國家を見ざることである。而して我に在りては政府と政黨が『國民の總意』を對支に反映せしめざることにある。亞細亞の二獨立國が各々の現下の國情の理解を缺いて相鬪いて居るのは莫迦の骨頂でないか。

建國祭の意義

國情に反省せよ

——昭和四年二月十日第八十二號掲載——

一

我建國の悠久深遠なることは言はずもがな、神武天皇が大和畝傍の橿原の宮に於て卽位し給ふてより數ふるも已に二千五百八十九年を經て居る。しかも此間皇統連綿として一系の聖天子を奉戴して四民和協、以て輔翼の誠を致して其生を樂しみ來りしこと正に我國民の誇りであった。かくて我國體の精華は世界に冠絶し、近代生活の發展的段階より觀るも國民生活の指導原理とその實際とを兼備せる最高位に達せしものである。

二

我建國精神は之を探ねて當時の大詔に求むべく、其雄渾博大の氣象と之を追ふ鐵火の如き情炎は我等の夢寐にも忘れ得ざるものである。更に神武帝の雄圖就帝宅を經始せられんとするや再び豪容潑溂たる勅諚があつた。卽ち皇風を世界に行渡らしむべき大使命を廓然として決定せしめられたもので、我國民的進路がいよいよ明かにされたものである。之を我近世史に觀る日清、日露兩戰役の如き日本國家の全面目を打出したる回天の快事であつて我國家の進退に關する限り日本精神の滿腹の發露があつた。卽ち日本勃興の世界的意氣が認識された所以で、之が彌上の進展を策することは一に日本精神の新展開に俟たねばならぬ、しかも今や兎もすれば國運停頓の嗟嘆を聞く。診斷は正に抜本的たるべく我國家建立の精神の亡失缺如せることその第一の疾患である。

三

建國精神の表現は三種神器に於ても拜察さるる次第であるが、我現代生活の醜き種々相を顧みては只管恐懼の限りである。神皇正統記曰く

この三種につきたる神勅はまさしく國を手持ます可き道なる可し。鏡は一物をたくはへず、私の心もなくして萬象を照すに是非善惡の姿あらわすと云ふことなし。その姿に從ひて感應するを徳とす。これ正直の本源なり。玉は柔和善順を徳とす、慈悲の本源なり。劍は剛利決斷を徳とす、智惠の本源なり

多く云ふことを要しない。國家興亡の本流を卜すべき政治の現況は奈何。政治の理想如何は暫く別としても其朋黨比周、其殺伐暗鬪、其低劣無智は正統記々者に對しても面目なき次第でないか、況んや大詔に對してをや。

四

近年紀元節を機して建國祭を行ふこと漸く全國に普及して來た。蓋し日本精神の一復興運動として好き企てたること疑ひを容れぬ。素より紀元節に建國祭を擧行することの可否に就ては多少の異論あることは事實である。さり乍ら經國の悠久を偲びて一大國民運動を起すことが紀元節に相應しきことと認められて年中行事たる今日、之が聲援を惜まざらんことと萬禱に堪へぬ。惟ふに建國祭は單なる示威運動であつてはならぬ。日本人たる限り建國精神の洗浴を受けて此日に於て擧國結束の實を示すべきである。建國祭に建國精神の活發なる具現を見たきことは今や識者の一致せる希望であろう。階級意識と偏見と私情より解放された淸々しき心境に於て建國祭を迎ふべきことの急務は來た。

思想的に議會を觀る

政治の此實相を凝視せよ

——昭和四年二月二十日第八十三號掲載——

日本帝國の進路を決すべき帝國議會は今や開期の三分二を徒過して重大案件を悉く鵜呑にした貌である。而して議會は將に遮俠の劍戟沙汰その儘であ

一

思想的に議會を觀る。

り殆ど國家的關心の閃きをも看取し得ざることは痛惜に堪へざる所である。筆者は全國の同志諸氏と倶に政治の此實相を凝視めて感慨の淺からざるものあり、國民の一員として抜本的考慮を廻らしたきものと思ふ。蓋し政に正なるべきもの、之が顚倒して今日觀るが如く政治の蔑視せらるるに至りては國家の前途云ふに忍びざるものあること遺憾乍ら深く覺悟しなければならぬ。以上感ずるがままに筆者の對議會一家言を述べる。

二

議會に直前して國威が斯くも失墜を見んとすることは堪へ難き苦痛である。而して攻むるもの、守るもの倶に罪あり、政權爭奪戰に他念なく竟に國家の面目を泥塗にして顧みざるの思ひあらしめるの狀勢である。これ果して議會政治の誇りであり、一國選良の所業であらうか、惟ふに議會中心主義者の所謂先進國たる英、米、佛等の議會に就て觀るも我議會政治程の不謹愼と非愛國的所作はない、否彼等の政治的常識が議會に於て國策の對外的宣言を大いに張り以て國威伸展の盱なる示威を試むることに於て一致せることは周知の事實である。卽ち對外問題に關する限りは擧國一致して祖國防衞の一途に出しむることが政治家たるの第一要件である、國にして信なくんば立たず、國立たずして國民生活の在り得る筈はない。而して這裡の消息に通曉せることに於て卓越せるものが歐米の政治家である。筆者は日本精神が何故に議會に反映し得ざるかに想到して自も慚愧に堪へぬ次第であるが、我議會の權威なきことも亦知るべきである。

三

云ふまでもなく議會はまた國民生活の脈絡を傳ふべき一機能をも有つ。さり乍ら我議會に之が表現を見ることが出來やうか。先づ豫算案の審議は之が代表的行動であらうが其現實の態度は如何。惟ふに我

國民生活は次第に窮迫のドン底に追詰められて來り所謂危險思想の醱酵は沸々として各地に泡立つものがある。而して之が對策としては容易ならぬ英斷の必要あること明かで現時の如き跛行的經濟政策に對し大轉機を求むべきことも素より其一策であらう。しかも現議會に於てはせめて豫算案に對してすら逐條審議を盡すの眞面目さが見られたであらうか、況んや國家のこの憂患に對する大策樹立の如き、殆ど片影さへも現はれぬ始末であった。地味なるべき政治が「花形政治家」の人氣に翻弄されたり眞劍なるべき政治が胡摩化して通さるるものと信ぜらるる有樣では國民の總意は議會には反映して居らぬであらう。かくて議會の「問題」は國民生活とは殆ど没交渉である。

四

惟ふに各國議會は夫れぞれ各國獨自に傳統に立ち、各國固有の色彩を有つことが明かである。故に議會の重大使命は國家存立の根本精神の防衛に就て特別の地位に在ること前述せるが如くである。我國に於て議會制度の布かるるや形式に於ては歐洲の夫れを採りたること疑ひなき所であるが精神に於ては斷じて彼に許さざるものあること寸毫の誤りがない。かくて日本の議會に於て日本精神に缺くるに至らば日本の議會は正に歐米議會の分派たるべく其存在意義に一大變化を來すに至るべきや素より明かである。筆者は帝國議會が自ら其面目を蹂躙し、其誇りを拋つて自らの墓穴を掘りつつあることに對し評言の持合せもない。帝國議會に於て雄渾博大の日本精神を語り其使命の活潑なるコースを辿り得べきは何の日であらうか。

狂騒の社會相を觀る

一主義者の死に就て

——昭和四年三月十日第八十四號掲載——

一

無産黨の一代議士の刺殺事件を動機として「反動政治」の暴力化に就ての非難が渦巻立つたことは見逃せぬ一社會種である。勿論直接行動は理由の如何を問はず嚴に戒飭せねばならぬことで國家の秩序維持より觀ても深く悲しまねばならぬ事象である。筆者は事件の眞相の未だ究明せられざる今日に於て問題の具體的批判に就ての是非は避けたいと思ふが世相の現狀と之が背景の二三に就ての一應の觀察は此際の必要事であろうと信ずる。蓋し社會事象に對する盲目的同情や反感は更に同氣を求めて類似の不測の禍爭を呼掛くることなきを保し難いからである。

二

惟ふに現狀打破論者と銘打つ以上その共通性として感情の純潔さがなければならぬ。例を社會運動家に取る。彼らにして感情の純潔さに缺けば事實に於てその生活の破綻が來り日夜に自己淸算の强迫感に襲はるること必定である。かくて一時の感激や便宜に因つて社會運動の激流に投じたる身が心ならずも深淵に沈みて竟に進退兩難に陷り輾々苦惱する者の

尠からざるものあるは少しく斯界の消息に通ずる者の間に在りては知れ渡つてゐる事實である。耶蘇の言の如く「罪なき者之を擲て」とは正に眞理で社会運動に精進する者が現社會の下に財を有ち、生命を保つ一方に於て不純の動因に駈られてその現社會の徹底的否認と抜本的改變を企圖するが如き一大矛盾撞着でなければならぬ。卽ち共産主義者の豺狼的心根を以て呼號する其新世界建設に從事するが如き片腹痛き極みである。換言すれば共産的唯物論が秩序と道徳を無視して自己一流の飛躍的成功を夢見る時、感情一點張りの暴力をも是認せらるるべきことは當然である。而も彼等が此理論矛盾を解くことを避けて現代國家の權力作用に就て時に之を痛撃し時に之に哀願して自己の感情の動向を糊塗するが如き餘りに見えすぎたペテンではないか。徹底的社會改造は徹底的自己反省と自己清算に出發されねばならぬが、之が適格者は今何處にあるか。社會生活は社會連帶であるべき筈であるが社會連帶には一時の痛快な破壞作用が大の禁物なること論を俟たぬ。

三

曾て筆者は本欄に於て思想の行動化に就て論じたことがある。而して今日の世相に於て之が尖鋭のいよいよ冴え來りつつあることを看取せらるるのである。思想の行動化は必ずしもその暴力化を意味して居らぬことは勿論であるが思想卽ち生命であり生活原理としての動力たるべきことは現代人の誇りとも云はれてゐる。然るところ生命感たる思想の冒瀆さるること今日より甚だしきはなく「思想」の假面を借りて各種の强制的、計劃攪亂策が何の不思議もなく流行しつつある始末である。例せば無産者獨裁政治というが如き、黄金萬能政治といふが如き悉くこれ我等の道徳に於て堪へ難きところである。之に對し行動の規律を作つて思想の自由なる交流を期することは國家發展の基調でもある。かくて一部無産運動に依つて輸入された「戰術」の絶對的專制に對しては

互譲の餘地なきことは當然である。而して現代政治の朋黨振りが無産運動のこの惡虐性と如何程の差異あるかに就ては論者別に其人があらう。今や日本はその思想的主人の誰なるかに就て明識を缺いて居る。從つて其行動は自由を失つて居る。黄金、暴力、暗愚横行して日本本來の姿は惜しくも消え去らんとしてゐるではないか、日本改造を志す者は先づ日本精神に深入せよと叫びたい。

支那の新形勢を觀る

米支經濟提携の暗示

——昭和四年三月二十日第八十五號掲載——

一

ハーバード・フーバー氏の大統領就任に因つて米國の對支策に何等かの新面目を齎すであろうとは想像に難からざる所であつた。果然其錄鋒は默々裡に縱横に躍動し敏感の支那政局は爲めに大轉廻に迫られて居る有様である。孫文の對露策が幾多の術策に翻弄されて筋書通りに支那政客連の喰物となつたのも束の間、今や日支交涉の大暗礁を飛越えて巨棒主義のアメリカの雄姿が全支の蒼穹を覆ふて來たことは注目すべき現象である。我對外盲の議會政治家が「對支新論」の月並的百萬遍を空念佛で提唱している

間に窮迫せる我國民生活を打開すべき眞の對支策が次第に消え去らんとして居ることは痛恨に堪へざる所である。對支策が今日に於て尚政權爭奪の對象物であり、遊戲の題目であるに至つては將に國民生活の否定を語るもので敗北思想の滲透を雄辯に證據立つるものに外ならぬ。臺所の主役たる味噌醬油の運命さへ解し得ぬ政治家連が對支大衆劇の支配たらんとする時代である。對支悲劇の連鎖を見ること寧ろ當然であろう。

二

我對支策が醉歩蹣跚たるの虛に乘じアメリカの「弗」外交がスチーム・ローラーの威力を以て殺倒し來り支那の全面を蹂躙し去らんとしてゐる。而して之が近因としてアメリカ産業の行詰りを擧げねばならぬこと勿論である。アメリカの産業界が大戰後の世界的不景氣を冷視してますます其強氣を煽り立てた有樣は近代經濟史の一異觀であるが所謂産業の合理化に基く大量生産も漸く破綻を來さんとするの兆歷々たる今日、市場の捌口を東洋殊に支那に求むるに至りしことは素より怪しむことを要しない。高い賃金、低い賣價、而して大量の生産と三拍子揃つて打つて出たアメリカ式陣容が何時まで自國内でその威勢を張れるものではないことは自明の理である。かくて一面其巨大の生産機關を維持し乍ら他面其得意の宣傳網を張つて經濟戰の壓倒的大勝を占めんとし之が爲めに支那が有力の對象となり茲に深刻なる秘策が廻らさるるに至りし次第である。現に支那側よりは巨額の對米借款交涉が開始され之が内幕に就ても諸説紛々、而して概ね日本の經濟封鎖を目論まれてゐることも事實である。アメリカの自動車工業がやがて支那を席捲してまづ交通機關の一半を占めて其大志を伸ばさんとしてゐるが如き唯一例に過ぎぬ。

三

支那問題は夙に我朝野の常識であり之が解決に就ても自ら國論の歸趨あるべき筈である。しかるに支那問題と云へば議論倒れとなり、泥試合の聯想となること現に觀るが如くである。これ果して誰の罪か。惟ふに支那問題は我國民の臺所と直通すべき限りに於て今日の黨爭より解放さるべきもの、況んや之が滿洲に及べば別して意義重大である。かくて支那問題を繞りて國家の緊張味が幾重にも要求されて居る。しかも此國家的大事を前にして國内的鬪爭に没頭するは徒に外力の陷穽に落ちるもので自己冒瀆の甚だしきものである。我國に於て支那問題に破綻せんか、國力激減して政治に力を缺き、資本家は其資本價値の慘落を招くに至るべく、勞働者は失業群の續出を來すべく國家及國民の獨立性は一切葬り去らることにならう。若し夫れ支那問題を以て日本の對支侵略策の如く盲斷し去るものあらば一笑にも値せざる假論といふべく、更に支那が自らの優地位を誇つて日本蔑視に出づるが如きことあらんか、彼自らの墓穴を掘るもので、我に於てまた對策の多きに苦しむ程である。アメリカの對支新形勢に鑑みても國家總結束の實を期待したく、之が新氣運を作ることは一日も怠り得ざるまで迫つて居る。

我勞働運動界の歸趨

國際會議を前にして

——昭和四年四月十日第八十六號掲載——

一

近く公式に發表された勞働會議の我代表は赤毛布宜しくの體爲くでいよいよ鹿島立つようである（尤も資本家代表は已に出發したが）。而して我勞働運動界の右翼と稱せらるる國民黨側からは例に依つて勞働代表と稱するものが出たが年々巨額の國費を献納して其筋の役人連と民間の檀那達と而して勞働取引業者に歐洲見物に出掛けて貰ふといふ始末で、今や國際勞働會議行は年中行事の一として遊山氣分横溢する國家現象となった模様である。國際聯盟に奉納する我國費は決して少しとせず、而してはるばる歐洲下りまで出馬して勞資互に相鬩ぐの醜狀を晒して來るのが其勞働會議の誇りとも聞いてゐる。況んや鐚一文の負擔額さへ支拂はぬ支那と原被兩造の型で渡り合つて第三國の計劃的軍圍に陷るが如き莫迦を見るに至るとは實に沙汰の限りである。かくて國際勞働會議は日本産業の未だ成長せざる限りに於て有害無用であり其加入は一に國際的虚榮に過ぎなかつた。

二

將に會議に臨まんとする我勞働代表は「産業合理化と勞働組合」に論じて曰く

勞資兩階級の利害は相反すると云う社會事實の認識の上に立脚して、然らば如何にしてこの間に秩序と平和とを最大限度に保持し得べきかと云ふことが考究されねばならぬ。卽ち階級鬪爭の合理化である。兎もすれば階級鬪爭が爆彈と暴動を想像せしめるのは、其國家に常に理想を逡ふて止まざる「進歩」が阻止されて居る場合であつて國民生活の合理化に向つて不斷に進歩して行く國會に於いては階級鬪爭は却つて極めて調制されたる動力機の役目を果すのである。

論旨を以てはどうして「階級鬪爭の合理化」が出來るかが一向に解し兼るが、この程度の社會學的單純漢が臆面もなく勞働代表と銘打つて繰出す時勢である。しかも社民黨の崇拜して措かざる英國勞働黨の前首相マクドナルトは其著『批評的建設的社會主義』中に於て階級鬪爭に就ての痛快な攻擊を敢てして居るのも皮肉である。曰く

勿論現代の混亂の時代に於ては資本家と勞働階級との對立に於て社會主義者が後者に同情を持ち其後援者として新社會の實現に協力することは當然であるが、社會主義は其精神に於ては階級鬪爭を超越し寧ろ兩階級を協合せしめて各人が社會進歩のため奉仕する如き社會を建設せんとするにある。

更にまた勞働黨の新政策に「われわれの社會主義は單なるユトピアに向つて徒に感傷的な希望を懸けるものでもなければ、また貧困や社會の虐遇に對して叛逆行爲を起さうとするものではなく、實に道徳が一切の根本をなすという普通有ふれた言葉の實際的認識である」（橋本清之助氏の譚に據る）と主張するに至つては流石に高邁の見識、服せざるを得ない。群小主義者の神經語や發作振りを踏躙る痛快味

は亦一入である。

三

惟ふに我勞働運動界は其威功を燥り過ぎて可なりの窮地に陷つてゐることは事實である。而して其戰術も千遍一律、今や大衆の鼻に突き厭き厭きされて新鮮味の絶えて出でざるが如き其好例であらう、共産黨は例に依つてロシア大本山の護符押賣りに憑かれ、日本大衆黨は社會民衆黨それぞれに現實暴露を迫られてゐる、何故であろうか。

曾て筆者は本欄に於て日本の歐米撤退を論じて内省の急務を告げたことがある。しかも内省の急は特に我勞働界に差迫つて居るやうである。鸚鵡返しの階級鬪爭や勞農政府樹立の如きカムフラージユを一蹴して眞に勞働者の急迫せる生活苦を打開すべきでないか。而して問題は日本勞働界の進路を決すべき公案であり、自らの工夫を凝し、自らの努力を重ねて之を解くことに於て始めて其妙趣がある。自國内の腐敗政治や金權横暴に對してすら尚舶來戰術を借りねば之を敗り得ぬ程の無氣力と無原理さを示す限りに於て勞働運動の好轉は俄に期待が出來ぬ。

國家の目的觀

國民的矜恃何處に行く

——昭和四年四月二十日第八十七號掲載——

一

現代日本の疾患は上下を擧げて敗北主義に感染し國家民族の理想と誇りとを泥塗にして顧みざるに在ること本欄に於て一再ならず痛論した通りである。しかも此傾向は次第に太だしくその社會層の各面に反映し行く有様は素晴らしき勢であるが、今にして之が對策を講ぜざれば國運の前途寔に容易ならざるの形勢である。敗北主義は大戰後一時歐洲に流行せし墮落思想であり其對外面は安價なる國際主義となり其對内面は卑屈なる個人主義となり互に相表裏して竟に國家を破壞し轉じて個人を亡滅せしめんとするに至りしこと尚記憶に新なる所であらう。しかも歐洲列强が瞬時にして此迷夢より醒めて復興戰の途上に就くや勤勉力行只管に國家相の完成に衆力を收めんとの物凄き氣配を示し來りたることも事實であつた。我國は夙に這裡の消息を看破して思想的に經濟的に將また政治的に一倍の用意を廻らすべきであつたが戰後十年を徒過したる結果は觀面、今や國歩蹣跚として餘所目にも頗る危な氣に見えて來た。

二

目下不戰條約問題と稱せらるるものが政界の颱風として荒れ狂つてゐる。筆者は敢て之が政治觀を是非するの興味は有たぬが唯如何にも看過し得ぬ一事は問題を繞つて日本國民の意氣が揚がらず態度の女々しき限りであることである。不戰精神は素より我國の双手を擧げて贊意を表するところであり、若し我國に達識有能の政治家あらば當時我建國精神宣揚の絶好の機會として我より提議すべきことも一策であつたらう。而して該案の列國に致されし經緯に就ては已に天下周知の事實で今日之を語るも詮なきことであるが少くも之が對外關係に於て條約の精神を宣明して日本獨自の眞率なる意思表示を試むることに於て今日と雖も遠慮を要せざること丈けは明かである。苟くも世界の雄邦日本が這箇の好題目を捉へ乍ら左顧右眄して驀進し得ざるものあつては國威の不振を語るものに非ずして何ぞ。紛々たる政治俗論や時務論は筆者の好まざるところであるが國民的矜恃が薄れ行く世相に對しては限りなき哀愁の思ひがある。

三

外交に國家原理の明識を要すること勿論であるが内治に於ては之が缺如の爲め現實の悲劇が隨所に展開されてゐることは其堆積に因る國家的危機が頗る迫つて來たとの意識に依つて一倍の注意が求められてゐる。曾つて歸去來を賦して田園の蕪せんとするを嘆いた詩人もあつたが、今や農村に於ける苛烈なる小作爭議に依つて「土地」は不安定の代物となりつつある。現に甲州の三井甲之氏は近く長文の告白を公表して其の居村を退いたが(原理日本四月号)農村に於ける悲痛なる一識者の叫びとして看過し得ざる現象である。國家は其存在理由の前に明智を傾け明斷を期すべく誤つてはならぬ。而して一切の施設制度は之が爲めなること勿論であるが其實際に至りて

は大いに之に反して居る。卽ち國家が朋黨政治に誤られ、金權政治に毒せられ而して迎合政治に動かされて其本然の活動が遮斷されて居る始末である。かくて良民の煮られて野に不平の充滿することともならば奈何。筆者は敢てこの不祥事を豫斷するものではないが勢の赴くところは深く之を察せねばならぬ。土地の不安定はやがて國家の不安定であり百姓其居に安んぜざるに至る事必定である。日本は其批判力を尖銳化し一切の醜草を芟除するの役目を現に果さねばならぬ時に迫られて居る。國家が其目的觀を回想して斷然として立つ時、荊棘を拓くべき力の自らにして發せらるべきこと史實の雄辯に物語るところである。

所謂無産黨の新進出

國民の政治的鑑識愈よ急

——昭和四年五月十日第八十八號掲載——

一

所謂無産政黨の地方自治體への進出は頓に勢を加へて來たが此結果に就ては早くも悲喜交々の取沙汰と觀測とが下されて居る。而して社會民衆黨は政界に於ける所謂無産運動の牛耳を取るの形勢に居るが

最近發表したる全國市町村會議員當選者氏名表を見るに本年一月以降九十五名を數へ五月二日頃までに百二十五名餘となる勘定である（四月二十九日發表）が就て見るに市會に於ては過般の東京市議戰に五名を送り今や四月三十日八幡市に於ける開票に於ける開票に於て同黨より九名を出した更にまた神奈川縣町村會選擧戰の最高記錄を作つた。所謂無産戰術の漸く其効を奏して根強き勝利を收めつつある證左である。

二

所謂無産政黨の看板にも欺瞞の種々相あり、大衆の權益擁護の爲め眞に如何程の關心を持つものであるかは大なる疑問であらう。現に同黨の中堅を作る總同盟の勞働爭議の對策が如何に劣惡苛烈であつたか、而して爲めに可憐の勞働者達に何を齎したかは世間周知の事實であらう。岡谷に於て、野田に於て勤勞階級の總同盟に拂つた犧牲が餘りに多かつた事實を回顧せねばならぬが現に行はれつつある三越爭議の如きも手段の陰險さは未だ曾て見ざるところ、總同盟側が環境の有利さを自ら裏切つて次第に世間の同情を失ひつつあるが如き現實曝露の雄なるものである。他の所謂無産政黨に於ても亦然り、或は某々組合名義に於て、或は某々團體名に於て勤勞大衆の無識に乘じて之れが「獲得運動」に權變術策至らざるなき次第は今更の絮説を要しない。而して所謂無産政黨とはかくして「獲得」したる大衆と巧妙なる煽動策に依る人氣で政界に昇壇して來た怪物であるが、彼等が政黨としての存在價値少く其政綱の如きも組合相場の欺瞞策を取捨したるものに過ぎざることは消息通の先刻承知のことであらう。かくて「民族性、年齡の如何を問はず同一勞働に對する同一賃銀獲得のための鬪爭」とか「ソヴエートロシア防衞のための鬪爭」とか云ふ如き思想程度の持主に依つて現實政治の干渉が來さるることともならば我國の政治は急

角度の方向轉換を強いられた上に奈落の底に突き落さるるに至ること必定である。

三

惟ふに無産政黨と云はば觀念的に既成政黨と對峙しての存在物であるものと信じられてゐる。さり乍らこれ政界に於ける「憲政常道論」と對比せらるべき愚なる迷信に外ならぬ。無産政黨も政界に出現せる限りに於て既成政黨であり其政治能力を公平に批判せらるべき運命にあること勿論である、因つて所謂無政黨たるの故を以て「無責任」の特權に隱るるの非理が通さるる譯に行かぬ。政黨が其存在理由を明示して責任擔當の實力を印象せしめざる限りに於て眞の政治的活動に出づる能はざること當然であるが自ら之を測らずして社會擾亂を策し之を契機として其野望達成に急進せんとするが如き政界を毒すること所謂既成政黨に劣らざるの奸惡である。國民は其政治的教養を深刻にして國家的進退を誤らぬやう所謂政黨の看守を怠つてはならぬ。所謂無産政黨の政界進出は現社會制度に不平あるものの感情を捉へて異常の成功を收めてゐることに見逃せぬ秘計がある。筆者は素より國情の現狀打開に就て相當の革正を期することに不同意はない、而して不平人の感情にも多大の同情を禁じ得ないものである。さり乍ら之が爲めに日本人の統一的强味を敗つてはならぬこと論を俟たぬ。日本の歷史に輝く日本人の特殊性は茲に在り、外力を取捨して苦難に打克つた目標は夢寐にも忘れてはならぬ。

學生騷擾事件の一斷面

かくて學究精神崩るるか

——昭和四年五月二十日第八十九號掲載——

一

本月十五日殆ど同時に勃發した帝大及早大に於ける一部學生の騷擾は社會思潮を背後として起つたもの丈けに社會各層に可なりの衝動を與へたようである。而して事件は目下學校當局及當路官憲の手に依つて取調中であり今之が眞相を語ることは稍尚早の感はあるが兩者共通の思想としては學生自由獲得運動の表現であり帝大に於ける授業料値上反對、早大に於ける雄辯部奪取運動は其口實であること餘りにも明白な事實である。しかも學生自由獲得運動は學生間に一聯盟を作つて所謂社會科學の實現を期するものであり、マルキシズムの戰鬪的戰術其ものを奉じて社會運動の前衞を努むるものであることも周知の事實である。かくて「自由の學園」内に於ける反國家運動の大ビラな現れが來たのである。

二

學生間に於ける社會運動の浸透は意外に深刻であり其戰線も非常に擴大されて居ることは見逃せぬ事實である。文藝、音樂方面は勿論のこと學生生活の實際的興味に喰入つて大學の共産化まで期さんとす

るの野望を有つに至つたのも之れが好例であらう。騒擾勃發の前日午後三時半から本郷三丁目佛教會館で開かれた赤門學生消費組合總會には一味の學生「闘士」多數の外、組合長有馬伯も出席したようであるが、其議事模様を觀るに宛然たる過激派大會の感あり、就中席上に出た

學校當局はブルジユアーの代表たる白木屋を學園内に入れて學生のものであるところの本組合を公認せざることは吾々の理解に苦しむところである。學校當局は本組合を公認する意思は毛頭ない。故に吾々は請願の如き手ぬるい方法は取らず學園内に於ける最も進歩的團體と聯絡をとり又其應援により卽ち大衆的闘爭に依つてのみ吾々の要求を獲得せねばならぬ

との意見の如き之を翌十五日の過激直接行動に就いて觀るに寔に感慨の淺からざるものがある。素より消費組合の設置に就ては同情を惜むものではないが、彼等が近く失敗した學内の一自治的經營に鑑みても此種の主張を敢てする資格なきことは明白であらう。世人は學生騒擾の背後に動く黒手組の正體をも亦看過してはならぬこと勿論である。

三

學生が其學究的態度を崩して半可通の社會運動に捲き込まるる非理に就ては筆者が本欄に於ても屢痛論した所であるが近時の學園が兎もすれば時流の輕薄兒の跳梁跋扈に委して片々たる戯論の醞醸に暮して居るの非難がある。而してこれ實に學界の恥辱であり學生に不祥事を唆示して居ることともなるべきは疑ひを容れぬ。かくて大學の權威は實質的に地に墜ちて雖て其存在理由の程も疑はるるに至ることなきか。

惟ふに此種の學生騒擾は國家的に大不幸であるが同時に學生の近親朋友に取りても一方ならぬ痛心の種子である。學徒が學究精神の純眞さを裏切つて覆面の偽學に走り竟に自らを蝕ばまるるに至ること遺

憾に堪へぬが這裡に國家として反省すべきものあることも亦悟らねばならぬ。今日高等學府を卒るもの年々萬を以て數ふるも就職するに由なく不平の聲いよいよ學園に高きことは覆ふべからざる事實である。而して一面に於て政治の腐敗、經濟の跋行がますますこの事實を激成して多感の青年學徒をして座視するに忍びざらしむるに至ることも同情に値する所である。かくて學究の此間隙に乘じて學究精神の攪亂が策さるることも容易に察知し得らるる所であらう。今や國家が各人の胸奥に何を語り何を呼び掛けて居るかに就て思ひ廻らさねばならぬ時である。

マックの新内閣就る

我階級論者一味を嗤ふ

——昭和四年六月十日第九十號掲載——

一

一九二六年の大罷業が勞働黨側に於て無慘にも失敗し當時の首相ボールドウキンをしてこれ英國民の常識の勝利であるとの豪語を敢てせしめたることは世人の尚記憶に新なる所であらう。しかも忍從苦戰三年にして其大志を伸ぶるの機會が到來したること勞働黨の得意憶ふべきである。殊に一九二四年に於

ける第一次内閣が僅々十ケ月にして仆れたることを回顧して同黨の奮發は一段と期待さるる折柄であるが英國民の常識が如何に再び作用すべきかの興味ある問題の展開は寧ろ今後に於て觀ることが出來さうである。かくて五日マクドナルド氏が參内して組閣の大命を拜受したる事實を前にしていよいよ英政局の轉換が來た譯である。

二

今日(七日記す)までの報道に依れば勞働黨は二百八十九名を贏ち得て正に第一黨となり此度の總選擧に依り一躍して百二十餘名の議席の增加を算するに至つた。而して保守黨は二百五十四名を送つて百三十餘名の激減を見、自由黨は五十三名を出して新たに十餘名を加へ各々新議會の形勢に變化を來さしめた次第であるが何れも絶對多數を占め得ざるの悲哀あり、國民の信任足らざるの苦悶ありて其進退と駈引が同國政界に微妙なる波動を與へて、所謂憲政の常道國に型破りの珍現象を來さざるやに就ての豫斷さへも立つて居る。蓋し保守黨の揭げた「安全第一」の對選擧スローガンが破れたることは其凡化策が破産したる爲めで、勞働黨が獨立濶步し得ざるも國運の尖頭を切つて行く用意の不充分さが看取されたからであらう。保守黨に喰入つた沈滯氣分と勞働黨に運命附けられた不安性が動いたままであるが之が五百萬の婦人有權者に依つて主潮となり大勢となつたことは云ふまでもない。

三

勞農ロシア政權の一張一弛が我極左運動家の一喜一憂となるが如く英米民主主義勢力の一起一滅が我所謂右翼運動家の一顰一笑を招くことも周知の事實である。俄然此度の英政變に依つて勞働黨の組閣を見るや我國の社會民衆黨は我事就れるかの如き狂喜を以て之を迎へたが其痴態は兎に角として英國勞働黨と我社民黨との建前に於て天地の差あること筆者

の痛論した通りである。殊に社民黨が本月六日決定した議員統制基準と稱せらるる行動綱領を見ても「議員はその行動において階級道徳に立脚し無産大衆から些かの疑惑をも抱かるる如き一切の行動を愼むこと」などと力説して居るが餘りに莫迦氣切つた言分でないか。階級道徳とは何の意か、マクドナルド氏は其著述中に勞使協調を高唱しその立黨精神に於て普通「道徳」の有りふれた實現を期することに就て大膽率直の主張を試みて居るが、未だ彼が階級獨自の道徳を黨員に強制するが如き變態兒であることは之を聞かぬ。此點に於て英國民は確に常識國民であり少くもマクドナルド氏個人の道徳觀に就ては滿腹の安心と信任を托したことは事實である。

四

さて勞働黨の政策は奈何。惟ふに其對内策としては差當り失業問題に主力を注ぎ次で日用必需品に課せられて居る三億八千萬圓の廢止に取掛り、養老年金增加を始めとし諸種の勞働立法制定、社會政策萬般に對し其公約を果すに大車輪となること想像に難くない。しかも其對外策に至りては我等の最も關心事とする所であるが、此點に於てアジア問題に關する限りに於て國策の根本問題に變調あるべしとは思はれぬ。例せば其對支策を察するに苟くも英國民の實質的權益を擁護することに於て寸毫も讓らざるべく而も之が遂行に於て勞働黨一流の巧者の宣傳に出づべきことは明かである。或はシンガポール海軍根據地問題に於ても亦然りで前内閣執政四年半間に亘る施設に對し今更急激の中止を敢てするが如き到底期待も出來ぬ。更に其對露復交に就て稽ふると求むるところは失業問題に絡まる經濟力の進出に在り、苟くもユニオンジヤツクの旗下、利害の感受性あるところ手に唾きして起つべきこと勿論で此點に於て保守黨の虚榮と屈托なき丈けでも仕合である。唯戒心さるべきは國際會議の重要性が强調せらるべきを覺悟せねばならぬことである。國際勞働會議及軍縮

會議の如き其對外策が對内策に出で來るべきは察するに難からぬが我國民が豫め之が表裏を洞察して對策の用意あるべきこと望ましき次第である。マツクの勞働黨は曰く我等は一勞働者である前に一英國民であれと移して我國民の箴言ともなること勿論である。

食膳に政治の動を見る

黨禍と國民苦に就て

——昭和四年六月二十日第九十一號掲載——

一

本月十三日首相官邸に開かれた米穀調査會の第一回總會に於て米穀の根本方策に就いて端なくも一大激論が起り米穀策の確立が挫折するに至りしことは周知の事實である。惟ふに米穀法の實施は大正十年四月であり其後諸種事情の變化が米穀政策に根本的新機軸を出すの必要を來せし形勢を捉へて之が諮問の爲めに招集せられたものが上記の會合であつた。而して去る議會に於て米穀需給調節の爲め借入金の限度を七千萬圓に擴張せられたるも此應急的施設については前途寔に容易ならずと政府自らが告白せし所に就いて見るも會議の重要性が略察知し得よう。かくて一委員が米穀政策の從來の保護色を難詰したる一

餉に波瀾重疊の一幕が出現した次第であつた。米穀問題が我國民生活の核心をなす重大問題であるは論なきところ、しかも此問題を繞つて現代政治の無識、不徳振りが看取されたことは見逃せぬことである。

二

惟ふに政策と云はるる以上、高邁の計畫に出發したものであり責任の所在に就ても明識を有つべきことは論なき所であらう。かくて始めて政策の是非が政黨の爭ひとなり國民批判の對象となるべきことも當然である。例せばボールドウイン内閣の産業政策が色彩鮮かな保護策であり殊に第二回内閣に入りてマツケンナ關税の復活を始めとし保護條例を擴張して着々として英産業の堅壘を固うし來りたることは其特色であつた。しかも産業保護政策の行詰りを捉へて政策の大轉換を目論み、百數十萬の失業群の解決を始めとして社會政策の徹底的實效を擧げんことを期するものにマクドナルド新内閣の計畫が在る。曾て現藏相スノーデンが第一次勞働内閣に藏相として朝食無税を呼號して食料品關税の大廢滅を斷行したるは世人の尚記憶に新なるところ、英國政界の觀測者が依然として保護對自由主義の傳統的政爭に歸納する一例であるが兎に角政策中心に相分れて政爭のフエア・プレーに出づるところ他山の石として大いに學ぶべきものがある。

三

我政界に政策ありやとは時々起さるる疑問である。政黨の分立はある。政策らしき抽象語はある。さり乍ら政策の明識は之を認むることが出來ようか。政策は政治當事者として有つ生命であり國民と交響を有つべき可能性をも帶ぶるものである。かくて現代の政治形式に於て憲法政治の採用が見らるるに至つたものである。しかも我政治の實相は如奈。政策の明識を缺くは正に政治家としての殘骸を語るものであり國民の共鳴を贏ち得ざることに於て已に

憲法政治の冒瀆を來したものであらう。かくて政策なき政界に於て政權爭奪が行はれ、政策と銘打つものが有つても之が運命奈何は勿論政權の推移とは無關係であるやうである。奇怪なる政界の現狀ではないか。さて我國民生活の窮迫はいよいよ甚だしく世相の深刻なる生活不安は對策の一日も遲引を許さざる瀨戸際に來た。しかも一方に於ては大藏省發表に依る昭和三年度關稅收入は一億五千餘萬圓に達し前年度に比し一千餘萬圓の增收を示して居る有樣である。而して輸入品に就て見るに生活必需品がその主要を占め今日に於ける關稅の壓迫が中流以下に及ぼすべき影響を考ふることの急務なることが切感されて來た。現に米の如きは禁入と買上に依つて實質に於て重關稅を課せらるるが小麥豆の如きも可なりの負擔で輸入されてゐる。かくて米穀法の善後策討議に現はれた政治的關心の程度が問題となる所以である。政黨が國民生活の苦悶を深察して急速に之が抜本的對策を定めんとするの良心を缺いては何の調査會であらうか、國家心の尖銳なきところ多くは迎合主義であり責任回避である。食膳に向つて政治の動きを見よ、問題は單に一椀の運命に止まらぬものがあらう。

日本精神の颱風化

政界廓清の功奈何

――昭和四年七月十日第九十二號掲載――

一

王陽明、書を人に與へて曰く、

山中の賊を破るは易く、心中の賊を破るは難し、區々鼠竊を剪除するは何ぞ異となすに足らん。若し諸賢心腸の寇を掃蕩し以て廓清平定の功を收めば、此れ誠に大丈夫不出世の偉業。

と、人口に膾炙する此一句も現代人の心胸を打つ肯はあはれにも微弱である。現代層の各段階に蝕む凡化思想が打算と功利に依つて潑溂たる精神力を枯らしたからであらう。さり乍ら陽明の英才を以て斯語を吐く、大丈夫の偉業が必ずや廓清平定の功を收むることに萠すものたるべきこと明かである。リエンハルトが新奇(Modernität)を衒ひ都會を重んずるの餘り歴史と國家、過去と國民とを忘れたと叫むで天眞素朴の郷土藝術の先驅者と爲つたのも同一心境を語つたものと云はれよう。現代生活が複雜を極め來つて精神力の緊張を缺ぎ竟に無慘なる自己清算の斷末魔にまで追詰らるるに至つたのも自らの裡に確乎たる自己建設を怠りし結果がある。自己建設が就らずして何の偉業、何の藝術があらう。しかも自己建設は傳統の上に立ち、先人の指向する所に據

ることは否み難い所である。

二

さて日本精神の持主が日本政界の動向に就て多大の關心をも有つことは素より當然であらう。而して日本精神の明示するところが政治面に現るるものに萬民補翼があることは筆者が屢々痛論した通りである。萬民補翼が日本治道の基調であり、現代の政治形式以外に別格を爲し一君を繞りて萬民が其能を傾け誠を致すの道徳政治であることも亦力説した。併も萬民補翼の實現に就て態様に自らの方途あることは勿論のことで議會政治の如き其一途に過ぎぬ。大權の自由なる發動あるところ、政治の活潑なる行進を續けること必ずしも政治形式に依りて變異を來さぬものがあらう。而してこれ實に日本國體の獨自性から來る當然の歸趨である。

さり乍ら政治は理窟でない。之を國民生活に反映せしむるに非ざれは三文の價値なく存在理由をも缺くに至ること必定である。しかも政治の國民生活化は必然に政治家の國民化を先驅して期待さるべきもの、陽明の所謂大丈夫の心境が役立つ所以でもあらう。

三

惟ふに政治の窮局は道徳の實現を策すべきもので難事中の至難事である。殊に國家の特色に據つて之が遂行を期することに於ては別様の難關があらう。さり乍ら何れにせよ政治家が尖鋭の國家心に依つて先づ純眞の自己を築き上げ、國民生活の血脈を搏つ情感と直流するの器局を有するに非ざる限り現代政治の行詰りを打開する能はざること丈け明かである。

今や田中内閣より濱口内閣へと政局の移動が行はれた。而も政治移動が齎した所産は何であつたか、何人も識り得なかつた所であらう。筆者は茲に忌憚なき政局觀を語るの自由なく亦その興味をも有たぬ

ものであるが政變を契機として日本精神の颱風的躍動こそ見まは欲しき一事があつた。紛々たる政治俗論と政治取引者を沖天に巻揚げてドバー海峽の彼方に送りたき心持がしたること一再でない。

東海より冷風を送る

露支葛藤の動因を觀て

——昭和四年七月二十日第九十三號掲載——

一

本月十日支那が東支鐵道の武力回收を企てたことに端を發して露支兩國の形勢が急角度の惡化を來し、竟に最後通牒の往復とまで進展したことは昨今の暑氣柄國際間に更に野暮な黑點を送つたものである。東海の一角から一陣の冷風を放つてやる位の因緣もありさうなので、左に寸評を。

惟ふに露支兩國は米國と並むで國際的の横紙破りで通つて居る傳統とか約束とか云ふものは自己の勝手にて如何樣にも變更さるるもの、而して他人の迷惑は御構ひなしといふ哲學で世界を渡つて行かうといふのである。卽ち結局に於て暴力が先驅さるるもので假令巧妙なイデオロギーで教育人の迷妄に喰入ることはあつても早晩の現實曝露が免れ難き所以である。「我等の祖國ロシア」が途法もなき暗黑と破綻

の國であり「被壓迫民族」の支那が居直り姿で突立つ時代であり而してモンロー主義が弗(ドル)と腕とで世界に隈なく強行されようとする場合であるが此變態三國の運命こそ見物である。

二

さて露支兩國の葛藤は一九二四年九月二十二日に締結された奉露協定に主因を置いて居るやうである。さり乍ら兩國の建立から觀て協定違反を理由として他を責むる資格なきことは勿論であらう。ロシアが對支赤化宣傳を止めぬことは不都合至極であるが、支那革命成功の經緯を識る者の間に於て支那側の此種の抗議に幾何の權威あるかは先刻承知の事である。殊に奉露協定に於て支那側の利益を多分に考慮して取極めて居る諸條項を無視して急遽暴力回收に出で打倒帝國主義を平氣で自ら裏切るあたり支那一流の毒惡振りを示したものである。勿論支那の對露强壓は近年頻發し大正九年三月の鮑督軍事件以後に就て稽ふるも十指を屈する程であらう。殊に中には北京公使館及ハルピン領事館に於ける手入れ問題もあり今やロシアの對支强硬論が傳へらるるも故なきに非ずである。さり乍らロシアは勞農政府樹立の面目の手前もあり且其内情より見るも戰爭は禁物である筈だ。其唯一の例外と見らるべき大正九年の對ポーランド戰も實は國内的意味での重大性が認めらるる丈で力を外力に向けるが如き國情の許さざる所であらう。故にロシア當面の東支鐵道問題の對策としては紙上抗議より一歩を進めて大正十一年一月十八日華府會議の議事に認められた世界公路の重要性を拉いて國境封鎖其他に出で以て問題を國際紛糾の渦中に入らしむる手段を取ることにならう。

三

ロシアは一九一九年カラハンの名に於ける對支宣言の手前上帝國主義的侵略の最後の遺産といふ東支鐵道に就ての權益保護の積極的な行動に出づること

が出來ぬ破目になつて居る。而して此宣言が支那側をして附け上らせる一理由ともなつてゐよう。しかも如何に被壓迫國民や弱小民族の開放を種に煽て上げたロシアでも積年の對支屈服に激情の迸りは抑へ難きものあること已に事實となつた。卽ちその一流の對世界戰術の破局が國民的情感に打ち當つて暴露したものである。人を呪はば穴二つとは人情噺限りで片附けらるる程の笑ひ事ではない。羊頭狗肉の赤化政策が馬脚を露はして赤露自らを煮るに至らんとするとは運命の皮肉なる一幕でないか。露支兩乍ら暴力否定の暴力國であり侵略否認の侵略國たる事實を明かにし一寸劇件（くだん）の如きものであることを語つたまでである。

國家の諧調を聽く

都會と農村の對立に就て

——昭和四年八月十日第九十四號掲載——

一

都會と農村の對立問題は現代相の大なる苦悶であらう。政界の分野に於ても所謂既成政黨と所謂無産政黨とに論なく重點が自らに定まつた貌である。更にまた文藝方面に於て兩者を描く觀點が相違以上に

深刻な仇敵の角度に立つて取扱はれて居る。而して之が經濟關係ともならばいよいよ矢釜しき問題が折重なつて來てどうにもならぬ兆がある。かくて都會人と農村人とは東は東、西は西と永劫に融合の機會もなく了るべき運命に置かれたものであらうか。筆者は兎もすれば政治化せんとする兩者を現實問題に就て深入して論じたくはないが、唯農村の不遇に限りなき同情を有ち都會の不穩に多大の戒心を有つものの一人として實感を語るに止めやうと思ふ。

二

農村は今米價、繭價、一般農産物の低落に因つて日一日と疲弊して行くのみである。而して一面に於て租稅公課の負擔と肥料の購入に逐はれて財布の底を叩いて見ても足らぬ有樣である。かくて力足らざるものの救ひ主は誰であらうか。所謂金融業者は都會の商工業者と固き握手を交して顧みさうもなくこの頃叫ばるる爲替の安定などは所詮二階から眼藥ほどの有難味もないといふのが其主張である。而して其欲するところは負擔の直接的輕減であり肥料問題の解決であるが、此急場に赴く爲政家の對策は奈何。此充たされざる者の不平がやがて幾轉回して竟に都會に向けらるべき運命にある事は皮肉なる現象である。

都會には智識階級の失業群が彷徨して居る。今年の如き大學及專門學校の卒業者二萬人に及び其半數以上は未だに就職なき有樣であるが、之が影響も甚大である。其唯一の武器たる「思想」を振翳して上下動を起し社會層の混亂を策するに於ては容易ならぬ波及が來ることも覺悟せねばならぬ。而して此種の失業群が誘はれ易き「職業」としては商買往來になき煽動業であるべきことも明かである。曾て新潟に於て、香川に於て農民運動の激烈なる爭鬪事あり、しかも其清算期に當面して殘されたるものは廢墟の農村であり現金の都會への流出であつたが、かくて都會失業群のこの上の農村侵入がやがて貧農のより以上の

反都會運動となり一面都會中心の勞働者をしていよいよ臍をきめて獨裁者たらしめんとすることに本問題の重大さがある。

三

農村對都會問題は思想的根底に於て舶來物である。農村が環境の不利に於て常に都會に乘ぜられ、都會は其城郭を高うして排他に出づること西洋唯物史觀に於ては爭ふべき運命にあることは自然でもあらう。さり乍ら農村と都會との對立關係は日本に於ては特に無意味であり立國精神に背馳することも明かである。階級鬪爭が旣に時代錯誤として實際問題から輕視されてゐる今日に於て地方的對立に依つて國力の分裂を來すが如きことの採るべからざることは勿論である。政治、文藝、經濟の諸問題に於て廣く地方的色彩を出し各職能の自由なる發揮を試むることは多とすべきであるが、之が爲めに國家の諧調を破るが如きことなきよう嚴に戒むべきである。常に國家の現勢を省察して憂患の因つて來る所に備ふべき心得はありたきものである。

快漢スノーデン

勞働内閣の實相を描く

——昭和四年八月二十日第九十五號掲載——

一

夏枯れ時の新聞のニュース欄に外電の特報のみが人氣を惹いて居るのも面白い現象である。ツエペリン伯號の日本訪問、露支葛藤の字幕劇、英米軍縮内交渉而してヘーグに於ける賠償會議の經緯と續報が猫の眼のように變り乍ら傳へらるる丈けでも夏の日の午睡を覺すに充分の興味がある。ツエペリン伯號の訪日は駐日ドイツ大使フオレツチ氏の語るが如く歐洲の中心と極東の中心との二點を空で結びつけようといふ企てであり、ツエ伯號の成功はドイツ國民に燃えて居る生活力を示したるもの、而して今や極東に於ける生活力の最も旺なる日本訪問に出たることは意義深き暗示を唆つたこと勿論であらう。露支問題が依然として土龍と蝙蝠の暗轉を脫せざること滑稽以外の何物でもないが、之が底流を行く主潮の何たるかを見て取つて我國民の決すべき進路こそは斷じて誤つてはならぬ。英米軍縮の内交渉に就ては我當路者よりの意見發表もあつたが、先づ英米兩國の意見一致あらば何の對策があらうか。我財政的見地より觀ても有ゆる機會を捉へて軍縮問題の主役に廻るべきことの望ましきことは勿論である。

二

さて賠償問題に就ては日本に關する限り歐洲參加國が力味返る程に力むでゐないことは明かであるが、問題を續つて英国代表の奮闘振りが如何にも痛快を極めて居り、傍觀者の興味を唆ることに於て群小の問題を一蹴し去りしかの思ひがあつた。云ふまでもなく英國代表スノーデンは勞働黨内閣の藏相であり、其冴え切つた頭腦と大衆に喰入る才腕と並び備へた政客であることは周知の事實であらう。彼は本月五日から開かれたヘーグの賠償本會議に出馬し、開會一日にして早くもヤング案に一石を投じて決裂の危機を招來せしめたが、彼の心事は將に語るに落ちた英國第一主義であり此點は遺の保守黨政客連も竟に彼に及ばざることをも知らしめた。惟ふに彼はヤング案に定められた年度數及年金額に對しては異議がなささうであるから、殆ど算術的計算が不可能とさへ云はれた賠償總額が決まつて五分半利の百七十九億となり、支拂年限も兩期を通じて五十八年七ケ月となつて兎に角本年九月から實行さるる段取となる譯であらう。然るに茲に困難な問題が横たはつてゐた。卽ちヤング案が戰債と賠償問題とを區別し後者に優先權を與へ、且つドイツよりの賠償金の無條件支拂割當を見るに佛白伊諸國に比し英國の割前が寡少であるとの事實である。因つてスノーデンは先づヤング案不可分の原則を否認して英国の利益の爲めに改訂を要求してゐるが、彼が自國及自國民の打算の前には完璧に近き程の專門案を翻弄し去る意氣込を示したことに於て世界の空相場師を驚倒せしめたことは事實であつた。

三

惟ふに彼の强硬策は一時の人氣取や駈引のみでなく、所謂バルフオア通牒を非難した野黨時代からの一貫した意見であつた。卽ち彼は朝に立つて在野時代の公約を果したまでであるが彼が對佛交涉に於て

全英國民と下院を背後地としてイキリ立つ面貌見るが如しである。かくて英國勞働黨は其實質に於て已に立派な祖國黨であり今や自由黨を小側に抱えて保守黨と對峙する二大政黨の一つとなつた。因つて英本國は勿論自治領その他に於ても勞働黨の人氣がいよいよ涌き立つ有様で、勞働黨に於ても亦此出足を利用してますます政策の國民化と實際化を計るべく差詰めシルガポール根據地撤廢の如きも口を拭つた貌である。勞働黨内閣は其經濟的施設に於て特に勤勞階級を吸收して立つことに異色あるのみで、其政治的動作に至りては國權擁護の勇敢なるチヤムピオンであることはスノーデンに依つても雄辯に物語つた通りである。我無産黨の連中は勿論のこと政民兩黨の間にありても内辨慶外味噌の嫌大に在り、同胞相反目して力を外に向ける勇氣を缺くことは弊風の主たるものでないか。國格の稍下根たる露支と雖も國權の侵犯に對しては日頃の美名を一擲して之が擁護に鬪爭を辭せぬ氣配である。世界の實狀に徹して贅澤な觀念病を克服せねばならぬことの急務は素より明かであらう。スノーデンは英一國を背負つて歐洲聯合國と渡合つてゐるが、國力の充實は眞に羨むべく所謂無産大衆が其負擔輕減を期することに於て國家の直接の威力に據るべきことを明識して遙かに彼に聲援を送るところ掬すべき美談である。國家主義を目して一片の權力主義と斷じ去るが如きは人情の到底許さざる所である。

失業の氾濫至る

國體政治の急務を說く

——昭和四年九月十日第九十六號掲載——

一

ロイド・ジョージは過般の總選擧に於て「我等は失業を克服することが出來る We can conquer unemployment」と咆吼して政戰の最尖端を進むで行つた。百戰往來の老手が時代の急潭に棹さして快走する面影は髣髴として想見すべく遖に好漢の尚衰へざるを知らしめたものであつた。果然失業問題は當時英國政權の推移をも決せんとするの勢を呈し來り、保守、自由、勞働の三派は對策の祕計を傾けて逐鹿戰に出たものであつた。保守黨はその傳統精神より發足して海外殖民地殊にカナダ拓殖計畫に據るの外失業者の轉職補助を力說するなど問題の解決に對しては寧ろ消極的であつたが、失業群の嵐の前には抗すべくもなく對策は次第に激化し行きて地方稅輕減、農村振興、住宅建設と次々へ動き出した程である。自由黨は昨年十月ヤーマスに於て開かれた大會に於て、保守黨の手ぬるき對策を痛擊して國家開發委員會と國家投資局の創設を提議し道路開設、都市計畫、電力普及、開墾埋立排水事業等々と盛澤山の要目を並べて失業克服の意氣を示した。而して勞働黨がその經濟參謀本部に據つて各種の産業助成を目論み、兼

ねて養老年金等にも觸れた一流の社會政策に出て一段の異彩を放つたことも周知の事実である。

二

英國の政界が今や勞働黨の天下となり其對外策は最も鮮明の國家主義を取り來りたること前號の本欄にも指摘した通りである。而して其對内策特に失業問題に關する限りに於ても其選擧戰に宣言した手前もあり（三月二十日マドレーに於けるマクドナルドの演説）充分の用意と決心とを以て之に當りつつあることも想像に難くない。しかも英國政界に於けるこの重大問題が其儘に我政界にも反映されたかの感あり、兎に角失業問題は刻下の一大脅威たり、將に政界の流行的論題たらんとするの傾きありと豫想せらる。總選擧を控へていよいよ勢を張らんとするの氣配が見えて來た。惟ふに失業の學説的見解に依れば勞働の能力を有し且つ其希望者が自己の技能と正當の希望條件に合致した勞働に就くこと能はざる場合をいふのが通説であり、老衰、疾病傷害等に依り勞働し能はざる者が除外されてゐることは異論なき所である。かくて失業問題解決の核心を爲すものは結局に於て各人の能力を標準とした機會均等主義でありそれぞれの能力に應じて自由に其希望を達せしむる機會を與へねばならぬものである。而してこれ實に現代政治の狙い所でもあらう。卽ち民人の生活を如實に反映せしめて其普遍的要求を充たしむることが政治の要諦であるが、問題の取扱に現はれた實相が痛く之を裏切つて居ることは寔に遺憾に堪へぬ。

三

素より當面せる我失業對策に就ては種々の注文が出て居る。卽ち職業紹介所の擴張を始めとして或は失業基金制度及失業保險法の制定、義務教育年限延長に因る勞働人口の減少、公營事業の擴張、重要産業の國家管理等々可なりの數に上つてゐるようであ

る。勿論取つて以て對策とすべきものもあることは否定が出來ぬ。さり乍ら日本の國情を洞察して眞に民人の生くべき道に出でんとせば自ら日本獨自の行路もある筈である。卽ち或は竿頭一歩を進めて産業界の協力に因る獨占化運動や合理化運動に出づるが如き其一方法でないか、若し現時の如き産業の亂倫分立を打破して企業の或目的の結合を期し、之に勞働組織の合理化を配して勞資の相對的利潤を增加せしむるが如き必ずしも不可能ではないと思う。而して謂ふこころは日本精神に因る日本産業の統制を期して之が國際的進出にあるが、以て國内の狂犬的鬪爭病を醫すにも役立つこと必定である。しかも能力が金力に蹂躙され、智力が權力に冒瀆され、而して德治の無視せらるること今日の如き世相に於て此上に失業の大氾濫を見んとすることは實に寒心に堪へぬものがある。我國に於ける失業克服が先づ國體政治の徹底から始められねばならぬことは現下の政情が何より雄辯に物語る所である。

國是を明識せよ

軍縮問題の重點

――昭和四年九月二十日第九十七號掲載――

一

世界の今日の問題は「軍縮」に驟つた貌である。而して問題の重大性は日毎に加へ來り、興味の深刻さも次第に增して來たことも疑ふべからぬ所である。我國論も問題を續つて漸く高潮せんとする氣配あり、大小各樣の波動を國家の各層に投て響音を待つところ免れ難き勢となつた。さて英米の内交涉に於て成した妥協案として世間に傳へらるるは主力艦の代艦建造を一九三六年まで延期すること、巡洋艦八吋砲一萬トン級、英一五、米一八とし其他輕巡洋艦を合して總トン數英三十四萬トン、米三十萬五百トンとすること、驅逐艦は兩國俱に十二萬五千トン乃至十五萬トンにて話合ふことなど其主點である。而して未解決のものとしては米國が現に建造してゐる一萬トン八吋巡洋艦二十三隻を十八隻に削減し、既成のオハマ級七千五百トン十隻を加ふることに因つて生ずべき總トン數二十五萬五百トンに對し、之が差五萬トンを八吋にすべきか六吋にすべきかが殘されたようである。勿論問題は表裏もあらうし、駈引もあらうから未だ正式に發表されぬ。今日に於て輕々に論ずることは出來ぬが何れは本月二十八日マ

ツク首相の渡米に依り次第に鮮明となることであらうと思ふ。

二

かくていよいよ英米首腦の直接交渉が開かるる段取となつたが、さて其目安は何處に置かるるのか。問題に直面して我識者中にありては稍懸念を有ち注文をも抱くものあるに至ることは道理のあることであらう。蘇峰氏の「佛を頼んで地獄に入るな」と云ふが如き其一例であるが筆者も夙に之を憂いて英米諸調後に至るべき我苦境に婆心を發し寧ろ我よりの主動的發議をさへ希望した程であつた。

軍縮は精神に於て素より何人も異議なき所である。否大に讃美すべき所であらう。さり乍ら借物の「標準尺」を單に強制せしめらるる丈けでは軍縮の實行は到底不可能である。例せば英米の目論む潜水艦の廢止や大々的縮減説の如き日佛伊の容易に忍ぶべからざる所であるが、目下ジユネーブに於て開かれてゐる國際聯盟陸軍々縮問題に就てもまた同様に觀ることが得よう。卽ち各國家の夫れ夫れの實狀が一足飛びに他國の御都合通りに行き兼ねることも已むなき次第と云はねばならぬ。而して日本に關する限りに於て軍縮の歡迎さるべきことは當路者の聲明に依りても明かであるが、さて軍縮の單獨的斷行が國運と逆行するの理由は之を明識せねばならぬ。現にニユーヨーク・タイムスは十五日所報に於て痛く日本を見くびり、傳へらるる日本の七割主張が不景氣に依り到底實現が出來ぬとの觀測を下したやうである。

三

軍縮問題の有力なる出發點が財政と經濟に基礎付けらるることは否定が出來ぬが、さりとて單にこれのみに依つて軍縮が取扱はるるに至らば寧ろ軍縮の冒瀆であらう。何となればかくて至るべき運命は當然に一國家の活力を殺ぎ、次いで他國家からの併呑

となり軍縮は遂に一轉して大軍擴となること明かであるからである。惟ふに軍縮は國是の自主的見地に據るべく、而して我國是の定まることは已に建國精神に求むるを得べく時勢に適應して之を活かしむることは主として爲政家の達見に待たねばならぬものである。分立せる民心を引締め割據せる國務を統一して問題の正面に屹立せよ。

政治の『標準尺度』

政界の近況を視る

——昭和四年十月十日第九十八號掲載——

一

マツク首相は竟に大西洋を踰えた。彼が白堊館の賓客となつて海軍々縮問題に就ての礎石を築き上ぐべきは想像に難からざる所であるが、さて之が出來上りは奈何であらうか。惟ふに問題の中核を爲すもの

に所謂「標準尺度」がある。排水量、艦齢、戰鬪力の各比較及び武裝商船、根據地の價値計量などが其内容として論議せらるべきは專門家の豫期せる所、其一を捉へ來るさへ相當の難問題であらう。しかも英米の二雄邦が俱に軍縮に魁せんとし乍らも何となく水臭き感を抱かしむるものあり、先づ「軍縮精神」の

標準尺度に對し私に疑念を挾む者の出づること或は當然とも云はれ得よう。筆者は來るべき軍縮會議を賑はすものと思はるるこの國際的新熟語が我現代政治に對しても別種の暗影を投じて居ることに想到して感慨の淺からざるものがある。

二

現代政治の實相は確に政黨政治であらう。しかも今日の政黨政治を價値附ける尺度は何であらうか。所謂國民總意の反映でもなければ社會團體の活動力でもない。實のところ、マルキシズムと同根に立つ唯物資本主義に外ならぬ。別語で現はせば現時の政黨政治を量るべき尺度は黄金であるといふことである。而して此尺度の前には人格とか識見とか從つて權威とか責任とかはゼロであり經濟的價値の大小のみが茲に現はるることになつてゐる。かくて貨幣價値を唯一の目的(少くもかく解し得らるる如き)として成立つてゐる現時の政治が階級戰そのままの姿を取つて政爭に没頭することは怪しむを要しない所であらう。

所謂政治家に依つて放送せらるる國體精神の鼓吹と思想善導とが逆徒の宣傳に絶好の口實を與ふるが如き依つて來るべき理由がある。曾て大戰後ハンガリヤに起つたベラキン革命の動因がモスコーに在り、其一々の指揮に依つて大小の畫策が行はれたことは周知の事實であつた。モスコーに出發するものはモスコーに還る。金力を標準尺度とする現代政治が金力に愚弄され、之に機緣する怨みを買つて悶絶の斷末魔に急ぐこと宜なるかな。

三

惟ふに政黨政治の據るところは議會政治の完成にあらう。しかも議會政治は少くも普選に依り特權者からの專制を脱した筈である。卽ち我國に於ては封建的諸勢力を一排して一君萬民の國體政治が招來されたものであり、更に内容に於てその徹底を期した

ものであつた。かくて議會政治に期すべきものは隷屬人の絶滅にあり、一切の中間的諸勢力を驅逐して直指聖明に向はしむることにある。しかるに見るが如き議會政治は黄金幕府の權化たるかの感あり、政治は將に經濟に併呑し盡されたかの形勢となつた。近時頻々として傳へらるる政界の疑獄事件の如き、某政黨々首問題の經緯の如き其片鱗を示したものであらう。政治の本領は寧ろ道徳的なるものに在る。我先哲の道破したる先憂後樂の語は政治家の夢寐にも忘れ得ざるところ、而して政治は之が民人への適應を如實に現はしたるものであらう。時潮は高し、我等はこの勢に乘つて現代政治の尺度たる政治の黄金化を一變せしめねばならぬことを痛感する。素より現代の政治組織と政治的諸設備に於て經濟的價値の重要性を否定するものではない。さり乍ら其重要性は標準尺度として容認さるべき程の代物でないことは勿論である。政治の「標準尺度」を是正し得ざる程の薄志弱行振りでは國際的軍縮會議に出づるも何の權威あるか。

知識階級の顚落

この斷層の不安を見よ

——昭和四年十月二十日第九十九號掲載——

一

現代層の斷面には知識階級の深刻なる苦悶が滲み出てゐる。而して此斷層たるや見るからに不安であり秋風に振り落さるる桐一葉にさへ一握の土塊が附いて崩るる有樣である。かくて國家の中堅を構成する知識階級の顚落が始まつた。知識階級の顚落がやがて何を意味すべきであらうかは茲に說く必要もないが時態の急迫に鑑みて切に同志の憤起を希ふの情に堪へぬものがある。知識階級が其習得した知識素養を拋つて自屈妄動するが如き斷じて採らざる所であるが、時事の日に非なる今日に於て獨り難きを彼等に求むるの無理なることも諒とせねばならぬ。眞理把持者が其毅然たる誇りを失つて情炎の囚徒とならば社會の支柱が倒れたことも同然である。

二

惟ふに知識階級の苦悶は先づ經濟面の壓迫から來た。所謂資本萬能主義に徹した權力の壓迫が夫れである。現實に直面しては知識素養の基礎が甚だ弱く徒に其無力を喞つのみであるが夫れにしても社會機構の缺陷が餘りに甚だしきに呆れるの外はない。しか

も社會機構の缺陷は詮ずるところ、利害の不一致を如何に彌縫するかのカラクリにあることが明かにされたようである。階級闘爭も之が一場面であらうし、政黨の政略も他の一場面であらう。かくて世事百般の現象は利害問題の出没であり之が爭奪戰である。所謂「勝」か「負」かの結果のみが唯一關心事であり、世界を擧げて沙漠化し去らんとするものと考へらるるに至りしことが其實相となつた。知識階級が其守りに忠實である限り常に弱者扱を受け、不斷の壓迫を免れぬ上に時に不意打の嚴罰にも堪へねばならず、竟に運命の赴くところは經濟界に於けるグレシアムの方則其まま行はるる貌となつたのである。

三

知識階級の苦悶は更に精神的立場にも根ざされてゐる。而して彼等の國家觀は之を卜すべき一例でもあらう。筆者は知識階級の國家觀に疑を挾むことを欲しない。さり乍ら彼等の胸中に築かるる純眞の國家姿相が外部の國家機能に依つて無殘にも蹂躙さるる限り、其憤りが容易に消え去り難きもののあることも察知し得る所である。而してこの思想の行動化が其ままに實現し得ざる惱みありて彼等の生活をヨリ暗からしむるものあることも同情に堪へぬ。國家の上層にあるもの別して政治家が同情と理解とを以て彼等に對せざれば千秋の悔を殘すこと必定であらう。有識階級が眞理探求者として我國體の精髓に入り竟に一君萬民の確信を把持するに至りたること維新運動の例外なき現象であつたが、今日彼等をしてこの確信を裏切らしむることなきよう磐石の立場を明識せしめたきものである。現時の知識階級が氣力萎えて概ね國家の重きに任ずるの面影なきことは深憂禁じ能はざる所であるが、兎に角知識階級の顚落が國家の中核の喪失であり國家の意思判斷の混亂となることは爭はれぬ事實である。之を虐げる力の正體如何と其方略に就て細心留意せねばならぬことは勿論である。

共産黨の墓標立つ

篤と其正體を視よ

——昭和四年十一月十日第百號掲載——

一

本月五日付を以て掲載禁止を解かれた共産黨事件の檢擧眞相は豫期以上に重大性を含まれたもので、國家自衞の最後的決意をも表すべき用意が必要となつた。共産黨の狂惡的企圖に對しては本紙が理論的根據と事實の明示に從つて能ふ限りの努力を拂つて排擊を强調し來たのであるが、此度の現實曝露に依つて一應の淸算が來り、更に國本運動の强化が高調されねばならぬことが痛感さるるに至つた次第である。顧みるに二年前、所謂緊急勅令問題に就て世論囂々たりし時、筆者は政治圈外に立ちて尚其緊急的必要を認めて其實現を力說したものであるが、之を今日に於て深察するに實に感慨の淺からざるものがある。

二

發表された事實に就て稽ふるも共産黨運動の主目的が所謂國體の變革にあること明かで、ソビエツト・ロシアの防衞、帝國主義戰爭反對、植民地の完全なる獨立、土地の無償沒收等の十三政策の如き之が道程と見るべくかくて勞農階級の獨裁を實現しよう

としたものである。

惟ふに刑法は第七十三條以下に皇室に對する罪を規定して嚴乎たる態度を示してゐる。而してこれ素より國體維持の發露であり、日本國家存立の根本義より觀ても亦當然の規定である。しかも皇室に對し奉り危害を加へ又は加へんとしたる者の死刑に處せらるべきことの明文は金剛不動の國民的確信とも合致するものであり、國體の變革を企圖し其實行々爲にまで移つた共産黨一味の不逞事が、この明文と如何なる交涉に立つかは多言の要もあるまい。國體變革の根本事がやがて何を意味すべきかは戰慄禁じ能はぬ所である。

三

天皇制の廢止。天皇、寺院、地主の土地没收。ロシアの防衛と云ふ如きカラクリと不逞心が見事に失敗したことは明かに共産黨運動の自殺にも外ならぬ。國格の蹂躙と國情無視も茲に至りては極まれりと云ふべく此程度の低能振りを臆面もなく晒した度胸が寧ろ怖れを爲すものであらう。共産黨員の平均年齡二十六。高等教育を受けたるもの三割、中等教育一割八分、初等教育五割二分、しかも其三割五分は病弱者との事である。所謂黨幹部と稱する者が耽溺生活を送つたり、小兒病的鬪爭に自己陶醉を催したり散々の正體を曝露したること當然であるが、共産黨運動が其世界政策の明示する如く單なる思想運動に非ずして純然たる政治運動である限り之が對策としては政治的及法律的解決に出づることは勿論至當である。唯今日この頃共産黨運動の發生と對策に惱まねばならぬ國家相を悲しむのみ。恥づべき日本共産黨の墓標は立つ、更に悔を胎すことなきか。

日本の獨立性

二三の懐疑に就て語る

——昭和四年十一月二十日第百一號掲載——

一

近時の言論界は頻りに日本の獨立性に就ての懐疑を傳へてゐる。これ思想に於て、財政に於て而して國防に於て日本人の意氣が次第に薄らいで敗北主義の明かな陳列が布かれたる事を意味するものである。何たる不祥事であり、不幸事であろう。人間至高の幸福は嚴然たる獨立國家の創作にあり、この國家内に於て獨立を享有することにある。眞の獨立國家の意圖する所は道徳の遂行にあり、從つて人性の伸張にある、而して之が障害に對しては斷然たる力の發動を期するにある。かくて獨立の存在理由が具現さるることとなり、獨立人としての第一歩が許さるることになる。紛々たる諸子百家の説も之を要するに人間の獨立性を如何にして實現せしむるかを教へたものであつたが、かくて問題の到着點は兎に角獨立國家の創作にあることに心を用ゐねばならぬといふ所にある。國家の獨立性なくして生活の獨立性を語ることが現實無視の迷盲であることは、少しく國際間の表裏に通ずる者の容易に識る所であらう。しかも今や日本の獨立性に就ての懐疑が傳へらるるに至つては、國家及國民生活の爲めに長嘆息せざる

を得ない。

二

先づ思想問題に就て其片鱗を察せよ。共産黨事件の曝露せられたる今日、我國民の對露感情に如何程の憤激が看取されたことであらうか。ソビエット・ロシアの首腦部が日本國體破壞の爲めに多額の資金を給し、深刻なる陰謀を廻らしたることは一點の疑ひなき事實となつたのである。云はば日本の獨立性を完全に奪ひ去らんとし、國家壞滅を策しての辛辣なる關渉に出たものであつたのである。之に對し國民的憤激の曝露も見えざることは果して何を意味するものであるか。北樺太の石油と而して北海の漁業が夫程に執心なのか、それとも國民的感激性の亡滅し去つたのか。

三

金解禁を繞つての對米媚態振りに就ても議すべき何物かはある筈だ。或は日本のモルガン化を叫び、弗の番頭化を痛憤する者さへ出た始末である。堂々たる大帝國の豫算を電送して先づウオール・ストリートの宣託を聞かぬばならぬといふ爲體（ていたらく）である。更に一例を採る。アメリカ人の世界漫遊に落す金は稍日本一年の總豫算にも匹敵するが、貧乏國の日本はせめてツーリスト・ビユローを擴張して其落コボレをウント吸收せねばならぬとは當代日本一流の實業家と日本一流の政治家との間に交されてゐる大問題であるとの事である。かくて日東大帝國の理想は瑞西級に下落したことになつた。

更に國防問題は奈何。眼前に迫るロンドン會議に對する日本の意氣と抱負は誰が語つてゐるだらうか。傳へらるる英米の軍擴主義を打破して眞の不戰精神を高調すべきチヤムピオンは日本こそ其第一人者ではないか。日本の面目と信念の前には英米の不純の魂膽を一蹴して歸つて可なり、何ぞ會議の決裂を恐るるの要があらう。しかも兎もすれば安價なる

妥協と同情にすがつて敗れたるは此種の國際會議に於て嘗めた苦き經驗ではなかつたか。かくて日本の權威が次第に去つたのである。惟ふに國家と云はず、個人と云はず獨立性を失つては死も同然である。生ける死屍日本を見んとすることは我等の到底忍び能はざる所である。

政治行動と經濟運動

何故の世相不安ぞ

——昭和四年十二月十日第百二號掲載——

一

經濟運動が國家對無産者の爭闘であるかの如く思惟されて、その一味が國家破壞に乘り出して來たのは大なる迷信でもあり愚策でもあつた。所謂共産黨事件始末に於て純眞なる青年が此謬見より覺めて、その國家觀を一變し運動方法に急角度の方向轉換を試むるに至りたることは當然である。況んや共産黨事件が經濟運動でなく勿論思想運動でもなく、純然たる政治運動であつたので一層深刻の反省を與へたものであつたらう。兎に角經濟運動は其形を如何に取つても國家破壞とまで進み過ぎては、竟に運動夫れ自身の破滅になることは明かである。經濟運動は其本領とする現實世界を凝視めて、飽迄その限界を

守る所に妙味がある。經濟運動が一歩その埒外に出でたが最後致命的傷手を蒙るべきは明かで、從來野望家の乘ずる所となり慘憺たる運命を辿りたることの尠からざるは周知の事實であらう。

二

經濟運動の激化を避くべきことは運動者の夢寐にも忘るべからざることである。さり乍ら之に先驅さるべきものは政治の公正であらねばならぬ。近時政治の不公正が頻々として白日の下に曝露せられ、之を掩蔽せんとして更に不公正を重ねつつあることが傳へられて世相不安に重大の刺戟を加へてゐる。而して一方に於て經濟的大勢力が政界に魔手を延ばして利權壟斷を策し乍ら他方經濟生活に惠まれざる者の向上運動に對し封鎖强壓を以て臨むとあつては、世相不安の因つて來ることも當然であらう。財界の政界進出が如何に危險であるかは筆者も一再ならず力說した通りであるが、爲に政治が所謂寡頭金融に毒せられて跋行し來ることともならば、竟に政治の破綻を見ること明かである。かくて鬱屈せる經濟運動が堰を切つて氾濫し來ること亦明かであらう。

三

政治が國家破壞に出づるとは信じられぬ所である。さり乍ら政治行動が邪道に墮して國家意思の現れが識者の承服を得ざるに及ばば結果に於て國家破壞に至ること論を俟たぬ。而して政治家はこの結果に對し死を以て責に任ずべきこと素より當然であらう。所謂無産運動の中より疑獄に連坐せる者に極刑を課すべしとの叫びが擧げられて居るが、苟くも國家を背負ふて立つ者の間から國家の根本を震撼すべき破廉恥罪を出すが如き國民の堪へ難き所である。惟ふに國家の面目立たざれば內外の悔りを受け、竟に衰亡に至ること史實の明示する所である。國家衰亡せば個人の經濟生活も激變を來すべく特に日本人

としては回復すべからざる深傷であることは豫斷するに難くない。唯物史觀の謬見打破は一國の政治行動に依り期待さるべきものであるが、之に油を注ぎ火を點ずることも亦一國の政治行動に因ること尠しとしない。祖國防衛の爲め良心の尖鋭化と具體化がいよいよ急を告げて來た。

歳末回顧二題

次年の希望如何

——昭和四年十二月二十日第百三號掲載——

一

歳末回顧は月並的ではあるが多少の意義なしとしない。殊に生活に一期を畫して一應の清算を試みて見ることは現代の國家生活に於て別して必要でもあらう。昭和四年を送るに當り内政と外交に就て國家の辿り來た足跡に就て一二の回想を語る。

内政の論題となるべきものは何と云つても内閣の更迭である。勿論政變に政策の是非を持出して彼是云はんと欲するものでない。國民も亦此種の回顧に就ては砂を噛む程の興味さへ湧き出ぬ始末であらう。さり乍ら政變來に至るまでの國情の急迫と其後の展望に現れた國家相は如何であつたか、國民生活の好轉が何を目指して策されたかに至つては同胞の

例外なしに考慮したものである。

次第に差迫る年の瀬に臨むて深刻の生活苦を嘗ること、近年に至つていよいよ甚だしきものあり。かくて次年への希望もますます絶え絶えになることは打棄て難き國家的大切事である。而して之が原因を探ねて政治的缺陷に想到するに至つたことも是非なき所である。

二

政變の眞因が那邊にあるかは素より國民の知らざる所であつた。政變は雷神の如く來る。所謂英國式の憲政常道は拾い主にのみの常道であつて、内閣の明渡しに動機せざるものであることは勿論である。即ち堂々たる政戰の行はれざるを明示するもので、政變で國民の感電する所は劣惡政治への懲罰であつて、沃雲去つて後の善政を豫感する時間的猶豫もなきことは事實である。かくて近年の政變は思慮の鍛練を缺いた氣分主義の現象を繰返したものであつた。國民的大望を政治面に表現するが如き素より不可能に近いもので、其因つて來るべきものは政治思想の低劣にあること論を俟たぬ。所謂政治の標準尺度が國家より外れた何よりの證據である。

三

ロンドン軍縮會議はいよいよ新春劈頭より本舞臺に入ることにならう。かくて本年掉尾を飾つた微妙の英米豫備交渉は次年に入り如何なる變轉を見するであらうか。

若槻全權はシヤトル上陸第一聲に於て我對策を述べて、軍擴を斥けて飽迄軍縮に出づべきこと及び他の脅威を受けざる丈けの軍備保有を明示したことは頗る要領よき出足であつた。日本は先づ其存在理由を力調して特に對米折衝を試むべく不戰條約實現後の今日、門戸開放主義の擴張意圖に對して斷乎たる反對決意を表明すべきである。比率問題の如き若し話題に出づれば先づ米國の所謂太平洋問題と極東政策

とに就ての腹中を叩くの要あり、而して彼の不戰精神を看取し得れば大いに軍縮を敢行せしむべく我比率は之に準じて考慮すべきこそ至當であらう。卽ちロンドン會議に日本の意氣込を送りたく歲末年首の好機を以て一段の工夫を廻らしたきものである。

今や國家及び國民の逢着してゐる苦難は並大抵のものでない。回顧反省して其打開に出づべきこと希望に堪へぬ。年將に了らんとして意切なり、同志の自愛を祈る。

昭和第五年

歳首に何を期すか

——昭和五年一月十日第百四號掲載——

昭和新政の第五年を迎へて已に十日を送つた。頂天立地、國情の赤裸々なる實感に觸るる時、皇紀二千五百九十年の新光が爛々として萬里の波濤を照破する如き快適を覺えたであらうか。一系の君子在します嚴乎たる事實は何物にも勝る氣丈夫である。而して新春には別してその有難さに思ひ廻らされて聖壽萬歳を讃仰しまつるの思ひ出にあるべきは當然であらう。さり乍ら海邊の巖頭に立つて大海原にのぼる清朗の朝暾を眺むる心にもやがて荒潮の來襲に備へあるべき覺悟せねばならぬ。皇室の大磐石を護る心にも寸毫の油斷なかるべきことは素より論を俟たぬ。

×　×　×

一系の天子は日本國家の礎石であり生命其ものである。天子を統りてのみ國民の脈絡は察知し得べくまたその呼吸をも感得し得べく、而して天子はまた國民生活の唯一の立脚點でもある。かくて日本道徳の誇たる忠君と愛國との不二相關的意義が生じ來り天子の御威徳が直に國運の進展に反映し國民生活の充實ともなるべきは事實の雄辯に語る所である。國運進展を目して徒に事を誣ゆるが如きことあらば自己否定であるが、日本國家の認識に徹せざる戯作

者の囈語に過ぎぬ。四半世紀前を回顧して日本の對露戰を究めても見よ、誰か涙なくして這裡の消息を偲ぶことが出來ようぞ。日露戰に我國是の跡を辿り得ず、感激の高鳴りを覺え得ざるとあつては已に國民的脈搏の結滯を示したものであり、生活意識の朦朧さが來た證左である。茲に自己診斷が試みられるべき一指標がある。

× × ×

今や日本の環境には米露支の三大脫線國が思ふがままの振舞を演じてゐる。而して其振舞も眞に傍若無人、日毎に深刻さと露骨さが募る有樣であるが、其目指す所は察知するに難くない。卽ち所謂太平洋を攪き亂して、火の海と化せしむるにあらう。而してこれ意識的にせよ、無意識的にせよ、運命の辿りつつあるコースである。惟ふに明治天皇の最も軫念し給ひしことの一は東洋の平和であつた。時ありて之を極東の平和と云はば特殊の思ひ出もあらう。而して之が爲め日本の强盛を來すべきことの必要を最も深刻に感ぜさせ給ひしは、畏くも明治天皇であつた。日本弱ければ東洋の天地大いに亂るること必定、かくて日本の獨立は泥土に塗らるるであらう。國民生活の如き勿論踏み躙らるるであらう。之を究明して國防の長策を樹てさせ給ひしこと拜察するだに恐懼の極みである。而して今や歷史は明かに繰返して來る。米のドル、支の暴、露の奸の至らざるなきの實狀は何をか語る。日本にして膝一度屈したる後の東亞は知るべきのみ。

× × ×

日本が外力の壓迫に堪へて來た意氣は悲壯であつた。而して今後またいよいよ加重して來ることも明かであらう。さり乍らこれ決して徒に恐るるには當らない。恐るべきは寧ろ國民精神の頽廢にある。而して其深憂は社會の各層より現れ來つて居ることに因り彌強く裏書されてゐよう。殊に政界墮落の如何に太しきかに至りては論外である、信なくんば國風起らず、國風起らずして何の政治ぞ。年改まりて

心また新、深く決して期する所ありたきものである。

ロンドン會議開かる

其重大性と責任問題

——昭和五年一月二十日第百五號掲載——

一

ロンドン軍縮會議もいよいよ幕明の時期が來た。約半歳に亘つて稽古づけられた英米の明暗とりどりに感ぜられた序曲が奏でられた後である。全世界の眼が如何に動き、全人類の情感が如何に涌き立つであらうかは想像に難くないが、其批評は勿論今後の展開に俟つの外はあるまい。唯日本に關する限り此丈けの認識と覺悟は必要であらう。

一、英米豫備交渉の成功を識らねばならぬ。素より個々の問題に就ては兩國は未だシツクリ合つて居らぬ。さり乍らマクドナルドが辭を低うして渡米した一事に於て、既に英の對米策を讀めてゐる。而して之に對して米の對英感情がジユネーブ會議を想起せしむるが如き不安と警戒を一掃した事丈けは事實である。卽ち此一點既に英國外交の勝利であらう。アングロサクソン一流の堅剛の礎石就るの日、片々たる了解とか駈引の效なきこと識るべきのみ。

二

主力艦問題は素より實質的に觀て會議の主題たるを失はぬ。さり乍ら傳へらるる所謂補助艦の二、七割問題こそ討議の核心で之に就て日本の決意奈何が問題である。我七割保有の專門的根據は既に世上説かれて居る通りであり守勢を維持するに絶對的必要性のあることに就ては識者の一致して是認した所である。故に我閣議に於ても之を決定訓令した次第で確なる情報に於ては今や其絶對性は寸毫の申開きを許さざるまでに至り、新たに所謂政治的解決の取極めなき以上之が變更は當路者の重大責任となることも略明かになつた。而して之に對し在野政黨の責任の免れ難きことも問題の經緯を識る者に取りて亦明かであらう。七割問題の運命は政略を超絶する國家死活の岐路で不眞面目なる政客連を活殺する切札ともなつたこと勿論である。

政界の動きを見る

政治意識の飛躍奈何

――昭和五年一月二十日第百五號掲載――

一

ロンドン軍縮會議と期を同じうして帝國議會が其活動を始めんとして居るが、活動を始むるや直に自己清算に入つて了ひさうである。本紙が同志諸氏に達した時は颱風一過後であるか、或はより陰慘な低迷期にあるか、兎に角相當の異つた雰圍氣が政界を覆ふた時であらう。

惟ふに議會は國民の總意を反映する所であると云はれてゐる。さり乍ら國民は既に議會に愛憎をつかして居り、不信用の百パーセントを拂つてゐるとさへ云はるる程である。論より證據、開院式の奉答文に歌つてゐる國事の審議は曾て何處に見られたであらうかとさへ反問されてゐる。而して所謂政界の疑獄事件が對議會の不渡手形に最後の首切の役を果してゐることも事實であらう。かくて二大政黨以下の醜骸が白日の下に晒さるるに至りしこと周知の通りである。

二

近代政治の妙趣は議會人の選擇を自由に行ひ得る所にあつた。而して議會人の選擇は自ら政治する頃

を避くることに重大の意義を有つこと勿論である。さり乍ら議會人の不信用が明かにされた場合に於て、國民に深き自己反省が求められて茲に政治の本質的意義奈何に及ぶべき政治意識の飛躍をも考慮せらるべきことは素より至當であらう。政界の御筆先は海を渡つて來る。日本的政治の確立の爲めに心眼を開くべき秋である。

黨か人か

一票の目安奈何

——昭和五年二月十日第百六號掲載——

一

總選擧戰は今や酣と云はんよりは寧ろ血戰に入つたやうであり、各陣營を覆ふてゐる戰雲はいよいよ急迫を告げて來た。かくて此際に於ける國民的意志表示こそは千鈞に價すべきものであらう。

惟ふに政治の實際を觀るに殆ど政黨萬能である。而して好むにせよ、好まざるにせよ國民は其指圖に從ひ其統制の下に置かるるの結果となつてゐることは否定が出來ぬ。かくて國民生活に對する現實的影響が來り政黨の嚴正批判が免れ難きものとなつて來た譯である。がしかも政黨の機械觀に捉はれて其存

在理由と活動に對し盲目的禮讃を捧ぐるが如き我等の自主的精神が斷じて許し得る所でない。身を政黨に措くの故を以て個性の清算をも避くるが如きあらば卑劣この上なき次第と云はねばならぬ。

二

政黨が組織力を以て政策の具體化に出づべきことは論なき所である。さり乍ら政黨の進退は端睨すべからざるものあり、其政策として天下に公約する所も果して幾何の期待が出來ようかは疑問である。現に憲政常道の本家のしかも勞働黨内閣に於て看板に數々の僞りあること周知の事實であらう。卽ち政黨政治が迎合と安直と凡化に墮して責任の所在に就て多くは避け得らるることが其實相である。或は曰く政黨政治は永續性を有ち且つ大衆的であると。政黨の組織内に這入つては個性も其力を逞うすること困難であらうが個性に因つて政黨の看板が塗り替らることも否定が出來ぬ。曾て我選擧戰に於て大隈か原かとの題目で爭はれたことがあり、今また濱口か犬養かとの標語を放つて決戰に臨むで居るようであるが、かくては政黨人自らの政治意識の動搖を表現した何よりの雄辯に外ならぬ。しかも斯くなることが人性の自然に出でた叫びであり、所謂形式政治の常道に擬した九寸五分でもある。

三

惟ふに政治のイギリス化は風俗のアメリカ化、思想のロシア化と共に夙に筆者の警戒し來りたる所で、本欄に於ても一再ならず痛論した通りであつた。政治のイギリス化は素より我國體と絶對に相容れず、其影響の及ぶところ竟に國民生活の中心を失はしむるに至ること必定である。しかも模倣に事缺きイギリス政界の疾患そのままをまで傳へて悟らず、政治をして半身不隨たらしめたるは笑止の次第であつた。今の所謂憲政の常道は政權奪取の唯一の公道であるかも知れぬが、この一路を辿つて見ても方今

の國難が打開されようとは思はれぬ。かくて問題は今様の政黨政治に對する國民の信任如何と云ふことにあるが、信任は寧ろ政黨そのものに表示さるるに非ずして之が運用に當る政黨人に對照せしめらるるに至りしことも皮肉である。卽ち政黨が事件に於て特色を失つて居る何よりの證據で、この洋式政戰の破局がやがて日本精神に還元せらるべき運命を齎すべきことも略察知し得る所である。

日本は英國でない。況んや獨逸でない。黨を目がけて投票する前に先づ國家を思念すべきである。かくて人物の勝利を疑はしむるに至ること希望に堪へぬ。

天地霄壤の差

國防蔑視を嗤ふ

——昭和五年二月二十日第百七號掲載——

一

本多熊太郎氏は其快著「軍縮會議と日本」に喝破して曰く、

云ふまでもなく「國家の安全保障確保」と「負擔の輕減」此二つは我國民が今回の會議に期待するところの要目であります。去り乍ら二者併せ得られざるが如き場合には後者を捨てて前者を

貫徹する事は本質上當然のこととして我々國民の深く覺悟して居る所であります。軍事費の輕減は素より望ましき事柄で殊に我國目下の事情に於て頗る望ましき事には相違ありませんが、去り迚此の希望達成のために國の安全を犧牲とするが如きは斷じて我々國民の志ではありません。「帶に短し、襷に長し」でマサカの時の役に立たぬ樣な海軍ならば一個の裝飾物である。之を維持する經費は無用の冗費である。寧ろ近頃丁抹（デンマーク）邊（や）で行らうとして居るやうに全然軍備を撤廢して仕舞つた方が却つてよろしい。（同書六六ー六七頁）

明澈遺に胸のすく論斷である。

二

安部磯雄氏は總選擧當込みの際物（きはもの）的近著『國民の審判に訴ふ』に軍事費極減を叫び且つ曰く、

年々四億圓の軍事費を教育事業に投ずれば各府縣に月謝不要の大學及び高等學校を設置しても尚使ひ切れないのであります。これを國民負擔の輕減に用ゆれば凡ての租稅を半減しても尚餘りあります。これを鐵道に用ゆれば人も貨物も悉く無賃で輸送することが出來るでありませう。主力艦一隻の建造を節約すれば一年間全國の地租が全免せられ師團一個を減ずれば大學の二つ三つも建て得るでありませう。更に又陸海軍人約三十萬人が生産事業に從事するとして其賃銀日給一圓五十錢とすれば一ケ年は一億二千萬圓に達するのであります。これを軍備費に加ふれば軍備費のため我國一ケ年の經濟上の損失は六億円に近いのでありまして實に驚くべき徒費と言はねばなりません（同書二一七頁）

實に底知れぬ思想と打算振りでないか。

三

惟ふに負擔の輕減問題は世界の何人もが緊切に思

念する所である。さり乍ら之が解決は國家の安全問題と同じく他國との現實的相對關係に置かるるもので單に自國の財政と經濟の鹽梅を策して見た所で滿足さるべきものでない。例せば傾來の印度問題を觀よ、印度にして獨立せんか先づ苦悶するは英國の勞働者であらう。彼等に因つて來るべき國家財政の破産的危機に臨むでは勿論養老年金、失業救濟の如き恩惠に浴し得ぬこと明かである。茲に於て我社民黨の理想とする英國の勞働黨内閣も保守黨に劣らざる強壓を印度に加へる必要が來た譯である。海軍會議に於て亦然り、勞働黨から云はば英國海軍の弱勢はやがて國家衰亡の動因たり、次いで到るべき運命は勤勞階級を含む各自の破滅であるべきこと明かで是が非でも國家の安全保障を楯とする大海軍を主張せねばならぬ所以であらう。

政治を誤らんとすれば之を思想家に與へよとは那翁の道破した箴言であつた。言に千鈞の重みあり、近時流行の我政界の所謂思想化が竟に何を齎すべきかは戰慄して察すべきものがある、頓に擡頭して來た國防蔑視論と所謂反戰運動を戒めんとして斯文ある所以である。

財界苦惱募る

上醫の出現何日か

——昭和五年三月十日第百八號掲載——

一

與黨大擾して祝勝相場でも出現するものと思ひきや、釣瓶落しに深刻化して來た財界の不安には通の當路者も呆然たる有様である。蓋し所謂政界の安定が必ずしも社會不安を一掃した譯でない。何よりの證據で、或は別に運命の皮肉なるプロローグを奏でるものであるまいかとさへ疑はるる程である。過般の總選擧戰に於て民政黨は「眞の景氣か空景氣か」を掲げて政友會の「景氣か不景氣か」に渡り合つたが景氣招來に身を以て當る意氣と適格に至つては竟に兩黨の孰れにも見出し難い所であつた。今日の景氣問題とは勿論黄金の洪水を夢見る底のものではない。一人の失業者に深き自責を感じ、之に温き同情を頒ち得る情操味が織込まれねばならぬといふ息詰る問題となつて來たのである。問題を繞つて形式政治の破局が來りたることは見逃せぬ現象である。

二

今日の政治が略財界の支配下に降りて其顧使のま

まに動き國家と國民に不當の迷惑を負はしむるも恥なきこと周知の事實である。所謂保護政策の名に於いて行はるる關稅の重課、國庫補助損失補償の如き、中には往々にして如何がはしき風評の傳へらるるを見ても其の實相を察知し得らるるものがあらう。昭和四年豫算を見るに産業補助費は四千萬圓を突破し、關稅收入は一億五千萬圓を越えてゐる。しかも種々なる意味に於て世人の記憶に新なる震手貸付、特融より米穀會計の内幕（米穀會計現在缺損額七千萬圓）に亘って考究すれば、國民負擔を加重することの特に著しきものあるに驚かざるを得ない。國民負擔の加重は時ありて素より避くべきでないが、之が反面に於ては特に其恵澤に浴し得る産業界の感激的努力と之を監視すべき政治界の權威が期待され得べきは當然である。

三

財界の苦境は素より對外事情の惡化に歸因するこ

との多きことは否定が出來ぬ。例せば綿業の如き銀塊の慘落に因つて對支輸出の打擊を受け更に印度の綿布關稅引上げに因つて死命を制された貌である。製糸業に就いても略同樣である。糸價低落の因つて來る所は世界的物價低落の影響を受けたもので、之に銀塊暴落に因つて打つて出た支那生糸の壓迫、米國財界の不振、爲替相場の昂騰等が折重なつた爲めであらう。かくていよいよ重要産業の萎微が來り次いで深刻なる生活苦が波動の如く迫つて來た譯である。惟ふに不景氣對策は製糸業者の口吻を借りて云はば「高い生産原價」を改むることに根本的理據があらう。さり乍ら之が實現は國家と國民生活に不當の犧牲的負擔を强ふる者の能くし得ざることは餘りにも明かである。不景氣對策が産業界の自己清算、政治界の甦生を迫つてゐる所にローラーの如き强さがある。齒を喰ひしばり乍らも現下の苦境と戰はんとの總意を起さしむる政治家なきか。

國運岐路に立つ

倫敦に日本の生存線動く

——昭和五年三月二十日第百九號掲載——

一

日本の生存線は日本から滿洲、支那及西比利に達するとはゴツス大佐が昨年四月號ノース・アメリカン・レヴユーに寄せた一文中の至言である。しかるにアメリカ海軍政策の殆ど唯一の積極的使命は其國策と自稱するヘイドクトリンの遂行にあることは同國政府筋の文献によるも一點の疑ひなき所であらう。而も所謂門戸開放、機會均等主義が一八九九年の宣言當時とは似もつかぬ代物となり今や太平洋、支那地方に於けるアメリカ勢力の侵略的別名詞となりつつあることは遺憾乍ら事實である。かくてアメリカ自らが所謂不戰精神を裏切り不戰條約の明白なる用語を蹂躙して國策遂行の用具としての攻勢的大海軍建立を急いでゐる事實も否定が出來ぬ。アメリカ大海軍政策が日米海軍の差を大ならしめて先づ不戰屈敵を目論み次いで對日打撃をも並び描いたこと偶然でない。東洋の一角に屹立する日本の存在はアメリカ勢力の前進と相容れぬものと思込むで叩きに掛つたものが海軍會議の實相である。日本の生きんとする切々たる生存線をさへ搔亂すこと素より覺悟の前であらう。

二

近着の外電はロンドン海軍會議に於て日米協定の就らんとするの報を傳へること頻りである。而して其の内容として傳へらるる彼の提案を見るに、宛として緣日商人の駈引其ままであることを看逃すことが出來ぬ。或は補助艦總括六割九分六厘であるとか、或は一九三六年以後に於ける米國の建艦に對應すべき我國の建艦を否認して置き乍ら夫れまでは加古級四隻を含む八吋十二隻十萬八千四百噸を以て對米七割説を滿足せしめんとするが如き、所謂パリチーに隱れて我潛水艦の進出を挫かんとするが如き唾棄すべき猿智慧を持出してその强行を期せんとする態度の醜さは斷じて一等國の品格を現したものでない。要するにアメリカの對日攻勢に妨げとなるべき基本勢力は彼に於ては寸毫も讓らざるべきものと見るべく、松平、リードの交涉百萬遍に及ぶと雖も頑强ジヨーンス一流を服し得ざれば徒勞の努力となろう。

三

惟ふに江戸日本橋の下を流るる水がテームス河に通ずべきことは、我鎖國時代に於てすら喝破された自明の理である。況んや世界情勢の一起一滅が直に國家及國民生活に深刻の影響を及ぼすべきこと今日の如き未だ識らざる所、我國民が海軍會議に鋭き感受性を有つべきことは當然である。試みに國際關係の現實を凝視せよ、各國家は自國民の生存線の擴充と防衞に對し文字通りの血みどろの努力と苦惱を重ねてゐることに留意さるる事であらう。フランスが英國案を一蹴して補助艦七十二萬五千噸對英八割三分を主張して容易に降らず「我に安全保證を與へよ、然る後初めて比率に就いて語らん」との意氣さへ見せるあたり、坐ろ華府會議に於るブリアンの名科白をも思ひ出されて感慨無量である。今や日本の對米七割問題は問題自身に日本死活の生存線が畫されてゐることを牢記明識せねばならぬ。會期八週を經て

最後の骰子は投げられんとしてゐる。將に國運は岐路に立つ。

國事の商法支配

國策の行衞奈何

——昭和五年四月十日第百十號掲載——

一

大西郷曰く、

國の凌辱せらるるに當りては縦令國を以て斃るるとも正道を踏み義を盡すは政府の本務也。然るに平日金穀理財の事を義するを聞けば如何なる英雄豪傑かと見ゆれども、血の出る事に臨めば頭を一處に集め唯目前の苟安を謀るのみ。戰の一字を恐れ政府の本務を墜しなば商法支配所と申すものにて更に政府には非ざる也。

また曰く、

正道を踏み國を以て斃るるの精神無くば外國交際は全かる可からず、彼の強大に畏縮し圓滑を主として曲げて彼の意に順從する時は輕侮を招き好親却て破れ終に彼の制を受くるに至らん。

翁の警世語が今日の時局に就て何を暗示してゐるかは聰明なる同志の明識せらるる所であらう。

一

惟ふに國の凌辱を受くるに至るや個人生活も亦晏如たり得ざること勿論である。而して國の凌辱は一旦にして到るものに非ず。時弊の大なるに及むで竟に彼の乘ずる所となるべきは史實の明示する所である。さらば時弊の大なるものとは何であるか、卽ち國事の商法支配化に外ならぬ。所謂政治の打算主義が勝を制して精神力が封ぜらるることである。南洲翁の「正道を踏み國を以て斃るる精神」が一顧眄に値せざる舊套語として斥けらるることである。かくて商法支配下の國事は徒に内の人氣と外の圓滑を求むるに急に、爲めに返つて内外の輕侮を招いて破綻し去ること明かである。當路者は勿論のこと、國民はその政治意議を明證尖銳化せしめて時局に處するの道を誤つてはならぬ。

二

國事は國民精神の結晶と表現を示したもので專ら國事に當るものの心事こそ大切至極と云はねばならぬ。かくて政府の本務としては寧ろ精神支配所たることにあらう。所謂金穀理財問題の如きもその眞の活計は眞の國事を解せずして行はるるものでない。所謂理財家が往々にして曲知小慧譎詐狡猾に墮し易きこと因つて來る所あるを知らねばならぬ。今や時相は國民の生活及思想苦に對する深刻なる惱みを語つて居り之に乘ずる外力の壓迫は國運の前途に容易ならざる禍根を胎しつつある。眼前の打算を蹴えて國家の良策に專念すべき時である。

失業對策の一針

他力と退嬰斷じて不可

——昭和五年四月二十日第百十一號掲載——

一

臨時議會が開かれて人氣の一時的焦點が浮び出さうな貌である。しかもこの焦點に直射さるべき強光線の尤なるものは社會相の不安、殊に失業問題の現實的急迫であらうことは夙に察知し得られた所であつた。勿論議會に對する國民の信任の微妙なる思惑から察して議會外の行動に問題の重大性が横たはつて居り殊に所謂地下潛行運動に戒心すべき空氣の漂つてゐることを看取し得らるる所である。さり乍ら苟くも所謂議會政治が憲政の常道であると云はるる手前、社會不安より渦巻く大波に議會の姿が兎もすれば浚はれ勝ちとなつてゐる形勢は不面目至極でないか、議會政治の誇りの爲めにも所謂産業界の怪魔たる失業問題に明識善斷を示すべきであらう。

二

我國現下に於て失業者の數が幾何あるかに就ては正確なる統計なく、或は三十萬と稱し或は百萬と號せられてゐるが、兎に角加速度的に增大し來りつつ

あることは事實で昨日を以て明日を斷ずべからざることは明かである。而して失業者を定義して勞働の意思並に能力を有し乍ら、しかも「自分に適する職業に就き得ない」ものとするに於ては其數は更に夥しきものに上るべく、かくて所謂歐洲流の失業對策が講ぜらるる結果ともならば茲に國家的の一大禍機が醸成せらるることにならう。惟ふに世上失業對策として考へらるるものに二つある。一は失業緩和で他は失業防止であるが、更に前者に對しては(一)解雇、失業の諸手當を給し失業保險制度を設ける等の補助的方面、(二)公企業を起し植民政策に出て、職業紹介を活用するなどの自助的方面など含まるることは周知の事であらう。而して後者の防止策に就ては養老年金、義務教育年限延長等によりて勞働人口の減少を計り或は勞働時間の短縮を目論で居ることなれど、これ亦廣く知られてゐる所である。しかも刻下落潮の勢ひとまで騒がれて居る我失業群の對策に就ては果して如何なる妙計があるであらうか。

三

失業問題に就て歐洲諸國が殆ど失敗の悔を胎しつつあることは同情に堪へぬ所である。殊に英國の如き遖の富國に於てさへ年々增加し來る年金制度の負擔に堪へ兼ねて、世界第一の海軍力をさへ放棄せねばならぬ破目となつた始末である。例せば英國の失業保險法は一九二七年の議會に可決された改正案により被保險者が一躍千二百萬人にも達した程で勞務契約下にある十六歲以上六十五歲以下の者に對して農業及び家內工業を除いて適用さるるに至つた。更に近時は老年勞働者を六十歲に低下せよとの主張が現れてゐるが、かくて其負擔の程は前途知るべからざるものがあらう。さて失業問題に對する國家年金制度の弊害に就ては英國識者の深憂禁じ能はぬ所で、殊に職業紹介所に勞働組合の勢力が侵入して來た結果、國費濫費は勿論のこと國民精神の墮落を來したること僅少でない。生活程度の低き愛蘭人亞流

の如きは組合員となりて失業手當を受け以て之に賴りて全生活を送る者少からざる有樣である。我國も亦やがて之に似たる憂ひが來ないであらうか。失業對策は職なき者に職を授ける所に根本的意義がある。因つてこの根本義に立脚して政治せられ國民の自主的教導を策するよう至らねばならぬ。かくて思ひ切つた公企業を起すことなどは差當り缺くべからざる必要事でもあらう。（年金制度よりより經濟的でもある）。惟ふに米國が大戰後一九二〇年から二一年に亘る不景氣來襲に際して因つて到つた失業苦、勞資鬪爭より離脫せんとして試みたるものが所謂賃金革命であつた。卽ち不景氣時代に當面して逆に賃金を引上げて消費力を增大せしめ生産界の活發なる運行を計らんとしたものであつた。かくして米國一流の繁榮策となつた譯であるが、他山の石また裡に多少の學ぶべきものがあらう。要するに經濟界の受難も徒なる他力本願で突破し得るものでなく、況んや萎微縮少で乘切れるものでなきことを明識すべきである。

軍部は宛ひ扶持か

一憲法學者の妄執

——昭和五年五月十日第百十二號掲載——

本欄に於て政治問題に深入することは避けたき所存である。因つていささか大人氣なきも一憲法學者の不心得を戒めて、卽今の沸騰的論題たる統帥權問題に就ての一家言を語らうと思ふ。

一憲法學者とは美濃部達吉氏を指すのであるが、氏は帝大教授として名聲を馳すること周知の事實で、臨時議會に於て政府は一學者たる氏の學說を頗る重視し言論界また氏の言に傾倒して至らざるなく、その持て方は一通りでなかつた。かくて所謂統帥權問題に就ての氏の學問的壓力が世間的に可也の注視を招いたやうであるから一家言が必ずしも徒爾ならざるものもあらう。

一

美濃部氏は一個の公法學者に過ぎぬ。而して其好む所は勿論々理の透徹にあらうことは察知することが出來る。しかるにこの一代の論理愛好家が國防を語るに及むで不明と不遜の論斷を敢てした。試みに一二の例を援かう。

帷幄の機關は唯帷幄の大權に參畫することが

出來るだけで毫も國家の意思の決定に參加する權能を有するものでない。

又曰く

國防に關して海軍々令部又は軍事參議院の有する權能は唯國防計畫に關し軍部限りの立案をなすことに存する。これは國家の意思に關するものではなくして專ら軍事の專門の見地から軍部の意見を決定することのみに關する。それはいはば技師の立てた設計に類するもので國家に對しては唯一の參考案たるに止まる。假令それが帷幄上奏によつて御裁可を得たとしても尚單に軍部限りの設計として計畫案として決定せられたに止まり決して國家の意思として決定せられたのではない（四月二十日帝大新聞）

惟ふに明治天皇の御詔勅を拜する者に取りては國軍の特殊的意義に就て確固たる信念を抱くこと必然であり、氏が軍部當局を目して「國家をして軍國主義の弊に陷らしむるおそれがある（朝日新聞）」と卽斷してかかりたる邊は明治興隆史の一頁にも通ぜざるの僻說を現したものであらう。かくて軍部をして宛ひ扶持に滿足せしめ一設計技師に滿足せしめようとするのである。沒義冷酷寡漠に堪へぬ、帷幄と政府との交涉に國家的危機を豫斷してかからねばならぬ程の憲法學者の權威こそは遁である。

三

氏は見事なる憲政主義者であるので所謂責任政治で行けば萬事が解決出來ると思つてゐる。かくて我國軍の誇は消え去るかも知れぬか、更に憂ふべきは徵兵制度の上にも一大龜裂が來らざるやの一事である。何となれば責任政治とは歐米の議會政治を指すものであり、やがて編制、統帥兩つ乍ら議會の支配下に置かるることになるからである。現に氏は之を切論して

以上論じたところは事理極めて明白、論爭の目的となるべき問題ではなく殊に諸立憲國にお

いては曾てそれが疑はれたことを聞かぬ（五月四日朝日新聞）

とさへ云ひ放つて居る。卽ち氏の軍部屈服を目論む憲法論は問はず語りの舶來品であることがいよいよ明示された譯である。大日本帝國憲法の解釋に洋心を煩はさねばならぬとは、何たる恥辱であらう。云ふまでもなく憲法は國體を明徴したものであり、其解釋は國家生活の中點より發足せらるべきものである。國體心に徹せざるところ、一切の害惡はいよいよ其暴勢を募り來ること明かであらう。

補弼心理の一觀測

素行先生の使節論を憶ふ

——昭和五年五月二十日第百十三號掲載——

一

山鹿素行先生の遺著『士談』の中『奉使』に曰く

凡そ大事の使節に中らんには詳に君命をただし考へて聊か己が知を先立ることなく何計の事までこまかに聞きうけて一ツ書をいたし而して先へ行べき也。先へ急ぐことを專として可問事を不問、ただすべきことを不糺時は出る所速也と云ども先にてつかゆること多し、その上君命を詳にいたして後には仕そこなふこと無之、君

命を不詳時は善惡各自の越度になること多きもの也。故に君の命をこまかに聞いて是を糺明するにありとぞ。中にも戰場へ用事あるの使節を承はること猶以て然り。

又曰く

使節計に不限、我致す事の善を君に讓つて惡を我に歸せしむるは君臣の禮なり、聊か我を立て是を我に取り非を君に歸せん事臣の道と云ふべからず（聲眼社發行『士談』七四四ー七四五頁）。

卽今の時務に何を暗示してゐるかは別としても味識すべき警世的箴言である。

二

惟ふに現時に於て當時の使節そのままの重責に就て語ることは、聊か時代後れの感もあらう。さり乍ら使節の強き責任感と用意周到の心事を有たずして、天下の重きに任ずることは現時に於ても許し難き所である。所謂補弼とはこの使節心理を現代化したもので君命を明察して寸毫の違非なきを期すべく或は時に之を國是とも稱し得べく兎も角之れが遂行に當つては生命を賭して掛るべきこと素より當然であらう。かくて國家の非常時に際會しては一人の力能く頽勢を旣倒に回らすことを得べく、巴里講和會議に於てクレマンソウは七十六の老軀に火勢衰へた佛蘭西を背負ふて立ち、英米二國の結託を向ふに廻して之を擊破したること尚記憶に新なる所であらう。殊に二月十八日には無政府主義者の狙擊を受けたるも、狼狽屈托の色なく身に彈丸を宿し乍らも會議の折衝に當りたる如き、彼の面目躍如たるものがあつた。財力枯渇し、壯丁は激減し而して昨の友邦たる聯合列國も頼むべからざるに至り、竟に最後の一滴をまで絞つて再び立たんとした佛蘭西が、彼を戴いて悲愴の裡にも意氣の軒昂たりしこと敢て不思議ではなかつた。彼は實に能く佛蘭西の國是を明識し明覺した老雄で、佛蘭西國家そのものに自己を埋

没し去つは所は遖に偉大であつた。

三

さて素行先生が君命をただし考へて聊かも己が知を先立つことなきようにと戒されたことは、別して我國に於ては意義深きことであつた。戰國武士に對して然り、況んや一君萬民の明識下に親政を仰ぎ得るに至りたる今日に於て大御心を體し得ずしては何の臣下であらうぞ。萬民みな君徳を揚達し奉るべきは勿論であるが、假りにも是を我に取り非を君に歸し奉つて竟に不測の結果の招來を見ることともならば奈何、其罪や萬死に値すべきである。しかも近時我世相の推移を觀るに獨り大君を惱まし奉るべきことのなきやは誰か斷じ得よう。今や國歩眞に艱難、座視するに忍びざるものあり、竟に大事の使節は各人銘々の任務として中らねばならぬことに立ち至りしを切感する。櫻樹に刻した兒島高徳の遺風をも追懐されて感慨切りである。

軍縮と減稅の交錯

事態の眞相を究めよ

——昭和五年六月十日第百十四號掲載——

一

近頃奇怪なる社説が某大新聞に掲げられた、曰く軍部の間には倫敦協定を以て國防に缺陷ありとし何等か補充計畫の新註文を試みんとするの説にして事實ならんか、倫敦協定却つて軍備擴張の禍因たるものにして我輩が斷じて反對する所である。陸軍に至つては今日の尨大なる軍備は全く無用の長物にして之を半減するも決して國防に不安ありとは信ずるを得ない。現時の國際事情の現實を無視して世界に一二を爭ふ如き大陸軍を養ふことの無益の沙汰なるは勿論、此今日の艱難なる時局を一層惡化し人心の不安いよいよ重大化せんとする不祥の事態に鑑みるときは政府は勇斷を以て陸軍縮少を決行するの外はないのである。

所謂一流新聞の全部を擧げて軍部攻擊に血迷つてゐる折柄ではあるが、事實藐視(べうし)もさる事乍ら、目に餘る不遜な言辭あること聞き棄てならぬ。

二

不景氣の深刻化し行く狀勢に對して抜本的方策を構ずべきの急務なることに對しては世論の一致する所である。かくて所謂諸種の社會施設と減稅問題が絶叫されてゐる次第であるが、之に關して財源を軍事費に求むべきことが高唱されてゐることも事實である。前揭所論の如き之を強調したもので政府筋の放送も毎日の如くこの種の空氣に煽りを掛けてゐることは察し得らるる所である。諸種の社會施設と減稅の火急的實現に就ては筆者は何人にも劣らぬ情熱を有つものであるが財源補塡に窮するの結果、彼是考究の餘裕を缺き一時的感情に走るとか、世俗の迎合に囚はれて國家の進路を誤るが如きことあつてはならぬこと論を俟たぬ。國家は現實に卽し乍らも次代に生きんとする者に力を頒たねばならぬが、この調和を計るものこそ實に政治家の責務であらう。故に政治家は一片の政略とか商策で國政に當り得るものではなく、其難境に殉じて純情と名分に生き得るもののみが其適格者であること明かである。かくて事理の明斷も期待し得べく國家の失患と其對症策をも發見するに難からざるものがあらう。

三

本年三月二十七日所謂我回訓案發送前四日、これ亦第一流のしかもまた第一流と自認する某紙は「斷然屈從を許さない、政府は米國案を拒否せよ」と題して次の如く痛論してゐる。

考へても見よ、一の独立國家が他の國から何種の艦は何萬トン、何種の艦は何萬何千トンと一々動きの取れぬ指令を受けるという如きことが、世界にあり得ることであるか。獨立人が家を建るに當り隣人より十疊の間は作るな、しかし八疊は二室、六疊は三室、便所は一ケ所を承認すると命令されるのと少しも變らない。

而して同じ某紙が今日此頃軍部に一戰を開けとま

で放言するに至つた急變振りも亦周知の事實であらう。惟ふに獨立國家が他の掣肘を受けて國防を搖がすに至らば次で至るべき運命は自國民の流離零落である。かくて何の生活があらうか。現に米國の上院では對日攻略を論議して火花を散らしてゐる始末である。經濟苦の切迫を告げて世相轉た平かならざるの際ではあるが國政の全局に眼を放ち國防、經濟兩つ乍ら活かしむるの途はないものか。問題は意外に情實政治の樂屋裡にあるのではないか。

マツク内閣の一年

勞資協調の昂潮に乘る

——昭和五年六月二十日第百十五號掲載——

一

英國のマクドナルド内閣は組閣滿一年を經た譯であるが、航路難を啣ちつつも政治の明標を指し乍ら之に堪へてゐる勇姿は遖である。惟ふに昨年六月の總選擧に於て保守黨の堅壘を越えて見事に第一黨を贏ち得るや第二次勞働黨内閣の意氣込は寔に凄じきものあり、勤勞大衆の期待に乘つてこの度こそは内外諸政策の一大轉換を試みんとの慨ありしこと想像に餘りある所であつた。さり乍ら下院に於けるその

勢力は絶對多數を占めたるに非ず自黨の二百八十九に對し保守黨二百六十、自由黨五十八といふ割合で政策の遂行に自由黨の協助を仰がねばならぬこと是非なき次第であつた。しかも現内閣が埃及問題、印度問題に於て依然たる不始末を續けて居る一方に於て、對獨賠償問題には大いに氣を吐き、倫敦海軍會議にも相當の成果を收めて案ぜられた國際的手腕に於て兎も角も英國の傳統的誇りを保ちつつあることは一應之を認めねばならぬ。而して對外問題に於て一應の成功を收めた勞働黨政府が其得意とする内治問題殊に失業及炭坑問題で手を燒き、昨年十二月十九日下院を通過した炭坑法案に於ては八票の差を以て辛くも面目を保ち、本年五月末に至つてオスワルトモスレーが退閣したることは政府の失業對策に不滿を發したものであり、當時俱に内閣の危機が叫ばれたのは皮肉なる現象であつた。

二

英國に於ける失業問題と炭坑問題は確に同國内政の二大癌種であらう。失業問題の對策が發足に於て一歩を誤り國庫よりの飽なき注入を以て尚滿足されず、國民精神の頽廢をも兆て意外の失敗を重ねつつあることは曾て本欄に於ても指摘した通りである。炭坑問題は一九二六年の大罷業を經て朝野有志の明智を傾けた幾多の對策と會合が公表されたことは無理からぬ所であつた。しかも勞働黨代議士二百八十九名中四十三名は正銘の坑夫代議士であるので、いよいよ問題解決の重大性と緊急性に缺くることなきこと明かである。

かくて前途の際どき下院第二讀會の通過をも見た譯であるが、原案の内容が一日七時間制を始めとし毎々からの口約より出た可なりの急進的變革も含まれて居るが其眼目とされて居るのが十七名の協議員からなる「全國産業協議會」にあること略分明であつ

た。

三

英國に於ける勞資爭鬪の最深刻なる場面は實に炭坑問題であつたが、前回の大罷業以來、兩者の歩み寄りは次第に接近し來り、産業の全面的發展を策せんが爲に大規模の調停機關の必要が唱へられ、兎も角その形態を見るに至つたのが協議會であつた。勞働黨内閣が黨内多少の反對は之を犧牲として、勞資協調の大勢に歩一歩と進み來りたるは活眼の程推服せねばならぬ。

勞働と資本、雇主と被傭者の將來に於ける接觸は、來るべき數十年の間にその最大の進歩と最も適切なる表現とを「協同者の時代」The era of the partners として見出すであらうとは昨年十一月、トロントで開かれた米國勞働聯合總會の席上で述べたカナダ國有鐵道總裁ソートンの所説である。米國勞働聯合が久しきに亘つて勞資協調を力説し來り其唯一の方法として兩者の公正對等の立場を採り、以て産業の繁榮を計るべきことの結論を捉へてゐたこと周知の事實であつた。産業榮えざれば勞働者の生活標準が昂まらざることを誰よりも深く痛感してゐたのも彼等であつた。かくて世界の新傾向は産業破壞に因る勞働者の慘苦を教へた。革命ロシアの現實的正體を明識し英國の總ストライキの成績にも想倒して協同者時代の創作に進みつつある。階級鬪爭のイデオロギーなどは取殘された敗北者の泣言で我深刻化し行く社會相を觀ては一倍と協同者の合力を以て難局に當るの外に良途のないことが識らるることであらう。分裂と相剋で彩らるる我國情を以て世界の大勢に後れて來たこと偶然でない。勞働法案でゴツタ返してゐる我政界と其周圍は恥づべきである。

教育界に騒音滿つ

盟休頻發を何と觀るか

——昭和五年七月十日第百十六號掲載——

一

極度の社會不安が教育界に波及したものか没義道の學生盟休事件が頻々として傳へられて來たことは注目すべき現象である。殊に其傾向が各地の高等學校に多く現れた昨年十一月以來に就て見るも松江、福岡、姫路、岡山、靜岡と次々に感染し來り、近く記憶に上る丈けにても松山、浦和、富山にも起り、現に京都三高に於ては可也惡性の盟休沙汰が展開されてゐる始末である。其他東京にては日大の騒擾事件と殆ど軌を一にして法大及早大の小爭あり更に飛火して大谷、關大に至るあり、其他全國各地の中等學校、實業學校及專門學校のそれをも擧げ來らば恐らくは其煩に堪へぬ程であらう。しかも盟休事件の動因に至りては勿論多種多様ではあるが今日迄分明せるものに就いて稽ふるに遺憾乍ら殆ど學生側に非違あることを認めねばならぬ。殊に少數ではあるが主魁者ありて赤化の手先となり指令を受けて「戰術」を以て盟休に入らしむる手段に出づるに於て眞の動因は二の次である。卽ち學校對學生間の話合にて解決出來るものを強て爭議化しようとした所に識者の同情が得られぬ理由があつた。

二

學校教育は社會教育、家庭教育を併進さるべきもので學生の迷惑に就て學校當事者が獨り其責に任ずべしとすることの理なきは明かであらう。殊に現代社會の缺陷が白日の下に暴露せられ、上層階級に座する者に對する不信嵩まりて理非顚倒が常識化して來たかの感ある實相を觀て晏如たり得ざること當然であらう。況んや家長の權威は地に墮ちて家庭の統制も漸く紊れ勝ちとなつた今日、氣銳の學徒が不滿の暴發を學校に求むるに至りしこと一應の同情は持てる譯である。さり乍ら時事日に非なること觀るが如き今日の場合に於てこそ特に學徒の自重は欲しきものなれ、彼等が其研究心を棄て、卑怯なる雷同性に走ることを學界の爲め長嘆せざるを得ない。而して一方學校當路者が其托されたる學生の自由處分さへ出來ぬとあつては情けなきこと言語同斷である。自由に學生の進退を決すべき權限をその實力なき程の學校は竟に學問の切賣り場に過ぎぬ。學校に切捨て御免の特典を與ふるの故を以て之が非を責むるとあらば、爾く不信用の學校を閉鎖するこそまた一興でもあらう。

三

一學生が女琵琶師と關係して處分せられたるに憤慨して同情盟休した高等學校あり。五分刈り袈裟掛けを嫌つて反抗盟休に入つた佛教學校がある。婉として勞働運動のストライキを眞似たものであり、赤色チロリズムの强行法に成功したものでないか。かくて學界は運動屋の騒音と暴行に冒され荒されて行くばかりである。節度なく而して羞恥なきこと斯の如く次代の國家は學校亂立の亡靈に惱まさるるなくんば幸ひであらう。

惟ふに現代日本の一憂患は知的虚榮の流行である。ロシア製、アメリカ製、ドイツ製、イギリス製の田舍向き輸出思想品が割引なしの高價で思ひ切り

多く買入れらるる始末でレッテル其ままの姿を大衆に誇示する氣持はまた格別の氣持らしくも思はるるのである。此點は正に國産愛用運動を逆に行つてゐる有様で皮肉なる本末顚倒事であらう。かくて流行を逐ふ疲れ切つた痴走つた而して虚榮好きな讀書群が現るるに至つたものである。而して其溜り場が主として上級校でありやがて日本の結束を紊すべき外力との握手さへ出來たのである。盟休事件に動く國家姿相の反映を凝視て對策を誤つてはならぬ。

經濟の領域を越ゆ

時難の重大化を視よ擧國的解決の外なし

——昭和五年七月二十日第百十七號掲載——

一

昨今の不景氣問題が經濟問題の領域を越えて重大なる社會問題にまで深入して來たことは略世論の認むる所である。而して茲に所謂社會問題の何たるかに就ては詳說を避けたきも國運の進向に容易ならぬ憂慮を與へてゐること丈けは明言し得る所であらう。さて不景氣打開の對策如何となれば妙計もなさうで現に濱口首相は各方面に就て之が意見を徵してゐるやうであるが、其語る所に依るも財界に於て

は毫も傾聽に値するものなしとの事である。かくて若し財界の玄人筋に於てさへ對策なしとの言が眞であるならば國家生活の破綻とも云はれ得べく國家の興亡起伏の前に擧國的大努力を試むるの外なしとの結論に來るものであらう。

二

不景氣打開は産業振興に因つて期すべく、之が爲めに産業合理化を計るべしとの流行語がある。而して國産奬勵なども之が派生的運動ではあらうが産業合理化がどの程度まで期待さるべきかは日本の現勢に於ては大いに疑問視されてゐる。若し産業合理化とは何ぞやとの反問を起して一九二七年の國際經濟會議の定めた左記定義に想到すれば思ひ半に過ぎるものがあらう。卽ち産業合理化とは

勞力、原料の浪費を最少化する爲めに考案せられる技術及作業の方法である。産業合理化は勞働の科學的組織、原料及生産品の標準化、作業過程の單純化、及運搬並に市場搬出制度の改良である。かくて合理化に因つて現れて來る大量生産の捌口、過剩勞力の行衞等に就ては兎に角としても之に因つて産業行程の相異る日本が急角的追縱に出づるとならば對策に就ては自ら分明するものがあらう。合理化は先づ前提として國家の明智と强力とを必要とし國民の統制的精神が働かねばならぬ。假令ば政府は卽今の經濟苦に鑑みては其監督權を行使して電力、瓦斯の低減を期すべく其經營せる鐵道運賃は勿論のこと公課に就ても出來得る丈けの輕減を計るべきである。若しそれ某々一流會社が利益金の九五%を配當及重役賞與に分配し去つて會社を瀕死の窮地に陷らしむるが如きに對し傍觀するの理、何處にあらうか。國權の無智無力と個人の私慾を其まゝに任せて産業界の利權を拂ふに至つては危險此上なきことである。

三

伊太利はムツソリニの獨裁政府を以て同職組合中央評議會を通じキビキビした産業政策を實行し竟に英國の勢力下にある埃及に於てさへ英獨を一蹴して車輛機關車の落札に成功し以て工業界の躍進を示して全世界を驚倒せしむるまでに至つた。更に獨逸に於ける石炭シンジケート、英國に於けるランカシア綿業會社の出現の如き各國民が列強との産業競爭に打克(かた)んとして經營努力至らざるなく政府者も亦自國産業界の調帶を束ねて外力に當らしめんとして助成大いに努めつつあることなど寔に羨むべき光景である。所謂國防問題に就て寸毫も讓らざるところ、裡に合理化運動の成果を凝視めて居ること疑ひなき所である。

産業合理化は統制的精神の表現である。利害相反するものと思はるる勞資の間に於ても更に自己内心の相剋に於ても團體人としての最高の指標たる國家に歸一還元するに非ざれば所期の目的が達し得られざること明である。一合理化運動に於て已に然り、國民生活の甦生を期せんとならば更に偉大なる擧國的意思表示の必要あること論を俟たぬ。

經濟苦でどうなるか

一 先驅者の叫を聞く

——昭和五年八月十日第百十八號掲載——

一

英國が明日考ふべき所をランカシアでは今日考へてゐるとは遖に英國人お國氣質の生粋を道破した箴言である。筆者は本月六日の時事新報に掲げられた次の寄書を味讀して日本精神の復興に胸迫つて斷腸の思ひがあつた。其全文を再錄して見よう。

納稅組合の解散

◇私は上毛の一寒村に住む農民です。私の村は二十年來國縣稅村稅とも期日内完納を續け、村役場では、稅務監督局から表彰の額も貰つて居る。私は附近の者十數名と共に、納稅組合を組織して、八年間程、其組合長を勤めて居る。

◇七月は國縣村の各稅を合して一ケ年の五分の一程の納稅額がある、是れ迄春蠶の剩餘金で、事足りた年が多く、茲一二年は夏作物を賣つて充當した場合もあつた。然るに本年は殘らず賣り盡し、まだ電燈料や新聞代までは廻らぬ、農民の癖に電燈や新聞は贅澤だと云はれるかは知らぬが兎に角養鷄三十羽の内十羽を賣却して金五圓を得、自分だけの難關を突破する路は漸く開いた。

◇まだ、組合員からの納附委囑がない、戸々に訪問して督促を行つた。從來最上成績の家であつたのに――「誠に申譯がありませんが、少し許り貴方からお立替を願へますまいか。多年の歷史を汚すのも厭ですから」其翌日會議を開いた、何れも悄れて居る。此の先の見込は如何？　稻作丈けは上々と思ふのに昨今の降續きが氣に懸る、若しも米が不作の時は？　秋蠶は？　晩秋蠶は？　一同の中には眼の奥に涙の見える者さへある。

◇しかし不穩の陳情や行動は愼まう、否不穩でなくても其旅費さへもないではないか、又その餘暇さへ無いではないか、一座無言、私の發議で居ながらにして遙に、仁德天皇の御陵の方を拜し奉り、遂に納稅組合を解散した。解散後納稅成績が何うなるかなどと今は考へる餘裕もない。（青草人）

言や簡、さりながら一々血涙の結晶である。裡に差迫る昭和維新の動向を明示して鏘々たる響を傳へてゐることをも看取すべきであらう。擧國精神の具現こそ實に日本の今日の活問題に外ならぬ。

二

近時の息詰る經濟苦が我醇風美俗を惜みもなく蹂躙し去つて悔いざるの實情にあることに對しては本誌が毎號に亘つて指摘してゐる通りである。現時の經濟問題が其領域を越えて國家生存の根本的急所に觸れて來たことは見逃せぬ傾向であるが、之に因つて政治問題としても重大期に當面したことになつた。惟ふに現時の政治機構が如何に弛緩してゐるかを證すべき一例としては近頃傳へらるる某無産黨の政綱に掲げようとした樞密院廢止及帷幄上奏權撤廢に就き内務省の内諾を得たといふ噂を擧ぐれば充分であらう。無産黨の宣傳が何であらうと介意する必要もないが之が官許とあらば默視も出來ぬ譯である。卽ち問題は正に憲法改正に觸るるもの、之が是非に就ては誰か發言の座にあるかを惟はねばならぬ。かくて事理の顚倒が竟に現代政治を狂化せしめ

且つその不信を深からしめて國民生活をも破らしむるに至りしこと當然である。青草人氏の所說は單に結果された經濟苦を語つてゐるのではない。經濟苦と俱に否それ以上に日本自身の行衛に就ての巡禮を志してゐる點に於て深刻の示唆を與へたものである。

支那共産軍の形勢

其將來と我對策奈何

——昭和五年八月二十日第百十九號掲載——

一

七月二十八日長沙を攻略して頓に内外の注目を惹いて來た支那共産軍の活動は爾來一張一弛の姿にあつたが最近の情勢に依れば一先づ閉塞の破目となつたやうである。惟ふに支那政府は「以黨治國」の國民黨の專制に依つて成立つてゐる。さり乍ら國民黨中また自ら三派の交流あり、左、右、中央と相分れて明暗裡に深刻の鬪爭を重ねつつあること周知の事實であつた。卽ち保守派の西山會議派と之に對比せらるるロシア提携派たる改組派あり、民國十三年孫文が國民黨を改組して容共、聯俄の、一大主張を掲げて甦生支那の首途を目論見たる其ままの精神を享けたものと極め込む自稱正統派のことで、第三は蔣介

石を統領とする現實派である。しかも改組派と銘打つ左派共産派の指導者汪精衛の近情と其轉身振りを看よ。其他一味の顧孟餘、陳公博、王法勤等々の進退は奈何、遖に變通自在の老大國の屈托なき駈引を見せて寧ろ痛快の沙汰ではないか。

二

共産軍蜂起の原因に就ては南北兩軍決戰の間隙に乘じたるものと見るべきものが眞相であらう。卽ち遠因は胡漢民の語る如く編遣會議に對する所謂軍閥側の不平にあるべく閻錫山、馮玉祥が北伐の功を蔣介石に奪はるるに憤慨し居りたる際に廣西派の蹶起あり漸く鋭鋒を現はし來りたること自然の成行でもあつた。蔣介石が手盛りにて獨り天下の勝地に居り漸くにして隆々たる勢望を收めて專斷太しきを加へ來るに及むで茲に反蔣聯盟の出現となつたものであるが所謂國民黨中の左右兩派が不平の持寄りで閻、馮の實力派と合流して個人獨裁、一黨專制に反抗するところ、前記の如き急角的轉身に出でた所以である。しかも汪精衛一味の正體暴露が共産軍の蜂起に何等の影響なかりしこと勿論で、勢力の核心は既にロシアのコミンテルン直接の手中に收められて居りたることを明識せねばならぬ。

三

傳へらるる所に依れば本年五月三十一日上海に於て開かれた支那ソヴエート大會は支那全土を赤化せしむる豫ての計畫の下に有ゆる周到の祕策を廻らしたとの事である。而して其手段たるや支那民族の弱點に取入れテロリズムを以て土地沒收、八時間勞働、男女平等權、富豪殺戮等を行はんとするもので現に先般來各地に演ぜられた慘劇は其好例と看られてゐる。かくて共産軍は今遽には正規軍に敵し難きも潛行的に支那に於て多く顧みられざる社會各層に喰入つて一流の戰術を以て次第に勢力を張りつつあり、他面赤衛軍の充實また侮り難き實情にあることをも

深察せねばならぬ。因つて下層民に闘争の激化を教へ茲に勞農政權の樹立を企て以て所謂世界革命の過程としての支那赤化を期せんとするのがモスコー政府の本願である。而して其本願が幾許の實現性あるかは疑問であるが支那に於ける列國の對策が北京關稅會議以來權威なく搗て加へて所謂資本主義の勝手な鞘當が行はるる以上此種の擾亂は頻發して相當に激越とならうことは想像に難くない。しかも支那共産軍の跳梁に依り最も直接の迷惑を來してゐるのは日本である。殊に近來の我對支策は總じて徹底を缺き國威凌辱せらるるも雪ぐ能はず。同胞の傷つけらるるも償ふことを得ず。國運の傾きしを覺えしむる程の悲嘆事が踵來してゐるとは何たる始末であらう。共産軍の活躍は日本の對支策に確に一難を加へて來たが這裡に動く支那舞臺の變轉に主役を演じきれぬ日本であるか。時に支那形勢の推移に留意して日本の意氣を吐き活路をも發見しては奈何。

政治の純眞性

維新の急潮は漲る

——昭和五年九月十日第百二十號掲載——

一

現時の深憂と禍因は政治の純眞性に就いての疑惑に在る。卽ち國民が政治を信じ得ざる惱みを有つことで、これ軈て團體生活の分裂と個體生活の破綻にも至るべき致命症に外ならざること明かであらう。惟

ふに所謂議會政治の本領は政治圈内に於ける事實の認識を誤らざることに出發し國民生活の一喜一憂に就て正確なる計量が表示せらるべき所に其特色が期待されてゐる。かくて政治の現實性が來り次で諸種の政治的改善策も講ぜらるるに至ること疑ひなき所である。しかるに今や内外に漲る政治不信の大勢を觀るに容易ならざる性狀を含み社會各層を稍深く掘下げて見んか實相の更に深刻化してゐることに驚かさるるものがあらう。卽ち現代政治の虚偽が現代政治の自殺にまで追詰めて來たもので國民は形式政治の殘骸を前にして漸く甦生の新路を辿らんとする氣配にあることをも明識すべきである。

二

現代政治が形式政治であることは事實である。所謂議會政治とはこの謂であるが事の實際に就て觀るに所期の形式政治は夙に蹂躙せられて形式無視の政治が行はれてゐた。卽ち形式政治の根本をなす選擧制度が一片のカラクリに過ぎぬこと天下周知の事實で、このカラクリが政治の全面を支配して茲に一種奇怪なる適者生存の原理が押し通さるることになつた。勞農ロシアに於ては宗教を阿片に譬えて之を禁止しようとした。この一事以て彼等の所謂政治の没義と虚勢とを語つてゐるものであるが、今や選擧に興味を感じた近代人は阿片に取附かれた夢遊病者でもあるかのやうである。近代人は獨裁政治にせよ、兎に角時々は選擧の注射を受けねば氣が濟まぬ程の有樣である。しかも惡血で穢れた双手を擴げて「神聖の祭壇」に額づき清き一票を投じようとするのであるから現代政治の因果に對し默首かるること當然である。既に形式政治の初歩に於て形式政治の虐殺が行はれて居るので今日の政黨政治家が切りに所謂大向に對して見榮を切る心事の程も略察知し得る所であらう。

三

さて現代政治は見るが如き現實にあること前述の通りであるが之が匡救に對しては政界の迷信打破に出づることが先決問題である。卽ち政治意識の自由なる交流を期して自らの見識に頼む所を表現すべきであらう。我英國の政治は有る、我ロシアの政治も夢みられて居る。さり乍ら我日本の政治は時代の外に忘れられて居るではないか。之を先づ我等の胸中に收めしむるの急務がそれだ。今や萬人を欺き而して自らを欺いて來た政治の終焉期である。風袋と巧辭と宣傳と而して胴喝で時めいた政治家も逐はることであらう。精神滿腹で裸一貫の政治家が身を以て現代政治の鐵扉を押開く時代でないか、明治維新を去る六十餘年、政治の純眞を志す者に取りては國政の大轉向に出づるに相應はしい急潮は廻り來つたのである。國民生活の危機を凝視めて倶に深察し、而して一大奮發を期せねばならぬ。

獨逸フアシスト意氣揚る

五年後の世界大戰とは何か

——昭和五年九月二十日第百二十一號掲載——

一

去る十四日擧行された獨逸の總選擧は、内外の期待を打ち破つてアドルフ・ヒトラーを首領とする國粹社會黨（外字新聞の所謂獨逸フアシスト）の斷然たる擡頭振りを示して、獨逸政界を震駭せしめたのみでなく、獨逸魂の再現を豫告したものとして世界の囂々たる論議を捲き起してゐるが、兎に角近來での一大快報である。先づ總選擧の結果に就て多數黨三派の消長を見れば次の通りである。

黨名	新	舊	増減
社會民主黨	一四三	一五三	減一〇
國粹社會黨	一〇七	一二	増九五
共産黨	七六	五四	増二二

卽ち國粹黨は一九二八年の總選擧を去る二年にして約十倍の勢力を議會に送つた譯で其進出振りの餘りにも鮮かなりし事實に對し默殺し得ぬ「力」を究むべきでないか。

二

選擧戰の詳報が未だ傳はらぬ今日に於て、其實相

を仔細に傳ふる由もないが國粋黨の水際立つて注目された對選擧スローガンは、有ゆるユル禪的共和臭を葬り去つて獨裁政治を高調した點にありしことは事實である。Down with every republican 卽ち所謂現代の議會政治に愛憎を盡かしてその虛僞と臆病に對し眞向から刃向ふ意氣を示したものであつた。かくて全國の所謂流行新聞を始めとして殆ど全言論界の一齊射擊を浴び乍ら更に屈せず、黨員各自の必死的活動に依つて選擧民の胸奥に喰込むで行つた。而して其主張も前記の獨裁政治を始めとして獨逸の民族的自主獨立を叫び、大地主の横暴に對する反抗を力說しヴヰルサイユ條約破棄を絶叫するなど國内の勤勞及勞働階級に鬱血してゐた不滿を切開いた點は眞に驚くべき明敏さを示したものである。かくて所謂隱着黨灰色主義の社會民主黨に落日の夕陽が射して共産黨との鮮明なる對陣が出現した譯であるが、政界に於ける此傾向は我國に於ても決して輕視することの出來ぬ勢ひであらうと思ふ。勿論共産黨は階級的利益をのみ主張し國家の現實性に盲目となる結果國民として我慢の出來ぬ破局を招來せしむること必定なので、これと絶對反對の立場にあること獨逸國粋黨の言分を俟つまでもないが今度の總選擧に於て獨逸共産黨が二十二名も增加してゐることは獨逸の財政難につけ入つた同黨の巧妙な戰術と国粋黨の選擧スローガンと近似してゐた爲めの奏功であらう。

三

さて國際政局の一角より放送せらるる所に依れば一九三五年(精密に云はば一九三五—一九四〇年)には次の世界大戰がいよいよ切つて落さるるとの事である。而して其理由中に擧げらるる一事は此年に獨逸實力の回復期が豫告されてゐることでいとも興味ある問題でないか。卽ち此時期にフインランド占領に對する最後的撤退が行はるるに至り四隣に向けらるる獨逸の鬱勃たる進出力が具體化するものと見らるる結果である。殊に近く佛伊關係の氣拙きこと次

第に深刻化し行く情勢にあるので、傳へらるる如く伊太利の小國懐柔策が成功し轉じて獨墺と手を連ねて不自由なる地中海を突破せんとする大望をも閃めかすに至らば事態は何とも斷言し得ないものとならう。殊に最近ロシア赤化本部より發せられた指令には、明かに一九三五年を期し我國に對して不逞行動に出づべき旨の嚴達ありとの事で此時期を狙つてそれぞれの準備萬端に狂奔しつつあること我當路者に於ても入手した筈の情報である。加之アメリカ海軍の均勢的大艦隊も勇姿を浮ぶべき時期ともならうと云ふもので五年後の世界は豫言者ならぬ身でも可なりの戒心が拂はるべきものとならう。獨逸に於ける國粹黨の出現は獨逸魂の眞劍的雄叫びで今後の活躍は刮目して見るべきものである。

ニュース價値の下落

脈搏の響異るなきか

——昭和五年十月十日第百二十二號掲載——

一

現代は或る意味に於てニュース渉獵時代とも云はるべきものであらう。人々はニュースを探ねながら奔走に一生を送つてゐる。人の噂、世の流轉、流行の推移、享樂の誘惑と苟くも耳朶を打つて新奇の感

覺を呼びおこす程のものは爭つて之に群がらんとするは現代色の一特質でもあらう。昔ボーロは希臘を訪ねて其市民が「知らざる神」に跪拜するの狀を見て嗟嘆久しうしたことがあつたが現代人の心理に映ずるニユース癖はこの種の混亂にまで這入つた迷信である。傳統破壞と新奇癖とに離れ切つた現代人の心は新刺戟の目まぐるしき走馬燈に躍つてゐる。そしていよいよこの回轉の速度を加へやうとして燥いてゐる有樣である。何たる狂騷、何たる悲慘であらう。一時的現象にせよジヤズの跋扈となり、グロテスクの亂舞となりナンセンスの喝采となつて時潮を昂ぜしめてゐることは其何よりの實證である。しかもこれは結局現代人がニユースの煙幕に咽むで吐いた嘘であることが明かになつたがこの時代病が意外に勢威を逞うしてゐるのには驚くの外はない。

二

曾て或人は十戒に背けるものは皆ニユースである。殊に第五、第六に背けるものは最もよきニユースであると揶揄したことがあつた。モーゼがシナイ山で神から授けられた十戒は大體に於いて人性の自然を示した教訓である。さり乍らこの平凡な訓話ではニユースにならぬ、汝人を殺す勿れ、姦淫を行ふこと勿れと云ふ第五、第六戒に背いた場合に於て始めてニユース價値が生じて來るといふのである。新聞王ハーストも亦ニユースを定義して人をインテレストするものは皆ニユースであると喝破したことがある。蓋し現代ジアーナリズムの機微を穿つた妙語で彼は前者の如き露骨なる表現は避けたものの裡に消息の相通ずるものあることを看取すべきであらう。さて現代に於てニユース價値を多分に發散してゐるものは勿論新聞である。しかも現代人程新聞に對し自己催眠に陷つたものはない。所謂現代文明の

誇りとその獨立性も殆ど新聞の支配下に移つたやうで其原因は寧ろ自分から新聞に對する身賣りに始まると云つてよい。學界に於ける齒の浮くやうな迎合振り、政界に於けるペテン百出の駈引振り、マンモニズムの跳梁、テロリズムの惡計など歸するところ新聞種となることは明かであるが、さて其明暗とりどりに因つて利害が反することになるので、茲に所謂新聞對策が現るるに至つたのである。その對策が外に向つては人々に流行を強ふるものであることは多言を俟たぬ。

二

惟ふに新聞の主たる使命が新事實の報道にあることは明かである。而して既に事實である以上誇張し、曲折し、昂奮してこの軌道外に脫線するが如きなどあるべかざること亦素より明かであらう。しかるに新聞側に於てその本來の使命を自ら拋つて所謂黃色調を帶び來るもの多く世人は世人で黃色調の騷音に合奏するといふ始末である。かくてニユース價値の下落が現代生活に如何なる運命を齎すべきやは當面の深刻なる問題となつた。今や農村及漁村は近年稀有の大收穫を前にして意外にも殆ど未曾有の生活苦に惱まされてゐる。蓋し背理此上なき現象でないか。而して都會の勞働者にありても失業の不安と洗ふが如き赤貧とに追立てられて一瞬一刻の安住さへ得られぬ有樣である。しかも社會苦のこの大難に乘じて不逞事を策してゐる兇徒の勢力は決して輕視が出來ぬ。この間享樂を趁ふて右往左往するモダン分子の如何に多きかをも想到せよ。若し新聞が其存在理由に意義づける何物かがありとせば今こそ現代世相に就ての忠實なる描寫と超黨的「特ダネ」の提共に刻銘の努力を拂ふべきでないか。新聞のニユースが問題の重點に觸るる程のものであるならば市井の些小の出來事に就ても脈搏の響は異る筈である。

支那時局の小康

米國々策の動を觀よ

——昭和五年十月二十日第百二十三號掲載——

一

昨年來採みに採み抜いた支那南北戰も張學良の洞ケ峠を下つたのを切つかけに一先づ終熄して時局は小康を得た貌となつた。所謂反蔣戰爭が所期の目的を達し得ずして脆くも敗れ去つたのは閻錫山、馮玉祥、汪兆銘等の北方側が最初から結合が充分でなく、用意も周到でなかつた爲めであらう。惟ふに支那近時の形勢は蔣介石一派と之に對峙する一派と而して東三省の張學良との三分に依つて推移しつつあつて其一も徹底的に片附け得ざる所に微妙なる交渉の絶へもなかつた譯があつた。而して今次の南北戰は天下三分の計どころか、全支統一の野望の下に乾坤の勝負にもならうとしたもので支那一流の低回味には一寸珍しき現象を呈したものである。しかも張學良の意圖は南北兩軍の決戰に依る變化を避け乍ら自己の勢力を張つて行かうとするもので、此點から判斷してその關内出兵が彼の運命に幸福を齎すべきやは多大の疑問があつた。若武者學良が湯玉麟、張作相等の元老を排して時局に深入した所に將に動かんとする新低氣壓をも看取すべきである。

二

馮玉祥が鄭州を捨てたのを觀て南軍の決定的運命を信ずるが如きは勿論早計である。石家莊に於ける閻、馮、汪の三巨頭會議に因り下野通電の發表（本月五日附）となつた次第は周知の事實であるが汪は兎に角、閻、馮の二勢力に就て檢討するも閻が殆ど再起を危まるる程の痛手を負ひたるに反し、老猾の馮はこれと云ふ損害もなく焦作鎭を中心とする黄河北方と而して洛陽から移つて西方に屯してゐる直系軍とに依つて尚天下三分の一に座する雄者たるの實力を落して居らぬ。殊に馮の何よりの强味は南方側に喰入つて居る寝返り軍の伏勢にあることであらう。かくて時局は小康的安定を得たものの何時再び崩るるやも測り難く依然として危地に立つてゐる始末である。

三

さて支那政情の不安は我國に取つても遺憾に堪へぬ所であるがこの形勢の裡にもロシアの武力侵略とアメリカのドル進出の異常なる速度を見失つてはならぬ。否外力の此刺戟こそ支那時局をしていよいよ紛糾せしむるの主因であるとも云はれよう。現に支那政客は劍をロシアに求め、コーランをアメリカのドルに借りて天晴のモダン・マホメツト振を示して權勢に有りついて來たもの尠くない。馮、蔣の如き比々然りである。かくて報いは覿面、今や閃々たる劍影は先ず滿蒙に映じて容易ならぬ情勢となり、執拗なるドル網は全支に張られて身動きのならぬ運命が豫告されて來た。蓋し支那の政爭が終熄すべくして終熄せざる所以、而して支那政客の誘惑を唆る惡所でもある所以、またやがて乘ぜらるる奥の手となつてゐることも明かである。而してロシアの武力活動は兎に角としてアメリカの對支經濟活動に就て

觀るに近年殊に刮目すべきものあり、關稅の前納となつたスタンダード石油會社よりの借款や東三省が手を染めた三金鑛を擔保とした政治借款など好例である。若し夫れラデオ・コーポレンシヨー會社やカーチス飛行機會社の借款に依つて全支の制空權を支配し、フオード自動車のダンピングに依つて自在の地上權を收めて着々として勢ひを擴げつつあるが如き他の追隨を許さぬ概がある。殊に滿蒙に於ける洮南、索倫線、打通線にも假面を被つたドルが動き、問題の葫蘆島築港にもドルの暗影が映ぜるを傳へらるるに至つては我國として座視し難き形勢ではないか。況んやヒツギンソン幣制改革借款五億ドル密約問題の如き裡に米國政界及財界の一流を抜き來つて畫策せしめて居るなど具眼者は夙に遠大なる米國國策の前衞線に觸れた所である。今や我國情は極度の經濟難で人心は萎縮勝ちである。さり乍ら經濟難局の打開は人心の昂調に因つて先驅されねばならぬこと明かで支那の時相と茲に映ずる日本の姿相とを凝視めても深き自省に入るべき啓示がある筈と思ふ。

政治の思想的動き

濱口首相の時務觀を語る

——昭和五年十一月十日第百二十四號掲載——

一

濱口首相は最近一ケ月間に少くとも三回の機會に於てそれぞれの時務所見を公にしてゐる。卽ち一は十月十日、臨時地方長官會議に於て語つた政局觀であり、二は十月二十七日、ロンドン海軍條約の批准書寄託式の當日に試みた國際平和力說のラヂオ放送であり、其三は十月三十日、教育勅語渙發四十年記念式場にて述べた文藝及思想觀である。

首相の政局觀に曰く

また條約(ロンドン海軍條約を指す)調印後に於ても事態の進行に時日を要したるため政情を不安に導き延いて財界の安定を妨げ情勢頗る憂慮すべきものがあつたが、幸に樞密院は本月一日を以て本案を可決し翌二日いよいよ條約の御批准を了せられたので政局はここに全く安定を見、一般の人心また平靜に歸するに至つた。

さても直な政局安定である。首相の憂慮は同情に堪へぬ所であつたが、これでは全く小國日本の告白も同然でないか。ロンドン條約は佛伊之を蹴り、英米之を抱いて俱に殆んど政局と風馬牛關せざりしもので獨り日本が之に惱まされて政界は勿論のこと財

界までも極度の不安に襲はれたとあつては已に國家自體の異常なる脈搏を感ずべきである。首相の情けなき政局觀に敗北主義の暗影を認むるなくば幸である。

二

『政局ここに全く安定を見』たることを確めた濱口首相はやがて勇躍してマイクロホンの前に立つて平和親善の大福音を放送した。首相曰く

ロンドン海軍條約は人類の文明に一新紀元を畫したものであります。現在の世界は列強互に相敵視してややもすれば力に訴へてまでも自國の利益を開拓せんとしたるいはゆる『冒險時代』をすでに經過いたしまして今や各國互に相信頼して共存共榮を計るところの『安全時代』に到達してゐるのであります。

かくて政局の安定、人心の平靜を見た我國の首相は眼を放つて國際政局の安全時代をも看取した貌である。所謂外交的用語としてもフーヴア、マツク兩氏に比し正直過ぎたものであつたが辭令の巧拙は兎に角として國際政局の實際は今日尚『力に訴へてまでも自國の利益を開拓せん』とする『冒險時代』にあることに金輪際間違へはない。現にロンドン海軍會議に於ける英米の日本壓迫は之を雄辯に物語つてゐること周知の通りである。かくて濱口首相の平和演說に對し『政治的解決』を採らねばならぬこと是非なき歸趨でないか。

三

首相の文藝及思想觀は至極簡略であるが問題が問題とて相當の注目を惹いたやうであつた。

現時に於ける世相を見るに不健全なる文藝漸く青年男女の間に浸潤し享樂に耽溺し瀰漫するの傾向あり又世界大戰前後歐洲社會に於て漸く盛となりたる危險矯激なる思想が我國に波及して國民の內之れに感染し、動もすれば現在の經濟

組織の破壊を企て或は我國體觀念に反するが如き思想を抱くもの生ずるに至つたことは誠に憂慮に堪へない所であります。

とは其の一節であるがこの程度の所見では多く異論も起らぬことと思ふ。謂ふ所の不健全の文藝が何であるかに就て、詳說なき以上兎角の批評は差控ふべきであらうが首相の意中は略察知することが出來る。卽ち享樂主義文藝の排擊を狙つたもので、所謂モダン味の三S卽ちセツクス(性)スクリーン(映畫)スポーツ(運動)取扱方に對して不服あること首相の日常生活より推して明白であらう。危險思想に就ても略同一視點に立つて論じ得ようと思ふ。但だ濱口首相の文藝及思想觀は多分に教訓味が織込まれたもので或は憂慮し或は說教し或は叱咤して所見を充滿せしむることの多きことは之が爲めであらう。思想の行動化が常識となつてゐる今日に於て教訓價値の下落は見逃がせぬ現象である。

治安能力

人心矯激の因は奈何

——昭和五年十一月二十日第二十五號掲載——

物平かならざれば鳴る。現今の世態はあまりにも靜平を失つて居る。政治といはず經濟といはず社會

といはず、物事すべてが平衡を失して居る。人心險峭ならざらんとして得ざる所以である。勞働爭議の頻發する、學校騷動の繼起する、市井に酸鼻たる殺傷事件の絶えざる、性的露白と怪奇趣味と狂騷音樂とが流行を支配せんとする。いづれも物平かならずして鳴るの證示ならざるはない。

◇

首相の遭難事件が非常なる不祥事であることは言を俟たない。其の政治の當否は問はず、その成績の如何は知らず、國事多端の秋に處して日夜國務に精勵しつつあつた濱口首相が突如として一青年の要擊に遭ひ、重傷を負ひたることは、誠に氣の毒の至りあるのみならず、内外の時局日々重大なるの秋、總理大臣に此の事あるは、國家としても一の大なる災厄でなければならぬ。また今回の暴擧の直接の動機が那邊に存したるかは未だ不明であるが、その動機の如何を問はず、暴擧は暴擧として決して容さるべきではない。

◇

東京驛頭に於る兇變としては十年前に原敬氏の遭難があつた。濱口首相遭難の報を手にして何人も先づ想起したるものは原敬氏の事變である。然しながら、此の二個の兇變の間には、十年の時日の間隔に比例して、世情人心の上にも非常なる懸隔が存する。國力の頽勢、社會の不安、人心の險峭、到底、原氏遭難當時と比すべくもない。從つて影響の及ぶところの甚大にし深刻なる、決して同日の談にあらざるべく憂慮せらるのである。爲政當路の心して對措を講ずべきは實に此の點であらねばならぬ。言論界の喧騷に刺戟せられて事件の政治的究明に熱頭し、講ずべき警備の手配に精粗を生じ治安能力の半面的麻痺を來すが如きは最も避くべきところである。右翼團體の取締も結構である。然もより恐るべき極左の組織的暴力團體の既に待機の姿勢に在るものに對し

て、果して遺憾なき警備方針が講せられつつありや否や。我等が爲政當路並に一般識者に向つて省察を密にせんことを要望する所以である。

日露戰の跡を辿る

支那の日本抹殺成功に近し

——昭和五年十二月十日第百二十六號掲載——

一

支那時局に映ずる日本の姿相は慘め極まるもので近年の我對支外交は正に日露戰の偉業を或は大袈裟に或は小刻みに破壞し行く連鎖劇に過ぎぬ感がある。日露戰は日淸戰を去る十年、此間日本は所謂臥薪嘗膽の苦難を經て雄邦の基礎を固うしたものであつたが、日露の一戰は實に其見事なる一決算であつた。支那が兩戰役に直面した日本の威風に畏れ戰いたこと素より當然であつたが其後僅々四半世紀にして日支の地位は殆ど顚倒せん許りの急轉振を示したのである。時事日に非なること支那に映じて斯くの如きに至りしを見ては唯怖れ驚くの外はない。

さて順序として世界大戰以來の對支失敗より近く所謂アグレマン問題に一先づ止めを刺さるる迄の大摑みの經過丈けは語りたく思ふが、本文に於ては到

底能はざる所である。また國民的記憶に訴ふるも暗轉裡に葬り去らるる氣分にもなつてゐよう。因つて茲には將來の日支關係を更に釘付けんとする刻下の二問題に就て語る。

一

十月二十四日王正廷より重光代理公使を通じて漢口日本租界の回收を提議して來たが、之に對し一時的にせよ我國論の沸騰を見せたことは近頃意外の收穫であつた。惟ふに漢口の日本租界は日淸戰後の明治三十一年に締結された日本居留地取極書に因つて設けられたものであるが、更に明治四十年の租界擴張協定に因つて總面積五萬坪を占むるに至つたものである。而して其地位は上海を遡ること六百哩、武昌、漢陽と接して京漢及び粵漢兩鐵道の起點に當り長江一帶の重心をなすこと周知の事實であらう。かくて長江各地に散在する邦人の約半數二千五百を收めて我國にも相當の重要地であることをも感得されてゐる。しかるに支那は一九二七年一月三日漢口の英國租界を暴力回收に訴へて成功したるに味を占め同年四月三日同一手段で日本租界に向つて來たことがあつた。當時日本守備兵の擊退に因つて其對日武力回收は不成功に了つたが、其後支那要人の人氣取政策が常に對外硬にある關係上租界回收問題は屢々俎上に乘せられ、竟に本年一月の租界回收委員會の決議となり其刺戟が動因となつて此度の暴擧が試みられたものとも傳へられてゐる。兎に角支那が一般通商條約の改訂問題と切放してこの提議を突き付けて來た肚裡には多分の日本侮蔑が含まれてゐること明かで日本の無抵抗主義に乘じて暴力回收の時機到來に先づ一石を投じたものなること略察知すべきであらう。しかも英租界回收後の實情を見るに名は英支共同管理であるが實は支那專管の行政下に置かれて居り、其三年間に亘る成績は頗る不良亂脈なること衆口の殆ど一致した所である。支那が在住外人の生命財産の保護に任じ得ざるは勿論、徒に苛斂誅求を

事とする一方土木、衛生の諸設備を放擲し居ることは事實の明證する所で當面せる問題の歸着點を看取するにも誤りなき筈である。日本は支那に對して特殊地位に立ち、利害の岐るる所歐米の比でない、しかも問題に就ての對支交涉に此實勢を示したか。

三

滿鐵の並行線問題も同一に觀られ得よう。並行線問題は滿鐵を一商事會社として取扱つて論せば靑筋立てる程のこともない。勿論日本よりの斷然たる苦情なき以上日本より並行線禁止の條約破棄に出でたも同樣で我先人の苦心の結果を自ら蹂躙し去ることを承知の上であることも明かであらう。かくて所謂町人政治に墮した國家の足並が如何に淋しきかを想ふても觀よ。

今や滿鐵を根こそぎ搖がさんとして現はれて來た所謂ドイツ計畫なるものは容易ならぬ魂膽を藏してゐるやうである。卽ち通遼より黑河に至るもの及び吉林より同江に至る豫定線に合流すべき吉綏線は其主要なるものであるが、斯くて北滿の穀物が集散の中心地を齊々哈爾の東北克山拜泉に持ち松花江の下流富錦、同江である關係上通黑線は齊々哈爾地方、吉綏線は松花江下流地方の産出物を浚つて行くこと勿論である。通黑線は全然滿鐵との並行線で、吉綏線も亦前記並行豫定線に合流すべきものたること前述の通りである。加之滿鐵地方の大脅威たる胡蘆島築港の工事は其後ますます進捗して行くので彼是思ひ合せて滿洲の對日形勢は土壇場に追詰められて來た形である。支那が經濟的壓迫を以て日本に迫り來る樂屋裡に某國の謀策あること明かであるが夫れにしても餘りにも慘たらしき我退却振りでないか。

外交は內政の反映である。支那に映ずる日本の姿相を觀て我政治形式に就て新なる惱みを痛感せざるを得ない。

日本の明魂に聽く

昭和五年の回顧を語る

——昭和五年十二月二十日第百二十七號掲載——

一

昭和五年の回顧を語る。筆者は國本新聞の一同人として同志諸氏と共に一年の決算期を前にして國運の動きを追想して見ようと思ふ。

何と云つてもロンドン會議善後問題は俎上第一に載せらるべき記憶である。ロンドン會議は昨年十月七日附英國外相ヘンダーソンから正式に招請狀が發せられ之に對し帝國政府は同月十六日を以て會議開催に同意を與へたものであつた。かくて會議は本年一月二十一日、英國上院内ローヤル・ギヤラリーで擧げられた開會式で始められたが波瀾重疊の幾場面を見せ乍らも四月二十二日に至り「一九三〇年ロンドン海軍條約」となつて調印されたものであつた。而して單に之を形式的に眺むるも(一)會議勸請狀に現はれた不戰精神は全く行方不明となつて露骨な主戰精神が會議を支配し且つ會議を前にして行はるべき非公式會談も亦頗る偏頗極まるものとなつてゐた。(二)會議進行中に五國協定の容易ならぬ形勢を見て取つたマツク首相が二月二十六日英佛伊を歐洲團、日英米を海洋團と分け結局に於て會議の實質的效果を海洋團にのみ與ふるに至りしことは國際會議

の依然たる魔性を晒け出したものである。而して米國全權が日本憲法の正解を試みたり、脱帽して日本全權の讓歩に敬意を表して笑へぬ寸劇を見せたことなどは勿論其後日譚であつた。

二

次に日支交渉に現はれた我國歩の跡を辿つて見よう。支那に氣受けよき佐分利公使が昨年十一月二十九日急死するや其後を享けたのは支那に氣受けよからぬ小幡氏で、爲めに氏は赴任が出來ずに約一年店晒しになつた事件がある。所謂アグレマン(内諾)問題と稱せらるるものはそれであるが小幡氏が支那から排斥されたのは二十一ケ條問題の關係者であるといふことで其一事已に日本としては國交斷絶にも値すべき程の重大案件であつた。しかるに問題の經過を見るに支那は日本の建てた庚申塚を素通りして鼻意氣は果然當るべからざるものあり、本年五月六日正式調印を見た日支關稅協定の如きは我朝野に近來になき異論を捲き起さしめたもので、樞密院の警告に從へば「實に國權の縮小とも見らるるは遺憾に堪へず」との折紙附の屈服振りを示したものであつた。尚六月十三日の長沙事件を始めとして長春、鐵嶺に於ては我軍隊が支那側より射撃を受けし事件抔もありて我國威日に傾くが如き思あらしめた。殊に五月二十六日支那外交部よりの抗議に依り從來日本政府及人民よりの文書には支那共和國とありしを爾今大中華民國とすべきを要求せられて之を容れた事實もある。要求の國名は之を英文の通り相場として見ればナシヨナル・レパブリツク・オブ・チヤイナで支那共和國で一向差支ない筈である。しかも彼からの要求を突附けられて遽々然として改むるに至りては宋讓の仁其ままを生地で行かうとするのであらう。かくて滿鐵並行線問題は愚かの事、やがて遠からざる將來に於て支那の切札「既に喪失した一切の領土の回收及從前支那の藩屬たりし朝鮮の獨立恢復」など眞面目の議題とならざることを誰か保證し

得よう。

三

内治問題に就ては經濟界の深刻なる不況につれていよいよ險惡の世相出現となりしことを指摘せねばならぬ。單に勞働界を眺めた丈けでも本年上半期に於ける怠罷業及工場閉鎖は三百四十七件に達し、參加人員四萬八百三十四人に及び前年の同期に比し百六十件、一萬五千七百二十四人の增加を示し下半期に入りてはますます急テンポの惡化振りを示してゐる。かくて職工側で工場管理の情勢を作る他方に於て資本家側では糊塗的手段のアイドル・システム（無割振制度）等の逃避振りが流行して退一步漸く産業界空前の沈衰を見るに至つた。更に智識階級の失職群は何處に行くか眼に餘る風俗頽廢は何を語るか等々に想到しては一問題を解剖して百問題の相關關係に及ばざるを得ない始末である。而して日本が背負ふ萬千の難問題は本年に於て一つも見事に解決されて居らぬではないか。

さり乍ら悲觀は國家相の一斷面に過ぎぬ。之を束ねて胸奥に收め以て難境に向ふこと正に日本精神の動き所であらう。昭和五年を送るに臨み內に省みて先づ日本の明魂に詣づることを心掛けねばならぬ。

政治形式の修正期

迎春の政界はどう淨化さるるか

——昭和六年一月十日第百二十八號掲載——

一

社頭の雪に朝日匂ふ朗かな新年である。先づ竹の園生の御榮えを壽きまつり、邦家の萬歳に和して前途の計に發足すべきことは勿論であらう。

さて本年に豫想さるる國運の展開は奈何。我政界の某老巨頭は其新年感の冒頭に於て「今年ほど不愉快の正月に出逢つた事はない」と斷じて國情の容易ならざる實相を語つてゐる。さり乍ら不愉快は本年の正月に這入つて遽に痛感されたものでなく積年の政弊が本年に至つて別して目立つて來たまでのことである。謂ふところの「不愉快」が結局に於て政治の行詰りを指すこと氏の明言の通りであるが差迫る其打開策を議院政治の發達に求めてゐるなど世上に疎さ加減を曝露して大いに物足らぬ筋があつた。

二

惟ふに現代政治の行詰りといふことは現代の形式政治の行詰りといふことである。所謂議院政治の大本山たる英國に於てさへ其政治形式が十九世紀の遺物視せらるるの傾向にあつてその國勢の加速度的頽落振りを觀て其主因議會政治にありとなし竟に政界

の有力者中より議會政治中止を絶叫するものが續出するに至りしこと本誌が屢明記した通りである。云ふまでもなく英國政界の一つの癌は失業問題であるが其中の失業保險のみに就て見るも政府の掛金年額四億圓に及び尚實際の失業手當が到底この掛金のみでは足らぬので此外に莫大の國庫負擔が加つて居り已に一九二九年より三〇年までに其額六億圓にも達した始末である。しかも國庫負擔の此傾向はますます重くなる一方に於て所謂失業手當で徒食安逸に耽る大群が日毎に增加して來るの大勢にあるが投票欲しさの議會政治家が此大群の御氣嫌を損してまでも國家的危機を救ふなど出來ぬこと想像に難くない。失業保險の一例に見るも議會政治の行詰りは當然到るべき運命なのである。かくて英國政界の純情者達が相寄つて國難打開の火急策として先づ獨裁政治の實現を期すべしと絶叫するといふに世界の他端に於ては之より議員政治の札所廻りに一倍と精を出して勞働法案、選擧權大擴張、婦人參政權等々と浪費政治の追隨に初水取つて發願しようとする向もある始末でさりとは時潮の皮肉なる飛沫を見せたものである。

三

今や世界の失業者は千五百萬人に達するものと見られ其對策に腐心努力する各國家の凄じき姿相は驚嘆すべきものがある。かくて所謂第二産業革命と稱せらるる産業合理化のこの犧牲者を救はんとして素裸にて國際競爭のスタートに現はれて來た國家に何の政治形式があらう。形式は精神の自由なる表現に止まるべきこと論を俟たぬ。各國家が政治の大轉機に動き出した所以看取すべきでないか。さり乍ら政治が其現實性を失つて苦悶する他の好例は勞農ロシアにも觀ることが出來よう。勞農ロシアが看板と大詐りの赤色軍國主義を振翳して百九萬の精銳なる常備軍と徹底せる國民皆兵制度と而して苛辣なるゲ・ペ・ウとを擁して驚くべき專制政治を布くこと周知

の事實である。しかも斯くせざれば百八十七の異民族と三十七の諸共和國を統一し能はぬこと勿論であるが更にスラブ一流の飽くことなき侵略慾をも充たしめ得ざるためでもある。因つて共産主義のカムフラジユは天下取りまでのこと、今や勞農政治の狂暴なる獨裁振りは共産黨政治部首腦の化石的政策となつて封建制度への大逆轉を辿つてゐる有樣である。血行惡きロシア人にもクレムリンの謎はそろそろ解けて來た。かくて英米の議會政治に媚びて寫らず、伊露の獨裁政治にも乘る能はずである。本年に於て日本政界の獨自の甦新を期せんこと勅題の晴れやかな瑞祥に感得して努むべきである。

乾燥文學の打診

傾向的病相を語る

——昭和六年一月二十日第百二十九號掲載——

一

世相の乾燥化は特に目立つて來た傾向的現象であらう。或は稍文學的に之を表現すれば人心の金屬化とでも云はるべきものである。何となくうるほいがなく而して磨き切つた薄い鋼鐵の感じと響きとを有つものが正に其特質であるまいか。かくて信仰とか、情操とか、感激とか云つた人間的脈搏の次第に薄ら

ぎゆく有様を觀ては誰か淋しさを覺えぬものがあらう。かの近代産業の異常なる發達に依つて都市の驚くべき膨脹となり其觸手が縱橫に延びて幾多の社會問題を醸したことは爭はれぬ事實であるが、大都市の雜閙はさる事乍ら街路は人生の沙漠となつて、行きかふ人々も互に何の親しみも持たぬ有様である。而して茲に强食弱肉の修羅場があり、狡策があり、不平があり、鬪爭があり、絶望がある。かくて人間生活を彩る美はしき情感も今は怪しくも亂れて劫火と燃え上ること痛恨の極みである。

二

所謂マルクス主義文學は昨年に於て尚日本文壇の一勢力であつたことに間違ひはない。而して本年に於てまた相當の發展性を有つであらうことは批評家の略一致したる新年豫想でもあつた。惟ふにマルクス主義文學は所謂イデオロギー文學であり政治主義への全面的突貫を意圖するものであること周知の通りであらう。昨年に於ける日本文壇の他の一勢力たりし所謂新興藝術派が之を嗤つて政治主義への隷屬に墮するものとして其藝術性無視に就て手痛き攻擊を加へたこと尚記憶に新なる所である。斯してイデオロギー文學と云ふが如きものの正體に就ても文學の本質的考察より推して異論あるべきこと疑ひを容れぬ。しかもそれは兎に角、其發生原因が所謂モダニズム諸相と共に現代の乾燥性にあること明かである。没落過程の資本主義の陣營に對し一拍車を加ふるものとの一味の言を其ままに受入るるとして裡に理智の深さと情感の自然さを缺いてゐることは事實である。識者はマルクス主義文學が近頃持て囃さるる低級のアメリカ物を同床から咲き出た乾燥畑の一變質であることに多くの異論も挾まぬことであらう。

三

曾てカーライルは自國にシエクスピアを出したる

を誇つて之がため全印度を失ふも悔いざるの意氣を示した。しかも今時カーライルを引合に出すなど已に時代錯誤として一蹴さるるかも知れない。さり乍ら人間生活の經濟的關心にのみ没頭して他意なきが如き人生の沙漠化に急ぐことに外ならぬものである。一途に古典文學を蔑視して其偉大さに觸るることを知らざる顳面は觀るが如き淺薄皮想の作物流行となつたではないか。裡に殆ど人間生活の深刻なる啓示を感じ得ざること明かである。現代文學の大勢が所謂思ひつき文學であり、追隨文學たる所以であらう。かくて文學の生命感たる人生の創造的境地を味はひ得ざるに至りたること當然の結果である。近く傳ふる所に依れば英國駐在の新カナダ代表は英京着任に先だち其使命を揚言して英國民に英國精神を鼓吹せんが爲めであるとの意を明示した。卽ち彼は卽今の緊急問題たる英加間の小麥其他の經濟關係をどう處理するかとの問題に先立つて一閃直に急所を衝いたものであるが、英帝國内に動く一脈の精神力を偲ばしめて遺に雄邦の香り未だ失せざるを感ぜしめた。政治家の抱負と決意は正に斯くあるべく、傾かんとする英本國の支柱を双肩に荷負ふて立たんとする悲痛なる眞情に對しては涙なきを得ない。しかも此こころこそ沙漠化せる現代を救ふ唯一の力である。文壇に映ずる傾向的病相を打診して同感を深うせざるを得ない。

現代政治の指標仆る

議會の自殺に就て

——昭和六年二月十日第百三十號掲載——

一

人種の坩堝アメリカは暫く措く、各國の政治組織は今や複雑なる國際政局と多難なる自國の經濟難局とを前にして深刻なる苦悶を重ねて一大變革期に當面して來た。世界大戰後に煽てられた敗北主義や、頽廢思想や、唯物觀が各國の政界に反映して從來の政治意識を亂したることは其一主因であらう。卽ち政治の精神的使命が輕視、無視せられて打算主義に墮したることは其何よりの證據である。所謂大衆政治が迎合政治となつて經濟の政治支配が露骨となり竟に政治の指標が狂つて來たること現に見るが如き有樣である。かくして古の所謂治國平天下の思想は今や殆ど其跡を絶ち個人の野望と經濟鬪爭とに引摺らるる國家の新戰術とが看取さるるのみで沙漠の政界に淸新のオアシスを發見することは可なりの難事となつた。茲に議會政治の破綻が始められた理由がある。

二

惟ふに議會政治の本領が所謂輿論政治にありとせば輿論の現代的傾向に在る底なしの物質的滿足に突

當りたる議會政治が半身不髄となりしこと素より自明の理である。英國の勞働黨内閣が得意の筈の失業問題にて日一日と泥海の深底へと落ち行く有様は之を雄辯に物語るものでないか。英國政界の一角に於て議會政治に對して呪咀の叫びを擧ぐるに至りしこと當然である。而して議會政治が現時の國際政情に直面して幾何の權威を保ち得るやは今や實際問題として重大化して來たことも疑ふの餘地がない。

三

さて我議會政治は年毎に信用を失墮し來るかの感あり、特に本會議を迎へて昨今に至る其動作を見るに殆ど「開店休業」の有様であり「流血」の慘劇さえ出現して國務の討議を餘所にして暴力集團と化し去つた始末である。卽ち政黨幕府の如實なる對戰行爲であつて國體觀念の如き夙に埋り去られたことを看取すべきであらう。況んや國威の凌辱あるも、民人塗炭の苦みあるも茲に反映さるる何物もなささうである。かくて議會の自殺となり、自己否認となつて世は不安の空氣に、充滿し行く姿は不本意乍らも認めねばならぬ。已に議會は精神に於て死し、形骸に於て埋められたも同然であるが之に代るべき政治組織は何處に求むべきであらうか。素より事茲に至りては國民と政黨とは議會政治の不始末に對して深刻なる遠慮を拂ふべきこと當然である。

國防危地に立つ

議會意識は斯く動く

——昭和六年二月二十日第百三十一號掲載——

一

議會政治に就ての過分の期待と其重壓と恐威から來る國事破壞に對して議會制度の先進國間に深刻なる苦惱を重ねつつあるの實狀に就ては本紙が屢々既報した通りである。結局議會政治が浪費制度であり非能率制度であり、而して責任制度の假面に過ぎぬ遊戲制度であることが判明して來たことが今日の運命を招いた原因であらう。所謂議會政治の行詰り、議會の自殺と稱せらるることも斯うした現實を見た眼に映じた最後的悲劇であつたのである。

さて前號に議會政治没落の一過程として大衆の底なし的經濟慾をどうにも制し得ざることを既述したが其没落の急テンポを診斷する好個の特徵は國防觀念の極端なる藐視である。元來議會政治が國防を顧みぬといふ本質的傾向はない筈だ。しかも近時の我議會情勢より視て他に政治的魂膽あつての事は別として刻下の國防危機に對し何の關心を持たぬこと明かである。否關心は持ち、之に斧鉞を加へ、之を更に虐使することに全幅の興味を持つのみである。

二

今期議會で論議さるべき國防問題は少くも三つある。ロンドン海軍條約善後問題及び對露、對支問題である。ロンドン條約に就ては最初よりゴタついた日付きの疵物であつたが今日の場合區々たる揚足取りの論爭を試みたとて追つ付かない。今となつては國策の現れとして我海軍の使命をキツパリと國民に烙印せしむべきが先決最急である。米國の海軍は「國家の政策と通商を支持し、本國及び海外領土の防護に充分な兵力を保有」することに存在意義を持つてゐる事一昨年十月六日海軍卿カーチス・ウイルバーの名を以て發表された「米國海軍政策」に據るも明かである。而して前記の「國家の政策」が何であるかに就ては米國朝野の意見は一致してゐる。卽ちモンロー主義と支那に於ける門戸開放主義を指すこと一點の疑ひなき所である。しかも前者に對しては防禦、後者に對しては大海軍の攻勢力が要るとの意見は米國當路者の屢々明言してゐる通りである。かくて彼の均勢的大海軍の建造となり東洋進出に有らゆる優地位を占めんとの意圖實現となつた。ロンドン會議の眞意は明かに日本に不戰敗退を迫つたもので彼の國策遂行の第一歩である。さればこそ彼は頑強に自己の筋書通りの主張を扞げず、竟には會議終了間際のドサクサ紛れに乘じて日本側に煙幕を張つて航空母艦代用の七萬噸を盜み取つたのであつた。若し日本海軍が國策の明識を持たば而して國事に對する一倍の良心あらば會議裡にその燦然たる光芒を仰ぎ見ることも出來たことであつたらう。議會は須らく抜本遡源的に出で日本の國策と海軍の使命重責を聞くべきである。

ロシアが其五年計畫に於て戰爭工業の充實を期してゐる事實に就ては前號の本紙に稍詳細に掲げられてゐる。彼が近時事毎に威壓を以て日本に臨み來る鋭鋒の閃きを看取すべきである。支那またロシアに劣らざる態度にて日本を蔑視し其外交部長は無遠慮

にも對日戰を明言して憚らざるに至る、其對日交涉に於て武力解決を強いらるる一點已に形勢の急迫見るべしである。しかも此諸形勢に對し我國防は何程の用意あるのか。

三

惟ふに國防問題は國家死活に關る重大事である。ホーマーリーに從へば有史以來三千四百年、此間平和時代は僅に三百三十年にして全期間の十分一に當るとの事である。卽ち現實の世界相は尚國際問題の解決に武力を必要とし人の好むと好まざるとに拘らず之が終局的運命となつて居ること明かで此事實は大戰後と雖も些かの變化がない。殊に近時の進步的思潮より論ずるも戰爭の原因が資源及び人口問題に絡はる經濟的不平等の打破運動、民族的感情並に思想的傾向の差異に基く水平運動にあるなど從來の侵略思想とか、マルクス亞流の階級思想にては到底決し得ざることを明識すべきであらう。現に日本の感得する東亞問題は眞に死活の問題である。しかるに米國の茲に感得する問題は繁榮、（Prosperity）の問題である。而して米國は其繁榮策の爲めの大海軍を必須とすべきことを語つて憚らぬ。かくて如何にして此間の事實的、思想的喰違ひを調和すべきかは實に差迫つて來た問題なのである。若し議會制度が國民總意の反映を語るものであるならば議會は米、露、支三國の武力充實を急ぐ肚裡に無關心である筈がない。日本は今や太平洋問題と大陸政策に敗れて生存線の中點を掻き亂されて來たのである。かくて虛飾的國防が味噌、醬油の運命にまで現はれやがて一般大衆の侮恨を湧き立たすに至らざれば幸である。ニイチエはツアラトウストラをして「汝は汝の思想に向つて戰はねばならぬ」と云はしめてゐる。眼前の算盤を彈くことのみを知る現代の政治思想に向つて一戰すべきではないか。

議會制度の危機

美濃部氏の陣容紊る

——昭和六年三月十日第百三十二號掲載——

一

美濃部達吉氏は本月號の中央公論に「議會制度の危機」と題して巻頭に一文を寄せてゐる。所謂議會中心主義の支持者であり、英國流の憲法學者としての東大の權威である氏も遂に議會の近情には稍愛想もつきたらしく遂に「議會制度が斯く不信用の狀態に陥つて居ることは決して日本に於てのみ見らるる特有の現象ではない。種類と程度との相違は有るけれども世界の殆ど總ての立憲國を通じて議會が漸次國民の信用を失ひつつあることは近時に於ける疑ふべかざる現象である」とまで自告せしむる程の退却を餘儀なからしめたのである。しかも何が博士をさうさせたかは問はずして明かであらう。卽ち「世界の殆ど總ての立憲國」がさうだつたので、結局議會不信の大勢に押されたからである。筆者は議會制度の破綻を指摘せしこと一再でなく、更に之を繰返すに忍びないが前記の題名と其筆者に聊かの興味を感じたままに問題の新斷面を檢しようと思ふ。

二

さて美濃部氏の數へ立てた議會制度不信用の原因

は次の諸點である。

一、議會の能力の缺乏

二、議會の獨立性の喪失

三、政黨の資金難

四、黨爭の極端化、殊に暴力に依る議事妨害

五、内閣の不安定

而して氏は議會制度が遂に亡滅の運命を免れぬであらうかとの疑問に對し「われわれは絶對に其の危險なしと斷定するだけの勇氣を有たない」と云つて居る。しかも氏は「議會政治は假令如何なる弱點が有るにせよ、尚他に見ることを得ない大なる長所を有つて居るもので、われわれは極力これを擁護することに努めたいと思ふ」と斷じて獨裁政治に對して左の三長所を擧げてゐる。

一、反黨氣に對する寛容の態度。

二、國の政治を公開して國民の批判の下に立たしむること。

三、政治の局に當るべき首腦者が間接に國民の輿望に依つて決せらるること。

一學説家の處方箋に違はず、臨機の葛根湯を書くあたり遖に老巧である。

三

惟ふに議會制度は其思想的立脚をデモクラシーに据いたもので基督教會に行はれた所謂民衆政治が其ままに政治形式に移されたものである。デモクラシーは天下公許の狂人と議論することであると叫むだアルキビアデスの言も極端であるが其行はるる範圍が極めて狹く、取扱はるる問題が簡單であれば兎に角、然らざれば其精神に背くことになること丈けは明かである。現時の複雜なる社會相に直面して議會制度の現實曝露を示したのは夙に思想的に死滅してゐたからであつた。

美濃部氏曰く「獨裁政治はファシストの政治にせよ、コムミユニストの政治にせよ、何れも一國一黨の政治である。唯政府に追隨し服從する者のみが認

容せられてこれに反對する者の存在を許さない」と氏は正に病膏肓に入つた形式法學者たることを曝露して居る。議會制度の危機を論ずるに當つて獨裁政治の形式のみを見てフアシストとコムミユニストを同列に置くなど不用意至極でないか。フアシストは正直正銘のナショナリズムに據りコムミユニスト亞流の唯物主義に反抗して蹶つたもので其思想はトマス・アクヰナスより出づるとさへ云はるる程である。因つて建設途上の伊太利はインペリアル・ステートでなくナショナル・ステートで從つて道德が根底であり國家の爲めに個人の犧牲が要求さるる所以である。かくて所謂死滅の議會制度を見限つて所謂産業的組合國家を建てた伊太利が階級鬪爭の如き一切の國家分割を嚴禁する一方に於て獨特の國家組織を以て中外に打つて出たのであつた。而して道德が國家の指標と稱せらるる丈けあつて伊太利が國家の面目問題に突當つたが最後、厄鬼となること當然でないか。

美濃部氏が「イン・ゼ・ネームス」不戰條約問題や省部合致の海軍條約問題を以て「議會」の審議外である「形式的名目的の事柄」に過ぎぬものなりとする唯物思想とは雲泥の差を生じて來ること明かである。

筆者は敢てフアシストの辯護者でない。さり乍ら議會制度の行詰りを認め而して其危機を叫ぶからには日本の識者は更に一段の達見と勇氣が要求せらるべきこと明かである。

アメリカの危機

經濟支配の悲劇を見る

——昭和六年三月二十日第百三十二號掲載——

一

二月二十日付マンチエスターガーデアン週刊版に掲げられたステフエン・グラハム氏の「アメリカの危機」は近來での一見識で短文乍らも示唆に富むだ雄篇である。且下世界を風靡してゐる經濟萬能思想を皮肉に嗤つた觀察であるが一應の紹介を試みて筆者の所見をも添て見る。

氏の要旨に曰く

世界的經濟の危機はアメリカに於ては他の何國よりも激化しつつある。而してウオール街の株式市場が全アメリカ民を破壞し大多數は借金しても賭けをやり投機をやる。其弊は學童にまで及び、銀行は信用を擴大して顧客の投機用に添はんとするものの如くである。各人は一攫千金を夢み中産階級は之が爲めに一切の所有物を賣飛ばして没落しアメリカ繁榮の根底をなした其購賣力は今や消え去つたのである。

かくて氏の指摘するが如くんば中産階級の現況は、寔に憐れむべきもので單に衣食し單に居住する丈けが精一杯の有樣である。

二

氏は更に語を續けて曰く

かくて富者はいよいよ富み富豪と一般人との社會的溝渠はますます太だしくなつて來た。而して竟には數萬の富者と數千萬の貧者のアメリカとになることであらう。しかも一面に於ては安く買ひ占めた證券市價が滅じたのを見て自己財産の損失であるかの錯覺に陷つてゐる富豪連は財布を締める一方なので世間はますます不況となる許りである。生産の捌け口に據つてゐる大産業は起らず、資本力が回復出來ざる所以である。更に富の斯うした節約は失業問題を招き今や失業者の點に於てもアメリカは世界第一となつてゐる。而し之が對策としては保險制度もなく秩序を無視する革命運動共産主義が日增に跋扈しワシントンやニューヨークに赤旗飜がへる有樣となつた。

かくて黄金の國アメリカから奇蹟の如く黄金が消え去ることを語り、之が爲め銀行は最惡の受難時代に直面せねばならぬことを說いたものである。要するに氏のアメリカ觀は投機と賭博との溺惑してゐるアメリカ人の經濟的危機に深入した所に眼目がある。

三

惟ふに現代生活に於ける經濟關係の重要性に就ては何人も否定はしない。さり乍ら其存在理由に就ての過分の認識と無制限の振舞に對して反省なきは竟に社會生活を壞滅に導く危險がある。經濟の政治支配が一國を墮落混迷に陷らしむる如く、而して經濟の道德支配が人性を野獸化せしむる如く其實證は所謂現代の文化國家の幾多の癌種となつてゐること視るも明かであらう。しかも經濟專制は夫れ自體に自滅の運命を有ち其支配形式に變化を期して見た所で結局此運命より脫することが出來ぬ。所謂資本對勞

働問題の如きも所謂唯物史觀に苦役せらるる限りに於ては八幡の藪しらずと同一迷路を往來するに過ぎぬ結果であらう。アメリカが世界の黄金を一手に收めて繁榮に醉ふたのは昨日のこと、今や運命の神はウオール街に立つて没落のルビコンを渡らしめようとするのである。グラハム氏の觀察は聊か極端の嫌はあるが現代の共通的病相を打診した所に上醫の一面影がある。

ジヤーナリズムの苦悶

新聞の目と心を覗く

——昭和六年四月十日第百三十四號掲載——

一

議會制度の危機が英國から高調されて來た時、新聞の墮落が同じ英國から頻りに放送されてゐることも注目さるる新現象であらう。曾て國民的信仰であつた英國議會の權威は今や幻滅の悲哀となつたが之と表裏して其國民的矜恃であつた同國の新聞界の信望が著るしく失墜して來たことも奇緣である。所謂大衆政治の假面が剝落して議會制度を呪ふ皮肉な運命を辿つて來たものとすれば之に肩を入れた新聞の運命が行詰つて來たとて何の不思議はないのかも知れぬ。發行部數幾十萬、幾百萬を誇る大新聞は商賣

として成功してゐること疑ひない事實であらう。さり乍らこの事實は新聞の眞の勢力とか權威とかいふ問題とは明かに識別さるべきものである。流行、映畫、スポーツを滿載して時好に投じて見た所で新聞の權威とは交涉なき問題である。

二

某氏は新聞の目的を指摘して左の如く語つてゐる。

新聞の第一目的は金を作るといふことである。それをするには出來る丈け廣く人を惹き附けなければならない。そして人を惹き附けるには彼等の理性に訴へるよりも彼等のセンセーション若くは感情に訴へなければならない。

と卽ち新聞は新聞の持主の御奉公に使はるるもので、時代向きな商賣であるとの意味である。かくて作らるる所謂「大衆新聞」が國家最高の意思決定にまで深入し容喙しようとするのである。ボールトウヰンが閣員奏請に注文を附けた此種の新聞王の某貴族に對し一戰を挑むだことは數年前のことであつたが、現勞働黨内閣に及むで急テンポの卑屈に墮せしこと内外識者の略一致せる見解である。因果孰れにあるにせよ、政黨政治家と新聞人の行詰りは落日の英國に悲しき一幕を添えたものであらう。

三

筆者は玆に新聞に就ての講釋や非難を試みようとするのではない。唯英國に於ける二大既成勢力の運命に想到して若干の感慨を我眼前の傾向に就て浮べた迄である。新聞の營業政策かは知らぬが宣傳、私事、卑猥に走り過ぎることは夫れ自體自殺を急ぐもので現代の所謂ジヤーナリズムの大なる矛盾を示すものであらう。殊に新聞人の「裸の事實」に對する慾求は日毎に昂ぶる許りで心理描寫にも多大の「やま」と遺漏とが伏在してゐることなど何としても非難さるべき重點でないか。例せば議會政治に對する澎湃

たる不信任の叫びは今や街頭に滿ち、山村に響き渡つてゐることは事實である。さり乍ら議會の現實暴露は兎に角此叫びは種々なる理由から編輯で默殺笑殺されてゐることは明かである。茲に新聞の目と心の動きが奪はれてゐる實證がある。近くはまた駐日露國商務官の負傷沙汰に就てソヴエート政府から穩かならぬ抗議が來たことが報ぜられてゐる。當時一商務官に對する私憤行爲が各新聞の全面を覆ふたことは尚記憶に新たなる所であらう。しかし問題の行衛に就て我外務當局はどんな態度を取つたのか、否新聞の打診はどうであつたのか。今日に於て仰々しき抗議を受くるが如き識者の憤慨に堪へぬ所なのだ。

卽ちロシアの肚裡は初めから讀めてゐる筈で例の五ケ年計畫で日本の北洋漁業を一蹴せんことであり、他面思想攪亂に先手を打つことであり、事件は正にこの經濟及政治問題解決に優地位を占むるに絶好の機會と見られてゐたのであつた。果然ロシアの對日態度に閃々たる毒刃の示威が看取さるる昨今である。卽ち報道の事實と經緯に就ての不親切なること觀面に來た譯である。新聞は今や我等の生活であり、呼吸であるとさへ云はるる時代である。新聞の鏡に映ずる我等の生活が果して何であるかに就て一考すべきことも無駄でない。

獨裁制寃に泣く

スペインの異變

——昭和六年四月二十日第百三十五號掲載——

一

スペイン皇帝アルフオンゾ十三世陛下の國外退去は世界の人心を衝動した近來の大異變であつた。而して我言論界の殆ど全部が同國共和派の放送に誤られて之が原因を獨裁制の罪に歸して其好むところの「自由主義」の昂調に大童となつてゐることは其職責から觀ても愼むべき所である。

さてスペインの政情不安は久しき以前からのことで此度の異變を語らんとせば少くも一八七三年の共和制の前後の事情及び同國々民性の敗北主義的色彩に就て一瞥を惜しむでは不可ない。しかも前記の回顧は兎に角としても其片鱗はモロッコ叛亂に際して頗る明白になされたものであつたが此度の異變も之を遡りてせめて當時の政情を偲ぶ位までに至らねば眞相に觸れ得ないであらう。アブデル・クリムを題目とせるリフ族の涙ぐましき健戰善鬪は今尚吾人の記憶に新なるもので、之に比しスペイン國情の頽廢、混雜、歪曲は眼に餘るものあり、就中朋黨政治の極端なる內面暴露は所謂眇たる反軍討伐に反映して散々の醜態を內外に晒したものであつた。

二

問題の人、プリモ・リヴエラ將軍の獨裁制は一九二三年九月から始められたが、内にあつては財政危機、政爭苛烈、國威失墜、而して外にあつてはムツソリニの昇場、ボアンカレーの出陣等觀じ來れば國力を統一して頽瀾を既倒に回さんとする同國憂國志士の心意氣に非常時の決意を宿さしめたることも理由なき次第ではなかつた。唯惜むらくは好漢リヴエラの蹶起も手遲れであつて極度に傾いた國柱を支ふるに足らず萬斛の涙を呑むで施政七年の幕を閉ぢた譯であつたが其後ベレンゲル、アズナル相次いで立ちたるも素より及ばず竟に本月十四日の地方自治體の選擧となり共和派の壓倒的勝利に制せられて今次の悲劇となつたものである。かくてスペイン國民は其皇帝がリヴエラの獨裁制に允許を賜はつたこと及び陛下自ら國政に干渉し給ひしことを非難し竟に其怨府の的となりたる如く傳へられたが或はその報道も理由はあらう。さり乍ら何が獨裁を餘儀なからしめたかに就ての事情を究めずして共和制の勝利のみを卽斷し去ることは危險此上なきことである。スペインが低落しきつた國情の現狀を繰返してゐる限り焦慮せる自由主義、共和制が顚覆し時局收拾にまたまた獨裁制の迎へらるることなきを誰か斷言し得よう。

三

惟ふに獨裁制は國情の混亂時代に待望さるべき當然の政治形式である。アルフオンゾ陛下がスペインの當時の國情下に於て獨裁制を允許し給ふたことは偶然でなく識者は其御明斷に服せし程であつたのである。しかも事茲に至りしは制度其ものの罪に非ずして獨裁官の輔弼其宜しきを得ず、國民も亦底なしの迷亂を繰返してゐたからであつた。見よムツソリニ治下の伊太利が面目を全く一新し、萬千の批評を尻目に見て着々として磐若の國礎を築きつつあるこ

とは何としても否定が出來ぬ事實でないか。ソヴエート・ロシアの虐政振りは論外であるが辛くも國家の體面を保つてゐるのは彼が極端なる專制政治を布けるが故である。獨裁制は好ましからぬ政治形式ではあるが紛亂せる國家は之れに依るの外はない。だがスペインは其採用が餘りに手遲れであつたばかりでなく獨制官の適任者を得ることが出來なかつたのである。之れ伊太利が之れに成功しスペインが之に敗れたる所以である。だからスペインの失敗は獨裁制其ものの罪ではないのである。

自國意識なき一群

漁撈問題に何故の沈默か

——昭和六年五月十日第百三十六號掲載——

一

「今にして始めてマルキストと云ふものが分つた」とは英國藏相スノーデンの對外硬に幻滅を感じたウイルト（獨逸の前首相）がヘーグ會議終了後に告白した述懷であつた。今更ヘーグ會議の回顧でもないがスノーデンが賠償問題で英國第一主義に徹して讓らず會議が屢々決裂の危機に臨むだ時、緩和策として話題に昇つたことはパリ及びベルリンより彼の同志社會主義者をヘーグに招いて彼を說得せしむることで

あつた。しかるに彼は『同志』である前に英國人であつた。否英國の大藏大臣であつたのである。此信念は昨年ロンドン海軍會議豫備交渉の爲め渡米したマクドナルド首相もアメリカに於て公言した所で我々は社會主義者である前に英國人であらねばならぬと喝破した同じ信念であつた。ヘーグ會議がデモクラシーの代表的所産であるかの如き宣傳を强いられたのはつい昨日までのこと、今尚記憶に新なる所であるが實相は之を裏切つてゐること今や何人も明識する所であらう。獨の故ストレーゼマン、佛のブリアン、英のスノーデンは會議當時の三人男とでも評さるべきであつたらうが何れも其生立ち、其思想、其個人的立場に逆行して自國第一主義のチヤムピオンであつたことなど餘所事ならぬ感じがある。

二

しかるに我國に於ては場所柄もあらうに帝國議會の壇上から我國家破壞を目論む兇徒を同志何某と呼掛けたり「我等の祖國ロシア」を守れと呼號して公然の賣國振りが許されてゐる始末で國家及び國民の締りがないことは勿論であるが一味の教養識見の低劣野卑なることもヨーロツパの所謂「同志」に對して恥べき所業であらう。何は兎もあれ「マルキスト」もヨーロツパに於ては實際政治に突當つて國家防護の程よき清算を見せて居るのに我國では何の惡緣か今頃尚ロシアに跪拜してマルキストの嫡流氣取つて國內鬪爭にのみ憂身を窶すことが大勢となつてゐるとは餘程の時代放れである。筆者は茲にマルクス流派の戸籍調べを敢てする程の勇氣は持たぬが少くとも過般來問題となつてゐる勞農ロシアの對日態度に對し何等の憤りを發し得ざる我「マルキスト」の哀れなる姿に一言なきを得ない。ロシアの我北洋漁業壓迫は本紙が屢々指摘した如く其五年計畫に基き不法に日本勢力を一掃して漁區を一手に收め逆に日本をも其支配下の市場たらしめんとするもので露骨なる自國國權の侵略的發動に外ならぬ。爲めに北洋を舞臺とし

て働いてゐる我三萬の勤勞階級と之に依存してゐる幾十萬の同胞の運命がどうならうなど勿論一切耳を傾けぬこと周知の通りである。更にルーブル換算問題に就てもロシアの暴擧が解る。問題は幾錢、幾厘の大道商人の駈引ではない。所謂國際經濟の公理に基いて爲替相場に從つて決すべき問題で現に震災後我爲替相場の暴落に際して我當業者は一ルーブルにつき一圓四十五錢を支拂つたことさへある。而して現時のルーブル相場は五錢内外である。勞農ロシアが問題の解決に就て情宜と公理との一切を蹂躙して顧みざるの態度は帝制ロシア時代にも見られざるの不埒さで之れが所謂正統マルキスト大本山の姿であるが我國の末社連が一言其不合理を咎むるものがない許りか更に彼に迎合しようとしてゐること前述の通りである。

三

惟ふにマルキシズムが今日尚額面通りに流行してゐるなど恐らく日本のみであらう。今や大國間に於ては其本質を見極め其發展性に限界を置いて國情相當に割引、清算を了してゐる有樣で現に本年のメーデーを觀ても天から相手にされず、中に神經過敏になつてゐたのは日本とスペイン位なものである。日本の「同志」と稱する者がロシアの暴虐に抗し得ざる一事が已に僞りなき現實暴露である。日本改革の過程に於て自國主義の先驅なくして何をしようとするのか。

教育の異端相

ロシアの實驗を觀る

——昭和六年五月二十日第百三十七號掲載——

一

勞農ロシアは七年前に禁制書目を發表して天下の苦笑を招いたことがある。曰くプラトー、カント、ショーペンハワア、聖書、コーラン等々其中の尤なるものであつた。男女兩性を互に取替へること以外には何でも可能であると信ぜらるる此專制國に於て禁制書の發表位は勿論朝飯前のことであらうが其選擇振りの奇抜なのにはこれはまた逍に世界を呆然たらしめたのである。勞農現政府は始めケレンスキー時代のデモクラシー教育を踏襲して慘澹たる失敗を敢てしたのに懲りて其反對に走り極端な專制獨裁の教育方針を採用するに至りたること周知の通りである。卽ち其ローラーの軋るが如き强大の政權を以て遮二無二マルクス主義で學生を押し付けて來たのである。かくて學校教育は政府御用の鬪士養成と職業修得で滿足せしめらるるに至り哲學など云つたものは勿論課程より排斥し去られたのである。

二

さて勞農政府の學科規定を見るに更にまた奇想天外の沙汰で已に初等教育から讀書、作文、數學、手工、

唱歌と云つた常識科目が除かれて居り一切は勞働と自然と社會の三つに分類されて了つた。從つて十一二歳の兒童がマルクスの資本論に出遭ふと云つた始末で他は押して知るべきものがあらう。しかも斯の如き形式的强制教育が成功しよう筈はなく小學教育は勿論のこと大學教育の如きも殆ど失敗で學生は唯入學の便宜の爲め共産黨員たるを假粧して居り、政府筋の徹底的取締に服してゐるに過ぎない。かくて産業五年計畫に含まるるその教育充實の如きも果して幾許の實績が期待し得ようかは略豫斷し得る所である。ロシア革命を溯ること三年、時の文相カツソオは革命に投じた大學生を一擧にして六千名を退學せしめ内外の物論を捲き起したことがあつたが、現勞農政權の行ふ所を見れば此種の暴壓に幾倍する蠻行が日常茶飯事の如くに繰返されて居り苟くも反革命の臭あるものの身を寄する所なき有樣である。教育が唯物主義に蹂躙せられ、黨禍の犧牲に委ねられたる窮局の運命は斯の如し、識者はロシアのこの無慘なる實驗室を觀て何を感得すべきか。

三

惟ふに國家の教育方針はその因つて立つ精神力の意向を物語るもので智識修得の如きも之が爲めの助役たること勿論である。ロシア流の教育が夫れ自體に於て教育の冒瀆であり人性の墮落を招來するより外の何物でないことは餘りにも明かであるが我教育界には其流弊が及むでゐないであらうか若き學徒達がマルキシズムの因人となつて其研究心を裏切つて行く姿は淋しき限りである。所謂現實暴露の悲哀を滿喫した後の情感こそは之が僞らざる表白であるが其責任の一半が教育界に歸せらるべきものであることに疑はない。茲に疵つける教育界の呻きがあるのではないか。しかも教育界の此現狀に對し更に權威失墜の拍車を加へてゐるものは現代政治の暴虐である。教育が政策の用具として頤使さるるに至りて危機はいよいよ急迫を告げて來たこと見るが如しである。

同憂諸氏の蹶起を俟つこと切也。

政黨に秋風立つ

新興力の世界的擡頭

——昭和六年六月十日第百三十八號掲載——

一

國家が政黨の無力別してその重壓からどうして解放さるべきかは今や各國ともに惱み抜いてゐる問題である。國家が政黨の頤使のままに動き、國民が政黨の切捨御免にあふとは嘘のような話であるが實は現前の事實である。政黨が國民總意の反映であると云はるるのは選擧向きの煙幕であつてやがて其姿は閻魔の如く見えしかも何乎と國民に下知し來ること周知の通りである。而して茲に所謂政黨の幕府化となつたものであるが要するに政黨が大産業の魔手に操られ、金融界に叩頭し更にまた大衆に迎合して遂に國民生活の實際を處理する能力を失つた結果の暴政がそれであらう。かくて政黨政治が所期の目的とは似もつかぬ外道に墮しながら尚威容を張つてゐること各國略然りと見られてゐる。しかも所謂既成政黨(社會黨を含む)が國民的總不信の致命症に蝕まれて居り、新興力が其最後の呼吸を凝視めて居る息づ

まる政界狀景は今や何人の眼にも寫つて來た所である。

二

英國では自由、保守の二大政黨は蟬脫けの殼である。勞働黨が再度に亘る組閣で英國の運命を急速度に短縮し現に短縮しつつあることも識者の明かに看取した所であつた。モズレー一派が昨年末、勞働黨に去り狀を拋きつけ、政黨政治の不信を責めて閣員五名を中心とする非常時獨裁制を高調したるなど正に新興力への開拓第一步である。米國に於ても共和、民主二大政黨に對する不滿は夙に叫ばれた所であり、之を前にしては一九一二年、ルーズヴエルトが進步黨を創めたることの如き、更に一九二四年、ラ・フオレツトが農民黨を起したるが如き爾來此二巨人の意向は米國識者の間に次第に昂まつて來た。現に近く上院の有志連が自己所屬の兩黨に憚らずして「此不況時に當つて我國には有效なる政治的、經濟的のリーダーシツプなし」と斷じ新政黨の暗示を强調したることなど正に同一潮流の躍動を示してゐる。

三

さらば政界における新興力の指標は何であるか。シングフリードはフランス人の特質を論じて政治的には左傾、社會的には右傾で其狀は和蘭の乾酪に酷似してゐると喝破した。卽ち外皮が赤く內實が白いとの意味である。政治の左傾的とは勿論共産主義やマルクス主義といふ意味でなく現に氏が指摘して居る如くフランス政界で急進派の名を冠して保守的意味を有たせること寧ろ通り相場である。實の所共産主義、マルクス主義の政治など世界何國にもあらう筈なくロシアの專制、侵略政治は雄辯に之を物語るものがあらう。謂ふところの政治の左傾は實は名目外皮の問題であるが新興力の指標として其名に一種の誘惑を感ぜしめてゐることは否定が出來る。既ち

政治の更生を思ひ切り潔く断行することで、之が爲めには先づ國家第一主義に據り既成政黨（社會黨をも含む）の重壓を力強く排撃することにありと見られてゐる。而して政治の更生は多數を踏臺として少數者が私慾する現代の朋黨政治と見限る所から開展さるること疑ひを容れぬ。國家は夫れ自身に於て生地の政治を反映すべきであらう。

國家的誘惑相を觀る

對露クレヂットを排す

――昭和六年六月二十日第百三十九號掲載――

一

ロシアの産業五年計畫は最初から種々の取沙汰が行はれてゐたが其目的は兎に角之が遂行に當つても所謂資本主義國家の助力を俟たねばならぬ矛盾は夙に看破されてゐた。ロシア政府が有らゆる宣傳機關を動員して計畫の有望を語り之が完成後の國情一變を誇つてゐたが該計畫を名として自國民に強いた犠牲は實に慘膽たるものあり、その膏血の一滴さへ搾取し盡したかの思ひがある。しかもその計畫たるや重工業を主とし國防第一主義を目標に置いて他産業一切を輕視し極端な中央集權と暴力專制の首腦を

して其最後の堅壘を築かしむるに汲々たるものであること隠れもなき事實であらう。さり乍ら疲れ切つた驢馬は今や鞭打つも動かざる土壇場に立たさるに至つた勞農現幹部が取つて置きの最後の切札を出して日本巡禮に叩頭し始めたるは這般の消息を雄辯に語るものである。

二

ロシアが五年計畫遂行に必要な物質の缺之を痛感して五千萬圓のクレヂツト設立を申込みしことは周知の通りである。日本よりの購入品目は汽船及汽船用機械、レール、電氣機械、化學製品其他で二ケ年半の後拂ひとの事であるが目下我金融界は緩漫な折柄であり、且對外貿易も不振の場合であり其申込を受諾することを期待する向も少しとせぬ形勢にある。而して一方ロシア側は問題の成就に全幅の努力を拂つて居り其駐日大使は自ら陣頭に立つて大阪及東京の對露關係者に說得大いに努めて居る有樣で現に東京では去る十二日銀行集會所でトロヤノフスキー氏以下ロシア側總出を以て宣傳、勸誘に乘出してゐることなど其一例である。併も之に對する日本側の態度は未だ決定する迄に至つてゐないが其故障は主として一、長期支拂に因り輸出業者と銀行家が躊躇してゐること二、之に對して國家が補償方式でも採れば格別であるが之れとても豫算外國庫負擔とでもなる時は當然議會の協贊を經ねばならぬし更にまた坊間傳へらるる預金部資金運用ともならば確實且つ有利の條件に當嵌るかどうかが問題視されてゐる。勿論これはロシア現政權の繼續と信任とを前提としての話であること明かで、此根本觀念に喰違ひあれば問題は自ら解消さるることにならう。

三

さて一九二九年——一九三〇年度に於ける日露貿易を觀るに輸出二千八十八萬四千圓、輸入二千二百十七萬九千圓で差引百二十萬圓の支拂超過となり之

に漁區料、北樺太の石油試掘料を加算すれば五六百萬圓の支拂超過となること數字の示す通りである。而して日露貿易の前途如何は依然として疑問とすべきこと識者の殆ど一致してゐる意見であるが我二三特權商の牽制に依り其打消的宣傳が廻らされてゐることも事實である。かくてトロヤノフスキー氏から貿易增進策を說教さるる珍劇とさへなつたのである。惟ふにロシア現政權は借金踏倒策を敢てした歷史を有し、其政權維持の爲め他國の崩壞を企圖して一流の內政干涉に出でつつあること周知の通りである。現に我國駐劄の某々商務官が我共產黨員を使嗾して我國體爆破に縱橫の怪腕を揮つた事實あり、當局は夙に確證を握つた筈である。しかも產業五年計畫と銘打つものの正體が前記の如きものであつて見れば之が遂行に助力することは何を意味するか想像に難くない。國家は時に經濟と打算の誘惑を一蹴して名分に生きねばならぬ職分を有つ。

核心を認識せよ

萬寶山事件を觀る

——昭和六年七月十日第百四十號掲載——

一

本月一日萬寶山麓の鮮農を襲撃した支那暴民四百餘名の暴行事件に對し殆ど朝鮮全土に亘つて報復運動が開始されたが京城、仁川、大田、元山、平壌の各都市は特に目立つた騒擾沙汰が起り別して平壌は五日夜に於て支那人の死者三十七名、負傷者九十三名に達した旨の噂あり、更に翌六日には竟に軍隊の出動を見るに至り同地駐剳歩兵第七十七聯隊より五個小隊を配して警戒部署に當てたとの事である。萬寶山は長春の北六里にある高原地帯で殆ど不毛地として支那人に放棄されてゐたものであつたが昨年に至り支那官憲に追立てられて來た吉敦線からの避難鮮農二百餘名によつて開墾さるることになつた。而して水田耕地面積は三百町歩に達し計畫通りに進めば産米二萬石を收むる豫定であつたとの事である。

二

かくて本年四月に至り支那人地主との間に十年間の借地契約を結び伊通河を利用して一里半に亘る灌漑工事を目論みいよいよ同月十九日より之が着手となつた。しかるに越えて五月三十日に至り長春縣長

は吉林省政府よりの命令と稱して二百餘名の巡警及び馬隊を派遣して鮮農の頭目を拘引し之が切掛けとなつて例の如く地方出先官憲の日支交渉となつてゐた。而して兩國の折衝半にして本月一日支那官憲の使嗾を受けた支那暴民四百餘名が現地に殺到して水路を破壞して、農地を蹂躙して播種期を前にして鮮農を死地に陷るるに至つた。因つて絶望の鮮農二百餘名が蜂起し翌二日朝に至り鮮支間の衝突となり、事態の急を告げたので我武裝警官の現地急行となつた次第である。而して本場の萬寶山は其後形勢の小康を得たが之が反響は全朝鮮に響き各地に不祥事の頻發してゐること前述の通りである。

三

惟ふに萬寶山事件は支那側が暴力を行使して契約を蹂躙し生命を絶ち、國辱を加へたるもので其原因は別項の如く支那當路者の計畫的排日にあること勿論であるが被害者側たる我國が之を看過するに於ては類似事件の頻發を誘致すること從來の經過より觀て明かである。所謂商租權問題が有名無實となり外交語の萬萬遍を繰返して見たところ詮方なく竟に武力解決の氣配に因つて鎭靜するとあつては我大陸政策に深甚の考慮を拂はねばならぬことといよいよ切實となつた。現時我政界に流行してゐる軍縮論の如き少くもロシア及び支那の脫線外交を向ふに廻して何の權威あるか、現に國際平和の一手引受の觀ある流行兒フーヴアは最近に於て自國軍備に手を觸れぬことを公言して憚らぬ程で大戰後昨今の如き險惡の世界相はなく此時に當り自國々防に大斧鉞を入るることを得意とするなど將に正氣の沙汰でない。萬寶山事件に發端した朝鮮の騷擾事件は遺憾の至りで之が責任問題と善後策に就てはまた別に解決策もあらう。さり乍ら我國としては滿蒙の野に開拓者の苦汁を啜つてゐる不幸な同胞を抱いて意氣揚がらざることあらば茲に國家生活の終焉を告ぐるに至ること必定である。國際問題の正しき認識を有つものは國家

歳計のバランス・シートに國策遂行の意氣込を看ざることを寧ろ奇怪としてゐる。

金融のマルヌ大戰

佛國の氣焰感多少

——昭和六年七月二十日第百四十一號掲載——

一

曾てフランスは「金融のマルヌ大戰」に慘憺たる苦杯を嘗めたことがある。時しもフランス近代の大政治家ポアンカレーが立つて一流の人材を麾下に聚め所謂擧國一致の内閣を作つて拮据黽勉竟にフランの安定を期し得たること尚世人の記憶に新なる所であらう。當時の國際金融界はフランの安定には毫も援助する所なく唯僅に一九二四年、米國のモルガン系銀行團と、ラザード・ブラザース系の英國銀行團がクレヂソトを與へたのみであつた。しかも獨逸、墺地利、匈牙利、勃牙利、波蘭、希臘、白耳義等の中歐諸國はそれぞれに外國金融界の後援を受けてゐたこと勿論で此間獨りフランスが所謂「排佛政策」の重圍に陷つてゐたのである。現時の獨逸國情とは素より同日の談ではないが兎も角佛人の所謂金融上のマルヌ大戰はこれであつた。しかるに本月十日獨逸ライヒスバンク總裁のルーテルが自國財界の危機を

前にしてクレヂツト擴張の急務を帶びて巴里訪問に來るやフランス銀行總裁ムレーは彼を迎へ冷語して曰く獨逸銀行は自力を以て現下の危機を脫し得べき能力を有する筈であると。國際金融の雄たる巴里ッ子は七八年前を回顧して溜飮三斗の思ひありしなるべく、倫敦、紐育を向ふに廻して氣を吐く爽壯たる英姿見るが如しであらう。

二

さて獨逸財政の窮迫は敢て今に始まつたものでなく現に本年三月末の國庫歲計に於て已に十二億マークの赤字を出してゐること世間周知の通りであつた。更に去月中旬に入るやマーク相場は竟に正貨現送點以下に低落し茲にいよいよ獨逸財政破局の日が到來したのである。かくてフーヴアのモラトリアム提議となり、やがて憂雲一排と見られたのも束の間、彼の賠償金輕減はさる事乍らその差迫る窮迫は如何とも避け難く竟に急を英佛に告げて先づ刻下の財政援助方の懇請と出たのである。獨逸は一九二四年ドース案の實行以來外國への支拂額百億マークに達してゐると傳へらるるが實の所この賠償義務は殆ど借金を以て果されてゐた始末であり、獨逸が眞に復興するのは何の日であるか解き難い疑問とされてゐた。一九二三年佛軍のルール侵入後のマークの慘落は尚世人の記憶に新なる所であらうが當時識者は已に獨逸復興の根本策に就て觀る所あり、所謂排佛、援獨の氣流橫溢してゐたことは兎に角として先づ紐育市場が戰債と賠償との間に嚴然たる區別を附して戰債取立に一流の辛辣味を敢てしてゐたのに對し抜本的の注文を付くるの必要を痛感してゐたのである。顧みるにフーヴア案の如き當時に於てさへ尚認識不足の觀ありしこと勿論であつた。

三

倫敦、紐育、巴里は今や疑ひもなく國際金融爭覇戰に光つてゐる三大王座である。磅と弗と法とを指

標として堅固の戰陣を張り血みどろの國際戰を續けてゐること悲愴といふも愚かなことであらう。しかもこの財的外交（Financial diplomacy）の三大焦點がそれぞれの異色を示して對獨問題に乘り出してゐるのである。之を傳へ聞く、本月十三日は大戰後に於ける獨逸史に記錄さるべき三大暗黑日の一であらうとの事である。卽ち一九一八年十一月九日の休戰條約締結及び一九二三年八月二十三日の佛軍ルール占領に次ぐもので此日、獨逸大銀行の一たるダナート銀行は竟に支拂停止の餘儀なき事情に至り財界危局の動くところ事態は容易に收拾すべからざる形勢となつたことを語るものである。惟ふに獨逸はフーヴア案に因つて國情は却て激化したが其フーヴア案はフランスに於ては散々翻弄されて將に精神喪失の狀態である。國際問の事は昨是今非、運命の逆睹し難きこと眞に測り難く賴むべきは竟に自國の實力あるのみである。

共産運動の増上慢

内外二紙の審理觀曰く

——昭和六年八月十日第百四十二號掲載——

一

我國に於ける共産黨運動の實相は過去三年に亘る三大檢擧に依り略明瞭さるるに至つた。而して其所謂巨頭連をコミにした審理が六月下旬より引續き公開のまま進められつつあること周知の通りである。去月三十日のジヤパン・アドバアタイザーは「共産黨員の審理」と題し社説を掲げ之れを豫斷して曰く

皮肉なことには裁判長と主たる被告等とは高等學校を同じふして居り、殊に佐野學とは同時代である。之が爲め該審理を通じて寛ろいだ雰圍氣が漂つてゐた。法廷の光景はと見れば審理と云はんより寧ろ討論に陷ること屢々で其審理たるや極刑に於て「死」を宣告さるべき治安維持法の行爲に依り起訴された被告に對してゐるのである。勿論極刑が科せらるるなど信じられてゐない（抄譯圈點筆者）

云々との要旨で極刑の場合を幸徳事件に借りて暗に共産黨事件の運命を語つてゐるところなど當面の問題以外にも外人の現代日本觀を閃かしてゐる。

一

去月二十九日の信濃毎日新聞も「共産黨員をその祖國に歸らしめよ」と題し亦共産黨事件審理に言及してゐる。曰く

彼等をして彼等自身が間違つて祖國と思つてゐる國、卽ちロシアにみづから移住せしめよ。歸化せしめよ。更に進んでその一刑罰としてこれをロシアに追放せよ。かくしてロシアに、國外に追放された彼等はここに初めて眞正なる祖國の意味に復活するだらう（中略）日本が人口過剩に苦しんでゐるこの際、普く共産黨員を募集してこれをソヴエート・ロシアに移住せしめ、そして決して歸らしめないならば之によつて幾分かの食糧問題も解決されるだろうし又ソヴエート・ロシアとても物質的に補助をすら敢てしてゐる日本の共産黨員、彼の國を祖國とすら思惟してゐるほど共産黨に忠誠なるものをまさか受取らないとはいはないだらう。

地方新聞の雄たる同紙が本文を掲ぐるに至りたること——別して長野に於て——また注目に値する。

二

惟ふに共産黨の意圖する所が國家生活と根本的に相容れざること論を俟たぬ。されば歐米に於て之が取締に寸毫の假借も敢てせざること想像の外である。曾て本紙が紹介した米國議會のフイツシヤー委員會の取締對策の如き寔に峻嚴を極めたもので、共産黨員の生活剝奪を目的とし其方法中には前記信濃毎日新聞社説を文字通り强行せんとしたものがある。前記米紙が輸出向の好意を示しながらも日本の取締策と法廷審理の寬仁大度なるに痺れを切らせ皮肉の一つ二つ述べたこと强ち理由なしとしない。共産黨員が獄中にあり乍ら自ら稱して「階級的政治犯」など稱し、或は共産黨の理論などと稱してさも自ら思想的權威でもあるが如く裝ふ學徒の跋扈するなど

も大國中日本を措いて他に見當らぬ現象である。現に共産黨大本山に君臨してゐるスターリンは近くまたまた「新經濟政策」を演說して資本主義的産業振興を力調し、更に去月九日執行委員會の次席として黨の實力を握つてゐるアンドリー・アンドレイフまた同一事を述べてゐるなど今日の共産黨運動はロシアの政治的勢力擴張以外の何物でもないこと一點疑ひを容れぬ所である。かくて共産黨運動の擴大深化が尚頻々として傳へらるるが如き我國家病相の啻ならぬものあることを看取すべきであらう。乞ふ今や各人自ら上醫となれ。

打算政治の一象徴

公憤なき國家は行詰る

――昭和六年八月二十日第百四十三號掲載――

一

武教講録に曰く

士無二農工商之業一而爲二三民之長一と云所へ深く工夫を凝し給へ。此意味孟子にも論じてあり、『盡心上篇』に云く公孫丑曰、詩曰、不素餐兮、君子之不レ耕而食何也、孟子曰、君子居二是國一也、其君用レ之安富尊榮、其子弟從レ之則孝弟忠信、

不素餐兮、孰大於是、又云く、王子墊問曰、士何事、孟子曰、尚志、曰、何謂尚志、曰、仁義而已矣、と。余曾て講孟餘話中に於て略是を辯ず。明治維新に先驅した松陰先生の矜持と明識憶ふべきである。而して先生の時勢觀は久坂玄瑞に寄せた左の書翰に現れてゐる。曰く

今の計は疆域を謹にするに若かず、條約を嚴にし以て二虜(露と米)を羈縻し間に乘じて蝦夷を墾き、琉球を收め、朝鮮を取り、滿洲を拉し、支那を壓し、印度に臨み、以て進取の勢ひを張り以て退守の基を固うし遂に神功の未だ遂げざる所を遂げ、豐國の未だ果さざる所を果す也蒼穹翔る大鵬の英姿また憶ふべきである。

二

惟ふに現代思潮の主流は公憤なき唯物主義である。而して各國家の脈々たる生命感が之に蝕まれて竟に顚落の蜻蛉返りを打ちつつあること見るが如き有様である。所謂政治の經濟化と稱せらるる題目が流行して打算一點張りにて國政が料理されてゐるなど僞りなき之が實相に外ならぬ。かくて國家没落の運命が急テンポにて迫り來り國民生活はいよいよ混亂の渦中に追ひ立てらるるに至つたのである。所謂現代各層の行詰りに對し精神力の一大飛躍を期待せらるる所以であるが、或る人は之を更に註解して政治家や經世家のイマジネーションの饑饉と叫むでゐる。國家を背負うて起つ士人あり、その進路に幻影を追ひ以て不斷の計策と奮發とが重ねらるるにあらざれば國家生活に恐るべき沈滯が來り、やがて内外より崩壞の悲運に見舞はるるに至ること史跡の雄辯に指さす所である。上醫は國を醫すと云はるる如く救國の大業に當ることは人間至高の目的で所謂三民の長たる所以である。然るに現代の政治家は多く一時の權略に墮し、名利に没頭し國事の何たるかに就ては殆ど知る所なく、不耕而食の意義はボス政治の代辯となつた觀がある。國政不振の因つて來る所深察

すべきであらう。

三

さて我國情の行詰りは我國民の不甲斐なさを如實に自白するもので其罪は素より自ら之を背負はねばならぬ。現に松陰先生は當時已に堂々たる大陸政策を掲げて雄心の勃々たる鼓動を送つてゐること上記の通りである。而して其電波は今日尚之を接受して寸毫の不足なく更に之に因つて發明さるる所また頗る多い。蓋し松陰先生は澄澈たる維新精神の一現化で我開化の偉大なる刺戟であつたのである。今日の計就らず、國情行詰まると云ふが如きことは日本國民精神の破産を意味し先人に對しても云はれた義理でない。かくて我國民は今や我國是に對し矇昧であるか、著るしく自信を缺いてゐること明かである。大陸政策と云はば直にジンコイズムを連想して侵略、武斷を語ることインテリ級に普遍化してゐる病相であるが我大陸政策は裡に我遠大の使命と死活の重大問題を藏し我政治、國防、經濟と直流して微妙の交渉を有すること疑ひを容れぬ。此處に感觸さるる我脈搏が他國の要らざるのお切匙(せっかい)を峻拒すべきことを示してゐることを明識すべきである。

去る四月、ゾーメルグはチユニス行きの途次ミースに於てフランス大統領としての最後の獅子吼を試み當世流行の齒の浮く平和論や軍縮放送を痛快に一蹴して自國々是を大膽に語つたこと尚世人の記憶に新なる所であらう。國家の面目問題と生存問題に對して公憤を發し得ざる國民は自らの死期を早め自らの卑怯を表明するものに外ならぬ。

問題化せる現役軍人の政治論

その是非について

——昭和六年九月十日第百四十四號掲載——

一

ロンドン條約問題を手始めとして滿蒙問題軍革問題等を續り、現役軍人の是等に關する意見の發表が現役軍人が政治を談ずるものとして問題化するに至つた。政黨に籍を置く連中は、唯譯もなく軍人は政治を談じてはならぬと云ひ度いであらう。東京日日や報知抔も類似の意見を發表してゐる。其凡てが法規不知に基く謬論である。夫等の論據とする處は軍人勅諭の中の「世論ニ惑ハズ政治ニ拘ラズ」と宣へる點と、陸海軍刑法の「政治ニ關シ演說若クハ文書ヲ以テ意見ヲ公ニシタル者ハ三年以下の禁錮ニ處ス」とある點とである。御勅意は論者の解釋とは反對の御趣旨であり陸海軍刑法の解釋は誤りである。

二

陸海軍刑法條文中の政治といふ文字の意義が此の問題を解決する鍵である。政治と云ふ文字は種々なる意味に使用せられてゐて、一定せられたる意味を有つて居らぬから其文字の使用せられてゐる箇所に依りて其意味を定むべきである。廣い意味においては國權の動き國務の全體は之を政治と云ふて差支は

ない。軍人は天皇の統帥大權の下に團結して其目的を遂行するに必要なる一切の軍務に從事するものである。從つて軍人は軍政といふ政治を擔當するものである。であるから元來政治に干與すべき本分を有するものであるとも云へる。夫れ故に軍人が軍務事項又は軍務事項に關聯する事項に付き、公然意見を發表し然も夫れが政治の如何なる部面に觸接しても之は其職務の遂行であるから罪となるべき理由はない。世人が軍人は超政治的であつて、一言半句も政治を口にすべきでないと思ふ如きは大なる誤解である。唯軍人は統帥權の下に鞏固なる團結をなし一朝事あるに臨みては一死以て公に奉ずべきであるから必要もなき事柄に心を馳せたり、政爭の渦中に投じて軍人精神を喪失するが如き行爲あらば、それは軍人精神を傷つけるものであるから、是等法益の保護の爲め軍律によつて處罰するものである。

三

明治天皇が軍人に下し給ひたる御勅諭に於て

『朕カ國家ヲ保護シテ上天ノ惠ニ應シ祖宗ノ恩ニ報キマイラスル事ヲ得ルモ得サルモ汝等軍人ガ其職ヲ盡スト盡サヽルトニ由ルゾカシ我國ノ稜威ノ振ハサルコトアラハ汝等能ク朕ト共ニ其憂ヲ共ニセヨ——朕ト一心ニナリテ力ヲ國家ノ保護ニ盡サハ我國ノ蒼生ハ永ク太平ノ福ヲ受ケ我國ノ威烈モ大ニ世界ノ光華トモナリヌベシ』

と宣給へり。以て軍人が國權の振張、國威の發揚に專念するの當然であることを知るべきである。殊に滿蒙の野は明治天皇御遺業の地であつて、我國の作戰行動の要地である。此の地域に對する權益の消長は、國軍隆替の關する處である。軍部が幣原外交に放任すること能はずして、擧げて其退却主義を論難するは尤もであつて、明治天皇の聖旨を奉ずるの軍人として當然のことである。又軍人が政黨の軍縮論に反對して意見を公にしたと云ふ

ても之は亦當然過ぎることである。殊に此點に關しては明治天皇は最も力をこめさせられ給ふたのである「抑國家ヲ保護シ國權ヲ維持スルモ兵力ニ在レハ兵力ノ消長ハ國運ノ盛衰ナルコトヲ辨ヘ世論ニ惑ハス政治ニ抱ラス」云々と宣給へること是れである。國權の消長は兵力に關するから、軍人は政治家の俗說や便宜論に媚びたり惑亂せられて自家の信念を曲げてはならぬ。何處までも毅然として世評に超脫して、國防の安全を期すべきであると嚴示し給へるものである。況んや國家百年の長計を地方選擧の犧牲に供せられ、投票の客體に使用せらるるが如きことあらんか、此の御聖旨に悖り、軍人の本分に背くものである。彼等が此の御聖旨を援用して、軍人は政治家の爲すが儘に放委して一言半句の辯解も能きぬものの如く宣傳するは、飛んだ間違ひであるのみならず、許すべからざる非違である。論じて茲に至れるとき第九師團が飛行機で滿蒙問題に關する宣傳ビラを撒布せりとの報道に接した。

四

又東日は某少將が地方講演に於て我國が政黨政治の弊に依りて、國内が二つに分れてゐると云ふたとか傳へて居る。假りに之が事實なりとするも、少しも違法ではない。何故なれば軍隊は統帥權の下に精神上の團結を爲すを要するものであるから二大政黨が源平二派に岐れて鎬を削るが如きは、夫自體軍事上の深憂となるべきである。某少將が軍隊精神の上から、政黨の現狀に言及するも何等差支はない。夫れであるから、軍人の意見が偶々政治上の事物に觸接せりとて、大騒ぎをなすが如きは事理を解せざる一知半解の徒である。齒牙に措くにも及ぶまい。殊に共産黨の如きは皇室に對して禍心を包藏すること明白であるから、彼等をして進出することなからしむる爲めに努力することは、軍人の本分より來る當然の義務である。一般の政黨人に對しても、皇室の尊嚴を冒瀆するが如き行動や軍隊の士氣に關する事

柄等に付き、軍人が之に對し意見を發表するも何等咎むべきではない。

五

果して然らば軍人の政治的意見の發表は、如何なる場合に陸海軍刑法の適用を受くべきかと云ふに、軍務に何の關係を有せざる事項にして、且國軍の利益を害するが如き事柄に關する、政治的意見の公然の發表あるに於て、其軍人は軍律たる陸海軍刑法に問擬せらるべきである。國軍の利益即ち其法益を害する事項と云ふは、例へば軍人の其本分を忘れて選擧演説をしたり、政爭の渦中に投じて一方に加擔したる意見を發表したりする如き軍人精神に背反すべき事柄を指すのである。換言すれば軍人が假りに、政治論を發表しても、軍人精神を傷ふが如き政治論でなければ軍律には觸れぬのである。軍律と一般律とを問はず、法益の侵害なくしては罪を構成すべきものでは毛頭ないのである。

六

幣原外相にして依然として退却外交を變更せず、井上藏相にして自家政策の失敗を棚に上げて軍隊を赤字の犧牲に供せんとするならば、軍部は宜しく結束して之に對抗し、國權と國軍とを擁護すべきである。何の躊躇か之あらんやである。況んや萬一謂なく軍閥横暴抔の聲を發し以て故意に軍部を傷つけんとするが如きあらば、其對手の何人たるを問はず、斷然起つて　陛下の軍隊をして不正の侵害より救脱せしむべきである。而して之れ實に兄等が國家に對して負擔せる本分であり責務である。

共産黨公判に裁判の權威墮つ

敢て宮城裁判長に質す

——昭和六年九月二十日第百四十五號掲載——

一

第二次日本共産黨事件は公判開廷今や殆ど二十回に及むでゐる。而して被告總數二百八十名の中所謂首領株を含む第一グループの數名が勝手な陳述を終つたのみで全部の審理を了へるまでには尚今後一、二年も要しさうな氣配である。筆者は我慢に我慢を重ねて審理の進行を凝視してゐたが今は到底默するを得ず、左記の苦言を裁判長宮城氏に寄せて反省を求むることにした。

一、宮城氏の「裁判」認識に誤ちなきかを疑ふものである。裁判は現實の事件に就き公正に法の適用を司どれば可なり、他に何等の異圖を藏すべきものでない。問題の共産黨員は我國體の變革を期し、我現行法律を否定して勞農ロシアを祖國と仰ぐプロレタリア獨裁を企てたもので裁判は此明白なる徒黨の革命豫行行爲に對し些かの躊躇することなく端的に我法律を適用すれば可なりである。資本論を持出し、革命理論を究めざれば裁判し能はずとならば之れ明かに裁判の自殺に外ならぬ、若し斯の如くんば裁判は大學の研究室に移すべく敢て司法權の發動を俟つ必要はない。キツプリングではないが東は東、西は西、共産黨が本質的に明白に我國家否認に出づるものたる以上討論會の百萬遍を重ねて見た所、所詮は徒勞で

ある。事實は初めより解つてゐる。裁判は之に裁斷を與ふれば足りるのである。

一

二、宮城氏は裁判の嚴肅性を忘れてゐないか。傳ふる所に依れば共産黨事件の公判には「被告會議」あり「自由陳述」あり、拍手あり、デモあり、アヂあり、果は刑務所の衞生設備の改善要求をまで持出して喰つて掛かると云ふ始末で之が近頃の裁判かと怪しまるる許りである。素より裁判が悉斯くあるのでない、他の法廷に於て被告人の恐れ戰いて審理を受けてゐることは周知の通りである。然るに獨り共産黨事件に限り喧々擾々として法廷の嚴肅を蹂躙せしめてゐるのは何の意か、解し得ざる疑問である。或人は之を目して裁判の時代化と云ひ更に語つて裁判の自己恐怖であると斷じた。惟ふに裁判は斷罪である、斷罪にエビス顔や輕口あつては溜つたものでない。昔は大津事件に於て兒島惟謙は毅然として官權の大壓迫を排して我司法權の確立を達成したが今や我法官は時代化の幻影に追はれて裁判の足取りが亂れ勝ちである。外に人氣の誘惑あり、內にテロのデマが飛び共産黨事件の裁判に臨むことは時代人に取りては一種の大津事件とも見らるべきものかも知れぬ。兎に角裁判に嚴肅性を缺いては已に其存在價値がない、嚴肅性は化石となり易いかも知れないが水母には斷じてなり得ない筈である。

三

曾て大戰後墺太利にベラクン革命あり、一味が政治上大小となく無電によりモスコーよりの指揮を受けたこと尚世人の記憶に殘つてゐる。爾來モスコー政府の世界攪亂策がいよいよ露骨を極めて來たので列國は之が對策に就て萬計を傾けるようになり其取締に就ても寸毫の假借なきに至りしこと周知の通りである。共産運動は國際關係に於ては紛ふ方なき內政干涉で且つ深刻なる侵略戰に外ならぬ。而して各

國内の各細胞は各自國に反逆してモスコー政府の侵略戰に呼應すべきもので一點同情の餘地なき事多言を俟たぬ。因つてデモクラシーの本場然たるアメリカの如きも最も徹底した共産黨取締を敢てする有樣で本年春議會に提出されたフイシヤー委員會の意見に從へば共産黨員となることは全く生活を奪はるることに外ならぬことになる。現に最近在米の同胞の一人が共産黨員たるの故を以て日本に送還さるることとなつたが當時彼は日本到着により死刑の宣言を受くべきを直感して米國官憲を手古摺らしてゐるとの外字新聞の報道があつた位である。また復興ドイツの一大禍機は共産黨の公許にあつたとさへ云はる程で今や共産黨の國事破壞に就ては各國識者の一致して指彈する所である。共産黨の公許なき我國に於て返つて此審理あるは我裁判の權威の爲め深く惜まざるを得ない。

誰か難局に立つ

世界の全面的動搖至る

——昭和六年十月十日第百四十六號掲載——

一

世界の全面的大動搖は竟に來た。誰か此の難局の矢面に立ち得るものぞ、而して動搖の端は經濟問題と支那問題と而して共産黨問題から發してゐる。

フーヴア・モラトリアムあつて以來滿三ケ月、去

月二十一日夜半突如としてダウニング街から捲き揚がつたイギリス金本位停止の颶風は意外の激動を全世界に與へた。イギリスの此の棄身の大旋轉が何を語るかに就ては是非未だに定まらぬものがある。或人は之を目して英國の米佛に對するつら當であると見た、或は然るべき理由もあらう。別して對獨賠償及戰債問題に對する米佛兩國の態度には寸毫の同情なく此上の忍耐は徒らに待つて自國の政局を見るのみであると看て取つたのが英國政治家の見識であつたろう。かくて自國の肉を割いて米佛の骨を刺さんと掛つたのがイギリス此度の放れ業である。見よイギリス財界が一度死地に陷るや果然フランス財界は甚大の刺戟を受け磐石を誇る同國の金隔界は頓に憂色深きものあるに至つた。アメリカ財界の複雜性に就ては夙に識者戒心の的であつたがポンドの現實曝露は遑にウオール街を震憾せしめフーヴアの袖引き合つて暗澹たる前途に呆然たる爲體である。而して其影響は竟に電波の如く我國にも至り本月六日日本銀行の利上げとなり先づ警戒信號の第一報となつた次第である。世界經濟を搖がしたイギリスの大賭博に就ての政治的見解はこれ以上略記する。さり乍らイギリスをして茲に至らしめた主因は何と云つてもイギリス經濟界別して其産業界の全面的頽勢である。棉業、炭業、造船業を始めとして其重要産業が技術、經營兩つ乍ら新時代の競爭に堪へ得なくなつたことである。而して世界に雄視してゐた其銀行界も負擔重き金本位制を無理に決行して喘ぎ通して來たのであつた。かくて米佛別してフランスの一擊なくも此種の運命に見舞はるること怪しむを要しない情勢にあつた。しかも此經濟難局に當面して起つたイギリスの所謂擧國一致内閣はどうであつたか、名は擧國一致でも實は之に徹底せず、其政界の癌種と云はるる失業年金に就ても折角の名案たるウエー委員會案を骨抜きとして依然として選擧策に叩頭してゐた實況であつた。惟ふに經濟難局は各國ともに政黨幕府凡百の秕政に對する總決算として深化したもので各

國の政治家が悉く對内策に引摺られた結果である。經濟難局の打開は所謂政黨人に依つては不可能なることを今や世界の事實が雄辯に語つてゐる。

二

支那問題は斷じて世界の問題ではない。さり乍ら世界の物好き連と支那政客連の策動から今や問題は兎に角世界變局に一大關連を有つに至つたことは事實である。去月十九日夜半に起つた不祥事を切掛けとして支那側が逸早く國際聯盟に駈けつけたことは例によつて豫定の行動であつた。而して日本が何故に自ら國際聯盟の發動に同意したかは究明を欲せざる事情にある。しかも事態を此ままに推移せしむるに於ては滿蒙問題を未解決にして其まま支那の全面的崩壞が至る情勢が明かとなつて來た。かくて滿蒙問題の解決は所謂支那問題の一部をなして我國としては容易ならざる重荷を負ふこととなる。我國家として之を忍び得るや否は素より多言を俟たぬ所であらう。しかるに支那の客觀的情勢は日毎に惡化の度を強め來り蔣、張の没落はさる事ながら因つて來る支那民心の狂化は竟に世界大動搖の一雷管たるなきかは可なりの心配さがある。茲に於て我國の對支策別して滿蒙問題解決の急務は一刻を爭ふ事態にあることを識らねばならぬ、此時、我對外策が踉々蹡々、依然として自屈に出でんか、茲に世界の變局は更に拍車を加へて收拾に由なきに至ること必定である。國際聯盟にして尚飽迄事態の正視に誤りあらば我國は潔く脱退して可なり。況んや加入國ならざるもののお切匙(せっかい)の如きキツパリ斷るこそ大國日本の時局觀として一見識でないか。外力の重壓などさらさら無用の心配である。支那問題を發端とする世界動搖の奔流を堰とむることは日本國家主義者の鐵腕に俟つの外はない。

三

共産黨問題は事實關係としては世界共通の政治問

題で詮ずる所對露問題に歸着する。紛々擾々たる宣託と雜多の假面を剝いで見てさて俎上に載つた共産黨を透視する時、モスコー政府の躍る姿をハツキリと看取し得たではないか。而して赤色ロシヤの侵略的意圖は帝政ロシヤに輪をかけた雄大なもので之が爲めの五年計畫の途上已にバルカン方面に對し一大恐威を與へてゐること周知の通りである。更に强制勞働に因るダンピングを先驅して世界市場を攪亂せしむるに拔目なく裡に共産黨戰術を縱橫に操るロシヤの活躍は將に全世界の混亂に火付け役を買つてゐるものである。しかも見渡す所對ロシヤ策に斷然たる決意あるもの果してありや。

今や世界の全面的崩壞の兆は現れてゐる。能く之が矢面に立つて難局に立ち得る者は誰か。

暴風警報至る

世界變局の動きを觀よ

——昭和六年十月二十日第百四十七號掲載——

一

今や世界の全面的動搖を語る大變局の警報は例外なしに各國に掲げられてゐる。而して各國の明日は雨か、嵐か、各國民の面貌には一沫の不安を漂はせてゐること隱し得ぬ情勢となつた。

この世界的大變局は勿論我國にも迫つてゐる。而して其表現が明治維新を偲ばしむる程の、否時には之をも凌ぐべき程の大革新であるべきことさへも豫想さるる迄に至つて居る。しかも此難局を擔當すべき我新勢力は如何なる對策を有し、進路を何處に取らうとするのか。先づ世界の全面に低迷する氣壓を察して其コースを辿つて觀る。

惟ふに今や進行途上の大變局は内に於ては或程度の經濟關係の水平運動を取り外に對しては國際關係の整調を期してゐることが其眼目である。現に世界の主潮は國家統制の强化を計ることにいよいよ急であるが、其狙ふ所は因つて以て先づ自國民の經濟生活の地均しを試むるにあること明かである。近く行はれたドイツの獨裁制が思ひ切り高所を掘下げ遂に個人所得の領域にまで達したことは其著るしき傾向であつた。かくて他面失業問題其他に於て社會政策の活潑なる發動を期し企業は素より個人經濟の上下をも適當に制して其落差を少からしむることは新興力に乘じてゐるものの偽りなき抱負であるやうだ。敢てロシア、イタリーの跡を辿つてゐるのではない。英米佛の新傾向また然りである。國家の統制を强めて經濟關係の極端な跛行を整形する以外に世界變局より來る大波浪を乘り切り得ないからである。國家の特色を深く染めて時代のこの難境に立たねばならぬことだが事は寔に容易な業でない。茲に昭和維新の一大試練がある所以である。

二

國際關係の整調が國際事情の深き認識から出發さるべきことは勿論である。近く極東旅行から歸米したギボンス博士（Dr. Herbert Adams Gibbons）は滿洲問題を正視して曰く「日本軍の滿洲からの撤退はパナマ運河地帶からアメリカが撤退すると同じ結果を招來する」と。さり乍ら國際政治の現實は必ずしも國際事情の正當の認識に據つて動いてゐるものではない。現にアメリカがパナマ地帶に感觸する神

經を其まま滿蒙に働かせてゐたら勿論オブザーヴアをジユネーブの會議に出す莫迦氣はなかつたであらう。しかも之れアメリカの心事を善意に解しての上である。國際聯盟の意圖と而して間抜けたお節介で滿洲問題は一段と惡化したことは遺憾であつたが此一事例を見ても國際的危機の那邊にあるかを察し得よう。國際調理を期すべき世界の大變局に臨むことは御座なりの機會主義者には斷じてなし得ざること明かである。

三

さて滿洲事件は世界環視の裡に幾變轉を重ねてゐるが之が解決に當つては必然的に内外の激動を招くことを覺悟せねばならぬ。しかも此必勢を前にして我國は何の對策あるか。また我國運の辿るべきコースは奈何。曾て佐久間象山喝破して曰く

欲戰必勝、不守必固不可、
欲守必固、不陣必定不可、

と。顧みて我陣容を定むべきである。陣定まらずして何の必勝がある。而して世界變局の風雲に乘ぜんとせば這裡に動く人心の機微をも逸してならぬことは勿論である。

世界の重壓を排す

我唯一の活路は滿蒙自立

——昭和六年十一月十日第百四十八號掲載——

一

世界の重壓は滿洲事件に托して日本一國に落下して來た。英、米、佛の巨頭を始めとしてグアテマラ、パナマの蓮葉連まで手を携へて日本窘めに掛つてゐるのが昨今の形勢である。來る十六日の聯盟理事會を俟つまでもなく大勢は已に決して居るが、我國としては徒に萎縮退嬰を事とすべき秋に非ざること論を俟たぬ。雄邦日本の權威と作法とは如何なるものであるかを世界に明示するには絶好の機會到來である。

惟ふに聯盟の日本觀は根本に於て誤つてゐた。壽府（ジュネーブ）に日本の姿相を浮かべ、霞ケ關に日本の脈搏を打診せんとせば竟に致命的失策に陷ることは當然である。殊に滿洲問題に感受する日本國民理由なくの神經は特異なもので之れに手を觸れたが最後、國民必死の力を以て外力排斥に努むること殆どその反射作用となつて居る。聯盟が其構成と使命を遠に逸脫して長驅東亞に至りしかも日本の生命線を切斷せんとしてゐることは無智冒險此の上なき有樣である。日本が眦を決して立ち上り獨往自在の覺悟をきめたることは敢て昨今の沙汰ではない。

二

さて滿洲事件解決策に就て我外務當局は必ずしも我國民的情感を傳へてゐるものでない。對聯盟關係の失策百出は暫らく措くも問題の根本策にして且つ焦眉の急と目されてゐる日支直接交渉の成行は一體どうなつてゐるのか。我政府は去月二十六日の臨時閣議で決定した日支直接交渉の基本的原則と稱する所謂五大要綱の聲明書を發表してゐるが、文法が餘りに堂々として居り返つて時局の實際に不似合なること寧ろ滑稽の感があつた。

其の第五項に曰く

熟ら日華兩國の前途を考ふるに今日の機運は双方協力して速かに時局の收拾を圖り以て共存共榮の大道に歩を進むるにあり、帝國政府は前顯兩國間に於ける平常關係確立の基礎的大綱協定問題並に軍隊の滿鐵附屬地内歸還問題に關し中國政府と商議を開始するの用意を有するに於て今なほ滲るところなし。

と云つて居る。文中中國政府とは勿論南京政府のことであらう。しかるに本月一日南京政府から發表された聯盟への通牒によれば共存共榮の考へなどはさらさらなく、其第三及第四項によれば日本の撤兵なくば直接交渉など受付けぬ權幕である。斯くて我當路者に從へば談判の相手は行衞不明となつた譯であるが更に不可解を極めてゐるのは我當路者が我撤兵期に就て屢々無用の證文を入れて居る點である。現に最近ブリアンから逆襲を喰つて居る九月三十日の決議の如き日限こそ切らぬが撤兵期の最短を約したもので我國民の斷じて服さざる所である。知らず我當路者は内外に對し何の辯明、何の確信あるか、別に此難境を切り抜ける方途あるか。

三

問題の全局を通觀するに、滿洲事件の解決策として我國の採るべき殆ど唯一の方法は、滿洲獨立政權

の急速的確立に徹底的援助を與ふることである。滿洲人が滿洲に據つて自治を享有せんと欲することは、素より無理からぬ次第で滅滿興漢を翻へして革命を敢てした南京政府に於ては微塵の苦情も云へた義理でない。況んや累年軍閥の秕政に泣く滿蒙は、一面我特殊地域たるに於てをや。滿洲獨立の義擧に感受性なき一事こそ差し迫つてゐる國際戰の落伍者たるを示して遺憾がない。若し滿洲獨立と云つて角立たば滿洲自治と云ふも可なり。滿洲自治運動に我同胞の加擔して何の憚りあるか。我當路者が左顧右眄して意を決し得ざる裡に大勢の逆轉を見るに至らば滿洲問題は直轉急回して日本の心臟を衝くに至らんこと必定である。滿洲問題に就ての直接交涉とは其相手として此新興勢力を措いて他に何處に求むべきか。南京政府は聯盟に獅噛(しが)みついて曰く

極東の危險を防止する唯一の方法は支那政府の提議する永久調停委員會を設立することである。

と、かくの如くんば滿蒙問題は尠くとも國際聯盟の御宣託なくしては決し得ざるに至ること明かである。問題の解決に一步を進めん爲めに全同胞自ら先づ一步を進めよ。

聯盟政治家の苦悶

國際丸逆櫓を漕ぐ

——昭和六年十一月二十日第百四十九號掲載——

一

國際聯盟は今やいよいよ其コースを取違へて自らを岩壁に突當ててゐる。之をどう動かさうとするのか。

惟ふに聯盟は九月二十二日以來一再ならず空廻りをしてゐた。二三の船員は乘込むでゐたが實は方角構はずに漕いでゐたのである。さり乍ら乘客は初めから乘つてゐない。否國際丸此度の出航に對しては列強別して英佛の國民は氣乘りせざること一通りでなく、此孤舟に乘つて大海に出づるが如きは思ひも寄らざることで不安は素より豫感されてゐた所であつた。かくて憐れむべき國際丸はレヂング、セシルの音頭にて帆を揚げ、ブリアンを舵手として兎も角も動いたものである。而して航海は暫時快適を續けたものの如くであり船員は獨り自己陶醉に耽つてゐた。

二

さり乍ら故障は意外にも彼等の本國から涌いて來た。彼等の心中漸く動搖を來し始めたこと當然である。イギリスに於てはマンチエスター・ガーヂアン

等自由黨系二三紙を除いては一齊に國際丸の此上の深入を戒め出した。現に本月九日のデイリー・メールの如き、『滿洲に干渉する勿れ』の危險信號を振つてゐる。曰く

イギリス國民は事件の成行を今後一層注視すべきだ。何となれば聯盟理事會のお節介屋が不幸にして此紛爭に肩を入れて反日本的偏見に捉はれてゐるが如き方法を取るに決定したからだ。理事會はこれらお節介屋の協贊により日本に十六日迄に撤兵すべきことを要求しまた之に應ぜねばイギリス及列國は大公使を召喚して經濟封鎖を爲すべきことを暗に仄してゐる。イギリス國民としては絶對に斯る行動に贊成しないものである事を十六日以前に明かにしておく必要がある。

とて滿洲事件がイギリスに取り何等の關係なきことを力說し更に進むで日本辯護に出でた程であつた。フランスの言論界も亦響に應じて立ち「ブリアンを始めとして歐洲の諸國民は支那馬賊の味方をした」と痛擊し急進社會黨の首領にして前首相たりしエリオの如きも去る十二日、嫩江事件の重大性を指摘しこれ「滿洲のマルヌ」 The Marne of Manchuria であると斷じ日本の行動に深き同情を寄せた程であつた。

三

惟ふにレヂング、セシル、ブリアンの如きは何れも英佛政界の大巨頭で百戰往來の古武士である。而して彼等が相提携して國際丸を操つて見たものの俄然逆櫓の苦杯を滿喫しては、遂に更めて新技巧に新スタートを切出するの餘儀なからしむるの外なかつたものである。或人は之を評して彼等が自國民から游離してゐた結果であると斷じた。蓋し英佛等の國民が國際聯盟の活動に關心を有つ所以のものは主として歐洲問題別して對獨問題を中心とする勢力均衡と安全保證問題が其核心であつたからである。しか

るにセシル、ブリアン等が獨善をきめ込み事功を焦つて自國民の現實的志望と遙かに懸け離れた行動を取るに及んで民心が彼等を去らんとしたることは當然である。セシル、ブリアンの雄を以てして尚然り、我政治家の昨是今非に對し思ひ當ること一入（ひとしほ）である。

フアツシヨ運動起る

滿洲事件一石を投ず

——昭和六年十二月十日第百五十號掲載——

一

外國の一教授はフアツシズムを以て世界大戰の産物であると喝破したが今や眼前の滿洲事件は我國民を驅つて當年のイタリーに産したフアツシヨ運動を惹起せしめてゐる。之をフアツシヨ運動と呼んでバタ臭ければ國粹運動又は復古運動と稱するも可。更に維新運動と叫べばまた一段の妙趣があらう。兎に角現代の流行語を借りて云はば國家構成の各層が行詰つて來たので茲に之が打開策として現はれて來たのが所謂フアツシヨ運動である。フアツシヨ化運動は滿洲事件以來學生、青年層を始めとし日本主義、社會主義の各陣營からも勃然として擡頭して來た實勢的傾向であるが因つて以て國家意思の統一と純化

と強化を期せんとしてゐること深察すべきものがある。

二

惟ふに所謂ファツシヨ運動の解剖と之が適應性に就て論議すれば諸種の意見もあらう。さり乍ら今日の問題は此種のアカデミツクな穿鑿やヒステリカルな抗議の如き閑事に非ずして此國家非常時に要求さるべき活機如何にある。

昨年九月二十五日ドイツ國粋黨の首領ヒトラーは法廷で豪語して曰く

吾等は「第三獨逸帝國」の建設を期する。第一の舊獨逸帝國は大なる名譽と光榮ある事柄を見たが夫は「國民」を建國の中心基礎とはしなかつた。第二の帝國即ち現在の獨逸は民主政治及平和主義を中心としてゐる。吾等の建設せんとする第三帝國は國民的觀念と國民的理想を以て中心的キーストンたらしむものである。

また曰く

六百五十萬の投票は我黨に向つていよいよ奮勵努力して完全なる政治權力を獲得すべき義務を負はしめた。今や獨逸は一方に「市民」と他方には「プロレタリア」とに分裂してゐる。此の溝渠を除き去る能はずんば獨逸が滅ぶる時が來る。

獨逸ファツシヨ運動總帥の抱負と意氣知るべしであるが、本場のイタリーに於ける國民主義の徹底に就ては更めて語るまでもない。

三

さてファツシヨ運動の政治的意向を示せば議會輕視の行動化である。今日の所謂政黨に引曳せらるる議會政治が殆ど例外なしに私黨政治、無能政治であり爲めに國家意思を分裂に導き國民負擔をしていよいよ重からしめてゐることは一點疑ふ餘地がない。かくて國家意思の統一と弱化と強化を目的とするファツシヨ運動が今日の議會——或は投票制度——を

輕蔑するに至りしこと當然である。而して現代政治の不信を糺彈して已まぬ該運動が同一見地に立つて國家の統一を敗る資本主義と階級鬪爭に對しても重壓を加へてゐること怪しむを要しない。しかも此運動の急先鋒が多く青年血氣の愛國者であることなどまた當然の大勢であらう。

素よりファッショ運動は舶來ものである。さり乍ら政治形式を始めとして勞働運動その他の舶來ものが一通り試驗濟となり其清算表が掛値なしに公示さるに至つた今日、其最後の弔鐘をファッショ運動に據つて撞かるるとも不平を云はれた義理でない。しかもヒトラーの所謂「第三帝國」が我國に於ても時代的にヨリ明かに建て得る希望を起さしめたのは、一に滿洲事件の賜物である。我等は潛心熟考して滿洲事件の意義と其發展性を活用することに就てこの絶好の機會を逸してはならぬ。

多難の一年を送る

責任回避の清算期

——昭和六年十二月二十日第百五十一號掲載——

本年の回顧一二に就て語る。

先づ思ひ出さるるは我議會政治の急テンポの權威失墜振りであつた。所謂第五十九議會の休會開けの

一

昭和六年將に逝かんとす。深き感慨に打たれ乍ら

活動は本年一月二十二日を以て開始されたが論戰の一主題は疑ひもなく昨年十月二日御批准となつた倫敦海軍條約であつた。當時政府及び與黨の高調した國際平和の招來と國民負擔の輕減とが一年を經ざる今日已に悲慘なる現實曝露を敢てしてゐること周知の通りであるが、問題を繞つて端なくも物議を釀したのは幣原首相代理の所謂失言沙汰であつた。卽ち二月三日夜の衆議院豫算總會に於て氏は「御批准になつてゐるといふことを以て此倫敦條約が國防を危くするものでないことは明かである」と斷じて輔弼の全重責を回避した。而も問題は例に依つて例の如く亂鬪宜しくあつて後失言取消の一幕を以て一應の解消を見たが、此議會現象が現實に「議會中心政治」自らに對し匕首を擬したものであることは明かである。筆者は此種の不愉快な回顧談を恥ること勿論であるが此卽興劇こと實は如實に議會政治のカラクリをまざまざと世間に照明したものであつた。

二

惟ふに所謂議會政治は責任回避政治である。別して其末期症狀にある今日に於て其弊最も然りである。しかも國家非常時に際して政治の局に當るものが其失政に對し自ら責任を取らざるに於て國家生活は竟に如何になるべきか。國家非常時に際して取るべき責任とは單に辭職で濟まさるべきもののみではない。或は當路者の決定的自裁をまで要求さるべき場合もあらう。封建時代はこれであつた。而して封建時代に於て然りしが如く現代に於ても凡庸劣惡の者が國家の要職を占むることは政治的一大科罪である。而して之を許容して怪しまぬ時代が沈滯不振の國家相を呈してゐることまた然りである。之を本年の我國家諸相に就て觀るに如上の憾みなしとは斷じ難いものがあつた。勿論之を政治面に限らるべきではなく所謂社會不安の多くの主因が茲にありしことは疑ふことを得まい。或はこの傾向的反動を見て旣

成勢力の顚落と稱し、或は下剋上の深化と斷じたがその具體的運動に至りては特に茲に指摘する迄もなき程である。

三

佐久間象山の有名の語錄に曰く

余年二十以後乃知匹夫有繫一國三十以後乃知有繫天下四十以後乃知有繫五世界

大丈夫の意氣憶ふべきである。之を嗤つて時代錯倒と譏るものあらば大なる心得違ひであらう。年少にして志を國家の前途に懸くる者あらば能く自己を活かし、國家を救ふこと可能である。國事に交渉なくして活くることに何の意義あるか。況んや國家冒瀆の徒たるに至つては沙汰の限りである。歲末に身上を回顧すると倶に國事との交渉如何にも想倒して見ることまた一入の大切事である。國家の明日を期し得ずして吾明日は斷じて期し得ない。

昭和七年を迎ふ

朔風裡に維新を語る

——昭和七年一月十日第百五十二號掲載——

一

旭光曈々として扶桑に上る。それ正に擧國一家、一系の聖天子を仰ぎ見るものの心境である。而して年始に先づ此心を新にして聖壽の萬歳を高唱し國運の隆昌を祈ること恒例ながらも日本人特有の情感であらう。

惟ふに昭和七年の元始正月は戰時氣分を以て明けてゐた。卽ち滿洲事件の進展途上に乾坤の一轉を來たしたのである。皇軍が縦々朔風裡に滿蒙の天地に馳驅すること四ケ月、新春第二日に入りては竟に錦州を陷落せしめ茲に我東洋經綸の序曲が漸く一轉機を作らんとしてゐること眼前の實勢となつた。滿蒙時局が内に於ては昭和國民運動の先驅となり外に對しては國際水平運動の前衞たる運命は早くも豫想されてゐる。

二

汎歐羅巴運動の提唱者たるクーデンホーフエ・カレルギは其主宰せる雜誌「パンイウロパ」昨年十一月號に於て「日本モンロウ主義」を高調し滿洲事件に對して採つた國際聯盟の無識盲斷を嗤つてゐる。彼の

主張は日本の對世界宣言其まゝである。曰く「滿洲から手を引け」(Hande weg von der mandschuei S.251)と國際聯盟が佛にルール、英に埃及、米にニカラガ、伊にコルフ、波にヴイルナ等々の各地に自由行動を許してゐる以上、更に切言すれば英及米に對し夫れ夫れモンロウ主義を認めてゐる以上、國際聯盟が認識と實力の遙かに之に及ばざる東亞に對し日本モンロウ主義を認め得ぬ何等の根據はなき筈である。此點クーデンホーフエの所論に寸毫の非難はない。夫れ湯武兵を用ゐて逆となさず、國を併せて貪となさずとか、日本モンロウ主義は日本精神の擴充高張で、兵を動かすや眞に已むを得ざるに出て侵略防遏の繩張り亞流と同一視し得ざること素より其處である。今日に於て尚我大陸政策に就き媚々として語るが如き自ら欺くの類のみ。

三

滿洲から手を引けと外に呼び掛けた日本はまた內に顧みる所も決して尠しとしない。而して滿洲事件が差迫つてゐる昭和維新に一石を投じてゐることは見逃せぬ事實である。近く某新聞の奉天通信は一兵士の時局觀を掲げてゐる。曰く

我々は決して死を怖れる者でないが我々の死によつて廣く日本國民全般が幸福になり又善良なる支那民衆との心と心との提携を計り得れば非常に滿足である。併し斯かる犧牲を以てして其結果が一部の者を利益し日本國民全般に何等の干渉も起させないやうな事態を見ることは心外である。

言や短し、さり乍ら熠々として沖天に燃え旺る火の柱が何であるかは篤と明識せねばならぬ。滿蒙の鏡に動く我國の姿相こそ深察すべき限りである。

本年は昨年に幾倍して多事多難であらう。しかも上に若き聖天子を戴きて萬里拓開の壯途に臨む身に意氣揚がらざる筈はない。深き感慨に打たれ乍ら此年頭辭をつづる。

社會教育の權威

首相の思想論一瞥

——昭和七年一月二十日第百五十三號掲載——

一

去る十四日開會された地方長官會議に於ける犬養首相の訓示中に思想問題に言及して左記要旨があつた。卽ち

近來久しく未解決の案件たる思想善導の一事は最も重大且つ最も至難の問題でありますが、之を要するに國民道德の根源たる道念の涵養は單に文字言語の上より之を求むるを得ず、本より教育勅語に基き勅語の御主旨を獲得せしむるには人々自發の道念より發生するやう指導すべきものにして其道念の發生は家庭教養に根を發し繼いで小學の教養に於て其素地を作るべきものなるが故に其師たるものの道念を修練するが爲めには第一に師範教育の改善に待つべきものと信じます。

首相が道德教育を力說し、先づ家庭教育、次いで學校教育別して小學教育に留意したことは平凡ながらも時弊を衝いたものである。しかも其炯眼を以て社會教育に一瞥を與へざりしは何の意か。

二

近く文部省の學生思想問題調査會は左傾防遏對策に就き調査の結果を正式に發表しようとしてゐる。しかも其大綱案と稱するものを觀るに先づ所謂左傾思想發生の原因が多くは社會相の太しき缺陷にあり之に對し青年學生の純情さからの憤りを發してゐることを認めざるを得ない。其社會的情勢に就て見るに政界の腐敗を呪ひ政治並に政黨に對する極度の不滿を抱き思想界、學界に就ては外國思想の模倣に毒せられ、更に教育の缺陷其まゝの人生觀、社會觀の認識不足を嘲つてゐる。かくて或ものはマルキシズムの實踐批判に心引かれて竟には左傾囚徒として可惜世間地獄に墮するに至ること辿るべき運命のやうである。卽ち社會の客觀的情勢が純情分子を驅つて斯の如き破目に陷らしむるに至るものとすることは必勢の結論でまた否み難き事實でもある。所謂社會教育の權威の失墜が其最大の責任であることに間違ひはない。

三

惟ふに思想善導の解決は犬養氏の說く迄もなく重大且つ至難の問題である。さり乍ら今日の思想善導は昨日までの思想善導と異り嚴に「文字言語」では解決されない。否或る觀點から論ずれば天降りの單なる思想善導など時代錯倒の甚だしきものである。例せば匆卒として思想の善導といふが如きことは已に死語となつて居る。今は其意味が一變して政治化し、行動化して來たので所謂共產思想を口頭で善導するなど嚴密の意味では一種のナンセンスである。今日の共產思想は共產政治運動で其誇りよがしの理論は之が爲めの戰術であり其理論から戰術を差引けば何が殘るのか。幻影の連鎖に眩惑さるるものが如何に多きかは嘆かはしき次第である。かくて表面化した共產思想對策は實質に於て純然たる取締問題と而して眞個の政治問題であること本紙が屢々力說して來た

通りであるがしかも此種の政治問題に臨むで政治家の權威なきこと亦意外の爲體である。放火と消防の二役使分けが如何に危險であるかは政治家自らが誰よりも熟知する所なるべく百の思想善導論が一の政治取引に裏切らるる悲慘事はザラに見る所である。思想善導の解決は爲政家自身から期待さるべく之が爲めの社會教育、社會制裁は刻下の急務であらう。

興味なき選擧戰

重大時局に抹殺さる

——昭和七年二月十日第百五十四號掲載——

一

我國史上殆ど未曾有の重大時局を前にして源平戰其のままの選擧騷ぎが展開されてゐる。しかも期間三分二を過ぎて投票日も餘す所十日と云ふに氣乘りせざること甚だしくこれ亦殆ど未曾有の選擧風景である。而して景氣、不景氣の問題、ドル買買の問題、彼等の呼號する滿蒙問題、臣節問題など悉く變調子になつてゐる。所謂際物的印刷物や、場當り演說會や潛行運動や取引行爲など文字通りに時局に生くる國民からは已に游離してゐるのである。一出征軍人激語して曰く「俺は今死出への旅だ。東北には同胞

の饑餓戰が動いてゐる。しかも國帑五百萬、徒費幾千萬、選擧とは何の態だ」と片言以て斷じて彼を社會主義の洗禮者と片付くるは不可である。眦を決して立ち手に唾して時局の重壓を押除けんとしてゐる今日の日本に於て政爭とは迷惑至極ではないか。

二

ドイツに於ける國粹社會黨(ナチス)及び共産黨の抗爭は一つの偉觀である。而して兩黨の憎惡するものとして傳へらるる所を見るにナチスに於ては

一、共産主義者　二、猶太人　三、社會主義者
四、フランスと其同盟國　五、ヴエルサイユ條約

共産主義者に於ては

一、國粹社會黨　二、警察官　三、社會主義者
四、資本家と其一味　五、ヴエルサイユ條約

かくて千二百萬人を抱く國粹社會黨と六百萬人を收むる共産黨が二つの共同敵を持つことは興味あることである。卽ち一は社會黨で他はヴエルサイユ條約である。しかもナチスが社會黨を憎むは社會黨がヴエルサイユ條約を憎まぬ爲めで、共産黨が社會黨を憎むは社會黨が國粹社會黨を憎まぬ爲めとは面白い對象だ。而してナチス、共産の兩黨が俱にヴエルサイユ條約を憎むことに至りてはドイツ全國民がヴエルサイユ條約を憎むことを意味し該條約の破棄は今や全ドイツの輿論となつて居る。ブリユーニング内閣の鐵腕を以てしてナチスに引摺らるる所以知るべきであらう。ドイツ政界が能く國民生活の琴線に觸れてゐる何よりの證左でないか。

三

惟ふに支那時局の重大化はまたいよいよ深化し來り之が解決に就ては素より擧國一致たるを要し、しかも國民の監視が瞬時も放し得ざることとなつた。昨年九月二十八日發表された日本商工會議所の聲明

書は當時已に國民的決意を表明して遺憾がない。

この際我國民は擧國一致如何なる犧牲を拂ふとも將來の禍根を除去し東洋永遠の平和を確保するため斷然根本的解決を期すべきものと信ず。

而して此重大決意は勿論政治の運用に於て成功すべきものたるや明かである。しかるに總選擧は此國民的期待に逆行したもので爲めに國家意思の强化を妨げたることは少々でなかつた。我國の政界が今日尚前途の見透しがつかず、常道病にとり憑かれてゐることは濟度し難き所である。かくて現代政治が國民生活と游離して居る滑稽な悲劇が起つたのである。敢てファシズムの流行とは云はぬが所謂議會政治の權威失墜今日の如きに於ては國運の巫々たることを期すること或は至難であらう。

聯盟外交の駈引

上海事件急迫す

——昭和七年二月二十日第百五十五號掲載——

一

本月十六日午後の聯盟理事會は十二ケ國代表會議を以て我軍事行動中止の强硬なる通牒文を決定して、卽時之を我國に送達した。しかも一方同じく十六日夜上海に於ける我外交軍事の首腦者は協議の結

果、十二日以來行はれてゐた英米佛伊公使を相手とする支那軍隊の停戰及び撤退を先決條件として日支兩國間に中立地帶を設置せんとする交涉が支那側の不誠意から絶望的となつたので日本の單獨行動に出づる外なしとの重大請訓を政府に仰いで來た。因つて政府は之を是認し翌十七日左記の最後的通牒を支那側に交附せしむることの決意をした。卽ち

上海共同租界及び佛國專管居留地境界線外二十キロの地域を畫し該地域外より支那軍隊を撤退せしむること

を主として外數項を含むこと周知の通りである。また別にアメリカでは我陸兵の上海共同租界上陸及び通過に就き抗議する有樣で時局は何と見ても急迫し我國は茲に鋭く列強と對立することとなつた。

二

惟ふに昨年九月十八日の滿洲事件勃發以後國際聯盟及び英米等の我國に對する干涉がましきことが頻りに繰返されたものだ。しかも之を大觀するに聯盟で問題となつた日本軍の原駐地撤去問題、非聯盟國アメリカのオヴザーバー招請問題、錦州附近中立地帶設置問題が實效なく唯僅に聯盟代表より成る對支調査委員の派遣と滿蒙に於ける日本軍の匪賊討伐權確保等を決定した迄である。而して米國側より來た御節介に就ても九月二十三日付の不戰條約及び九ケ國條約を楯として爲された稍威嚇的覺書から十月十一日付國際聯盟に送達された通牒に及び更に十一月二十七日付聲明を以て遼西匪賊の策源地たる錦州討伐に對し高壓的態度に出づるや俄然我國論は極度に硬化しスチムソンをして周章狼狽せしめたること尚記憶に新なる所であらう。以上の外交經過を今にして辿り來る時、外力には最後の決意なきこと明かであるが同時に我態度の毅然たる權威が物云ふことを識つた。要するに此重大時局に臨む唯一の途は我國民的欲求を簡明直截に表明することにあるを識つたのである。

三

云ふ迄もなく今次の我出兵は我國家自衞權の發動に因ることが一因である。曾て昭和二年の秋及び同三年の初夏の候、北伐軍が山東に殺到し我同胞の生命財産が危殆に瀕するや前後二回に亘つて同一理由で山東省濟南に出兵した。また一九二七年、長江一帶に排英運動起つた際英國は一擧して一萬五千を上海に送つた。而して之が一部は尚上海に殘留してゐること周知の通りである。しかも此場合國際聯盟も對支九ケ國條約も寸毫の苦情なかりしこと亦周知の通りである。更に米國に至りては自らは法外の身勝手を示してゐる。卽ち一九二七年ニカラガの豆大の騷亂に對し六千の大兵を動かし、其他キューバ、パナマ、フイリツピン等に對し行つた出兵干渉彈壓の裏面史を語つたなら今日の我正義の出兵に對し彼是云はれた義理でないこと勿論である。かくて國際政局の實際は强國の御都合主義で回轉してゐること疑ふべくもない。上海事件を中心として外交難局は今後更に幾倍の紛糾を加へ來ることであらう。さり乍ら上海に感受する我神經は自ら滿蒙と異つてゐる。而して之が認識に就ては聯盟は素より英米に於ても誤りなき筈である。しかも支那をして今日の如く增長慢に至らしめたこと一に聯盟並に英米の仕打でないか。事の茲に至る。我國は宜しく意を決して最惡の場合萬般に就て備ふべきである。

國際軍國主義を排す

時局外交の轉換期至る

——昭和七年三月十日第五十六號掲載——

一

世界の重壓は今や我國に集中されてゐる。今更「有色人の擡頭」でもあるまいが降り頻る世界重壓の雨は確に我神經を痛く刺戟してゐること疑ふ餘地がない。無智にして貪婪な支那軍閥を煽動して已まぬ所以のものは斯くして竟に有色人の先達たる我國を屠らんとする魂膽の一階梯であらう。然り、日支衝突は白人優越—別してアングロサクソン優越—の現狀維持策の第一階梯のみ、次で到るべき謀略計策の伏せられてゐることは容易に看破し得る所である。我國民は時局に動く聯盟外交とアメリカ主義を辿つて得たる結論に肝銘を新たにした次第である。かくて今や我國民は官僚外交の迷宮より逸脫して差迫る重大時局の大轉換を試みねばならぬ運命にある。所謂外交の自主的活動は今が千載一遇の用ゐる時であらう。

二

我國に落下せんとする重壓の一は所謂制裁問題である。先づ國際聯盟に就て稽ふるに聯盟の寶刀たる規約第十六條の適用に出でんとすること例の如しである。惟ふに聯盟は定期の國際會議開催と國際紛爭

の平和的解決と而して聯盟規約蹂躙國に對する平和強制の三脚上に立つてゐること周知の通りである。曾てヴエルサイユ會議に於てウキルソンはフランスの主張たる聯盟の武力制裁規定挿入に痛烈に反對して左の如く斷言した。

若し今國際軍隊を組織せんか、婉として一國の軍國主義に代ふるに國際軍國主義を以てするものである。

フランスの意圖する所は自國の安全保障を國際聯盟の強力化即ち國際軍隊或は國際警察の如きものに依り活かしめんとする衷情に外ならぬ。而してこれすらアメリカは他を顧みて一片の論理を以て之を一蹴したのである。しかも聯盟十三年史に於て今や前例なき重大時機に當面してゐるが聯盟の權威なきことは寔に嘆くの外がない。聯盟が聯盟外のアメリカに指導さるるは其最大現象で現に聯盟の所謂制裁問題に於てアメリカの矛盾其のままを背負ひ込むなどは悲慘の極みである。所謂平和の使徒アメリカより放送さるる經濟絶交の如きウキルソンの所謂最惡の國際軍國主義の表現に非ずして何ぞ。平和斡旋に暴力沙汰とは噴飯の極みである。

三

本月一日のニューヨーク特電は對日ボイコット協會の成立を傳へてゐるが、其構成分子には一流の實業家をも收めて相當の實勢力あることをも示してゐる。其主張を見るに若し日本が滿洲を支配し支那を統治するに至らば日本の軍事機關は支那及び滿洲の石炭、鐵、石油の資源を收めて更に强化され竟には其勢力を制するに由なきに至るであらうとしてゐる。更にまた添言して曰く、日本をしてケロツク條約、九ケ國條約及び國際聯盟が單なる理想の表現に非ざることを知らせぬばならぬと、無識傲慢の言辭も茲に至りては沙汰の限りである。對日經濟絶交はその實行に於て軍事行動を意味すること勿論であるが目下の所一國獨力を以て日本に當ることは避けられて

ゐる。茲に於て聯盟を中心とする對日氣流の動きが頻りに鳴り已まぬ所以である。而して其思想的背景が紛ふ方なき國際軍國主義であることは言ふまでもない。さて日本の急速的膨脹が列強の感に障つてゐる事は諸種の情勢より察して明かである。而して今は萬千の辯疏も竟に力なし。我國は外力の不法なる重壓に對してロシア、印度、近東、埃及、メキシコ、中米、フイリツピン等の動向を察して之が對策にも乘出す氣慨あつて然るべしでないか。

臨時議會を觀る

國家意識の動向なし

——昭和七年三月二十日第百五十七號掲載——

一

第六十一議會は去る十八日から會期僅かに五日間の短期臨時議會として開かれてゐる。茲に附議さるべき議案は支那事變費及金輸再禁止善後始末に關するもののみで大なる期待を掛けることは無理かも知れぬし、加之（しかのみならず）五日間の會期とは云ふものの實質的に觀れば開會は唯一二日のみ。以て國事討議に抱負と熱意を有せざることは先づ明かであらう。さり乍ら假りにも帝國議會である。其活動が促され其意思表

示が決せられて竟に國民生活に或種の強制が加へらるるといふに之と風馬牛たり得ざるは勿論である。議會に對し何の感想あるにせよ國家及國民として嚴肅な國家意識により一應の關心を喚起すべきことは當然であらう。

二

茲に所謂國民總意の反映を是認せんか。政府與黨は三百三名の壓倒的多數を占めたのであるから一糸亂れぬ統制により強固にして明快の政策遂行に出づべき筈である。而して少數黨の野黨は暫らく之を靜觀して對策を定むべきである。これ黨人の所謂政策による政戰を額面通り受取つた結果を云つた迄であるが實際の議會情勢が之と大いに異なる所あるは論を俟たぬ。先づ政府黨は始めから議會開會を欲せざること周知の通りであるが、已むを得ず開會したる議會に於ても會期を短縮し、議案を制限せんとしたることも亦豫定の通りである。而して野黨に於ては意地惡き駈引と揚足取りが議會活動の全部である。卽ち議會は結果に於て自ら議會否認に出でつつあること疑ふべくもない。唯之を大膽に語り得ざる悲哀あるのみ。今議會に於てせめて所謂議會政治の「型」が見らるるに非ざれば國民の失望は容易ならぬものがあらう。

三

議會否認の思想的動きが熾烈となつてゐる今日、議會自ら何等の反省を敢てせざるに於てはまた別に深憂を招くことをも考慮せねばならぬ。卽ち國家意思の分裂的現象といふことである。議會否認の動向は刻下の滿洲事件、上海事變に刺戟せらるること著るしきものあるが議會政治が國事の此大切時に臨むで國家の強き統一意思を表明せざることは何としても國民の大いに不滿とした所である。議會人の國事觀は概して國民的常識よりは遙かに劣り、勉強と熱意の缺如することは通り相場となつてゐる。かく

て會々表明さるる彼等の時局觀は錯覺に非ざれば漫談のみ。重大問題に直面して意見なく、時に之あるも昨是今非の始末にて國際政局に印象さるる日本國家の道徳的權威の失墜さるることも全く之が爲めに外ならぬ。茲に於て有識階級が政治形式の根本的組織に想到して國家意思の統一に焦慮して來たことも察せらるる所である。議會政治が内訌と暗闘との別名となつて來たなど餘りにも周知である。議會が本來の建前とは全然似もつかぬ姿相になつてゐる今日尚自ら何等顧みぬとは何事か。或は此次議題の内容に關連して財政經濟政策に觸るる必要あることも國民の大いに期待する所であらう。しかも窮局する所は政治家の素質問題である。非常時議會を前にして現代政治組織が此問題に解答し得ざるに至りしことは事實でないか。

上海會議の波動

世界外交の魅惑加はる

——昭和七年四月十日第百五十八號掲載——

一

上海停戰會議は逆轉また横轉して幾度か形勢の變化を示して尚終局決定の域に達せざること天下の奇觀である。本紙が讀者に配布せらるる頃には或は何分の落着を見ることであらうが、支那今日の實情に

於ては結果の如何に拘らず、同地方の形勢は依然として不安裡にあることは豫想に難からぬ所である。支那が統一國家に非ざることを知り乍ら獨り我國に對する關係に於て強いて之を煽て上げてゐる英、米の術策が改まらぬ以上事態の全局的解決を期することは非常の難事であらう。上海停戰會議で暴露されてゐる支那の姿相を凝視めた英米は何の面目あるか。しかも英米の面目問題は英米の始めから執着せざる所で、彼等が支那を踊らしむる眞意の那邊にあるかは我國民の夙に看破した所である。國際聯盟の態度より見るも支那問題が漸く世界外交戰の一大魅惑たらんとしてゐる今日に於て其前衞戰たる停戰會議の再吟味を試むることは之が對策としても抜本的の用意である。

二

惟ふに上海地方に於ける停戰は去月四日の白川派遣軍司令官及び野村第三艦隊司令官の停戰命令に依つて實行されてゐる。現に同地方の我派遣軍が續々として凱旋歸還してゐる事實に徴しても明かである。卽ち我軍は三月四日の國際聯盟總會の決議通りに行動し以て直に停戰會議を經めて之を圓卓會議に移し事件の圓滿解決を期したること世界の識者が均しく之を諒とした所であつた。而して上海停戰會議の經過を觀るに先づ支那軍が現在地點より進出せざること、日本軍が租界エキステンシヨン並に其附近より撤收すること、日支兩國及び英米佛伊四國官憲よりなる混合委員會を組織することなど略決定し其細目決定に就き『仲介人ラムプソン』を通して去月二十四日以來上海の英國領事館内で會議を開いてゐることも周知の通りである。しかるに此原則的取極めもいよいよ會議に上程せらるるや支那側の反覆に依り見事に裏切られて了つた。卽ち我軍の撤收線並に租界内に集結すべき時期問題に就き支那側から難題を吹き掛けて來たことである。我軍は當初の主張たる大場鎭、呉淞砲臺を含む地域を讓歩して閘北、江

灣鎭、呉淞線に代へたるに支那側は更に之に滿足せず閘北及び呉淞クリーク北岸地點等に就き頻りに苦情を鳴らしてゐた。加之我撤收時期の明示を迫るなど散々の非違を敢てし我國として我慢のならぬ御托(ごたく)を並ぶること一再でなかつたのである。

二

實を云へば支那側では停戰會議を背負つて立つ代表者は始めからゐなかつた。當初の首席代表たる蔣光鼐は早くも辭職し次いで其後任者たる郭泰祺も亦去る四日辭職したと取沙汰されてゐる。卽ち支那政情の動搖不安は支那の政治家をして極めて卑怯、無責任ならしめ更にその國家意思の那邊にあるかを疑はしめてゐる。否支那は統一國家でなく、從つて國家意思なしと觀るべきこそ依然として僞らざる支那觀である。しかるに英國の「仲介人」は其自稱する仲人的立場に反して頻りに彌上(いやがうへ)にも我國の一方的讓歩を迫つてゐる。米國も亦近くは去る四日の下院での比島獨立問題に際してスチムソンをして無禮にも日本のフイリツピン支配（支那を引合に出したるは單なる外交辭令である）を邪推せしめてゐる。孰れも英米の對日反感を示唆したもので此種の片鱗が支那をして增上慢に陷らしめてゐることは想像の外であらう。今や我國は滿洲新國家を抱いてアングロサクソンの矢面に立つ他方に於てソヴエート・ロシアの南下策とも摩擦し合ふ勢ひにある。上海會議に孕む世界外交の危機は多分に動いてゐる。しかも上海會議が我國に異常の覺悟と自信を與へたことは何としても否定が出來ぬ。

學生運動深化す

文部省の對策を見る

——昭番七年四月二十日第百五十九號掲載——

一

最近またも頻發せる學生の思想犯事件は我國家の前途に容易ならぬ暗影を投ぜるものとして頗る憂慮されてゐる。多感多血の青年學徒がまざまざと社會の缺陷を觀、派手な鬪爭理論に乘ぜらるることその純情さから察するも無理からぬ所もある。而し學生運動から國家の大事となつた例はロシア革命に於て痛感された所であり、今やドイツのヒトラー運動に於ても特筆大書さるる形勢にある。血氣に逸る學生連の街頭運動が必ずしも一途に排斥するは當らぬが昨今の我學生運動には遺憾の點少しとせぬ。研學精神が無殘にも蹂躙されて雷同と興奮が學園に荒れ狂つてゐるなど思ふだに悲慘の極みである。ヒエフテの文句ではないが今や日本國民に告げて大學の自由と憤起を希求せねばならぬ時代となつた。

二

さて文部省の學生思想問題調査會では近く學生左傾對策を決定したが、其具體案として報ぜらるる所では左記に對應すべきものである。卽ち學生左傾の原因としては

一、社會の情勢
二、思想界、學界の傾向
三、教育の缺陷
四、マルキシズムの性質
五、左傾運動
六、青年の心理
七、境遇及び素質

であり、之に對して種々の改善意見が發表されてゐる。しかも多くは說教に非ざれば希望に過ぎず、當路者は勿論のこと一般も亦此種の研究を怠り更に之を貫徹するの熱意と力量を有せざること略明かである。原案の對策中教育の缺陷に對しては「身を以て之を啓導し個性に應じて之を薫育すること肝要なり」と力說して見ても實は容易には信ぜられぬ有樣である。況んや社會情勢に就き「學校卒業者を適當なる職業に就かしむる爲め組織的機關を特設する事」などは申譯の機關なら兎に角誰か眞に之を實現し得るか。

三

犬養首相は社會不安の七分の責任は政治にありと斷じてゐるが、一國宰相の言としては素より是非すべきものがあらう。さり乍ら兎に角宰相自ら爾く語る以上極印付きの一般世相觀と斷じて可なること明かである。然らば學生運動の因つて來る所また政治の缺陷にあるは疑ひを容れぬ。しかも政治の缺陷は所謂政治家の手で救はれぬことは學生連の夙に看破した所である。茲に於て自ら立つて政治機構に抜本的變革を策せんとするに至つたものである。而して政治家に之を取締る資格と實勢力なきことまた明かとなつた。かくて學生運動はいよいよ擴大深化するであらう。

惟ふに本紙が屢々指摘したる如く共産運動は研學精神と全く逆行するもので、其行動は卑劣其ものであること今や已に天下周知の事實である。之に對し國權の發動を見るに至ること當然で、我國家はモス

コー政府の指揮下に動く者に對して行動の自由を制限し、更に之を剝奪することあるべきは勿論である。而して學生連が本來の研學精神に還る時、之を是認せざる筈はない。しかも尚片意地を張り、窮地より脫却し得ざる所以は何ぞ。國を醫するものの出現を待つや切也。

聯盟側兜を脫ぐ

新國家の初外交を觀る

——昭和七年五月十日第百六十號掲載——

一

五月雨期のジメジメした國際政局に痛快な一石を投じたのは新興滿洲國の初外交であつた。其一石とは去月九日謝介石から民國外交部長羅文幹に打電した顧維鈞入國拒絶に絡はるものである。該電文に曰く

情報によれば貴國の顧維鈞及び隨員は貴國を代表して國際聯盟調査委員とともに來滿するさうだが目下貴國方面で三千萬民衆の崇高な理想によつて作られた滿洲國を僞國家、當路者を叛逆者と誣ひ滿洲國の攪亂を企て、滿洲國民衆の感情を著るしく刺激してゐる（中略）因て不軌の徒に機會を與ふるから遺憾ながら一行の來滿を拒

絶する云々。

俄然此第一報は當時北京滯在中のリツトン卿をして「聯盟調査員引揚げの外なし」とまで憤激せしめ、當の顧維鈞をして反つて「東三省は支那の領土であるから支那政府の護衛隊を派遣して保護の責を負はん」と強がらしめ彼自身また堂々滿洲入を決行せんと見得を切つた程である。しかるに其後の事實は聯盟側一行は之が爲め一週間もゴタつき、其旅程は散々の亂調子となり而して顧維鈞は文字通りの鑓詰めとして一行とともに奉天に送り込まれた。これ實に去月二十一日夜のことである。

二

聯盟調査團一行は奉天に於て我軍部當局より種々事情を聽取したる後いよいよ新京に入つた。かくて謝外交總長と聯盟調査團との會見となつたが兩者の折衝振りを辿るに聯盟側は兜を脫いで新國家承認の土壇場にまで追詰られた觀がある。本月三日聯盟調査團との會見後、謝介石は豪語して曰く

調査團は歡迎するが、しかしそれは調査を受けるといふのではなく此機會に於て滿洲國が實際どんな事をやつてゐるか、夫をよく見て全世界に傳へて貰ひたい爲めである。その爲めに調査團を歡迎するのである。調査團の調査されんとする滿洲は既に三月九日以前に消滅して居り、新國家が成立したのであるから調査を受ける筋合は毛頭ない。云々

舊軍閥の殘黨尚各地に跳梁し匪賊の出沒猖獗を極めてゐる現狀を前にして之はまた虹の如き氣焰である。かくて顧維鈞問題は何時しか完全に封鎖されて問題は今や新國家の獨立性と面目問題に移り新國家の鮮かな手腕が示されてゐる。新國家の意氣と條理と信念の前に列國外交は見事に飜弄されたのである。

三

惟ふに我聯盟外交は滿洲事件勃發後最初の理事會

たる昨年九月二十二日以來失敗の連鎖劇である。而して所謂申譯外交と棄權外交の外、何の能もなかりしものが今や其一大轉換期がやつて來たと云はれてゐる。しかも一方聯盟側に於ても散々に現實曝露を敢てし返つて現下の世界的不安に一大拍車を加へて來たと云はれてゐる。滿洲事件其後の經過は確に世界の現狀打開劇に一大主役を買つて出たもので所謂名題格の列國が遽(にはか)の暗轉で周章狼狽する有樣は滑稽至極である。聯盟調査團が並び大名宜敷くあつて極東の花道に差しかかるや、狂言はガラリ變つて立往生の姿となつたといふのが眞相であらう。何は兎もあれ、謝介石によつて代表さるる新國家の初外交は意氣頗る旺である。

日本は自信に充つ

十五日事件に就て

——昭和七年五月二十日第百六十一號掲載——

一

日本は今や恰も復古運動の陣痛期に臨むでゐる。革新運動の受難時代に座してゐる。有史以來未だ記錄せられざる試鍊期でもあるが其苦惱は餘りに強いものがある。かのロンドン會議以來頻々として傳へ

られた暴風警報が遂に異常の現實を與ふるに至つたもので茲に我國は文字通りの大難局に突當つたのである。日本は勿論之を自力にて解決せねばならぬ。

二

問題は要するに同胞が日本精神に還元することある。因つて一切の非日本的思想と行動とより涌き出た國家的害惡を一排するにある。而して之がための日本的對策はある筈だ、また日本的作法もある筈だ。但し之が實現には容易ならぬ決意が必要である。明魂はよく暗夜を照破し得べく、萬變に處すべき萬策に窮し得ざること確信して可なるべきであらう。日本精神は明魂其ものでないか。

三

日本は今や内政萬般の一大轉換期に當面してゐる一方、世界に約束した滿洲事件の解決を抱き、漸くにして之が端緒についた許りである。苦難の加倍し來つてゐること覺悟すべきであらう。さりながら問題は内政と相關的であり、從つて同時解決の運命にある。正に國民の全精力、全能力の動員期に相違ない。

四

非常時に直面して人物を憶ふこと切である。さりながら徒らなる人物待望も亦贊成し得ない。國家の目的を明識して民心の歸向に投合する具體案の持主こそは此際に於ける人物に外ならぬ。具體案として取入れらるるものの何であるかは少しく氣運に觸るるものである以上、略胸中に描く所であらう。黨爭と射利と戲論に耽るものは之を臆面もなく反問する筈である。

五

直接行動は法治國に於て是認せられざることは勿論である。故に其行爲に就ては別に裁斷の途がある。

さりながら法を冒してまでも純情に生んとするものの心根をも察せねばならぬ。國民は誓つて時弊の根本的除去に當る必要がある。筆者は天佑の加護を確信して明朗日本の勇姿を明日に期待してゐる。同胞は一君萬民の根軸を固く握つて協力せねばならぬ。

世界的不況深化す

日本のコースは奈何

――昭和七年六月十日第百六十二號掲載――

一

世界的不況の深化に最後の拍車を加へんとしたのがアメリカの金再禁止説である。アメリカが二十八億餘ドルの金準備を有し、十億ドル餘の自由金を抱きながら此説の涌き立つ所以を察すべきであらう。這のアメリカも歐洲の財政、經濟危機に搖すぶられた結果はさしもの同國の財界を以てしても俄然極度の不安に襲はれてきた。かくてアメリカ財界に揚げられた暴風警報は二年有半に亘つて頻りに警戒を發し續けて來たが、事情は日一日と險惡化を辿る一方であつた。差迫る大統領選擧戰を前にしてフウヴア政府の焦慮振は見るも氣の毒の程で其不況對策として本年に入り發表したもののみを見るも復興金融會社設

立、聯邦準備銀行の緊急金融擴張計畫、低金利政策通貨死藏防止運動ゴールヅ・ボロー法案等等應接に遑なき程である。而して別にデモクラツト黨側よりも二十億ドル融資計畫を初めとして諸種の提案さるるありて全アメリカの智能を動員して不況克服に當つてゐる。しかも不況は深化の一途を急行する許りである。

二

我國に於ける經濟危機に至りては之を詳說する迄もない。つい最近に至るまで我上層支配階級の間に於ては我財政と歐米諸國の夫れとの赤字比較を試みるとか、失業者數を比較して我財政及び經濟生活の前途につき可なりの樂觀說が行はれたものである。さり乍ら今や此種の皮相觀は已に影を沒してゐる。社會不安の渦卷が不氣味の響きを傳へてゐる現狀に於て机上の赤字比較論の如きは有閑の階級の戲論以外の何物でもなくなつた。五百萬農家が五十億の負債を背負ふて喘ぎ苦しむ一方其生業が死滅の非運に置かるる急迫さを觀ねばならぬ。問題は肉片の增加を叫ぶ底のフヤケたものでない、米一粒の懸命事なのである。此處に刻下の我農民運動の特殊重大性がある。都會小商工業者の苦惱に於ても亦深察すべきものあること勿論だ。

三

惟ふに世界不況の原因に就ては諸種の說がある。さり乍ら其主因はアメリカの戰債固執にあることは周知の通りで現にローザンヌ會議開催を前にして尚之を楯として威喝してゐる有樣である。因つて目下世界の問題となつてゐる國際經濟會議の如きに於てもアメリカは容易に戰債棒引の上程を肯ぜざることも明かであらう。しかして歐洲を震源地として世界を搖がして來た世界的不況は其主因がアメリカの非妥協的自己主義にあること前記の通りであるが、運命の皮肉なる廻り合せは竟にアメリカ自らを驅つて

世界不況の王座に立たしむるに至つた。本年三月現在の卸賣物價指數を見るに紐育は倫敦、巴里、東京を凌いで四割六分の慘落を示してゐる。かくてアメリカは債務の加重と固定資本の重壓を彌上に來しめた一方物價低落を貨幣價値との關係に於て利潤を生ぜしむる餘地を奪つて其全産業を沈滯の淵に追ひやつたのである。

世界不況の深刻なる波浪は太平洋の兩岸をも洗つてゐる。かくて日米兩國は其宿命的競爭を前にして共通の苦惱を續けてゐるがその孰れが速かに其難境を打開して建直るであらうか。惟ふに刻下の經濟不況は國內及國際政治機構の缺陷に基くこと多大である。國內政治機構の更新には現代の所謂政黨政治を打破せねばならぬ。今日の政治組織に於て所謂政澤の普遍化を求むることは頗る難く、假令インフレーションン政策が採らるるにせよ、通貨は一部に死藏せらるるか、一部の政黨財閥を肥すに過ぎぬこと明かである。國際政治機構の革新には國際聯盟、モンロウ主義等の清算を果さねばならぬ。今日の國際政局に於て白人無限の慾望を充足せしことに危機の招來を現してゐる事實を認識すべきであらう。

我國の經濟危機は素より今日の重大時局を語つてゐる。さり乍ら此重大時局は國民の負擔すべきもので之が收拾は斷じて他人でない。今日は確乎として一君萬民の國體精神に還るべき時である。黨爭、射利に沒頭する諸勢力を借りて內外の難境打開を策せんとするも事情は之を許さぬこと明かであらう。

農村運動の一斷面

都會的不純性を排す

——昭和七年六月二十日第百六十三號掲載——

一

農村窮乏打開運動は今や重大問題中の殆ど隨一として國家の神經を尖らせてゐる。去る臨時議會に於て會期半に於て其强襲に見舞はれて周章狼狽し種々奇抜なる對策までが急遽飛出しさうになつたこと周知の通りであつた。しかも結局に於ては成るべく速かに更めて臨時議會の召集を奏請して諸種の對策を定むべき旨の決議を通過せしめたものである。卽ち二三ケ月を經て更に第三次臨時議會が招集せられて本問題の本格的解決に臨まんとする氣合となつた。

かくて農村問題の政治的進出が力强く打つて出たのである。已に政治的進出と銘打つて出た以上その所謂對策が通貨流通の圓滿、農村負債整理、公共事業の徹底實施、農産物その他重要産業統制等々に關し所謂政治家による國家救濟の滿足なる實現を期待することになつたのも當然の次第であらう。

二

しかるに茲に此政治的運動を其まま必要としない村落がある。東京朝日新聞によれば暗黑化した農村に輝いてゐる負債整理組合との事である（本月十六

日付同紙窮迫せる農村の實相福島縣下の部參照）原文のまま轉載して見る。

それは帝國農會の農業經營審査委員たる宗像利吉氏がその居村田村郡大越村で主宰する農事實行組合で、同組合では組合員の負債を一手に引受け、産業組合又は農銀から借いれた資金をもつて其負債を償還し、其後に於ける個人借金を嚴禁し或は農業經營から家計までに監督指導して組合に對する月賦または年賦金の納付を容易ならしめ、それも今日の如き有様となる前から繼續してゐるので此村許りは悲鳴をあげずに濟むでゐるといふ。

卽ち一村が全體として一つの統制下にあつて自からの手で經濟機能を十二分に働かせてゐることを示した實例である。默々として近代思潮の動きに投じ、因つて以て群小の都會的取引運動に超然たるところ農村の眞骨頂を傳へたるものとして近頃快心のニユースである。

三

惟ふに現時の經濟苦を打開するに就ては或點までの國家統制を期することは避け難き實勢であらう。現に政友會に於ては前記の如く農産物その他重要産業統制等に關し云々と力説し、民政黨また生産並に販賣の統制を高調し、更に大藏次官は資本主義經濟は過去に於ては功績があつたが現在及び將來に於ては修正を要すると議會で切言した程の變轉振りである。しかも現時の農村人はこれらの言を其のまま信じ得るか。さりながら兎に角統制經濟は意氣地なしの他力本願のみを意味せざること論を俟たぬ。例せば農村問題の癌種である負債整理に就て稽ふるも農家負債の内容は生産的負債より消費的負債が遙かに多く、債務の利子は非常の高歩で、且つ新規資金の調達は殆ど絶望的と見られてゐる。此際所謂負債整理組合の手により借金地獄の難境より救はるべきことは先づ何よりの最上策であらう。しかも之が實效

は前記の好例に從つて擧村一致、同一目的のために胸襟を拓き勤勉力行せねばならぬこと勿論である。統制經濟を目して唯物思潮とのみ解しては未だ其全貌を捉へたものでない。少くも日本の統制經濟には日本獨自の國家意識の躍動が感受さるべきものである。農村駒之打開運動には今までの例とは異り一切の都會的不純性に對し強き反感を抱く鋭さのあることをも見逃してはならぬ。前記の例は其一端に過ぎぬものである。

國家意思の强化

分裂派に此一戰を期せ

——昭和七年七月十日第百六十四號掲載——

一

國家興亡史の明示する所によれば一國國運の傾かんとするや略三つの動因に左右さるるやうである。卽ち經濟生活の破局、政治の無能無識、外難の加重が夫れである。而して此三者を貫流する大勢を觀るに國民精神の萎縮にあることが容易に發見し得ると贅言を俟たぬ。日本は其眼前の苦惱其ままを世界史の鏡に反映せしむる時、如何なる姿相にあるのか、今や正に深刻の反省を重ぬべき時期にあることを切

感する。茲に於て非常時内閣の首班たる齋藤首相は時難の急に赴くべき國民の覺悟を開陳して「自力更生」の道を力說した。週日の間に開催せらるべき地方官會議にも山本内相は同じ題目を高調するらしく、更に八九月の候に至れば教化總動員を以て之が徹底を期するとのことである。老首相、老内相を始めとして挺身奮發、以て國難打開に乘出す意氣に對しては勿論滿腔の敬意を表するに躊躇しない。

二

惟ふに國家は國家意思の强化により生氣潑溂たる活動が期待し得らるるものである。しかも國家意思の强力化は單に權力關係によつて期待さるるものでなく、況んや御說法で捏ちあげらるる程の安値な代物でもない。國家意思の强化に相應はしき指導精神を國民に明示すべきことが先決である。別して刻下の非常時に際しては次の二點に就き國民の力强き共鳴を贏ち得べき必要があらう。

一、國家觀念の明識を期し現に之を行動化すること。

國家は一體としての有機的民族國家である。殊に我國としては世界に獨自なる國體を有ち國家としての氣品と態形とを備ふることに於て天下獨歩である。しかるに一體としての國家を二分し三分し、七花八裂の憂目を見せしめんとする諸勢力が國内にあることは否定が出來ぬ。現代の政黨は其一である。國家を源平二氏に立割りした結果國家と人民の蒙つた迷惑は奈何であつたか。更に有産、無産の階級的對立を策し其抗爭を深刻ならしめたマルキシズムは其二である。マルキシズムは國内の分裂化は愚かのこと、他國の頤使に從つて自國其ものをも潰滅せしめんとすることに於て其罪最も大である。所謂資本主義、享樂主義もまた國家分裂の役割にあること明かであらう。茲に於て政治家は國事に奉公する第一着手を以て其國家觀を明示し國家の統一を破る諸勢力に對し勇敢に挑强

せねばならぬ。國家意思の戰化はかくして後に期待さるること必定である。

三

二、國民經濟の破局と外難の加重に就ては今や其對策に寸刻の猶豫も許されざる程の逼迫さである。前者に對しては果して自力更生が期し得らるるか否か多大の疑問があらう。自力更生には環境に多少の希望が要る。働く意思あり、之に堪ゆる健康あれば幾何かの就職あることは當然の筈だ。然るに事實は餘りにも無殘でないか。別して農村に於て然り。自力更生の至言なるは認めらるるも兎もすれば怨嗟の囁きをも傳へらるることは深察すべき所であらう。外難の加重に就ては特に駄足の要を見ない。支那の依然たる苦肉策、ロシアの戰備、赤化兩樣の謀略の頻りなるに對し何を語るかはいよいよ明かとなつて來た。アメリカの狡計は例の軍縮天引案で遺憾なく曝露せられ對日作戰の肚裡は奥の奥まで讀まるるに至つたものである。孤立日本の姿勢は國際聯盟總會を俟たずして明かである。さり乍ら外難其ものは左程怖るる要はない。問題は外難を窺はしむる内難である。興亡の岐路に立つ日本の試練期でないか。

近時の世相を觀る

行路難いよいよ加重さる

——昭和七年七月二十日第百六十五號掲載——

一

近時の世相は絶望と殺伐との交錯に亂れてゐる。所謂心中事件、怪說の横行跋扈、自暴自棄の悲慘事沙汰など頻りに耳朶を打つて來るが正に世相の險峭を語る斷層である。しかも世相に鳴る此狂騷曲たるや空氣傳染か、電波放送其ままの姿を辿つて社會の有ゆる層に滲透擴大して行くのである。正に變態社會の實相を傳へたもので、之が感受性に鋭敏となつてゐる現代人が兎もすれば其刺戟に堪へずして自殺し去るなど寔に遺憾に堪へぬ。社會の罪か、人の罪か兎に角一種の焦燥氣分、不安氣分、反抗氣分が充滿してゐることは爭ふことが出來ぬ。可燃性のあるところ、一寸した摩擦で發火すること已むを得ぬ情勢であらう。

二

惟ふに現代生活の世智辛き動搖の裡に人生觀の確立を期するなど可なりの難事である。さり乍ら人生觀の確立は處世の行路に不可缺の大切事に外ならぬ、難破を避け、力漕に希望を齎す羅針盤でもある。人生觀の正しき標準を失つた生活が何處に辿り着く

かは敢て多言を俟たぬ所であらう。所謂刹那主義、無目的主義などあるが、其名の示す如く人生をして無限地獄に追ひ行くことは明かである。

筆者の私見を以つてすれば人生は鍛錬である。鍛錬によつて正宗の名刀も作らるることは平凡ながら確固たる事實である。鍛錬と稱して稍古臭ければ勤勞と云ふも可なり、人生が一個の創作である限り、其過程の苦樂を見て容易に前途を思ひ諦めてはならぬ。人智の淺薄なる往々にして天意の深慮に背いて意外の悲運を招くことあり、戒心これ努めねばならぬ所である。勤勞には勿論結果が來る。さり乍ら勤勞それ自身に一個獨自の意義があり、力がある。人生の行路に當つて此據點に立つことを忘れてはならぬ。

三

近くゾルフ博士はベルリンの一新聞に極東問題に就ての卓見を掲げて日本の對支策を正解せしめて居る。彼は八年間に亘つて駐日獨逸大使たり、しかも其間倶に日本精神の研究に没頭したる丈けに立論の雄大、透徹は遖に時流を抜いたものがある。彼は率直に公言して列強が日本に兎角の干渉を試むるの非を指摘し、日本精神の表現に就て全幅の信頼を拂つてゐるが、彼が日本人の骨頂に觸れて時局問題を開かんとしたる所に其人らしき識見を閃かせてゐた。憶ふに彼の看破した如く日本は今や「敵多くして誇いよいよ多し」（Viel Eeind, viel Ehr）の思想を動員するに大童である。さり乍ら日本人本來の精神は屈托なき明朗さにあり、環境との相剋對立を欲せざる所に其特質があつた。しかもこの心境を素すものあれば敢て一戰を辭せざるの心意氣をも有してゐた。故に若し政治其宜しきを得て此民族精神を自由に暢達せしめたならば物心兩界に亘つて發展した日本の姿相は驚くべきものがあつたであらう。

世相の險峭化には勿論諸種の原因がある。しかも詮ずるところ民族精神の曲歪された所に其主因があ

る。繊細な末梢神經を一拠して時難に立向つた先人の努力力行の精神にも觸るべき時でないか。

非常時政界の姿相

國是遂行に直入せよ

——昭和七年八月十日第百六十六號掲載——

一

非常時對策を俎上に載せた所謂第三次臨時議會はやがて開かるる運命にある。しかも所謂新黨準備會の働きかけによつて民政黨の一角からは頻りに崩壞作用が現はれてゐるが、議會開會を前にして地塊運動はいよいよ活潑となり政界の全面的動搖が豫想さるる大鳴動を伴つてますます近づきつつあるを切感せしめてゐる。我政界に於ては久しきに亘つて政治なく、國策なく、之あるは唯黨爭と黨利あるのみと嗟嘆されてゐたが、今や之が嚴肅な清算期に當面されたものである。政治が多年黨人の縄張り内で睡眠に耽らされてゐる中に國民生活の現實的動きは容易ならぬ情勢を呈して來たが、之が結果は當然に政黨の自壞作用となつて現はれたのである。蓋し政治は既に政黨の殻内より出でてその本然の使命に還り、黨人は再び之を活用するの自信を失したからであらう。

二

見渡したところ、世界は例外なしに非常時の姿相にある。而して之が對策に死力を傾けてゐる。勿論形式抜き、情實無視の緊張振りである。ドイツでは社會民主々義一派を排撃し、共産主義一黨を打撃し以て國粋黨の鐵血策により甦生しようとしてゐる。かくて現前のドイツでは高襟者流のインターナショナル思想は文字通りの反逆者（Traitor）である。フランスでは例により自國の安全保證問題が何よりの重大事で、此問題こそ全フランス人の信仰であり、哲學であり、生命其ものである。而して此問題に關する限りに於て政黨の如何は問ふ所でない。フランスの安全保證確保の前にはフランス人は變通無碍の政治觀を有つ。イギリスの時局對策も亦遖に水際立つてゐる。關税政策に於てゼネバより轉身するなど着々として英帝國主義の老巧なる舵手振りを見せてゐる。アメリカまた戰債及賠償問題に絡むて深く胸中に描く所がある。かくて列強が自國の死活問題に當面して政治思想の一大飛躍を試み、以て屈託なき行進曲を奏づるあたり、採つて以て箴とすべきである。

三

我國に於いても非常時の擧國一致内閣は出來てゐる。而して國民が之に期待する所は決して僅少でない。非常時の擧國一致と云はばいともハツキリした國家主義の陣容であるべき筈である。國是、國策を國民に明識せしめ之が遂行に單刀直入すべきである。かくて政黨をして自由に向背を決せしむべく決して卑屈躊躇の氣配あつてはならぬ。これ政界淨化を期する所以の道のみでなく日本の意氣を世界に吐く恰好の機會ともならう。此意氣こそ實に世界に澎湃としてゐる新政治形式に一貫の流通を托するものである。

惟ふに非常時には非常時に相應はしき要素が要る。昨今噂さるる政界の集合離散が何を語るかは政

界自らの運命による。識るべしである。

時難に偉人を憶ふ

國民精神の偉大な表現人

——昭和七年八月二十日第百六十七號掲載——

一

日本の革新運動には先づ日本精神の奮發振起を期さねばならぬことは勿論である。これ日本國民の常識として長養され來りたるもので、所謂國難に立向ふ用意としては唯一無二の弱味を示したものであつた。素より國難の面貌は一樣でない。而して其時代人の感受性に於ても亦決して單純ではあり得ない。さり乍ら我歷史の明示する所によれば時難に堪へ更に推進力をも創作せしむる動因は他に求むべくもない。日本の革新運動が例外なしに日本精神の化體者によつて決行されて來た事實は之を明示する何よりの雄辯であらう。所謂時局匡救の矢面に立つた某一勢力が惜むらくは人生を曲視して人間の全生活を以て食慾と性慾との二慾に限るものとなし、之が充足を阻まれたる以上何が忠君愛國かといきり立ち、竟に暴力の非常手段を採るに至りたるなど正に一知半解の譏りを免れない。此種の唯物思想、感傷主義によ

つて救國の大業は斷じて達成し得ないこと明かである。

二

國歩艱難に憶ひ出さるるは偉人の出現である。謂ふところの偉人とは勿論變質者や、氣紛れ者を指すのではない。偉人とは國民精神の偉大なる表現人との謂である。既に國民精神の表現人たる以上、國家及國民の進路に對して偉大なる水先案内であるべきことも亦多言を要せぬ所であらう。之を現代に求む、ドイツの老雄ヒンデンブルグ元帥の如き其好例である。ドイツの國家的苦惱は恐らく他に比類なき程の深刻さにある。しかもドイツはヒ大統領一箇の支柱によつて事なきを得てる有様である。彼の確信によれば時難は斷じて黨派政治では救はれぬ。かくて去月末の總選擧で第一黨となつたヒトラー黨の單獨内閣要求に對しても彼の面目は躍如たるものがあつた。卽ち彼は本月十二日ヒトラーとの會見に於てナチスを骨抜きとした四條件を先決としてヒトラーの組閣を認めんとしたものである。ヒ元帥惟へらく、組織さるべき新内閣は議會の投票で左右さるべきもので有つてはならぬと。因つてヒトラーにして單獨内閣を欲せば自黨の政策を遂行せざるべきことの保證が要る譯である。しかも斯の如き曲從は彼の堪ゆる所でなく彼が馬首を廻らして新戰場に奔馳せんとすること寔に當然である。ドイツ政戰の壯快憶ふべきであるが、さるにてもヒ元帥の見識が復興ドイツの精神を汲み其金的を射つたものであることは何人も疑ひ得ぬ所であらう。

三

近くローレンス・デニスは「資本主義は果して死滅か」の名著を送つて讀書界を賑はしてゐるが、彼の結語を聞けば世界經濟の不況打開に最も必要なものは精神的指導であつて專門的サーヴスではないと云つてゐる。かくて彼は資本主義が精神的威力であり、

純眞に國民的にあるべきことを要求して諸種の示唆を投げてゐるが正に現下の經濟危機に一針を打つたものである。勿論何人も卽今の資本主義其ままを是認するものはあるまい。さり乍ら資本主義自體を抹殺して見ても經濟的苦惱は斷じて去らぬ。經濟的危機の因つて來た精神的饑饉と墮落を看過して何うするか。之を看過して國家建直しを廣言して見ても之は竟に不可能であるが、この自覺が今や返つて財界より現れ來たことは注目すべき現象であらう。所謂統制經濟とは國家の精神的指導から發足さるべきもので、其個々の機關は國家中樞神經の一環として活動すべきこと明かである。現代政治の破局は已に此常識さへ缺いてゐることを示してゐる。力强き政治の期待し得ざること決して偶然でない。

内閣意識の明徴

時局政治の二型に就て

——昭和七年九月十日第百六十八號掲載——

一

非常時局匡救の對策を俎上に載せて開かれた第三次臨時議會は各種各樣の勢力に歪められたまま去る四日、兎に角終末を告げた。會期正味十一日に亘つて討議された數種の法案中には可なりの重要さを有

つものもあつたが如何せん、國民とは没交渉に立案せられ上程された事とて所謂輿論の向背を決すべき遑もなく議會政治は依然として國民生活とは遊離のままの實況であつた。所謂非常時内閣とあらう以上其所信と對策とは豫め堂々と發表して置くべきで、各政黨また其建前から云つても自黨の對策を夙に明示すべきであつた。かくて議會主義と政黨政治を振翳して見たものの時難に向ふ意氣と用意に缺くると甚大なるを思はしめたのである。時局對策は現前の當路者と政黨幹部の力量識見のみに委ねらるるには餘りに重大であらう。藪から棒に強いられた所謂匡救案も案其ものに對しては兎に角として所謂國民大衆の叡智と判斷の自由を奪つた點に於て形式政治の自殺を計つたものであつた。

二

惟ふに非常時局に臨む政治形態には二つの型が出來てゐる。一はイギリス流の擧國一致内閣で他はドイツ式の超黨内閣である。イギリスの内閣は所謂ナショナル・ガヴアメントで文字通りの國民内閣と稱すべきものである。首相マクドナルドは議席こそ有つが同志數名に過ぎず。之に反して樞相ボールドウエーンを首領とする保守黨は四百七十餘の壓倒的多數黨を以てマツク氏を支持してゐること周知の通りである。國民内閣たる以上所謂圓卓會議はその最も得意とする所で、時に或は政策の重大なる不一致ともならば之が打開に大詔煥發の奏請とまで行く位のことは素より怪しまれてゐない。これが議會政治の大本山たるイギリス政界の實相なのである。政治が國民政治の名に背かぬものであり別して非常時政治の矢面に立つてゐる以上、政治家は國家及國民の全局的立場に殉じて自己の面目と利害とを一拋する決意がありたきものである。此の點イギリス政治家の雅懐と達見に服せざるを得ない。

三

ドイツ式の超黨内閣も亦非常時局擔當に偉大なる役割を果してゐる。ドイツ政局の動向に就ては本紙が殆ど委曲を盡して紹介し來りたる所により略想見された事と思ふ。七月末の總選擧に於て二百二十九名の第一黨を贏ち得たヒトラー黨が勢ひに乘じてドイツ帝國宰相の地位を收めんとしたること外電所報の通りであつた。しかるに大統領ヒンデンブルグは政黨内閣が議會の投票で動搖し竟に政策遂行に力行し得ざることを痛感してゐるので政黨内閣は絶對に之を容認しない。而してヒ元帥の磐石の此信念は勿論ヒトラーに對してさへ讓歩して居らぬ。かくてパーペン内閣は純然たる超黨内閣で（閣員中議席を有つは一人のみ）依然ヒ元帥の全幅の信任を楯として内治外交の大難局に思ふ存分邁進して毫も憚らぬ。パーペン内閣がローザンヌ會議で事實上賠償棒引問題で成功し今や國防均等問題を提げてフランスの心膽を寒からしめてゐる一方、内治に於ても非常命令を出して經濟問題の抜本的解決を期して六百萬の失業群を幾許ならずして半減せしめんと意氣込でいる。パーペン内閣がヒトラー政策の利刃を逆に取つてドイツ魂の磊塊を吐くところ、全く超黨内閣の賜物に外ならぬ。顧みて我政界の現實を眺むる時、果して非常時意識を認め得べきや否や大なる疑問がある。而して政界の去來出没ハツキリせぬこと一に内閣意識の灰色に因る。

承認の世界的意義

白人國家の偏見を戒む

——昭和七年九月二十日第百六十九號掲載——

一

滿洲事件勃發後半年餘にして滿洲新國家が出現し、其後更に滿半年を迎へて我國は之に對し正式承認を與ふるに至つた。少くも過去二、三十年に遡りて東亞の形勢を顧望する者にとりては寔に感慨無量である。而して我國の滿洲國承認に對し今日尚兎角の論議を挾む者あるは遺憾に堪へぬ所であるが此種の偏質者に對しては日清、日露兩戰役の結果たる滿洲事件の名に於て人生擁護のための隔離を敢てする外はない。苟くも常識ある一個の人間である以上、明治の二戰役に門出した我日本の悲壯なる道義心に平伏すること當然であらう。素より當時に於ても朝鮮と云ひ、支那と云ひ俱に自國の運命を自力にて支へ得ざりし有樣であつたのである。しかも當時の日本人として兩國を威壓してゐた外力に刃向ふ事は尋常心の企て及ばざる所であつた。日本が東洋の和平を一念して竟に勝敗の彼方への決意を極めて立つに至つたことはよくよくのことである。しかるに日清戰後のロシア、日露戰後の支那は俱に日本の理想を蹂躙し去つた。日露役を忘る四半世紀緣由床しき滿洲の中點より揚げられた爆音により、見るも雄々しき

男兒國の生誕したることは遙かに人智を絶した天業其ものでないか。此嚴肅たる事實を承認せざることは餘りにも不遜である。

二

斯て滿洲國承認は世界の有らゆる苦惱と行詰りに對する清算の要求で、更にまた新局面の打開とも見らるべきものとなつた。清算要求の二三に就き語る。所謂白人優越感と其得手勝手が今日の世界不安を招來したることは明かである。而して彼等により現前の滿洲國承認を期待することは素より容易でない。よつて今更アメリカの獨立を回顧し、大戰後の新興諸國出現の始末を指摘して何故滿洲國承認を拒否するかと反問して見た所が始まらぬ。卽ち白人の髓心にまで滲透してゐる人種的偏見を打破せざる限り問題の正解は至難であらう。軍閥と專制の桎梏より脫して獨立した滿洲國を喜び得ぬ矛盾こそは正に白人の内在的疾患を語るものに外ならぬ。國際聯盟の如きも明かに滿洲問題により一個の白人聯盟たるの現實曝露を敢てなし清算期に入つた。承認問題が所謂唯物文明の没落に拍車を加へ別して唯物政治思想が之により慘憺たる敗北を示してゐることとも憶ふべきである。歐米の政治家連は已に滿洲國建國宣言に眼を蔽うて唯一途に之を抹殺しようとする。しかも列强の合縱連圖によりその舊態依然たる威嚇を以て東亞の新形勢に臨むが如きことは天に唾するものである。問題を繞つて列國の足並の揃はぬことは遺に當然であらう。

三

滿洲國承認による新局面の打開に至りては可なり大規模に行はるる可能性がある。承認問題が舊勢力一掃を意向して居り、眞僞の分水嶺に迫つてゐる以上、好むも好まざるも各人各國は自己の信念と立場を明示すべきことは必勢となつてゐる。承認と同時に我政府が中外に宣言した聲明書が未だ日本精神に

徹せず、依然として權益思想に捉はれ過ぎてゐることは稍遺憾であつたが之を大觀するに滿洲國家創作に助力した我日本は其建國精神を回顧復活せしめて一倍の責任と自信を得たことは疑ひなき事實である。日本は承認問題により國家の意義と改造の原理を世界に確然明示した。我皇道政治が彼の王道政治に直流するところやがて内外の新局面打開に力強き指導精神を與へ、之が響をも傳ふるに至ること期して待つべきである。

時難は外か内か

『リットン旅行記』の示唆

――昭和七年十月十日第百七十號掲載――

一

荒木陸相の言として傳へらるる所によればリットン報告書は一片の旅行記に過ぎないようである。更に某新聞の見解によれば一片の紙片でもあるようだ。さしも世界の耳目を欹だてしめた聯盟調査團一行の勞作に對して聊か氣の毒の批評であるが率直の所、格調と見識とに於て大いに期待を裏切られたることは否定が出來ぬ。國際聯盟とアメリカ政府筋よりの放送によれば滿洲事變は國際信義を蹂躙し、世

界平和を攪亂したる一大罪惡で、調査團の報告は此問題の解決に主役を果さしめんとするものの如くである。しかるに舞臺正面を切つて出た報告書を見るに主役どころか、端役さへ勤まるかを危まるる感がある。勸進帳ではないが、此種の代物により世界環視の中で天下の難關を通行するなど嗚滸がましくまた容易な業でもない。世界は正にリツトン報告書を買被つたもので、之が發表により一時なりとも昂奮の渦巻を見せたことは恥かしき限りであつた。

二

さり乍らリツトン報告書は兎角來るべき國際聯盟に於て取扱はるべき中心的題目で之によつて滿洲問題、支那問題が相當に着色さるべきことは事實問題として豫め覺悟すべき所である。

而して我國としては既定事實に立脚したる既定方針に從つて行動すれば可なり。其最惡の場合を考慮に入れて最善を盡すべきこと勿論であらう。しかも國際聯盟刻下の事情に於ては我國の最後的考慮に就て淡白であり得るか否かは問はずして明かである。

茲に於て問題は明かに對外的であるよりも寧ろその對内的に重心がある。之を我立場より觀て支那問題に於て然り、滿洲問題に於ては別して然り。若し滿洲の國家創作に於て折角の發心と苦心とを中挫せしむるが如きことあらんか。滿洲國家の不幸は勿論のこと、之が獨立を支援し其能力を率先して承認した日本の面目は爲めに丸潰れとならう。新國家經營の困難と苦心は素より並大抵でない。さり乍ら若し日滿の朝野が協力して事に當るならば今日の勞苦は明日の希望となる。かくてリツトン報告をして名を爲さしむる恐れあるものは他なし。實に今後に於ける日滿兩國の乘離なきやにある。深く戒心すべき所であらう。

三

惟ふに滿洲事變は我國の世界經綸序曲である。故

に我國の對滿洲關係は飽迄我國家的理想を反映せしむべきものたること論を俟たぬ。

滿洲國家に反照さるる日本國家の道義的姿相を仰ぎ見てはアジア諸民族の崛起は當然に期待さるべく、やがて世界再建の運動となつて深刻なる白人世界の清算期に當面さるべきことも豫想さるる所である。この見透しに於て日本に必來すべく豫想さるる外力の重壓は寧ろ第二義的のものである。問題は正に日本自身の内部固めにあり、之が何よりの先決であるべき筈だ。外に十三對一を繰返すも已むを得ない。五十三對一となるも亦悲しまない。實に日本の憂慮と悲哀は彼に非ずして是にある。日本は今やその國家的大望遂行に妨げあるものの何たるかに就て靜思熟慮すべき秋である。國家的理想を鋭化せずして我國に何の内治外交あるか。大事到來に際し脚下の用意を思ふこと切なるものがある。

兩極の陣營激化せん

赤色ギヤングの假面を剝ぐ

——昭和七年十月二十日第百七十一號掲載——

一

大森のギヤング事件から暴露した共産黨の深刻な

る毒計は今や滿天下を一方ならず騒がせてゐる。勿論幾分のデマもあり、彌次氣分もあり、自己の影に怯えてゐる特權者流の思惑もあらうし事件の背景其

他が果して傳へらるるが如き大仕掛けのものであるかは尚判明してゐない。さり乍ら共産黨の本質を知悉する者に取りては黨員が團結して此種の破廉恥的行動を敢てしたることを怪しまない。現にギヤング事件の報道を聞いた瞬間に於て電光の直覺に打たれたるは或は彼等一味の仕業にあらざるかとの疑念であつたが、此疑念に襲はれたるは獨り筆者のみでなかつたようである。本紙が諸新聞に魁して十一月七日のロシア革命記念日を目指してゐる共産黨の暗躍を報じて強き言辭を驅つて警告したる所以のものも豫知すべからざるものの豫感に迫られてゐた結果に過ぎなかつた。

二

共産黨のシンパではないが今更目的論とか結果論とかを持出して共産黨の戰術を是非しても始まらない。共産黨員が明かに國家を否定し、道德を否定して僅に病的昂奮に鞭打たれて驀進するところ、非常手段に一時の快感を覺ゆることは想察し得る所である。事理に盲目なるものが事理に背き之を蔑しむことは素より當然であるが、彼等をして彌上にこの種の盲見に深入せしむるものは彼等とその先達との思想的連聯にあること明かであらう。例せば去る九日の勞農聯邦共産黨中央統制委員會幹部會に於て勞農聯邦内に資本主義の復活を目的として地下的手段により富農階級の團體組織を企圖したとの理由で共産黨を除名された前コミンテルン議長ヂノヴイエフの如きは曾てはギヤングの主役を果した代物である。バクダツトの一銀行を襲つて大金を掠奪し之を共産運動の資金に投じたことは餘りに著明な事實である。かくて假裝、暗號、變名、潛行、恐喝を得意とし常用とする共産戰術がギヤングの姿を取つて現れたとて何の不思議はない。モスコー共産黨の幹部を赤裸々にして前半生の手柄譚を語らしめばヂノヴイエフと雖も三舍を避くること必定であらう。

三

さて我國に於ける共産黨の活動は昨秋以來方針を一變して廣く大衆獲得に乘出して來たやうである。この結果所謂シンパ網の擴大は勿論のこと、社會の各層に共産的空氣の滲透して來たことは著るしき現象となつてゐる。殊に經濟界の深刻な不況に因つて不平兒はいよいよ天下に充滿し、現狀打開を意向する者にして或は共産運動に投ずるに至りしものあるは遺憾ながら事實である。かくて國情の推移にして此儘に放任せられんか。我國の客觀的諸形勢は竟に多くの中間的存在を解消せしめて茲に極端なる左右兩翼の激化を展開せしむることは必勢とならう。我國の識者別して有産階級が當面の利害打算に專念して次代への用意なきこと惜しむべき境地にある。惟ふに共産運動の絶滅には劍と倶にコーランが要る。劍に威力なく、コーランに魂なくして何の共産黨退治か。しかも刻々として迫り來る日本の革新期に臨むで内敵の一暴露に接したことは兎に角國家主義への一挑戰として受取るべき生證文である。

政策萬能を排す

日露不可侵條約に就て

——昭和七年十一月十日第百七十二號掲載——

一

所謂日露不可侵條約の締結問題が近時頓に話柄に上り、且つ次第に實際化の氣勢に向つて來たことは注目すべき一情勢である。惟ふに之が切つ掛けをなしたるものは滿洲事變の勃發による日滿關係の更始一新にあること勿論で、此新形勢に刺戟せられて提案されたものがロシア外交得意の不可侵條約締結説なのである。かくて昨年十二月、芳澤氏が外相就任の爲め歸朝の途次、モスコーに立寄りたる折、之が兩國當路首腦間の問題となつたこと尚記憶に新たる所であらう。其後駐日大使トロヤノフスキー氏の我國論打診が頻りに傳へられ、近くは我松方氏の石油問題協定に就きロシアに赴きたる際にも喧傳され現に松岡氏のジユネーブ行きの途中を擁して之を蒸返してゐる有樣である。此機會に日露關係の吟味を新にする意味に於て問題は好箇の資料を提出したものであらう。

二

端的に云はばロシアの肚裡は明かである。卽ち其所謂五ケ年計畫を始めとし國家建直しの大業完成ま

では外國と事を構ふることは絶對に禁物とする所で、ロシアは何を措いても國力充實の一途に驀進することは疑ふべくもない。ロシアの實狀では今日の外戰は明日の崩壞を意味する。ロシア人の好む侵略癖も明日の國家的用意なくしては容易に實現し得ないこと明かである。かくてロシアがその目下の國情に卽して列國別して接壤國と不可侵條約を結ばんと焦つてゐる心事を了解し得られよう。ロシアの隣接國に於て未だ不可侵條約を結ばざるはルーマニヤ（目下交涉中の噂あり）を除いては我日本一國のみである、と云はるる丈けに日露兩國の交涉は今や世界注視の的である。さらば之が我國に於ける關心は如何。

三

不可侵條約は其前例に就て見るに多くは政治的、抽象的取極めであつて、其効果も從つて友好關係以上を出でないようである。因つて理論上から云はばロシアと國交關係を認めてゐる以上更に不可侵條約を結ぶが如きことは屋上屋を重ねるもので、可笑な話であるが核心は素より理論に據つてゐるのではない。之を我國論の大勢より觀るにロシアが左程に之を欲しがるに於ては我國に於ても強ち峻拒するに及ぶまいと云ふ邊りに落付くやうである。素より我國の立場として滿洲新國家を擁し、第三インターに特別の警戒を拂ひ、ロシアの對支政策に深刻の疑念を抱いてゐる今日に於て假りに之が是認を前提とするも東歐の群小諸國との例に見るが如き月並的取極めで滿足し得らるるや否は多大の疑問があらう。殊に日露國交の嚴然として存在してゐる事實に對してもロシアの誠意を疑ふ譯でないがロシア政府と第三インターとの關係が支那の國民政府と國民黨との關係と同一視せらるる以上、先づ日本人の此點に就ての心構へを明察しなければ問題の第一歩に踏み込めぬこと明かである。ロシアは所謂資本主義諸國と國交を修め、之と諸條約を結んで其國家形體に於て已に特殊國家たることの看板を下ろしてゐる。しからば宜

しく相手國の疑念一掃に對し淡白率直に努め然る後に自國の經營に没頭すべきであるまいか。日本は素よりロシアの滿洲國家承認を熱望し、漁業權、林業、石油利權に就き更に協定を進めて友好關係を堅固ならしむることに多大の期待を有つものである。勿論不可侵條約の如き此過程に於て考慮の中に加へらるべきであらう。さり乍ら日本人は利害の打算を越えて國家の大義に動く國民である。謂ふところの不侵略條約問題を單に政策一點張りで取扱ふが如きは彼我俱に自ら侮るものに外ならぬ。

非常時の誘惑

不快なる皮肉思想を排す

——昭和七年十一月二十日第百七十三號掲載——

一

本月十二日付の東京朝日新聞は「非常時の誘惑」と題して可なり皮肉な社説を掲げてゐる。冒頭に「近頃つくづく世相を見るに、非常時を理由とさへすれば、少々辻つまの合はぬ事でも容易に通させるのが常習となつて來たやうである」と斷じたる後「非常時なるが故に理屈を無視しても良し、否その方が寧ろ愛國的だといつたやうな氣分が世に横溢し、詳しく事相を討究して精確な考慮を遂げるのを面倒がる傾

向の現れたのは憂ふべきことである」と疊みかけ事に托して愛國的氣分にも無用の刺戟を加へてゐる。前日付夕刊も亦豫算問題を捉へて陸海軍の態度を嘲笑難詰し以て「兵備費分割競爭」と烙印してゐるが、其意の那邊にあるかを暗示したものである。殊に右の嘲笑記事の下段で「軍國主義から一轉軍縮主義へ——ルーズベエルト氏の人柄」と題して大々的に敗北主義を煽つてゐるが、之が事實問題は兎に角として其假面せる反軍意向をチラつかせて拜外思想の擴大を策してゐる皮肉な思想に對しては寔に遺憾に堪へぬ。

二

朝日の見解によれば非常時の内容は五つの要素より成立つてゐる。卽ち(一)滿洲事變以後同地方に於ける事態(二)之に關聯する支那を始め列國及國際聯盟關係の外交問題(三)國内に於ける經濟財政狀態の不況變調(四)政黨政治の不信用に原因する政治的變態(五)時々突發する暗殺襲撃事件これである。しかも右五要素中で同紙記者が力説して指摘してゐるのは最後のものである。曰くこの内最も惡性であり、かつ臨時緊急的な性質を帶びてゐるものは(五)であつて五・一五事件の如きは遂に之が原因となつて内閣まで顚覆させた。恐らく現時を端的に非常化させるものは、洗ひ立てて見れば結局この野蠻極まる直接行動に歸するものである。

かくて他の四要素は恒久的なもので結局非常時局を作つてゐるものは野蠻極まる直接行動であるとの意味である。安價な感傷主義流行時代に相應はしき言論であるかも知れないが、日本を代表する所謂大新聞の言論の權威のために惜むべき見解である。同紙從來の立場から云はばせめて默殺すべき問題ではあるまいか。

三

非常時の色彩は各國各樣に多少の差異はある。さ

り乍ら之を大觀するに舊諸勢力の支配力が傾き、之に代らんとする新興力擡頭の大陣痛が非常時の共通的姿相でないか。しかも所謂支配階級が凡庸低劣にして時潮の急流に没交渉であれば之が反動と波瀾は意外に甚大なるを思はねばならぬ。而して茲に政治家の重責と其存在理由がある。政治家の手腕は國家生活の核心を明識し此核心によつて動くものの中より勢力の適當の移動を計ることにある。國家を過激派や無感覺派の試驗臺に立たしむることは一國政治家の恥辱であり、國家としてこれ以上の迷惑事はない。惟ふに直接行動の非なることは素より論を俟たぬ。さり乍ら今日の所謂「非常時」に一種の直接行動の頻發するは現前の社會相に「非常時の誘惑」ある爲めではないか。遮莫デマ、センチ泣言、皮肉、而して一切の分裂思想は蒸々として立ち騰る興國精神の前に吹き飛ばされるべき代物である。

猫眼の壽府特電

對聯盟の見透し奈何

——昭和七年十二月十日第百七十四號掲載——

一

所謂日支紛爭のジユネーブ特電に就ては昨是今非、猫眼のやうな變轉振りであるが之を見て我民心が一喜一憂すること寔に遺憾に堪へぬ。これは勿論小國連の意地惡さ、野次氣分まで御念入りの打電に

崇られた結果からでもあらうが大國日本の心構へとしては斷じて採らぬ所である。我國民は問題の重要性を履き違へてはならぬ。滿洲國の既に獨立したる事實及び之に對し我國家の正式承認を與へたる事實は假令外力の如何なる重壓あるも斷じて微動だに許し能はぬ所である。しかも我國のこの磐石の決意と國民死活の關心事の背後には最惡の場合に處すべき用意もある筈だ。しかるに歐米列國の對内事情は極東の滿洲問題に就て主力を傾くることを到底許されてゐない。茲に於て對聯盟關係の結局の見通しに就ては毫も狼狽する必要はない。假りに聯盟との正面衝突が起つたとして之が何を意味するかに就ては聯盟自らがヨリ多く考慮すべき所であらう。我國民は既成事實を討議によつて覆へさんとする聯盟會議の威力を憚る必要はない。

二

聯盟の俎上に載せられた日支紛爭は理事會及び十九ケ國委員會に於て散々に揉まれ抜かれたが竟に解決策は發見されずして豫定通り五十七ケ國の聯盟加入國代表を一堂に集めて去る六日から臨時總會を開催したること周知の通りである。臨時總會は本年三月三日に開かれたる上海事件に關する第二回總會の例に就て稽ふるも言論の遊戲であることは始めから豫知された所であつた。本稿執筆中は尚混沌たる情勢であり前途は俄に豫斷し得ぬ所であるが事態の性質上我國は之に對し何等の期待を有ち得ざることだけは略明されてゐた。殊に無責任の小國達が所謂大國筋に對する感情やら、對内外の思惑、宣傳やらに動機した饒舌の對照とさるるものこそ迷惑至極である。嚴肅なるべき滿洲問題が世界の素見客の前に店晒しにさるることは我國民の斷じて忍び得ざる所である。

三

惟ふに聯盟は臨時總會より更に委員會附託とでも

行き何とか目鼻をつけて壽府の幕を閉づる肚裡であらうが、我國民は其體驗に於て聯盟の内幕を遺憾なく洞察し得たことは寧ろ望外の仕合はせであらう。所詮聯盟は超國家に非ざるが故に當然に二三大國の國策遂行機關であるか、小國連の國際的舌戰場である。

而して聯盟の此機構を以て我國家の鐵血の果實たる滿洲問題に直接の容喙を敢てし來りたること頗る大膽な仕打であつたが果せるかな、其現實曝露は如實に示さるるに至つた。かくて我國民は國際政局に對する認識を深め且つ大國としての自信ある作法とは如何なるものかを一入深く感得した筈である。

日本包圍網の擴大

歲末の國際情勢迫る

——昭和七年十二月二十日第百七十五號掲載——

一

昭和七年の大詰に展開されてゐる國際情勢は日本包圍網の擴大强化である。所謂日支紛爭處理機關たる國際聯盟最後の切札は果せるかな、調停委員會の設置にあつたが、之が構成に聯盟以外の米、露兩國を加ふべしと云ふに至つては其肚裡は略察知するに難くない。しかも之が發議はサイモン案である以上

イギリス外交の深謀遠慮に出でたることいよいよ明かである。タイムス所報は此間の消息を傳へてゐるが日本政界の不安は再び幣原外交の擡頭を招來するか、赤字財政の結果は滿洲經營を見放すか。兎に角、日本の國情が變化するものと見て夫れまで時機を待てといふのである。正に委員會案に照合して微苦笑を禁じ得ないではないか。しかして一方例のノルマン・デヴイスは壽府を引揚げて歸米するに臨み十四日記者團と會見して日本軍を滿鐵警備區域内に撤去せしむべきを殊更に力説してゐる。同時にロシアは蘇炳文問題に惡意地を見せ、矢繼ぎ早に露支國交回復より不可侵締約へと乘出してゐる。歲逝かんとして國を憶ふの情寔に切なるものがある。

二

惟ふに孤立日本の因て來る所は勿論滿洲問題である。所謂焦土外交の如き興奮には共鳴し得ざること論を俟たぬが、刻下の我環境は如何にも暗雲低迷の貌である。形勢は如何にも重大化してゐる。而も此現實に直面して我民族的意氣と理想を翳して立向ふ一途の外に何があるか。試みに露支妥協より來る東亞の新形勢を揣摩して見よう。さて支那は依然たる支那である。滿洲問題に就ての對聯盟關係が少しく意に滿たずとあれば以夷制夷の一流政策に徹して急轉直下し以てロシアとの屈辱條約さへ喜むで結むでゐる。而して之が直接の動因は我國に對する面當て、鼻明かせにあることは見え透いた猿智慧である。國交回復に附隨して持ち出された所謂不可侵條約の内容如何に就ては勿論未だ判明しないが恐らくは先例によるも略之を察知し得るに難くない。しかも此度の支那側の態度より推察するに此種條約の核心をなすべき所謂赤化宣傳の取極めに就き支那側が如何なる釘を打つてゐるのか、之が實際の取扱に當り何程の權威あるかは多大の疑問がある。恐らくは露支國交回復を好機として南支一帶に磐踞してゐる共匪三十萬の勢力はめきめきと動き出すべく誰か此形勢

を案じて支那本土が外蒙の轍を履まずと斷言し得よう。かくて陝西、甘肅の地方的ソヴエート化の如きは今や疾風に曝されてゐる枯木に過ぎない。支那の全面的混亂は不可避の急迫にある。

三

支那が自ら破滅を招來してゐることは憫情察すべきであるがロシアの意圖に就ては次第に分明し、我國としては容易に彼に許し得ざるを刻銘せしめてゐる。ロシア機關紙が自讃してゐる如く露支國交回復がソヴエート平和政策の勝利であるとなし、過去五年に亘る支那の反露政策が支那を分割して滿洲國の成立を見するに至つたと云ふに至つては手前味噌と盲斷を語る以外の何ものでもない。日支紛爭事件につき嚴正の態度を採つてゐたロシアが此場合に臨むで支那との不可侵條約を結ぶが如きことは滿洲國不承認主義に轉じたもので我國に對する挑戰とも見られ得べきであらう。日露不可侵條約などは勿論ロシア自ら撤回したもので我好意的考慮は斷ち切られた譯である。

支那の共産暴動化は東西全局の擾亂を捲き起すことを豫想せられてゐるが、全アジアの風雲も亦從つて紛糾を免れ得まい。かくて我民族の世界經綸序曲はいよいよ本格的領域へ這入つて來た。我國は先づアジアの守護神として破魔鏡と降魔劍を堅持して立つべきである。

新春を迎へて

——昭和八年一月十日第百七十六號掲載——

一

未だ曾て吾人の經驗し得ざりし非常時代の壬申の年を送り、光輝燦然たる皇紀二五九三年昭和癸酉八年の新なる年を迎へたる帝國は、内外の情勢依然として非常時なるを感得す。而も事態は寧ろ、今後に於いて本格的姿態を表現し來るならん。今更昨非常事態を回想せば、餘りにも深刻にして當時國民大衆は、一時混迷の坩堝に投ぜられたるの感ありしなりき。

されど、我建國以來二千五百有餘年の青史の教訓と、我民族傳統の精髓たる日本魂は、皇祖神靈の加護と、上陛下の英明徳澤の下に、擧國一致、よく懸河を閊ぎ、荆棘を薙ぎ開き、以て日本民族の本領を世界に高揚し來りて今日に迨べり。

二

今、歳首に當つて、吾等今後に處するの感懐を述べんに。我國の前途を蔽ふ暗影は豈夫れ一二にして止まらず。艱難は行路に累々たり。その克服、その突破、彼岸に至るの勞苦は、身を以て陽眄（やうめん）の河に解り、身を以て桑山の林に禱るも足らざるなりと信ず。然れば、宜しく國民は總協力、不撓不屈の一大精神を鼓舞作興して邁進する事によつてのみ、明日の輝かしき理想と、洋々たる希望との達成は約束せらるるを得べし。

それ、日本民族の使命と、理想は大なり。
吾等に、國本主義の大道あり。焉ぞ、右顧左眄すべけんや。吾人は大聲叱呼して言ふ。
全日本國民よ！世上片々たる俗論に惑ふ勿れと。
茲に昭和八年の新春を迎へて遙かに皇祖神廟と皇居をおろがみ、寶祚の彌榮と、國家民人の寧福を祈念し併せて世界人類の融和を祝福して、歳首の詞とす。

何故の思想激化か

議會政治再建の道如何

——昭和八年一月二十日第百七十七號掲載——

一

最近に於ける思想運動の傾向を見るに、滿洲事件を一轉機として、所謂左も右も、實戰的強行軍の行程を辿りつつある傾向は見逃し得ない事實で寔に由々しき事態と云はねばならぬ。一體斯も何故に思想運動が激化してゆくか。

從來は、大衆獲得と、指導的思想の社會通念化と實踐的教育の爲めに諸種の戰術が用ゐられ、組織の擴大強化に力を注ぎつつあつた。卽ち組織的宣傳教育時代であつた。然るに近時に至りその組織化、宣傳乃至教育は前史的工作となり、今や實踐に向つて

運動行程が突き進められつつあるのである。斯の如き傾向は運動する者、卽ち大衆に働きかける一方的の行爲でなくして寧ろ國民大衆側から能動的積極的に要求しつつあるのであつて、從つて一度働きかけんか、其吸引速度は驚く程であり、それだけに大衆の感受性は强化し來つてゐる。方に尖銳時代と云ふべきである。表面は言論の取締、或は治安維持の任にある者の峻烈嚴重なる警戒と彈壓と、而して政爭の休戰的狀態とに因つて、一般人の神經を刺戟するやうな事態は、周知せられずにあるが故に、社會人の動向はインフレ景氣に掩はれて平靜なるかに見ゆるけれ共、然し一皮むけば、其潛行しつつある尖銳化傾向は決して樂觀を許さぬもののある事を痛感させられるのである。

二

國內の思想乃至政治に關する國民大衆の態度が叙上の如く尖銳化し、急迫化に內醱潛行しつつあるに際し、世界第三期資本主義行詰りの苦惱、西洋物質文明轉落の急テンポ、白人橫暴、東洋精神文化再現の遲足と支那全面的赤化の不可避等の刺戟は、我國大衆をして、いよいよ祖國を愛するの情念を灼熱化すると同時に之に反動し、焦燥するマルキストは世界革命の可及的誘發の爲めに、溺れんとする者は藁をも摑むの筆法で、所謂「決行」「實行」の掛聲を口々にしてゐる事は何を物語つてゐるか。正直の處善惡は別として右も左も今や巖頭上に立つて最後の切札に唯一の望みを囑してゐる姿は寧ろ悲壯と云ふべきものがある。

之故にこそ、果敢明截にして而して我日本的氣魄と一脈通ずるかに思はれるファッショ思想、或は日本國史を素材として組立てられてゐるならば、それがイカもの思想であらうとも、之を齟齬選別する暇もなく、奉じて以て更始一新、皇道維新を期せんとする運動が、大衆の間に飛躍しつつある所以なのである。何故に斯思想を激化せしめたかは、敢て言

辭を弄する必要はあるまい。最早今日の場合革新を斷行する一途あるのみである。

三

然るに狂暴化せるマルキストの克服、殲滅の役割を一方に擔ひつつ祖國革新の運動に專念する者に對し、十把一カラゲにフアツシヨと稱し、一部頑迷なる國民の間に於ては恰もムツソリニズムその儘の獨裁專制を包藏しての運動なるが如くに、宣傳之努め、國民をして革新の氣魄、自力更生の情熱を冷却せしめんとする惡意の輩が跳梁跋扈しつつある事は遺憾千萬である。多く之等の徒輩は、神聖なる議會政治をして、黨略政治と心得、依然立憲政治再建の名に蔭れて、自己の非を蔽はんとする卑怯を、敢て暴露してゐるものと云ふべきである。

若し夫れフアツシヨであらうと立憲思想であらうと、我國に於て皇道精神、卽ち建國精神と相容れざる思想は斷じて之を排撃し、我國思想界からノツク・アウトすべきはマルキシズムに對する吾等の建前同樣、今更呶々を要せざる國民千古の信念である。何すればとて、皇道精神に依存する純眞なる思想運動を指してフアツシヨの一言の下に排撃し去らんとするか。

斯の如き徒輩こそ、祖國を毒する獅子心中の虫であらう。

四

如斯き我國現下の思潮の動き國民大衆の動向は、此儘推移せば、さなきだに尖銳化しつつある傾向は、聽て、日本的フアツシヨとマルキストと黨略政治家とが、三巴三くみの鼎立狀態を濃度化し、激化して、果は慮外の結果を招來せずとは誰が保證しやう。

茲に於て全國民及び賢明なる政治家並に爲政の大任に在る者は、須らく三思四考し、以て輔翼の責を全うせんが爲めに、宜しく、議會政治の眞精神を自覺し、皇道的統制主義に基く、國家諸般の統制を行

ふべきである。

之を斷行するには、平沼男の言を籍りて云ふならば、道義的實力と其背後の力を要するのである。此道義的實力と背後の力を如實に實現しつつある者は、現在國際聯盟に於ける松岡全權と、其背後の國民とを以て其實例とすることが出來やう。我國政は今や更始一新を要する時である。議會政治の上に此「力」を表現して而して議會政治の上に國家全面を統制し、ひいては世界列強に對しても此氣魄を反映せしむべきである。之卽ち思想激化の統制、議會政治再建の道であると信ずる。

獨往の一筋道

聯盟外交の破局に臨みて

——昭和八年二月十日第百七十八號掲載——

一

猫眼の壽府情勢も變化の限りを盡し切つていよいよ最後の土壇場に來て決着がつきさうになつた。茲數日間には否でも應でも大勢の分明は截然として全世界に明示さるることであらう。端的に云はば我聯盟外交は始めから神經過敏で慌て過ぎてゐた。而して一昨年九月二十二日の出鼻より失敗の連鎖であつ

たこと疑ふべくもない。今にして之を語ることは愚痴以外の何物でもないが事實は正に抹殺し得ないであらう。しかも過去は竟に過去である。事情急迫を告げてゐる。卽刻、何をすべきか次で到るべき形勢は奈何。之に處すべき我國民の態度は奈何。來るべき運命は竟に來たのである。日本精神の縱橫無碍の大飛躍と日本國民の獨往自在の大手腕が延び延びと擴げ得る絶好の機會到來を明識すべきであらう。

二

惟ふに聯盟側の肚裡は明白であり、如何に我國が字句の修正で押問答を重ねて見た所が、問題の核心に於て喰違つてゐる以上到底滿足な結果を得られよう筈がない。卽ち聯盟側では、

一、滿洲國否認の原則を決して更めない

二、リツトン報告を日本に對し惡意に引用してゐる

三、日本の軍事行動を自衛行動に非ずとしてゐる

四、和協委員會の權限問題に於て看破さるる如く東亞問題に就いて國際干涉を試むるの野望あること明かである

以上は聯盟外交の跡を辿つて得られた印象であるが、これでは日本の面目を丸潰しにして其上日本の生存其もの迄も抹殺しようとするものである。此間我に何の妥協があり得るか。字句の修正ありとせば悔を後年に貽すべき一場のペテンであらう。かくて見るが如き國際情勢より切言すれば聯盟脫退は俱樂部脫退と撰ぶ所がない筈である。率直に氣輕に理由を附して始末を附くべきである。聯盟脫退は聯盟自ら已に數件取扱つてゐる筈でないか。

三

傳へらるる所によれば我某々方面からは頻りに關係協調運動が策せられて刻下の微妙な壽府外交戰に對し必死の軟風を吹かせてゐるとの事である。國際

協調は素より好む所であるが最近列國の對日態度より察するに協調は我國の屈從を意味すること明かである。而して我屈從はやがて我國自らの壞亂となり、東亞の擾亂となること必勢であらう。聯盟外交紛糾の因を作つた滿洲國の出現は我國策の一眼目たる東洋平和の大理想を反映したもので我國としては世界に誇るべき助力を致した筈である。しかも世界の眼と耳は此事實を遮つてゐる。

我國は今や其國家的良心を意向して起つた故を以て一途に聯盟規約、九國條約、不戰條約等々違反の烙印を額上に押されたのである。國孚之より大なるものはない。國家の面目は素より國家の利害の上にある。之が蹂躙さるるに當つては徒らに叩頭し了るべきに非ざること多言を俟たぬ。我國はやがて到るべきアジア全局の覺醒と協力の爲にも潔く操志を貫くべきである。

形式政治の轉向期

非常時局の昂潮時來る

——昭和八年二月二十日第百七十九號掲載——

一

昭和八年度の豫算案は兎も角衆議院を通過して今や貴族院の審査に移されてゐる。而して該豫算案は二十三億に及ぶ空前の巨額であるが之に對し一錢一厘の修正を試みずして送り出したものである。かく

て此議會風景を一見すれば如何にも非常時氣分に相應はしき擧國一致振りで、現政界の美はしひ和親を表示したもののやうであるが、其實相は果して奈何であるか。政黨の樂屋は兎に角として少くも豫算案討議の議事錄に現れたる所のみによるも、上記の觀察は根本より裏切られて居ることが明かである。卽ち政黨相互間に於ては勿論のこと對政府關係に對しても不信と愚痴と泣言を並べて居ることが看取されたことその何よりの證左であらう。言ひたきことも充分公言し得ず徒らに他を顧みて語り、何となく面從腹背の感ありしことは否定が出來ぬ。かくて議會は其職能を自ら停止し正に假死狀態に陷つたもので、早くも議會無用論の擡頭し來りたる所以であらう。

二

議會の此姿相は勿論議會人の所謂憲政常道とは太(はなはだ)しく逆行するものである。憲政の常道は議會政治の活潑なる運行を除外しては他に見らるべきものでない。明朗にして屈托なき政戰を議會に展開せずして語らるべきものでない。更に突詰めて云はば政治家が誰にも憚るなき政治的良心によつて行動せざる限り憲政の常道などあり得る筈はないであらう。憲政の常道が政黨人に限つて通用せらるる政權奪取の便宜的スローガンであるならそれは疑ひもなく憲政の覇道である。所謂政黨の不信と無能が曝露せられ、デモクラシーの破綻が世界的に叫ばれてゐる今日に於て、謂ふところの憲政の常道に捉はるるが如きことは時代錯倒の太しきものであらう。一般大衆は已に形式政治を見限つてゐる。虛僞政治を蹂躙してゐる。而して打てば響く生命政治を待望してゐるのである。之をヒトラー流に云はば一切の文化が個人の創造的活動の成果であるのに獨り時代の政治組織のみが多數主義に基礎づけらるる理由はないと云ふことに歸着する。所謂議會政治の本質をなす政黨政治が衆愚政治に墮し無責任と無能力を晒して世界の主潮より遊離し去つたからである。若し憲政の常道を云

はば政治の形式に非ずして政治の本質に之を求むるこそ特に非常時に相應はしき活機であらう。

三

端的に云はば今議會の無風狀態には複雜微妙の黨人心理が動いてゐることを否定が出來ぬ。しかも此心理の解剖に就ては敢て深く觸るる必要もあるまいと思ふ。今や世人口を開けば現政府は生ける屍であると云ふ。さり乍ら政黨自らも亦屍でないか。攻防兩乍ら熱意を缺き明識を失つて微に呼吸してゐるかに見ゆるのである。これ斷じて非常時局に立向ふ政界の面貌を傳ふるものではない。豫算の無修正通過に出づるならせめて快く我財政の前途に對し協力を誓ひ以て內外の疑雲一掃に努むべきでなかつたか。非常時局の昂潮時はやつて來た。政界は虛心淡懷自らの姿を見直すべきである。

思想戰卽政治戰

議會政治に新機軸を出せ

——昭和八年三月十日第百八十號掲載——

一

議會政治は今や世界を通じて開店休業か、神心喪失か、時代錯倒か、何れかの狀態に置かれてゐる。曾て英國の憲政華やかなりし頃、誇れがしに謂はれた二大政黨交互の爭覇戰の如き今にして之を追想す

れば他愛もなき遊戯に過ぎなかつた。所謂議會政治が政黨政治と同意義となり其實際に於ては一部特權階級の御用機關と墮し去るや、民心は漸く議會政治と遊離し竟に今や英雄政治、哲人政治への憧憬復歸にまで意向し來たりたることは、歴史は繰返すとの方則に從つたもので正に天意であらう。所謂政黨政治が假面政治である限り、狂瀾怒濤を豫想せしむる刻下の非常時局を乘切り得ざることは餘りにも明白である。英米兩國の議會政治は今や其内容に於ては決して昔日の夫れでない。しかも有史以來のこの變革期に直面して其形式政治を以てしては抜本的革新を期することは略不可能に近い。兎もすれば獨裁政治の甲裝が議會の法衣の間よりチラつく所以である。

二

獨裁政治の是非につき茲に詳説するは筆者の欲せざる所であるが、現時の反國家事態に就て國家權力が餘りにも怯弱なるは識者の深憂禁じ得ざる所である。而して其好例は共産黨對策に於て遺憾なく看取されてゐる。ドイツ國粹黨の領袖プロシア内相たるゲーリングは去月廿日其管掌下にある警察當局に指令して、一、共産黨其他「國家の敵」は躊躇なく射殺すること、二、突撃隊、鐵兜隊、國家主義團隊の相互補助、三、國家に抗敵するものに對する武器使用の許可等々を列擧し共産黨に對する國家意思を明示した。國粹黨の所信によれば新政府の使命は民主々義、別して共産主義の爲め衰亡の一途を辿つて來たドイツを救出することにある。故に其正面の敵は勿論共産黨であり、先づ之が撲滅を期することこそ何よりの急務と云ふにある。

刻下の非常意識を明識して國家の興隆を忘年する者に取りては此種の明標によつて直截邁進することは當然の筋道であらう。敢て政治の常道とは云はぬが強力政治の一面目を傳ふるものである。

三

共産黨活動の事相究明と之が責任と歸趨論に就ては遖(さすが)の我休業議會も相當の熱意を明かにした。さり乍ら實際に於て議會自ら何一つ權威ある姿勢を示し得ぬ所に昔乍らの傳統的謬想と無力さがある。共産黨は勿論現行法律を否認してゐるので現議會其ものをも亦否認してゐること言を俟たぬ。しかも議會の無氣力と無能力とを以て自ら共産黨退治に一指をさへ染むるが如きことは到底期待し得ぬ所であらう。國家の存立其ものの重大事に風馬牛を裝ひ因つて以て自ら權威を明示し得ざる如き議會の存在理由何處にあるか。今や時代は正に急轉してゐる。區々たる黨利黨略に没頭する政治の斷じて許し得ざることを切感せしめてゐる。思想戰卽ち政治戰への展開である。かくて從來の如き政友、民政の「黨意識」は解消さるるに至るべく、議會政治の一新機軸が出づべき時であらう。

歐洲政局の戯曲

國際不安に躍る三人男

——昭和八年三月二十日第百八十一號掲載——

一

歐洲の政情が極度に不安を告げてゐる折柄、去る十八日マツク首相が伊太利を訪ねてムツソリーニ首相と會見したる報道が傳へられてゐるが此報道は序曲から可なりの激情を誘發したものである。況んやドイツの新首相ヒトラーが此渦中に飛出す噂さへも傳へられたので世界の視線はローマに集められた觀がある。之より先、ロイド・ジヨージはシエフイールト市に於て開催された宗教大會に臨むで一場の演説を試み世界戰爭危機の防止に論及してマツク首相の伊太利訪問を勸めてゐる。彼曰く、

マクドナルド首相は速やかにローマに赴いてムツソリーニと會見し最近イタリー、ドイツ間に進行中と傳へられてゐる兩國間の協約締結を防止すべきである。ナチスの武裝突擊隊が最近ラインランドの非武裝地帶に侵入してゐることに對してはフランスは宜しくヴエルサイユ條約違反なりとして國際聯盟に對し抗議すべきである。

想ふにこれマツク首相のイタリー訪問の意義を穿つたものであらう。

二

イギリスの傳統的外交策より云つても伊、獨近時の動向より見ても兩國の接近は勿論其好まざる所である。況んやヒトラー内閣出現後のドイツの意氣軒昂振りは世界の現狀維持論者を驚殺せしむるものあり。別してフランス、イギリスの神經を一方ならず刺戟せるものがあつたからである。折も折、イギリスが對露問題で一大緊張を強られてゐる際とて、伊獨の緊密な消息の相通ずることは打算主義のジョンブルに取つては堪へ難き所であらうと思ふ。かくてジョージの促足となり、マツクの發足となつたものであらう。さり乍ら伊、獨の接近は一フランスを對照として見るも避け難き運命である。獨、伊國家主義の沸々たる情炎抑ゆるに由なく、其勢ひを驅つて不均衡の國際關係の整調を期せんとすることは之が中心勢力たるフアシスト得意の壇場でないか。英佛國策の遂行機關たる國際聯盟の機構を其まゝにし、大戰後に締結せられた條約の鐵鎖を改修せしめずして國際協調を説き條約神聖を語るが如きことはドイツに取りては殊に片腹痛き感がある。マツクの私語が何程の効果を齎すかは素より疑問である。

三

之を端的に云はば現代は正に國際的神經病に惱まされてゐる。自他俱に寸刻の安居がなく、動搖と不安に襲はれてゐること其實相であらう。しかも其因つて來たる所は國家心の至純ならざることにある。國家心の至純ならざるは政治家の不純に歸因することと頗る多く、其辿るべき運命が竟に國家間の猜疑排斥となることも亦明かである。かくて現今の國際不安は究局する所、政治家の餞饉にあること論を俟たぬ。別語之を云はば現代の政治家に偉大なる國家的理想なしと云ふことである。マツクは英國最初の勞働黨内閣の首班として此點に於て失敗してゐる。英國が彼によつて其政治的格式を如何に下落せしめられた

かは問はずして明かであらう。ムソソリーニ、ヒトラーは寧ろ粗野の自然兒である。さり乍ら彼等は國家興隆の意氣を滿腹に呼吸し乍ら國家の軌道を走つてゐる。歐洲三人男の鉢合せを想起して見た丈けでも多分の時代的興味がある。

非常政局の認識

無黨派意義を高調す

――昭和八年四月十日第百八十二號掲載――

一

その昔憲政常道で鳴らしてゐた英、米兩國も今やその傳統的政黨政治を以てしては時局の重壓から脫し得ざるを悟つて已に政黨政治の實質的轉換に乘り出してゐること言はずもがなであらう。卽ち從來の所謂政黨政治卽ち議會政治の迷盲が破られて議會政治本然の姿相に還つたのであるが、之に依つて政黨對議會政治の觀念が一入とハツキリして來たことは注目すべき現象である。政黨が國家意識を失つて黨意識にのみ没頭し其勢力を國家の汎有ゆる機關に滲透せしめ之を其頤使のままに動かし來りたる結果は國家の生命其ものを蝕ばみ、やがて政黨自らの悲運をも招來せしめたのである。惟ふに政黨の顚落は所

謂議會政治の冒瀆から來た。かくて政黨が議會を彈丸とし國政に楯突いたことは素より僭上の沙汰であつた。今や非常時局の唸りによつて政黨卽ち議會の痴夢が破れて、兩者間の淸算を見るに至りたることは寔に當然である。

二

現時の非常時局に於て政黨の力を求めんとせば無黨派的政黨の意義を明示すべきことにあらう。無黨派的政黨とは政黨が國家至上主義に徹することで、政黨自體の裡に國家其ものを反映せしむべきことである。しかるに見るが如き政黨の現狀に於て之に非常時局の國政の重責を託せんとするなどは不安此上なく、せめては政黨の休業を期待してゐるといふのが英、米政界に感受されてゐる國民的動向であらう。獨、伊の獨裁政治に押され押されて遠の傳統的政黨政治も影薄きこと察すべきものがある。かくて英米の政黨政治は今や僅に殘骸を橫たへてゐるに過ぎない。其精神は已に之を去つて議會政治に對する認識を新にして國民の期待に添はんとしてゐることその傾向的動きであらう。卽ち議會は政黨が國民總意の直接的反影である限り勿論一の諮問機關であつて宜い。

政黨の橫暴により世の非難を受け其權威失墜を來すが如きことは議會の迷惑此上なき所である。而して諮問機關に權威なしとするが如きは素より明かに偏見であると。かくて英米の政黨は名實俱に休業の貼札を掲げてゐる譯である。

三

顧みて我政界の現狀を觀るに之はまた格別に時代逆倒のコースを辿つてゐる。世界の政治舞臺より眺むれば我政界は可笑しき緞帳芝居に過ぎない。而して其政客は正に田舍廻りの旅役者である。所謂憲政の常道など今や歐米の政情に於ては時代と平仄の合はぬドンキホーテである。其姿は餘りにも古び、其

足取りは餘りに巫山戯である。かくて刻下の非常時局に直面しては逆に憲政の非常道こそ却て常道化さるべきものと思はれてゐる。觀じ來れば我國は獨り政界に於てのみ尚氣恥かしき世界の陣笠である。

惟ふに政治形式の如何は今日の非常時局に臨むに當つて先決的のものである。之を我立場より稽ふるに例せば日滿統制經濟であるが昨年夏に於ては僅々二十萬噸の撫順炭の輸入問題で大騒ぎを演じ、昨今はまた大連汽船の古船購入問題で啀み合ふといふ始末である。しかも此種問題の根本的解決を期し得ずして何の對滿政策あるか。而して所謂政黨政治に於て對滿政策が此上どうなるかに就ては識者間に深憂されてゐる所であらう。我國民は尚篤と非常時局の認識を深むべきである。

反社會性の波動

近時の社會面に就て

——昭和八年四月二十日第百八十三號掲載——

一

近事の社會相を觀るに犯罪の慘忍性——深刻性とも云はれ得べきか——と自殺者の激增とが特に目立つて來たやうである。試みに各地の新聞三面種を唆つてゐるニュースと云へば性問題に絡はる戯作に非

ざれば前記の二筋道を辿つた悲劇の描寫であらう。勿論此種の社會種も強ち今に始まつたものであるまい。從つて特に取立てて問題化するに及ばぬと云ふものもあらう。さり乍ら今日の社會相が今日の社會種を撒いてゐることに間違ひはない。街路地の慘話、村落の悲譚に時代の苦惱を傳へてゐること素より當然である。かくて有閑、有産階級の家庭より共産黨事件の續出するなどは寧ろ自ら掻き自ら刈るものであるが、昨今の悲風慘雨に至りては因つて來る所多少異なるものがある。しかも人心への傳染性は彼是區別なく、昨今は人の身、今日は吾身に逼るなきやは誰か斷じ得よう。其來るや盜人の窺ふに似たるものがある。

二

筆者は茲に個々の犯罪相や之が動機に就いて力說してゐるのではない。慘忍酷薄の犯罪が頻々として敢て行はるる今日の社會相を視直せと云ふのである。社會相の險惡化は卽ち人心の荒廢に外ならぬ。而して今日の社會相は荒涼たる沙漠を偲ばせてゐるが自ら顧みて之が責任なきやに至りては何人も免れ得ざるものがあらう。犯罪の慘忍性は世相の殺伐を反映したもので、更に吾自らの荒廢を語るものである。かくて彼背けば吾怒り、吾怒れば彼銜むに至ること必勢である。今や反社會性の傳染力は不知不識の間に吾が裡に喰ひ込むでゐる。今日の社會相に深刻な全面的苦惱を漂はしめてゐる所以である。生きんとして生きるを得ず、死せんとして死し能はざる苦惱が夫れであらう。而してこれ目的なき生活、理想なき生活の辿るべき當然の運命であるが此運命こそは實に慘劇を操る主役でないか。無目的、沒理想の生活とは内面的に云はば勿論公事に交涉なく、從つて之に感激なきことを意味する。卽ち人性の破局である。或は其反逆である。しかも人性が時代の社會的環境により、多種多樣に着色さるることは近時の犯罪相が雄辯に語る所である。

三

由來我國民性には其誇りとして天空海濶の朗かさと、奥床しき自制心を有つてゐた。朗かな心は卽ち屈托なき境地を表明したものである。この心は斷じて慘忍性を並存し得べきでなく、近時の犯罪が我本來心と游離してゐること素より明かな事實であらう。自制心は勿論愼獨である。或は教養心とも云はれ得べく、意思力とも觀じ得よう。この心も亦斷じて安價な自害性と兩立し得べきでなく、流行的自殺とは絶對に相容れぬものである。落花流水に命を粗末にするなど日本人の眞骨に添はざること太しきものである。しかも近時の世相不安の中には剛健なる我國民精神の振起により匡救さるべきもの頗る多い。而して我國民性が感傷的でなく樂天的である一事によるも時代の暗き刺戟に飜弄さるるなど正に國民的汚辱と斷ずべきでないか。

停戰の先決問題

支那の狀勢急迫化す

——昭和八年五月十日第百八十四號掲載——

一

近時北京及び南京より頻々傳へられて來た停戰問題はその諸情報が多く眉唾物ではあるが、兎に角支那側が抗日によりその内部崩壞が一段と急迫化し來りたることを語るものである。惟ふに北支の形勢は何應欽一派により一應威壓されてゐた觀もあつたが實は舊東北軍を始めとして各雜軍が入亂れて騷然たる狀勢を續けて來た始末であつた。別して昨今は馮玉祥系の方振武軍は何一派の抗日不徹底を口實として北上し、其先發隊は已に保定に逼つたとさへ傳へられてゐる。之に對し何應欽は蔣介石の命により揚村より于學忠麾下を保定に急行せしめ、更に陝西軍二個師をも同地に派し方振武軍と對峙せしめて居り、保定を中心として約四萬の支那軍が蔣介石の運命戰を狙つての前衞衝突氣構へを見るに至つた。灤東方面に於ては我軍の深き撤退を逆用して王以哲軍の傍若無人振り漸く太しきものあり。陸軍當路の聲明ではないが再擊、三擊敢て辭せざるの餘儀なきに至るやの急迫さにある。かくて北支の形勢は混然、雜然また騷然たる姿で事態はどの道此までは到底濟まぬこと素より明かとなつた。

二

南京に於ける政治的動きに至つては更に微妙なるものがある。卽ち蔣介石勢力の維持を目的とした全面的にして一切の效果的な謀略と活動とが廻らされてゐる。或は英國公使ランプソンが日支停戰交涉に斡旋するとか米國公使ジョンソンの潛行的活動とか、更にまたロンドンに於ては郭泰祺と米國全權ノーマン・デビスとの會見で支那の停戰意志が傳へられたとのデマが飛ぶなど早くも例により外力を借りて相手を制壓せんとする奥の手が傳へられて來た。しかも一方本月三日の南京中央政治會議に於ては北平に北平政務委員會を設置すべきことを可決し其委員長に所謂親日派の黄郛を任命してゐる。加之滿洲に於ける治安維持に就ては戰區救濟委員會を設けて所謂緩衝地帶問題に備へんとの陣容を示すに至つた。かくて支那は以夷制夷の昔ながらの低劣手段に出づると倶に毎々の手練手管を夢みて日本瞞しの妙手を策した積りである。さり乍ら我國力は今や外力に屈すべく餘りに充實して來た。支那の瞞し打ちに乘るには餘りに國策の明澄さが看取されてゐるではないか。

三

惟ふに停戰問題に就ての支那側の誠意は今日尚殆ど認められてゐない。停戰問題の流布せらるる理由に就ても停戰氣分を見せて我軍の矛先を鈍らすにあるか、或は逆に支那側に停戰意思あるに不拘日本側は尚攻擊を緩めずとの惡宣傳に利用する爲めとしか想像し得ないではないか。何れにせよ支那の現政權が名實倶に收めて其地位を保たんとして考慮された筋書であることに相違なく問題が容易に信を置き難き代物であること勿論である。支那側が眞に停戰の誠意あらば先づ排日侮日の根本的禍因一掃を期した上で直接我國に交涉し來るべきであらう。或は現政權の一應の淸算を了へた上で停戰交涉に入ることも

一案である。國民政府が抗日と共産軍討伐に没頭し乍ら其實効を收め得ざる一方、西藏は英國に、新疆は赤露に侵略されて慘憺たる亡國氣分を漂はせてゐる。かくの如き爲體で現政權の何人かよく責任を帶びて停戰を期し得やう。況んや現政權下に於て我眞意を洞察して俱に大アジアの復興に精進するが如き雄路大圖の政客を見るなど思ひもよらぬ所である。我方針は勿論興亞の理想に動くもので現前の泡沫的デマの一去一來に關心を有せざること論を俟たぬ。

國家の自力更生

會議外交權威薄し

——昭和八年五月二十日第百八十五號掲載——

一

所謂ルーズベエルト・ドクトリンを前奏曲とする世界經濟會議はいよいよ來月十二日からロンドンで開催さるること周知の通りであるが、之が成功に就ては多大の疑問が豫見されてゐる。先づ參加國の顔振れから見ても約七十ケ國にも達すべき大小、强弱取りどりの諸國を一堂に招請して何を討議し、何を定めようとするのか。會議の構成から見るも宛然たる萬國レビユー劇で近時流行のナンセンス氣分を漂は

しめたゼスチユアを試むるものに過ぎまい。現に經濟會議の運命を決すべき戰債問題に就てマツク首相はワシントンより歸國匆々、去る四日の議會で說明して英米兩國の意見不一致を曝露し、更に九日の議會では經濟會議と戰債問題の不可分關係を語り、會議の前途多難なるべきを暗示してゐる。而してイギリスでは戰債不拂を既定方針としてゐること勿論であるが、此方針はまたフランスと雖も同樣である。フランス內閣では去る八日更めて之を閣議決定を以て表明してゐる。かくて過般のワシントン會商は經濟問題は勿論のこと政治的了解に就ても何等の收穫なかりしこと明かであるが、此種の豫備會商で國際會議に臨むが如きは不誠意も太しい。而して國際會議自身も所詮は時代錯倒の村芝居となつて來た。今や多忙な國家生活は此種の遊戲に耽ることを許されてゐない。

二

戰債問題に讓らざる暗礁は軍縮問題である。此問題はフランスが頑強に自說を主張してゐる。一方ドイツも亦軍備均等問題を提げて荒れ狂つて居り、所謂安全保障問題、國防問題を繞つて歐洲の天地がいよいよ暗轉と不安を重ねてゐること絮說を俟たぬ。かくて此雰圍氣に包まれ乍ら、國際會議の開催さるる所以果して如何。惟ふに政治問題の加味せざる經濟問題があり得ざる如く、經濟問題を利用せざる政治問題も想像し得ない。而して列強は今や其國內經濟の危機から脫却せんとして政治活動に狂奔し始めたのである。戰を避けながら、戰以上の效果を求めんとするに至りたることが其主因であらう。所謂世界經濟會議は實に此虫のよき效果主義の所產である。換言すれば卓上策戰で敵陣を潰滅せしめんとする魂膽である。さり乍ら人間世界が淨土界とならざる限り自己の主張貫徹に鐵血の覺悟なくして何の權

威があるか。

二

かくて世界經濟會議は略見透しがついてゐる。從つて會議病患者に非ざる限り、會議自體に有頂点になるほど悲慘なる滑稽事である。しかも會議の煙幕裡で計畫されてゐる各個撃破の戰略に就ては大なる警戒を拂はるべきこと當然であらう。別してイギリスの經濟的制壓が我國を目指して動いて來たことは前號にも略述した通りであるが、之に對する我國論の動きに至りては太だ心細き感がある。現に去る十二日發表された日本經濟聯盟の日英親善の聲明書の如き其内容は兎に角として、之をデーリー・メール社のプライス氏に依頼して英國民に訴ふるなど此際に於ける我態度としては自らの矜持を失つた卑屈千萬の作法でないか。日英親善を期する唯一の方法は我國の實力を明示する以外に方法はない筈だ。印度綿の不買を決意するなど其好例であらう。今や我國經濟界は經濟會議を前にしてドル及ポンドと圓貨との比率問題及繫船問題でイギリスは勿論アメリカの十字火を浴びんとする危險性が迫つてゐる。呑氣な國際會議や國際親善の口頭語で我政治的、經濟的地歩を進むるが如きは斷じて不可能事であらう。かくて經濟會議及經濟交涉の決裂不調を豫見せらるる實勢こそ實に經濟的國家主義即ち鎖國經濟主義の急潮を示すものに外ならぬ。因つて關稅戰は必勢とならう。國際問題の整調を期する爲めにも我獨自の國家意識を彌強く鼓動せしむべき必要がある。

學界の感傷主義

大學教育に權威なし

——昭和八年六月十日第百八十六號掲載——

一

瀧川教授問題を動因として展開された所謂學園の自由擁護運動は種々なる意味に於て我國刻下の非常時氣分に重大なる暗影を投じたものである。暗影とは何ぞ、教育の權威失墜を暴露したること何よりの痛恨事であつたからである。敢て大學令を引出すまでもなく大學教育の目的から云つても國家思想と人格陶冶とから游離して大學の存在理由何處にあるかは問はずして明かであらう。問題の場合、假りに文部當局の處置非なるものありとせば京大側では其大學總長を通じて文部大臣と事務的折衝を試むべく、其意見が容れられずして當該者が官吏たる地位に於て處分さるるに至れば、本人は素より之が支持者は其學徒たる立場に於て飽迄輿論に愬へて是非を定むべきこと當然の歸趨ではないか。京大法學部教授團がストライキを聯想せしむべき總辭職を敢てしたることは、學者の人格的閃きを自ら埋沒せしめたる點に於て多大の遺憾がある。

二

瀧川教授の言動に就ては筆者の意見は暫らく差控

へるが世間の客觀的情勢から見て之に何程の反國家性があつたのか。國權の干渉が不當に學界に及むだのか否かの問題に至りては文部當局の非公式發表以外世間には尚充分に眞相を知らされてゐない。隨つて世間一般の氣持から云つて兩者孰れかの側に立つて判斷し得る程の資料もない筈である。因つて瀧川教授が一面國家の官吏たる身分にある關係上、之が處分に當るべき國家機關の裁斷に俟つて之に服すべき以外に方途がない。輿論の動向も大體上述の大勢を辿つて問題の解決に一應の落着を見せてゐることも點首かるる譯である。しかるに前記の如く法學部教授團の總辭職と前後して法學部、經濟學部の學生側に於ても亦ストライキ擬いの休學騷ぎを演じてゐること痛恨に堪へぬ。學生が研學の大切事を自ら拋つて學政、人事のことに介入して奔走至らざるなきことは餘りに俗臭紛々たるものがある。假りに師情に酬いんとならば他に方途もあるべきではないか。學園の自由擁護とあらば少くとも學生側に於て未だ其時機でなかつた筈である。

三

惟ふに近時學界の風潮は輕薄な感傷主義に墮して豪宕不羈の研學心に缺くること一般の大勢である。之を京大事件に就て見るも學界の蹶起すべき秋は自ら別にある筈だ。事務的折衝に敗れて連袂後退するなど斷じて大學精神の勇者でないこと明かである。京大側は明かに感傷主義に捉はれて大局の進退に誤つたことは否定が出來ぬ。

大學教育の感傷主義は明かに教育の權威失墜を語つてゐる。イギリスに於て今春以來オツクスフオード大學生を中心とした感傷的平和運動が勃興し今や其勢ひは全國の大學を風靡せんとしてゐる。所謂反戰運動で、國王及國家の爲めでも絶對に戰場へ出でぬと頑張るものである。而して識者はイギリス學生界に於ける此傾向を深憂して産業界のヒステリカルな苦悶と倶に今やイギリス國運の急激な退潮時を示す

ものなりと斷じた。然るに學界の此種敗北主義は逸早くアメリカにも傳はつて先づブラオン大學に感染せしめ次第にアメリカ學生界に勢力擴大の兆を示してゐる。次代の國民が自國家の傳統と文化に背き思想的に盲目的飛躍を試みんとすることは、夫れ自身已に現實生活に堪へぬ脆弱精神を語るものでないか。かくて教育の自殺が囂(やかま)て來ること必勢であらう。京大問題で我教育界は深刻の反省を重ぬべきである。

轉向か戰術か

獄中聲明の一收穫

——昭和八年六月二十日第百八十七號掲載——

○

第二次日本共産黨事件の二頭目が去る九日、獄中から共産思想の或程度の清算を期した聲明書を發信したことは近來の好話題として興味本位の操觚界を賑はすには充分のニュース價値があつたようだ。筆者は此種のニュース價値に就き世評と見解を異にするものであるが、時代打診の一角度から寸評を試みようと思ふ。

○

聲明書の内容が果して共産思想の清算を語つたも

のか轉向を明示したものかに就ては尚多大の疑問がある。但二頭目の明かに指摘してゐる所はコミンテルンとの分離理由であるが、所謂一國社會主義を振翳してゐる所を見れば依然として共産思想其ものに對して變化したものと卽斷してはならぬ（ロシアは素より一國社會主義である）。問題は思想の淸算とか轉向とかに非ずして所謂本店及支店勘定を規定した戰術の變化を語るものでないか。

○

共産主義の最も苦手とするのは民族問題であるが、此點に就ては僅に片鱗を出してゐるに過ぎない。所謂敗戰主義を排し、反君主鬪爭の誤謬を自認した

る所は一段の進境であるが、語つて足らざる所あり。尚幾多の疑念を殘してゐるのは何故か。

○

コミンテルンが世界のプロレタリア運動を指揮するなど不埒極まる僭上沙汰であるが書中之を明かにしてゐる事は收穫の尤なるものであらう。コミンテルン運動は思想運動に非ずして政治運動たり。別してロシア外交其ものであることは本紙が率先して解明した所であつたが、之が今や「同志」によりハツキリした譯である。

村芝居の道化劇

時局と游離した「轉向」

――昭和八年七月十日第百八十八號掲載――

一

前號の本欄に於て「轉向か、戰術か」の小文を掲げて第二次共産黨事件に連座した二頭目の轉向聲明書に就て一應の疑問を提起して置いた。其後獄中から頻々として「同志」の轉向便りが放送され不思議にも之が地方にまで波及してゐるやうである。かくて茲暫らくは共産黨陣營から轉向噺しの賑やかな場面が展開さるることであらう。或る齋東野人の言に依れば此傾向は便宜轉向であるとのことである。更に或は國家意思の衰頽であるとも見てゐるやうだ。筆者は素より輕々に此種の論斷に左袒し得るものではないが、所謂轉向派の次々の足取りを見て何となく或種の計畫的動き其ものに感觸を禁じ得ないものがある。しかも今や更に河上肇博士の『獄中獨語』と稱す告白が公表されて一段と噺方の人氣を煽つてゐる。流行ジヤーナリズムの無見識はさる事乍ら此種の認識に現れた識者の甘さ加減も底知れた感がある。

二

河上氏の場合と雖も勿論前例と同じく決して轉向でも轉心でもない。『獄中獨語』は氏の個性の如何に

も弱々しさを語つたものであるが、之は審判さるる日に於て相當の好影響があるかも知れない。さり乍ら氏は語る。

誤解を避けるために一言して置くが以上のことは勿論マルクス主義の基礎理論に對する私の學問上の信念が動搖したことを意味するものではない。

更に曰く、

どうかして資本論の飜譯だけは生命のあるうちにまとめて置きたい。

卽ちマルクス主義を堅持する心境には何等の變化を來した譯でもなく、出來得れば一日も早く出獄して資本論の飜譯を完成したいとの言草である。マルクス主義の唯物史觀と階級鬪爭觀から『獄中獨語』を批評する殘酷さは此の際差控ふべきであらうが、さりとてマルクス主義を公然横行せしむる寛仁大度は國家及國法は有たぬ筈である。マルクス主義の公認は公然と國家自ら首の座に直る事に外ならぬ。

三

惟ふに今頃歐米に於てマルクス主義とか轉向とかを云々したら田舍芝居の道化劇程の感興さへ湧くまい。所謂非常時局の大旋風の眞只中にあつて國家主義の血みどろの苦鬪を重ねてゐるのが歐米の諸相である。マソク首相の言分ではないが所謂勞働者である前に國民であれとの自覺が今日程痛切に强ひられた時があるまいと思ふ。今は正に勞働者も資本家も協同防衞に當らねばならぬ時代である。各國家は自國民のために全體主義の大旗を翻へしてゐる。之がため階級主義、分裂主義、自己主義は斷じて許されてゐない。所謂獨裁主義の大勢もこうした大勢から是認されてゐること論を俟たぬ。かくてマルクス主義は今や明かに埃を被つた店晒しとなつてゐる。

惟ふにマルクス主義は共産黨運動として政治的色彩あるものを外にしては今や主役を果して得ないのが實狀だ。而して共産黨運動に對しては各國は自衞

上極刑を以て臨むでゐる事は明かなる事實である。共産黨運動の跳梁跋扈する時代は國家紀綱の弛緩した何よりの證據を明示するものである。かくて共産黨事件は其目的から觀て寸毫の同情をも寄せ得ざることが原則であるべきだ。しかも法の情あらば別に之を議すべきである。轉向轉心問題の取扱ひ如何は兎もすれば徒らに一味の戰術に利用さるる以外國法輕視の流風を招くこと多大であらう。

實踐教育の偉力

風雲兒の自信を憶ふ

——昭和八年七月二十日第百八十九號掲載——

一

本月七日、ドルトムントで開かれたドイツ國粋黨嵐の突撃隊七萬人の前で演説したヒトラーの言分によれば、中央黨の解消を最後としてドイツの政爭は竟に終焉を告げたとの事である。彼は當日豪語して曰く、

諸種の大事業が我等の面前に立ち塞がつてゐる。しかし乍ら我等は之を征服しよう。何人も我等を阻むことが出來ない。

と。而して彼の言によれば先づ第一の重大事は改造後の新國家に對するドイツ人の教育問題であるが之

は實踐教育を以て臨むとのことである。次の重大事は失業問題の解決であるが、これこそ從來のドイツが當面した最大問題であつた。而してヒトラーの主張する所によれば彼が政權を執つて以來半年にして二百萬の失業群を減じ今や之が根本的解決を期せんとしてゐるとの事である。ナチスの鐵腕政策に對し囂々たる非難が浴せかけらるる折柄、これはまた痛快な應酬である。

二

惟ふにイタリーのフアシストも政權獲得當時は可なりの荒療治を敢てした。ムツソリーニ政權の確立を見た今日、往年を回顧せば感慨無量に堪へぬもの獨りイタリー人のみであるまい。ナチスは今や大ドイツ建設を意向して一路驀進の途上にあり、素より萬千の非難攻撃は覺悟の前であらう。信據すべき筋の情報によれば囹圄に苦しむ者少くも十萬を越へ、中には著名の科學者、醫師、政治家を含むでゐるとの事である。以てナチスによる犧牲の如何に大なるかを想見し得ようと思ふ。筆者は勿論ナチスの代辯ではない。さ乍ら國家の悲運に乘出し挺身以て難局擔當の急に赴く者の心意氣は悲壯である。ヒトラーが大ドイツ建設の理想を點火して一切の反對勢力を燒き盡さんと焦る所は國事に不感症患者が容易に是非し得る所でない。

三

さてヒトラーがドイツ人に實踐教育を要求してゐることは他山の石として大いに反省せしめらるる所である。實踐教育とは觀念教育の反對で脚が地に就く教育であらう。國家を自己の裡に發見する教育であらう。而して自己が國家の大目的のために犧牲となるべき教育であらう。ナチスの規律ある訓練はこうした教育から來てゐること明かである。

最近我國に於ても教育方針の建直しに就き朝野の間に頻りに對策が構ぜられて來た。之は青年學徒の

間に我國の現狀に對し不滿を抱き反抗氣分が橫溢したことに狼狽した取締官憲の思ひ附きが多分にあること疑ふべくもない。さり乍ら教育方針は時代を反映し之と游離し得ざることは明かである。しかし我國のインテリ級にして所謂「確信犯」事件に連座したるものが他愛もなく轉向し、懺悔し、凹むこと正に現代教育の概念主義、客觀主義の現實暴露を語るものでないか。寧ろ小學校卒業程度の青年にして社會の風浪に打たれたる者が切々として體驗せる所に盤石の自信を得るのである。

風雲兒が多く大學の學窓より出でざることも宣なるかな。今や教育は明かに戲論の空虛に墮して精神を忘れ去つた。

時代の一奇觀

政黨主義復活可能か

——昭和八年八月十日第百九十號掲載——

津々浦々にまで報道されている。而して之によって人心の激動さるることは意想外に太しきものがある。法廷に立つ被告人達が言々句々血を吐いて大事

一

血盟團事件、五・一五事件の公判記は飛ぶように

決行の眞に已むべかざる所以を語るところ、切々として情感に迫る。蓋し其行爲に就き是非すべきものあることは想像さるるが其一徹の純情に對しては世間人情の機微を深く打つてゐる事を語るものであらう。しかも公判記の此影響につき頭痛を病むもののあることも想像に難くない。而して所謂財閥、政黨、特權階級の三大存在が事件の對象として記錄されてゐるが差當り政黨が最も強く矢面に立たされた事も明かである。かくて政黨が最も深刻に現實暴露を敢てした事周知の通りである。

二

しかるに公判記の尚續報されている一方に於て近く政黨復活運動の擡頭を見るに至つたのは一奇觀である。卽ち所謂無任所大臣問題で鋤を入れて政黨内閣建立への地均しを策したもので先づ政黨連合運動の形貌でお目見榮に來てゐる。かくて世間の人氣如何を測定してゐると云ふ所が政界の現勢である。素より筆者は政界二三氏の言動に乘ぜられて兎角に踊る尖端的でない。或は現政界の興亡起滅に對しては興味を有たぬのが寧ろ本心である。さり乍ら政黨主義を此まま復活せしめて可なりやに就ては識者間には尚多大の疑問が抱かれてゐる。殊に政黨主義が國民思想に及ぼす影響如何に對しては深憂禁じ得ざるものあることを看取せねばならぬ。舊來の所謂多數政治が政黨主義、議會主義、投票主義の名に於て悲慘なる現實暴露を敢てしたる事は近く世界各國が殆ど例外なしに經驗した所である。所謂獨裁制の新政治形態が之に代つて來た事も已むなき情勢であつた。獨裁制は素より是認さるべきであるまい。さり乍ら所謂多數政治の無力、無策と其樂屋裏の醜きカラクリには更に堪へ得られないと云ふのが現代人の告白である。

三

惟ふに我國は今や科學、産業、藝術等々に於ては歐

米に劣る所なき域に達してゐる。しかるに獨り政治に於ては遙に劣勢であり、野暮であり、獨創味が缺けてゐるのが不思議である。歐米に於ては古き政黨主義は已に死滅し、議會中心主義より政府中心主義へ、或は徹底した獨裁制等により兎も角非常時局に善處すべく能力政治に耽つてゐること周知の通りである。しかるに我國に於てはこれからボツボツ政界革新を意向して選擧法改正でも行つて見ようとしてゐる。比例代表制の調査、立案とか、之とは別に政黨法認問題を頻りに唱導するといふが如き始末である。さりとは餘りに時流を懸絶した話でないか。今更月並的な選擧法改正でもあるまいし、政黨法認と云ふ如き重大事を容易に許し得べくもない。要するに我政界近時の所作事は之を思想的に批評せば少くも十年の流行後れであらう。否或は時代抜きのナンセンスであるかも知れない。刻下内外の非常時局に臨むで敢て政權に座し或は之に近づかんとするは大冒險兒に非ざれは時代を率ゐる英雄兒であらう。

國威維持重し

北滿鐵讓渡會議を觀る

——昭和八年八月二十日第百九十一號掲載——

一

目下交涉中の北滿鐵道讓渡會議は種々なる意味に於て興味深き實物教育を示してゐる。先づ何人にも感得さるることは、ロシア國民性の變質である。嘘言、駈引につき殆ど何等の感傷も自覺せざる症狀が夫れである。

六月二十六日の初顔合せ以來會議停頓を傳へらるること數次であるが、其因つて來る所は悉くこのロシア國民性の變質的傾向にあつた。例せば最近問題となつてゐる讓渡價格算定の基準に就て稽ふるもルーブルの國際的價値判斷から論ずれば解決は易々たるべき筈だ。滿洲國側でも眞逆に一ルーブル四十五錢とまで踏倒す譯でなく、前年の日ソ漁區租借料の場合に邦貨三十二錢五厘として協定が出來たことを指摘してゐる通りである。しかるに今次のロシア側の主張では一ルーブルを二圓五十錢内外と吹掛けたのである。其糞度胸は正に超人の域に達してゐる。

二

惟ふに本來のロシア人は無邪氣な自然兒であり、其性格破綻を露はるる點でも實は愛すべき矛盾を表

現してゐた。しかるに從來ロシアの支配層は此自然兒を極端まで酷使し、虐遇して竟には革命の劫火にまで浴せしむるに至つた。しかも革命政府となるやまた一入と鐵血政策に徹し、彈壓政治の記錄的成功を收めたのである。かくて其必然の結果として所謂政治の戰術化が深刻化し果ては共産黨政府が今や漸くロシア民心より游離し去らうとしてゐる北滿鐵問題にせよ、共産黨政府が曾て宣言した建前から云はば寧ろ新國家滿洲國へ無償讓渡すべきこそ至當である。しかも斯く爲し得ざる所以はロシア現政權が帝政時代に劣らざる帝國主義的構成たるを裏書する一例である。共産主義の美名と好餌とを以て內外を欺瞞し來りたる事例が此一幕でも看取が出來る。ロシアは共産政權となつて國格を意想外に失墜せしめ其國民性は急テンポに惡化した。蓋し道德破壞、宗教破壞により招來さる、必然の現象である。北滿鐵交涉の跡を迎るときロシア國民に對し多大の感慨を禁じ得ない。

三

國家の運命は素より國民性の內容により決せられるべきである。各國家には、それぞれに多彩の國民性が反映されて其生活を特色づけてゐることは論を俟たぬ。茲を以て一國家の隆昌は因つて來ること深きものあり。長年の國家的修練と教養とによつて獨自の傳統精神を作り、以て國家及國民生活の發達につき更に一大推進力を加ふるに至るべきこと歷史の明證する所である。現に我維新運動は例外なく日本精神の傳統的復古運動であること何よりの實證でないか。しかるに近時の我國家姿相を顧みるとき我傳統精神を傳へざること太しく、從つて國家的權威を失墜せしむること頻々たるものあるは頗る遺憾に堪へぬ。素より當路其人を得ざること勿論であらうが、また國民性に於て缺くることなきやも一顧せねばならぬ。日本精神は道德感に銳敏にして生活の簡易剛健なること其特質である。若し國家をして緣日商人

の役割を果さしむるに至つては正に國民性の破産を語るもので、虚無、亂倫に墮した動物界への轉向でないか。敢て他を批評するのみが能事でないことは明かである。

政界の中央突破

國粹勞働黨大會を觀る

——昭和八年九月十日第百九十二號掲載——

一

本月一日より三日間に亘りニユールンベルクで開會されたドイツ・ナチス黨大會は相當に世界の注目を惹いた。大會に於ける黨首腦者の演說は遺に政權を把握した今日、著るしく現實味を帶びて來つて責任ある政策に觸るることを避けたが、ナチス一流の政治理論、世界觀に至りては相變らず萬丈の氣焰を吐いてゐた。ナチスの意氣込は先づ開會劈頭の宣言に現はれた。卽ち全ドイツ國民はナチス運動を背負ふてゐる。故に此運動こそは「ドイツ帝國」と同意義であると。かくて黨首ヒトラーは「ドイツ國民の毒素」共産黨に對する戰意續行を强調しドイツ內政に就き明快な對策を語りたる後、得意の政論を力說してゐる。曰くドイツ國民は少數の最善の能力者に依り最善に政治さるべきものでデモクラシーの支配に

よる議會主義は明かに排撃さるべきものだと。勿論此直截語は獨り彼の業績が批評し得るのみであらう。

二

一九一四年八月、現時のヒンデンブルヒ大統領が當時、東プロシアのタンネンブルクに於て古今東西の戰史に特記さるべき大勝を贏ち得たことは今尚記憶に新なる所である。しかるに近時ニューヨーク・タイムスに達したケーニスブルグからのメツセージによればナチスによつて行はれた東プロシアの「勞働戰」は異つた意味での第二のタ戰であると斷じてゐる。卽ち東プロシアに於ては二都市を除き僅々二週間内(七月)で失業軍を完全に解決し、更に殘餘の二萬五千人に對しても一定期日内に就職せしむべき意氣を表現したることが夫れである。東プロシアの産業化に就ては勿論ナチス一流の施設をも試みてゐるが、兎に角ナチスの運命如何は勞働問題の解決如何にありとのヒトラーの持論を守つて、其目的貫徹に全勢力を傾けてゐるところ、往年のタ戰に比すことも同情に堪へぬ。惟ふに現代政治が積年の形式政治に捉へられて進退に窮してゐることは夙に識者の看破した所であつたが今や之が中央突破こそ實に政界勇者の任務と云はれ得よう。

三

アメリカの經濟戰に就ては別項に於て稍詳細に紹介した通りである。これまたアメリカ政治家の先驅的意氣込を示したものと云はれ得る。曾ては著明なる政黨政治家は政治は力也と放言して物論を招いた事がある。しかるに今や我國に於ては有ゆる意味に於て力なき政治が行れてゐるではないか。力なき政治は目的なき政治である。而して目的なき政治が感激なき政治であり竟に大事到來の前夜を偲ばしむるに至ることは史實の明證する所である。ナチスの新聞局長デートリツヒ語つて曰く「ドイツは皇帝や國

王や暴君によつて政治されてゐるのでない。ヒトラーに對する信頼によつて政治されてゐる」と聊か手前味噌乍らも人情の機微を穿つてゐる。ムツソリーニによつてイタリーは崩壊の危より免がれた。ドイツも亦ヒトラーを推して最後の切札を投た譯であつた。而してルーズベエルトが歐洲大陸の此種の前轍を履まざらんとして自ら攻勢法に出たことはまた頗る興味深きものがある。かくて歐米政界の血みどろの復興戰を觀て現代政治の容易ならぬ苦悶を識ることが出來る。識らず我政界の夢心地は如何。

教員の赤化運動

内憂の深刻化を警む

——昭和八年九月二十日第百九十三號掲載——

一

本月十五日、記事解禁となつた長野教育界に於ける赤化事件は我國教育界未曾有の不祥事で戰慄禁じ得ざるものがある。事件は昨年八月下諏訪小學校に於ける御眞影盜難事件に端緒を得て當局の活動となつたものが、竟に赤化教員の内幕探知となり、諸種の經路を辿つた揚句、本年二月四日の南信一帶、同二十三日の北信、同六月十六日の一味殘黨檢擧と三回に亘る手入となつたものである。而して教員中心

の檢擧は二月四日に行はれたもので近時の流行語で云はば二・四事件と云はれ得るものであらう。事件で取調を受けた者總數六百餘名中、教員の檢擧取調を受けた者總數二百八名、六十六校に達し、送局者八十一名、起訴收容者二十九名の多きに上り、正に我教育界を震撼すべき深憂事たることを物語つてゐる。

二

事件發生の原因としては傳へらるる所によれば昭和五年一月の金輸出解禁以來、蠶糸業中心の同地方の經濟狀態が頓に急迫し來り、貨幣價値の變動による生糸の暴落は直に農村に反映し、農村の疲幣困憊は漸く深化し竟に缺食兒童の續出となり、小學校教員に對する給料不拂となつた。かくて餘りにも悲慘な農村受難の現實を前にする一方、所謂先驅思想の煽情に乘ぜらしことが事件發生の動因と見られてゐる。而して一味のテーゼを見るにブルジヨア教育、反動教育の破壞、無産者教育の確立、プロレタリア獨裁の建設等で、其實際力說してゐる所を見るもソヴエト禮讃、戰爭反對、資本家打倒、貧乏人結束等で其影響された所が奈邊にあるかを明かに語つてゐる。かくて一味は純情無垢の兒童を驅つてロシア流のピオニール(ロシア共産少年同盟)に仕立上げんとしたものである。現に尋常一年讀本卷一の『サルトカニ』を階級鬪爭に說明し『オニガシマ』の桃太郎を反戰思想煽動に利用してゐたとの事で此度の教員檢束に際しても所謂兒童自治會が結束してストライキを起し「先生を返せ」と叫びて警察署に押寄せんとしたるなど相當の着色が看取されてゐた。寔に痛恨此上なき事件で責任者が重き責任を取るべきことは論を俟たぬ。

三

惟ふに教員の赤化運動は其の使命と立場より觀て他の何ものより恐るべきものである。しかるに平素

は多寡が小學教員がと輕視され勝ちの此方面から俄然大音響を揚げて驚異彈を四隣に炸裂せしめたのは輕薄なる當世に對し一種の皮肉とも思はれた。所謂支配層が得意顔に現狀工作に耽つてゐる一方に於て、次代擔當の若々しき血脈が混濁と狂暴に汚さるるに於ては邦家の前途は實に寒心に堪へぬものがある。事件は正に國家死活の核心に觸れてゐる。況んや茲數年は我國としても寔に容易ならぬ多難時にあり、或は更に一大國難を迎へねばならぬ破目となるやも測り難き形勢にある。然る場合問題は寧ろ外患に非ずして内憂にあらう。かくて所謂農村窮乏による思想激化の傾向に就ても獨り教育界に止まらず、軍事關係に於ても多大の關心が拂はれてゐる事は私かに確聞する所である。しかも之が對策に就き抜本的用意があるかに至りては未だ聞く所がない。卽ち國政の根本的建直しと一聯の關係にある以上、抹消的對策が如何に講ぜられても權威なきこと當然であらう。五・一五事件公判記に就て見るも昭和維新に期待さるる所は多大である。

會津戊辰戰史を讀む

ロンドン條約御批准滿三年、山川先生の遺稿上梓さる

——昭和八年十月十日第百九十四號掲載——

一

本月一日はロンドン海軍條約が最後の運命を賭た御批准後滿三年目の記念日であつた。惟ふにロンドン海軍條約問題は明かに天意の動きであり、昭和維新の大號令ともなつたもので、之を分水嶺として朝野潮流は明かに二分し去らるるに至つた。かくて爾後社會の表裏に出没去來してゐた幾多の革新運動が悉く志をロンドン條約締結當時に遡らせてその淸算戰を展開してゐること周知の通りである。而してロンドン條約が我國にとりて所謂テームズ河畔の無流血敗戰であつたことは明かであつたが、此敗戰を滿喫せしめられた我國民の意平かなざりしことは勿論であつた。當時我山川健次郎先生が樞密院にあつて反對派の偉大なる役割を果したことは素より明かである。しかるに條約は竟に御批准を見るに至り、先生渾身の努力もまた一空に歸したが此事ありてより以後、多年心血を傾けて執筆監修に努められてゐた『會津戊辰戰史』の幕は先生自らの手によつて永遠に下されて了つた。卽ち先生が筆を投じて時事を深憂さるること幾許ならずして病を得、再び起つ能はざるに至つたのである。先生は實にロンドン條約の尊き

犠牲として特筆さるべき一人であつた。しかるに先生逝いて茲に三年、今や想ひ出多き『會津戊辰戰史』の上梓を見るに至りしこと寔に感慨に堪へぬものがある。先生の修史は實に明治維新史に對し會津武士の雄魂を以て血書したものである。

二

戊辰役に於ける會津藩の運命は實に慘澹たるものがあつた。而して敗戰の如何に悲慘なるかを如實に痛感せしめられたること會津藩の如きは蓋し稀なる例であらう。往年の少年山川氏が落城の悲憤を秋風に托し眞龍寺の僧河井善順の寺小姓として越後に潛行したる數奇物語りこそ後年の大山川に烈々たる愛國精神を彌強く傳へたものであつた。當時同藩士秋月悌次郎もまた眞龍寺の從僕に扮して先生と同行したが一詩を賦して感慨を述べてゐる。

行無輿兮歸無家、國破孤城亂雀鴉、治不奏功戰無略、微臣有罪復何嗟、聞說天皇元聖明、我公貫日發至誠、恩賜赦書應非遠、幾度額手望京城、思之恩之夕達晨、愁滿胸臆淚沾巾、風浙瀝兮雲慘澹、何地置君又置親

（同書六四九頁）

敗將の兵を談ぜざるは當然の心得であるが、敗戰となり、國破れて歸るに家無きに至るなど此上なき悲慘事でないか。敗戰となつては名分を是非するも力及ばざること古今の例であり、獨り運命の會藩に限られたことでない。而して敗戰とならば敗者をしていよいよ卑屈廢頽の域に逐ひ行ることまた已み難き大勢である。しかも敗戰の悲慘事を體身に徹せられた我山川先生が國家主義に徹し、因つて以て德目の嚴格なる實踐者として人格の巨跡を殘さるるに至りしこと諒察すべきであらう。

三

會津藩婦女子の殉難は寔に壯烈を極めたもので、戰史を彩る一半の誇である。先生の筆致を其まゝに

一例を見る。

藩相西郷頼母の母律子、妻千重子は子女に向つて曰ふ。吾等も城に入り君公に従はんとすれども幼子を伴ひ却て繋累と爲らんことを恐る。寧ろ自刃して國難に殉せん。今日は實に汝等の死すべきの時なり、徒らに生を偸みて恥を殘すこと勿れと。子女皆之に同意したれば律子は先づ古人の詞を誦して絶命の詞に代へたれば、皆之に次きて和歌を詠ぜり。

秋霜飛兮金風冷、白雲去兮月輪高

母　律　子（五十八歳）

なよ竹の風にまかする身なからも　たわまぬ節はありとこそきけ

妻　千重子（三十四歳）

しにかへり幾度世には生るとも　ますら武雄となりなんものを

妹　眉壽子（二十六歳）

武士の道と聞しをたよりにて　思ひたちぬる黄泉の旅かな

妹　由布子（二十三歳）

十三歳なる二女瀑布子口吟して曰く、

手をとりてともに行なはまよはしよ

と、十六歳なる長女細布子下句を加へて曰く、

いさたとらまし死出の山みち

と千重子は長子吉十郎をして城に入らしめ、婢僕は諭して難を透けしめ乃ち田鶴子九歳、常盤子四歳を刺し母妹と共に刃に伏して死せり。

其他西郷邸にて自刃したる同族十二人の事も記されてゐる（五三三頁）。而して此の種の壯烈なる婦女子の事跡は幾十となく記錄されて我婦人道のために赫々たる面目を傳へられた。山川先生が常に道破されてゐた學校教育、社會教育とともに家庭教育の如何に重要なるかを遺憾なく示したもので、不朽の名白虎隊の出たることなど決して偶然でない。惟ふに敗戰の苦杯を乾さねばならぬとは此上なき悲慘事である。しかも敗戰の恥辱たる所以を識らざるに至りてはまた何たる悲慘事であらう。所謂國際主義者の武備輕視が此類に墮せざれば幸である。

政策の自己發見

對露方針の一指標

——昭和八年十月二十日第百九十五號掲載——

一

所謂五相會議の内容は勿論嚴秘に附せられてゐるので眞相は識る由もない。しかし乍ら我刻下内外の逼迫せる形勢に對し無策、無方針で坐視し得ざること明白である以上、國家意志を急速に確定して對處せねばならぬこと丈けは明かである。而して所謂五相會議と稱せらるるものが此形勢に刺戟せられて開催さるるに至つたことは今や何人も疑はぬ所であらう。故に五相會議は勿論内閣の便宜主義から出來上つたものでなく、我國民的期待に根ざして自ら發生した全體會議の縮圖とも見らるべきものである。かくて五相會議の政治的意義は頗る擴大され之が成行は政界以外に於ても重大な關心が拂はれてゐる。我内外の重大形成に對し我當路者が如何なる見識を有し、如何なる對策に出づべきかは滿目の焦點となつた。五相會議の動機、目的が那邊にあつたにせよ、俎上に載つた其運命は已に形相を變じてゐることを

識らねばならぬ。

二

本紙は勿論五相會議の政治的動きにつき彼是批判を試みる心底は寸毫も有つてゐない。しかし乍ら政治論とは別にしても政策の根本的認識を缺くが如き事ありては國家の前途に於て容易ならざる不幸を招來すべきことを私かに深憂するものである。

傳へらるる對露方針に就て稽ふるも此際の政策としては實力ある沈默以外に如何なる妙策あるかは頗る疑問であらう。去月二十八日我陸軍當局から發表された聲明によればロシアは革命後十五年を經過して國防力に於て驚異的充實を來してゐる。殊に滿洲事變以來、其極東兵備は一段と强化されて來たこと其具體的說明によるも明かであろう。茲に於て我對露方針としては一切のデマを排し、有ゆる蜚說を飛ばして北滿軍備のバランスを目指して急ぐべきである。勿論荒木陸相の言を俟つまでもなく日露開戰など輕口を利くべからざることは明かであるが、卽今對露方針としては此第一工作に全力を注ぐべき以外に於て差當りの對策はなく、我外交は此工作に添つて歩一歩前進すべきであらう。現に本月九日ロシア外務委員會から發表された例の怪文書事件は上記の方針を强化すべきことを明示した實物教訓であつた。

三

ロシアの所謂革命外交は十五年の歷史の明證する如く暴露外交、宣傳外交で終始し來りたること周知の通りであつた。而して其所謂革命外交は竟に一流の戰術を思はしむるに至り漸く權威失墜を招來せしめたることも明かであらう。過去に頻發した所謂怪文書事件は之が好箇の例であること論を俟たぬ。例せば一九二七年五月、ロンドンで起つたアルコス事務所搜索事件の如きはデーリー・メールに載せられたジノヴイエフ書翰問題が發端であつた。更にまた

一九三〇年ニューヨークに起つたアムトルグ商会捜査事件の如き、或はまた一八二八年ハースト系に現れたメキシコ共産黨擁護事件の如き、悉くロシア外交の正體を暴露したもので曰く附きの怪文書が踊つてゐた。我國に關する限り北鐵問題に絡まる怪文書の如きを斷然として一蹴して寸毫の陰影さへも留めてゐないが、此一事已に對露外交方針の何物たるかを雄辯に物語つてゐる。ロシア、支那、アメリカは何れも世界の偉大なる脫線國であるから所謂外交工作も自ら他と異る所あるべきことは論を俟たぬ。かくて政策の認識は先づ自國發見に出發すべきものたること明かである。

アメリカの對日皮肉策

近時の外交二戲作を觀る

——昭和八年十一月十日第百九十六號掲載——

一

最近に於けるアメリカの對日外交は皮肉なる二つの戲作を以て現はされてゐる。卽ち一は目下太平洋にあるアメリカ艦隊の大西洋歸還問題であり、他は對露承認問題である。先づ前者の解說から試みて見よう。

アメリカがその大西洋艦隊を太平洋方面に移動せ

しめたのは昨年三月であつた。時恰も滿洲事變及び日支問題に就き我國際的環境が頗る不利に陷つた折であり國際聯盟は勿論のことアメリカ政府の對日感情もヒステリカルの昂調振りをさへ示してゐた。かくて其主力艦隊を太平洋に集中せしめたるは對日示威運動に出でたるものとの噂が擴げられたものである。勿論我國としては此種の噂如何に頓着なく既定方針に邁進したること周知の通りであつた。

而して所謂スチムソン・ドクトリンも竟に一片の紙上抗議に了つて何等の威力發揮に出で能はざりしことも明かなる事実であつた。大艦隊の回航も實力行使の決意なくしては馬耳東風に過ぎなかつたのである。

二

惟ふにアメリカ政府の聲明によれば目下太平洋にある主力艦隊は明春を以て其本來の根據地たる大西洋に歸還するとの事である。しからば過去の經緯は兎も角として今次の移動聲明は如何なる理由に出でたのか。日米關係が一九三五―六年の時期を前にして微妙に動いてゐる今日、之が解剖は極めて大切事であらう。率直に批評すれば現事の我對米外交は頗る水臭いものがある。我方は多分の色氣を出してゐた例の仲裁條約とか親善使節の問題の如きは豫定の如くアメリカから敬遠されたこと周知の通りであつた。而して滿洲國不承認主義、對支政策等に於てもアメリカの現政府が我國に好意を有してゐないことも明かである。しかるに歸還問題の聲明の發表を見るや我一流新聞を始め我官民一部の間に於ては早くもアメリカ政府の親日策轉向を禮讃して大いに好感を表明して憚らぬ始末である。大國日本の態度としては寔に輕率至極と云はねばならぬ。問題は來春までの現實的形勢如何を見ねば何とも云はれない。而して其後の方針に就ても得心あつての事たること勿論である。しかるに一切の狀況判斷より結論さるるアメリカ今次の聲明を察するに遙かに日本海軍の豫

算緩和を狙つた皮肉なる惡戯と見らるる筋がある。殷鑑遠からずで華府會議、倫敦會議の當時内外から迫つて來た深刻なる觸手を想起せば思半に過ぎるものがあらう。

三

アメリカの對露承認問題も之と異つた意味に於て我國論の輕卒を戒めたい。問題はアメリカ經濟界の苦悶を反映した一幕物に過ぎないのだ。アメリカは今や産業復興運動を繞つて死の苦鬪を續けてゐる。農民の暴動も傳へられ、勞働者の不平も昂まり、而して資本家の足並みも亦決して揃つてはゐない。此時に當つてアメリカ政府としては溺るる者藁をも摑む心理となつて對露外交を鼓動して經濟的窮路打開にヂエスチユアを試みたとて惶てるにも及ぶまい。世界的宣傳家リトヴイノフが白亞館に出掛けて何を談じた所で氣に留める要は更にない筈だ。ロシアが對米債權をどう解決するのか。赤化宣傳禁止をどうして履行するかは唯興味を以て成行きを見守るべきであらう。かくてロシアが其對米外交を好機として日本牽制に出づるが如き戰術振りは之を默殺せば可なり。アメリカが對露外交を振翳して日本掣肘に出でんとするは餘りに皮肉な窮策でないか。しかしアメリカの肚裡は兎に角として世界兩極の經濟線が奈邊で落合ふかは可なりの珍事である。

時勢觀の相違

國家興亡の分岐點

——昭和八年十一月二十日第百九十七號掲載——

一

戰の祕訣は昔から相場が定まつてゐる。極めて平凡な諺ではあるが、自己を識り、敵を識る一事が夫れである。而して之を當世風に表現すれば認識の問題が之に當嵌まることとならう。しかるに時は正に國家非常時と云ふに、時勢に對する認識を缺く者が我上層支配階級に少からざるを觀て寔に意外の感に打たれざるを得ない。時勢に對する認識を缺く事は自己の觀點、力量を識らざる事であり、從つて對策、方針に明識なき事を語るものである。かくて外力を正確に測定する事は勿論不可能であるから敗戰は素より明かであらう。結局現時に於ける社會不安の主因は社會の上部支配層と一般民人との間の時勢觀の相違に求むべきである。換言すれば此兩者の住む世界が異つてゐる爲めである。兎の餅搗きではないが天上界の事が下界に通ぜざることは論を俟たぬ。

二

惟ふに自國の認識に就ては滿洲事變以來漸く還元さるるに至つた。滿洲事變は素より我國策發動の結果で我民族精神が凝つて百練の鐵となつたものたる

ことは更めて説明を俟たぬ。かくて我同胞は事變に際會して自己を見直し、油然として壯嚴雄偉の自國家を發見したのであつた。自國家發見と云つて不可なりとせば、裡に自國家の復活を觀たのである。しかも此事實は我同胞別して我勤勞階級による烈々たる愛國運動によつて躍如たるものがあつた。國防の第一線に立つ將士の勞苦に反映して銃後の奉公を語り、幾多の美談は職場の片隅からトンネル長屋の軒下から頻りに傳へられた。更にまたアジアの神秘境に、アフリカの苦熱界に我商品を背負つて單身出掛けて行く若者は頗る多くなつた。事情は異るも其意氣込みたるや正に往年の倭寇を偲ばしむるものがある。彼等の開拓たるや素より資本閥の後援あるのではない。かくて我市場の擴大は此無名戰士の血涙事によつて行はれつつあるが漸くにして酬へられんとしてゐるものは皮肉にも出先に於ける排日沙汰である。識者は新聞ニユース以外に眼を放つて此實相を識らねばならぬ。しかも我有力階級はこれら無名戰士に對し幾許の感謝と同情を拂つてゐるか。因つて我同胞折角の國家意識を芟除せざるを得ば仕合せである。

三

イギリスの對日經濟戰の深刻なる手段は已に周知の通りであらう。インド綿業戰を皮切りとして其世界的支配網を動員して排日戰に轉じ來つてゐることも詳說を要しまい。而してアメリカの有力筋に於ても我商品の中南米進出に對して貿易黃禍論までも創作して警戒を嚴にしてゐること近着の外電の傳へた所である。我國力の膨張に對し世界の眼は嫉妬に燃えてゐること明かであらう。さり乍らイギリスの頽勢は目下折衝中の日印通商會議に於て略見透しがついて來た。其國威に對し傳來の敬意を表し得ざることも篤と認識すべきである。アメリカに對しても同一視角から眺め得よう。所謂産業復興運動の失敗は略豫測されてゐるが去月二十五日からは更に国内産

金買上げを開始し、越えて二十九日に至ると海外市場にまで買上げを擴張してゐる。しかも豫期されてゐた所謂高物価政策は殆ど反應がない。加之國内の人心は漸く現政府を離反して今や物情騒然たる有様である。アメリカの運命も亦多難である。さり乍らこれら崩壊的大勢が如何に其進路を取るべきかは素より別問題だ。

我識者、別して我當路者が内外の時勢に對し如何なる認識を有してゐるかは、今や多大の疑問が掛けられてゐる。

支那崩壊の序曲か

共産勢力の深入強化

——昭和八年十二月十日第百九十八號掲載——

一

我國の國際聯盟脱退が歐、亞の政局に一大變調を來さしめたることは今更絮説を俟たぬ。かくて歐洲政局は英、佛兩國外交の權威失墜となり、次いで獨逸の脱退となつて聯盟の存在は今や全く無視さるるに至つたが、近く伊太利の恫喝により最後の弔鐘が撞かるる運命にある。想へば國際主義華やかなりし頃の聯盟の權威に狎れた者に取りては堪へ難き感慨であらう。しかも國際聯盟の現實暴露がアジアの政局

に及ぼした影響に至りては遙かに大なるものがある。聯盟の權威失墜が滿洲國の自由な發育を見守つたことを始めとして全有色民族の崛起勇躍の大勢を馴致せしめたることは非常なものであつた。別して支那が聯盟に因る他力本願の惡夢から醒めかかつた事は何によりの收穫であつたらう。しかも支那のこの覺醒は云はば床返りの程度に過ぎない。聯盟に背かれて自ら之に背き、後アメリカに向ひ、更に逆轉してロシアにも通ぜんとしてゐること周知の通りである。而して最近の支那不安は此轉向の餘震である。所謂自力更生の折角の好調に乘り得ざる支那の前途は知るべきのみ。

二

支那政情の不安が去月二十日福州で旗上げした「中華共和國人民革命政府」の出現で拍車を掛けられた事は否定し得ない。事は勿論李濟深、陳銘樞等が十九路軍を握る蔡延楷と諜し合せて決行したものであるが、此革命政府の正體及前途に就ては勿論幾多の疑問がある。而して此新興勢力が陳濟棠等の廣東派、李宗仁、白宗禧等の廣西派を始めとして北支一帶に亘つても甚大の刺戟を與へたことは素より明かであつた。かくて支那政界は今や胡漢民を盟主とする西南新政權組織運動の反蔣ブロック化が傳へられ、延びて南京政府の動搖さへ報ぜられ、之が影響は幾多の地方政權出現の可能性とまで進展していよいよ支那崩壞の前奏曲を始めた貌となつた。しかも謂ふところの地方政權の促進に就き共産勢力が何處まで動き掛けてゐるかは頗る注目すべき所である。

三

所謂「革命政府」がロシア共産黨其ままのスローガンを掲げて獨立宣言を敢てしたることは周知の通りである。其革命外交の方針として、國民政府と列國間の諸條約を破棄すると稱して我福建不割讓條約をも否認せんとするが如き、更に打倒日本帝國主義、

東北失地の回復、對日妥協に反對、塘沽協定の取消し抔、我國としても相當警戒すべきものあること論を俟たぬ。しかも一方本月十一日、廣東コムミユーン記念日を期して江西省瑞金に開かるべき支那ソヴエート中央政府の第二次全國大會を中心として企てられて來た諸畫策が豫定通りに深刻に支那政界に展開し來てゐることも見逃せぬ事実である。共産勢力が企ててゐる新疆方面より上海に至る支那中腹に大穴を明けんとする計畫が着々として進捗し、之が爲めの準備として地方政情が響に應じて動搖し來りたること其一例であらう。しかも一方ソヴエート政權は北滿にも活躍し北滿及びシベリヤ鐵道にアメリカの勢力を引き、日本牽制に出でんとする策動説さへも傳へられ複雜なる國際関係は全支に亘つて縦横に動かんとしてゐる。我國としては支那の明日につき瞬時の樂觀を許し得ざること勿論である。かくて支那は竟に他力本願から離脱し得ないが、特に近時の共産勢力の深入につきては我朝野の深甚の注意を喚起したい。問題は正に我運命にも迫る大切事となつてゐる。

開拓心の打診

昭和八年を送る

——昭和八年十二月二十日第百九十九號掲載——

一

本年も餘す所旬日、人生の多忙なるに今更の如く驚かざるを得ない。

本年は一九三五、六年の危機線を前にして緊張と努力に充ちた一年として前約せられて來た。而して現内閣は所謂非常時打開の使命を帶びていよいよ内治外交の昂潮期に乘つて現れて來た。しかも内外に於ける此形勢に對し、何程の期待を果したかは政局觀の回顧を待つまでもあるまい。否此種の幻滅を覺えたのは啻に當面せる政局觀に限らるるものではない。犇々と迫つてゐる内外の重大局面に對し之を迎ふべき殆ど何等の自信を示して居らぬこと僞りなき我上下の實相でなかつたか。別して非常時意識を否定して安價なる逃避行を高調した所謂大政黨の首領など出た始末で、難局を切抜くべき國民的總意が兎もすれば亂れ勝ちなのも遺憾に堪へぬ所であつた。昭和八年を送るに際して萬里の波濤を望む我開拓心の飛躍振りを偲ぶこと切なるものがある。

二

惟ふに本年に於ける最大事は何と云つても滿洲國

承認問題に發端した聯盟脫退であつた。しかもこれ我世界經綸の序曲に過ぎない。之が展開は次年以後に俟つもの多かるべきは夙に覺悟の前であつたらう。所謂東洋の平和は、明治天皇の明示し給ふた我國策の一大根幹であつたが滿洲國の出現こそは實に之が當然の第一歩である。故に滿洲國を見守つて之が美事なる發育を期し、やがて全アジアにこの好影響を傳ふべき事は國策の辿るべき必勢であらう。しかも我同胞が果して此認識を有ち此抱負を有つや否。識者は澎湃として全國に周流奔逸せる我興國精神を觀て先驅者の意氣に多分の期待を掛けてゐたが唯問題は國民の嚮ふ所に先達して急走する者がない事を遺憾とした。而して先達なき我國家にして尚この躍進振りは如何。かくて爲政家の無識、凡化を以て世界を濶歩し來つた我日本の姿相は不可解の謎とも云はれ得よう。しかも之、實は我國力の強味である。老廢人は勿論のこと、當代の所謂花形人氣と稱せらるる一連の勢力も實は興國氣分に操らるる生人形に過ぎないのである。人を見ず、國を觀よとは獨り卽今の我國が世界に與へた實物教訓である。當世に人物なき一事は却て内に反省の機會を與へ、外に我威力を傳へたもので天意の那邊にあるかを語るものであらう。

二

一年を回顧しては勿論悲喜雜多の思ひ出に胸が一杯だ。しかし乍ら此際徒らに過去帳を繰擴げて一喜一憂に耽つて見た所格別の思案も出でまい。寧ろ意氣を剛壯にして國策の新記錄を續けて行くべきだ。我國の立場としては前途に荊棘多きことは避け難き運命で、之を拓いて一筋道を驀進する以外に何等の活路もない筈だ。しかも我對外工作に就ては多難ながらも尚局面打開の途もある。對内問題の紛糾深化することあらば事態は決して容易でない。我國が人心の和合結束によつて今日の大を招來せしめた一事は餘りにも明かなる事實である。國家興亡の嚴肅な

る戒律の前に次年への心構へを確固として定むべき　である。

時艱に希望映ゆ

昭和九年の新春を迎ふ

——昭和九年一月十日第二百號掲載——

昭和第九年の新春を迎へ茲に先づ我皇室の萬々歳を祝し奉り、我國運の彌榮を萬禱せねばならぬ。別して舊臘には天津日嗣の皇子の御誕生あらせられて皇國の前途がいよいよ伸展清朗の氣運に明け行く感を深ふした。内外の多事多難を偲ばしむる折柄非常の天佑と稱し奉るべきである。

惟ふに刻下内外の形勢は聯盟脱退に際し渙發せられた詔書に明示し給ふた如く「列國は稀有の世變に際會し、帝國亦非常の時艱に遭遇す」るものたる事一點の疑を容れぬ。かくて世界の大變局を明識深察して我非常時艱に對處すべき大策遂行に協力すべきことは正に國民輔翼の緊急第一義務である。因つて今日の場合、各人は須らく其志向を大にし、其本分を明かにして、時艱の急に赴く覺悟が必要だ。時艱に希望映ゆるは興國精神の誇である。

ロシア外交躍る

其近時の動向を觀る

――昭和九年一月二十日第二百一號掲載――

一

アメリカのロシア承認を轉機としてロシア外交は百パーセントの宣傳効果を世界に誇つてゐる。當時逸早く對日、對支の外交ヂエスチユアに得意の駈引を見せた事は尚記憶に新なる所であらう。しかるに本月八日のデーリー・ヘラルド紙によればフランスはロシアを國際聯盟に引入るる目的で之と祕密會談を行はんとする底意があるとの事である。尤もこの噂は昨年末に開かれたソヴエート聯邦中央執行委員會總會の席上で試みられたモロトフ及びスターリンの聲明にも仄めかされてゐた事でフランスとしても活機を捉ふるに一應の緣(えんいん)由はあつた。尚之と表裏して久しく懸案となつてゐた佛、露通商協定が假調印を見るに至つた噂をも傳へらるるなど、フランスが對獨關係を顧慮しての結果でもあらうがロシア外交の跳躍が頻りに注目を惹いて來た。

二

我國に關する限りに於ても去る八日、ロシア大使ユレニエフ氏は廣田外相を訪問して北鐵交涉問題を始め諸種の協議を重ね、從來の對日態度より一入の

深入を試みて來たようである。惟ふにロシア外交當面の目的は二つある。卽一つは所謂不可侵條約の締結で、他は資本流入を意味するクレヂツト設定問題が夫れであらう。しかも之れ孰れも其國内强化に對する不可缺の絶對要件たること明かで、國家行進途上已むを得ざる手段かも知れぬ。ロシア外交が自國の此生命線に沿うて縱橫に馳驅してゐること察すべきであらう。ロシア農民の現政權に對する不滿と赤衞軍の離反が漸く深刻化し來る一方、國外飛躍の準備工作が未だ充分就らざる今日、萬難を忍むで列强と親善關係を持續して行くべきことは自衞上當然である。北鐵交涉問題にせよ、談判開始以來已に三ケ月餘を徒過して何等の進展を見ざりしこと決して怪しむではならぬ。ロシアに於ては少くとも此間は對日國交が圓滿で、準備一切は大ピラに出來る譯である。不可侵條約締結に一步を近づき得れば幸なり。然らずとしても事實に於て不可侵關係を保證し得る事情が持續せばロシア外交の成功と云はれ得よう。

三

云ふ迄もなく我對外國策の重點は東洋全局の平和維持にある。而して滿洲國の出現は此重大國策に共鳴を得たるものたること論を俟たぬ。しかるに我陸軍當局の談によれば、滿洲國國境に近くロシアは約十一師團、十二萬人の將兵を配し、飛行機三百五十臺、タンク三百臺を備へ、更に浦鹽には十二隻の潛水艦さへ控へしめて居るとの事である。レーニンの言によればロシアの軍隊は自國防衞を目的とする許りでなく、世界赤化の前衞軍である。而してスターリンの重工業第一主義がレーニンの素志實現に裏書してゐることは明察し得よう。かくてロシアの赤化宣傳は其武力充實までの露拂ひと見るべきだ。ロシア外交はロシア内政を反映し得て微妙なるものがある。勿論我國としては我國策の明示する所に從つて直往邁進すべきで他に介意する何ものもない。ロシアの邊疆防備は不愉快千萬であるが、之がため我國民

は些かも神經過敏に陷つてゐない事は明かである。ロシア外交の活躍如何に拘らず、我國防姿勢の不動なるべきは論を俟たぬ。

現代の一病相

獵奇心の跋扈を戒しむ

——昭和九年二月十日第二百二號掲載——

一

國家興隆の根本事が國民精神の剛健にあることは夙に大詔の渙發により明示し給ふた所であつた。而して古今東西の國家興亡史こそは實に一の例外なしに此鐵則に國家の運命を賭てゐることを周知せしめてゐる。國民精神が剛健にして意氣旺なるに當りては内に統一精神の浸透を來し、外に邊疆精神の躍動となつて頻りに國家經綸の長計大策が行はるるに至ること史上に比々皆然るものがある。之に反し國民精神の萎微不振を來さんか、内政には所謂分裂精神の横行を見、外交には敗北精神が時勢を得て國歩の退嬰日に逼り、月に迫つて自屈自滅の悲運に見舞はること必勢である。國民精神の剛健は開拓者の精神となり、創造者の精神と相通ず。國家の興隆、國民の發展に此精神なくしては一歩の前進をも期待し得

ないであらう。

二

惟ふに國民精神の剛健は種々の觀點から眺め得る。しかも其一特質は傳統精神の發揚に求め得よう。傳統精神とはチヨン髷固執の謂でない事は勿論である。先人努力の結晶によつて傳へらるるもので破壞し得ず、推移し得ず、變色し得ずして殘さるる精神力が夫れである。例せば先人の忠節心は先人の苦心によつて千歲の後に傳へられてゐる。而して我忠節心は此先人の忠節心によつて感奮興起さるべき事勿論である。かくて滴々相傳へて忠節心の脈絡が生じ、茲に國民精神の結成を見るに至りしこと自然の趨勢であつた。卽ち國民精神の剛健は傳統精神の發揚により鼓動さるる事多く、其力たるや粒々たる憂國慨世人の凝結による以上、將に國家興隆の動力たる素より當然である。しかもこの傳統精神は次代への明識と進歩をも約束してゐるが現代人の所謂奇心とは全く相容れぬものたることを知らねばならぬ。古代希臘文明の廢頽は實に此奇心の跳梁跋扈に負ふもの多大であつた。聖ポーロの所謂「知らざる神」さへを祭つて怪しまずにゐたものだ。徒らに奇を趁ふ心は傳統精神への反逆である。而して自己否定、自國否認の心其ものでもあらう。國家心に缺くる所あるは勿論、國運の前途を暗からしむるもので大いに戒めねばならぬ。

三

さて近く某閣僚は臣節問題で天下の物議を醸してゐる。問題の政治家に就ては素より是非の限りでないが閣僚其人の心構へに於て最初から遺憾の跡ありしを否定し得ない。史上逆臣の立場に就ては夙に公論の定るありて今更紛淆を許さざるものあるのは何人も疑ひなき所である。かくて順逆の分、已に定まつて尚兎角の批評が試みられた所に非難さるる理由があつた。或はまた近く某大衆作家が仁徳天皇の御製

「高き屋に登りて見れば」を後世某の作なりと昂然手記して誇つてゐるが如き略同一觀點から戒め得よう。國家生活の髓心に觸るるもので、既定事實となつてゐるものは善惡俱に夫れ自身に於て大なる役割を果してゐる。而して之を輕々に覆へし得ざる所に次代への眞の革新も豫約されてゐるものだ。隨つて知り、隨つて語る如きは味噌臭きものの尤なるものでないか。猟奇心に非ざれば輕薄事、凡そ國民精神の剛健と相距る萬里の境にある。蓋しまた現代の一病相であらう。

政界の明日奈何

英のファッシヨ化を觀る

——昭和九年二月二十日第二百三號掲載——

一

我二大政黨の領袖は從來屢々ファッシヨ排擊の演說に大童であつた。流行の新聞、雜誌は勿論然りでゐる。一連の自由主義諸勢力は云はずもがな社會主義、共産派に至りては死力を賭て其擡頭を警戒したものである。しかも飜へつて惟ふに我國にファッシヨ勢力が果して何處にあつたのか。これ既成勢力の狼狽振りにも聊か呆然たらざるを得ないものがある。否日本にファッシヨが成育し得る餘地あるらし

き口吻を語ること自體に既成勢力の一大錯覺が看取されてゐた。我國體を識る限りフアツシヨを容るる餘地なきこと勿論である。しかもフアツシヨの幻に怯える政黨人の如きは自らの過去の罪業に苦惱するもので自業自得とも云はれ得よう。ムツソリーニの言を藉りて云はばフアツシヨは輸出物でない。イタリーの國産品である。かくて之が輸入さるる事自體が已に政界の恥辱である筈だ。政界人はフアツシヨ攻撃の前に自らの不始末を片附くべきである。

二

しかも政界のフアツシヨ化は好むにせよ、好まざるにせよ今や世界の大勢となりつつある。而して之が主因は云ふ迄もなく政黨政治の腐敗による顚落から來てゐる。曾てイギリスは政黨に據る議會政治を以て世界に誇つてゐた。しかるに世界大戰以來は漸く議會政治の行詰りを來し、所謂投票制度を以てしてはいよいよ財政の膨脹を來し、國威の不振を招き、國民生活の基礎を危地に導かしむることが實證されたのである。茲に於てマクドナルド首相を擁して所謂國民政府の擧國一致政治へと轉向した譯であつた。しかも時勢の急迫は尚此種の微温的政府を以てしては國民の滿足を充し得ざる事情にある。ジヨンブルの頑固癖を以てフアツシヨ勢力の急潮的擡頭を嘲笑し得さるに至つた所以でないか。元來イギリスのフアツシヨ運動は一九二三年に溯るが世人の注目を惹いたのはモズレーの運動に端を發してゐる。而して之れ實に一九三〇年十二月である。彼が勞働黨政府を去つて野に降りフアツシヨ運動に出づるや、時人の所謂「ポケツト・ムツソリーニ」は竟に笑殺し去らるる運命にあつた。しかるに彼の勢力は次第に擴げられ今や同志三十五萬に達し侮り難き威勢となつてゐる。マツク内閣の影漸く薄き折柄此新勢力破竹の運動は決して輕視し得ないであらう。

三

近くイギリスのフアツシヨ運動はビツヴアブルク及ロザアミユアの参加により一段と氣勢を揚げて來た。例せば本年一月十五日、デリー・メール紙の第一頁に特筆大書された黒シヤツ激賞文の如き手前味噌とは云へ、之が影響は頗る甚大と看られてゐる。蓋しイギリス政界の苦悶想ふべきでないか。勿論前記の二大新聞王はノースクリツプに似て政界に擴がるべき「新世界」に就き多年多大の期待を抱いてゐた。しかも議會政治に志を得なかつたものが新にフアツシヨに飛躍の絶好機會を見出した譯である。

惟ふにフアツシヨは單純と能率の二大主義を特色とし以て複雜と因習に彩らるる政界打破に乘出したもので若人の進出に胸を躍らしめてゐることも事實である。今やフアツシヨの流行に觀て政界の明日奈何を思ふこと切也。但し徒らに濡衣を他に着せて自ら慰むるが如きことは卑怯漢に非ざれば時勢の外に立つ迂愚者である。日本精神復興の急務が我政界に於て最も待望さるる所以である。

道徳政治の權威

傳統政治の復活に就て

——昭和九年三月十日第二百四號掲載——

一

嚴密なる意味の祭政一致は我國風の誇りである。類似の觀念は支那にもあつた。歐洲に於ても揣摩し得たであらう。しかし乍ら孰れも我國政とは似て非なるものたる事勿論である。我國が古來より政治卽ち祭祀であり、教化が政治の最重要使命たること周知の通りであつた。さればこそ我國家の核心たる歴代朝廷は政治の中點に在しまし、同時に祭祀の中心に在しましたる事何の不思議もない。族長政治、武家政治、幕府政治と各種各樣の變遷を經たが、政治思想の根本主義に至りては古來些かの變更を許されてゐない。政治形式は時代色とりどりであつたが只管に皇室中心の政治を意向して違はざらん事に努めた所以であつた。祭祀の敬虔心を其ままに政局に移さるべきは我政治家の心得である。政治を權略と誤認して之を私心の對象とするに於ては神罰覿面たること必定であつた。

二

惟ふに政界の腐敗は歐米に於て左まで怪しまれてゐない。所謂議會主義、政黨政治に於ては選擧制が

前提であり、萬事金錢問題が舞臺裏の主役である事は殆ど常識となつてゐる。東洋に於ても政治形式こそ異なれ、金錢問題にルーズなることは彼是大差ない。否或は此種の道徳感は西洋に比し一段の弱味さへ覺へしめてゐた。近頃我國駐劄の某國使節が議會に於ける某閣僚彈劾を見て不可解の心情を漏したとの事であるが現代政治の玄人觀から云はば正に其通りであらう。しかも歐米及支那政界に於ては不問に附せらるべき問題が我政界に於て神經を刺戟せしめてゐる所に我政治の特色が出てゐる。之を我政治の特色と云つて中らざれば我政治意識の復活と云へば可なり。兎も角祭祀に潔齋を尊び政治に汚濁を許さざるは日本人本來の作法である。所謂政界の常識と呼ばるるものが我政治意識と霄壤萬里の境にあることは以て明かであらう。

三

政治が道學先生の繩張りでない事は素より言を俟たぬ。而して四角四面で能事了るべきものでない事も亦明かである。さり乍ら現代政治は餘りにも低劣に過ぎ、道徳的權威なき事言語に絶してゐる。かくて其結果は自ら墓穴を掘つて政治否認の無間地獄にさへ墮してゐる有樣である。政治の權威失墜が竟に何を齎すべきかは問はずして明かであらう。近くフランスのゾーメルグ内閣は政界の大掃除に取掛り議會の二ケ月休會を斷行し獨裁政治に移つて國政一新を期してゐる。蓋し新内閣の重大使命が那邊にあるかは容易に察知し得よう。今や世界不安が增大しやがて世界の危機を孕むでゐるが、因る所は正に道徳危機にある。道徳危機が政治危機を呼び竟に國際危機を招來してゐる事は餘りにも明かである。

内政と外交不振

國際政局を彩る國内強化

——昭和九年三月二十日第二百五號掲載——

一

従來の國際政局が一方に於て國際協定、他方に於て軍備縮小と云ふ二大輪環に乗つて廻轉し來りたる事周知の通りであつた。世界大戰以來、所謂國際平和の基礎工作を思念せる列強の政治、外交家は殆ど悉くが此流行双輪車を操縦して何々協定、何々條約といふ見事な轍の跡を殘し去つたものである。かくて國際政局の軌道は設計通りに出來上る筈であつた。しかるに道路は案外に惡かつた。設計者の設計が机上の空論たる事が次第に分明となり、國際政局は此設計により返つて幾倍の不安を增したかが實證されたのである。所謂會議外交の權威失墜が目立つて現れて來た一方、軍縮問題の絶望的見透しが附けらるるに至つたのも無理からぬ結果であらう。結局國際政局の現實的色彩が強化された爲めである。換言すれば國際政局に於ける國家主義の地位が確認強化された爲めと云はれ得よう。

二

大戰以來の外交を指導した國際聯盟が觀るが如き有樣である以上、各國家が一應大戰以前に還つて出

直すべき事は素より當然の歸結である。果して然らば各國は其國狀に從ひ獨自の方針を樹てて自由に欲する所に隨つて進むこと明かなるべく。所謂合縱連衡の舞臺面を現出すること舊の如くであらう。かくて多邊的條約——例せば九ケ國條約、不戰條約の如き——の運命が逝つて同盟條約の如き國別的取極めが復活さるべきことも略豫想さるる所である。而して事の此處に至る經路に就ては勿論種々の觀測もあらう。しかも其主因は疑ひもなく國家意識の自覺にあること絮説を俟たぬ。會議外交の虛名に拘束さるるには今や各國は餘りに現實である。國際平和の招來に就ても先づ自國々内工作から始めらるべき事の急務が痛感されてゐる。かくて現下の國際不安が各國家の國内不安を反映してゐる事も明かである筈だ。

三

さて我國に關する限りに於て重大な國際問題は明年に迫つてゐる海軍軍縮會議である。しかも之が豫備交渉は着々として進捗さるべき段取にある筈だが我政局不安定のため交渉に支障を來してゐるとの事が近くニユーヨーク特電により傳へられてゐる。尤も政局不安は獨り我國許りでなく、アメリカ側にもある。否社會不安に基く政局不安に至りてはアメリカの深刻性は到底我と同一談であるまい。しかし乍ら兎に角ルーズベルト大統領が一流の強氣を以て經濟危機を征服して行かんとする意氣と一種の統制振りは諒察して可なるものがあらう。最近傳へらるるニユー・デールの強行による國内の大混亂が噂の如く惹起さるるや否やは勿論問題であるが上述の統制力が明示さるる限りアメリカが對外交渉に依然たる壓力を有してゐる事は論を俟たぬ。若し會議外交が去つて今や國別外交時代に還元したものとすれば土俵に上る國々の實力如何により運命が決せらるる事いよいよ明かとなつて來た譯である。而して合縱連衡は露骨なる姿相を現す事とならう。外交は常に最

小の抵抗線に沿うて走つてゐる事昔からの常道である。内政弱ければ外交振はず、隨つて之を窺ふ外力に乘ぜらるること必定だ。世界の大變局に臨み内政の統一強化、國力の充實整備を希ふこと切なるものがある。

老宰相の壯心

フランス政界のマルヌ戰

——昭和九年四月十日第二百六號掲載——

一

近着のパリ特電によればフランスのヅーメルグ内閣は財政問題の難關に逢着して容易ならぬ苦境に立つたようである。既述の如くパリ騒擾の後を享けて擧國一致の非常時内閣を組織し、竟にフランス政界に君臨する獨裁權まで收めたこと、尚昨日の如くであつたが、此飛報に接して寔に感慨に堪へぬ。世界を吹廻る非常時嵐の勢威に當面してはフランスと雖も安穩ならざること勿論である。一難去つて一難來る。別して財政問題に敏感なフランス政界だ。老舵手ヅーメルグの努力を以てしても尚極度の難航を續けざるを得ない所以であらう。五日の閣議は悲壯な決意を國民に告げ、政府の緊縮計畫が通らぬなら大

蔵省閉鎖か、通貨インフレか二者孰れかに出づる外なしとまで開き直つたと傳へられた。巨大な赤字財政に犠牲となる恩給生活者や、官吏階級の苦痛はさる事乍ら、急迫せる此國情に對しては眞に已むなき場合であらう。

二

之より先づ、ゾーメルグ首相は去月二十四日夜、官邸からラジオ放送により切々たる愛國演説を試みてゐる。彼は現下の難境打開にしては、「獨り予自身で成就し得ない奇蹟」が必要であるとて全フランスの奮起を促し左の如く力説した。

我等は心を一にして黨爭を忘れ而して最後の凱歌を信じ得ることによつてのみ目的を達し得る。恰も我兵士達がマルヌ戰に爲せし如くである。一九一四年九月に於ける我等の勝利は偉大なる軍事的復興であり、大戰に於けるフランス最後の勝利に對する印象深き前奏曲であつた。今や軍事的復興ならぬ別種の復興が迫られてゐる。卽ち我財政狀態を正調すべくマルヌ戰と劣らぬ重大さと不可缺の復興である。若し我等が結束してゐるなら成功する。而し我等を監視してゐる世界は再び語るであらう。フランスは愛國的努力により再び自らを救ひ得た、と。

老雄の心境は察するに餘りある。國民を率ゐて再びマルヌ戰に赴かうとする意氣は壯絶の限りでないか。成敗は如何にあれ、世界は彼の苦衷を諒察し得るであらう。

三

惟ふに政界の第一線に立つ者の苦心は並大抵でない。殊に世界の大變局に立ち、萬事萬端が飛躍期にあるを思はしむる折柄、從來の政治常識が權威を失墜し來りたる所に一入の苦慮もある譯だ。しかも非常時局の內治外交を背負ふて立つ各國政治家の心意氣を觀るに澄澈として前途に躍つてゐる。烈々たる

復興精神は面貌に輝いてゐる。計畫を有ち理想を懷き、情熱に燃えてゐる。一言にして云はば國家の化身其ものの心構へにある。これ正に非常時局に立つ政治家の素描である。彼等は素より非常時に現はれたものであり誂ひ向きの愛國的努力家である事は勿論だ。ヅーメルグは其一人であり、ルーズベルトも亦然りである。ムツソリーニ、ヒトラーを見逃し得ざる事も言を俟たぬ。何れも其人物に就ては兎角の批評はあらう。しかも彼等がその特異な推進力、打開力而して建設力を自國家内の潛在力に求めてゐる事は注目すべき所である。維新卽復古は我國史の明示する革新、復興の指導原理であるが彼等の狙ひ所が略同じであるのも一興である。顧みて我政界を觀る。感慨や如何。

日本體協の態度、スポーツ精神に背く

滿洲國不參加問題を戒む

——昭和九年四月二十日第二百七號掲載——

極めた報道は實に大日本體育協會の極東大会參加問題に就ての態度である。しかも省察するに問題は單に所謂スポーツ界の不祥事のみに止まらぬもので、

一

事件はいささかお門違ひの觀もあるが近來不快を

一部有閑階級の不眞面目さ加減を暴露し、延いて現代思潮の一裏面をも覗かしめた所に重大性がある。殊に之が波及するところ直に友邦滿洲國の純情を紊したるもの多大なるを察知し兩國民心の微妙な動向につき深憂に堪へぬものがあつた。官製の親善交驩が例に依り例の如く行はれてゐる脚下から、日頃所謂民間外交とやら誇稱するモダーン界の寵兒スポーツが見事に其逆コースを强行したるなど頗る皮肉である。兎も角我體協の投じた一石は萬波を呼び所謂スポーツ精神の「明朗、禮讓及び友愛の精神」を自ら掻き消すに至つたこと遺憾に堪へぬ。自ら播き自ら刈る。誰を咎むる術もないが、因つて招いた我日本精神の誤解はどうなるのか。

一一

比律賓で開催さるべき第十回極東選手權競技大會に滿洲國體育協會を參加せしむべきか否かの問題は今日突如として起つたものでない。相當長時間に亘り廣く交涉も行はれてゐた筈の問題である。而して之が結論も亦略明かにされてゐた筈でなかつたか。さればこそ我代表が支那側の非を說破し、比律賓側を戒め我最惡の場合も考慮されてゐた事近く上海會合の經緯に觀るのも之を雄辯に物語つた所である。しかも我體協は何故に急變し滿洲側を見棄てて獨り自ら參加するに至つたのか。我體協の聲明によれば比律賓體協の態度と主張は「一切の政治的考慮を捨て其精神と趣意に於て必ずしも本協會と背馳せず」との事だ。然らば問はん。滿洲國の成立は嚴然たる事實でないか。スポーツ界は此事實其ままの姿を心持よく取入れて自由に競技に參加せしむべきである。現狀に對し故障を立つる事自體が已に政治的考慮を拂つてゐる證據である。我體協が此見易き道理に徹し得ずして腰挫け、物欲し氣に出掛けるなど夫れこそスポーツ精神に背くものだ。現に參加問題を繞つて滿洲國の不滿爆發を見たる事は頗る重大意義である。

三

問題の性質は區々たる辯疏を挾む餘地なきものだ。一切は所謂スポーツマン・シップの問題にある。筆者をして云はしむれば心構への問題である。更に換言すれば日本精神自體の問題に歸着する。若し夫れ現時の所謂スポーツが人氣稼業者の競演と紙一重にあるものと云はばまた何をか云はん。敢てチヨン髷袴を着けて見參する譯ではないが、スポーツ精神の弛緩が此度の不始末を惹起した事は想察するに難くない。さてジーグフリートは其イギリス觀でイギリス國勢の落潮を指摘し、之が主因の一に青年學生層間のスポーツ惑溺を擧げてゐる。彼はイギリスの學生がスポーツに耽り時間と勞力が徒費さるるの愚を戒め、更に之が爲め地味にして眞面目なる問題が顧みられざることを嘆いてゐる。頂門の一針以て我自らも戒むべきである。スポーツは本來の領域を越ゆべからざる所に特色あり自制自戒に其本領がある筈だ。かくてスポーツ精神の明朗公正も受取れる譯である。滿洲國參加問題で傷ついた我スポーツ界の轉心は如何。天下滿目と倶に嚴に其成行を見守りたい。

時代の支配力

青年層に決定力移る

――昭和九年五月十日第二百八號掲載――

一

「青年よ何處に行くか?」の問題は今や激流に棹してゐる。世界の情勢に對し新たなる暗礁の突起を思はしめてゐる。之を從來の如き弱力扱ひに出で、慢心以て輕々に片附け得べしと盲斷するに於ては不測の禍亂を激發せしむる事略分明となつて來た。卽ち現代社會が青年に對し殆ど門戸を鎖し、之に希望の曙光さへ與へぬこと僞りなき實相にあるが此形勢に對し青年界の忍從が破れて來たことが雄辯に之を裏書してゐる。一九二二年前後のイタリー、一九三三年前後のドイツに於ける夫れぞれの青年運動を回顧する迄もあるまい。同じ運命の示唆は今やイギリス、フランスにも迫り、更にニユー・デールの大賭博戰を現前にしてゐるアメリカ青年がその心境を大いに掻き亂してゐることによるも明かだ。三界に家なき青年の行衞如何。問題は正に世界不安に觸れるものである。

二

イタリーに於ける自由主義政治、ドイツに於ける共和主義政治の結果が何を齎したかは茲に詳說する

必要はない。しかも之が爲め上層階級の現狀維持工作がいよいよ強化されて一切の新興力に對し進路を妨げた事は想像以上の苛酷振りにあつた。かくてムツソリーニの出現となり、ヒトラーの跳躍となつた譯であるが、倶に勃々たる青年層の雄心を捉へた所に開拓者の成功があつた。ルーズベエルトの復興運動も亦同一視點から成功を狙つたものたることは明かであるが未だ徹せざるの憾みあり。アメリカ青年の琴線を強打し得ざる所に大なる不安を感ぜしめてゐる。アメリカの青年は世界大戰の影響を受けてゐるので暴力を恐れてゐない。多くの革命沙汰を見聞してゐるのでまた革命を怖れてゐない。共和、民主兩黨の月並的政爭に對しては已に見限つてゐる。しからば權力を以て青年を制し得ず、また傳統政治を以て之を抑へ得ざる譯である。かくて山雨至らんとして風樓に滿つるアメリカ政界は更に脚下に爆彈を忍ばせてゐる有樣だ。所謂ルーズベエルト革命が青年層に通風路を開くに急いで來た所以である。

二

所謂就職地獄を始めとして現代は餘りにも無殘に青年の進出を拒むでゐる。青年世界は殆ど存在してゐないではないか。しかも一方では一連の既成勢力が青年の無思慮、無分別、無作法を痛嘆、攻撃してゐる事依然たるものがある。ワットの發明を教へてゐる現代教育が青年活動の視野に無力、無關心なるは何を暗示してゐるであらうか。ケレンスキーはレーニンに先驅し、ミカエル、カイロルイエはベラクン革命を誘發した。フランクリン（ルーズベエルト）を警戒せよとは獨りアメリカの通用語ではあるまい。若し政治の不振と經濟の跛行を其ままにして移るを知らぬなら次いで到るべき情勢こそ寒心の極みであらう。

天意と人意

時代相の推移を觀る

——昭和九年五月二十日第二百九號掲載——

一

古代都市ソドムとゴモラは町に一人の義人なく竟に鐵火の神罰を受けて亡滅に歸したと傳へられてゐる。一國の運命は個人の運命と同じく現前の利害情實のみで決定さるべきものでない。歷史の過程を觀るまでもなく深刻なる時代精神の支配力によって決定さるる事案說を俟たぬ所である。而して時代の支配力は勿論政治、經濟等各般の影響を受けもしよう。しかし乍らその主力を作る者は時代精神の躍動にある。眼に見、耳に聞こえざる威力に對し此言あるは案外の感もあらうが、事實は決して案外でない。落首一つにも時代の強い響きがある。而してこの響きは直に百萬の人心を鼓動せしむるものがある。敢て明治維新を語るまでもなく這裡の消息は心讀し得よう。

二

惟ふに爲政家に戒むべきは心境の混濁にある。心境に混濁を來さば時代精神の動きを直寫し得ない。而して其結果の如何なるべきやは多言を要しないであらう。別して現時は正に時代の轉換期で、直言せ

ば嵐の前の靜けさとも云はるる情勢にある。巷に傳へらるる風聞にも胸を打つ祕事が踊つてゐる事を知らねばならぬ。かくて電光裡に春風を斬り得ずしては到底時代精神の直寫を期し得ない。しかも此直寫此打診なくして時局に臨むなど冒險の極みである。因つて惹起さるる大切事の踵來は史上比々殆ど然りで、庸劣事を誤るは正に災禍の大なるものと觀られてゐる。古來我國治道の大本が祭事にあり、神祇省が各省の上位に置かれたる事など想ふだに我先覺の用意の程も明察し得る。機を觀る神の如き敏さあつて始めてよく民意上達も期し得らるる譯である。

三

さて近時の世相を觀るに氣力精神の衰退は寔に驚くべきものあり。朋黨比周を怪しまず、綱紀紊亂を苦となさず、皆これ尋常茶飯事と化したるやの感を抱かしめてゐる。而して直以て之を矯めんとせば當世に容れられざる事また殆ど通相場である。かくて千古未曾有の大變局に處しながら依然たる氣構へで打開策にも奔走しようなど正に之れ本末顚倒だ。大變局に對處するには自ら道あり、神心を澄ませて先づ天意の那邊にあるかを究むべきである。天意に則せざる人意は淺薄此上なく、危險また測り難い。しかも世相の推移を觀るに尚天意に逆行するもの多々あり。識者をして天譴を恐れざる不遜の結果につき深憂を抱かしむる事多大である。非常時局の難境更に加はるは敢て介意しないが對局に道を誤り、竟に精神力の不振ともならば萬事休焉である。

外交多難を加ふ

海軍會議の序幕開く

——昭和九年六月十日第二百十號掲載——

一

明年に迫る海軍會議の運命が直に我大陸政策、別して滿洲國の運命に懸ることの至大なるべきは餘りにも明かな事實である。海軍會議に我國家の主張が明示され、之が貫徹につき期待し得ないなら、我滿洲事變はやがて一場の夢と化し去る事疑を容れぬ。海軍會議は我滿洲事變に開眼せしめ、更に活力を與へて躍進せしむべき絶好の機會である。勿論世界は滿洲事變により蒙るべき我國力の打擊疲勞倦怠を豫想して待機姿勢に出てゐる譯である。若し明年の海軍會議に腰挫けてロンドン會議の前轍でも履むに於ては正に世界の思ふ壺に嵌つた貌である。我國是遂行の見地からも我國家の意氣地を貫く上からも海軍會議の有つ重大性はいよいよ加重さるるのみだ。明年と云ふ勿れ、海軍會議の序幕は已に揚がつてゐるではないか。英、米の豫備交涉は現に暗轉裡に踊つてゐる。しかるに憐むべし、我對策は牛步遲々と云ひたいが、實は殆ど無準備無工作不活動の有樣である。

一

率直に云はば滿洲事變以來の我國際的環境から觀て海軍會議の運命は已に分明である。若し席上に於て從來の範疇の比率問題を議せんとせば我國論は斷じて之に承服せざるべく、假りに條約締結の段取りとなるも我國情に卽した合理的主張に基く取極めであるべき事は言を俟たぬ。しかもこの見透しに於て單に條約成立を以て唯一無二の成功とのみ迷信してゐる國際主義者の破綻は已に豫想されてゐる。更に條約破棄を以て直に最惡の場合を豫想する不見識も暴露さるるであらう。兎に角海軍會議は世界の新情勢に對し我國家的認識を强むべき好箇の機會である筈だ。我國家は速刻一切の精力を傾到して之が準備に當るべきは勿論である。

二

惟ふに今後の我對外關係の重大化と深刻化は先づ避け得ない情勢にある。故に此際に於ける心にもなき國際親善工作はさして實効ありとも思はれない。否逆に我權威失墜と受取らるる向も少からざるものがあらう。因つて問題は寧ろ外に有らずして內にある。我國民的訓練を强化して沈毅果斷の德を積ましむるのが先決である。片々たる國際デマに一喜一憂して輕々に我臟腑を見せるが如きは我先人の嚴に戒めた所であつた。之を卽今の外交戰に觀るに我神經は餘りに纖細に過ぎて大凡現實を去る事頗る程遠き感がある。所謂經濟外交の推移により明かなる如く我立場は今や殆ど白人國から孤立しつつあるが今後此形勢はいよいよ急迫化の一路を辿ることであらう。しかるに此認識を自ら裏切つて艱難を避け安逸に走るの急なる餘り時勢に逆行して却つて自ら世界を狹むることなしとせぬ。例せば曩に日英會商に前轍を示し今また日蘭會商に同一轍を履まんとしてゐる事遺憾に堪へぬ。自ら東亞モンロウの發起主唱に出づる以上、有色同胞の失望を招いて可なるべきやは問

はずして明かである。外交には無用の刺戟は嚴禁であるが同時に無用の遠慮も禁物である、歐米の外交界もいよいよ多事多難、形勢は刻々の異變を傳へてゐる。我進退に千鈞の重味が期待さるる秋である。

伊獨首相の會談

會議外交の舊型を破る

——昭和九年六月二十日第二百十一號掲載——

一

本月十四、五日の兩日伊太利ヴエニス郊外ストラのピサニ別莊及ヴエニス近くの水上を舞臺として試みられた伊、獨兩國首相の會談は近來での一大煽情記事として全世界の耳目を欹(そばだ)たてたものである。通譯一人交へぬ兩頭目の會見とて其内容は知る由もないが一般觀測では軍縮問題、國際聯盟問題及墺太利問題につき隔意なき討議協商を遂げたものと信ぜられてゐる。而して軍縮問題は今日尚デモクラシーの幻想を脱却し得ざるため散々の矛盾を示し皮肉な現實暴露をも敢てしてゐる事周知の通りである。國際聯盟問題も亦自由主義による破綻百出を演じて收拾に至難の觀あること多言を要しない。かくて兩首相が其思想及び立場に於て從來の國際行事を見直してドイツの軍備均等權及び權威を以て聯盟に復歸す

ることにつき之が實現を期し、更に一方伊太利の主張を取入れて墺太利の獨立確認を期したものの如くである。

一

軍縮問題は去月三十日の國際聯盟軍縮一般委員會でイギリスのサイモン外相とフランスのパルツー外相との間に激論が交されて竟に會議決裂と迄追詰められたものがアメリカのデヴイス代表により辛くも當面の危機を避け得た事尚記憶に新なる所であらう。而して本年一月、イギリスの公表した新軍縮案中で軍縮協定を意圖したものとして知られている安全保障、軍備均等權、軍縮の三大項目に就て稽ふるに安全保障及軍備均等權の實際的問題に至つては佛獨の感情及利害は容易に一致しない。而して國際聯盟自體は「火藥庫内に集まる喫煙家のクラブ」か「口舌の徒の曲技場」であることがいよいよ實證されて來た。國際聯盟を今日尚その外交政策の樞軸として重視してゐる英佛二國が聯盟の軍縮會議で唯み合ふなど六票の主人公に取りては正に運命の惡戲である。軍縮問題は聯盟軍縮會議に於ては勿論、問題の海軍會議に於ても僞善滿々、會議外交では纏まり得ざるを暴露してゐること國際聯盟自體の場合と異る所がない。かくて伊獨の獨裁首相が國際政局の現狀につき率直談を試みたことは所謂會議外交の舊型を破り反デモクラシー、反自由主義の國際的進出を明かにしたものと云はれよう。蓋し大戰名殘のデモクラシー及び自由主義の國際樓閣に「現實」の淸算を迫つたものである。

二

惟ふに國際政局の不安は日增に募り各國は著るしく現實に目覺て來た。論より證據、今や列强は國際不安の恐怖に堪へ得ざる如く、今更の如く狼狽して合縱連衡に日もこれ足らぬ有樣である。而して各國は夫れぞれの所謂想定敵國を目指して軍備の充實に

餘念なく國際主義、平和主義は已に影を没してゐる。自稱する世界最大の平和主義國アメリカが世界最大の軍擴主義(別して海軍に於て)であり、世界唯一の所謂勞農ロシアが世界最大の陸軍軍備を以て挑戰的態度に移つてゐるなど隱れもなき事實である。看板に大の僞りありて國際政治、國際會議、國際機關は殆ど信賴し得ざるの實相を示して居る。しかし乍らこれ素より些かの不思議はなく、國際政局の姿相其ままの認識を示した迄である。國際政局は依然として强大國家の機會均等によつて安全感を保つことを物語つてゐる。

政治行脚の一過程

ドイツ政界の悲劇を觀る

——昭和九年七月十日第二百十二號掲載——

一

ヒトラー一派の突擊隊手入れ事件は晴天の霹靂として世界に喧傳されたが、今日尚其眞相が明かでなく衆評定まらぬ有樣である。その事實關係は略新聞に掲げられた通りであらうから省略して以下描かれた波紋を眺めやうと思ふ。惟ふにヒトラー政權の内部に二つの癌種が出來てゐた。卽ち一は地主、大

工業家等を代表してゐるユンカーの勢力で、之は副總理パーペン、前首相シユライヘル將軍、ノイラート外相などの一連のブロツクと見られてゐた。他は國粹黨内の所謂左翼派と見らるるものでレームを始めとして突擊隊首腦部が牛耳つて居りストラツサー一味の同情者も亦支持してゐた。而も此度の所謂清黨騒ぎによりパーペンは監禁され、シユライヘルは射殺され、ノイラートはヒトラー派と情意投合してゐたので難を免れたが、肝心のヒンデンブルヒ大統領までヒトラー革命を是認した貌であるためユンカー勢力は俄然地に墮ちた。而して左翼派が一網打盡に根絶の憂目を見たことは周知の通りである。

二

ユンカー及び黨左翼派が國粹黨の傳統精神と思想的に相容れぬものがあることは夙に指摘されて居た。デーリー・テレグラフのベルリン特報は「突擊隊革命委員會」から出た怪文書によれば突擊隊はヒトラーをして勞働者彈壓を意圖する反動工業家の手先たらしめざらんがため立つと記されてゐたと報じてゐる。此情報はロシア側の觀測から出たもので眉唾物たる事勿論であらう。さり乍ら孰れにせよ、國粹黨の外科手術は餘りに手酷しく、内外の同情を可なり減殺したる事は否定し得ない。而して此種の荒療治はイタリー政府の初期にもあつた。勿論ロシア政權は其幾倍にも及ぶべき苛酷慘虐振りを繰返し來たこと言を俟たぬ。しかもこれ悉く西洋心理の一發露で怪しむに足らぬ。腐敗政治に非ざれば流血政治、政黨制に非ざれば獨裁制とこれ歐米の例外なき政治行脚である。獨りドイツを咎むるなど今更野暮の骨頂でないか。

三

フアツシズムが輸出品に非ざる如くナチズムも然りである。夫れぞれ國情の非常を行詰りに於て國情相當の政治現象を取つたものであるが、恐らくは從來

に比類なき最後の切札を出したものであらう。ドイツとしてはヴエルサイユ條約の重壓に堪へて苦闘すること十四年、此間民主、自由の兩主義による議會政治に據つてはいよいよ奈落の底に陷る一方であつた。これブリユーニングの鐵腕を以てして尚現境打開に成功し得なかつた所以である。かくて竟にヒトラー獨裁出現の已み難き情勢となつたものだ。國情の崩壞を喰止めんとするものの悲愴な心情に對し左團扇を以て批評するなど悲慘な笑話である。

惟ふに獨裁制は政治の不眞面目と無力から來る當然の所産である。蓋し英、米、佛の傳統政治が今日何の誇を有つかを觀れば這裡の消息は明かだ。しかもドイツの悲劇が世界の人心に如何なる影響を與へたかは輕々に判斷し得ないものがある。幽靈の獨裁制に魘さるる我政界は先づ脚下如何を顧みること何より肝要であらう。

唯物日本觀を嗤ふ

プラウダ紙の戰爭觀

——昭和九年七月二十日第二百十三號掲載——

一

紐育タイムスのモスコー通信によればロシアの機關紙プラウダは去月七日、日本の戰時財政に就て一流の煽情記事を掲げて内外の注目を欲たしめた。以下其大要である。

日本は戰爭第一年にして恐るべきインフレーションを惹起し竟に國民生活を窮乏に陷らしめて容易ならぬ狀勢を招かしむるであらう。而して開戰初年に要すべき戰費は百十三億圓に達すべく、此計算は百五十萬を戰場に動員した根據から出たものである。若し之が豫備三百萬人の必要數を計上すれば戰費は更に三十九億五千萬圓が要る譯だ。而して此失費は飛行機材料、タンク、モーター類、鐵、綿、石油、羊毛等々につき之を輸入に仰がねばならぬ關係から「金」である。

二

プラウダ紙は更に曰く、

日本は已に多大の貯藏品を有つてゐる。而して滿洲占領により多量の資源が擔保さるるに至つ

た。しかし乍ら此故に日本の危機は救はれないであらう。日本の外交は戰時とならば孤立となる。而して戰時第一年にして三十億圓の物資を海外から買はねばならぬ。かくて日本農民の低生活に拍車を加へるが戰爭遂行の爲め各國で調達し得べき最高金額は百八億圓である。尚此外に公債募集の手段もあるがこれは市場關係で至難だ。よつてインフレーションは不可避の結果となるが此場合のインフレこそフランス又は帝政ロシアの夫れより遙かに深刻なもので正に日本財政機構の弱點だ、云々と結んでゐる。

所謂極東戰爭說が喧傳さるる折柄以上ブラウダ紙の對日中傷記事が無智な自國民に對しては勿論世界の野次馬と野心家の爲めにも興味深き讀物であつた事は想察するに難くない。筆者は茲に一々その虚構を指摘しないがブラウダが結論する如く日本は戰ふべく餘りに貧弱であるとの獨り合點に隨喜した者も少くはなかつた事と思ふ。

三

惟ふに戰の勝敗は國力の差異に負ふことの多大なるべきは勿論である。しかし乍ら國力の差異は評價さるべき表面の資源と「金」の問題のみで片附けらるるものでない。現に世界大戰に於けるドイツの長期奮鬪振りを觀て明かなる如く、國力の不足を補ふ神祕力が必要の前に滾々として涌き來たつたことを回想すべきである。發明力の如き其一例である。しかも更に深察するに戰の勝敗は國民精神の剛健にあることを感得すべきである。曾て露將クロパトキンは我國に來遊し我皮相の國力を觀て日本恐るるに足らずとし後日に至り日露戰爭に敗北の苦杯を滿喫した。これ彼が日本精神の威力につき無關心であつた事の重大過失に陷つた爲めである。汝の劍短ければ前進一歩せよとはスパルタを學ぶ迄もなく古來我國民の心意氣であつた。尚武が政治の重要事として推擧され來つた所以を見ても之を識るべきであらう。ブラウ

ダ紙は遺に本性違はず共産ロシア唯物觀を描いて餘す所がない。ロシア若し戰を挑まば素より敢て辭さないであらう。ブラウダが唯物觀につき如何に精根を傾くるも日本の核心に深入し得ざるや明かである。

國際情勢の新認識

ドイツ最近の政情を觀る

——昭和九年八月十日第二百十四號掲載——

一

老雄ヒンデンブルク逝く。愛國鐵腸のこの偉人が辿つた足跡は餘りに偉大であり、獨りドイツ民族の誇りと龜鑑たるに止まらざりしことは論を俟たぬ。さてヒトラーは豫期の如く老雄の後を享け名實倶に合せ收めてドイツ政界の最高峰に擧ち上つた譯である。所謂一般投票が豫定のコース通りに進行すべきことは勿論だ。先づ大統領の名を避け特にナチス發明の稱名ライヒスフユーラーにより君臨しやうとするのである。謂ふところの第三帝國がいよいよ陣容を張り威風を揚げやうとするのであらう。一代の風雲兒が風雲に乘じたる得意憶ふべきである。曩に所謂ナチスクーデターを敢行し、ドルフス首相暗殺

事件を惹起してヒトラー政權の危機を傳へられたるも束の間、ヒトラーは挺身よく窮地を脫して逆に磐石の地位に轉身した。彼の膽略、才腕が内外を魅了し、世界が彼を見直すに至つた所以である。

二

所謂國際事情通とか、外交官と銘打つものが案外に國際盲であることも笑止の沙汰である。現に目下歸朝中の某大使の如きヒンデンブルグ逝去後のドイツ政界を打診しヒトラーがヒ元帥に代るなどあり得ないと大見榮を切つた。ドイツは世の憎まれもの。ヒトラーは世に憚るもの。之に對し何がなしてケチをつけやうとするのが所謂國際常識であるやうだ。勿論國際聯盟派にのみ通用する常識である。しかるに國際政治は現實政治である。ドグマとイデオロギーの先入は大の禁物で、其形勢觀測は非常の努力と透徹の識見に俟つて始めて正鵠を期し得るものである。ドイツ國粹黨政權はドイツ政情に於ける最後の切札でヴエルサイユ條約不滿のドイツ民族の情感を充たしめて以て不拔の勢力を培つたものだ。所謂大ドイツ主義を掲げてオーストリア併合運動に乘り出したのも思潮の同流に棹したものである。この根強きドイツ民族運動の現實を直視せずして國際政局の現勢を識り得ざることは言を俟たぬ。

三

ドイツの現狀打破運動が地塊運動であることに間違ひはない。しかも列强の何國に於ても此運動を鎭靜せしむる實力なきことも明かだ。

かくて列强は駄々兒の如きヒトラーの跳躍に對し指一本も觸れ得ざる實狀にある。而してヒトラーの活動は列强を七擒八縱して餘すなく其最近の政治的手腕は寧ろムツソリーニを凌ぐ觀がある。かくて感慨に堪へぬ一事は英佛政界に一人の人物なく、此非常時局を迎へて氣息奄々でゐる事だ。英、佛の政界は複雜多難の内政に疲れ之が對策に精一杯である。

力を外に轉ずるなど到底思ひもよらぬ。伊太利の結束は多とすべき其民族的優越性は尚ドイツに及ばざること遠い。よつてドイツ今後の飛躍は近く其最も有利な立場に於て有利な時機を捉へて決行さるるこ

唯物國家觀の一例

國境の繩張爭ひ激化

——昭和九年八月二十日第二百十五號掲載——

一

來年の海軍々縮會議を前にして國際情勢の動向は險惡の一途を辿るのみである。歐洲大陸に於ける獨、佛、伊の各策謀と跳躍振りは云はずものがな。之に刺戟せらるる諸小國連が恰も二十日鼠の駈け廻るさ

とであらう。かくて國際情勢は結局大戰前に逆戻りである。スターリン、ムツソリーニが然る如くヒトラーも亦偉大なる實際家だ。政界の危險信號が案外に政界の沈滯面を照破してゐることを解し得やう。

ま宜しくあつて集散の目まぐるしさは寔に淺間しき限りである。昨今の歐洲政局は戰國亂離の世相其ままを反映し正に世紀末の症狀にある。此間イギリスは勢力均衡策を株守し薄れ行く國力の維持回復に必死の防戰だ。またアメリカはＮＲＡの社會革命に進退兩難の土壇場に立ち血路を求むるに漸く急を告げ

てゐる。かくて各國は千態萬姿、夫れぞれの苦境にあるが、事態を此ままに推移せしむるの至難なるべきことは洞察するに難くない。軍縮どころか、軍擴に大童になつてゐる各國肚裡の程も窺はれ得やう。

二

かかる折柄、イギリス首相代理ボールドウインは去月三十日、下院に於て空軍擴張五ケ年計畫案を發表し、四十一個中隊增設の意圖を明示したが之と同時に空襲の外敵を防ぐために國防的國境を擴大してライン河に及ぼさねばならぬと力說した。かくて所謂イギリスの生命線が擴大强化されて以來、國際政局に新なる一刺戟を加へたことは否定し得ない。現にヒトラーは直に之に應酬して一流の戰陣を張つたが、アメリカの感受性もまた頗る重大視され、國境問題を繞つて形勢の異變が頓に加倍された觀がある。スワンソン海相が本月一日、例の軍備二割減を提議した後、昂然として「アメリカの國境は一番遠いところにある領土まで」を放言した事は正に不用意の裡にも日頃の磊塊を吐いたものであつた。刻下の國際不安に對し自國の勢力圈を不當に擴大せんとすることは不快至極である。正に生命線の冒瀆に外ならぬ。

三

惟ふに歐米流の國家觀を以てしては國家究局の目的が自國の繩張りを擴げることにあることは明かである。時に合縱連衡、時に武力交戰、策謀に非ざれば鬪爭と殆ど國情に安定なきも之が爲めで、その實が雄辯に語る通りである。しかも今や從來の所謂國家觀を其まま實現することは至難の狀勢となつて來た。先づ歐米の國內事情は唯物主義必然の結果として不統制と自墮落に陷つている。かくて外に對する强權と暴壓の利目が昔日の觀なきに至つたのも爭はれぬ事實だ。歐米世界以外に別箇の新世界が擡頭しつつあるのも一證據である。而してこの新世界は

舊來の唯物國家觀に代つて生れ出たもので、道徳國家觀とも云はるべきもので今や何國と雖も其の成長を阻止し得ざる實況にある。我國は實に其代表だ。日本人の國家觀、日本精神の國家觀が歐米人の國家觀、世界觀と正面を切つて對陣して來たことによつても明かであらう。從來の如く單に觀念上の對立に止まらずして政治化、經濟化の實際問題となつて來た所に新味がある譯だ。かくて國家の興亡盛衰には自ら天理の嚴存して濫りに犯し難きものあり。市井の繩張爭ひを以て之を律し得ざることは素より言を俟たぬ。國際狀勢の混亂時に武備の充實を怠り得ざることは勿論であるが、深く史跡を辿りて遠き慮に出づべきことが切感さるる所以である。

罷業の時代色

非常時局の異變を觀る

――昭和九年九月十日第二百十六號掲載――

一

今次の東京市電氣局從業員の罷業問題を機として勞働不安の懸念が濃密に我上下層に滲透して來たことは疑ひを容れぬ所である。上層に於ては勞働階級が示した新興力としての啻ならぬ氣配を看取して漸

く焦慮煩悶の色、覆ふべくもない狀勢にある。政治的、社會的の同情が變調となり、正に勢力轉換期に當面してゐる事を朧氣ながらも氣附いて來た譯で從來のストライキ騒ぎとは異つた實感を抱くに至つた事は推察し得る所である。しかも一方勞働者側にあつても思ひは一つである。世は所謂非常時と云ふに、上層支配階級の專斷横暴は相も變らぬ爲體だ。野郎自大、一連の勢力のみが此世の春を樂しまんとしてゐる。其振舞の傍若無人は正視に堪へぬとあつて茲に時代に棹さす諸勢力に呼び掛けながら自らの生活不安に堪忍袋の緒を斷ち切つて立ち上つたものである。この結果は今までと異つた新興力の擡頭とならんとしつつあり、之が必然的に時代の轉換期に一大動力たることを示さんとしてゐる事も疑問の餘地がない。

二

惟ふに非常時風景の緊張裡にある列國では今や殆ど大ストライキの影を没してゐる。此間獨りアメリカでは例のNRA運動の刺戟によつて産業界の大動搖を來し頻々たるゼネラル・ストライキ騒ぎを續出してゐる事周知の通りである。獨、伊の如き國粹政治の徹底下にあるものは勿論、英佛の如き自由主義の看板を掲げてゐるものと雖も國民政治の實相にある以上、激烈な階級鬪爭を許し得ざることは自明の理であらう。しかもストライキを戒めんとせば國家機構の一環としての統制に俟たねばならぬこと勿論である。ストライキの彈壓或は可なり。しかし乍ら國家の一隅にストライキを挑發するが如き勢力ありて意識的、無意識的にその特權を濫用するに於ては事態は惡化を辿る一方なること寔に分明である。茲に於て國家意思の統制が先決となる。國家意思の統制は國家の道德的感受性が先驅となり、國家權力の發動が之を强化して始めて其目的を達し得るものである。片々たる唯物的小細工が眠る階級鬪爭を搖り起す以外の何物でもない事は過去の事例が雄辯に物

語る所だ。

三

ナチスは「協同利益は個人利益に先行する」（Gemeinnutz vor Eigennutz）との道徳的鐵則を以て一切の分裂的行動を禁壓してゐる。ストライキが此鐵則に拘束さるることは勿論である。而して協同利益が所謂全體主義に出發して國家意思のあるがまの一表現であることも論を俟たぬ。今や我國内情勢は深刻化し來る農村問題の發展と、潛行激化の傾向にある勞働問題とを抱いて非常時局の非常時相を思はしめてゐる。而して之が對處を誤らんか。教育、國防、經濟、産業等の諸方面に容易ならぬ波動を傳ふる事も明かとなつてゐる。

我國體意識が實生活に其威力を發揮すべき時は今が好機である筈だ。しかも市電爭議に映じた朝野お歴々の時勢觀と處世觀は餘りにも皮相であつた。此一事既に國體意識に内省なきを示してゐる。維新の到る、正に草澤の裡に期待し得ること史證の寔に我を欺かざるものがある。

ロシア外交の地位

——昭和九年九月二十日第二百十七號掲載——

一

ロシアの聯盟加入はいよいよ實現された譯だが對露外交を繞る國際政局の動きは例により激情的である。目下歐洲外交の二大問題となつてゐる所謂東歐ロカルノ協定及びロシアの聯盟加入に關連して興つた諸種の難題がロシアの今後取るべきコース奈何により更に幾轉變の紛糾を來すかは略豫想し得る所である。東歐ロカルノ問題がフランスの筋書とは似もつかぬ畸形兒となりポーランドを始め永年手鹽にかけた小國連がフランスより離反し去らんとしてゐる事は何と觀てもフランス外交の不手際であつた。即ちバルツー外交は舊時代型の雄なる丈けイギリスを始め大國の牽引には妙趣を發揮してゐるが、新興諸國に對する認識は有つてゐない。即ち對獨關係に餘り敏感に過ぎた結果ロシア抱き込みに焦慮を重ねて意外の蹉跌を來したものである。國際聯盟に對するポーランド外相の投じた民族問題の爆彈や、アイルランド首相の宗教自由の要求に至りては一閃直にロシアの心臟を抉るものがあつた。所謂ブルヂヨア國家の仲間入り、ロシア自身にとりてもが案外に將來を樂觀し得ざる事を明察したものである。

二

さてロシアの對歐深入が東亞の形勢にどう影響するかは一應考慮された所である。此の觀測に對し積

極、消極の兩說が行はれてゐたが大體の見透しに於て消極說を採つて可なりであらう。ロシアは對米債權問題を片附けざる限り如何に宣傳外交を試みてもアメリカの對露感情は好轉しない。イギリスはフランスに引摺られての道行きたるに過ぎない。かくてロシアの上氣してゐる所以のものはフランスの對獨杞憂、更にまた對伊思惑の反射作用による事の少からざることは明かである。國家の現實的足取りを外した姿勢程輕視さるるものはない。ロシアが對歐米外交を整調して勢威を東亞に誇示しやうとしても、其出發點にして虛勢である以上、多分の效果なきこと論を俟たぬ。

三

ロシアの對日逆宣傳は今に始まつた事でないが、所謂日露戰爭說に對して我侵略行爲を豫斷してゐるなど遖に抜け目ない。ロシアは北鐵、漁區、不侵略の諸問題での對日交涉に於て不信行爲を繰返してゐた一方に、露滿國境に「トーチカ」一堡壘を設けて威勢を示して居ることは隱れもなき事實である。北鐵問題の如きはユーリン、カラハン等の公式聲明により無條件、無代償で返還しやうとした代物ではなかつたか。しかも此「帝國主義的遺物」に對し、多大の執着を有し名を買收價格の不調に借りて遷引また遷引、此間形勢の有利を策せんとして沿線各地に事故を頻發せしめてゐる事は周知の通りである。事態斯の如き情勢にある以上對露懸案解決に多大の希望を繫ぐことの無意味なることを識るべきであらう。況んや曾て廣田外相の私案として傳へられた日滿露國境無防備地帶設定說の如き妥協思想が徒らにロシアの輕蔑を招くに過ぎざることは明かである。國際政局の現勢が戰國亂離の有樣にあることは本紙が每號に亘つて指摘してゐる通りであるが、之が對策の示唆はロシア外交の最近の動きに徵して一入と痛感せしめられてゐる。秋風の都門を訪れるを機として內外の形勢は一段と緊逼の度を加へるであらう。賴

むべきは唯自國の力のみ。

アメリカの布陣

海軍豫備交渉近づく

——昭和九年十月十日第二百十八號掲載——

一

我國際危機の前奏曲たる海軍會議のロンドン豫備交渉は近く再開さるる豫定であるが、一方早くも舞臺面では異常の緊張が傳へられてゐる。卽ちアメリカは從來のデヴイス代表の外に新たに作戰部長スタンドレー提督を派遣して交渉の推移に重大關心を明示せんとしてゐる事周知の通りである。ス提督はプラツト提督退役の後を享けて昨年四月、現地位を占めたもので、アメリカ海軍の强硬派の巨頭たる丈けに其出陣は頗る重視せらるるに至つた。豫備交渉は其名の示す如くであるから形式的協定など勿論期待し得まいが專門的問題の內容に深入して重大討議の行はるべきは素よりのこと、之が結果は直に明年の海軍會議に深刻な反映を來すことは推察し得る所である。しかも交渉の雰圍氣を繞つて意外の入道雲が涌き來らざるかは豫測の限りでない。

二

今日までに明かにされてゐる情勢から觀れば豫備交渉は多大の紛糾を免れず、來年の會議の運命と同じく之を圓滿裡に見送ることは先づ至難であらう。卽ち、

一、アメリカは華府會議、ロンドン會議の建前を堅持し比率主義の變更を肯ぜざることは明かである。而して如何なる新提案と雖も恐らく此方針を前提としてのものである事は想像し得るものがある。

二、比率主義の堅持はアメリカ國策の反映に基くものであるから先づ確定不動と觀てよい。而して此結果として所謂渡洋作戰に必要な優勢海軍は何としても固執するであらうし、其極東政策遂行に應ずべき攻勢力を減殺するが如き如何なる讓歩をも敢てしないであらう。

三、以上の海軍方針は勿論アメリカの對外政策と表裏してゐる關係上、獨り海軍問題自體の成行許りを觀てゐる譯に行かぬ。實際問題としては國際問題の全局觀から用心してかかる必要がある所以である。華府會議當時の事態を繰返すことなきやは勿論豫斷し得ない所で現に近着の外報は頻りに海軍問題の裏に動く極東問題の影を反映してゐる始末である。例の廣田・ハル文書交驩に於てもハルの返信が將來の多邊的交涉を暗示してゐた事は當時本紙がハツキリ指摘した通りである。

情勢右の如くであるから我主張とは根本的に對立して居るので交涉は不成立と觀るのが常識である。

三

海軍問題の運命が其ままに我國家の興亡に係る運命にあることは細說を俟たぬ所である。而して之が結果にして、我國格に對し依然たる比率主義の烙印を押して終らんか。竟に友邦滿洲國に對する信任を

裏切り、やがて支那及ロシアに對する威勢を失墜して我東亞の地位に覿面の影響を來すこととなることも亦言を俟たぬ。しかもこれら一切の不祥事中の最大なるものは戰爭の危險に晒さるることに外ならぬ。而してアメリカの社會革命は深刻なる行進を續けてゐる。イギリスの經濟的行詰りは殆ど想像の外にある。ロシアの現政權が脚下の動搖に對し如何とも爲し難き混迷の狀況にあることも推察し得る所である。かくて夫れぞれの窮境打開に對し隣國の間隙を狙ひ動搖を待つてゐる有樣は悉く一致してゐる傾向であり、一段と注目されて來たことも事實である。しかも海軍問題の突張りが此危機線に對して堅き保證となつて外力の窺覦を許さざるものあることは正に千鈞の重味がある譯だ。

内觀の急務

國際政局微妙に動く

——昭和九年十月二十日第二百十九號掲載——

一

去る九日、マルセイユで勃發したユーゴースラヴイア國王及びフランス外相の遭難事件は世界大戰以後に於ける一大悲劇として世界の目と耳とを奪つたものである。事件其ものの影響としては勿論歐洲の

地圖を塗り替す程には至つてないが、因つて暴露された國際政局の弱點は相當に深刻なものがあつた。世界の大變局を前にして此慘事が展開されたことまた已むを得ない情勢であらう。ヴエルサイユ條約の不自然な崇りが何處まで延びて行くのか、天意に逆行する人智の僭上に對し今更の如く戰慄を感じ得ないものがある。かくて戰國亂離の國際政局に對して其見透しをつけることは所謂政治家に取りて不可能となつてゐる。今や桐一葉に天下の落ちるを識るものは之を塵外に求むべきか否か。

二

マルセイユの悲劇は卽ちフランスの悲劇であつた。フランスは對獨問題の幻影に自ら怯えて氣も顚倒の有樣である。朝には自ら斡施して作つた小協商諸國を動員して其安全感を固ふするかと思へば夕には之を裏切つてロシアと盟約を交したり、イタリーとの宿怨を一擲して交驩に誇るなど人をして其苦惱反轉の餘りに甚だしきを思はしめてゐた。ロシア、イタリーが俱に國際信義を泥土にして顧みぬものであることはその近時の行動に於てまざまざと觀せられた所である。ロシアは素より論外としてムツソリーニの權變猫眼の如き打算主義がヒトラーの堂堂たる正攻法に遠く及ばざることは今や遺憾なく暴露されてゐる。ドイツの墺太利に對するアンシユルス運動はイタリーの此度の仕打に比し遙かに男らしきこと萬々で到底比較にならぬ。しかも傳統に誇るフランスが思想、感情俱に相容れぬ露、伊を引入れ獨逸に對せんとするなど眼前一時の氣休めであることは勿論であらう。而して之れがフランスの全智全能を集めての結果である。フランスのロシア誘引がイギリス外交の無力、無能を明示してゐる事はまた言を俟たぬ所であらう。

三

ドイツは六千萬の大國で勃興の意氣に燃え旺で

ある。しかるにフランスは四千萬人、今日の雄邦なるは否定し得ないが萎微退嬰の氣配は如何ともなし難く國民生活の内容を一瞥するものに取りては兩者の運命につき一斷を下すに躊躇せぬ筈である。疲憊の身を以て新鋭に向ふ、既に勝敗の數、寔に明かであらう。ドイツの難境は言語に絶するものあるも國民精神の不退轉は竟に之を突破し得やう。フランスは其他力本願に於て已に僞りなき眞價を語つてゐる。マルセイユの一擊が世界の土俵開きを知らしめ、實力勝負を合圖してゐる事は明かであらう。爾後國際番附の變更を豫知せらるべきなどは素より當然である。

さて國際政局が國内政治を敏感に反映してゐること今日の如き未だ見ざる所である。國内勢力の一張一弛が國際政局に其まま傳へらるることは正に電流の如きものがある。經濟生活の跛行による危機の逼迫、國際不統一による國力の衰退、道徳頽廢による民心の激化等々端的に土俵の上に現るること觀るべきであらう。かくて今や政治、經濟の六韜三略もさる事乍ら、其權威は修身齊家の大學一篇に及ばざること遠きことを思はしめてゐる。危機は正に外に非ずして内にあること明かだ。

一落伍者の悲哀

美濃部氏の反軍宣傳を見る

――昭和九年十一月十日第二百二十號掲載――

一

個人主義、自由主義、國際主義の擡頭跋扈の兆あることは稍注目すべき近時の一現象である。内外の情勢が日毎に緊迫の一途を辿る折柄、此種の勢力が何の遠慮もなく表面に踊り出るなど、正に非常時意識への挑戰でもあらう。而して此一連の勢力が政治、外交、經濟、思想の各層に喰ひ入つて一流の内面爆破を企つるところ、容易ならぬ反逆運動だ。謂ふところの一連の勢力は要するに分裂主義、宗派主義に墮したもので、刻下の急に赴くべき非常時意識とは根本的に相容れぬものである。非常時意識は全體主義、統制主義、國家主義により個人主義、自由主義、國際主義を制壓して行くところに其本領がある譯だ。かくせざれば國家も個人も時勢の急潮に應じ得ざるが爲めに外ならぬ。論より證據國内政治の重大化を觀よ。國際政治の重大化し來るところ明かに自由主義一味の破綻を示し之が收拾につき統制主義の迎へられた事は一點の疑問がない。現實無視の戯論辯文が蒸し返さるるなど正に人心に緊張を缺き、間隙の乘ずべきものあることを示したもので恥かしき限りである。

二

自由主義復興のために踊り出た一人に美濃部達吉氏がある。氏が中央公論十一月號に掲げた陸軍國策總批判に對する一文の如き近來になき露骨な反軍思想を出したもので頗る世の視線を惹いてゐる。美濃部氏は形式法學の泰斗として自他俱に許されてゐるとの事であるが、實は夫れ丈けに時潮の動きから遠退いてゐることも否定し得ない。形式法學には今や故郷がない。ナチスドイツは已に形式法學の異邦人であるからだ。かくて形式法學は竟に漂流の旅に出てゐる。故郷を失つては直に幻滅の悲哀である。我法學界の先達が大戰前の淡夢を今日も追ふて尚醒め難きのさまにあることは寔に憫然の至りで同情に堪へぬ。

さて氏の所論は徹頭徹尾國防藐視(べうし)である。今日の場合特に國防が何故に重視せらるべきであるかの客觀的情勢を究めずして、自己の主觀と感情によつて軍部攻擊に乘り出してゐる。立論の出發點に於て已に認識がないことを語るものでないか。苟くも滿洲事變以來の內外の情勢を明察し、之に對する我支配層の實力如何を考較し得たならば軍部の主役振りに對し文句の附けやうもない筈だ。而して軍部は今や明かに農村子弟と都市小市民の呼吸を傳へてゐる。而して國民經濟の大動脈ともなつてゐる。之を往年の特權的存在と視て對立關係に於て取扱つてゐる所に氏の根本的錯覺がある。

三

時代の落伍者は必然的にヒステリカルである。氏は「同じ政府の一部たる陸軍省に於て此の帝國の不動の國是に反し、條約を無視し、聖詔の趣旨に背いて、妄に戰爭を讃美し、戰爭を鼓吹し」云々と斷じてゐる。更にまた(中略)「是れ卽ち國際主義を帝國不動の國是として宣言し給へるものである」と擅斷し竟に「個人主義及自由主義に至つては明治維新以

來の我が帝國の大國是であつて（中略）憲法の制定に至つては之を憲法上の基礎原則の一として宣言してゐる」とさへ高調した。これでは我國軍に忠節なく我憲法はイギリスの大憲章と異なる所がないといふ事なのだ。唯物史觀も茲に至つて極まれりと云ふべく、個人主義法律觀の危險が叫ばるることも當然である。若し夫れ「皇國」の使用に横槍を入れた一事に至りては氏の無學振りを遺憾なく發揮したもので之を咎むるの勇氣さへ出ない。氏たるもの宜しく明治維新史の一頁を讀むべし。惟ふに世界大戰は人物の型をも一變せしめてゐる。而して時代は正に大戰後の新型人物で活きてゐること言を俟たぬ。國家の傳統精神もこの新型人物によつて復活し躍動しつつある事は歐米政界でも實驗濟である筈だ。今頃自由主義の國際主義のと持ち出さるるなどは餘りにも黴臭い話である。

親切なき政治

農村對策の心構へ如何

――昭和九年十一月二十日第二百二十一號掲載――

一

臨時議會は一週日の後に迫り、政界は頓に活氣を呈して來た。謂ふまでもなく臨時議會の中心題目は窮乏及災害地の救濟が主たるものであるが、外に國政上緊急の施設に係る重要問題も併せて討議さるるこ

と勿論であらう。しかも内外の時局が多事多難を加へ來る折柄、不可抗の天災が踵來したる爲め國民は一段の重き試練に堪へねばならぬ次第で夫れ丈けに國民精神の健否が直接に反應を見せらるる譯である。我先人は憂き事の尚此上に積れかしとて雄々しき覺悟を語り勇躍して難境突破に楯迎ふ意氣込みを明示してゐる。而して國民として現時の如き危急に遭ふのも殆ど前代未聞であらう。戰に非ずして戰以上の緊張と忍苦を要する時代であることは何處を見廻しても痛感さるる實狀である。

二

國難は内にあり、また外にもある。而して刻下の重大難局が國内問題にあることは各國共通の實相であらう。殊に農村危機を如何にして解決すべきかは差迫つてゐる難題である。しかも從來、比較的輕視されてゐた農村問題が地割れの如き勢ひを取つて動き出したので之を觀て今更の如き恐惶振りを示すなどは餘りにも自己冒瀆の太しきものでないか。殊に農村生活自體が我立國精神と表裏してゐる關係を忘れて祍着ての救濟騷ぎに出づるなど事態の認識を缺くこと頗る大なるものがある。農村の生活苦は自己の生活苦であるべき筈だ。農村の疲幣をして今日の如き狀勢にまで追込むだものは正に各自の責任でないか。農村の經濟的破局が直に都市の運命に匕首を擬するものたることは餘りに明かな事實である。しかも此事實は精神的交流に於て更に深刻であり、久しく都市が啣んでゐた矛盾と不滿に對し默々として見送つてゐた農村は今や漸くにして動かんとしてゐる。農村の脈搏打診は寔に容易でないが夫れ丈けに容態の惡化が國家の全局に對して及ぼす影響は甚大である。而して農村の求むるものは國家心の純情にある。所謂都會的觸手が如何に複雜であつたかは過去の經驗から農村が髓心にまで徹してゐる所である。農村に對する心構へを省みずして百千の對策を弄して見た所で格別の親切にならぬ事は明かだ。

三

農村問題が國家生活の有ゆる視野から觀て極めて重大化してゐる事は疑問の餘地がない。しかも夫れ丈けに國家の大局的見地から急速に解決の途を發見せねばならぬこと勿論だ。しかし乍ら國家の重大事に臨み爲政家にして私心私情を挟むことあつては名案は浮かばない。また勇斷も起らない。かくて實に農村問題は時代に踊る大小の諸勢力を精算してゐる事は恐るべきものがある。惟ふに政治は活物である。しかして政治の活物たる所以は人心の機微を穿つことにあらう。今や人氣の動きを觀るにこの國家の躍進期に臨むで明治御一新の精神に立還つてゐる事明らかである。農村問題解決の抜本的意向また茲に出發すべきものたる事言を俟たぬ。

歴史の一轉機

華府條約廢棄の日迫る

——昭和九年十二月十日第二百二十二號掲載——

一

待望の華府條約廢棄通告案は竟に樞密院に御諮詢を見るに至り、近く御裁可を俟つていよいよ正式通告が發せられる段取となつた。顧みるに、華府條約締結以來十三年、所謂比率主義の名を以て國防自主

權を拘束して面目を蹂躙し來りたること實に太しきものがあつた。國防自主權の制限を受けたるものは之を前にしては敗戰國ドイツあり、次いで我國あり、卽ち我國は如何なる事情ありたるにせよ、結果に於ては所謂無流血の敗戰を滿喫して其恥辱を受けたこと正にドイツの二の舞を演じたものであつた。國防自主權の制限は卽ち國家主權の制限である。斯の如き恥辱は弱小國と雖も甘受し得ないこと明かだ。しかも今や我國は過去のこの非違を精算して再び興隆の首途に立ち躍進を續けんとするのである。而して華府條約の廢棄通告は實に之が合圖たる狼火である。問題は辿るべき筋道を辿つた迄であるが今日の好日を迎へた意義は決して淺小ではない。

二

惟ふに華府條約廢棄の根本方針を決定したのは九月七日の廟議であつたが、事の茲に至つた政治的經緯に就ては寔に波瀾を極めたものがあつた。其樂屋裏を暴露することは差控へるが兎に角、十月三十一日には元帥府の御諮詢を經て統帥關係も確定したので、我國内的足並は先づ揃つた譯であつた。しかも一方ロンドンに於ける軍縮豫備會商は十月二十三日より開催されたが、早くも十一月二日には坐礁して前途の暗澹たるを思はしめた。而して其後の形勢を觀るに會商の窮境は依然として打開さるる見込なく、徒らにデマの應接戰に惱まされてゐる有樣である。蓋しこれ豫備會商に於ける我軍縮精神の不徹底さに重大責任あるを否定すべくもなく、而して之を遡つて檢討するに華府條約廢棄通告の遷延に禍因せること明かだ。我決意を明示して會商に臨むこと、會商半にして我決意を明示することの精神的開きが如何に大なりしかは問ふ迄もあるまい。華府條約の廢棄は條約文で明かに豫定されてゐる事であるから、之を決行するに寸毫の躊躇も要らぬ筈だ。之を躊躇せる所に却て無用の猜疑をさへ招いた程である。況んや條約廢棄に他國を誘引したるなど我面目

を傷つけた事寔に僅少でなかつた。しかも今や兎に角單獨廢棄の通告を見んとするに至りたるは徒らなる他力本願を排したるもので寧ろ慶祝に堪へぬ。

三

華府條約の廢棄通告は或は豫備會商をして決裂せしむることになるかも知れぬ。これ豫想されてゐた日米兩國間の兵力量問題につき衝突の一つの切つ掛を作るものとして企圖されてゐたからである。しかも豫備會商の決裂防止として傳へられてゐる艦型、砲徑制限、太平洋防備制限協定の存續、建艦年報交換問題等々の出現は未だしもとして所謂太平洋會議の開催説や比率主義廢棄時期の延長説や軍縮本會議の延期説などの怪説が頻々として飛出すに於ては今後の情勢に對して尚一段の戒心を拂はねばならぬ事は言を俟たぬ。現に我當路者の言説中にも安價なる妥協を閃かしてゐるもの二三に止まらぬものあるは之れを裏書してゐるものだ。堂々たる我軍縮方針を歪曲されては何の妥協があるのか。新政治協定の對象となるべきものとは何問題があるのか。我退一歩は實に彼の進一歩を意味する。かくて彼の進一歩は正に太平洋問題、別して東亞問題の今明日に對しての暴風警報であるべきことを識らねばならぬ。我國策遂行を放棄してまで安價な軍縮妥協を望むなど斷じて許し得ない。

華府條約廢棄通告は聯盟脱退滿洲國承認に活を入るるもので我アジア經綸實行の第一歩である。而して恐らくは日本歴史に躍進の一轉機を劃するものであらう。イギリス外交の無力とアメリカ外交の虚喝は竟に自らの墓穴を掘つて來たことをも併せて牢記せよ。

條約廢棄の一石

支那政局への波紋を觀る

——昭和九年十二月二十日第二百二十三號掲載——

一

華府條約廢棄通告は昭和九年の掉尾を飾る一大快事で、正に劃期的意義を持つものである。昨十九日の樞府本會議に於て我最高意思の決定を見たること周知の通りであるが、之により對外的効果たる華府政府への傳達もいよいよ實現さるる段取となり寔に同慶に堪へぬ。さて、華府條約廢棄通告により深刻な反映を豫想さるるのは何と云つても支那政局の動きであらう。華府條約廢棄による我國防の安全感が滿洲國の擁護に千鈞の重きをなすべきことは今更贅言の要がない。しかもまた華府條約の廢棄が衰弱の我對支策に一大活力を與ふるものである事も亦明かである。否華府條約廢棄の大眼目が驀て支那を中心とするアジアの整調にあるべきことは我國民の盤石の如き確信であつた。しかるに軍縮問題の對象たる支那自身の動きが依然として皮相淺薄なる事は正に現前の通りである。

二

傳ふる所によれば支那の有力言論界に於ては日本の軍縮方針を是認することは其對支侵略行動を助長

するものであるから、英米は協力して日本を壓迫すべきであるとの意見が大勢を占めてゐる、との事である。勿論此種の言論が支那政界の意見を反映してゐる所に注目さるる價値がある。本月十四日のノースチヤイナ・デーリー・ニユース社説も略同意見を掲げてゐる。而して軍縮豫備交渉と表裏して日本を除外する國際新財團の組織説が傳はつたり、重工業の新設備續報が放送せらるるなど支那今日の情勢に於ては支那政界に於ける所謂歐米依存派の活躍が頗る目ざましく其得意滿面であること想ふべきである。かくて支那の此情勢の下に於ける蔣介石の獨裁強化が日支關係に好轉を來すものでないことは明かであらう。しかも一方去る十日から南京で開かれた五中全會が十四日の會議に於て問題の五全會議を一ケ年延期したることは意味頗る深長である。勿論五全會議延期の理由は西南派の反蔣態度が强硬であること及此間の政治工作で蔣の獨裁强化につき局面打開を試みんとする魂膽に出たものであらうが更にまた蔣介石一流の時勢眼動いてゐた事も推察し得やう。卽ち歐米依存派の云ふ如く日米戰爭とか、日露激化など果して筋書通りに運ばるるものかどうか。また日本が果して英米に屈服し去るかどうか。英米の國内不安を以て果して對日積極策に動き得るかどうか。之らの觀測が蔣介石の獨裁强化と微妙の交渉を有つことは誰よりも蔣自ら萬々承知の筈である。

三

惟ふに我國際的立場は今や極めて重大である。而してこの重大時局に當面せる我態度としては何よりも先づ軍縮問題に明快な決意を明示すべきことの一點にある。しかるに昨今のロンドン特電は豫備交渉決裂に尚多大の未練を殘し、爲めに逆にイギリス外交の術中に陷るに非ざるかとの憂慮を抱かしめてゐる。アメリカの軍縮方針がアメリカ國民に取りて國民死活の重大事を反映したものでない事は近來頻々傳へらるるアメリカ政界に於ける反對論によるも明

かだ。斯の如き現象は十三年以前には殆ど絶無のことであつた。しかるに我軍縮方針は我國民に取つては眞に死活問題を表現したものである。而して我國論の動きから觀てこの事實は何人も疑ひ得ない所であるがこれまた華府會議當時に見られなかつた現象である。イギリスに至りては軍縮問題に一流の含の手を弄してゐる事正に周知の通りであらう。かくて英米の實勢と軍縮に對する關心の變化とにより支那政客の待望が實現し得らるるや否やは勿論多大の疑問がある。しかし乍ら支那政局の好轉が決して棚ボタ式によつて來るものでない事は明かだ。所謂一九三五、六年の危機が支那問題の情勢變化を繞つて出現し來ることは殆ど疑ひを容れぬ。アジアの嵐は軍縮問題の運命如何によつて進路と風速とを變へ來ること必定であらう。

あとがき

太田耕造全集第一巻が漸く上梓される運びとなった。全文九百ページに近く、奇しくも既刊の第二巻とほぼ同じ分量となった。最初に発刊された第二巻の編集の際は、初めてのことであり、編集方針の決定から用語の統一、紙質や装丁に至るまで、何回か会議がもたれて決定されたが、それでもどのような結果になるか不安な面があった。しかし、今回は二冊目ではあるし、すでに決められた方針にのっとってやればよいと思い、いくぶん安易な気持でスタートとした。それが五十八年一月十七日の第一回編集会議であった。ところが今回は、日本の国語国字問題が逢着している難問題をまともにかぶり、正漢字、送り仮名等をどのように処置するかが容易ならぬこととなった。なるべく多くの人々、とくに若い学生諸君に読んでもらいたい、そのためには全文を当用漢字や現代仮名づかいに直すことが適当ではないかという考え方もあったが、結局は原文に忠実であることを原則にして、凡例に記した方針によつて統一することとした。若い諸君には読みにくい点もあろうが、これを読むこと自体が、国語国字問題の体験的研究に取り組んでいるものと思って努力してもらいたい。

第一巻の原稿は、最初に刊行された第二巻の印刷と並行して整理が進められていたので、第一回の編集会議終了後間もない二月四日に印刷所に渡すことができた。それが二月十九日から四月十三日までの間に順次印刷所から返ってきて、編集委員を初め学内の多くの職員によって校正が行なわれた。初校が全部終了したのは六月三十日であった。ついで七月六日印刷所より二校が来て、それを編集委員と一部教職員に分けて校

正を行った。その校正を夏期休暇中の八月一日にもちより、それから三日間、合宿を行い、校正の付き合わせをした。それを八月五日印刷所に返し、三校が九月七日返ってきた。そしてそれを九月二十一日印刷所に渡した。この間、三月に一回、五月には三回、六月に一回、九月に一回と編集会議が開かれた。もちろん第一巻のための会議ではあるが、続けて刊行することとなっている第三巻の編集のための会議でもあった。こうして今は最終校正を待っているところである。

編集、校正を進行させながら、かつて太田先生が「私は将来への証言のために、日独伊三国同盟に関する記録を整理しようと思って、細大もらさず資料をそろえていたのであるが、残念ながら全部戦災のために焼いてしまった」とおっしゃられたことが思いだされた。もしそれが太田先生によって執筆せられていれば、おそらくこの全集がもう一冊増えることになっていたであろうし、昭和史研究の貴重な書物となっていたであろうと思われて、その焼失がまったく残念に思われる。

「巣鴨日記」は、その肉筆の一部が写真版にあるように、これを間違いなく写しとることだけでも容易ではなかった。時には編集委員が首を揃えて、何時間も考えこまなくてはならないようなこともあり、これを整理された方々に厚く御礼を申し上げる次第である。しかしそれだけに貴重な資料といえる。日記といえば、この巣鴨日記に続く日記が、その後発見された。何冊もの大学ノートに克明に記されたものであるが、第三巻に何とかしてこれを紹介したいと思っている。

「新々経済政策実施後に於ける労農露国の状勢」の一文は、長篇の学術論文であり、その綿密な考証は、恐らく当時におけるロシア研究の白眉といえるものであったであろうと思われた。先生の学者の一面をはっきり示したものといえよう。

一つ不思議に思えたことは、先生の論文が、「海軍会議の暴風警報」（昭和九年九月）以降、戦後の「巣鴨日記」に至る間、約十年もの間、ぴたりととまってしまったということである。これは何を意味するものであろうか。当時の政治情勢などと照し合わせて、太田先生研究の一問題たる価値を失わないであろう。

このようなことをあれこれと考えながら、ともかくも第一巻のあとがきを書くまでに至った。この間、実に多くの方々のご協力を賜わった。それなくしては、とても本巻がこのような形で完成されることはなかったであろう。深く深く感謝するところである。併せてこれから編集にかかる第三巻にも従来どおりのご指導、ご協力をいただけるようお願いして、「あとがき」とする。

昭和五十八年九月二十二日

編集委員長　梶村　昇（広報室長・アジア研究所長・経済学部教授）

編集委員　清瀬信次郎（法学部長・教授）

鰺坂　芳文（総務部長）

深山　祐（教養部助教授）

千々和純一（学生課長・厚生課長）

山本　忠士（留学生センター課長）

岡部　篤厚（広報室課長補佐）

中村　義彦（学生課課長補佐）

加藤　伸吾（学長室課長補佐）

加藤　幸雄（広報室係長）

太田耕造全集　第一巻

昭和五十八年十一月二十六日　発行

発行　亜細亜大学
日本経済短期大学
180東京都武蔵野市境五丁目二四番一〇号
電話　〇四二二―五四―三一一一（代）

編集　太田耕造全集編集委員会

印刷　株式会社　松井ピ・テ・オ印刷